ひ合て、あのゆびをかくして、藏前のきやくの所へもたせてやりひしたとき」栗毛の後駿馬・初下「吉原駕は藏前あたりから、貳朱も壹分もいただきやすが」

クラマグチ　鞍馬口　京都府愛宕郡にありし村。大正六年京都市上京區に編入。名稱は京都の七口の一なる鞍馬街道の出發點の意より來る。賀茂川の西岸にありしもの。瓦屋道滿大内鑑・二「石川や蟬の小川を横ぎれに、息つぎあへず惡右衞門、六の君を肩にかけ、目さすもしれわ鞍馬口、戀ならぬ欲の深見草」太平記忠臣講釋・七「昔は馬に鞍馬口、今は妻子の飼料も、かつかつ成りし素浪人、矢問客内が老病」

クラマタ　倉俣村　新潟縣越後國中魚沼郡の南部。十日町の南西方約一五粁、三國山脈の西南部に出で北西流して信濃川に合する清津川に沿ひ、土地南北に長く、東は田澤村と南魚沼郡三俣村に隣り、西は下船渡・中深見・秋成の三村と界す。面積七二平方粁餘、村の大部分を占むる南半は、"苗場火山の北嶺に當る脈々峯（一六二四米）・高石山（一五八七米）等の山地清津川と支流釜川の間に位する村の北部は概れ平坦にて耕地あり。米・繭を主産とし多少の綿織物を出す。村の中部清津川の谷に小出鑛泉あり。古くは郷名にも呼ばれ倉俣郷と稱し、和銅年間の開發に係るといふ。村内に倉俣城址あり、築城年代城主等詳かならず。

クラミ　倉見里　播磨國（兵庫縣）揖保郡桑原里の舊稱。應神天皇が櫻折山上より森然たる倉を遠望せられた故とも、また桑原の村主が讃容郡の人の稷を盜みて發覺した故に名づくともいふ（播磨風土記）。其地今の揖保郡揖西村の中にして揖西村は其舊稱を桑原村と稱ぜり。

クラミ　倉眞村　靜岡縣遠江國小笠郡の北部。掛川町の北約三粁、東及び東南は東山村及び栗本村に、西は西郷村に、北は原泉村・榛原郡五和村に各隣接す。東北境に栗ヶ嶽（無間山）の山嶺東西に連互し、山脚南に延び村内殆んど山地にして逆川の一支西北山地に發して南流し流域に僅に低地ありて耕地拓く。產物は米・繭を主產し茶の栽培も行はれ、木材・薪炭も少からず。街道は溪流に沿うて通じバスの便あり。此地或は和名抄、佐野郡日根郷の内ならん。三河物語に蘆見氏と見えるは蓋し此地に發祥せしものならん。倉舊の名義は卽ち闇にしてクラマに同じく、山林溪谷の鬱鬱たる形狀より出でしものならん。江戸末期より明治初年にかけての經世家岡田佐平治（贈從五位）は此地の人。

クラミツ　倉光　廣島縣廣島郡にありし村、大正二年本村ほか四村を廢し羇家村を置く。

クラモチ　藏持　【藏持村】三重縣伊賀國名賀郡の西部。名張町・箕曲村の北、蔀原村・美濃波多村の南にて、東は比奈知村、西は奈良縣山邊郡豐原村に隣る。面積約一〇・五平方粁、山地多きも名張川中部を蛇行北流し、其兩岸に沿ひて小低地あり、田畑拓く。米・繭・麥の農產を出し、また清酒醸造及び製糸行はる。名張街道南北に通じて北は上野町（阿山郡）、南は名張町を經て奈良縣初瀬方面へバスの便あり、また社線參宮急行電鐵の伊賀線通じて藏持驛（大正十一年開業）を置き交通便利なり。村は藏持・夏秋・短野・大屋戸、下三谷の大字を含み、藏持に役場を置く。古くは和名抄、名張郡周知郷に屬せるものの如し。本村は東大寺古文書によれば、支久領と記されあり、往昔は不享地にして貢を獻ずることなく朝廷より特殊の待遇を受けしものの如し。村名の名義詳ならず。（移谷神社）大字大屋戸に鎭座。郷社。祭神、天之穗日命・大日霊貴命・天兒屋根命。清和天皇皇子貞基親王の後裔大江氏を稱して此の地に貫住し、閑基の守護神として本社を勸請せりと傳ふ。後三十餘ケ村の產土神として崇めらる。例祭、陰曆十一月二十五日。

【藏持山】古くは笠見山・鞍用山等と呼べり。福岡縣京都郡犀川村に峙つ。標高四七八米。南麓に藏持部落あり。山中に推古天皇の御字の草創と傳ふ藏持山神社あり。字郡宮氏の祈願所と云ふ。往時、寶個寺と云へる供僧坊ありて隆盛なりしと云へど今はなし。

クラモト　藏本　德島縣名東郡加茂名町の大字。省線德島本線の藏本驛（明治三十二年設置）あり。

クラヤマ　藏山村　石川縣加賀國石川郡の中部。南の東半は鶴來町に隣り、西半は手取川を隔てて能美郡山上村に對し北は舘畑村・林村に隣る。面積約七・二平方粁の小村、東半は東境に聳ゆる倉ヶ岳（五六六米）の西斜面にて山地、西半は金澤平野の一部に當り平坦にて田地多し。米を主產し多少の繭を出す。鶴來町より金澤と松任町に至る縣道に當りいづれもバスの便あり、また社線金澤電氣軌道南北に走り、小柳・日御子・月橋の三驛（前後の二者は大正四年、中者は同十四年開業）を設け、交通便利なり。大字に月橋あり、月橋はまた渡橋にも作り、往時富樫氏の家臣渡橋氏は此地に起るといふ。いま日御子・明島・月橋・小柳・森島の五大字よりなり日御子に役場を置く。（日御子神社）大字日御子に鎭座。郷社。祭神、產火々出見命。創立年代不詳なるも、向山記にいふ火御子峰に起因を發する火御子社にて、往古より白山本社と深い緣故を持つ。三宮古記を按ずるに文和二年臨時祭の時、"常樂會御供火御子神人撰之"と見え、向山社藏元弘三年十二月の文書に「火御子を始まいらせて六十餘州の大小神祇云々」と載せ、本社を重き地位に置く。尙ほ白山下七社第七位に數へられ、著名な由緒あり。

クラユウ　——社　豪州高雄州潮郡潮州郡南の著社。枯方の東方に當る山地にあり。パイワン族中のチャオボルガル（Chaobolgal）の中に屬する高砂族。一般には恒春上番とも稱せらるるもの、一部落、戶數二六、人口一七四（昭和十一年末）著稱 Kiayu

クラヨシ　倉吉　【倉吉町】鳥取縣伯耆國東伯郡のほぼ中部。天神川の流域に位し、東は川を隔てて日下村・西郷村に對し、東南は竹田村、西南は小鴨村に、西北は社村、東北は上北條村に界す。面積約一四・三平方粁、東南部に山地あるも北方に低下し、その餘は東境を北流する天神川と、西北部より東北流して之に合する小鴨川との流域に當り、土地概れ平坦にして田畑よく拓く。省線山陰本線上井驛（大正元年設置）・倉吉驛（明治四十五年設置）を置き、また東方の三朝温泉、北西方の由良驛（山陰本線）、西南方の矢送村等への道路にはいづれもバスの便ありて交通上の中心をなす。古く倉吉線と「稻投まんが」の製造地として著はる、今も紡績會社・製絲會社（二社）の外製絲の小工場多く絲絹・生絲の產多く、農產に米・繭を出し、地方の商工業都邑として繁榮す。「稻投まんが」は今日新式の稻投器に壓迫され、數十軒の鍛冶屋存在せし鍛冶尾町も今は地方需要の鉈・鎌・鍬等小物の製造に生計を立つる程にて昔日の面影僅に存するのみ。鑄の製造はもと西伯郡車尾村（今米子市）の獨染鮮より發達し、家内工業として春夏秋冬農閑期に婦女子の勞働により織出されしもの。交通の要衝に當り經濟的因子と僅に城下町的政治的因子により發達せし所、天文五年・明治二十六年・同三十五年・大正元年・同七年・同十二年・昭和九年等屢〻洪水の災に遭ひ多大の損害を受け、昭和九年の洪水の際は、爲に宮中より小田侍從を差遣され見舞金を御下賜されし程なり。其後天神川の改修工事、河川の新設等を施し面目を一新し諸山原陳軍廠舍〻の物資納入等各方面に活氣を呈す。もと郡役所の置かれし所、いま區裁判所・警察署・營林署・稅務署・中學校・山陰國民高等學校・高等女學校等あり。此地古くは和名抄、久米郡膳部郷の地。膳宿川・膳部田はこの遺稱なるべし。打吹山に山名氏の據りし倉吉城あり、いま打吹公園となる。園内は櫻樹多く、また明治四十年時の皇太子殿下（大正天皇）此地に行啓あらせられし時御座所となりし飛龍閣及び有親館・招魂塔・大江神社等あり。大江神社は此地の人にて光格天皇の御生母大江磐代君を祀る。また三明寺の後山に古墳發掘され古來住居に適せしを證するにたる。古墳及び此地の大樗は夫々指定史蹟・天然記念物となる。村名は暮し良しよりの轉訛ならんと傳ふるも附會の說なるべし。天文五年頃瓜は見日町と稱す。昭和四年上灘村を合併す。（倉吉城）町の南、打吹山に址あり。元中八年山名氏之此處に居し子孫相繼ぎしが、七世澄之に至り大永四年尼子經之に攻落さるといふ。江戸時代、元和元年里見忠義關東より移り三萬石を領せしが、八年卒すに及び城廢し、池田氏因伯二州の領主となり國家老荒尾高就城代として代々此に居す。（倉吉の大樗）指定天然記念物。一株、根元より三米の高さに於ける幹圍約十米、樹勢旺盛、樗の巨樹として有數のものなり。（長谷寺）伸ノ町打吹山にあり。天台宗。打吹山と號す。本尊十一面觀世音や。養老元年の創建、開基は法道上人たり。のち衰廢せしが建久年中再興し、弘治三年南條氏これに修理を加ふ。慶長年中中村伯耆守忠一再建し以て今日に至る。境内に本堂・客殿・庫裡・鐘樓等あり。境域は舊城の西南に位し西に大山、北に日本海を眺望す。寺寶に瓦勢金岡の繪馬あり。（勝入寺）曹洞宗。金剛山と號す。元和三年の草創、開基は伊木長門（池田勝入齋追福のため創建）、開山は舜才和尙たり。伊木氏長門へ轉封の後、荒尾氏、勝入の靈牌を安置すといふ。（三明寺古墳）指定史蹟。三明寺の後山にあり。封土は削取られ頗る變形せるも石室露出し、前室破壞され玄室との境界には同形の切石を二枚左右に立て中央に通路を開く。玄室の天井及び壁は瓦大なる切石を用ひ、奥壁に沿ひて板石を以て圍み、内法南北一・五米、東西二米餘、高さ約一・五米を有する區劃を作り蓋石を以て覆ふ。かゝる陣屏より變化せし石棺樣の構造物を内部に有する古墳は九州肥後、筑後の裝飾古墳に見るものと同じく珍らしき遺構として學界の好資料となる。（大江磐代）幼名阿鶴。父を岩室宗賢（本姓大江）といふ。世々鳥取藩城代荒尾氏に仕へ、祿二百石を食む。宗賢醫業を營むため京都に移住し阿鶴を生む。時に禁裡使番生駒某の妻壽仙才學高く阿鶴に文藝婦道を敎へ宮中に奉仕せしむ。阿鶴天資聰慧事止優婉にして德操清く、夙て詞歌の道に長じ常に同輩の敬從する所となる。閑院宮典仁親王其人と爲りを愛し、成子内親王に乞うて側室に擧げ名を磐代と改めしむ。明和八年八月祐宮彙仁親王降誕す、仍ち後の光格天皇なり。翌年十月聖護院盈仁親王を生む。寛政六年典仁親王薨去に當り悲哀追惜止まず、遂に佛門に歸し蓮王院定正と號ぜらる。文化九年十二月九日病にて聖護院の別邸にて薨す、御年六十九。いま此地の大江神社に祀らる。

【倉吉線】省線山陰線の一部。鳥取縣東伯郡にあり。山陰本線上井驛（日下村地内）より南方の倉吉驛（明治村地内）に至る。全長四・二粁。碧來峠新線の中國勝山驛（岡山縣眞庭郡勝山町）に接續するもの。

クララガオ　——社　豪州高雄州潮

州郡の警社。浸水越道路南方の山嶽地帶の警界にあり。パイロン族の中チャオボルボル(Chaobobol)の中の一部に屬す。(一般にはスボン著とも稱せられる)高砂族の一部落。戸數二七、人口一七〇、著稱、Kularangao.

クラル　龜仔舟　臺灣高雄州恒春郡の警社。恒春郡の南端、ガランビ近くの地、行政區域内にある高砂族部落にて、パリヅヤリヅヤオの系統に屬す。一般には、熟蕃と稱さるるも、これは一般平埔蕃としてより、パリヅヤリヅヤオの一部として取扱ふを妥當とす。この部落は、恒春郡の最南部落にして、大日本帝國の最南部落なり。尙、附近には中央研究所の熱帶植物のための試驗林あり。著稱、Kuralia.

クリ　九里　【九里峡】和歌山縣東牟婁郡本宮町より同縣同郡新宮町に至る間の熊野川を云ふ川の長さ九里八町あるといふ所より此名あり。峻峰聳え、瀑布相望み、山水の景よしッ。當に川舟が上下し貨物を運び、無行艇が客を運ぶ外、盛に筏を流す。沿岸の名所を下流より列擧すれば、左岸に御船島・乙基の渡・檜杖・無雪瀧・三重の瀧・楊枝藥師等あり、右岸には雲島・釣鐘岩・白見瀧・布引の瀧・猪倉・音川等あり。楊枝藥師は三十三間堂種木の由來地なるが、堂は近年燒失す。また音川は平忠度の誕生地と傳ふ。

【九里渡】大隅國福山より、薩摩國坊の津に渡る海路。薩摩歌・中「九里の渡が近いげな、一足なりとも早いがよし」

クリ　久利村　島根縣石見國邇摩郡の北部。大森町の北に隣り、西は大屋村に、東は安濃郡君谷村に、北は同川合村・大田町・長久村に各隣接す。村内概れ高原狀山地をなして山地起伏し、中部を北流する溪流沿ひに低地あり水田拓け、米・繭を產し外に木材を出す。國道山陰道、中部低地を東北より西南の方向に走り、南部の大森町、北部の大田町を結びバスの便あり。村は久利・行垣・松代・市原・佐摩・戸藏の大字よりなり、久利に役場を置く。古くは和名抄、安濃郡佐波郷に屬せしが、明治に至り邇摩郡に編入し以て今日に至る。

クリ　久里村　佐賀縣肥前國東松浦郡の中部。松浦川の右岸に沿ひ、地西北より東南に延び、西南は相知町、西北は鬼塚村、東北は鏡村、東南は厳木村に隣りす。面積二六・三平方粁、東南境には作礼山(八八七米)、東北界上には三方山(五〇五米)・夕日山(二七三米)等ありて、村の中部及南の東半は山地をなすも、その西半と、村の北部は低平にして特に北部に田畑廣く拓く。米・繭・麥等の農產多し。北部には社線北九州鐵道通じて久里・上久里二驛(前者は昭和四年、後者は同五年開業)を設け、南部も省線唐津線山本驛に近く交通不便なら寸。この地は和名抄、松浦郡久利郷の地なり。風土記に宣化帝の時、大伴狹手彦、命を奉じて任那之國を鎭め、百濟國を救はんとして筑紫に至る。時に篠原邑の人日下部、弟日姬子と婚し、別れに際し鏡を取りて與ふ。弟日姬悲しみつつ栗川を渡る時其鏡を過ちて水に落せり。故に鏡ノ渡といふと見ゆ。栗川は蓋し久利川にして郷名はこれより起りしものならんといふ。舊藩時代は唐津藩に屬し、明治二十二年町村制實施の際伊岐佐村外八ヶ村を合して久里村を建つ。(見陽の瀧)大字伊岐佐字瀧ノ元にあり。作礼山に源を發する伊岐佐川の上流、鬱蒼たる樹林の間に大小雌雄の二流飛瀑を挾み勢銳く落下す。瀧の全長約九〇米、幅二五米、飛沫霧を吹きて物凄く幅約二四米に亙る瀧壺は底知れぬ深淵を湛へ、逸りの岩石には一面に滑かなる青苔・水草生ひ茂り凄氣身に迫るか觀ゆ。一にいろは瀧ともいふ。盛夏涼を趁ひて此處に佇まらば、忽ち三伏の炎熱をも忘る。(醫王寺)天字黑岩にあり。(禪)洞宗。芙容山と號し、永德三年の創建にして開基は當郡波多の土豪波多安房守源武、開山は無著妙融(眞空禪師)なり。往時は寺領四百五十石を有し、境内一里餘に亙り、波多氏累代の菩提所として寺運隆昌を極め、當宗九州の三大寺の一と呼ばれしも、文祿征韓の役、波多氏怯懦の故を以て封邑を除かれし爲、當寺も亦寺領山林悉く沒收せらる　慶長年中、寺運志摩守廣高當城主となるや、始めて當寺再興の許可あり、諸堂修築せられ法燈再び輝くに至る。中興開山を拙叟融龍とす。

クリ　栗川　肥前國松浦郡の古川名。今の唐津港に注ぐ松浦川をいふ。宣化天皇の朝、大伴狹手彦任那を鎭め、蒙れて百濟を救ふの命を奉じ此篠原村に來り弟日姬と婚し、別るるに及て鏡を取りて姬に與ふ、姬、別を惜み此川を渡りし時、鏡の緒切れ此川に沈めり、故にかく名づくといふ(肥前風土記・松浦郡・鏡渡)。

グリーニッチ　——諸島　Greenwich Ir.　南洋廳ポナペ支廳管内の小諸島。東カロリン群島に屬し、ポナペ島の西南方約四四〇浬を隔て、北緯一度四分に位し、我が南洋委任統治區域の南端をなす。ポナペ離島線の汽船は年三回の寄航をなす。

クリエ　栗江埼　出雲國(島根縣)島根郡の古地名。風土記に「相ゝ向夜見島、俣戸渡二百一十六歩、埼之西入海堺也」とあり。いま八東郡森山村の中海に突出せる崎ヶ鼻を稱するか。

クリカラ　倶利加羅・栗殼　【倶利伽羅村】石川縣加賀國河北郡の東部。津幡町の東南方にて、南は花岡村、北は鶯谷村に隣り、東は富山縣西礪波郡石動町との間に南谷村・埴生村を隔つ。面積約二六・二平方粁、加越兩國境を南北に連亙する大門山脈の北部に當る丘陵性山地の西斜面に當り、東端に礪波山(標高二七七米、頂上は謂ゆる倶利伽羅峠)あり。山地多きも西部と丘陵地の谷間の小低地に田地拓け、米・繭を產し、また細織物を出す。國道(北陸道)は、礪波山の北方天田越によりて東西に通じ、省線北陸本線亦これと並行し、大字刈安に倶利伽羅驛(明治四十二年設置)を設け、また大字竹ノ橋より津幡町へはバス往來し交通不便ならず。此地古くは和名抄、加賀郡井家郷の内に屬せしものか。此地は壽永二年に木曾義仲の軍が火牛の奇計を以て、平維盛の率ゐる平氏の大軍を破りしを以て知らる古戰場倶利伽羅峠あるを以て著名なり。倶利伽羅峠は第三紀層の地塁構造の低き山なるも、北陸交通の要點なるを以て、鎌倉時代承久の亂にも戰場となり、降つて、戰國時代にも柴田勝家の部將佐久間盛政、羽柴秀吉の軍を防ぐため堡壘を築きし所なり。また大字竹橋は義經記・源平盛衰記等に見える竹橋ノ里の地なり。(倶利伽羅谷戰)壽永二年五月、加賀・越中の國境、礪波山中の倶利伽羅谷に於ける源平の合戰にして、木曾義仲の奇計により、維盛を將とする平氏七萬餘勢の一夜にして潰滅に瀕せし戰。治承四年平家追討の師を信濃に發せし木曾義仲は次第に東山・北陸兩道を討臨へ、壽永二年五月九日には既に越後を越え、越中に入り雲霞の如く都へ迫らんとす。平氏は四月十七日、維盛・通盛を大將軍となし、忠度・經正・清房・知度を副將軍とする十萬餘騎を以て北國へ下向し、同月源氏方の越前燈城を屠り、加賀より越中に入らんとし、五月十一日その先陣は倶利伽羅の麓、國見、猿馬場の塔橋に控へ、礪波山を挾み源平陣を合せて對峙す。源氏は軍を七つに分け、源行家を志雄山に、根井小彌太を彌勒山に、今井兼平を宮林に、樋口兼光を竹橋に、余田次郎を黑坂倶利伽羅に、巴女を鷲嶽下に、義仲は礪波山の北麓埴生庄に陣を構へ總軍を督す。平氏は通盛等が搦手を率ゐて志雄山へ向ひ、維盛追手の將として倶利伽羅へ進む。源氏は時に四萬餘騎。義仲、山祠の新八幡に願文を捧げて戰捷を祈請し、三つの鬱鳥の白旗の上に飛び來りし瑞祖に勇躍し、味方の小勢なるにより謀に依らんと先づ白旗三十流を翻翻と立て大軍の體を裝ひ、平家の大軍を後の倶利伽羅谷へ追落さんとする謀の下に追手・搦手樣々に用意し、牛五六百の角に炬火を結びつけ夜に入るを待ち、十一日夜半、流石に下り疲れたる平家武者の甲の袖を片敷寢の刻を窺うて、一擧、大鼓・法螺・鬨を合せ平家の陣に突入す。平家物語の倶利伽羅落しの條に「前後四萬餘騎が喚く聲に山も河も唯一度に崩るるとこそ聞えけれ。さる程に次第に聞うはなる、前後より敵は攻めくる、きたなしや返せや返せといふやから多かりけれども、大勢の傾きたつたるは、左右なう取つて返す事のかたければ平家の大勢後の倶利伽羅谷へ、我先にぞ落ち行ける。先に落したる者の見えねば、この谷の底にも道のあるにこそとて、親落せば子も落し、兄が落せば弟も落し、主落せば家の子郎等も續きけり。馬には人、人には馬、落ちかさなり〳〵、さばかり深き谷一つを、平家の勢七萬餘騎でぞ埋めたりける」と敍したるが其儘に、平氏は右往左往に逃げ惑ひ、深き谷に連れ落ちしものその數知れず、死體岡をなし、血に埋みしと傳ふ。維盛漸くにして敗殘の兵を收めて退却す。かくして翌十二日には志雄山の平軍をも擊破、漸次西進す。ひらがな盛衰記・一「既に木曾殿、礪並、倶利伽羅、篠原の合戰に打勝ち、都へ攻め登り給ふと聞えしかば、平家一門の人々、三種の神器を守り奉り、西國へ落ち下る」(手向神社)　大字倶利伽羅に鎭座。郷社。祭神、素戔嗚命。幾老二年三月の創建と云ふ。始め素戔嗚命の御神託により、善無長三歳、元正天皇に奏聞せるに、天皇これを嘉し給ひ、社殿を造營せしめられ且つ神器等を納められて永く國家鎭護の守神として七箇村の地を社領に賜ひ、奉幣の綸旨ありしと云ふ。弘仁三年大師北國に巡化の砌、當社に來り大日本社道之神社本地倶利伽羅不動明王と唱へ、兩部神道を以て社殿及び七堂伽藍を建立す。壽永二年木曾義仲、平維盛と倶利伽羅峠に戰ひし時、社殿・七堂伽藍すべて全燒す。建久七年征夷大將軍源頼朝、淺江守重頼をして之が復興せしめ、將軍家祈願所とせしが、天正十年上杉謙信の越中國亂入の際、放火のため別當長樂寺を殘して燒亡、慶長十六年前田利光これを再營せしも、天正七年十一月に門前民家より出火して社殿諸建築燒失し、長樂寺のみ殘り圖來假殿のまゝなりき。明治二年十二月本地佛不動の像を展し、長樂寺は復飾し、同五年、素戔嗚社と改稱、同六年郷社に列す。翌七年石川縣より手向神社と改稱せしめらる。建物は社殿一宇のみなれど、境内一千五百三十坪、社頭は海山の眺望絶佳を以て天下に鳴る。例祭、四月十八日。(光現寺)越中坂にあり。眞宗大谷派にして本尊冥朝作聖德太子像。開創年代不詳。もと天台宗にて光源寺と號し、本郡苅安地内無當坂の上にありしが、壽永二年源平二氏、栗殼峠に戰ふや兵燹に罹りて一山悉く滅亡す。文明年中本願寺第三世の孫玄信上人來りてこれを現地に移して再興し以來現宗に改む。

【倶利伽羅峠・栗殼峠】　金澤市の北東方約十八粁、北陸本線倶利勒羅驛の南東方約五粁に當る峠。最高點は標高二七七米にして、石川縣河北郡倶利伽羅村と富山縣西礪波郡埴生村との境界にあり。礪波郡との境界にあるを以て礪波山とも呼ばる。峠跡は西麓倶利伽羅村より北東麓西礪波郡石動町へ通ずる山道にして、舊北陸道の一部をなす。今は此峠の北方に新國道出來し、天田越(一六六米)乃至九折

と呼ぶ。また北陸本線はトンネルを穿ちて通過す。倶利伽羅の名は昔、越の大德泰澄禪師この山に留りて倶利伽羅明王を念ぜしに因ると。苔道の傍に手向神社鎮座す。謂はゆる倶利伽羅堂の舊址なり。萬葉集に「刀奈美山たむけの神」云々と詠ぜられたり。源平盛衰記等に見ゆる猿馬場と云ふ所もここなるべし。また名高き古戰場にして壽永二年五月十一日（皇紀一八四三年）木曾義仲は平維盛の率ゆる一萬八千餘騎の軍勢この山に攻め寄せる時、山を越させじと急ぎ三方より攻め寄せ、有名なる火牛の計（五〇〇餘の牛に炬火を附けて放てり）を用ひて平家を攻めしかば、平家の軍は退路なく、倶利伽羅谷に落ちて死傷者多かりき。かの義仲の妾巴も一軍の將としてこの戰に加はれり。當時の戰況は「玉葉」「源平盛衰記」等に見ゆ。この山の南西方約二粁、埴生庄護國八幡宮には義仲が戰勝を祈りしと云ふ題文いま尚存す。其南方、迷沼村團野谷には巴及び葵御前の墳墓あり。

クリギ　栗木村　熊本縣肥後國八代郡の中部。北と東は柿迫村、西北は下岳村、西は河俣村に隣り、南は球磨郡五木村と界す。面積三二平方粁に近きも南境に聳ゆる六本杉山（一一四三米）・平石山（一一三〇米）の山脚北方に延び、西北界には矢山岳（八六九米）峙ち、荒る處山地ななす。氷川この山地の間に出でて北流し下岳村に出づ。農林業を主とし、主産物に材木、特産物に茶を出す。氷川下流の宮原町へバスを通ずるも交通なほ便なら ず。明治十年西南役に戰場となりし地なり。いま柿迫村・仁田尾村・久連子村・椎原村・葉木村・樅木村と共に組合村を成し柿迫村に役場を置く。

クリキタ　栗北　肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄飽田郡に栗北郷あり、今その郷域詳かならざるも、飽託郡の南、八分字村・藤富村・兼建村・濱田村・錢塘村等の邊郷名を失へば、或は此邊に當るか。

クリクマ　栗隈・栗前　山城國（京都府）久世郡の古地名。古くは栗隈縣と稱し皇室の御料地。書紀仁德天皇十二年栗隈縣に大溝を掘り、次で推古天皇の朝これらを重修せられしこと見え、日本紀略には栗前野見え、桓武天皇屢々此地に遊獵あらせられたり。和名抄は久世郡に栗隈郷を載す。その地今の大久保・久津川・佐山の諸村に當るといひ、大久保村に鎮座する式内且椋神社をまた栗隈天神と呼ぶを見て知るべし。

クリクマ　栗熊村　香川縣讃岐國綾歌郡の中央より稍北部。東は羽床村に、西は岡田村に、南は長炭村に、北は法勲寺村及び宮脇村に接す。面積八・七八方粁。南部には大高見山（五〇四米）・高見坊山（四五六米）・猫山（四六五米）の山脈連亘し、北部に向ひ平地開け、山地・平地略ぼ相半す。高見坊山に發源する大東川の三支流（東大東川・中大東川一名猫谷川、並に西大東川）北流して宮熊村に入る。何れも河幅狹小、水利に適せず。大小百數十の溜池を設け灌漑に備ふ。村の南部は火山質（石英斑岩）より成れども、北部は主に洪積土より成り、地味肥沃、農業地をなし、米（二千三萬圓）・麥（裸麥二千四百圓・小麥二千五百圓）をはじめ、副業としては甘（八千圓）・瓦（五千餘圓）・麥粉（約三千圓）の産あり、近時煙草の栽培發達し一萬餘圓の收穫を擧げつつあり。鐵道は村の北部を東西に貫通、高松・琴平間の幹線をなしまた善通寺・脇町線は村の中央を略南北に走り坂出・貞光線に合し、坂出町との間に定期自動車の往來あり、また琴平電鐵線、縣道高松・琴平線に沿ひて走り、栗熊停留所設置され交通便利なり。本地方はもと和名抄、鵜足郡栗隈郷に屬し、町村制施行以前には栗熊東村外一ヶ村戸長役場の管轄なりしが、明治二十三年栗熊東・栗熊西兩村を合併、栗熊村と稱す。本地方は開發古く、石器時代・原史時代の遺跡多く、名跡に富み、式内社宇閇神社を始め住吉社・諏訪社、寺院には願成寺・勝願寺・專立寺あり。宇閇神社は村の南部に在り、允恭天皇御宇、酒部益甲黑丸自邸の附近に祀りしものと傳へ、其邸内に栗樹あり、一日鵜此樹に集り、足を以て地を掘り清水涌出す、黑丸此水を以て酒を醸る、東隈の名之より起るとと傳ふ。

クリコ　栗子

【栗子山】　杭甲山とも云ふ。那須火山脈に屬する一峯。福島市の北西方約二二粁、米澤市の南東方約一五粁、福島縣伊達郡茂庭村・信夫郡中野村並に山形縣南置賜郡萬世村の三ヶ村境に峙つ。標高一二一七米。全山第三紀層より成る。北麓は駒ヶ岳（一〇六一米）・栗子山（一〇二二米）に連り、南麓は板谷峠最高點に連る。東斜面よりは阿武隈川の一支摺上川源流して南東流し、西斜面よりは松川の一支發源して北西流す。南麓に新道東西に通じ福島市・米澤市を連繫す。これを萬世大路と云ふ。この道の最高點を栗子峠と云ふ。冬季は雪多く歩行者少し。

【栗子山】　京都府久世郡宇治町の西南方約一粁半、大久保村にある一小丘。一に久里古山に作る。その山路を栗子山峠といふ。古くは栗隈山又は栗籠山（保元物語）に作り、神明社あるより一に神明山ともいふ。頗る眺望に富み俗に國見岳の稱あり。史上屢々戰場となりし事見え、永久の役宇治方面に向ひし北條泰時も亦この山に陣せり。また歌枕の名所として知らる。古今六帖「くりこまの山に朝たつきしよりもわれをはかりに思ひけるかな」夫木・一二「みかりするくりこまやまのしかよりもひとりぬるよはかなしかりけり」同・一五「もみちせるくりこま山の夕かけにいさ我やとにうつしもたちむ　慈宣」

クリコマ　栗駒

【栗駒村】　宮城縣陸前國栗原郡の北部。岩ヶ崎町・鳥矢崎村の西に隣り、西南は文字村・花山村に、北は岩手縣西磐井郡藤沢村・萩荘村に各隣接す。面積八九・三三平方粁の山村。栗駒火山（一六二八米）の東南斜面に當り、南境に日影森（五一〇米）・大峰森（三九八米）聳立し、東北境に三日月山（二九四米）・猫ヶ森（四〇六米）・枯木立山（四四八米）の山嶺連り、栗駒火山の斜面を開拓する諸水は合して三迫川となり、この合流する裾野に高き約五〇米、幅約二米の行者瀧懸る。三迫川は中部を東南流し東南部流域に狹長なる沖積地をつくる。栗駒山斜面は美林ありて栗駒國有林となり、三迫川流域沖積地には水田拓け、米を主産するも木材・炭燒・木地物等も少からず。また栗駒火山の山麓は放牧地帶にして馬を飼養す。街道は三迫川に沿うて走るも、上流は山地を深く刻みて街道を設くるに不便にして、東南部よりは岩ヶ崎町に到るバスの便あり。村名は沼倉・祝倉の二村を合併して、村制施行の際、栗駒山に因みて命名せるもの。沼倉は役場の所在地なり、源義經の墓と傳ふるものあり、沼倉小次郎なる者この地に葬れりといふ。其附近に鉾慶峯と名付くる處あり、武藏坊の居れる所といふ。村に式内社駒形根神社及び栗駒五湯の内なる駒ノ湯・新駒ノ湯の二湯あり。〔栗駒五湯〕本村及び花山村兩村に於ける温泉・湯倉・湯沼・駒ノ湯・新駒ノ湯の五温泉をいふ。栗駒山の南麓より中腹にかけ一迫川に沿ひ、温湯（無鹽泉、温度五〇度）・湯倉（芒硝含有食鹽泉、温度六八度）・湯嶺（食鹽泉、温度四九度）の概して療養向なる三湯あり、花山村に屬し、同山東南麓三迫川の支流裏澤に沿ひ駒ノ湯・新駒ノ湯の二湯あり本村に屬す。駒ノ湯は大字沼倉にあり。泉質は硫黄泉にして温度四二度。皮膚病・性病・婦人病・リウマチス・鉛毒等に效あり、療養向なり。海拔八〇〇米の高地なるも、狹き谷底の如き感あり。然れども周圍に雪著たる森林茂り、山の湯の情趣に滿つ。元和三年小野寺與惣右衛門の發見に係る。附近に行者ヶ瀧（高さ約五〇米、幅約二米）・雄瀧・雌瀧・窓瀧等あり、殊に秋紅葉の美觀一入なり。新駒ノ湯は駒ノ湯より三迫川に沿うて到ること約二粁。泉質は硫黄泉にて皮膚病・腺病・婦人病・性病等に効能あり、療養向なり。寛政年間の發見なりといふ。山の湯の情趣豐かなり。〔駒形根神社〕大字沼倉に鎮座。鄕社。祭神、大日靈尊・天常立尊・國常立尊・香膝尊。延喜式本郡七座の一。日本武尊、東夷を征せらるゝに際し、尊自ら前記祭神の外に天津彦瓊々杵尊・彦火々出見尊二神を合せ、六社の神み駒形山の頂なる大日嶽に齋き祀りて東國鎮定を祈り給ふ。且つ祭政一致の主義に依りて萬民に敬ふところを知らしめる。これ東國に於ける祭神の初めなれば、古來東奥の一ノ宮と稱し人民皆長れてこの山上に登る者なかりしと。延暦年中、坂上田村麻東夷征伐の時、當社に戰捷を祈りて大勝を得、終に蝦夷悉く平定せしに依り四大門を建てて奉賽し、自ら駒形大明神の五大字を書せる大額を掲ぐと傳ふるも、今は門址のみ存して古額はなし。貞觀元年に神位正一位に進められる。時に勅使として下向せし惠義朝臣の旅館の遺址と稱するもの、勅使屋敷または高津屋敷と稱して沼倉の地内にあり。當社は駒形山上にあるを以て、古來禁宮とも呼ばれ、秋季の新雪溪を埋め、里民の登攀を難からしむる故に、里宮を東麓に造營して、之に代拜せしむ。中世、四大宮司三十餘宜六十社家ありしも、今は悉く廢絶す。本殿・拜殿の二建築あるのみなれど、何れも二手先流造にて彫刻を施せり。例祭、陰曆三月二十九日・九月二十九日。

【栗駒山】　駒ヶ岳とも呼び、また駒形山の別稱あり。山名は盛夏山頂に殘る雲の斑馬に似たるにより駒形山の名起り、のち、栗原郡にあるを以て栗駒山と呼ぶに至りしものならん。岩手・秋田方面にては須川（酢川）岳とも云ふ。奥羽火山脈に屬する一峯。岩手縣西磐井郡厳美村・秋田縣雄勝郡東成瀬村・皆瀬村及び宮城縣栗原郡栗駒村・花山村の五ヶ村に跨る。新第三紀層及び種々の火成岩（花崗岩・閃綠岩・玢岩・變朽安山岩・安山岩・流紋岩・玄武岩）を基底とし、外輪山・寄生火山及び中央火口丘より成る二重式火山にて消火山、卽ち古き火山にして甚しく浸蝕せられ山體著しく不規則なり。外輪山は圓形の火口壁を存せず、ただ一條の山背東西に走るのみ。東端は大日岳にて標高一六二八米、栗駒火山中の最高峯を成し、西端は馬糞森（一五六〇米）にして、三縣の境界點たり。兩者の距離約三粁、彎形を描きて凹面を北に向く。これ卽ち火口壁の一部殘れるものにして、火口原は北に傾斜す。現在火口の直徑約五粁、嘗て火山活動當時はより小さき火口なりしなるべく、浸蝕作用・硫汽洞作用及び爆裂等によりて擴張され、遂に今日の如き大外輪山を成すに至りしならん。大日岳より五〇—六〇度の角度を以て北に急斜すること三〇〇米にして火口原に達す。外輪山の南側も急斜し、大日岳附近にては北側よりも急なり。これ嘗て大日岳南側に硫汽洞ありて盛に硫汽を噴出し、これによりて熔岩分解されしと、夏季太平洋より襲來する南風が濕氣を蓄して大雨を降下し岩石を削磨せし等によるものならん。東壁もまた浸蝕によりて甚しく削磨せられ、高さ約一〇〇米を減じ、北進するに從ひ漸く低くなり、火口に面して同じく急斜し、北部と西部と全く火口壁を缺如し、その原形を想像するを得ず。中央火口丘は火口の中央より稍〻西に位置し、剣山と稱し標高一一〇〇米。玄武岩

クリコ——クリコ

熔岩流より成り、その南部は外輪山火口壁に接するため、完全なる圓錐形を成さず、南北に長し。成因を考ふるに、外輪山の形成されし後、硫気洞作用なほ盛にして甚しく岩石を変質分解し、遂に外輪山北壁を破壊し、火口底は北口を開きて平坦となりし後、火山は再び舊火口中に活動を開始し、或は外輪山西壁を爆破し、或は熔岩を流出してこの中央火口丘を形成し、両して熔岩は地形上主として北流したるが故に完全なる圓錐形をなさず、北に緩かに、東西に急斜せる不規則の形狀を呈せしなるべし。剣山は比較的新しく、森林深からず、且つ削磨作用を受くること少し。然しその北斜面中腹に硫気洞作用猛烈を極め、八幡・楠樂野等の硫気孔を生じ、熔岩の大部を分解し、爲めに剣山は二塊の小丘に分離され、その北なるものは特に八幡山と名づけらる。剣山の火口は頂上に少しく南に偏して南北に長き楕圓形の沼をなし、剣沼と稱す。南北三〇米、東西二〇米、深さ一〇米あり。その東北一〇〇米を距てて鼎狀の窪地あり、直徑一五米、深さ二〇米、圓形にして殆ど絶壁をなす。これ剣山の生成後生じたる爆裂火口にして、小溪これより東北に流る。八幡山中央にも爆裂火口あり、窪地をなし、のち硫気噴出して硫黄を堆積せしが、硫黄採掘のため、現在徑三〇米、深さ二〇米の窪地となる。中央火口丘熔岩の北に遠くる所は赤硫気に冒され、崩壊して絶壁をなし、その壁下に須川温泉の湧出を見る。中央火口丘は上述の如くその中腹に於て罅隙に沿ひ硫気を噴出し、今日に及び、硫黄は岩石中に深く侵入し或は空隙に昇華して、多量の硫黄を產するに至れり。硫気噴孔は剣山周圍に殆んど百を以て數ふる小噴孔あり、絶えず水蒸氣・亜硫酸瓦斯及び硫化水素等を噴出す。須川及び大湯附近の硫気洞はやや著名なり。火口原は北に緩斜し、中央火口丘によりて東西の二に分れ、東半稍〻廣くして東西八〇〇米あり、内に九鉢の小湖を擁し、三鉢は剣山の南、外輪山との間に散在し、六鉢は剣山の東方に分布す。これはもと外輪山形成後、その凹處に湛へたる一火口湖の遺物にして、中央火口丘の噴出によりその大部分は噴出物に充塡せられ、加ふるに外輪山より轉落せる土砂のためにその形を狹めて、遂に今日の如き小湖として存在するに至れるものとす。剣山と馬糞森との間に血沼・小血沼の二湖あり。内壁は直下し、水深く、水色往々紅色を呈するを以て名を得たりといふも、この紅色は光線の作用ならんとの說あり。この二湖は西部外輪山が硫気及び浸蝕によりて漸次その形を崩壞せし頃相續いて起りし爆裂作用による爆裂火口の遺物ならん。火口原は北壁を缺如するを以て、顯著なる火口湖の成生を見ざるも、東部火口原の水は磐井川上流に、西部火口原及び血沼附近の水は仁郷澤に流入す。外輪山南側に大神ヶ森及び上下山の寄生火山あり、北々西より南々東に並び、この線を北方に延長するときは剣山はこの線上にあり。兩山とも複輝石安山岩熔岩により形成せらる。大神ヶ森は一に大地森と稱し、標高一一五四米、一説の若きトロイアにして、南より眺むれば規則正しき圓錐形をなし、頂上附近は二三度の傾斜を有し、漸く緩となりて遠く西及び南に裾野を曳き、東は御澤に淳く刻まれて急傾斜す。上下山は一に鵜石山といひ、標高八六九米、前者よりも偏平なる圓錐形を呈し、裾野の發達著しく、その傾斜は頂上附近にても十五六度を超えず。兩山とも頂上には火口らしき凹所を有せず。右の寄生火山以外には頂上と水山部落との間に流紋岩より成る横根山あり、文字川の一支芝瓜澤の西南には柱狀をなして屹立する櫃ヶ森(櫃輪森)あり、第三紀層の砂岩を穿てる玄武岩より成る岩脈にして、頂上部の岩石は特に直立して奇形を呈す。また兎ヶ森(大土ヶ森)は第三紀層の凝灰岩を貫く複輝石富士岩の岩脈にして、鮫高狀をなして屹立す。裾野は東南部及び西北部に稍〻見るべきものあり、南は寄生火山、東は横根岳の突起によつて裾野を遮られ、殆ど標式的のものなし。この山を源とする川は、北東斜面よりの磐井川、北西斜面よりの成瀬川、南東斜面よりの三迫川、南西斜面よりの一迫川等あり。磐井川は下流に鬼美溪の峽谷あり、この地方の岩石は鬼美熔岩と稱する流紋岩にして、河水の浸蝕の外、水源の强酸性の温泉混じて化學的浸蝕をなし、無數の孤穴を生じ、奇觀を呈す。成瀬川は御物川支流にして、仁郷澤として火口原西半の水これに流入す。三迫川は駒ノ湯附近に、岩脈をなして第三紀凝灰岩を貫通せる輝石玢岩に行者淵の瓦洞を懸け、一迫川は上流深く浸蝕されて峽谷をなし、所々に瀑布を作り、湯頌・湯倉・温湯等の温泉を河邊に湧出す。栗駒岳は全山鬱蒼たる國有林にして、特にほうの木に富み、頂上に近き所には高山植物及び偃松生育し、甚だ高山岳景觀を呈す。山頂よりは東方北上川下流の平野を距てて太平洋を相望み、北東方には早池峯山、北方には井澤岳・岩手山、西方には鳥海山、西南方には月山。その間莊(庄)内平野の彼方に日本海の波光を望見し、南方に蔵王山を指呼し展望頗る廣大なり。頂上より西南方一軒に駒形根神社あり。日本武尊東征の御時之を祀ると傳ふ。附近の温泉としては北斜面の酢川温泉最も名高く、又南西斜面諸所に湧出する栗駒五湯も素朴なる山の湯として野趣深し。登路は奥羽本線湯澤又は字文字驛より出發するもの、東北本線一ノ關驛より入山するものとの二路あるも、後者の路が便利且つ容易なり、一ノ關日に就きて記さば一ノ關驛よりは

クリサ——クリス

鬼美溪にて知られたる鬼美まで八粁、自動車を通ず。それより磐井川に沿ひ駒ヶ山まで一二粁、自動車並びに駄馬の便あり。更に山頂やや西側なる酢川温泉まで徒歩一八粁、その間に小屋あり、小屋は美しき山毛欅の森林に包まれ、又附近に共同放牧場あり。その間一米幅の山徑通ず。この道の途中、温泉の手前約四粁に立つ指導標の箇所にて磐井川水源地の澤を渡り、左岸に約二粁半登高すれば山頂に達す。別に酢川温泉よりの登山路もあり。酢川温泉より奥羽本線湯澤驛まで約四二粁、同じく陸内驛まで四四粁なり。また南に道をとり栗駒五湯を訪ね、鬼首の湯を經て、陸羽東線の鳴子温泉への山旅も興味あり。酢川温泉は海拔一〇〇〇米餘の高燥なる地に位し、蒸風呂はその名を知らる。夏季は紫外線强く高原療養に適し、紅楓に良くスキーにも適す。

【栗駒山】→栗駒村(宮城縣)

【栗駒五湯】→栗駒村(宮城縣)

クリサワ　栗澤村　北海道石狩國空知郡西南部の一級村。空知支廳管下に屬し、西は幌向村、北は岩見澤町・三笠山村に隣り、東より南は夕張郡夕張町・角田村及び長沼村に接す。地東西に長く約二八粁、南北は三乃至一〇粁、面積一九七・七三平方粁を有す。東境は夕張山脈の支脈に屬する山地にて最高處は八〇〇米以上に達するも、西するに從ひ次第に低く丘陵性豪地となり、幌向川東部に發して西流し岩見澤町との境界をなし石狩川に注ぎ、西部は石狩平野の一部に當り土地低平なり。西部平地には水田・耕地拓けて米・亞麻等の農產を出し、東部山地は石狩炭田の一部にて、萬字炭山ありて石炭を產す。省線室蘭本線西部を南北に走り清鐵布驛(明治二十五年設置)を置き、またその志文驛(岩見澤町南部)より岐るる萬字線には、岩見澤町内を經て村の東部に達し、美流渡・萬字・萬字炭山の三驛(大正三年開業)を設け、交通不便ならず。村内に重要鑛山たる夕張炭礦・萬字炭礦・美流渡炭礦及び準重要炭礦たる東幌内炭礦あり、又重要鑛山たる大夕張炭鑛の鑛區本村に及ぶ。本村は明治三十九年より二級町村制を布き同四十二年一級町村制を施行せり。(萬字鑛山)本邦重要炭山の一。室蘭本線志文驛より萬字線によりて東に分れ、幌向川の流に沿うて遡ること二五粁、同川の上流山間にあり、南は幌向山脈を越えて、夕張炭山に通ずべし。炭層はその東方及び南西方山地を構成する白堊紀層を不整合に被覆する下部第三紀中のものにして、そのうち特に下層群を主とし、主なる炭層は次の如し。

三番層　厚さ三・五—四・〇米
二番層　厚さ一・五—二・〇米
本　層　厚さ二・〇—四・〇米

炭質は粘結性にして汽鑵燃料・瓦斯製造用・製炭製造用等に適し、發熱量約七〇〇〇カロリー内外に達す。本炭坑は明治の中葉劉吹英二氏により開發せられたるものなれども、同三十六年北海道炭礦汽船會社に買收せられ、同四十二年夕張鑛山に合併され、夕張鑛山萬字坑の名によつて呼ばるるに至りたれども、その年產額は例へば昭和十年度に於て二〇八九二九瓲、價格一五二・一萬圓に達し、優に一大炭山たるの實質を有す。(萬字美流渡鑛山)本邦重要炭山の一。栗澤村に在り、室蘭本線志文驛より幌向川の流に沿ひ、萬字炭山に達する萬字線の中途に位す。炭層は萬字炭山と同じく白堊紀層を不整合に被へる下部第三紀中のものなれども、上層群のものみ主とし、主なるものみ上一番層・本層・下一番層等の數層とす。そのうち本層と稱せらるるは、厚さ二・五米、炭質は不粘結性にして汽鑵用・吸煙用等に供せらる。その年產額例へば昭和十年度に於て一〇一六六四瓲、その價格五七・五萬圓に達せり。(栗澤神社)鄕社。天照皇大神・應神天皇・大國主命を祀る。明治三十四年創立、同四十五年現社號に改稱、昭和九年鄕社に列す。近鄕の氏神として崇めらる。

クリスガワ　栗栖川村　和歌山縣紀伊國西牟婁郡の北部。田邊町から距る東北方約一四粁、富田川中流の山谷にて地南北に長く、東は二川村・富里村、南は鮎川村、西は市ノ瀬・岩田・長野・秋津川の四村に隣り、北は日高郡中山路・上山路の二村と界す。面積約五九平方粁、西北境に虎ヶ峯(七九〇米)、東南界に分領山(六八〇米)等峙ち山地廣く、ただ中部南北に谷地あり て多少の田畑拓く。林產を主とし薪・米等の農產あり。田邊町より來る熊野街道中邊路南部を横ぎり、また朝來街道これより岐れて富田川筋に沿ひ大邊路に連るも交通の便なほよろしからず。村は栗栖川・石船・小栗・熊野川・澤・水上・内井川・西谷・眞砂・北郡の大字よりなり、栗栖川に役場を置く。三栖村・近野村と共に古くは和名抄、牟婁郡栗栖鄕の内なり。大字眞砂は古へ眞砂莊司淸次の居りし處にて、道成寺緣起に名高き淸姫は淸次の娘なりと。近世まで淸次の屋敷址と傳ふるものありしが、今は礎となりて確定し難し。水上の小野辻古戰場は天正十三年湯川直春と杉若越後守の戰ひし處。栗栖川の芝ノ御殿址は後白河天皇熊野御幸に於ける御駐輦の址なりと傳ふ。また同地の十鄕神社はもと濱尻王子として熊野九十九王子の一。建仁元年十月、後鳥羽院熊野御幸の際ここに宿泊して和歌御會を催し給へることあり。明治十一年村内各社の合併の際、今の社名に改む。神社の傍ら、栗栖川に沿ふ一條の小徑は謂ゆる御幸道と稱し、熊野古道とす。(栗栖川龜甲石包含層)指定天然記念物。大字北郡にあり。通稱龜甲石として知らるる古代「あみも」の一種の化石を包含ぜ

る古第三紀層にして學術上貴重なるものなり。

クリタ　栗太郡　滋賀縣二市十二郡の一。縣の南西部に位し、西は琵琶湖に臨み一部は大津市に接し、東は甲賀郡、北は野洲郡、南は山地にて北部は平野をなす。山地は甲賀高原の連續にして主として古生層と之に迸入せる花崗岩より成りよく浸蝕せられて谿はゆる開析山地をなし、郡の南東境には阿星山（六九三米）、南方には太神山（六〇〇米）・矢筈ケ嶽（五六一米）・猪背山（五五三米）等が殘丘をなし、附近に發する草津川・大戸川の上流は斷層崖下の構造谷をなす。山地の北部高さ約三〇〇米以下の丘陵性地域は第四紀洪積世初期に屬する砂礫層・粘土層にして古琵琶湖層と稱せらる。之に次ぎ湖畔一帶の低地は湖成又は河成の沖積層にして、河の中流以下のものは多くは扇狀地をなし、下流附近のものは三角洲をなす。草津川は上流は桐生川と金勝川の二にして前者は狛坂山・志津山より發し、後者は阿星山より發し金勝村・治田村を流れ志津村大字山寺にて兩者合し、西流して草津町に入り大字草津と大字大路井の間を天井川をなして貫流し、笠縫村を經て山田村大字北山田の北方にて琵琶湖に注ぐ。大戸川は源を伊賀國土岐嶺に發し、信樂盆地を經て上田上村にて田代川・水越川・一丈野川・笠尾川・宮川等を容け、更に下田上村に於て天神川・猪ケ谷川・山川等を合流し同村大字黒津に於て瀬田川に入る。急流にして水量多く流送に利用せらる。本郡は孝德天皇の大化改新によつて新設せられ、地名の起原は栗樹多く生育するに由來す。古くはクリフトと呼ばれしが六國史・延喜式には栗太をクリモトと訓じ、和名抄には栗本と記して（物部・治田・木川・勢多・梨原の五郷を管す）久留毛止と訓むも今は栗太と訓む。水陸の物產豐にして交通の便ある爲に早くより開け、國府も本郡の勢多に置かれ條里の制もよく備はり、北部の野洲郡界を條の起點とし方六町を以て南に漸次測定し、瀬田村に至るまで二十條を割し葉山・物部・常盤・大賓・治田・草津・笠縫・山田・老上・瀬田の諸町村には今尙ほ條里關係の地名を多く存す。聖德太子建立の大和法隆寺に物部鄕を施入せられたるを始めとし、奈良朝時代には東大寺及び西大寺に勢多庄が寄進せられ、平安朝時代に入りて延曆寺・日吉神社は勿論、京都の神社・寺院の領田、權門勢家の私領となり、從つて莊園頗る多く之が大體中世にても繼續せられ江戸時代には南の大部は膳所藩に屬し、北部・東部は旗本領・大溝藩・三上藩・淀藩等に分領せられ、その境界犬牙錯綜す。郡の位置は東西交通の要衝に當り、殊に東海・中山兩道の分岐點なるを以て古來戰多史上重要事件の舞臺となり史蹟頗る多し。明治五年に至り郡制が布かれ管內を八區に分割せしが、十四年には野洲郡と合併し三十一年更に兩者分たれ、大正十二年郡制廢止となる。町村の區劃は大整明治二十二年の制に則り、のち草津と瀬田が町制を布き、外に老上・山田・笠縫・常盤・物部・大賓・治田・葉山・金勝・志津・上田上・下田上・大石を加へて二町十三村となる。面積二一八・九方粁、人口五六三二一（昭和十年）。

クリタ　栗田　【栗田灣】　筑前國（福岡縣）の古地名。和名抄、夜須郡に栗田郷あり、高山寺本の栗田に作るは誤なり。安樂寺草創日記に筑前國栗田莊とあるは此地なり。近世村名に呼びしが、明治四十一年栗田村及び大三輪村を廢し新に三輪村を置き、栗田はその大字名となる。

クリタニ　栗谷村　廣島縣安藝國佐伯郡の西南部。東は大野村・玖波町に、南は小方村に、北は淺原村に隣り、西は木野川を界として山口縣玖珂郡坂上村に接す。面積二七・八平方粁。北境に三倉岳、南部に高鉢山、共に高き六一七〇〇米）とありて殆んど山地をなし、ただ木野川筋及和村に發し大野村西部の山地を西南流し、本村の中部を貫きて木野川に合する玖島川に沿ふ狹長なる帶狀の地に低地ありて田地拓く。農產に米・麥、林產に木炭・木材、外に工產あり。省線山陽本線玖波驛へ約八粁、交通なほ便ならず。此地古へは木野川筋なる山里郷の名を以て稱され、町村制施行に際し大栗林・小栗林・後原・奥谷尻・谷和（いま大字）の五箇村合して本村を置く。また玖島川と本流木野川との合流點より溯りて約二〇〇米の間に蛇喰の甌穴群あり、本曾の衰豐床に於ける甌穴よりは規模小なるも數に於ては遙かに多し。

クリツクリ　栗作　丹波國（兵庫縣）の古地名。和名抄高山寺本に、氷上郡栗作郷あり、久利郡久利と訓ず。中世は栗作莊と呼ぶ。その地いま詳ならざるも、氷上郡柏原町に當るものの如し。

クリノ　栗野　【栗野町】　鹿兒島縣大隅國姶良郡の北部。ほぼ菱形をなし東北は吉松村、東南は牧園村、西南は横川村、西北は伊佐郡本城村・菱刈村に隣接す。面積八八平方粁餘東部は霧島火山群の一峯栗野岳（一〇九四米）の西斜面、西部は國見岳（六四九米）・安良岳（六〇四米）の山地、北部は黒國山の南嶺の西南麓斜面にて山地多く南部は二百米內外の臺地をなす。ただ村の中央部に小盆地ありて田畑開け、吉松村より來る川內川これを潤し急に西北に轉向し菱刈・本城二村の境をなして流る。農產は米を主とし繭・麥等、畜產に馬・牛、林產あり。また王野山・栗野・山ケ野寺の鐵山ありて金・銀・金銀鑛を出す。省線肥薩線は中部を南北に走り、大字末

場に栗野驛（明治三十六年設置）を置き、山野線ここより分岐して薩州村に向ひ、縣道また南北と東南より西北に通じ交通不便ならず。また大字木場の地は霧島國立公園の內に屬す。此地或は和名抄、菱刈郡大水郷の內に屬せしものか。薩隅日地理纂考に據れば、日向風土國記に「俗謂謂栗、爲「區兒」」とあり、此地は高千穗の穗嶺岳の北麓なれば略して區兒野と云ひしを栗野に轉ぜしものかといふ。また建久九年三月十三日大中臣時房等注進狀に栗野郡司守綱と見ゆるも其以前は詳かならず。其後北原氏貞幸院の郡司となり栗野をも兼領す。昭和七年四月町制を布く。（松尾城）　字米永に址あり。四面巖壁にして北は川內川の上流圍繞し、舊外濠の周囲四粁餘。應永年中北原右兵衛佐兼幸、日下部貞房に代りて貞幸院の郡司たり。永祿年中に至り北原又太郎兼親承襲して領主となる。時に飫肥城主伊東義祐兵を發して貞幸院を襲ひ、兼親球磨に走りしが、此時北原の一族北原伊勢、橫川の城に據り、宮路茅松尾城に據りて伊東に內應す。島津貴久この機を倒め兼親を貞幸に還して飯野の城主となす。此地伊東義祐と境を接し、兼親勢ひ微にして伊東に敵し難きを虞り、貞幸を貴久に讓る。よりて島津義弘を飯野城主となし兼親を薩摩國伊集院に移す。伊東義祐敗亡の後天正十八年六月義弘飯野よりこの城に移りて居り、義弘文祿征韓の役に此處より進發せり。（王の山鑛山）　本郡市來鑛山の一。串木野鑛の北方二〇粁に位す。森藤秀氏の經營に屬し、昭和十年一九四九瓩、八・九萬圓の金鑛を產す。本鑛山は緑變安山岩中を貫く含金石英泡沸石脈を採掘するものにして、石英は通常玉髓質、泡沸石はその一種輕沸石に屬し、それらが交互に細かき縞狀を成し胚胎す。金は主として石英に含まれ、振け比較的少なきを常とす。（栗野鑛山）　本郡重要鑛山の一。栗野町に在り、綱岡富藏氏の經營に屬し、昭和十年二一五七瓩、九・三萬圓の金銀鑛を產出す。之また玉の山鑛山と同じく、玉髓質石英と輕沸石との細かき縞より成る鑛脈を採掘するものにして、安山岩中を貫き、金は主として石英中に含有せられ、部分によりては萬分臺に達す。

【栗野岳】　霧島火山脈に屬し、韓國岳の北西に峙つ一峯。廣兒島縣姶良郡吉松村・栗野町と宮崎縣西諸縣郡加久藤村との境界に跨る。標高一〇九四米。東方は白鳥山（一三六三米）、北我は飯盛山（八四六米）續く。主脈は南東に走り、韓國岳（一七〇〇米）・高千穗峰（一五七四米）等霧島山の雄峯噴起す。山の西方中腹約七五〇米の箇所に栗野溫泉湧く、通常「岳の湯」と呼ばる。溫泉には大地獄あり、盛に蒸氣を噴出す。これを利用し天然の蒸場造らる。溫泉へは肥薩線栗野驛より約八粁、バスの便あり。倘この山の西麓にて西南の役の際戰闘ありたり。

クリハシ　栗橋　【栗橋村】　岩手縣陸中國上閉伊郡の中部。釜石市の西北約四粁、大槌町の西南に隣り、東は鵜住居村に、南は甲子村・上郷村に、西及び西北は青笹村・土淵村に各隣接す。東北境に赤仁田森（五一二米）・オイネガ森（六六五米）、西境に石佛山（八七五米）・五郎作山（九二七米）・貞任山（八九二米）・櫻現山（九七〇米）、南境に六角牛山（一二九四米）・片羽山群の城岳（一三一三米）・仙弊山（一〇一六米）等聳立し山脚は村面に延び山岳重疊し、西境笛吹峠（八六二米）に發する橋野川（下流は鵜住居川）は各支流を合して東流す。村內は山地多く平地乏しきを以て農業發達せず、橋野部落を中心とする林業・牧畜等行はれ素朴的なる生產物を產出す。また南部片羽山の北麓は釜石製鐵所に鉉る鐵區の甲子・上郷二村に跨る釜石鐵山ありて鐵・銅鑛を出しいま佐比內坑・赤石坑・二股坑にて作業を行ふ。街道は橋野川に沿うて通ず。村名は栗林・橋野の二村を合併して、村制施行の際、その一字宛を取つて命名せるもの。

【栗橋町】　埼玉縣武藏國北葛飾郡の北端。利根川とその分流權現堂川の分岐點の西岸に臨み、南は豐田村、西は靜村、北は北埼玉郡元和村に隣り、東は川を隔てて茨城縣下總國猿島郡新郷村の中田、同郡五霞村の川妻に對す。面積二・四五平方粁。古く奥州（陸羽）街道の一驛。江戸時代の初期、利根川河道の變遷によりて發生せし新驛にて、當時は東南對岸の元栗橋（いま五霞村の大字）に對し新栗橋と呼ばれ、關所を置かれし處、對岸の中田への渡を房川渡といへり。いまも南方の幸手町、北方の古河町（茨城縣猿島郡）、西方の加須町（北埼玉郡）へ各バスを通じ、また利根川水運の便あり、省線東北本線の栗橋驛（西隣靜村地內）にも近く、交通上の一要點をなす。七地平坦にして畑地・田地よく拓け米・繭・麥の農產を出す。此地は近世、葛飾郡川邊領に屬し、栗橋宿と稱せり。而して慶長年中、下總國栗橋村の人、池田鴨之助・並木五郎平なる者の願により、伊奈備前守忠次の指揮により開墾せしが、民家次第に增加し遂に宿をなすに至れり。故に下總の方を元栗橋といひ、此地を新栗橋と稱し、正保の國圖には上河邊新田と記せり。のち一村となりしは此地が次第に繁昌し、いつしか上河邊新田の名を失ひ、其地を總べて栗橋宿と稱するに至りしものなるべし。栗橋宿は日光御成道川口より第八の宿驛にして、千住道よりは第七の宿驛に當る。人馬の繼立は元和二年より始まり、當宿及び下總國葛飾郡中田宿にて半月づつ替りて勤り、人馬二十五人、二十五疋を定數とせり。また當時は一・六の日に市を開き穀物其他の諸品を賣買せり。正保の頃

は伊奈半十郎代官となり治めし地にして元祿十年酒井河内守の檢地あり。〔栗橋圖所〕房川渡・中田御圖所ともいふ。利根川堤の上にあり、其の置かれし年代詳かならず。見張番所を構へて往來の旅人を改めたり。往來改めの條目を記せし高札を建てたり。圖所の番人は四人、寛永元年に加藤本工兵衛・足立十右衛門・富田定右衛門・鳴田源次郎の先祖が御抱となり、世々在住してこれを勤めたりと。

栗橋町行幸年表　明治九年六月四日、明治天皇奥刺御巡幸、栗橋〔區長池田鴨平宅御小休〕。明治十四年八月一日、山形秋田及北海道行幸、栗橋〔池田鴨平宅御小休〕。明治十四年十月十日、山形秋田及北海道行幸、栗橋〔池田鴨平宅御小休〕。明治十九年七月九日、栗橋行幸、栗橋停車場〔御著〕。明治十九年七月九日、栗橋行幸〔利根川鐵橋天覽〕。明治十九年七月九日、栗橋行幸、鐵橋〔御巡覽〕。明治十九年七月九日、栗橋行幸、東河岸御休所〔御小休〕。明治十九年七月九日、栗橋行幸、西河岸御小休〔御小休・御畫餐・捕魚御覽〕。

【栗橋】　省線東北本線の一驛〔明治十八年設置〕にして、東武鐵道これに接續す。埼玉縣北葛飾郡靜村にあり。

クリハマ　久里濱

【久里濱灣】　神奈川縣三浦半島東部の灣。千駄崎と千代ヶ崎との間に灣入し北方一崎角を隔て浦賀灣と相對す。灣頭に平作川注ぎ其河口邊に沙洲あり。嘉永六年北米合衆國水師提督ペリー入港上陸の地として著名なり。

【久里濱】　神奈川縣三浦郡の東南端に在りし村。浦賀町の西南に位し浦賀海峡〔浦賀水道〕に臨む。昭和十二年横須賀市に編入され、村名を失ふ。治承四年九月三浦大介、源組例に呼應して擧兵せしも戰利あらず敗北し、其子孫此地より逃れ安房に走れりといふ。嘉永六年六月二日米國水師提督ペリー、大統領ミラード・フィルモアの敎書を奉じて浦賀に來るや、幕府は浦賀奉行に命じ諭して退去せしめんと試みしも肯ぜざる爲、止むを得ずこの地に應接所を設け、同月九日浦賀奉行戸田伊豆守氏榮並に井戸弘道をしてペリーと折衝せしめ、その親書を受領し、國家の大事件なれば、急に決するを得ざる趣を述べ、ともかくも之を退去せしむ。それよりペリーは明年度再渡の際の儀地測量と威嚇とを兼ね、艦隊を小柴沖田沖に進め、再び我が朝野を騷擾せしめ、十二日に至り江戸灣を退けり。これより先、彼は本國政府に請調し、日本政府若しアメリカの要求を拒否せば、報復として琉球諸島を占領せんとの計畫につき政府の承認を得たれば、當地退去後那覇に直行し、琉球王朝に迫り貯炭庫の設立、市場に於ける物品購買等を强要し、海陸の測量を行ひなどして遂に儀衞を整へ王宮に登り、翌一八五四年二月廿四日サスタエハナ・ミジヅヒ・ポーハタン・マセドニアン・ヴァンダリア・サザンプトン・レキシントンの七隻を率る那覇を發し、安政元年正月十六日、早くも江戸灣金澤に再度投錨せり。浦賀奉行これを留むれども肯かず、しきりに前約を迫る。ここに於て全權委員大學頭・大目附井戸石見守・町奉行井戸對馬守等と折衝を重ねたる結果、同年三月三日に至り、横須に於て和親條約十二條調印をなし、下田・箱根の開放、漂民の撫恤、缺乏品供給・領事駐劄、最惠國約款等を規定せり。條約締結後、一艦を小笠原島に派し貯炭場設置を申出せしめ、三月十八日艦隊を下田に回航し、次で四日箱館に赴き開港に關する處理を行ひ附近を測量し、五月下田に歸還、更に上陸遊歩規程、通貨換算率等を議定し、二十五日了仙寺に於て追加條約十三條に調印し、六月一日下田を退去す。ペリーの計畫せし我が屬島占據の方針は民主黨成立と共に否認せられ、彼もまた使命を達したるを以て離任歸國、のち日本遠航記三卷の編纂刊行に努力す。當地はペリーの最初に上陸せる所、明治文化の序幕の開かれし地なり。これを記念する爲明治三十四年米友協會の發意に依り大記念碑建設さる。題字は伊藤博文の筆にて、高さ約一〇米。

クリバヤシ　栗林

【栗原】　新潟縣南蒲原郡にありし村。昭和二年十月本村を廢し、その地域を三條町〔昭和九年市となる〕及び井栗村に夫々分合す。

クリハラ　栗原

【栗原郡】　宮城縣十六郡の一。本郡は縣の西北端にあり、利府・陸中の境には栗駒火山あり、西部は高峻なり。河流は一迫川・二迫川・三迫川合流し迫川となり、東流して登米郡に入り末は北上川に入る。この流域地方は謂はゆる金成郡地にて、米・麥・馬鈴薯の產額多し。登米郡境に縣下第一の大湖伊豆沼あり、郡内は溫泉に富み、花山・駒湯・栗原等著はる。東北本線は郡の東部を通り、仙北鐵道・栗原軌道は何れも東北本線より分岐す。郡内を若柳・一迫・築館・岩ヶ崎・高清水の五町外二十四箇村に分つ。續紀神護景雲元年十月、陸奥國玉造郡北方の地を敢め伊治城を築き十一月栗原郡を建つとあり、又同書寶龜十一年紀に陸奥國上治郡とあるも本郡を指すものの如し。延喜式、栗原に作り以後これに從ふ。和名抄は久利波良と訓じ栗原・清水・伸村・會津の郷四を置く。戰國の頃新田氏及び長岡郡の長岡郷を併す。明治元年陸奥國を分ち陸前國を置くに及び其の管下に入る。明治十一年九月東部の一部を登米郡に割きて今日に至る。

【栗原】　陸奥國〔陸前・宮城縣〕栗原郡の古地名。和名抄に郷名あり、また延喜兵部省式に驛名見え驛馬五疋とあり。これ栗原郡家の所在地にして驛を兼ねたるを知る。栗原驛は玉造驛と劈井驛との中間にありしものなるを以て其位置を二迫川の谷に求むべく、いま尾松・姥松・富野諸村の邊ならん。尾松村の大字に栗原あり、郷名または驛名の遺稱ならん。

【栗原軌道】　私設軌道。宮城縣栗原郡にあり。登米郡石越村にある東北本線石越驛より栗原郡に入り若柳町を經て岩ヶ崎町に通ず。全長一六・六粁。軌間〇・七六二米。

【栗原村】　茨城縣常陸國新治郡の西部。土浦町の西北約九粁、北條町〔筑波郡〕の南方約七粁、東南は榮村・九重村に、西南は筑波郡旭村に、北は同郡大穗村に隣接し、面積約八・五平方粁。西半は低き臺地にて林野多く中間低地に田地あり、東半は低平にて水田・畑地をなす。農村にて米・小麥等の產あり。土浦町・北條及び南方の谷田部町〔筑波郡〕へ道路通じ後者へはバスの便あり。此地古くは和名抄、筑波郡栗原郷の内とす。村名は蓋し其遺稱。栗原郷は和名抄、筑波郡に其名見え、其地いま新治郡栗原村及び筑波郡大穗村等の地に當る。一に新治郡藤澤村も本郷の内なりしといふ。〔北斗寺〕大字栗原にあり。新義眞言宗豐山派にして本尊北斗妙見大菩薩。妙見山と號す。寶德二年の創建、開山は明源法印たり。享德三年領主小田氏寺領若干を附し其祈願所とす。永祿十一年兵燹に罹り堂宇・舊記を燒失す。のち藤澤村に移りて再建し萬治二年地頭堀宮内少輔、敷地若干を附し、整三年現地に移す。小田氏沒落後、守護の女當寺に入りて落飾し、のち清瀧寺に移る時、小田天庵の木像及び月航禪師の天庵記を當山に納む。

【栗原】　下總國〔千葉縣〕の古地名。和名抄葛飾郡に栗原郷あり、其地今の船橋市及び東葛飾郡大柏村等の地に當る。一に行德町もその郷域なりといふ。近世、栗原領又は行德領と稱せし地。市川市の中山法華經寺の元應二年の文書に八幡莊谷中郷とあるも亦この地なり。

【栗原】　下總國〔千葉縣〕の古地名。和名抄、匝瑳郡に栗原郷あり、この地いまは香取郡に入り、久賀村の邊に當るか。千葉氏の一族に原氏あり、此處に起り、戰國時代には生實城に移れり、千葉系圖によれば栗原禪師親秀なるものあり、親秀この地に居り、在名を稱せしものか。

【栗原】　越後國〔新潟縣〕の古地名。和名抄、頸城郡に栗原郷あり、久里波良と訓す。其地今の中頸城郡和田村の邊なるべく大字栗原は其の遺稱なるべし。一に金谷村・樊太村も本郷域なりといふ。

【栗原】　甲斐國〔山梨縣〕の古地名。和名抄、巨摩郡に栗原郷あり、久利波良と訓す。其地今詳かならざるも北巨摩郡韮崎町の邊か。後世、東山梨郡等々力村の附近五十餘村を栗原筋と稱せしが全く異地なり、また一に東山梨郡日川村の大字に上栗原・下栗原等あるにより日川村の邊なるべしともいふ。

【栗原】　美濃國〔岐阜縣〕不破郡の古地名。續紀天應元年七月の條に、右京人栗原勝子公の經伊賀郡臣神功息后の御時、百濟に使し彼土の女を娶り一男を生む。名を日本大臣といふ。日本大臣本系を尋ねて日本に來り美濃國不破郡栗原の地を賜ひて居り、のち居地によりて氏とし栗原勝と云ふ云々とあり。南宮山の東麓いま同郡合原村の大字栗原を其地とす。

【栗原】　延喜式に見ゆる遠江國〔靜岡縣〕の古驛名。驛馬十疋と見ゆ。式に記載の驛の順序より見て敷智郡の邊と思はるるも、敷智郡には別に西摩〔曳馬〕驛あり。されば栗原驛はこれを雲田・小笠郡の中に求むべきか。今は其の地詳かならず。後攷を俟つ。

【栗原】　美作國〔岡山縣〕眞島郡の古地名。和名抄に郷名見ゆ。いま眞庭郡美川村の大字栗原は郷名の遺稱にして郷域は此附近なるべし。

【栗原】　廣島縣御調郡にありし町。昭和十二年吉和村とともに尾道市に編入せらる。

【栗原】　長門國〔山口縣〕豐浦郡の古地名。和名抄に郷名見ゆれども、今その址を詳にせず。

クリブ　栗生村

【栗原】　廣島縣備後國盧品郡の西部。盧田川中流の右岸に沿ひ、川を隔てて東北は府中町・國府村に對し、東南は有勝村、西北は岩谷村に隣す。面積約一〇平方粁、西境には二—三〇〇米程度の山脊南北に延び、その山麓東北に傾斜し砂ぬど山地をなし、ただ盧田川に沿へる處は小低地をなし田畑拓く。米・麥等の農產の外、養蠶も行はれ工產また少からず。府中・松永町〔沼隈郡〕間の縣道南北に通じ、また省線福塩南線の府中町驛・高木驛〔國分村内〕にも近く交通不便ならず。此地古くは和名抄、葦田郡佐味郷の地か。また國分寺のありし地又は國分尼寺の置かれし所なるべしとあり。本村字盧田に寺跡・塔跡等の傳稱あり唐草瓦の破片等も掘出さる。明治十一年郡區編成に際し戸長役場を置き、同十七年栗柄・土生・枠廻〔いま有勝村の大字〕の三村組合村となる。町村制施行に際し土生・栗柄を合して本村を置き、大正十二年大字土生の一部を府中町に編入せり。

クリマ　來間島

【栗原】　沖繩縣琉球國宮古郡宮古列島の一島。下地村に屬し、與那覇半島の西南二浬にあり。島周約四粁餘、高さ約四五米。北東部より南西部へ傾斜し、宮古本島との間は千田石花礁を以て連る。海岸には珊瑚礁の自然大石橋ありて奇觀を呈す。

クリマ　栗眞村

【栗原】　三重縣伊勢國河曲郡の南東端。津市の北に接し、東南部は伊勢海に臨み、東北部は白塚村に、西は一身田町に隣る。面積僅に三・二平方粁に過ぎざるも、土地平坦低平にて田畑よく拓け、全戸數の四分の三は農業に從ひ米・菜種を主とし漁の產あり。特產とし

て桑苗の養成盛にて縣外に輸出するもの毎年約百萬本に上る。近時また蚕業類の促成栽培隆盛に向ひつつあり。伊勢街道と參宮急行電鐵の伊勢線南北に走り、後者は建川驛(大正四年設置)を設け交通便利なり。村は町屋・小川・中山の大字よりなり、町屋に役場を置く。栗蒔は東間記等の諸書にその名見ゆ。大塔宮護良親王が熊野落の際、熊野の別當定遍が宮を討奉りたらん者には伊勢東間莊を恩賞に充つとの立札ありし諸所に建てしは史上有名なる事實なり。永正の頃は、禁裡御料所たり。両してその莊域は今の白子町及び津市に亙る間の海岸地帶約一二軒に亙る一帯を指させしもの。本村は卽ちその中心とも云ふべく、明治二十二年前記大字を合して村制施行の際、栗蒔村と名付く。なほ延喜神名帳奄藝郡久留蒔神社は白子町の地籍に鎭座す。太平記・五・大塔宮熊野落「去程に熊野の別當定遍、此事を聞きて……道路の辻に札を書きて立てけるは、大塔宮を討ち奉たら〻者には、非職凡下を不云、伊勢の東間庄を恩賞に可被充行由、關東の御教書有之」、朝野群載・七・藤橋家「攝政右大臣家政所、下伊勢國稻生社井栗蒔御庄」東鑑・六・文治三年「伊勢國栗蒔庄、因幡前司大江廣元知行」(明治天皇中山御小休所)指定史蹟。大字中山字南垣内・明治十三年山梨三重兩縣及京都府臨幸の際、七月四日御小休所となりたる處にて舊現機よく存す。

クリミ　栗見村　滋賀縣近江國神崎郡の西端。西は琵琶湖、南は伊庭内湖に臨み東は八幡村、北は愛知川を以て愛知郡葉枝見村に境す。愛知川下流の三角洲と伊庭内湖岸の湖成沖積層より成る低地、村の西部栗見新田の西に突出する砂嘴は、西方蒲生郡島村に屬する伊崎山に連り外湖と内湖とを隔る。生業は農を主とし漁を副とし、米・魚類を主産す。縣道栗見出在家より綱堂・乙女濱を經て東海道本線能登川驛(五峰村村林)に通ずるもの乙女濱より南は伊庭に、北は新宮を經て葉枝見村田附方面に向ふもの・綱堂より葉枝見村新海方面に通ずるもの等あり。此地は葉枝見村と共に、古の栗見庄の地、北部を栗見北庄、南部を栗見南庄と稱せしが、北庄が本にて栗見本庄の名あり。中世に於ては佐々木氏に屬し、其の臣新村氏今の大字新宮舊新村に新村城を營む。元龜二年新村資長之に據り、織田信長に抗し柴田勢・作久間勢の爲に包圍せられて陷落す。城址は東西約八十間、南北約六十間周圍に二重の濠を繞らす、今その中央に栗蒔寺あり。江戸時代には彦根藩に屬し、漁を以て業とし、漁場を有し落に毎年貢を納む。殊に綱堂には約七十戸の漁民漁業組合を組織し八町洲・六町洲等の漁場を獨占せり。綱堂の野島々崎・栗見出在家の沓洲々濱は白沙青松の勝地にして古くより和歌に詠ぜらる。

クリミショー　栗見莊　滋賀縣神崎郡にありし村。昭和二年八幡村に合併す。

クリムラ　栗村　丹波國(京都府)の古地名。和名抄に何鹿郡栗村郷あり。本村は地、栗の生長に適せる爲め、この名あるものか。中世は栗村庄に作る。のち東西の二莊に分れたるものの如し。東鑑文治二年の條に栗村庄は崇德院御領、故宰相光能卿家領と見ゆ。地は今の何鹿郡以久田村の大字栗の邊なるべし。東鑑・六・文治二年三月二日「今日、故前宰相光能卿後室比丘尼阿光、去月遣使者於關東、相傳家領丹波國栗村庄、爲武士被成妨由訴申之」

グリメス　——島　Grimes I. 南洋廳ヤップ支廳管内の小島。マリアナ群島の正南方にて、ヤップ島とトラック諸島の中間に位す。

クリモト　栗太　→栗太郡

クリモト　栗本里　近江國(滋賀縣)の歌枕。今の栗太郡の地なり。金葉集、あふみてふ名はたかしまに聞ゆれどいつかはここにくりもとの里」夫木・二二「栗本やせたの橋桁たわむまてはこびつづくるみつぎ物かな　元輔」

クリモト　栗源町　千葉縣下總國香取郡の略々中央部。南は山倉・常磐・久賀、北は香西・香取・神里の諸町村に隣接す。面積二九平方粁に近く、一般に低性の壺地にて林野・畑地多さも、中部には南北に俵長の卑湿の低地ありて水田あり、町内の水はこの低地に落ち栗山川となり南流す。農業行はれて米・繭・蔬及び雞を産す。縣道中部を南北に貫き南は多古町、北は佐原町間のバスの通路をなし交通不便ならず。町名は栗山川の水源なるより起れるものか。此地は和名抄、匝瑳郡田部郷の地にして、大正十三年町制を布けり。大字岩部は千葉系圖によれば千葉兼當の弟、常益ここに居り岩部五郎と稱し其裔を栗飯原氏となす。(岩部磐)大字岩部字妙見山に在り、面積九アール餘あり桑形を以て則らす。耕圃中また空濠の跡を存す。之を一ノ堀・二ノ堀・三ノ堀と稱す。西北に馬場跡及び射的塚あり、塚上古松樹ありしが今伐採す。磐主詳ならず、或は千葉氏、或は大須賀氏の屬址となす。址に星宮神社(舊稱妙見)あり、妙見は千葉氏の崇敬するところなれば、本城は千葉宗胤中の磐址にして、社は其當時の守護神なりしこと疑を俟たず。按ずるに栗飯原當益初め岩部五郎と稱す。或は本磐に居りしものに非ざるか。里人は本磐を以て天正中の址墟と爲すも、是より以前已に城磐の設けありしものの如し。岩部に土物と稱する地あり、往々古代土器を發見す。且つ岩部は此地方に在りて舊村たりし知く、之を考究せば歴史の沿革を徴するに足るものあらむ。(荒北磐)大字荒北字妙見山にあり。今山林及び耕圃たり。伊豫守東朝胤の磐址となす。(西田部磐)大字西田部字御城に在り、今耕圃たり。地勢尤も高く、西南は水田を隔てて久賀村字御所薬・三倉等の地方を望む。磐主詳ならざるも千葉氏支族の居りしところと云ふ。千葉家臣記に多部次郎師時を載す。蓋し本磐主ならむか。西田部に押田氏あり磐主の舊臣の裔なりとす。墟中一塚あり、里人築塚と稱するも亦何故たるを詳にせず。(安興寺)大字岩部字西崎にあり。東光山と號す。日蓮宗にして釋迦多寶を本尊とす。寺傳に往古は禪宗宗たりしと云ふ。元徳二年庚申三月に創建し僧日義開基たり。日義は初め鎌倉妙本寺に在り、日得に師事しのち本寺を開く。千葉氏ために寺地を寄附す。次いで日憲これを中興し足利義滿亦寺地若干を寄す。昔時は古記・古物等極めて多かりしが、大永中本寺、主なく寺寶を助澤村長榮寺に藏し火災に罹りしを以て之を失ふと。天正中島居氏此の地を領せし時悉く寺領を没し、慶安二年十一月更に十一石五斗の朱印地を寄せらる境内に椎の古木あり。(經藩寺)大字澤にあり。日蓮宗。蓬壽山と號す。本尊釋迦牟尼佛。創建年代不詳。矢作城の陷るや城主國分大膳大夫敗兵ん率ゐて本寺に入る。敵兵追擊して火を放つ、ために堂塔・舊記悉く灰燼に歸し、國分主從皆燒死す。のち國分氏の室蓬壽院堂宇を再建して其冥福を祈る、因つて其法號を山號に附すと傳ふ。(石橋信義墓)大字岩部字田島の水田中に在り、小丘地を爲す。傳に云ふ、此地古へ勝田原と稱せしが、信義の通稱但馬守に因り但馬塚と稱ひ、遂に誤りて田島の字を用ふと。或は曰く水田中の丘土自ら鳥形を爲すを以て田島と傳呼せしものにして、必ずしも信義を葬りしものに非ずと。信義のこと、史にこれを載するものなきも岩部に其裔と稱するものあり。大乗寺城内石橋保義の碑に左の一節あり、〻足利家氏、生義利、稱廣澤太郎居野州石橋因氏焉、義利十一世之孫信義、仕將軍義植、明應二年、義植伐高山義祟、不克帝周防、京師授、稱管無主、信義乃歸下野、又入常陸、永正二年、移下總岩部、蓋下總當時爲千葉氏所管、信義登結城氏、結城與千葉接境、是以來投也」(石橋杏隣碑)大字岩部大乗寺城内に在り。杏隣は村人石橋必の高祖父なり。家世々醫を業とす。(經塚)大字岩部字野馬太戸に在り、俗に御塚と稱す。則らすに土塁を以てす。往時大椎樹ありしが之を伐採せり。其下に古石碑數枚あり。毎年七月十九日、方俗題目經を此處に誦するを以て經塚の稱あるも、或は岩部城主の墓に非ざるか。

クリヤ　厨　愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年本村は横須賀町・淵河村・萩原村・富田村と共に廢せられ新に横須賀村を置く。

クリヤ　栗家　【栗家池】常陸國(茨城縣)行方郡男高里の古地名。今の行方郡小高村御塚山の西方にある池を云ふか。常陸風土記・行方郡「郡南七里男高里……南有二鯨岡一、上古之時、海鯨銜鯛、両來所レ臥、卽有二栗家池一、爲二其栗大一、以爲二地名一」【栗家】越後國(新潟縣)の古池名。和名抄、古志郡に栗家郷あり、まさに久里夜と讀むべし。筑前に厨戸郷あり、蓋し同語なるべし。其地いま詳かならざるも古志郡十日町村・六日市村・上組村等の邊に當るか。

クリヤ　厨戸　筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄、糟屋郡に厨戸郷あり、訓を岡くも當に久利夜と讀むべし。越後に栗家郷あり、和名抄また厨を久利夜と讀む。其地今詳かならざるも厨戸郷は續體紀二十二年十二月の條に見ゆる筑紫君子が獻ぜる糟屋屯倉か。厨戸・屯倉は神物と官物の差あるも其事相似たり、蓋し糟屋郡箱崎の地にして屯倉を神封となしたるにより厨戸の稱立ちしものか。太宰府管内志には調義・地理ともにきだかならず、一に糟屋郡新宮村の地なりともいふ。

クリヤ　厨浦　福井縣越前國丹生郡城崎村にある濱。若須岳(五六四米)の西斜面、日本海に盡くるところに狹長なる海濱をなす。濱の東北に城山屹立す。正平二十一年、斯波入道道朝、柚山城に籠りその子治部大輔義將を栗屋の城に置き北國を裁へんと謀る。足利將軍は畠山尾張守義深をして栗屋の城を圍ましむ。栗屋の城はこの浦の東北に屹立する城山なり。

クリヤガワ　厨川村　岩手縣陸中國岩手郡の南部。盛岡市の西北に位し、南部は雫石川流れ太田村・本宮村と境し、東部は北上川を隔て、盛岡市に隣接し、北西は土岡・小川にして瀧澤村に接す。東西四・五粁、南北一二・三粁。面積一二方粁の村なり。北上川・雫石川に沿うて南東に傾斜し、雫石川流域は沖積平野を作り地味概ね肥沃なり。東部は北上川に急傾斜の斷層をなし、北西に平野を作り、洪積層また火山灰土の所少からず。耕間より湧出する小流、諸葛川等雫石川に流れ合し本村内を灌漑す。本村大字下厨川字館阪より四十四田を經る國道奥羽街道は北へ通じ、下厨三ツ家より雫石川に沿うて縣道秋田街道あり主要道路をなす。その他館阪より監獄前を通る兵營街道・秋田街道より墳道・谷地上道・下川原道・小荒川道・赤渠道・大館道路等ありて、それぞれ北野・万徳・土潤・鵜飼・大館に至る村道あり。奥羽街道に沿ひて東北本線通じ、大字下厨川に厨川驛(大正七年設置)を置く。耕地は主に水田にして、盛岡隣接地を除きては農業ん專業とす。米産最もよく、農産物合計三七六・七三八圓なり。果實は上堂・大館方面に盛にて今後最も有望なり。工業製品としては製革業は本村の特産とも言ふべく、竹細工と共に各九〇〇圓の價格にの

ぼる。鑛業としては雫石川の砂利の產額多く年產四・五三六〇圓の多額なり。其他林業・畜產等みるべきものなし。本村に前九年役源義家の安倍氏討伐の際最後の決戰地として有名なる厨川柵趾あり。その開創年代等に至りては徵すべきものなく詳細を知り得ざるは勿論、僅に村民口碑の傳ふる所に依りて其一面を窺ひ得らる。田村麻呂の東夷征討に向はれし時北上川を挾みて賊と對峙し、戰酣なるに至り敵味方の矢は中空に於て縺り合ひ河中に落下せるに依り「クリヤ川」と稱せしと。後年、安倍氏の玆に柵を築くに及び「厨川」と書き改めたるものの如し。現在本村は下厨川・上厨川・平賀・土淵の四大字より成り、從前は厨川の外九ヶ村戶長役場の管する所にて、本村大字以外は瀧澤・鵜飼・大釜・雫木大・澤村の五ヶ村なりしが、二十二年の町村制實施に當り瀧澤以下は合併せずして瀧澤村となり、本村は四大字を以て一村をなし、境界に何等の變動なく現今に及ぶ。「厨川柵」城塞。下厨川に址あり。安倍貞任の居館たりしため、安倍館ともいふ。康平五年源頼義之を攻めて陷す。戰國時代この地南部氏に屬し、天正二十年廢す。今尙壘深の址を存し八百年の昔を偲ばしむ。附近幽邃頗る佳なり。もと厨川は其地勢現今と著しく異なれるものの如し。陸奥話記に「厨川柵は西北に大澤を控へ二面河を阻てて河岸三丈有餘壁立して道なし」とあり。之を現今の地形に按排せば、大澤は今の騎兵宮西北沼澤と其周圍の水田之に當り、當時は今より一層深く廣く厨川高豪の西北を環周し居たるものの如し。尙「二面河を阻てて」とあるは、東方北上川と南方の厨川(雫石川)とを指したるは勿論、特に雫石川は現在の位置より河心遙に北方に依りて流れ、天昌寺一帶の高地脚に沿うて殆んど直角に北上川と合したるものなり。現に天昌寺麓下の水田數尺を掘下ぐれば砂礫の重疊せるを見て明かなり。卽ち話記の事實と符號す。柵の事實天昌寺方面にて今の北上川添のそれとは異り、卽ち今も天昌寺麓附近に大館・勾當館・里館等の名稱殘るのみならず、其周圍の濠も歷然として之を識別するを得。話記に厨川柵より七八町許りの所に瓜戶柵ありたるは、今の謂はゆる厨川の柵を指せるものにて、之を以て安倍貞任が北上川方面の警備に充てたるものの如し。而してその廢墟完全に保存せられたるが故、厨川柵名が却つて轉寫されしものの如し。北上川沿岸の柵跡は厨川柵としては不當にして、雫石川右岸太田に陣地を布きしかみても、柵址は雫石川方面にあるものと思はる。本村下厨川五十七地割字境田河原附近は古雫石川の流れし所にて、安倍氏追討の時源義家が舟を繫ぎたりと稱する檜は江刺家喜七氏所有地に存す。この檜の近くに清水湧き出づ。その當時使用したるものなりと。

クリヤマ　栗山

【栗山】北海道石狩國夕張郡角田村の大字。省線室蘭本線の栗山驛(明治二十六年設置)ありて夕張鐵道交叉す。

【栗山村】栃木縣下野國塩谷郡の北西部。日光火山群の東北、帝釋山脈の南に當る鬼怒川上流の山地を占め、東は三依村・藤原町、南は河内郡豐岡村・上都賀郡日光町、西は群馬縣利根郡片品村、北は福島縣南會津郡檜枝岐村・舘岩村に界す。面積四二六平方粁に亙り、北境には帝釋山(二〇六〇米)より東に桔木山・安ヶ森山連り、西境には燕巢山(二二一二米)・鬼怒沼山・黑岩山、南界には温泉岳(二三三三米)・太郎山・小眞名子山・女峯山・赤薙山等二〇〇〇米以上の高峯西より東に並立す。西境鬼怒沼に發する鬼怒川は之等南北の山地より落つる諸水を併せて東流し藤原町に出づ。又村內中央部に明神岳(一五九五米)橫り、東北界に聳ゆる持丸山・高瀨山との間に別に一山谷をつくり、湯西川この谷を東南流して又藤原町に出でて鬼怒川に合す。生業は木炭製造を主とし、農業は稗・蕎・里芋・馬鈴薯の栽培を行ひ副業に養蠶あり。近年養兎・養雞を初め山葵の栽培・椎茸の培養盛となれり。又村內に金・銀・銅・鑛を產する西澤鑛山あり。鬼怒川の谷には川俣温泉(含鹽泉)・八丁ノ湯、湯西川谷に湯西川温泉(無色透明の硫黃泉)等あり。また川俣温泉に近き湯澤の谷には湯澤噴泉塔ありて天然記念物に指定せらる。いま本村の地域は日光國立公園の內に屬す。往古の事は以て徵すべきものなきも、恐らく其間發せられしは近世の事ならん。日光山志に據れば、村內には殆ど畠地としてもなく僅に岩石の間を穿ちて作れるもの故、その貯穀は一年に足らず、男女ともに山中に入りて鳥獸を獵し、岩茸などを採り、木を伐りて板に拵き、また樵賣・栗多きを以て之を拾ひて食物の資とす等とある如く、頗る僻陬の地たりしを知るべし。而して近時まで近村にて氣轉なく阿呆なる者を指して俗に「栗山の馬鹿犇」といふ通語きへ生じたり。然し今は諸處に湧出せる温泉過く世に知らるるに至り漸次開發せられつつあり。明治維新前は日光御神領にて明治六年栗山鄕と稱し、同二十二年町村制施行の際栗山鄕九ヶ村を合して栗山村と稱し現在に至る。なほ平家の殘黨この地に移住すと傳へられ、其際携帶せる武器類を埋め、其殘黨たるの證據を陰蔵するといふ平家塚あり。また其時使用したるといふ釜を祀れる釜八幡あり。(西澤鑛山)本邦重要鑛山の一。日光火山群の北背側、鬼怒川上流の一支に臨む幽谷中に在り。附近は主として古生層及び之を貫く花崗岩類を基盤とし、其上を厚く被覆せる第三紀角礫凝灰岩・石英粗面岩及びその凝灰岩等より成る峻險なる山地にして、鑛床はそれ等を主として東西に貫く石英脈より成り、これに多量の輝銀鑛・紅銀鑛・黃銅鑛・自然蒼鉛・輝蒼鉛鑛・異極鑛等を伴ひ、金・銀・銅・蒼鉛・重石鑛として採掘され、大正の初期、非常に高品位なる金・銀鑛を產出して一時大に盛名を謳はれ、選鑛・製錬等の設備も完備したれど、その後富鑛部を採り盡され、同十年以後休山となりしを、昭和七年日本鑛業株式會社の手によりて復活し、盛に探鑛を試むると共に、金・銀鑛の探掘を試み、昭和九年九〇一瓲、同十年四一八六瓲の金・銀・銅鑛を得、之を南方約四粁の小松峠の頂上に出し、それより實物自動車により鬼場ヶ原・中禪寺湖畔を經て日光に送り、日立鑛山に送りて製錬に供せしも、大なる發展を見るに至らず。(湯澤の噴泉塔)村の西南隅、温泉岳の北麓の溪谷湯澤にあり。指定天然記念物。噴泉塔は圓錐形をなし、湯澤本流の左岸懸崖に四箇、更に左岸に注ぐ支流の吐口に近く二箇あり。前者は近づくを得ざるも、後者は到達容易なり。前者の四箇のうち最大のものは底部直徑約一米、高さ六〇糎に達し、現に頂上の噴孔より温泉溢流し、塔は現に生長しつつあり。他の三箇の塔はそれより著しく小にして温泉の噴出なし。支流に沿へる二箇の塔中大なるものは底部直徑及び高さ各々約三〇糎、頂上には南北に並ぶ大小二箇の噴孔あり。大孔は熱水の飛沫を二米餘の高さに、小孔は水球を六〇糎の高さに、小孔は水球を六〇糎の高さに飛昇せしむ。塔の底部は鱗片狀及び小規模の階段狀をなし、底部よりは數多の鍾乳石、懸崖に沿うて垂下す。噴泉塔は主として炭酸カルシウムより成り、小量の硫黃及び珪酸を混じ、生成の古き內部は堅實なる漏石にて、新しき外部は柔軟にして容易に粉末化す。これ等の物質を沈澱する温泉は無色透明にて、硫化水素臭ゐ放ち、微鹹味あり、アルカリ性反應を呈し、温度は攝氏九四度なり。この附近溪谷には他にも温泉處々に湧出し、硫黃等を沈澱せしむ。此地より日光湯元まで約二〇粁、西澤金山・金田峠を經て達す。(川俣温泉)村の西部、鬼怒川上流の溪谷にあり。滝ノ湯及び地蔵湯あり。温度は前者は五一度、後者五四度。腰食泉にして、婦人病・ヒステリー・神經痛・リウマチス・外傷性諸障碍等に効あり。地は帝釋・男體等の峽嶺に圍まれ、海拔一〇二六米、鬼怒川水源に近く、幽邃を極む。東方川治まで三七粁餘の間は謂はゆる鬼怒川溪谷にて風景美に富み、特に楓によし。西方約一〇粁に八丁ノ湯あり、更に溪谷上流を遡むること約四・五粁、徒歩約二時間にて鬼怒川水源たる鬼怒沼に至る。八丁ノ湯は鬼怒沼山東麓の川原にあり、海拔約一四〇〇米、野天風呂あり。川俣温泉よりはまた南方金山峠を經て日光湯元へ約一六粁にて達す。

(湯西川温泉)村の北邊、鬼怒川の上支湯西川畔にあり、海拔約一〇〇〇米。湯は川の兩岸數個所より湧出し、食鹽泉にして、温度四九度。花柳病・皮膚病・疥癬・リウマチス等に效あり。温泉場は十餘戶の小部落をなし、平家の落武者の裔と傳ふ。東南方、湯西川を降ること約一九粁にて川治温泉に至り、西南方約二〇粁の山路を辿りて川俣温泉に出づ。また西方帝釋山脈の田代山へ登り南會津の湯ノ花温泉へ下り、又は帝釋山を逆頂して同檜枝岐村に出づるコースあり。

クリユー　九龍面　朝鮮平安南道成川郡の中部。東は大邱面・崇仁面に、北は四佳面に、西は成川面・通仙面に、南は陸中面に各隣接す。面內山岳重疊として東北境に萬山嶺(九五二米)、東南境に大峯山(八六六米)、南部に龍山(八五二米)聳立し、西境にも五〇〇米餘の山嶺連り、東南部山地に發する沸流江の一支小溪流を集めて西部寄りを曲流して北に流る。川は山脈を直に洗ふを良て岸には岩石露出し平地乏し。產物は豆類・蔘・棉を出し煙草・栗を特產す。煙草は成川煙草として品質良好なるを以て世に知られ、栗は品質甘味極めてよく成川栗として出す。三等道路は南部の川に沿うて通じ、西境山地の峠(二四一米)を越えて成川面に達す。面事務所は佳坪里に置く。

クルイ　來日岳　兵庫縣城崎郡城崎温泉の南西方二粁半、同郡內川村に峙ち、標高五六七米。山體石英粗面岩より形成せらる。日本海に面して峙つ故、附近航海者の目標となる。東麓を圓山川北流して日本海に注ぐ。山中に鱒發あり、傳說に昔この地は湖なりし故と傳ふ。此山は恐らく太古火山作用にて噴起せられしものと考へらる。又山中に雲光寺(雲子寺とも書く)と云ふ古刹あり。「名にもにす岩にすれども黑まゐや來日かたけの雪の白姿」澤庵

クルイシ　黑石山　クロイシとも讀む。千島火山脈に屬する一峯。千島列島北東部の一島温泊古丹島の南部、幽仙湖なるカルデラ湖中に噴出せる山にして二重火山の中央火口丘なり。山容ほぼ圓錐形をなし、地學上興味あり。標高湖面上約九四四米。カルデラ湖も火樣圓形を呈し、直徑約七粁。外輪山は湖岸に環狀をなして相連り、東側に湖眺山(約六三四米)、西側に白雲山(七七五米)峙つ。

クルシマ　來島

【來島】廣島縣豐田郡の西南海上に浮ぶ島。大崎上島の西方約三粁。標五百米位のほぼ圓形島にして、島內最高處は六九米、樹木あり。

【來島】愛媛縣越智郡波止濱町の屬島。同町の北方海上に浮び、東に來島瀨戶を隔てて小島あり。足利の末、信濃の浪人村上通康、伊豫に來り河野家に仕へて婿となり姓を來島と改め河野氏の水軍の將となる。來島氏は來島海峽を扼して海上の權を操り遠く明の沿岸を脅掠せりといふ。所謂俗に海賊衆と呼ばるるもの之なり。天正十三年豐臣秀吉四國征討の時、

来島通總、秀吉に降り征韓のとき水軍の將となる。慶長二年九月水營洲に戰死す。其子康親、家康に仕へて豐後の森城に移り、子孫来島を久留島と改む。

【来島海峽】 愛媛縣北部の高縄半島と大島との間の海峽をいふ。小島多くために多くの狹き瀬戸を有し、瀬戸内部に於ては最も潮流の急なるところにて大潮の時には時速約六浬に達す。微潮には西北方より擬潮に向ひ、落潮には反對の方向をとり、その際生ずる渦巻は頗る壯絶なり。海底はために浸蝕せられて溝を成す。中渡島に潮流信號所あるは潮流の急なると内海航路の衝に當るとによる。これ古へ海賊の根據地となり、また有力な水軍の根據地となりしことは位置上當然なることなり。

クルス　栗栖

【栗栖】 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に揖保郡栗栖郷あり、久留須と訓す。中世は栗栖莊に作り、後宇多院安樂寺院領なり。正平六年、その地頭職を飯野新宮に寄進せらる。地は今の揖保郡東栗栖・西栗栖の二村の邊なるべし。播磨風土記「栗栖里(土中中ノ所以名栗栖者、蘇波高津宮天皇(仁徳)賜ハ刑栗子若僕部逢泡子。即將退來、殖ニ生此村。故號栗栖」

【栗栖】 一に栗林に作る。大和國(奈良縣)の古地名。仁徳天皇の扇御し給ふや、住吉仲皇子篤立を圖る。皇太子去來穂別尊、走りて龍田より石上に出づ。倭直吾子籠、仲皇子に與し、精兵數百を栗林及び拠食(忍海村大字鷲)に集めて、太子を狙まんとせしも、遂に太子に降れり。地はいま詳ならざるも、南葛城郡忍海村附近なるべし。

【栗栖】 紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に牟婁郡栗栖郷あり。中世は栗栖郷に作り、保延四年、德大寺左大臣公能、この地を紛河寺に寄附し、久安二年、院廳下文を以て、莊號地とし、永く官物國役を免除す。地は凡そ今の西牟婁郡栗栖川村及び三栖村・近野村などに當るべし。

クルスダ　栗田

【栗田】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄大野郡に栗田郷あり、其地いま詳かならざるも本巣郡弾正村等の邊に當るか。本國神名記に大野郡栗栖田明神あり、栗田は栗栖田を省略せるものなり。本巣郡にも別に栗田郷あり。

【栗田】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄、本巣郡に栗田郷あり、其地いま詳ならざるも本巣郡外山村の邊に當るか。東大寺所藏の天寶二年の戸籍に本巣郡栗栖田里とあり、天寶年中の正倉院文書に本巣郡栗栖太里人、栗栖田君若子寶とあり、蓋し此地の人なるべし。土岐系圖に實清は栗田二郎と稱すとあるも此地の人なるべし。

クルスノ　栗栖野

【栗栖野】 山城國(京都府)愛宕郡の古地名。栗野にも作る。和名抄には栗野郷と見え久留須乃と訓す。蓋し栗栖野の修略なり。又御栗栖野ともいひ洛北に於ける御猟場たり。後一條天皇の寛仁二年以後賀茂社の社領となる。延喜式主水司式にある栗栖野氷室も亦此處にありしもの。地はいま京都市上京區の北部鷹峰・西賀茂の邊にあたる。

【栗栖野】 もと京都府山城國宇治郡山科町の大字なりしが、今京都市に編入、東山區の町名たり。此地は和名抄小栗郷の内なり。小栗は和名抄に手久留須と訓す。蓋し小栗栖の修略なり。古の小栗郷の地域は明確に定め難きも今の伏見の小栗栖地方より勸修寺に至る一帯なも含みしものならん。坂上田村麿の墓は今栗栖野に現存す。西鶴織留・二「男は毎日京に行て計畫を商賣してやう〳〵けふを暮し明日の身のうへをかまはず、宿に歸れば栗栖野小野の萩栄を折くべて、山科の里芋に勸修寺のせんじ茶して、樂しみ是に極めて世にある人の榮花もうらやむ事なく」太平記曦鏡・一「酒ば詩を釣り歌を釣り、招かめ人も栗栖野小野、萬里小路中納言藤房卿の遊亭、無禮館と額を打ち、貴賤を分かぬ酒宴の會合」

クルソン　久留尊・狗留孫

【久留尊山】 三重縣名賀郡名張町の南西方約一三粁、奈良縣宇陀郡曾爾村と三重縣一志郡太郎生村との境界に跨る。標高一〇三八米。山脊蛇々たり。大樹は谷間のみにて山中は根笹と灌木にて掩はる。

【狗留孫岳】 霧島火山脈に屬する一峯。人吉盆地南方に位し、宮崎縣西諸縣郡飯野村に峙つ。火山岩より形成せらる。西流する川内川の源流地たり。北麓は國見山(一二一七米)・白髪山(一四一七米)に連る。山頂の大岩の上に狗留孫神社儀座す。この岩を巡れば祈願成就すと参詣者これを行ふ。之を内御腰廻りと云ふ。また此より東一町に危岩あり。この岩にも道造られ、これを廻るを外御腰廻りと稱す。

クルタ　黒田

大和國(奈良縣)城下郡の古地名。書紀孝靈紀に、都を此地に遷し廬戸宮といふとあり。和名抄に郷名出づ。いま磯城郡都村の大字黒田の地が卽ちそれならんといふ。

クルハラ　來原村

廣島縣安藝國高田郡の北部。吉田町の北約八粁、南は甲立町・丹比村に、西南は横田村に、西北は北村に、東北は船佐村に隣接す。面積二九平方粁餘、西境に大狩山(五九一米)あり、その山地東北に緩く低下し村の西南半部は一—二百米の豪地性をなす。東北境にも一—二百米の丘陵あるも、その中間に低地北より東南に縦き田畑よく拓く。米・麥等の農産を主に、林産・工産また少からず。また養蚕業も行はる。省線藝備線甲立驛(小田村下小原)より島根縣邑智郡出羽村・川本町方面へのバスの道路に當り交通不便ならず。古くは和名抄高宮郡訓覓郷の地。いま大字來女木は其轉訛せしものなるべし。くるべきはもと篤鉢具の名稱なりと。町村制施行に際し原田村(いま大字)と合し現在に至る。

クルベ　訓覓

伊勢國(三重縣)朝明郡の古地名。和名抄に郷名見え久留閉と註す。訓覓は卽ち哭部にして紡織裁縫を業とせゝ部民の居地なるより名稱起るか。織紀和銅五年に綾錦を織ることを命ぜられし二十一箇國の中に伊勢國を含む。其地いま詳ならざるも三重郡大矢知村の地名に久留倍垣内ありと云へば、郷域は同村附近に求むべきか。

クルベキ　訓覓

安藝國(廣島縣)高宮郡の古地名。和名抄に郷名見え久留倍木と訓す。クルベキは蓋し紡織の具にして此處に居りし部民の紡織を業とせしより起りし名稱なるべく、織紀和銅五年七月に諸國に令して綾錦を織らしめられし二十一箇國の中に安藝國を含むを見て知るべし。其地いま高田郡來原村の地なるべく、其大字來女木を其遺稱とす。

クルマ　久留馬社

群馬縣上野國群馬郡の西南部。高崎市の西北約六粁を隔つ。西は室田町、東は東郷村にて、南は烏川によりて碓氷郡八幡村・里見村に界す。面積約二一平方粁、椎名火山の南面にて土地西北より東南に狹長に延び、次第に低下して東南部には桑畑よく拓く。蚕業行はれて繭を産し、また米・麥を出す。高崎市より下室田・椎名山町(共に室田町の大字)への道路に當り、バスの便あり。此地古くは和名抄、群馬郡長野郷の内に屬せしものの如し。名跡志は群馬郷の地に擬し、村名久留馬は其遺稱なりといふも果して如何にや。箕輪軍記に據れば、永祿六年那波無利之助なる者、手勢二百五十餘を以て秋間山を無越え、烏川を打渡り、雲坂常陸之助長信の砦を攻む。時に城主不在なれば城兵其輪に退き、安藤九郎左衛門の援を得て白岩山にて合戦すと。この白岩山は卽ち大字白岩の地とす。〔長谷寺〕大字白岩にあり。天台宗寺門派。白岩山と號す。本尊は十一面觀世音菩薩にて坂東三十三所第十五番札所たり。御詠歌「みな人の祈る心はしらいはの朽ぬ誓の願もしきかな」「誰もみな祈る心は白岩のはつせの誓たのもしきかな」

クルマ　車間

↓栗群村(三重縣)

クルマ　來馬

淡路國(兵庫縣)の古地名。和名抄に津名郡來馬郷あり、久留萬と訓す。中世は來馬莊に作る。貞應二年の注進に、田六十町、畠若干、浦一所と見ゆ。近世は村名に呼びしが、明治四十五年假屋町と改む。

クルマ　群馬

【群馬(郡)】 →群馬

【群馬】 上野國(群馬縣)群馬郡の古地名。和名抄に郷名見ゆ。此地は郡家の所在地なると共に上野國府の所在地にてまた驛傳を兼ぬ。延喜式に驛馬十疋、傳馬五疋とあるを見て知るべし。郷域はいま總の此町・金古町・國府村・元總社村等に當る。

クルマガエシ　車返

靜岡縣沼津市舊城の東、黄瀬川西北邊の地名。古く東海道に沿へる村里たり。東鑑・承久三年七月十二日、按察卿(光親)去月出家、法名西親)者、爲武田五郎信光之預、下向、兩盤倉使相逢于駿河國車返邊。依獨可誅之由、於加古坂梟首訖。東國紀行「車返といふ里あり。ある家に宿りたれば、網・釣などいとなむ賤しきものゝすみかにや、夜のやどりありかことにして、床のさむしろもかけるばかりなり。かの縛戎人の夜はの旅れもかやくありけむとおぼゆ。これぞこの釣するあまの苫庇いとふありかや袖に殘らむ」貞應紀行「車返しといふ所を過ぐ、此所もし蟹郷がみちにあたりて、行人をとめけるか。又若逢兒が土城をつくりて孔子に答けるか。若又勝母の閭ならば、曾子にあちずとも誰もいかゞ通らん。愉卿の地なれば大行路といひつべし。むかしたれこゝに車のわゞらひてながへを北にかけはじめけん」

クルマザカ　車坂

【車坂】 淺間山現噴火口の西方四粁餘に當り淺間山塊を乗越す峠。峠路は東方の黒斑山と西方の高峰(二一〇五米)との中間鞍部をほぼ南北に走り、最高點は長野縣北佐久郡大里村と群馬縣吾妻郡嬬恋村との境界に位し、標高一九六八米。北降すれば、長野街道に沿ふ嬬恋村田代に至り、南降すれば菱野藥師及び温泉を經て北國街道に當る小諸町に達す。

【車坂】 東京市下谷區の町名。下谷區の東南隅。もと上野の山より門跡前通に向ひ東に下る坂を車坂と稱せしより町名起るか。今は坂なく鉄道線路敷設さる。國花萬葉記・七「車坂、東叡山より下谷へ下る坂なり」好色二代男・七「其時分下谷の車坂に、身を隱せし平人者、長山に調そめ、二とせ餘のやりくり、命も惜からぬ程になりける」

【車坂里】 畑模國(神奈川縣)の歌枕。其地今の足柄下郡前羽村に當る。新編相模風土記に「海道中にて、西に下れる一町許の坂あり、按ずるに、太田道灌の手安

紀行に、車坂の里と見えしは此處なり、曰、車坂と云里にて、夕立頻に降きそへば、鳴神の聲も頻に車坂轟し降る夕立の空、又韓使來聘の時は、此地の路傍に、休憩の茶屋を建るを例とす、其間日百三十間餘と云」

【車坂】→大淀町(奈良縣吉野郡)

クルマサト　車郷村　群馬縣上野國群馬郡の西南部。高崎市の西北約一〇粁、東の箕輪町、西の久留馬村間に介在し、東南は長野村に接す。面積約二一・二方粁、椿名火山の東南斜面にて西北より東南に狹長にして、中部以北は山地、以南は緩傾斜をなす福野にて桑畑・山地拓く。米・麥・繭等の物産あり、東隣箕輪町に出づれば高崎・前橋兩市へバスの便あり、交通不便ならず。此地或は和名抄群馬郡長野郷の内に屬せしものか。いま富岡・善地・和田山・白川の四大字より成り富岡に役場を置く。

クルマモチ　車持

【車持】上總國(千葉縣)の古地名。和名抄長柄郡に車持郷あり。今の長生郡鹿南町・豐栄村の邊に當る。近世は埴生郡に入り、坂本郷と混じたり。鹿南町の大字藏持は其遺稱なるべし。續日本紀に車持公長谷の名見え、東大寺文書に車持朝臣若是とあるは此地に關係ありしものか。近世は鹿南莊長南郷と稱せし地なり。

【車持】越中國(富山縣)の古地名。和名抄、新川郡に車持郷あり、一に久良母知と讀むべしともいふ。卽ち車持は古姓にして車持朝臣の居りし所なりと。其地今の上新川郡月岡村・願澤村の邊に當るか。月岡村に西黒牧あり、願澤村に東黒牧あり、黒牧が或はクルマモチの訛れるものか。續日本紀・天平寶字九年の條に車持君長谷に姓朝臣を賜ふとあり、また萬葉集第十六卷に車持眞子あり、以て車持氏の北陸に居住せしを知るべし。

クルミ　久留美村　兵庫縣播磨國美囊郡の西部。三木町の北隣、別所村の東北にて、北は加東郡市場村に隣接す。面積一三・八方粁、北半は高き一〇〇米臺の低き丘陵地にて林野をなし、南半は美囊川流域の平地にて田畑よく拓く。米・麥・野菜類の農産の外藁製品(籠・帆)を出す。三木町に出づれば播丹鐵道三木線の便あり。また南は明石市、西は加古川町(加古郡)、北は小野町(加東郡)、東北は日吉川村方面へいづれもバスの通ずるありて交通便なり。村は加佐・鳥町・平田・跡部・久留美・平井・長屋・宿原・梨呂木の大字を含み、加佐に役場を置く。古くは和名抄美囊郡平野郷にて、大字平井・平田は郷名に關聯ある地名なるべし。中世は久留美庄といふ。天正十年羽柴秀吉、織田信長の命を受けて三木の別所氏を攻めてこの地に徹戦せるは有名なる史談なり。名所圖會云、久留美庄慈明寺に佐伯の古鐘を傳ふ。其銘に延元二年とあり、別所長治記に天正七年羽柴秀吉毎度の合戦に一度もおくれを取給はず大村の合戦に大利を得給ふ、又三木へ付城を漸々に付寄す、南は八幡山、西は平田、北は長屋、東は大塚まで付寄給程に敵城の間僅に五六町なり中國勢魚住より押寄せ平田の後より兵糧を運ばせけるが夜明方に成て大村に着くとありて、以て戰の有様稍〻詳なるを知るべし。春日御盛記、至德二年三月二日、一、播州久留美莊年貢之内、能州諸申分廿貫文沙汰上之間、則於神主館、支配之差別事(八雲神社)大宇久留美に鎮座。郷社。祭神、天忍穂耳命・活津彦根命・素盞嗚命外數神。創立年代不詳。古來久留美四ヶ村の產土神。例祭、一月六日外數度あり。(慈願寺)曹洞宗。大化四年法道仙人の開創に係るといふ。暦座二年赤松圓心榮宇を建立し、許多の山林田畑を寄せ、禪刹となし大徹宗禪師を請じて開山とす。三木城主別所長治、厚く當寺を保護せしが、天正六年豐臣秀吉、長治の居城を攻め、長治自刃するや本寺又その餘を蒙る。のち池田輝政・明石城主小笠原右近大夫忠政等之に山林田畑、朱印地等を附す。現に小本寺格にして末寺十二箇寺を有し近郷の名刹たり。

クルミ　來見村　廣島縣備後國神石郡の南部。高梁川の支流小田川上流の地にて、北は油木町・仙養村に接し、東南は深安郡山野村、西南は鹿品郡鹿尾村に界す。面積四三・四方粁に餘るも全村殆んど高度五百米以上の高原狀をなし、中央部所々に小低地あり、山林廣く田畑少し。米・麥等の農產の外林產・工產あり。福山市・油木町間の道路は西部を南北に貫きバスの便あり。此地古くは和名抄、神石郡神石郷の地。町村制實施に際し井關・坂瀬川・時安・大矢の四村を合して本村を置く。(光德寺)大矢にあり。眞宗本願寺派。楓林山と號し、正治年中の創建に係り、地頭大矢城主川上杢之進の祈願所たりき。往時は天台宗たりしも、本願寺在覺上人巡化の際、時の住僧上人に歸依して改宗せしものといふ。寶暦九年炎上、同十一年再建成る。現本堂は明治三十七八年中の再建に係る。

クルミ　來海　出雲國(島根縣)の古地名。意宇郡に來海莊あり。德治元年の記文に來海の名見え莊名は永享三年の記文にあり、後宇多院歓喜光院領なり。其地今の八束郡竹矢村の邊に當り宇來美はその轉稱なるべし。後宇多院御願日錄に「一、歓喜光院、出雲國來海」室町家内書案下に「一、出雲國朝山郷并來海莊年貢夫賃事、光年土民等蜂起之刻、任雅意國中夫賃加增、云云、其不可然、所詮可爲如先規之旨、可被相觸之、若令緩怠者、爲被處罪科、被注申交名之由、所被仰下也、仍執達如件、永享三年九月廿二日、大和守、佐佐木彈治五郎左衛門尉殿」

クルミ　胡桃谷　相模國(神奈川縣)鎌倉郡の歌枕。鎌倉郡鎌倉町字淨妙寺の東北隅、胡桃山の谷なり。新編鎌倉志に

「胡桃谷は、淨妙寺の東の谷なり。大藥寺の舊跡あり。昔藥師堂有り。今は亡て礎石のみあり。李瑋は今大藥寺にあり、大日記に、永享元年二月十一日、永安寺炎上、類火に依て大藥寺燒失すとあり。此所永安寺へ近ければ、永享の比まで愛に有しとみへたり」岡國雅記「すみなれしかまくら山のやまからやくるみかやつに秋をへぬらむ　道興」

クルミ　國見

【國見岳】九州山脈の一峯。熊本縣八代郡樅木村・上益城郡白糸村・宮崎縣西臼杵郡椎葉村の二縣三郡境に跨る。標高一七三九米にして山巒秩父古生層より構成せらる。九州山脈はこの附近に於てほぼ南北に走り、この山の北麓に高岳(一五六三米)・三方山(一五七八米)續き、南麓に五勇山(一六四四米)・烏帽子岳(一六九二米)連る。東斜面に雷坂と呼ぶ急坂通ず。山頂部はピラミッド型をなし、附近は丈低き樹木と草原より成り、所々に躑躅の點在を見、花季は麗し。又タクシャクナゲの群落あり、九州最大の偉觀なり。頂上よりは北方に大阿蘇の大觀、西方に熊本平野、有明海の彼方には雲仙岳を望む。山中にはモミ・ツガ・ミグナラ等の巨木林生育す。山麓は内大臣國有林をなし、本鳥有數の深林地帶にて良材を產す。平家の殘黨の畔棲せし五家(俗)莊はこの山の南西部の深山幽谷なり。登山は熊本縣上益城郡嶺町より山麓鶏ヶ淵までバスに乘り、林道に沿ひて登高し、内大臣國有林營林事務所に一泊、翌日登頂す。又五勇岳よりの縱走も可能なり。

【國見峠】宮崎縣西臼杵郡椎葉村字伸塔・内八重方面より岡郡鞍岡村本屋敷方面に出る山道に當る峠。最高點は兩村境界に跨り、標高一二四一米なり。北流する五ヶ瀬川と南流する十根川(耳川の支流)の分水嶺をなす。西麓に白岩山(一六四六米)・向坂山(一六八四米)等續く。

クルメ　久留米

【久留米村】東京府武藏國北多摩郡の東北部。東は東京市板橋區の西端と保谷村を隔て、東南は田無町に接し、東北は埼玉縣北足立郡片山村に隣る。面積一二・九平方粁餘、土地平坦にして畑地多く、農產に麥・米・大根・甘藷・馬鈴薯その他の野菜等を出し、また養蚕行はる。社線武蔵野鐵道東北部を横ざりて東久留米驛(大正四年設置)を置き、東京市に道路通じてバスの便あり。此地は近世多摩郡野方領に屬す。大字小山は往古は片山七騎の内の栄邑たりしといふ。のち幕領となり、大岡源右衛門が代官となり治めし地なり。大字下里は往古の領主は傳はらず、德川氏國東入國後は幕領にて、正保の頃は松平市左衛門が代官となり治め、のち大岡源右衛門の支配地となりし地。延寶二年中川八郎左衛門が檢地せり。大字前澤は片山庄の内なりといふも詳かならず。前澤は往時門前・神山と一村なりしものか。往時よりの領主を傳へず。德川氏國東入國の後は米津勘兵衛田政に賜り、子孫相續いで領せり。大字柳窪は正保の頃のものには村名見えず、元祿に至りて村名見ゆ。此頃より幕領となり大岡源右衛門支配せり。大字門前は尾張殿の鷹場のありし地にして、德川氏國東入國の後は米津勘兵衛田政に賜はり、子孫相續いで領せり。此地に殿屋敷なる古蹟あり、里傳によれば德川氏江戸入國の後、米津勘兵衛が此地を賜はりし頃暫く土着せしより斯く唱へしといふ。此邊を知行せしもの七人あり、之を片山七騎といふ。南澤に神谷與五郎、落合に小野吉兵衛、栗原に木村平助、片山に利田茅・櫻井庄之助、小山に一人あるも其名を失ふ。門前は米津勘兵衛なるも、大字神山は往時、尾張殿の鷹場にして古の領主を傳へず。正保の頃は近山與吉衛門の代官所及び米津内藏助・蜂屋源右衛門・田中一郎右衛門等の栄地あり、また淨牧院領あり。檢地は延寶二年に中川八郎左衛門・關口作左衛門、元祿三年に松平清三郎・八木仁兵衛なり。のち大岡源右衛門の支配地の外、米津伊勢守政懿の領地と淨牧院の寺領入會へり。大字落合は片山郷新倉庄と稱し、德川氏國東入國の後は小野吉兵衛に賜はりしと。正保の頃は小野久内知行地にして、のち子孫相續いで領す。大字南澤は神山郷と稱せり、小田原北條氏、關東分國の頃は太田新六郎の知行にして所領役帳に廿七貫五百文とあり、德川氏國東入國ののちは神谷與七郎に賜はり、與七郎は片山七騎内にて此所に住せり。のち大岡源右衛門の代官となり治せし地なり。(淨牧院)　大字門前にあり。曹洞宗。神護山と號し、遠州高尾山石雲院末にして、近郷十餘寺を統ぶる郡内屈指の名刹たり。文安元年、南多摩郡八王寺城主安覩の創建に係り、開山を宋芝俗和尚とす。天正十九年德川家康寺領三十石の朱印を寄す。

【久留米市】筑紫平野の中央を東西に貫流する筑後川の中流左岸に位し、平野の南縁を劃する水縄山塊(耳納山・屏風山とも稱す)の西端に發達せる洪積層臺地の北端を占め、筑河の要衝に當るを以て東西の水運及び南北の陸運の便自ら兼備し、夙に筑後國の首邑として發達を重ねつつ今や福岡縣南半に於ける中心都市たり。本市は元來交通都市として出發し、その經濟的使命は市を圍繞せる廣大にして豐饒なる筑紫平野の農產物を集散するにあれば、古くは水運の利用に便利なる水天宮を中心とせる筑後河畔一帯の繁榮を來し、現在にありてはその東に隣る久留米驛を圍みて製粉・紡績・織物・足袋・自動車ヨイヤーその他の大小工場及び運輸關係の諸會社が集中す。舊市街の中心部は久留米驛より丘陵上を東方に延び、市域を東西に貫きて諏訪野町に終る。その間吳服町・片原町を中心に老舗・瓦商横

比して繁華を誇る。これより北には獨城址たる篠山神社を初め、寛政八年の開講に係る明善堂の流れを汲む中學明善校・久留米醫學專門學校・商業學校・高等女學校・市役所・公會堂・裁判所等の諸官衙及び學校集まり、その東には南北に通ずる寺町ありて、大小の伽藍甍を連ぬ。中にも通照院には寛政三奇士の一人たる高山彦九郎の墓ありて香華の絶ゆることなし。市の北端に突出せる小森野町は小森野放水路によりて隔てられ、筑後川の西岸に於て佐賀縣内に飛地せる長門石町とともに、河道の變遷を物語る好箇の資料を提供す。本市の動脈たる鹿兒島本線は、市域の西部を南北に貫き筑後河畔に近く久留米驛を置き、同驛に起る久大線は南部新市域を東に迂回して南久留米驛を置く。その北には師團司令部・憲兵隊・歩兵營・第十二聯隊騎兵營・第二十四聯隊野砲兵營の外に輜重・山砲・戰車の各兵營が連る。鐵道・久留米間の捷徑たる九州鐵道急行電車は市の東北部より來り、津福驛において大川線に連接し、同鐵道三井支線は南は福島町へ、北は甘木町に走る。また佐賀・日田・柳河・熊本方面へ向ふ乘合自動車線もありて交通都市たるの面目よく整へり。工業も亦これに伴ひて發達し、その生產額は四千萬圓の多きに上る。そのうち二千七百五十萬圓はタイヤー・地下足袋・護謨靴等の護謨製品にして、製粉の三百九十萬圓紡績及び撚絲の三百二十萬圓、これに次ぎ、井上傳女の發明に係り本市の特產視せられつつある久留米絣は南筑の八女・三潴の兩郡が主產地とし、本市の產出は僅り多からずして絹織物は辛うじて六十萬圓を算ふるのみ。この外鎧胎漆器・和傘・木蠟・鰐鰐等の特產あり。此地はもと筑後河畔の一小邑にして王朝時代の變遷は詳ならず。鎌倉時代の初め草野永平、筑後の守護となり、正平年間菊池武光、征西將軍懷良親王を奉じて本州を併す。降つて群雄割據するに及び諸豪族の征服に委す。天正十五年豐臣氏九州を平定し此地を毛利秀包に與ふ。關ヶ原役後田中吉政の治下に屬す。元和七年、有馬豐氏筑後八郡二十一萬石を領し久留米城に居す。爾來十一代二百五十餘年歷世相繼ぎ明治維新に至る。明治四年廢藩後三潴縣廳所在地となり、同九年福岡縣に合し御井郡に隸す。同十一年御井・御原・山本郡役所を此處に置かる。明治二十二年市制を施行の際は、人口未だ二萬五千に達せざる地方的一小都市に過ぎざりしも、同四十年第十八師團（同師團は大正十四年廢止せられたるも、その跡へ小倉市より第十二師團が移さる）が置かれてより市勢頓に振興し、大正六年には三潴郡鳥飼村を、翌十三年には同郡國分町を順次併合し、市域も東西六・六九粁、南北六・二二粁面積二三・八四平方粁に擴大せられ、昭和九年十一月大分・久留米間を結ぶ久大線全通してより、人口も亦急に增加して九一、九一九人に達せり。男色大鑑・二「有時その方、久留米の城下蔦たづねまはらせ、濁せぬ山の流ふる雪、軸を拂ひかれたまひて、小者も同じ枕に前後なぼうじ」

〔久留米城〕 市内篠山町に址あり。天正十五年豐臣秀吉九州を鎭定するやこの地を毛利藤四郎秀包に與ふ。乃ち秀包本城を創築して二十一萬石を食む。關ヶ原の役に秀包西軍に與せしを以て家康その封を除き、田中吉政をここに移し三十二萬石を給せしも、元和六年その嗣絕え、有馬玄蕃頭豐氏これに代りて二十一萬石を食み、世襲して明治維新に至る。城域は水流山境の西に延びたる洪積層臺地の最北端に位する標高二三・二米の小丘を巧に利用せるものにて、西は筑後川に臨み北方一帶には小森野放水路の走る低地が展開し、南には堀濠を繞ちて要害頗るよく寇ら大阪城の縮圖たるの觀あり。今なほ本丸址の石垣・濠渠よく保存せらる。

縣社篠山神社はこの本丸址一帶を境域として設けられ、藩祖有馬豐氏以下を祀る。社背よりする肥筑平野の大觀は、境内の櫻花と相俟つて市民の散策地に好適す。

〔久留米絣〕 絹絣織物の一種。寛政の頃當市通町の人井上傳女の發明に係り、以後主として當市を中心にして製造されしため此名あり。經緯とも正藍または之に人造染料を加へて染めし絣絲を用ひ、織扇を防ぐため特に短く作られたる高機にて平織にす。古來春夏向の著尺物を主とし染色・地質の堅牢を以て知られしも、近來秋冬向著尺地としても相當使用されコート地・詰襟地等も製せられ全國各地に販路を有す。絣耕を主とし普通著尺物は幅九寸五分、長さ三丈一尺、重さ百八十匁前後のもの多し。現今は當市・大牟田市及び三潴・八女・三井・浮羽・朝倉・山門等諸郡の農家等にて副業として織りつつあるも、その他全國の刑務所に於て製造さるるものも亦少なからず。

〔久留米鰐鰐〕 久留米鰐鰐は古くより著はれし本市特產の觀賞植物にして、其治革は約百三十年前、久留米藩士坂本氏、實生播種法を創めて、野生鰐鰐の改良に成功せしに始まる。現今にては霧島の新花三百、皐月の新種三百を算へ、花の美の他に樹性の强力なる事其特色なり。市内にては赤司廣樂園を始めとし、松本和樂園・桑野養盛園・靖光園等にて產出し何れも植物園として開放す。年產約三十萬圓。

〔伊勢天照御祖神社〕 大石町に鎭座。縣社。祭神、天照國彥天火明命。創建年代詳かならざるも、延喜式内の舊祠なり。管内誌によれば、社號を天照御祖神と稱するは、伊勢國に鎭座す天照大御祖神を祀るの意なりと傳へたれど、社記に據れば、伊勢は石の轉訛にして此地の名なりとし、天照御祖とは物部氏の祖、饒速日命を云へるものにて諸州に其例多きを指摘せり。例祭、九月六日。

〔篠山神社〕 篠山町に鎭座。縣社。祭神、有馬豐氏・同頼永・同頼成。明治十年創建、同十三年篠山神社と號し縣社に列せらる。祭神の豐氏は烏津用頼の子にて其祖父、赤松義祐は烏津國有馬邑の地頭職たり、爾來有馬氏を稱す。頼永・頼成その跡を嗣ぎ、その德澤は蒼生に及ぶ。境内三千八百七十餘坪。社地また隍堀住居の地を占め、世に謂ゆる境内八景と稱するものは、古城老松・櫻原曉鐘・筑岡紅葉・東野春靄・江南暮雪・江南秋月・柴川煙雨・西山暮雪の八景を云ふ。

〔水天宮〕 瀬下町に鎭座。縣社。祭神、安德天皇・高倉平中宮・二位尼時子・天御中主神。創建年次詳かならざるも、社傳に從へば、往昔、建禮門院に奉仕せる宮女按察使伊勢局、平氏沒落の時この地に憑れ來り、建久の頃筑後川の邊なる鷺野原（いま鷺ヶ鼻と云ふ）の地に安德天皇・建禮門院・二位尼を鎭祀せしが、世を憚りて水天宮と稱せしに創むと云ふ。のち兵亂相踵ぎ奉遷屢次なりしが、慶安三年現地に遷して社殿を再興し、小早川秀包は畠二段を寄すと云ふ。古來當社は筑後川水神として著はれ、管内復津に至る磯寄相集ひて幣物を捧げ海上の安寧を祈れり。なほ當社を水天宮と稱するに就き、曾て故小中村清矩博士の所論あり。即ち今本宮の西陣中央に安德天皇・建禮門院・二位の尼を祀り、その左右に天御中主尊の芟魂和魂を祀ると云ひ傳へしより起れる稱呼にして、建久創建の當初、暫く世を憚りて、當時一世に盛行せられし經說の水天龍王を陽に觀請するところとなし、陰に天皇以下の尊靈を鎭祀せることを考證せられたり。水天宮の事は孔雀經陀羅尼集に見え、祈雨に靈驗あり、且つ水難を除くものとせられ、一に大元水神とも稱す。例祭、五月五日・六日・七日。五日には盛大なる神幸祭行はれ、神輿に神職・樂人・神座員・崇敬者の陪乘し、その他參列者の供奉船これに從ひ、蜘蛛六町、奏樂の音に和して筑後川を下幸する狀は昔に地方の一像觀たり。

〔素戔嗚神社〕 篠山町に鎭座。郷社。祭神、建速須佐之男命。もと松岡山祇岡社と稱す。京都八阪の祇岡を勸請したる古社にて、江戸時代には藩主有馬家累代の尊信篤く、社殿の造營、社領の寄進等のことあり。明治維新の際現社號に改稱し明治六年郷社に列す。例祭七月十七日。

〔日吉神社〕 日吉町三丁目に鎭座。郷社。祭神、大山咋命。創立年代不詳。正保四年二の丸より遷祀せられしと。藩主有馬家累代の崇敬社にて、社殿の造營、新願寄進等のことあり。明治六年社に列す。境内の稻荷神社はもと藩主有馬家の邸内にありしを明治七年本社へ合祀せらる。例祭、十一月十九日。

〔天滿神社〕 藤原町に鎭座。郷社。祭神、菅原神。古祥天。地方の古社にて江戸時代藩主有馬氏歷代の崇敬社。社領の寄進等のことあり。例祭、九月二十九日。

〔五穀神社〕 舊市街の東端にあり。享保の內作に際し農民暴動を企めたる久留米藩の國老にして義人たる稻次因幡の功勞を追慕し寛延二年創建せるもの、五穀豐穰の守護神として農民大衆の尊崇厚し。

〔明治天皇久留米大本營址〕 指定史蹟。市内京町縣立中學明善校構内にあり。明治天皇御治世中、最後の大演習たりし明治四十四年十一月擧行の陸軍特別大演習の際、同月十日より十六日まで大本營を置かれたり。建物は現校舍の東に連り、玉座間その他舊規よく存す。「大本營」の標札、御使用の素木造の卓子など保存され、庭に元帥東郷平八郎の筆に成る記念碑あり。

〔明治天皇久留米行在所址〕 指定史蹟。市内南薰西町京塚の南薰尋常小學校構内にあり。講堂の南に連なり、明治四十五年十一月陸軍特別大演習の際、同月十四日小憩所となし給ひし處なり。

〔明治天皇小森野御野立所址〕 指定史蹟。市内東櫻町小森野放水路に臨み、いま記念碑あり。即ち明治四十四年十一月の陸軍特別大演習の際御野立所となる。

〔明善堂〕 京町縣立中學明善校構内玄關前の廣場にあり。寛政八年十一月篠山町の修道館を改稱移建して開講せし當時そのまゝの講堂なり。明治十年西南ノ役には征討宮有栖川宮熾仁親王の御本營となり、軍團病院を置かれたり。

〔日輪寺古墳〕 指定史蹟。市内京町日輪寺境内正面にある丘にして、前方後圓の形圓部にあたるこの丘に石室あり。石室は平面方形をなし平板石を積みて造られし小さき穹窿石室なるも、天井及び側壁が破壞せられしため木材を以て補はれ、上部に建てられし觀音堂の内部より室内に降る事を得。四周に凝灰岩切石四枚より成る棺壁ありて、二重同心圓紋と直弧紋の一分子を以て構成せられたる紋樣を線彫して朱彩を施し、下底に薄き線泥片岩片を十數枚を敷く。内部に石枕あり玉類・刀身・護式鐵・土器等を出土す。いま墳上の一隅に巨大なる天井石に用ひられたる石材あり。

〔高山彦九郎墓〕 市内寺町の通照院境内にあり。碑の前面に「松齋以自居士」とあり、左右に「寛政五癸丑年六月二十七日」及び「生國上州新田郡細谷村高山彦九郎正之墓」と刻まる。四時香煙繚々として立ち、飾素閑雅なる靜域を占む。彦九郎は寛政三奇士の一人。志の成らざるを慨きて櫻原村森嘉善宅に於て自刄してここに葬らる。その自刄地は墓の東北約二百米、いまの東櫻原町市立商業學校の正門前にして、榊樹を植ゑ「高山彦九郎終焉地」と刻める碑あり。

〔井上傳子ノ碑〕 兩替町久留米絣同業組

合事務所の構内にあり。其墓は寺町惣雲寺内に在り。傳女は幼より機織業を好み十三歳の頃絣(久留米絣)を發明し、留米研究を重ね十五歳の頃には來り學ぶ者二十餘人に及び四十歳の頃には其數を受けて業を開く者四百人に達せりといふ。明治二年八十二歳を以て歿す。

〔西道俊墓〕 市内寺町の遍照院境内の彦九郎墓の後方にあり。石標は瓢箪形にして墓前に酒瓶多く供へらる。酒癖と劇癖に勢驍ありとして參詣者多し。道俊は長崎の儒者にして高山彦九郎と志を同うし親交あり。彦九郎の後を慕ひて此地に來りしが、既に彦九郎の自刄したるを知り己もまたその墓前に自刄せり。

〔宗要寺〕 寺町にあり。淨土宗。廣岳山玉樹院と號す。三井郡善導寺末。本尊は阿彌陀如來。もと柳川領内たりしが、寛永十四年天草騒亂の砌、有馬豐氏玉樹院に宿陣し、飢陣の後その恢復として現地に當寺を建立す。

〔願光寺〕 日吉町にあり。眞宗大谷派にして本尊阿彌陀如來。慶長年中の創建、開山は祐清法師たり。初め柳川領なりしが寛永六年庄島に移り、正保三年有馬中務大輔忠頼之を現地に移す。舊時は州内の僧錄たり。

〔澤願寺〕 寺町にあり。眞宗大谷派にして大願山と號す。本尊阿彌陀如來。永祿二年の創建、開山は了心法師たり。初め御井郡仁王丸村にありしが、慶長八年國主田中兵部大輔吉政の命にて當地本町に轉じ、元和七年更に現地に移る。

〔西揚寺〕 瀬ノ下町にあり。淨土宗にて寶樹山と號す。三井郡善導寺末。本尊阿彌陀如來。寛永年中の創建、開山は存慶和尚たり。初め京都の地にありしが火災に罹り堂宇焼失し、寛文七年現地に移りて再建し以て今日に至る。

〔西方寺〕 寺町にあり。淨土宗にして光雲山と號す。當國善導寺末。本尊阿彌陀如來。文祿年中の創建、開山は念譽上人たり。初め久留米城の外郭柳原の邊にありしが、元和七年領主有馬豐氏の命にて現地に移る。

〔日輪寺〕 京町にあり。臨濟宗妙心寺派にして海東山と號す。本尊釋迦如來。創建年代不詳。往昔久留米城の第二郭にありしを元和七年文叔和尚の時、領主有馬玄蕃頭豐氏入部の際現地に移す。因て和尚を中興開山とす。境内に觀音堂あり、同じく當城の二ノ丸にありしが文祿年中城主小早川藍四郎秀包耶蘇教徒たりしにより領内の佛閣・堂塔を破却す、時に文叔和尚觀音像を高良玉垂神社の社中に匿し、秀包の遁去後これを當寺に安置す。寛永二十年領主有馬玄蕃頭忠頼經限山の地を當寺に寄進し堂宇を再建せしめてこれを安置せるものと傳ふ。また當寺に安德天皇の御遺物と傳ふる觀音像あり、凡そ五十餘年前當市瀬下町鶏善助に讓渡せられしが、大正五年再び當寺に納め入佛式を行はる。なほ當寺に安德天皇の御陵と傳ふる古墳あり。

〔宗妙寺〕 京町にあり。日蓮正宗。廣布山と號す。駿州富士大石寺末。開山は本寺五十二世日當上人たり。初め自山村にありて當妙庵と號せしが、明治十五年現地に移建し、同十七年寺號公稱の認可を得。いま本宗第十教區宗務支院たり。

〔梅林寺〕 京町にあり。臨濟宗妙心寺派。江南山と號す。湘山の開創に係り、開山は禹門なりといふ。城主有馬豐氏寺領百五十石を附して其菩提所となす。のち二百石に加增す。明治十五年、境内に三十三所觀音を安置し、次で梅林學堂を設けて雲水を提撕す。現に當派別格寺として雲巖寺以下多くの末寺を有す。寺境幽邃にして梅花を以て著聞す。堂宇宏莊を極め、寺寶中、絹本着色釋迦三尊像一幅は截金文様を用ひし鎌倉末期の作にして國寶たり。

〔遍照院〕 寺町にあり。眞言宗大覺寺派。光明山と號す。貞觀十七年の創建、開山は眞應上人たり。往時は祇園寺と號して別地にありしが天正年中快空法印これを現地に移して堂宇を再建す。因つて法印を中興開山と稱す。元和七年有馬玄蕃頭豐氏寺田若干を附して其祈願所とす。明治四年廢藩置縣の際、祇園寺は寺號を廢して神社となりし故、更に本尊を來安して玄に遍照院と稱し以て法統を連續せしむ。境内に高山彦九郎の墓あり。

〔法雲寺〕 庄島町にあり。眞宗大谷派。磐谷山と號す。本尊は阿彌陀如來。元和七年の創建、開基は有馬豐氏、開山は順正法師(禁裡北面の武士大屋主膳正藤原光次の男)たり。初め龜谷町にありしが寛永十五年現地に移る。

〔無量寺〕 本町にあり。淨土宗。寛永三年來譽萬哲の開創と傳ふ。寺寶木造阿彌陀如來立像一軀は寺傳に運慶作と云へど藤原末期の作と推せられ現に國寶たり。

〔妙正寺〕 寺町にあり。日蓮宗。莊嚴山と號す。創建年代不詳。初め丹後國福知山にありしが、元和六年日舜上人、有馬玄蕃頭豐氏に隨ひて當地に來り、若干の地を賜ひて堂宇を創建す。因つて上人を開山とす。いま末寺四箇寺を統ぶ。

クルモト　栗本(郡)　近江國(滋賀縣)栗太郡の別稱。和名抄は栗本・栗太兩様に用ひらる。即ち書紀雄略紀に栗太郡と見ゆるは後の記入と見るべきも、天智天皇の三年紀、續日本後紀嘉祥二年紀、三代實錄貞觀五年紀には共に栗太郡と見ゆ。然るに同書貞觀十七年紀に至れば栗本郡に作り、和名抄もまたこれに據るも高山寺本は栗太に作る。關後栗太に作りてクリモトと訓み、拾芥抄も亦これに據る。※栗太郡

クルリ　久留里　【久留里町】千葉縣上總國君津郡の東部。小櫃川の上流地にて、北は小櫃村、南は

松丘村に接し、東は市原郡里見村・白鳥村に隣りす。面積約三二・六平方粁、東部南北に百米乃至百五十米程度の山地あり、小櫃川その間を北流し兩岸に小低地をつくる。山林廣く田畑これに亟ぎて拓け、農産に米・繭・雞卵、林産に木炭・木材、工産に清酒・醬油・生絲等を出す。また麦粉子を特産し、附近よりは山砂利を産出す。省線久留里線南北に走り、大字市場に久留里驛(大正元年設置)を設け、また北は姉崎町(市原郡)、西北は木更津町、西は佐貫町方面へバスを通じ交通便利なり。〔久留里城〕大字久留里に城址あり。地勢山丘をなし東南遠く清澄山の支脈より連亘し此處に至りて隆起す。本丸・二ノ丸及び彌陀・波多野・御子・藥師・久留里・鶴・天神の七郭、煙硝蔵・三曲輪等の規畫を存す。また三ノ丸内交代・外交代・大鼓櫓・曲尺手・御佛殿・中土手等の址あり。其西に接して大手内・猫手・糧蔵前等あり、また北部に御蔵・御作事・代官小路・戸張小路・會所・戸張廣小路等あり、みな城郭の地なり。里傳によれば本城は往昔、千葉胤種の築く所にして其族之を守る。のち田原秀國之に居る。其子秀光、近江に移るに及び、武田遠江守に屬し、其孫貞勝に至りて本城を里見氏に移す、時に天明三年なり。義堯・義弘の二世本城に居り殷二國を治む。天正十八年八月、大須賀忠正これに移り、三萬石を領す。忠正、慶長四年、出羽守に任ぜられ、同六年、遠江國橫須賀城に轉じ、五萬五千石となる。同七年土屋忠直これに代る。

〔久留里藩〕 土屋氏數代・ここに居りしも一旦廢城、延寶八年酒井忠挙これを領し、宣保二年以後黒田直純下野國沼田城より封ぜられて三萬石を食み、子孫世襲して明治維新に至る。明治二年直愛の時、版籍を奉還し久留里藩知事となり、居城を落城となす。明治四年藩を廢し縣を置きしも久しからずして本更津縣に入る。明治五年千葉縣に移管、明治二十二年町制を布き以て今日に至る。舊藩立學校、三近塾は寛保二年黒田直純の創立に係る。

〔久留里神社〕 大字浦田に鎮座。郷社。祭神 天御中主命。創立年代不詳。後一條天皇治安元年久留里大權の城主上總介忠常の勸請と傳ふ。もと妙見社と稱す。延久三年源頼朝、千葉胤鳳に命じて、もと久留里細田にありしを現地に社殿を再建せしめ、文覺の弟子頼忠上人を別當たらしめしと云ふ。舊地いまに遺跡あり。爾後武田氏・里見氏・大須賀氏・酒井氏等の領主藩主相次いで祈願を能め、就中寛保二年黒田氏藩主として入部するや久留里城の守護神とす。また近郷の産土神と仰がる。例祭、七月二十二日。〔圓覺寺〕宇橋戸澤にあり、曹洞宗。千光山と號す。慶長九年正月久留里城主土屋忠直開基、僧文光を延きて開山とし、寺領五十石を寄せ以て香華院と爲す。文光、勤藩佛光善照禪師寂西文光大和尚と號し、忠直の叔父なり。土屋氏領地を收めらるるに及び寺領を失ふ。のち黒田直純久留里城主となりて五十石を寄す。寺寶に古珠數一連・古茶碗一個を藏す。珠數は武田信玄の有、茶碗は徳川家康の所用にてみな忠直の納むる所と傳ふ。同寺境外山麓に土屋忠直の墓あり。〔圓如寺〕宇弘野臺にあり、眞言宗。山王山藥王院と號す。創建不詳。寺傳にもと箕輪村に入定寺と號する天台宗の寺ありと。本寺はその末寺なり。里見義堯久留里城主たりし時入定寺座主天海竊に領田蒋鑑と謀り小田原北條氏の兵か寺内に潜匿せしめ里見義堯を襲撃せんとす。事露はれ義堯大に怒り入定寺か開み火を放ち北條氏の兵を惨殺し天海を捕へ重科に處す。本寺も亦悉く連坐せらる。時に本寺掘り其事に與らず廢滅せざるを得。後、現宗に改む。里見義鎮寺領若干か寄す。寺宇、初め山王祠にあり、元龜二年今の地に遷すと。寛保二年、黒田直純久留里城に居り、爾後黒田氏の祈願所となる。廢藩後、城中に置く所の靈牌を本寺に移し頗る賽客あり。

〔金剛寺〕宇西根に在り。眞言宗。大日山と號す。山腹に大日堂あり。緣起に本尊は天平中僧行基の彫刻せるものにし、初め鎌倉比企谷に安置し、天仁二年己丑今の地に移すと傳ふ。此地砦嶮三面の一大池水を繞らし鬱陰の長橋を架す。風景最も佳にして賽客多し。里見義堯堤崇か放ち池水か流出せしめ毒蛇か發て之か殺す。初め村名日出と稱す、毒蛇を獲てより後、池水涸渇し半ば新田となる。因て泥濘田村と稱せられしも、後、今の字となるといふ。蛇骨一片今なほ存す。

〔正源寺〕宇仲町にあり。浄土宗。瓢徳山東陽院と號す。寺傳に德治二年遊行僧心教創建す、當時は時宗たり。天文十五年、里見義堯其母の爲に菩提寺となし、その法號を取りて正源寺と號し、僧行譽を延きて中興開山となし、現宗に改め寺領二百石を寄すと。境内觀音堂あり、義堯の守護佛なりと傳ふ。義堯久留里城に居り、小田原北條氏の軍來り攻めし時、義堯夢に觀音加勢すべしと告ぐ、果して大捷を得たり。是に於て加勢觀音と稱し堂宇を造り之を安置す。慶安元年戊子八月徳川家光寺領二十石を寄せたりしも、維新の後歎めらる。もと堂宇廣大なりしも漸次衰頽、近年更に一小堂宇を改築せり。

〔貞勝寺〕大字市場町(安住原)にあり。曹洞宗。久留里山と號す。天文九年勝貞勝の創建、開山は雄山和尚たり。いま末寺十餘寺を統ぶ。境内廣闊にて老松鬱蒼、堂宇壮麗。寺の東南に小山あり、上の城と稱す。これ貞勝の居址にしていまの寺門は貞勝の城門なりといふ。

【久留里線】省線總武線の一部。千葉縣君津郡にあり。房總西線木更津驛(木更津町)より分れ、久留里驛を經て上總亀山驛(亀山村)に至る。全長三二・二粁。こ

の線は將來房總半島を横斷して房總東線に接續するもの。

クルワヨスジ　廓四筋　大阪新町遊廓をいふ。新町は四筋の町より成り、東西に通ずる通り筋を瓢箪町、その北の筋を佐渡屋町、瓢箪町の南の筋を佐渡島町（越後町ともいふ）、その南を吉原町といふ。女殺油地獄・下「曲輪四筋は四季共に、散る事知らぬ花揃ひ。

クレ　久禮町　高知縣土佐國高岡郡の東岸。東北は須崎町と新荘村を挾み、北は上分村、西は大野見村、南は仁井田村・東又村・上ノ加江町に隣り、東は土佐灣に面しその南部に久禮の支灣を擁す。面積五六・八平方粁あるも大部分は山地にして、久禮灣に沿ふ海岸と中部を東南流する川筋に小低地ありて耕地拓く。全戸數の約三〇%は農業に從ひ、その他は漁業・工業・商業にほぼ同數の約三百戸前後の從業戸數あり。水產物（魚類）・林產物（木炭）を主產物とし、米・麥・蔬菜をも出す。須崎町より來る縣道は中坂峠・七ツ子峠（一九八米）を越えて南方に向ひ中村町・宿毛町（共に幡多郡）方面に通じバスの便あり。もと本町は郷分・浦分に分れしも明治十一年合して久禮村と稱し同三十四年町制を布く。この地は常陸國佐竹氏の末流なる佐竹氏の據りし所にして、城山字上ノ城に久禮城あり。佐竹義直の墓は字長澤谷にあり。義直は掃部少輔義之の嫡子、義之は永正十四年戸波五良右衛門に津野元實と戰ひ敗いで半山城を攻め武勇略ありしが元龜二年長曾我部元親に降り、元親に屬してより四國攻伐に際し各所の戰闘に參加せしが天正九年歿す。墓は高さ一米弱の五輪塔なるも山の陰地にて樹林茂り青苔碑面を蔽ひ蒼然たり。義直の男義義の子は大阪陣の時、豫（長曾我部元親女）と共に伊達政宗に伴ぜられ、仙臺に送られ、のち彼の有名なる仙臺騷動の忠臣柴田外記朝意となり、子孫仙臺に現存すといふ。（久禮城）城山字上ノ城にあり。常陸國佐竹氏の末流綱倉時代入國しここに據る。城山は上ノ城・中ノ城・下ノ城の三部に分れ、上ノ城は中ノ城より稍西方に離れ地勢最も高し。中ノ城はいま久禮小學校のある所、下ノ城は市街の西方にあり。上ノ城の頂上に佐竹氏を祀る小祠あり、所々壍濠の跡存す。南北朝の頃は津野氏等と共に武家方に與し各所の戰に參加し、戰國の頃は幡多郡一條氏に屬し高岡郡南部の重鎮となる。時に玄番頭義辰、その孫信濃守義直等名著る。高野山小田原谷窪之坊過去帳に「夫佐竹姓者、六孫王之苗裔、多田新發滿仲之遺孫、常陸國住人吕義、屬二條高倉宮、傳召於後代、遺聖於萬世、蓋其末葉、留土州高岡郡久禮浦、而構兵於所々、治亂於邑里、令下民人得安堵云々」（八幡宮）祭祀。祭神、應仁天皇・比賣大神・神功皇后・仁德天皇。單に龜山神社とも云ふ。吳市の總鎭守。後冷泉天皇治暦元年八月山城國男山より勸請す。後醍醐天皇元弘年中櫻山丞俊再興せしも後、兵燹に罹り、後柏原天皇永正年中當地久鬼の城主馬屋原正國社殿を造營し、のち後光明天皇承應二年、當國福山城主水野勝種、東山天皇元祿十六年豐前國中津城主奥平大夫等また之を造營す。現今のもの卽ち是なり。神體は木像及び鏡とす。明治十年九月郷社に列す。寶物には嵯峨御筆・刀一口・調製鉾三本を藏す。社殿は本殿・拜殿・社務所・隨身門を具備し、境內地二九二八坪。社域はもと田圃間に屹立する小山の上にあり、山形龜に似たり、これ龜山の名の起る所以なり。往昔平清盛、普戸の瀨戸を切り開く際屋々此處に參詣し大願成就を祈りしといふ。十月十七日の例祭には神輿の渡御あり、その前夜の宵祭は非常に賑ふ。境內に鎭遠號廻航記念碑・赤城戰死者記念碑等あり、軍港の展望よし。（吳鎭守府）吳市塔ヶ丘にあり。第二海軍區の鎭守府。明治十六年測量、翌十七年有栖川宮威仁親王殿下の御臨幸の事あり、此地を決定、明治十九年起工、五ヶ年を要し明治二十三年四月竣工、同月二十一日明治天皇御親臨のもとに開廠式を擧ぐ。主なる建物は鎭守府司令部・海兵團・倉庫・兵器庫・船渠等。軍港を一望のうちに收め得る場所にて、構內の翠巒滴たる樹木の下は座一本も認めぬまで掃き淨められ、親豐者に淸澄なる氣を與ふ。吳鎭より約一粁。（吳海軍工廠）市の南部、吳灣の東部一帶の地を占むる大工場。昭和七年末の現在職工數二萬三千人、總務・砲熕・水雷・電氣・造船・造機・製鋼・潛水艦・砲熕實驗・魚雷實驗・電氣實驗・醫務の十三部より成る。製鋼部は海軍工廠中唯一にて、砲熕部・水雷部の規模も他に比なく、我が國內建造軍艦の防禦用甲板の全部、大砲諸に彈丸・魚雷の大部はこゝより供給さる。最近建造の軍艦に長門・赤城・鳳翔あり。工廠は軍艦と共に一般親豐者の見學を許す。（吳海兵團）吳鎭守府に屬する建物の一。海兵の家庭とも云ふべき所にて、海軍に入る者は先づ此處に於て五ヶ月の基礎教育を受け、退團に際してはまた公民教育或は職業指導を受く。職掌は軍港警備・防禦・兵員の補充・新兵教育等にて、地方人とも極めて親故深く、軍港親豐者には團內を解放し或は案內說明等種々の便宜を與ふ。團內に練習用砲臺・各種教育參考品等海兵教育の諸施設の外、軍樂隊練習所・大プールあり。吳鎭より〇・九粁。（鯛の宮の記念碑）市內莊山田字三津田の鯛の宮境內にあり。第六號潛水艇遭難記念碑にて明治四十四年の建設、高さ約二〇米、直徑上部三米餘、下部五米餘の白堊の圓塔なり。第六號潛水艇は明治四十三年四月周防新湊沖にて沈潛作業中のまゝ遂に浮ばず、佐久間艇長以下悲壯の最期を遂ぐ。その死に臨み從容自若萬策を盡し、その遺書は千古不磨の文字を以て綴らる。

【吳線】　省線山陽線の一部。廣島縣吳市附近に通ず。山陽本線三原驛三原市より分れ瀨戸內海岸に沿うて走り賀茂郡竹原町・吳市等を經、安藝郡海田市町の海田市驛にて山陽本線に接續す。全長八七・〇粁。この線は吳軍港に通ずる重要なる

生產額		昭和九年	昭和元年	明治三十五年
農產	米	四八四、八〇〇	二四五、三四三	一八八、八〇三
畜產	頭	七六、七八	七三、七八〇	七二、八四〇
水產	貫	三四八、八四八	七三、七八〇	七二、八四〇
鑛產	〃	三一、四一〇	二三、六〇〇	—
林產	〃	四、六四八	—	—
工產	圓	一三、五二一、三一〇	九、〇四七、五〇八	一四、九六四
計	圓	二五、一八五、八五〇	一〇、三五八、一三八	三一五、八八〇

來し農業は衰微の一途を辿りしが昭和三年隣接町村を合併せるより耕地面積また增加し田三五〇町歩餘、畑五二〇町歩となり、甘藷（一二萬圓餘）・蔬菜（一二萬圓）米（約九萬圓）・麥・果實等を主要產物とす。（工業）近年の發達にかかるも逐年發展を加へ、酒類（二八三萬圓）・金ペン（一二八萬圓）・萬年筆（一二〇萬圓）等を主としコークス・金屬製品・菓子類・洋服等これに次ぎ、工產總額一三五〇萬圓を超え、市の生產總額の八八%以上に達す。商業。大軍港地として、また藝南最大の都會として偉大なる消費力を有し、物資の移動頗る活潑にして、移入總額は七八四〇萬圓に近く、移出は一四〇〇萬圓に亞んとす（昭和十年）。而して、移入貨物は米（朝鮮米）の二〇一〇萬圓を筆頭に、鮮魚介・材木・石炭・綿織物・砂糖・綿糸・鐵類・コークス・果物・薪炭・機械・雜穀類等各品いづれも一〇〇萬圓を超え また移出重要貨物に清酒・綿糸・萬年筆・金ペン・機械・米・鐵類其他を數ふ。交通。省線吳線は昭和十一年完成全通し、市の中部に吳驛、西北部に吉浦驛（以上二驛は明治三十六年設置）、東部に阿賀驛（昭和十年設置）を設け、東は三原市に於て、北は海田市町に於て山陽本線に連絡し、また東隣廣村へは大國道を、北隣昭和村より熊野町・海田市町を經て廣島市に通ずる高地部道路の改修成り、汽車・自動車による陸上交通は便利となり、海運も吉浦・阿賀及び川原石の諸港により阪神・九州・四國方面の諸港をはじめ遠くは滿鮮・臺灣地方との直取引も行はれ大貨物船の出入次第に多し。市內には吳鎭守府・吳海軍工廠・吳海兵團・吳防備隊・吳海軍々需部等海軍關係の官衙・工廠・營舍等をはじめ男女の各種中等學校・銀行會社工場等多し。（龜山八幡神社）八幡通三丁目の丘陵上に鎭座。郷社。祭神仲哀天皇・應神天皇・宇治稚郎子・神功皇后・仁德天皇。單に龜山神社とも云ふ。吳市の總鎭守。後冷泉天皇治暦元年八月山城國男山より勸請す。後醍醐天皇元弘年中櫻山丞俊再興せしも後、兵燹に罹り、後柏原天皇永正年中當地久鬼の城主馬屋原正國社殿を造營し、のち後光明天皇承應二年、當國福山城主水野勝種、東山天皇元祿十六年豐前國中津城主奥平大夫等また之を造營す。現今のもの卽ち是なり。神體は木像及び鏡とす。明治十年九月郷

鐵道にして東京・下關間の直通急行列車の一部がこの線を經由す。吉浦驛（呉市吉浦町）にては石崎汽船及び尼崎汽船航路に接續す。

【呉鐵道】 廣島縣呉市の省線呉線にある鐵道。吉浦驛と呉驛（共に呉市境内）との間。全長二五八二米。

クレ　伎人

【伎人堤】 往昔攝津國（大阪府）住吉郡呉にありし堤。呉はまた伎人に作り何内國と境を接するを以て萬葉集・二〇には河内國伎人郷とあり。續紀天平勝寶二年には大雨の爲めに此堤決潰せし記事あり、三代實錄貞觀四年には此堤に就き攝津・河内の爭を斯析せしこと見ゆ。其地今、大阪市住吉區寺連町の邊に當る。喜連は呉の轉訛なりと云ふ。

【伎人郷】 前條を見よ。

クレコ　久連子村　熊本縣肥後國八代郡の東南部。謂はゆる五家莊の南部にて東は椎木村、北は椎原村に接し東南は球磨郡水上村、南西は同五木村に隣る。面積二〇平方粁餘、北境には上福根山（一六四五米）、南界には石楠蕗（一三九一米）等あり、村の大部分は高距一千米以上の山地をなしただ西北部の溪間に小低地あるのみ。主産物に稗・小豆・玉蜀黍・甘藷・馬鈴薯、特産物に茶・山葵・椎茸等あり。東南隣水上村、西南方柿迫村へ山道を通ずるも交通なほ不便なり。中世、附近の諸村と共に五家莊と稱せらる。いま椎木・椎原・栗木・仁田尾・柿迫・栗木の諸村と組合村をなし、役場を柿迫村に置く。※五家莊

クレサキ　呉崎村　大分縣豐後國西國東郡の西部。東は草地村に、西南は高田町に接し、西一帶は周防洋に面し、煙波縹渺の海水を隔てて遙に山陽及び豐筑の遠山を望む。もと海面の塩地にして平坦甚整の如く、高田町大字玉津・入津原・中伏・志手の諸丘阜南に遍り、草地村字鑑石・芝塲の洪積層は東に延出し、以て本村の後背を擁出し、其間小溪細流の注ぐものあり。桂川西方高田町を流れ稍々舟泊の便を與へ、廣瀬川草地村より西下して本村の中央を貫流し北神・中新開の境域を分ち、石部川高田町大字美和より發し、北流本村に入り石部・中新開の境域を割し以て海に朝す。畑地最も多く田地これに次ぐ。また僅少の鹽田拓く。もと此地沙泥一帶の積層ありて地卑濕にして沼澤遠く連り、蘆荻盧荻雄然として鬱茂し頗る荒凉を極めたりしが、文政三年目田代官鹽谷大四郎の指揮にて海岸に三千餘間の堤防を築きて本村生ず。而してもと呉崎新田と稱せしが、明治二十二年町村制施行の際呉崎村と稱す。

クレシマ　呉島　阿波國（德島縣）の古地名。和名抄麻植郡に呉島郷あり。久禮之萬と訓す。伊勢に呉部郷あり、蓋し忌部氏の率ゐたる呉部の居りし所なるべし。中世麻植保と稱す。保名は文治二年の記文に見え平康頼その保司職たり。建久二年の文書には麻植御領と呼び後白河院長講堂領と見ゆ。其のち建武三年・應永十四年の文書には麻植莊と記す。其地今の麻植郡鴨島町・牛島村・西尾村の邊なるべく、牛島村の大字麻植塚、西尾村の大字西麻植は、共に保名の遺稱なるべし。東鑑に「文治二年閏七月廿二日。前廷尉平朝臣康頼法師。宿ㇾ恩澤ニ可ㇾ爲ニ阿波國麻植保保司ㇾ（元平氏家人散位）。之旨所ㇾ被ㇾ仰也。故左典厩（義朝）墳墓在ニ尾張國野間庄ニ。無ㇾ人ㇾ子奉訪ニ沒後ニ只剃髮之所ㇾ掩也。而此康頼仮中赴ニ其國ニ時。寄ニ附水田三十町ニ建ニ小堂ニ令ニ六日僧修ニ不斷念佛ニ云云。仍爲ㇾ被ㇾ酬ニ件功ニ如ㇾ件云云」

クレセ　呉妹村　岡山縣備中國吉備郡の西南部。倉敷市の西北方約一二粁、小田川中流に跨り、東は笹田村、南は穂井田村、北は新本村に隣り、西は小田郡矢掛町との間に三谷村を隔つ。面積約一二平方粁。北西南の三方には三百米内外の山地ありて山林多く、小田川中部を東流してその南北兩岸には低地ありて田畑拓く。農産に米・麥・粟あり、また養蠶行はれて繭を出す。國道（中國街道）小田川北岸低地を東西に通じバスの便あり。此地古くは和名抄、下道郡呉妹郷の地。郷名は諸本に呉妹に作り高山寺本また呉妹となす。卽ち呉人の工女の居りし所なるべしか。村名は蓋しこの遺稱なるべし。また正平六年上杉朝定が高師泰と戰ひたる備中勢山は妹山に當り、此地なりと。

【穴門山神社】 大字妹にあり。郷社。祭神、穴門武姫命。創建年代詳かならず。備中志に「古へより祭神詳ならず。年舊し祠有りしを、櫻町天皇の寛保三年の春社殿を再興ぜむとし、土人この地を開きしに一の神鏡を掘出せり、その形六角にして徑三寸、裏に蜻蛉の形を鑄たり、年久しく土中に埋れたればその形狀鮮ならず、これより祭日を定め穴門山赤禰宮と稱しむ（彼鏡は子細有て岡田侯の官庫に納め、毎年祭禮の節此宮に移せり）神明帳に記せる下道郡穴門山神社と有るは、今川上郡高山村に屬せり、川上郡は後に割きしにて、もと下道郡といひたれば也」と見え、社號は後鏡世紀に「五十四年丁丑、遷ニ吉備名方濱宮ニ四年奉齋」といへるに基ける由。明治六年郷社に列す。殿宇に本殿・拜殿を具へ、例祭を九月二十四日とす。

クレタ　久禮田村　高知縣土佐國長岡郡の南部。高知市を距る東北約一二粁、阿波街道に沿ひ南は國府村・長岡村に、北は瓶岩村に隣る。面積六・三平方粁に近く、東北部と西北部に高度二—三百米の山地ある外は殆んど平坦にして國分川は西部を東南に、その支流は南部を西方に流れ田畑發達す。農産は米を第一とし藺・麥を出し、製絲・製紙の工業行はれ生絲・紙等を産す。山田町（香美郡）・後免町・高知市方面へは交通不便ならず。此地古くは和名抄、長岡郡麻田郷の地。大字植田はその遺稱なるべし。また大字領石附近に凝灰的なる含化石層は標式的なるものにして領石統と稱され下部白堊系に屬す。主として礫岩・砂岩・頁岩より成る層層にて半硬半淡の貝殼及び多數の植物化石を含有す。〔植田神社〕大字植田に鎮座。郷社。祭神、阿蹉鄙高日子根神。創建年代詳かならざれど、延喜の制に式内小社に列し、當國二十一座の一たり。貞觀八年五月、從五位下より從五位上に陞叙せられしこと三代實錄に見ゆ。延喜三年十一月、貞享元年九月、元祿七年十一月、同十四年十一月の棟札には高賀茂大明神とあり。寛保三年三月再興の棟札には植田神社とあり。古來當村の產土神として聞え、明治元年現社號を以て公稱し、同五年郷社に列す。例祭、二月一日・十月二十一日。

クレハ　呉服里　攝津國の古地名。應神天皇の朝、呉國より渡來せる織工呉織・漢織の住みし處。地はいま豐能郡池田町に當るといふ。町内にある伊居多神社・呉座神社は是等織工に緣由ある社。書紀・呉服神社は是等織工に緣由ある社。書紀「道もすがらなる難波湯行方の浦も名を得たる呉服里につきにけり」

クレハラ　呉原　大和國（奈良縣）高市郡の古地名。雄略天皇の十四年に來朝せし呉國使並に織工・縫工等を檜隈野に置く、よりて此地を呉原と名づくとあり。檜隈はまた檜前に作り和名抄高市郡檜前郷の地。いま飯合村大字栗原をこれに擬定す。

クレフシ　埔時臥山　常陸國（茨城縣）那珂郡の古山名。風土記に名稱見ゆ。往昔努賀比咩の生みし神の子の居りし山にて、一に補時臥山にも作る。同書に茨城里の北方の高丘とあり。茨城里はいま西茨城郡大原村ならんといへば埔時臥山は同村の北方の高峰（一八四米）を稱せしものならんか。

クレベ　呉部　伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄に壹志郡呉部郷あり、久禮信と訓す。いまの一志郡豊村の邊ならんと云ふも詳ならず。

クレムラノサシ　久禮牟羅城　書紀繼體紀の數城の一。城は伊那の地にありしものなるべけれど、其址何處なるか詳ならず。

クレムレ　久禮山　書紀欽明天皇の五年に見ゆる要塞地。此塞は五城ありしものの如く、地は任那國内なるべけれど其所在詳かならず。

クロ　玄岳　富士火山脈の一峯。熱海温泉の南西嶺。靜岡縣熱海市・函南村・重山村の境界に峙つ。標高七九九米。主稜線は南北に走り、北稜は十國峠最高點（七七四米）に續き、南稜は山伏峠（五〇二米）に連る。東海道線は十國峠との中間を有名なる丹那トンネルを穿ちて通過す。山の東面は急峻なれども西側は緩徐なる草原なり。山頂よりの眺望美しく、東方洋々たる相模灘に浮ぶ青螺初島を下瞰し、麓下に熱海温泉の湯煙を望む。女流歌人最初の犠牲者たる朴敬元孃の遭難せしはこの山なり。山中に池あり、故にこの山を池の山とも云ふ。池中より鯉・鮒を產す。

クロ　黑

【黑岳】 北海道大雪山彙の一峯。上川支廳上川郡上川村に峙つ。標高一九八四米。西稜は凌雲岳（二一三一米）・比布岳（二一九一米）・北鎮岳（二二四六米）に續き、南方には石狩川の上支赤谷川を距てて烏帽子岳・赤岳（二二〇七八米）・白雲岳（二二三〇米）對峙す。山中には椴松・蝦夷松の原生林茂り、山頂部にはダケナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ・ハクサンイチゲ等の高山植物繁茂す。北麓は石狩川上流の流域にして所謂層雲峡の勝地として知られ、その左岸に層雲峡温泉、その右岸に地獄谷湯の涌出あり。頂上に近き大斜面には白雪點在し、雄大なるスキーゲレンデをなし、スキー登山に興趣深し。大正十三年に頂上より南西方約一二〇餘米下の地點に黑岳小屋設けられ、登山に便利となれり。登山は多く層雲峡温泉より行はれ、七粁餘、約六時間行程なり。大雪山への入口をなし、登山者渉からず。いま大雪山國立公園の北端部に屬す。※大雪山

【黑岳】 千島火山脈に屬する一峯。千島列島北東部の一島捨子古丹島の北東に端峙つ。標高約九三四米。この山の南西方に赤岳（約八九九米）續く。二峯は共に、北方に開く爆裂火口を有する立體火山火口壁上に噴出せるものにして、いづれも鐘狀丘なり。この山の頂上よりは硫氣を噴出す。東麓は大崎、また北麓は赤崎をなす。※捨子古丹島

【黑崎】 宮城縣牡鹿郡鮎川村鮎川港の岬角。牡鹿半島の南端。東部は金華山瀬戸を距てて金華山に相對し、西部は網地島を望む。北部は山岳重疊して平地極めて乏しく、西北には捕鯨の根據地鮎川港あり。沿海は四時風波荒く沿海交通の要路なるを以て、ここに縣立の黑埼燈臺（昭和四年設置）を置く。燈質は明暗白光、光達距離九・五浬。

【黑岳】 日本北アルプス後立山山脈南端部に於ける西方一支脈黑岳山塊の盟主。黑部川源流地の東方に聳立し源流地の雄偉なる風趣を形成するに役立つ。富山縣上新川郡大山村に屬し、標高二九七八米。山體は山名の示す如く黑色の岩石より成る。また水晶を出すため西方大山村有峰方面にては水晶山とも呼ばる。山頂は二峯に分れ、岩間に草本帶の山草美しく點綴す。四方の高岳互峯の展望に優れ、又黑部川源流地附近の下瞰は興味深し。北稜は赤牛岳（二八六四米）に續き、東方は黑部川の上支東澤谷の水源地カ瞰てて野口五郎岳（二九二四・三米）に對し、南稜

は三ッ岳(二八四五米)・野口五郎岳(二九二四・三米)と鷲羽岳(二九二四・二米)・三俣蓮華岳(二八四一・二米)を結ぶ主脈と短く連る。南西方には祖父岳(二八二一米)聳立し、西方は黒部川の上支岩苔小谷澤の彼方に雲ノ平(奥ノ平)を見降す。雲ノ平の西方黒部川水源地を距てて北ノ俣岳(二六六一・二米)黒部五郎岳(二八三九・六米)對峙す。頂上には主脈縦走路より分岐する路を安易に行きて至る。

【黒岳】 關東山脈御坂山塊の主峯。故に御坂黒岳とも云ふ。甲府市の南東方約二十粁、山梨縣東八代郡黒駒村・上芦川村と南都留郡河口村・大石村の四村境界に峙つ。標高一七九二米。東稜は御坂峠最高點(一五二五米)に續き、西稜は大石峠最高點に連り、北西方は釋迦ヶ岳對峙す。南方は河口湖の彼岸に富士山を仰望す。この山は曾ては針葉樹・闊葉樹繁茂せしが、近時は荒らされて昔日の面影なく、山の深みを失ふに至れり。

【黒岳】 富士火山脈愛鷹山彙北端部の一峯。故に愛鷹黒岳とも云ふ。御殿場町の南西方約十二粁、靜岡縣駿東郡須山村に峙つ。標高一〇八七米。南西稜には越前岳(一五〇五米)連り、北西方には富士山を仰望す。北方山麓は即ち富士の裾野に連り、この裾合を東方御殿場町と西方富士郡大宮町を結ぶ道路通ず。山名は黒木に掩はるるが故に出づ。されど近時は伐出せられ、昔日の錦を失ひしが、尚ウラジロモミ・スギ等の巨木多し。

【黒崎】 京都府與謝郡にある岬。宮津町の東北方栗田半島の尖端。宮津灣の東角をなし、灣内には天橋立の名勝及び宮津港あり。

【黒島】 和歌山縣紀伊國日高郡衣奈村の海上約一粁にある小島。十九島に隣り共に衣奈村に屬す。周圍約三粁餘。島の東南に船を容るべき洞窟あり、深約一二〇米、窟奥に佛石又はチョホ石と呼ぶ二米餘の巖立ち、形狀人の長揖せるが如し。

【黒島】 島根縣八束郡にある多島中の一。片江村に屬す。出雲風土記島根郡の條に見ゆ。出雲風土記・島根郡「赤島、生海藻、宇氣島、生海藻、黒島、生海藻」

【黒島】 出雲風土記島根郡の條に見ゆる島。風土記に「方結濱、廣一里八十步、勝間埼、有二窟、鳩島、周一百廿步、高一十丈、烏島、周八十二步、高一十五丈。黒島、生紫菜海藻」とあり、方結は島根縣八束郡片江村の地なれば片江村の西北海岸にある島なるべし。

【黒島】 出雲風土記嶋根郡の條に見ゆる島。風土記に「川來門大濱、廣一里一百步、有百姓之家、黒島、有海藻」とあり、川來門大濱は島根縣八束郡加賀村の海濱なれば此の海岸にある島なるべし。

【黒島】 出雲風土記嶋根郡の條に見ゆる島。その所在詳かならざるも風土記に「久毛等浦、廣一百步自東行西、十船可泊、黒島、生海藻」とあり、久毛等浦は島根縣八束郡美保關町の北、大海に面せる海濱、雲津浦のことなれば此の島も美保關町及び片江村の北にある島なるべし。

【黒島】 出雲風土記島根郡の條に見ゆる島。今その所在詳かならざるも風土記に千酌濱・加志島・赤島・葦浦濱・笠石とあり、その次に「黒島、生紫菜・海藻」とあれば島根縣八束郡千酌村の北部海岸にある島なるべし。

【黒島】 出雲風土記嶋根郡の條に見ゆる島。今の島根縣八束郡加賀村の海邊にある島なるべし。風土記「黒島、生紫菜・海藻」

【黒山】 礦鑢山とも云ふ。島根縣飯石郡東須佐村の北西方に峙ち、西斜面は西須佐村に延ぶ。標高五二五米。山體輝石安山岩より成る。北東稜に王院山(五五四米)起る。

【黒島】 出雲風土記出雲郡の條に見ゆる島。風土記に「意能保濱、廣一十八步、粟島、生海藻、黒島、生海藻」とあり、蓋し意能保濱は島根縣簸川郡大社町の大字杵築西の海濱なるべく、よつて黒島も此の附近にありし島なるべし。

【黒島】 出雲風土記出雲郡の條に見ゆる島。風土記に「鷺濱、廣二百步、黒島、生紫菜」とあり、鷺濱は鷺浦にして、いま鵜峠浦と合し鵜鷺村と改めたれば、今の島根縣簸川郡鵜鷺村の海岸にある島なるべし。

【黒島】 愛媛縣西宇和郡にある島。八幡濱市の東方約三粁、宇和海の東北隅に浮ぶ。東西約一粁、西に鳥島あり、南方は佐島を經て大島を望む。

【黒島】 長崎縣南松浦郡にある島。富江村に屬す。富江灣の灣口にあり、東は蕎に赤島・大板部島・小板部島・黄島等を望み、西は富江村に對す。東西約一・五粁、南北約一粁、島内概ね丘陵にて草原をなし、北にカレホコ鼻、南はビシャゴ鼻僅に突出す。西北海岸に聚落發達す。

【黒島】 長崎縣對馬島にある島。仁位村に屬す。對馬島の中部東に灣入する淺海灣の一支灣仁位灣中に浮ぶ。

【黒島】 長崎縣對馬島にある島。船越村に屬す。對馬島のほぼ中部西に灣入する三浦灣の灣口中央に浮ぶ。東西約二粁の細長き島にして丘陵連り、東北端の黒島ノ鼻は海崖をなす。

【黒島】 熊本縣肥後國天草群島の一。大矢野島の西にあり、周圍凡そ四粁。

【黒岳】 阿蘇火山脈久住山塊東端の一峯。大分縣直入郡都野村に峙つ。標高一五五六米。北西方に平治岳(一六四三米)、南西方に大船山(一七八七米)連る。一名オタフク山。南西方竹田町方面より眺むればオカメの面を上向けたる如き山容を呈するが故なりと。この山は塊狀火山にして山頂に一の爆裂火口を有し、數箇の外輪峯聳立す。山體は山名の示す如く鬱蒼たる樹木を以て掩はる。樹木は美しきミヤマキリシマ及び石楠花の群落の外は殆んど落葉闊葉樹にして種類極めて多く數百種に及ぶ。古來より靈の山として恐れられ、登るべからずとせられゐたり。久住山塊中にてこの山のみ樹木の多きは構成岩質が樹種の發育に容易なる爲なり。登山は南西、法華院温泉より往復一日行程なり。

【黒瀬戸】 鹿兒島縣出水郡の西北部三笠村と長島との間の瀬戸。即ち八代海の南方外海への狹水道。南北約八粁、幅二〇〇—五五〇米。潮流干滿の際は大河の堤を決するが如く、狂濤盤渦して、百雷の一時に轟くが如く航海頗る困難なり。近時鹿兒島縣營の渡船設けらる。この瀬戸は往古より薩摩ノ迫戸・隼人の瀬戸と稱せられ、歌枕として著名なり。萬葉・三「隼人のさつまのせとをくもゐなす遠くもわれは今日見つるかも 長田王」夫木・二五「薩摩潟せとのはやみの汐さゐはただこぎすぎよいかりおろさで 公朝」

【黒島】 鹿兒島縣大隅國大島郡十島村に屬する島。所謂川邊十島の一にて、佐多岬燈臺の南西三八浬に位す。周圍約一六粁。島の巓は親岳と云ひ、標高約六一四米、樹木繁茂して遠望黒色を呈し、黒島の名これより起るといふ。海岸は概ね險崖をなすも、東に大東の聚落開け、西に片泊の錨地を控ふ。島内多少の水田あるも土地瘠せ收穫多からず、産物の主なるものは木材とす。また此島地震多く且つ屢と颶風の襲ふ所となる。

【黒島】 沖繩縣琉球國八重山列島の一。八重山郡八重山村に屬し、その一大字なり。石垣・西表兩島中間の南方に横はり、小濱島の南四浬に位す。低平坦々たる珊瑚礁にして周圍約一二粁。島内耕地拓け人口繁榮せるも飲料水に乏し。

【黒島】 沖繩縣琉球國慶良間列島の一。列島の東部に位する一小島。島尻郡渡嘉敷村に屬す。前島の北西約三浬。周圍約一粁。島内雜木・灌木茂生し、人家なし。

クロ 九龍島 和歌山縣東牟婁郡にある島。古座町の南方に浮ぶ小島。南は箱島を經て大島を望む。

クロイ 黒井

【黒井】 省線信越本線の一驛(明治三十五年設置)にして頸城鐵道の接續點。新潟縣中頸城郡大瀛村にあり。

【黒井町】 兵庫縣丹波國氷上郡の中央部。柏原町の北、美和村の南にて、東は春日部村・國領村、西は船城村・生郷村に隣る。面積約九・四平方粁。南部に四—五〇〇米、北部に二—三〇〇米程度の山地あるも、中部は竹田川の支流東に流れ、船城村より春日部村の西部に連る平坦地にて田地よく拓く。農産に米・麥・繭・蔬菜その他の食用農産を出す。柏原・福知山間の縣道と省線福知山線、中部を東西に横ぎり、後者に黒井驛(明治卅二年設置)あり、また東南隣、國領村へはバスの便あり。古くは和名抄、氷上郡春部郷の一部なりと。地に縣社兵主神社あり、式内の古社なれば古くより拓けしを知る。丹波志によれば、黒井民家七百久留井とも書き、のち黒井と改む。保月(猪の山ともいふ)に廢城址あり、赤井大政所なるものの居城なりきと。のち萩野伊豫守居城し次いで赤井直政これに居る。天正二年明智光秀來り攻むるも落ちず、即ち直政「近江勢立たる旗はさゆみ布あくに染うてはたまらさりけり」と詠めり。同六年、惡右衞門直政は腫物にて卒す。而して天正七年、嫡子正直幼子につき、伯父赤井惡七郎幸家後見として守りし時落城せりと。また此地は春日局の誕生地なりといふ。大正十二年四月町制施行。また生野銀山の變に勇戰せる片山九市(贈從五位)は此地の人なり。〔兵主神社〕大字黒井に鎭座。縣社。祭神、大名持神・少名持神・天香山神。創建年代不詳。延喜式内社。往昔は眞言宗兵主山神光寺を別當寺として社僧奉仕せり。戰國時代以降、當社は臨濟の守護神と稱せられ、三丹・因幡・伯耆・播磨の諸國より來り賽する者多く、宮家・公卿・歴代領主の崇敬淺からず、特に近衞關白家は代々崇敬厚かりしと云ふ。例祭、十月十七日。

【黒井村】 山口縣長門國豐浦郡の西部。北方小串町との間に川棚村を挾み、東は内日村、南は吉見村、西南は豐西村、西北の一部は響灘に臨む。東境及び西境は南北に山嶺連亙し、海濱より中部にかけ低地ありて、田拓く。本村は半農半漁の村落なるも産物の約六割は農産にして米の産最も多く、麥これに次ぎ蔬菜・養鷄も少からず、漁業も盛にして海產物豐富なり。副業に養蠶、藁製品行はる。省線山陰本線山地間の低地をほぼ南北に通じ大字黒井に黒井村驛、大字厚母郷に梅ヶ峠驛(共に大正三年設置)を置き、縣道またこれに沿うて走り小串町及び南方安岡町にバスの便あり。此地古くは和名抄、豐浦郡室津郷の地。大字黒井に式内社、村屋神社あり。德川時代には長府毛利藩の所領に屬し、當時厚田(今の厚母郷)・黒井上・黒井下(兩村を合して今の黒井)・吉永(今の吉永)・涌田黒郷の五村に分れ、明治以後には離合種々の沿革を經て、明治二十二年四月町村制實施と共に、現村域を以て豐西東村とし、同三十一年九月一日更に之を現村名に改稱す。〔杜屋神社〕大字黒井に鎭座。縣社。祭神、三穂津姫命。創建年代沿革等不詳なるも、延喜式内社。なほ式には村屋神社とす・蓋し杜を村に誤りしなるべし。明治七年郷社に列し、のち縣社に定めらる。例祭、九月十五日。〔安養寺〕大字厚母郷字吉見上にあり。曹洞宗。草創沿革等詳ならず。享保六年、如幻賓門の開基と傳へらるるも、當寺の所藏には至德二年の古文書ありといへばその古剎たることを知るべし。本尊、傳春日作の木造阿彌陀如來坐像一軀(國寶)は寄木造、藤原末期の作。

クロイシ　黒石

【黒石山】　黒石山（北海道渡島古丹島）の別稱。

【黒石町】　青森縣陸奥國南津輕郡の中部。弘前市を隔ること東方一二粁。淺瀬石川に沿ふ。地勢概して高燥にして飲料水清く、南方面は淺瀬石川の斷崖となり數千町歩の豐穣稻田並に幾多の村邑を一眸し得るの健康地なり。町の全地域略ど住宅地なれば、特筆すべき農産物あらざれども、良水の湧出と黒石附近村落より產する優良米を原料とする清酒業行はれ、其產額年八千石、價額約八十五萬圓に達のり、又所謂青森苹果の本場にて縣農事試驗場、縣苹果試驗場あり。奥羽本線川部驛より黒石線通じ、隣村中郷村の地藩に黒石驛（大正元年設置）を置く。浪岡村・柏木町に至る縣道並に六郷・田舎館・十和田（上北郡）の各村に達路通ず、もと津輕家支藩一萬石城下の地にして、津輕四代の藩主信政公幼少のため叔父信英後見となりて藩政を監し、其の功績著なり、依りて津輕領中黒石・平内、上野國新田郡を分與せらる、今日子爵津輕益男氏に至るまで十二代凡そ三百年を關し、其間逐年内容を充實して富家軒を並べ、郡制時代にありては郡役所の所在地として南郡行政の中心地たり。（黒石藩）明勝年間津輕信英宗家より五千石を分たれ、のち一萬石となりて諸侯の列に進み此處に陣屋を置き子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月廢藩置縣に方り廢せられて九月弘前縣に入る。（黒石神社）市に鎮座。縣社。祭神、津輕十郎左衛門信英。明治十二年の創建。舊黒石藩の士民、部組の造營を欽慕して鎮祭せしものなり。信英は信牧の三子にて、信牧の嫡孫信政が補けて功勞あり、因つて明暦二年信政五千石の地を割きて、叔父なる信英を此地に封じ、その勞を謝す。その歿後、士民祠を建てて信英を祀り、黒石神社と號す。明治十五年縣社に列す。例祭、七月二十二日。（御幸公園）黒石初代藩主津輕信英公の居址、烏城の址にして、園内に明治天皇行在所、縣社黒石神社（藩祖を祭る）あり、殊に園内の夷館は地高燥にして、南方の田園を一眸し得、遠く岩木の靈峯を望む景は實に筆舌に絶す。（保福寺）曹洞宗にして本尊釋迦牟尼佛。慶安元年の創建にて、この地禪苑初開の道場たり。のち隣松寺三世、月寒雲鶴和尚を請じて開山とす。明和三年大震災のために伽藍類廢せしが、津輕主殺信隣これを修營して舊觀に復せり、因つて信隣を中興開基とす。伽藍堂宇の完備せるは郡内第一なり。

【黒石線】　省線奥羽線の一部。青森縣南津輕郡にあり。奥羽本線川部驛（光田寺村）より分れて中郷村の黒石驛に至る。全長六・六粁。黒石驛にては更に省線五能線に接續す。

【黒石】　青森縣南津輕郡中郷村の大字。省線黒石線の黒石驛（大正元年設置）あり。

【黒石村】　岩手縣陸中國江刺郡の西南隅。北は羽田・田原、東は田原・東弊井郡猿澤、南は同田河津・生母の諸村に連り、西は北上川を隔てて膽澤郡姉體・白山の兩村に對す、面積一七一五方里、人口二九二六人、現戸數三九八戸。西部北上川沿岸の一部を除く外村内到る處に丘陵起伏し、殊に田原村東弊井の境上に接しては四〇〇—六〇〇米以上に達するものあり、就中大鉢森山名高し、北上川に注ぐもの二流あり、一を大久保川、一を山内川とす。生業は農業と林業にて、產物の主なるものは、米（二三九一俵、六四五〇〇圓）、木炭（三六六〇〇俵、六〇〇四〇圓）とす。維新前仙臺の伊達氏の所領にして世々地領を以て管せられたり。江刺西方二十三箇村の一に屬し明治六年第十六大區第一小區となり、七年第十二大區と改稱せらる、八年江刺四十一箇村を合し十五箇村となりしも本村は獨立一箇村として現在に至る。（石手堰神社）村社。延喜式内の舊社。三代實錄曰「貞觀四年六月、壬子、陸奥國鎮守府正六位上石手堰神領官社、神戸云、膽澤郡石手堰神社在鎮守府、今江刺郡黒石村、日黒石大明神、又二宮明神、貞觀四年、以正六位上預官社」維新前は、仙臺伊達家より、例祭日には管國二人を遣し、殊に御用船九十五艘、並舊南部家御用船八十艘に、米上無漏の板札百七十五枚を兩家へ獻納するを式例とせり。（正法寺）曹洞宗。大梅拈華山圓通正法禪寺と號す。北朝康永三年（一説に貞和四年）領主永部清秀・黒石正瑞入道の二人協力して創建し、大本山總持寺二祖峩山紹碩二十五哲中の上足無底良韶を請じて開山とす。康安二年峩山紹碩より奥羽兩國曹洞の本寺たるべき證狀を附せられ獨來奥羽に於ける獨立本山として一派統制の權を、より、越前の永平寺、能登の總持寺と共に三本山と稱せり。綏應元年五月六日、崇光帝より綸旨を賜はる、勅　奥州膽澤郡黒石、大梅拈華山圓通正法禪寺者、爲奥羽二州帝錄扶桑曹洞第三之本寺也、住持位到瑞末代著紫衣紅服專新寶祚延長宜奉報、國恩殊更可爲兩國寺院出世道場者　依　天氣執達如件　綏應元甲寅五月六日　權有中納言藤直」嵩吉元年後花園天皇亦綸旨を賜はる、勅　大梅拈華山圓通正法寺者、日本曹洞第三本寺也、故出羽陸奥之諸末寺、被定出世道場、訖宜奉祈　寶祚延祚揚聲禪者依　天氣執達如件　嵩吉元辛酉五月七日　左少辨　淳光」然るに元和元年、德川家康宗門法度を定むるに及び、曹洞宗は永平・總持の兩本山に限り分屬するに至り、當山は獨立本山の格式を失ひ、總持寺末に歸す。其盛時に於ては境内の廣袤四方に擴がり、寺領多く殿堂も宏壯に七堂伽藍備はりしも、天正年間に至り嵩西氏の滅亡と共に寺領も失はんとせしが、伊達氏當國領主となるに及び、寺領を寄附し、漸次附加して七十五石とし明治に至る。然るに維新の改革と共に之を失ひ、古來廣大なりし境内も上地官林となりて維持經費に困難を生じ、年を追うて頽廢す。今猶本堂・庫裡・鐘樓・開山堂等棟數十六を有し、表門の如きは六百年以前のものと傳ふ。客殿には當麻の釋迦、文殊・普賢の像、阿彌陀佛の像等安置す、其他毘首羯摩の作愛染の像、雪舟筆十六羅漢、後光厳帝の宸筆等數十種藏す。（黒石寺）天台宗。天平元年、釋行基此地に來り、手づから藥師の尊像を彫し、一寺を創立して東光山藥師寺と稱す。延暦の頃、兵火に罹り本堂のみを殘して烏有に歸す。大同二年、藤原利仁此處に至り寶剣の類殿を歎き、工人を雇ひに徵して本堂を新造し、慈祥三年、慈覺大師東北に夷踏するや此地を過ぎ、手づから十二神將、四天王の像を刻し、數十の佛宇、四十八の僧房を營み、稱して妙見山黒石寺といふ。文治中、葛西清重大に歸依して山林田畑を寄附ぜり。然るに元龜天正の際屢々兵火に罹り、爾來舊觀に復する能はず、元禄十二年、慕命により東叡山の直末となる。此寺に年々陰暦正月七日の夜、蘇民祭と稱する祭事行はる。之に關する記事、妙見山風土記に見ゆ。曰く「年々正月七日夜、妙見宮の神事、往古は右妙見山に於て有之、右儀式に相用候、東面十二有之相用申候度、高岩に飛び行き、其ダ恐敷儀多有之候に付、其後藥師堂に於て、祭禮の儀式仕來候、何時より藥師へ相移申候哉、往古の儀に付相知れ不申候、右鬼面本式に相寃候得ば、何國ともなく飛行候由にて、何時相失候哉、當時は二つ相殘居、今に至るまで七日晩子供の頭へ冠、附人相附よしたいまつ爲持、參詣群集の中を相廻り儀式相勤め申候、右子供鬼子と申唱參候、年々正月七日夜、儀式に相用候、翌は同六日爲伐、生割木を藥師堂の土間へ三ヶ所に焚き、初め盛燃立候時、參詣の諸人、東西より投合ひ、或は火を以て打合申候、是往古より祭禮の儀式に御座候、有德木を祭燈木と申唱候。年々正月七日夜、祭燈木の儀式相終りて、祭木を入れたる袋が群集民爭ふて、其袋より祭木を取り去り後、東西に相分れ、互に萬力を以て雙生雙生の麻を張り上げ、引合ひ申候、一切の祭物は、家内安全の御神符と至し云々」

【黒石山】　阿武隈山脈の一峯。郡山市の東方約一五粁、鶴島縣田村郡飯豐村・七郷村・御舘村の三村境界に峙つ。田村郡にあり山麓富士に似る故に田村富士とも呼ばる。標高八九六米。山體片麻岩より構成せらる。主稜線は北西より南東に走り、北西麓に鞍掛山（七九三米）、南東麓に風越峠最高點紀く。風越峠は此山の北西方より來り、南東方に進む縣道雪城街道に當る。北麓か大鏡根川の一支東流して本流に合す。

【黒石】　長崎縣北松浦郡小佐々村の大字。省線松浦線の黒石驛（昭和六年設置）を置く。

クロイソ　黒磯町　栃木縣下野國那須郡の北部。謂ゆる那須野原の一部を占め、東北は御宮土山の東南極野を到する那珂川上流によりて那須村と界し、東南は鍋掛村、西南は東那須野村、西北は高林村に隣り、面積二七・一平方粁を有す。西北より東南に緩めて緩傾斜をなす砂礫層の平坦地にて鳴地・林野多く、葉煙草・麦類の農產あり、また那須・高林二村の森林地を控へ、薪炭の移出地をなし、町民の生業は半農・半商なり。國道（陸羽街道）省線東北本線並行してほぼ南北に通じ、後者に黒磯驛（明治十九年設置）あり、那須諸温泉への門戸に當り、那須本湯（那須村）・鹽澤（高林村）へはバスの便あり。國道上には東北方白河町（福島縣西白河郡）へバスの往來あり。町名の起源は詳ならざれども、往古、九郎左衛門と稱する者、今の上黒磯（黒磯町内小字）に來りて此地を開きたるを上黒磯の起りといひ、九郎と此地とが那珂川の沿岸なるところより磯をとり「くろいそ」なる地名生ずといふ。明治四十五年四月東那須郡村大字黒磯・鹽浦農場・鳥野目・小結・天鷲場・共樂社・埼玉開墾・淺澤開墾・上厚崎・下厚崎を割きて黒磯町を建つ。元來當町の發展に東北本線の開通に依り、秀麗なる那須火山及び其山麓に散在する那須諸温泉等の主要なる門口驛たなせるに起因す。

クロイワ　黒石山　北海道千島列島中の東北部の一島・温禰古丹島南端部にある休火山。標高一三三一米。

クロイワ　黒岩　省線函館本線の一驛（明治三十六年設置）。北海道磐梯岡山郡八雲町にあり。

【黒岩山】　那須火山脈日光火山群に屬する一峯。尾瀬沼の東方約八粁、栃木縣鹽谷郡栗山村、群馬縣利根郡片品村、福島縣南會津郡檜枝岐村の三縣境上にあり、標高二一六三米。山稜線は三方に岐れ、北東稜に孫兵衛山（二〇六四米）、北西稜に赤安山（二〇五一米）、南西稜に鬼怒沼山（二一四一米）續く。東方斜面よりは鬼怒川の一支發源し、西方斜面は片品川の上源地たり。近時この山麓地方は奥日光探勝地となり、西方の尾瀬沼よりこの山の山腹を經て南西方の鬼怒沼に至る林道作られ、山歩きに便となれり。

【黒岩村】　群馬縣上野國北甘樂郡の東北部。南は富岡町・一ノ宮町に接し、東は小野村、西は高田村、北は碓氷郡と界し、その礫部町との間には東横野村を挾む。面積八・一七平方粁。北境には燕巣山（二九九米）の脈西方に延びて一—二〇〇米巒の丘陵をなし、南部と中部には平坦地ありて畑地・田地拓け、米・麥・繭を出す。富岡町・安中町・板鼻町（いづれも碓氷

郡）への道路東部に通じバスの便あり、また上信電鐵の上州富岡驛にも近く、交通不便ならず。此地、古くは和名抄、甘樂郡小野郷の内に屬す。大字黑岩（いま上・下に分る）の地は東鑑に見ゆる黑岩郷の地とす。人類學雜誌に據れば天明年間本村の山崖崩れし際、鮫角出でしが、この鮫角は卽ち鯛鹿の角なりとあり。蓋し往古は此邊にも鯛鹿棲みしものか。いま黑川・別府・上黑岩・下黑岩の四大字より成り黑川に役場を置く。

【黑岩】 埼玉縣比企郡西吉見村の大字。もと黑岩村と稱し横見郡吉見領に屬す。蓋し黑岩とは、村の西はすべて山續きにて巖石高く、其内の字立石といふ所に黑色の岩石あれば之より黑岩村の名起りしといふ。俚傳によれば、隣村御所村（今は西吉見村の大字となる）に源範頼の居蹟あり、御所村は黑岩村より分れし村なれば、黑岩も範頼の領せし所ならんといふ。小田原北條氏分國の頃、狩野弁の被官小守太郎左衞門なる者、六貫五百文の地を當郡黑岩郷にて知行せしこと小田原役帳に見ゆ。徳川氏國東入國後は幕領たり、のち村内を割きて高島近江守に賜はり、また幾りの為領を實暦年間に大鳥喜太郎に賜はり、子孫續いて知行す。その地に百穴谷と稱する小名あり、明治二十年頃附近に横穴二十八箇を發見し、中に人骨・玉器・金器・土器あり、玉器には曲玉・管玉、金器には鏡・小刀・鏃矢・金銀鐵・鉄鐵・鈴・煙管の雁首、及び副鐵あり、土器には祝部土器・朝鮮土器・埴輪土器等あり。この横穴は太古人の居りし所にして、或は土蜘蛛の穴居か。

【黑岩村】 新潟縣越後國中頸城郡の東北部。柿崎町の東約一二粁、西は黑川村、東は刈羽郡鵜川村に隣る。面積約一六・九方粁。東北より西南に長く、北部には米山東南麓の山地、南部には尾神岳（七五七米）の山地あり、中部東西に幅狹き低地ありて耕地この部分に拓く。農村にして米を主産とし、また繭を出す。西隣黑川村に出づれば信越本線柿崎驛へバスの便あり。往古の事は以て徵すべきものなし。いま黑岩・東横山・狸平の三大字より成り、黑岩に役場を置く。

【黑岩山】 六甲山の前山にて、阪急電車芦屋川停留所の北方約二〇〇米に當る。標高五四八・三米。荒地山の名もあれども、今は一般に黑岩山と呼ばる。山中に國月洞・岩梯子・扇岩・十間四方岩・鉢天山・壓切岩等の奇膝・奇岩あり。この山を中心とする芦屋川渓谷地帶は岩石美に富み、六甲山中の精粋とも云ふべく、ロッカ・ガーデンとして珍重せられ、またロック・クライミングの練習にも當てらる。登山は多く芦屋川驛より高座瀧・ロッカ・ガーデンを經て行はれ、また本山村より魚屋道をとる登路もあり。

【黑岩村】 高知縣土佐國高岡郡の北部一佐川町の北、越知町の東に隣り、西北より北境は曲流する仁淀川を界として吾川郡横倉村・明治村に對す。面積約二六・七平方粁。北半部には高度約三〇〇米の山地東西に連亙してその支脈東境に延び、南半部は佐川町より來り西南境に於て仁淀川に合する柳瀬川の流域にて、幅狹き平坦地あり、田畑ここに拓く。米・麥・繭の農産を主とし、林産・工産も少からず。越知・佐川兩町に接するも交通なほ便利ならず。應永の頃片岡彌左衞門直綱なる岡東武士、此地の大字南片岡に來住して黑岩氏を稱す。町村制施行の際十三箇村（いま大字となる）合して本村を設く。

【八幡宮】 大字庄田字八幡山に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。創立年代不詳。永正以降數度社殿造營のことあり。また落主山内家の家老深尾氏の領地内十八箇村の總鎮守として、また瑞應村の產土神として崇めらる。明治十二年郷社に列す。例祭、八月・十月十五日。

【黑岩山】 阿蘇火山脈久住火山群の一峯。九重山（一七六四米）の北西方に續く。熊本縣阿蘇郡南・北小國村と大分縣玖珠郡飯田村とに跨る。標高一五〇三米。山名は山腹に黑色の瓦岩堆積するに因ると云ふ。

【黑岩山】 九州山脈に屬する一峯。祖母山（一七五八米）の南東方約二六粁餘に當る。宮崎縣東臼杵郡北方村に聳立す。標高一〇七〇米。北方は國見山（一三九二米）・鬼ノ目山（一四九一米）に續く。

クロウシ　黑牛海・久漏牛潟　和歌山縣海南市の黑江灣に臨みたる海濱を稱す。一に黑江浦ともいふ。萬葉集略解に黑牛は今黑瀬と云ふ、名草郡なりしが今海部郡に入るとあり。名所圖會に「黑江浦は今專ら鹽地梳を掛へるを業とし、西國關東の遠まで商ふ、海陸の便よく、工商軒をつらねて雜を立る間もなく、はんじやう富饒の地なり」とあり。萬葉・七「黑牛の海くれなる匂ふ百磯城の大宮人しあさりするらむ」同・九「大寶元年辛丑冬十月、太上天皇大行天皇の紀伊國に幸せる時の歌、黑牛潟潮干の浦をくれなるの玉裳極びき行くは誰が妻」同「古に妹と吾が見しぬばたまの久漏牛潟を見ればさぶしも」

クロエ　黑江

【黑江灣】 和歌山縣の西部、和歌浦灣の支灣。毛見崎と歌訪島との間より東に彎入し、北東南の三方は何れも海南市に抱かる。灣口約一・八粁、彎入約二・五粁。灣岸は海南市の市域濱塩計畫の下に着々埋立されつつあり。灣内には黑江・日方・冷水の諸港あるも何れも定期汽船の便なく、僅に帆船または發動機船の出入を見るのみ。

【黑江】 和歌山縣海草郡にありし町。昭和九年、日方町・内海町・大野村と合併して海南市を建つ。

クロエチョー　黑江町　東京市深川區の町名。永代橋を一直線に深川八幡（八幡と道筋。八幡住町と門前中町との中間にあり、江戸時代には八幡の一の鳥居ありたり。辰巳之園「松田稻荷ほど、黑江町のいなりをいわん」里のなだ卷評「深川の地は陽氣にして偏らず、船の通路自由にして、牡蠣店の牡蠣、文蛤町の文蛤、鯉魚は黑江町に名高く、原金燒は万年町にかくれなし」

クロオ　黑尾山　中國山脈に屬する一峯。姫路市の北西方約三〇粁、兵庫縣宍粟郡神戸村・葛澤村・神野村の三村に跨る。標高一〇二五米。山體閃綠岩より形成せられ、山形富士山に似たり。東麓は北方より南流し來る引原川に洗はれ、川に沿ひ因幡街道南北に走る。この山は東麓神戸村にては黑尾山、また北麓西谷村字小野にては小野山、更に西麓葛澤村にては尾山、南麓にてはは高尾山と呼ばる。

クロオカ　黑岡　丹波國（兵庫縣）の古地名。中世の莊園にて、文安六年の文書に見え、篠村八幡宮領たり。いま多紀郡城北村大字黑岡はその名殘なるべし。

クロカサ　黑笠山　四國山脈祖谷山塊に屬する一峯。山頂は德島縣美馬郡一字村と東祖谷村との境界をなす。標高一七〇三米。山體結晶片岩より成る。南東麓は小島峠に連り、西麓は矢筈山（一八四九米）に續く。前麓は西流する祖谷川に流ばる。

クロカネ　黑金山　關東山脈秩父山塊の一峯。金峯山（二五九五米）の南東方約九粁に當り、山梨縣東山梨郡三富村に屬す。標高二二三二米。南方は直に乾徳山に連り、北方は鰺冠山（二一一二米）・甲武信ヶ岳（二四八三米）峙つ。北西方には國師ヶ岳（二五九一米）・奥千丈岳（二四〇九米）聳え、國師ヶ岳の西麓は延びて金峯山に至る。東麓を笛吹川南流し、川に沿ひ秩父往還南北に走る。

クロガネ　鐵・鉄

【鐵山】 一名鐵ヶ城とも云ふ。那須火山脈沼尻火山彙に屬する一峯。主峯安達太良山（一七〇〇米）の北嶺。福島縣耶麻郡吾妻村と安達郡塩澤村・岳下村の三村境界上に聳え、標高一七一〇米。黝黑色の岩石より成る。主稜線は南北に走り、北稜は箕ノ輪山（一七一九米）、南稜は安達太良山に列る。此山は俵義の沼尻山（今は殆ど舊體を存せず）の火口壁殘留中にある一峯にして、爆裂火口を存し、東斜面のものは岳の湯（岳温泉とも云ひ西東斜面にある温泉）の源をなす。西斜面は火山灰の堆積が雨水により侵刻を受け奇怪なる地貌を呈す。南西斜面に沼尻湖・沼尻温泉並に沼尻硫黄採掘所あり。西方裾野は沼尻山原をなしスキーの良き練習地たり。山の北端には矮小なるハクサンシャクナゲ・アカヅダ・ガンカウラン・ヒメコマツ等生育し、宛も高山の灌木林の如し　これ主として強烈なる風により森林の成立を許さざるに因る。山頂よりは北西方に吾妻山彙、西方に磐梯山を望み、南西方に猪苗代湖を眺め、北東方に福島市の街衢を指呼し、視界廣濶なり。登山は西南方猪苗代湖畔なる磐越西線水桁驛より酸川を遡り、沼尻温泉を經て登臨し、或は東南方阿武隈川支流移田川を遡り、岳の湯を經て達頂す。

【鐵山】 關東山脈秩父山塊に屬する一峯。甲府市の北方約二四粁、山梨縣中巨摩郡宮本村と長野縣南佐久郡川上村との境界に聳立し、標高約二五二〇米を算す。東麓は朝日岳（二五八一米）に續き、西麓は金峰山（二五九五米）を經て瑞籠山（二三三〇・二米）に連る。北斜面より千曲川の一支端下川發源して北流し、南斜面より富士川の一支荒川源流して南下す。全山密林にて山頂部もコメツガ・シラビソ等生茂り展望充分ならず。この山は名の示す「鉄」と、鐵分多き為、山中にては登山者の磁石を狂はすを以て留意するを要す。金峯山より尾根傳ひにて約三十分、朝日岳より尾根傳ひにて一時間にて達頂す。

クロカミ　黑髪・玄髪

【黑髪山】 栃木縣上都賀郡にある男體山の別名。萬葉・七「ぬばたまの玄髪山を朝越えて山下露にぬれにけるかも」同卷・一一「ぬばたまの黑髪山の山草に小雨零りしきしきしく思ほゆ」とあるは此山に當つる者あれども誤りなるべし。八雲御抄に既に下野國の名所として黑髪山を擧ぐれば、萬葉集の歌も同名なるにより目光の男體山に混同せしは久しき事なるべし。堀川百首の題詠に「旅人の蒼菅の笠や朽ちぬらん黑髪山のさみだれの頃」公實「うば玉のくろかみ山の頂に雪もつもらば白髪とや見ん　隆源」などあるも何れの地の山なるか詳ならず。回國雜記に「翌日中禪寺を立出ける道に、數ちらしける紅葉の、朝霜のひまに見えければ、先走しける衆徒、長門の堅者といへる者に、いひ聞かせ侍りける、山ふかき谷の朝しもふみ分けてわがそめいだす下紅葉かな、かくしつつ、下山し侍りけるに、黑髪山の麓を過ぎ侍るとて、吾人言捨どもし侍りけるに、ふりにける身をこそよそに眺ふとも黑髪山に雪を侍つらん」とあるは男體山の詠歌なり。極花無盡藏にも下野日光山は或は黑髪山と號すと見ゆ。武道傳來記・八「白妙に降りつづきて下野の國黑髪山も、夜の間に委の特りて老の首と見なしぬ」

【黑髪山】 中國山脈の一峯。岡山市の北西方約七五粁、高梁川の左岸に峙つ。岡山縣阿哲郡新見町の北東麓なり。北稜は同郡熊谷村に延ぶ。標高六四八米。北麓を高梁川の一支南西流し、西南方新見町の中心部附近にて本流に合す。山中には清瀧觀音堂あり。此山また古來歌枕として知らるゝ。我が君は久にましませばたまの黑髪山のいろもかはらで「清輔」い

ろかへぬ黒髪山の山かつらかくてやひさにつがへまつらむ　從二位行家」。

【黒髪山・玄髪山】　萬葉集第七卷及び第十一卷に見ゆる山。未だ詳ならざるも、下野・備中に黒髪山あり、両して萬葉の歌を下野・備中に當つるも誤りなるべく、近時、奈良市の北方、佐保山中にありとの說有力となれり。平城坊目遺考に「宇賀神社、黒神社とも云、奈良坂より八丁許西にあり、來由未考、所祭稻荷神」とある地卽ち之なり。萬葉・七「ぬばたまの玄髪山を朝越えて山下露にぬれにけるかも」同・一一「ぬばたまの黒髪山の山草に小雨零りしきしくしく思ほゆ」

【黒髪島】　山口縣周防國都濃郡にある島。郡の南、並瀦に點在する島嶼の一。その南牛郡は大津島村、その北牛郡は富田町に屬す。島上は巨巖怪石を以て飾られ、黒髪の七名石なるものあり、また全島花崗石に富めるを以て名高し。昔、豐臣秀吉命じて此島より花崗石を採取して築城の用材とせしめたり。我が新築の帝國議會議事堂用材の花崗石、主として本島より採取せしものとす。この花崗岩は稍細目なるも長石の大なる結晶を有し且つ斑紋あり。色の黒きを缺點とす。角材は數十切、長材二十乃至三十切のものがとれ、石量極めて豐富にて日本各地・滿洲・臺灣・上海方面にも輸出せられ、岡山縣北木島に次ぐ重要石材産地とす。島は官地にて採石量は制限せられ平時は角材年に十萬切、間知・割石十萬切内外、海軍省にて間知・割石六十萬切内外を採るに止まる。

【黒髪山】　阿蘇火山脈西端部の一峯。佐世保市の北東方約一八粁、佐世保線上有田驛の北方三・六粁に當る。佐賀縣西松浦郡有田町・大山村と杵島郡住吉村との一町二村の境界に峙つ。標高五一八米。山麓火山岩より成る。北麓は青螺山に連り、全山樹木鬱蒼として翠綠を泛べ寫も黒髪の如し。因りて山名出づと。山は森林美・草原美・岩石美に富む。中腹部は肥前耶馬溪と稱せられ、集塊岩が風化侵蝕せられて奇岩を生じ、渓流の走るありて美景なり。天童岩・雄岩・雌岩・龍門・月輪岩・見返峠・大造岩・目一つ坊・乳待坊・重れ岩等の奇勝怪石あり。南麓は有田焼にて名高き有田町の中心地をなす。近年全山の勝地より三十三箇所を選みこれに靈場設けられしかば、遍禮者・登山者の數多くなれり。山頂に黒髪山神社鎭座す。郷社に列し、伊弉冉尊・速玉男命・事解男命を祀る。地方の古社にして藩政の頃は藩主鍋島家の尊崇厚かりき。植物景觀上よりも注目に値し「かわこしだ」「いはぜきしよう」「いぶきじやかうさう」「かぎかづら」等の特殊植物を始め、星塊岩上に乾原植物の群落ありて、寫も自然の植物園をなす。特にかわこしだ（うらじろの變化せるものの如し）の群生地は指定天然記念物たり。「神無月やくろかみ山の塚柳　三千風」

【黒髪】　熊本縣飽託郡にありし村。大正十年熊本市に編入す。

クロカワ　黒川

【黒川郡】　宮城縣（陸前國）十六郡の一。縣の中部に位し其地域東西に長き紡錘形をなし、東より北に亘りて志田郡に接し、北より西に連りて加美郡に隣し、東に亘りて宮城郡と界す。西南北の三方は連山起伏して西方特に山嶽屹立し、東方は開けて平夷田圃遠く連り吉田川其の中央を貫流す。從來東方は品井沼に溢ひたるを以て一朝大雨に際すれば洪水氾濫したりしが、明治四十二年水害豫防組合にて品井沼排水を實施してより今や全く沼地に涸する地なく、本郡地勢上の一大沿革たり。本郡にて一千米を超ゆる山は四つあり。蛇ヶ岳（一四〇〇米）・三峰山（一一四一八米）・北泉岳（一二五三米）・花染山（一〇一八米）なり。吉田村と宮床村とに跨りて七ヶ森の名山あり。之等の山々は北日本中軸火山帶に屬する船形火山群中にあり。船形火山の基底は第三紀層にて火山成生後に於ける第四紀層は其上方に分布す。第三紀層の主なる岩質は流紋岩質凝灰岩にして泥板岩及び砂岩に介在せり。七森に就き古人の詩歌多し、いま大槻磐溪の詩を示さん。「荒谷古川勞政涉、連朝風雲馬龍蹄、新晴宮得仙臺近、雲破七辰三四峯」阿流の大なるもの二あり。一を荒川といひ、吉田村蛇ヶ岳より發し東北流して加美郡に至り鳴瀬川に合す。一を吉田川といひ源を吉田村なる北泉岳より發し品井沼に入る。本郡の西部は山嶽巒嶮にして河川も亦湍布を生ずるもの少からず、就中吉田川上流には萬能瀧と稱するもの上中下の三箇所にあり、孰れも高さ五丈餘、水煙線々夏尙寒し、稱して之を三瀧といひ不動尊を祀れり。沼湖は概ね西南部山中にあり、今大なるものを擧ぐれば、桑沼は吉田村北泉岳の中腹にあり、長六〇〇米、幅三〇〇米餘、水清冽にて四周皆火山岩より成る。蓋し往古の噴火口なり。他に三本耀沼・八沼・引沼等あり、郡の東部に品井沼あり地勢陷凹、自ら水を湛へたるものにして東西六粁、南北四粁餘、周圍二〇粁以上に及ぶ。先に宮城・志田・黒川の三郡に連れども明治四十二年排水工事を完成せしより本郡に屬する部は開墾して田地となれり。本郡住民の生業としては農業を主とし、商工業その他各種の職業を有せり。農産物の第一位は米にして農産の過半數を占め、麥之に次ぐ。その他大豆・繭等もあり、畜産としては鶏卵その首位にあり、馬も相當の數に上る。毎年吉岡町・鶴巣・中村等に馬市も開かる。産業・牛・豚もあり。又林産としては薪材の産出最も多く、木炭等も宮城・仙臺方面に移出す。鑛産としては亞炭を大衡村字大森附近より産す。工業製品としては酒類最も多く大正年間迄は吉岡町内に醸造元三箇所もありたる程にて醬油之に次ぎ、織物・味噌・製茶・竹細工・木羽・從物類・蕎麥・工・氷豆腐・菓子・鹽鮭・麹類の産出もやや多し。道路は仙臺より青森に通ずる國道最も大にして維新前は人馬の交通・物貨の運搬等皆此國道に依らざるはなく、特に桧前・盛岡・一ノ關等諸藩の參覲交代、幕吏の蝦夷地巡檢、維新に至りては青森旅團の仙臺師團への往復等に至るまで此國道に依り、吉岡驛の雜香高しく、同驛角兵衛餅屋と稱ふるもの東京以北の香附にまで上れる程なりしに、汽船の便開け次で汽車の開通に至り、人馬の交通此の國道に依るもの著しくその數を減じ、吉岡驛の如きも衰として昔日の觀なく、仙臺より東京まで八泊九晝の旅行も當にその昔を偲ばしむるに至る。本郡の往古に於ける國道は國府、卽ち宮城郡利府の地より澤乙を經て山田・太田・嘉柳・鳥屋・北目大崎等の各地を過ぎり、舞野に出でて大衡村を經、駒場より志田郡伊賀に出でしものならん。これ源頼朝東征に際し、今の嘉柳の八幡社のありし所に於て軍兵を留めたる傳說及び駒場なる頌岐神社に軍營を駐めたる事蹟あるに徵しても明かなり。現在は仙臺軌道、仙臺通丁より本郡を貫きて加美郡中新田町に通ず、又縣道としては中心町たる吉岡町を中心として宮城郡利府村同・郡松島驛・志田郡三本木町・吉川町・加美郡中新田町に通じ、バスの往來もあり。その他、タクシー等の交通機關あり。本郡は聖武天皇紀に於て初めて國史に其名稱見ゆ。卽ち天平十四年春正月己巳陸奥の奏言に黒川郡以北十一郡雨赤雪二寸云々とありしより、稱德帝神護景雲三年三月辛巳陸奥國黒川郡人外從六位下賀大伴部弟麻等八人陽姓賀實龜九年夏四月癸巳朝陸奥國黒川加美等一十郡俘囚三千九百二十人言曰己等久祖本是王民而爲夷所略遂成賤隸今既殺敵歸降子孫都息使願除俘囚三名輸訓庸之賞許之。桓武天皇延曆八年八月己亥勅陸奥國人軍人等（中略）黒川郡等十一郡與鎭撫居不同等故延復年。同九年十一月丁亥陸奥國黒川郡石神山精神社並爲官社。延曆十六年正月庚子黒川郡人外少初位上大伴部眞守等に大伴部行方連を賜ふ」（日本後紀）大同五年春二月辛未癸巳太政官等陸奥國浮浪人を土人に準じ俘布を輕せしむ。但黒川以北奥郡の浮浪人には及ぼすとあり、承和八年三月癸酉黒川郡外從六位下勳八等賀茂等借外從五位下を授く、國司の賓舉に由る。貞觀八年春正月廿日丁酉常陸鹿島宮司の言に大神の苗裔神世八社陸奥國にあるうち黒川郡に一社ありとみるが如く、當時は本郡地方は一般に所謂蝦夷の境にありしなり。後冷泉天皇の御代安倍頼時東北に據りて朝廷に貢せざるや本郡も亦其配下に屬し、源義家父子の征討を蒙りたることと明かなり、後、藤原秀衡陸奥鎭守府將軍に拜せらるるやその旗下となる。秀衡の子泰衡に至り源頼朝の征討あり、書に曰く、後鳥羽帝文治五年己酉八月十四日頼朝自多賀經黒川郡之玉造郡と。泰衡の滅後は頼朝の治下に千葉東六郎大夫に賜ふ、爰もなく北條氏の手中に歸し、陸奥探題の配下に屬す、建武以後和馬氏の所有たりしが足利尊氏勢を擅にするに至り其旗家筆を以て陸奥探題となす、後畠山探題に賜ふ。同氏の衰ふるや大崎直持の奪ふ所となり、其族黒川左衛門尉氏直の所領となる。後亀山天皇元中年間は伊達大膳大夫の配下に歸す、爾後黒川氏の治下に屬し郡黨を下草に置く、豐臣秀吉天下を一統するや蒲生氏郷の配下となり伊達政宗と協力し、時で天正十八年政宗黒川晴氏を討ちて之を滅ぜり。以後は本郡は再び伊達氏の直屬となる。慶長の末其子宗清をして本郡一圓を領せしむ、元和二年吉岡城に移りたりしが寛永十一年宗清死亡せしを以て又伊達氏の直屬に歸す、是に於て本郡所領の者なく黒木某落命を以て郡治監督となれり、寛文二年に至り奥山常辰地を本郡に賜ひ治を吉岡に置きたるも單に吉岡・吉田の一部に過ぎず、萬治三年伊達宗房栄地を本郡に賜ひ、宮床村に居館を占めたるも西方一部に介するに止る、其他地頭なるもの各所に散在する狀態となり、本郡全部を統轄する者なし。明治維新後は丸村一町卽ち吉岡町・吉田村・宮床村・宮谷村・鶴巣村・大谷村・鉛川村・大松澤村・落合村・大衡村等を黒川郡と稱す。

【黒川】　陸奥國（陸前・宮城縣）黒川郡の古地名。延喜兵部省式に黒川驛々馬五疋とあり。和名抄黒川郡に驛家郷と見ゆるは卽ち此と同じく、此地には黒川郡家あり、驛傳を管掌せるを知るべし。いま黒川郡鶴巣村・宮谷村を郷城とすべく、驛址は鶴巣村大字下草の遺ならんといふ。

【黒川村】　秋田縣羽後國平鹿郡の北部。雄物川支流旭川が角間川町附近に於て本流雄物川に合流する處に近く、旭川とその支流大戸川の合流地域を占む。從つて土地低平にして濕地をなす處あり。澤流細よく發達し排水清よしての機能を有するもの多きは注目すべき處なり。全村田地にして畑地は僅に宅地周圍に見らるるのみ。旭川沿岸には僅に草地・林地を有す。薪炭材・建築材に不足を見る。旭川對岸は仙北郡に屬す。本村は泥炭層地域にして地盤自ら軟弱なり。泥炭は多く採取して長方形とし地上に並べて乾燥し之を燃料とす。採取は獨特の用具にて之を行ふ。全村之を燃料として用ふ。炊事用には薪を用ふること越後地方に見らるるが如し。泥炭を採取せる窪地には客土して田地とするが普通なり。米産を大宗とする地域なり。泥炭層地域なるため排水良好に過ぎ、稻作には稍不利なるを免れざるも農民精勵、その生産の增大を圖りつつあり。繭の生産やや行はるるも他は記すべきものなし。角間川町は往時雄物

川川舟航行時代榮えし河港なりしが、當時は本村の受くる便益も多大のものありしといふ。今は衰へてその事なし。横手驛よりは十軒、角間川町へは四軒、此の間、角間川街道ありて旅客自動車定期的に運轉せらる。黒川村はもと川の名に出づといふも又往々石腦油の滲出ありし爲に黒川といふとも傳ふ。永慶軍記に黒川城主西野修理亮道愛の記載あり。

【黒川村】山形縣羽前國東田川郡の中部。鶴岡市の東南約三軒、東北は泉村・廣瀬村に、南は東村に隣接し、西は赤川を距てて山添村に相對す。南境に羽黒山塊に屬する黒森山(九三〇米)・上大瀧山(五七四米)・長局山(六八八米)聳立し山脈は北に延びて概ね山地をなすも、赤川に沿ふ一帶は沖積層發達し鶴岡市を中心となす平野の南緣をなす。沖積地は灌漑の便よく水田拓け、米を主產し外に繭・薪炭も少からず、また製粉工場あり。鶴岡市に至る街道赤川の右岸に沿うて通ず。赤川の東岸に沿ひて一村落をなし、黒川・寶谷・櫛代・田代・馬渡・松根の各大字を包含す。黒川には縣社春日神社鎭座す。四所明神を祀り、社領黒印五十六石一斗、毎年正月十三日夜中より翌朝にかけて村民徹夜にて能樂を奉仕するによりて著名なり。松根は湯殿山參道六丁里越の驛路にあたり、十王峠を越えて修驗者の峯落、大網を望む。鶴岡との間に積雪期間を除きバスを通ずるも、三山登山の道者の通行、昔の如き賑ひを爲さず。域内に最上院あり、最上氏の臣松根備前守光廣をまつる。光廣、知行一萬石にてこの地に城を構へしが、事ありて筑後立花家へ預けらる。正保三年、有緣のものこれを悼み古城址に建立せるものと傳ふ。松根の根椐に寶谷あり、山腹に穴居の跡を有し、明治二十四年字菖蒲池・砥澤等四ケ所に二十七の横穴を發見す。櫛代は羽黒山腹の窪地に位置を占め、箕造りを生業とせしが舊藩林の國有林となるに及び材料の採取困難となりしより、明治三十七年阿部晉吉氏の盡力に倣ち、月山直下の猿倉澤より明治堰を引水して開田に着手して以來、約三〇ヘクタールの開田に成功し、現在は純農村をなす。域内に明治堰の外、天保堰あり、共に灌漑に便す。〔天保堰〕天保三年灌漑用として東村越中山の人大舘藤兵衞の開鑿せしもの。田代・黒川・馬渡・寶谷の一帶を潤し、全水系二四〇ヘクタール、うち耕地整理區一三〇ヘクタールを潤す。明治二十七年の潤域は約五三ヘクタールなりしが、明治堰の完成後、その水をも導き入れ現在の大をなせり。

〔春日神社〕大字黒川字宮田に鎭座。縣社。祭神、建御賀豆智命・伊波比主命・天津兒屋根命・比賣神。創建年代を詳かにせず、風土略記に、黒川村四所明神、社領五十六石、一説に新山權現といへり。社僧を永樂寺といふ云々、と見え、また庄內物語に湯殿山西の麓に黒川村あり、黒川明神鎭座也、緣記不詳、此社、毎年正月三日夜より翌朝まで神事能有、社家百姓相傳て、或はシテ・ワキ、或は笛鼓の役とて、其家々に取傳て、猿樂の能藝、農業のいとまなき、又は城下に奉公する者も、其役をなすてす云々」とあり。右兩記を按ずるに、往昔は社領も多く、武將の崇敬深く、その祭典なども盛大にして一般の尊崇厚かりしものの如し。ここの能狂言は足利時代のものの原形を傳へ、有名なり。境內一・四ヘクタール。寶物として御幌及び鎧あり。例祭、五月十三日。〔黒川能〕古來より黒川村に行はれ來たれる能樂にして、一月十三日の夕頃より翌朝に掛けて縣社春日神社の祭典に神事として行はるる以外、年に數回同社に、また七月十五日は官幣大社月山神社の例祭に、また八月十五日は鶴岡市庄內神社の例祭に當りて奉納するもの。上座二四九首、下座一三九首に分ちて演ず。職業能に非ず凡て土地の農民の手によつて行はるる素人藝たることと、何れの流派にも屬さざることをその特色とす。先づ部落全體の百姓を上下の二組に分かち、兩組各々最年長者をえらび之を「當座」となし、當座宅に於いて徹宵能樂を奏す。當日は東西兩田川郡の各村より多數の參詣者蝟集し、これが當座宅へ多額の金穀を獻じ、その額は一切の費用を支辨してなほ相當に當座宅をうるほすを以て、老人のある家々はみな當座にあたらん事をねがひ、老人また長生を熱望し、ために一村の敬老思想きはめて厚し。かく黒川は村民農を業とするも、一村擧げて能樂をなすの風習にして、いまも、陰暦十一月一日より三十日間村內の子弟をして擧つて能の稽古をなさしむ。その起源の詳細は明らかならざるも、足利時代、後小松天皇の皇子小川宮の諸國御巡遊ののち本村に住み給ひしことあり、その折宮に從ひ來たれる侍臣劍持勘解由・遠藤某の兩人、觀世詩次の弟子にして能曲に通じたることより、村民の間に能をなすの風を生じ黒川能の元祖を爲せし如し。完成せられしは足利末期の如く、そののち次第に郷土色を帶び、古くより孤立せる爲め何れの流派にも屬さざる一種獨特の古風となれり。戰國時代は領主武藤氏に、江戸時代には酒井氏に厚く保護せられ、以て今日の隆盛を存續し來たる。黒川能之事「黒川村春日四所明神三神事能者古來兩太夫代々之亥傳授其職勤來候五年巳前卯正月中(文化四年)御上覽之後同二月中從御家老中之就御達彌夾守古來之傳授不安當時流行職分可致出精此段氏子役者共江茂申含旨申渡置之條右之旨兩太夫永相守役者共江可被爲指揮者也　文化八年五月　月番坂部九平、服部純藏　黒川村春日四所明神社僧就人大瀧六郎右衞門殿」以上の如き文獻あり。

【黒川】岩代國(福島縣)若松市の古稱。

至徳元年、蘆名直盛此地に城を築き代々蘆名氏此の城に居りて東北の重鎭たりしも、義廣に至り部下を御する能はず、老臣猪苗代盛國叛を伊達政宗に通ず。天正十七年六月伊達・蘆名の兩軍大に摺上原に戰ひ義廣破れて黒川城に入る。義廣を喜ばざる諸將出でて政宗に降りしかば、義廣遂に常陸に走り蘆名氏亡び、其封土伊達氏に併せらるるに至る。天正十八年八月、豐臣秀吉東征の時政宗の封を收め、黒川を蒲生氏郷に與ふ。氏郷其名を若松と改稱す。

【黒川】下野國(栃木縣)の古地名。和名抄、那須郡に黒川郷あり、其地今の那須郡鍋掛村・蘆野町・那須村等の邊に當るか。延喜兵部省式に、「下野國、黒川驛馬十疋」と見ゆ。東鑑元暦元年の條に上野國黒川郷あり、上野とあるは下野を誤りしものなるべし。黒川郷は同國雜記にも見ゆ。

【黒川谷】群馬縣勢多郡の渡良瀬川上游の總名にして、黒保根村・東村の二村を以て此の廣地を占む。新田老談記に弘治四年、桐生表には黒川谷より越兵攻め入ると見え、古戰錄にも永祿十三年九月、越後方、黒川谷寄居筋まで押入り狼藉をなすと見えたり。

【黒川村】新潟縣越後國中頸城郡の北東部。東の黒岩村、南の吉川村、西の下黒川村・柿崎町、北の米山村・上米山村によりて圍まれ、面積二九・九平方粁餘あり。北境中部に峙つ米山(九九三米)の南側斜面に當り、土地東北に高く西南に低し、黒川東北部に發し南流、ついで村の南部を西北流し、この川筋と支流の谷に耕地拓く。米を主產物とし多少の繭と薪炭を出す。村の南部大字芋ノ島より省線信越本線柿崎驛まで八・六粁、バスを通じ交通不便ならず。此地古くは和名抄、頸城郡佐味郷の內に屬せしものか。中世村名黒川は庄名に呼ばれたり。村內に猿毛城址あり。柿崎三河守(和泉守)景家の居城たり。のち上杉謙信、景家の織田信長に通ずるの疑を抱き、天正五年十一月平賀宗左衞門・吉江中務・本庄繁長等を遣はして之を伐つ。卽ち景家は其家臣七百餘人と共に戰死し城陷る。また村內に米山甚句を以て遍く世に膾炙せられたる米山(標高九九三米)ありて、其山頂に新義眞言宗の米山寺あり。※米山〔米山寺〕大字米山寺にあり。新義眞言宗豐山派。醫王山密藏院と號し米山藥師堂の別當たり。康平六年源義家の創建に係り、本尊の藥師如來は和銅五年泰澄法師の感得せる靈佛にして義家の守本尊たり。日本三藥師の一と稱せられ請雨の驗あるを以て知らる。元和六年永見志摩守吉次供田十二石餘を寄す。藥師堂は海拔約九九一米の山嶺に位し眺望絶佳なり。〔東牧寺〕大字東牧にあり。曹洞宗。金華山と號す。本尊慈覺大師作正觀世音菩薩。應永十八年の創建、開山は唐僧大道俊永禪師たり。いま末寺五箇寺を統ぶ。

【黒川村】新潟縣越後國北蒲原郡の東北部。南は赤谷村・川東村、西は菅谷村・中條町、北は乙村及び岩船郡保內村に隣り、東は同郡關谷村に界す。南北約二四粁、東西廣き部分にて一〇粁內外、面積實に一八〇平方粁の大村。越後山脈西側の山地にて、東境には地神山(一八五〇米)の一山脈北方に延びて鳥坂峠(九四八米)・朳禮山(六一六米)等となり、西界には二王子岳(一四二一米)の山稜また北西に走り、西北界には櫛形山脈、北界には藏王山ありて山地甚だ廣し。胎內川南界に聳ゆる藤十郎山(一三三二米)の北面に發し西北に流れ、中條町を過ぎて日本海に注ぐ。村の西北部にある櫛形山脈の西北麓と東北麓の部分には平坦地ありて田地・畑地拓け、米を多產しまた繭の產少からず。省線羽越本線の中條驛・平木田驛(乙村地內)に近く、後者と大字坪穴間にはバスの便あり。古くは奧山庄に屬し、のち專ら黒川鄕と稱す。鎌倉時代、和田義盛の六男義信の子豐前守義治、黒川鄕の地頭に補せられ此地に住し、子孫黒川氏を稱す。爾後相繼ぎて鄕士たり。降りて江戸時代享保八年柳澤吉保の二男時經、甲斐より轉じ一萬石を領し、此地に陣屋を置きて治す。これより子孫相繼ぎて明治維新に至る。今は衰へたるも古くは臭水の產地として知らる。書紀天智紀七年に越國燃水を獻ずと見ゆるは蓋しこの地ならん。越後巡見記に胎內川の邊の一村より臭水出で、カクマといふ草を編みて溝へ下げおくに油これに附着するを器へ採集す。一壺より日々五六升づつを採り一升の代價百四五十銅とあり。また產業事蹟に文政十一年江戸の人中川儀右衞門黒川の臭水を製煉し臭氣を去り火止を加へ、石油と命名し一升時價二百四十八銅にて江戸市中に販賣を初めしが、公儀より嚴命ありて停止せしめられし由見ゆ。〔增慶院〕曹洞宗。萬松山と號し、領主黒川氏の創建にして、開山は當國岩船郡耕雲寺南英謙宗なり。文祿元年耕雲寺剛安壽金之を中興す。のち上杉氏の歸崇を受く。慶長元年上杉景勝、會津に移封せらるるに及び、本寺亦從ひて移る。文政七年火災に罹り、のち再建せしも舊觀に及ばず。

【黒川村】新潟縣越後國三島郡の東部。長岡市の北西約六粁、北は與板町に、西は大津村に、南は日吉村に隣りし、東は信濃川との間に古志郡下川西村西部の地を隔つ。面積四・八一平方粁に過ぎざるも土地低平、黒川中部を北流し與板町に出でて信濃川に合す。水田至る處に拓け米を主產す。與板町・長岡市へバスの便あり、また社線長岡鐵道の槇原驛(大津村地內)に近く交通便利なり。中世古河庄の內に屬す。いま廣野・中田・南中・古津・蔦都・成澤・古川新田の七大字より成り廣野に役場を置く。

【黒川】→金足村(新潟縣)

【黒川】 長野縣上伊那郡を流るる川。諏訪郡・上伊那郡の二郡に跨る釜無山脈の南部白岩嶺(二二六七米)の西斜面に發し、戸臺川を合せ美和村大字黒河内を經て三峯川に合流す。甲斐駒ヶ岳登山西口はこれを遡行し、戸臺川に沿ひ登高す。流程約九粁。

【黒川村】 岐阜縣美濃國加茂郡の東部。西南は蘇原村、北は東白川・西白川の二村に、東は惠那郡明智村に、東南は同郡蛭川村に隣接し、面積五八・六平方粁餘あり。東境に二ツ森山(一二二三米)、南部に鈴岩山(九七九米)、東北境に寒陽氣山(一一〇八米)、北境中部に拾藤山(九八三米)あり、村内はそれら諸山の斜面にて略ど五〇〇米以上の高地をなす。黒川東境に發して中部を西流し、これに沿ふ狹長の低地に耕地と集落發達す。農業・林業を主生業とし米・麥・野菜・木材・木炭を出し、茶・銅鑛の特産あり、また製糸工場ありて生糸を產す。大字下ノ平より省線高山本線白川口驛(武儀郡坂ノ東村下麥)まで約一七粁、驛附近までバスの便あり。村名の起原に就ては黒川の川中に現はれし岩石の色黒きために黒川の名起れりといふ。本村は江戸時代は遠山美濃守の所領たりし地、當時、排佛思想の爲め寺院の破壞を命ぜられしことあり。

【黒川】 播磨國(兵庫縣)賀毛郡の古地名。風土記に起勢里にあり、應神天皇の世播磨國の田村に百八十村君ありて村別に爭闘を事とせしを以て、天皇これを此村に遣樂めて悉く殺し給ひき。其血黒く流れしを以て黒川といふとあり。起勢里は今は古瀬として加東郡福田村に殘り東・中・西の三大字に分る。これによりて黒川は同地を流るる東條川を稱せしものならんといふ。

【黒川村】 佐賀縣肥前國西松浦郡の北部。南は伊萬里町、北は波多津村、東は南波多村に隣り、西は伊萬里灣を隔てて山代町を望む。面積二五・六七平方粁、三境は高度二—三〇〇米の山地にて圍まれ、林地・原野廣きも、沿岸と東部及び東北部の山間には低平の地ありて耕地拓け、米・麥・甘藷・蔬等の農產あり。道路西岸を南北に通じ南方の伊萬里町、東北方唐津市方面とは交通不便ならず、海上交通は便利なり。往古のことは以て徵すべきものなし。いま大黒川・鷺屋・福田・小黒川・椿原・清水・横野・花房・立目・長尾・牟田・鶴手野・畑川内・黒鹽の十四大字よりなり大黒川に役場を置く。

【黒川村】 熊本縣肥後國阿蘇郡の中部。阿蘇谷の中部南半を占め、東は宮地町、西は永水村、北は内牧町・山田村に隣り、面積約四八・三平方粁あり。南半は祚島岳(一三二一米)・往生岳(一一三八米)の北斜面にて緩かに北方に傾斜し、北半は平坦にして一帶の耕地をなす。米・麥・玉蜀黍・蔬等の農產を出す。熊本市より大分縣直入郡方面への縣道中部を東西に通じ省線豐肥本線またこれと並走し内牧・坊中の二驛(大正七年設置)を置き、交通便利にして阿蘇登山口をなし、阿蘇國立公園の内に屬す。此地は和名抄、阿蘇郡阿蘇郷(高山寺本、阿曾)の内に屬す。一に阿蘇神宮寺の坊舍ありしより坊中とも稱す。坊中は今大字名に存す。村内に贄塚ありて一に二邊津嘉の城址ともいひ、沼中に二鳥ありて相並びたり。土俗これを阿蘇大宮寺の塞猫ありしと所といふ。思ふに此邊は阿蘇宮と呼ばれ、また大宮司の館を古く殿屋形と稱せし事諸書に見ゆれば、ここに居住せしことは明かなり、而し贄塚は本來古墳なりしを城塞に轉ぜしものならん。大字に役犬原あり、役犬とは古の狩場に因みて起れる名ならんといふ。ここにいま阿蘇神宮の摂社霜宮あり。其神事は舊暦七月七日より九月九日までの六十日間行はる。まづ神輿は火燒といふ假宮に移御せられ、選ばれたる十五歳以下の少女が鐵火によりて點火し六十日間晝夜の別なく火を焚き續く、九月九日の曉に御てぐちと鈴とを持ちし神樂男が「霜凝りの御前の松は千代の松云々」といふ神樂歌を唱へつつ祝子の先に立ちて渡り、これが終ると神輿は再び本殿に還御す。この祭は此地頗る霜多く農作物を害すること甚だ大なるを以て、これを除かんために祭りしものといふ。〔西厳殿寺〕大字黒川にあり。天台宗。雲生山と號し、また赤唐山諸安鎮國山とも稱す。舊阿蘇神宮寺にして聖武天皇神龜三年、天然の最榮讀師の創建に係る。天正年中一時衰廢せしが、慶長五年加藤清正堂宇を再建し大いに寺運を興隆す。寛永年中領主細川氏寺領五百石を附す。爾來寺運大に榮えしが維新に至り寺領悉く上地となり。更に本堂を現地に移す。寺寶中、般若心經一卷(國寶)は紺紙金泥、後奈良天皇宸筆、附從三位惟豐添狀一通。佛舍利御渡狀一通(國寶)は祇本墨書、懐良親王御筆、天授元年十一月の年紀と花押あり。

クロカワ　黒河

【黒河村】 富山縣越中國射水郡の東部。小杉町の南隣にて、富山市の西約一〇粁に位し南は婦負郡速名村に界す。面積僅に四・九平方粁、西南半部は金山丘陵地の北端にて五—六〇米豪の丘陵あるも、その他は平坦にして田畑多く發達し、米の產多く、多少の繭を出す。小杉町との間にバスの往來あり交通便利なり。此地古くは和名抄、婦負郡大乘郷(高山寺本大桑)の内に屬せしものか。中世は附近諸村と共に倉垣庄と稱せらる。

【黒河】 但馬國(兵庫縣)の古地名。中世の莊號にして、今の朝來郡生野町大字黒川及び山口村大字新井の邊一帶の汎稱。弘安中は、新井黒川保と云ひしが、康永の頃は、旣に二莊に分れたり。大田文、新井黒川保、十七町、(地頭粕原左衛門二郎)、當荒池尖一町四段百歩、佛神田二町七反、人給三町八反百十歩、定田九町八

十歩。

【黒河】 周防國(山口縣)の古地名。古散郡に黒河保あり。保名は正平二年の文書に見ゆ。其地今の吉敷郡平川村の邊に當り大字黒川はその遺稱なるべし。玉祖社文書に「周防國佐波郡大前村一宮玉祖御神用米(國衙沙汰之)在所注文事、云云、黒河保七段小、分米壹石四斗六升七合、云云、右當寺者、重源和尚之草創、國司土人之管領也、然間散在之免田等者、差里坪爲一員不輸之地、因茲在廳加證署、而誠後昆之狡戾、地頭出避狀、而守爾異之亂鑒畢、愛彼下作人等、頃年以來、猶慕武威、對捍土貫、不從寺役之間、任正治二年十一月日宣記坪付、所來寄進下地也、向後不可有相違之狀如件、貞和三年三月十一日、沙彌」

クロカワマタ　黒川俣村

【新潟縣越後國岩船郡の北部。村上町を去る北東約二六粁、南は鹽野町村・高根村、西は下海府村・八幡村、北より東北は大川谷村・中俣村に隣る。面積六四平方粁餘、越後山脈北部西面の山村にて、南境には北俣山西南肢なる笠取山(七三六米)・鰹山(七〇九米)等連なり、東境には陽急山(六三七米)の山嶺つづき、西界にも丸山(三九四米)ありて殆んど山地をなす。鹽木川東南部に出でて中部を西北に流れ西北隣八幡村に入り、村の中部に小低地ありて田畑拓け、米・繭の農產と、山地よりは木材・薪炭を出す。羽州街道は鹽野町村北部の鳥海峠を經て村の西南部に來り鹽木川に沿ひて八幡村に出づ。大字大毎より省線羽越本線鹽木驛(八幡村地内)までのこの街道上にはバスの往復あり。大字北中は古く大毎中村といへる山驛たり。いま北中・大毎・大洋・北黒川・中津原・荒川の六大字より成り北中に役場を置く。

クロキ　黒木

【黒木村】 島根縣隠岐國知夫郡の東北部。島前三島中の最大島たる西島の東北半部を占め、東は中井口を隔てて中島に對し中部に別府灣を控へ、南は知夫里島を望み、西南は西島の西南半部を占むる浦郷村につづき、北は日本海の波に洗はる。面積三九・八二平方粁あるも、南部には焼火山、北部には高崎山、西南部には茶茶山等ありて山地多く耕地少きも、多少の畑地・田地あり。沿海は好漁場にして漁獲物多く、水產加工品また少からず。用材・薪炭これに次ぎ多少の米を產す。東岸の別府港は松江・境・西郷間を往來する定期汽船の寄港地たり。字船引俗に船越と稱する地峡部に運河を設け浦郷半島迂回の不便を補ふに至る。此地古くは和名抄、知夫郡三田郷の地。郷は美多と讀じ大字美田はその轉訛せしものなるべし。又大字別府は古く島後の國府よりここに小官小吏を遣し島前を治めしむ、これより別府の名起るとも。或は別勅符の義にして古來府符往々通用す、卽ち印制に出たる名目なりともいふ。東鑑に別府の名見ゆ。別府灣の海岸に黒木神社あり、後醍醐天皇遷幸の時此地に行在所を設けられここを黒木御所と稱す。また焼火山の東南海岸に高さ約三米の巖窟あり、文覺窟として知らる。隠岐に配流されし文覺上人苦行の遺蹟にて字名に文覺あり。そこに文覺の墓所と稱する所あり。東鑑・文治四年十一月の條「廿二(一)日。辛亥。伸國朝臣訴事。被下獄御請文之上。所下可知在廳等給也。去月廿七日御教書。今月十八日到來。謹令拜見候畏。隠岐守仲國申三箇條事。是頼朝虎敗候(之)條。令成遁(遺)上下文候也。於一箇司惟頼沙汰。中村別府(符)者。左右只可有勅(勘)定候也。以此旨可令申上給候。頼朝。恐恐謹言。十一月廿六日　頼朝　下　隠岐國在廳等。云云」〔船引運河〕字船引にあり。美田灣が、南より灣入し北の外海と接近し通稱船越に於て地峡を形成す。ここに大正三年運河を開鑿す、その幅約七・三米、長さ約三二七米。運河の竣工により浦郷半島を迂回する時間勞力・危險等を節約防止するか得たり。〔くろきづた產地〕指定天然記念物。本村及び海士村に亙る。くろきづたは海草にして維藻植物管藻類いはづた科に屬し短きものは三糎餘なるも長きものは約六〇糎以上に及ぶ。常に安山岩等の石礫の上に黒色有機物の多き泥土の存する所に最もよく繁殖す。この植物は他の海草と異り胞子を有せず、夏季古き葉より盛に繁殖を生じて長く伸び且新根をも出して岩石につき、舊葉よりは新に繁殖を發生し後相離れて各獨立の個體となりて增殖す。舊葉の先端常に二筒の葉が叉狀に並べることを特徴とす。外國に於ける產地は紅海・大西洋及び南洋にして本邦に於ては此地以外には見當らず。〔黒木御所址〕大字別府、別府灣の東海岸出埼にあり。ここは後醍醐天皇の行在所の遺址と傳へらる。滿山松林を以て蔽はれし小丘にして天皇山及びその後方の尾の城(王城)一帶の丘陵に當る。天皇山は黒木山とも云ひ山上に黒木神社あり　附近に荒堀・空堀・お茶屋・西の屋・局の内等の地名を存す。海上の目付島は行在所の御警衛として往來の船舶を監視せし所といふ。〔焼火神社〕大字美田に鎮座。縣社。祭神、大日孁貴。當社は有史以前の祭城の遺跡なるべく、社傳によれば、一條天皇御宇の創建と云ひ、古く焼火社・離火社とも云へり。焼火の名稱は後鳥羽天皇の海上にて雜風に遭ひ給ひし時、當社に御祈願ありしに、社頭に當り火光見え、それにより御恙なく御渡鳥あり。其際、船中の御裝に「灘ならば藻鹽やくやと思ふへし何をたく火の煙なるらむ」と詠じ給ひ、御社參の砌、山號・寺號を下し給へりと云ふ。爾來焼火山と稱し、寺號を雲上寺と云へり。明治維新の神佛分離の際に寺は廢せらる。當社は古くより海上

儼護の靈神として海運業者の崇敬厚く、廣重の畫ける日本六十三景の內にも見え孤島の山中にある神社に拘らずその名通き社なり。燒火山は海拔五二五米、島前第一の高峰にして四時の風光佳絕。境內一千六十六坪。例祭、七月二十四日。

【黑木山】九州國東半島の中央部を形成する一峯にして、阿蘇火山脈に屬す。大分縣東國東郡上伊美村と西國東郡三重村との境界に峙つ。標高五〇八米。山體火山岩より成る。北稜は鷲ノ巢岳（四三七米）に、南稜は伊美山（四九七米）に續く。兩子山は南東方約四粁に當る。東麓を伊美川北流し、周防灘に注ぐ。南東に赤根溫泉湧く。

【黑木村】鹿兒島縣薩摩國薩摩郡の東部。宮之城町の東方に位し、これと佐志村を隔て、南は大村、北は大村の飛地に隣り、東は姶良郡山田村と界す。面積二〇・六八方粁、東南部は山地ふかく最高處は六七〇米に達するも、西北部には低地あり耕地やや拓く。農を主業とし米・繭・麥等を出し、また林產・畜產少からず。道路西北部を南北に通ずるも交通なほ便利ならず。中世、此地の邑主を島津豐州といふ。豐州は島津久豐の三子豐後守季久の後裔なり。季久初め大隅帖佐鄕を領有せしが、豐後守忠親の時、永祿十一年伊東氏に侵され邑を失ひしが、のち寬永十一年豐後守久賀の時、この地に移れりといふ。

クロギ　黑木町　福岡縣筑後國八女郡の略中央部。矢部川中流の低地に位し、南は川を界とし木屋村に對し、東は笠原村、西は豐岡村に隣り、面積三・五六平方粁。北半は山地、南半は平坦にして耕地拓け、米・麥の農產あり。矢部川上流にある諸村への門戶に當り木炭・木材等の集散地たり。省線鹿兒島本線羽犬塚驛に起る南筑軌道の終端驛にて輕油發動車及び自動車の運轉あり交通不便ならず。和名抄に上妻郡桑原鄕あり。いま大字に桑原なる地名存すれば或は此地附近を稱せしものか。古は當町及び木屋・笠原・豐岡・串毛の諸村を總べて單に黑木と稱したり。中世星野氏と同祖なる黑木氏の據りし地とす。黑木新藏人大夫なる者功あり。延元元年多々羅濱合戰に菊池・阿蘇は黑木・星野に敗れ、菊池武敏奔つて黑木城を保ちしが小貳賴尙に追擊せられて城陷るの由「九州軍記」「鎭西要略」等に見ゆ。のち黑木氏これに據る。九州軍記に永祿七年大友氏筑後に入るや、猫間城主黑木兵庫頭實久、朽網の手を通じて歸服す。のち天正十二年黑木氏誅戮せしが大友の諸將に攻められ黑木伯耆守家長自殺すと見ゆ。〔黑木の藤〕指定天然記念物。字上前祇園神社境內、社殿の前にあり。根元の周圍約六米五、地上約二米にて二本の太き枝に分れ、なほ數本の支幹あり。藤棚の長さにて測れる枝張は東西約五四米五、南北約七米三。本樹は應永二年三月、のち西征將軍良成親王の植栽と傳へられ、兩度の火災に遭ひしも年年開花し、花穗一・二米餘に達し紫藤の老樹また巨樹として代表的のものとす。

クロクイ　九六位山　四國山脈の九州に於ける餘脈の一峯。大分市の南東方約一三粁、大分縣北海部郡上北津留村と川添村との境界に峙ち、標高四五二米。主稜線は北東及び南西に走り、北方に戶塚山（二九五米）・姬岳（三八三米）連る。山中に九六位寺（圓通寺）あり、僧日羅の草創と傳へ、往古は盛なりしも天正十五年島津氏の兵火にあひて燒失し、衰へたり。今の堂宇は寬永九年の再建なりと云ふ。山頂よりの眺望は美しく北方別府灣の彼方に國東半島の山々を眺め、東方豐豫海峽乃至豐後水道の彼方に伊豫の群山を望み、西麓脚下には大野川の北流するを俯瞰す。南麓吉野村には名高き臥龍梅の古木あり、芭蕉の「吉野吉野かしこは櫻ここは梅」の名吟を傳ふ。梅の候には俳人等の杖を曳く者多し。

クロクラ　玄倉川　神奈川縣足柄上郡を流るる川。丹澤山塊の主峯丹澤山の南峯塔ヶ嶽（一四九二米）の西斜面より發源し、三保村大字玄倉を經て西南に流れ、清水村大字尾崎にて酒匂川の一支源河內川に合流す。塔ヶ嶽登山は此川を遡行す。

クロゴ　黑子村　茨城縣常陸國眞壁郡のほゞ中央部。小貝川の右岸にあり、東は川を界に鳥羽村に對し、南は騰波ノ江村、西は河內村、北は嘉田生崎村に隣接す。面積九平方粁餘、土地低平にして東半に田地、西半に畑地よく拓く。農產に米・小麥・大麥・甘藷・繭等を出し、近年桐の栽植・甘藷の加工食品製造行はる。縣道南北に通じ南は下妻町、北は下館町方面へバスの便あり、また社線常總鐵道の黑子驛（大正二年開業）置かれ交通便利なり。此地或は和名抄、新治郡月波鄕の內に屬せしものか。小田原記及び古戰錄に弘治二年結城の軍勢と南方小田原勢とが黑子千妙寺の邊にて合戰せし由を載す。大字西保末及び稻荷新田の地は中と保末と稱せられたる一圓の低野にして古の騰波江の跡なりといふ。村名の起源は詳ならざるも、野史に依るに大和時代に野見宿禰の子、此地に居を構へ黑子氏を稱せしによるといひ、また一に村內千妙寺住持十六世僧正亮守和尙（吉野朝時代觀應二年）の弟子に偉大なる神通力を有する護法童子といふ者ありしが、その童子の皮膚の色頗る黑きを以て俗に黑童子とも稱せり、蓋しこれに起因するかともいふ。大字黑子に駒城址あり。即ち建武年中、中門少將實寬これに據り北畠親房に應ぜり。また此地は指定史蹟大寶寺城址の一部を占む。〔千妙寺〕天台宗。東叡山金剛壽院と號す。貞觀年中慈覺大師の開創に係る。爾來寺運隆盛を極め、正平年中北朝崇光院より勅額を賜ひ勅願寺とせらる。天正十八年豐臣秀吉より下島札を賜せられ、慶長九年徳川秀忠に至りて寺領百石の朱印を寄せらる。當時寺中八院末寺五十三箇寺を有し上野東叡山寬永寺と並稱せられ巨刹たりしといふ。今は往時の一部を存すのみなれど境內廣濶。諸堂皆茅葺きなれど規模壯大なり。〔飯田軍藏〕本村の鄕士。兵書を好み軍機に通ず。夙に尊攘を唱ふ。元治元年三月藤田信等擧兵の事あるを聞き之に加はり總帥田丸直充に知られ奇兵隊長として每戰先鋒たり。後幕軍及市川黨と戰ひ功あり、九月廿五日部田野原に壬生軍を破り奮戰創を蒙り自刄せんとせしが止め療養中幕吏に捕へられ笠間の獄にて死す。市川黨之を惡むの餘り屍を水戶城外に送り磔刑に處せしといふ。大正七年正五位を贈らる。

クロコマ　黑駒村　山梨縣甲斐國東八代郡の東南隅。甲府市を距る東南約一四粁、御代咲村の南、金生村・花鳥村の東にて、南は上芦川村と南都留郡河口村、東は北都留郡笹子村に界す。面積四四・一平方粁餘、南境には御坂山脈の黑岳（一七二二米）とその支脈の釋迦ヶ岳あり、北境には笹子峠の西嶺京戶山（一四三九米）ありて殆んど山地をなす。笛吹川の支流金川は黑岳の東なる御坂峠の北面に發して中部の山谷を西北流し一宮村に出づ。川に沿ひて巾狹き低地ありて村の西北部の平坦地につづき畑地田地拓く。農業行はれて繭・桑・薪炭を主とし、米・麥を產す。甲府より鎌倉への東街道は金川の谷に沿ひ御坂峠（一五二五米）を經ゆ。大字上黑駒よりは甲府市までバスの便あり。此地は和名抄、山梨郡井上鄕の內なるべく、明治二十四年、上黑駒・下黑駒・藤野木の三村を廢し本村を置く。上代名馬を產せし地にして日本書紀・雄略天皇十三年九月の條に甲斐の黑駒の歌見え、續日本紀聖武天皇天平三年の條に甲斐國神馬を獻ずとあるも、此地なりといひ、書紀通證には「聖武紀、甲斐國獻神馬、黑身白髮尾、平氏太子傳曆曰、甲斐國貢一驪駒、四蹄白者」と引證す。また延喜兵部省式に甲斐國　水市驛馬五疋とあるは此地なりと稱せらる。大字藤野木は御坂峠の下の部落にして、駒木戶より六粁にして達す、駒木戶とは往昔の關所の址にして近世も口留番所の置かれし地にして黑駒牧場址なりといふ。日本書紀・雄略天皇十三年九月「木工猪名部眞根以石爲質、揮斧斲材終日斲之不誤傷刄、天皇遊詣其所而怪問曰、恒不誤中石耶、眞根答曰、竟不誤矣、乃喚集采女、使脫衣裙而著犢鼻露所相撲、於是眞根暫停仰視而斲、不覺手誤傷刄、天皇因嘖讓曰、何處奴不畏朕、用不貞心妄輙輕答、仍付物部使刑於野、爰有同伴巧者、歎惜眞根而作歌曰、阿拕羅斯枳、偉儺謎能陀俱彌、柯該志須彌儺皚、旨我那稱磨、拕例柯柯該武預、阿拕羅須彌儺皚、天皇聞是歌反生愴惜、喟然頹歎曰、幾失人哉、乃以赦使乘於甲斐黑駒、馳詣刑所、止而赦之、用解徽纏、復作歌曰、農播拖磨能、柯彼能矩盧古磨、矩羅祇制播、伊能致志儺磨志、柯彼能俱盧古磨」太平記嫁鎧・二「あら面白の牧狩や、三津の御牧か鳥養牧か、信濃に望月霧原牧、甲斐に黑駒立野の牧」里見八犬傳・七ノ五「滑路は二三才の比、驚などにや攫れけん、黑繩と中山の山間なる、樹の枝に挾れて、うち泣き侍りしを」〔黑駒の大梅〕指定天然記念物。紅白花一重小輪野梅性の老樹なり。根元の周圍約四・三五米、三大支幹に分れ其中の北方に出でたるもの最も大なり。梅の巨樹として有數のものなり。〔檜峰神社〕大字上黑駒に鎭座。鄕社。祭神、少彥名命・素戔嗚命・高皇產靈命・神皇產靈命。雄略天皇御宇に神領內より神馬を獻ぜしにより、官幣を授けられ、天平三年十二月再び神馬を獻ず。創建年代不詳なれども延喜式外社たり。一說に、黑駒の產土神にして當村開拓の時に方り齋祀さると云ふ。また國司藤原弘道の奏請により神階並に神坐山號の扁額を賜はるとも云ふ。貞觀十年神位從五位下に敍せらる。天慶二年二月藤原秀鄕、平將門征討の命を蒙くるや、當社に幣帛を奉れりといふ。往時、神號を藏王權現または神坐山權現と稱せしが、明治初年神佛分離に當り神坐山大神と改めしも　程なく舊稱なる現社號に改稱し次で鄕社に列す。例祭、四月二十五日・九月二十五日。〔稱願寺〕大字上黑駒にあり。時宗にして本尊阿彌陀如來。龍王山と號す。正應五年の創建開基は黑駒讚岐守。開山は清淨光寺第二世遊行他阿眞教上人たり。舊寺領三十九石餘。觀音堂に西國・坂東・秩父百番觀音像を安置す。

クロサカ　黑坂町　鳥取縣伯耆國日野郡の中部。日野川上流の谷地にて、東北根雨町との間に日野村を隔て、南は石見村、西南は日野上村、西北は大宮村に隣り、北の一部は西伯郡上長田村に、東南の一部は岡山縣阿哲郡千屋村に界す。面積五五平方粁餘、東南境・西北境とも六―七〇〇米の高度を有する山地あり中部に向つて傾斜し、日野川日野上村より來りその谷間を東北に流れ、これに沿ひて幅狹き低地あり。農產に米・繭、林產に薪炭・木材あり。省線伯備線と米子に至る街道この谷に沿ひて通じ、前者に上菅驛（大正十四年設置）・黑坂驛（大正十一年設置）あり交通不便ならず。此地古くは和名抄、日野郡日野鄕の地なるべし。また日野氏の居りし黑坂城あり。慶長年間關氏の城下町となりしが、關氏斷絕後ここに陣屋を置かれこの地方の治所となる。大正二年菅福村を合し、昭和十一年町制を布き、いま警察署・縣立日野農林學校等あり。石霞溪は名勝に指定さる。〔黑坂城〕大字黑坂にあり。鏡山城ともいふ。天正中日野義泰の居城、義泰上京

の際に乘じ弔義行軍てここに居る。のち足利氏義行の罪を責め自殺せしむ。毛利氏の時に及び吉川氏の領する所となる。慶長十五年關一政五萬石を賜りてここに居りしが元和三年に斷絶す。同年鳥取藩主池田光政の領地となり陣屋を置き、寬永九年池田光仲受封の後家臣福田丹波の保管に歸す。〔石霞溪〕指定名勝、大字荒神原にあり。石見川と日野川の合流せる生山の南北凡そ二粁に亙る花崗岩の峽谷。石見川に臨める所は殊に奇巖怪石に富み、天狗岩・桑岩・獅子岩・辨天岩・菲薬岩等の五嶺溪を壓し聳立す。また日野川に臨める處には鐘巖岩・摩天岩・旗畑岩等あり崖下に水神瀑懸る。〔聖神社〕代ノ原に鎭座。鄕社。祭神大國魂命。合祭稻背脛命・大日孁命・武甕槌命・經津主命・創立年代不詳。口碑に據れば平城天皇大同二年八月、村士高里新左衞門、及び井上勘右衞門、今の黒坂宿日守山の東麓に社殿を營み奉祭し奉りたるに基くと。古來聖權現と稱し村中の氏神たり。慶長年間關長門守、黒坂宿在城の時、社領三石五斗を寄る。池田氏領主たるに及び一石二斗に減ぜしが、維新の際上地し明治五年聖社と改め、後六年神の一字を添加し聖神社と改稱し、同五年鄕社に列す。社殿は某年炎上せしが、三十三年新に營まる。卽ち本殿・幣殿・拜殿・隨神門等を備ふ。境域三〇八七坪。合祭神は明治元年一村一祠の制に依り、當社に合祭せらる。例祭、十月十七日。

クロサキ　黒前

【黒前村】茨城縣常陸國多賀郡の中部。北は松原町・高岡村に、東より南は櫛形村・豐浦町・日高村及び日立町に隣り、西南は久慈郡中里村・賀美村に界す。面積五九・九平方粁の大村なれど阿武隈山地の南端部に當り、平均二—三〇〇米の高度を有する高燥狀の地貌を呈し林地多し。梁津川は中部を、花貫川は東北部を開析して東流し、前者は豐浦町、後者は松原町に出でて太平洋に注ぎ、その川筋に幅狹き低地ありて耕地拓け、農業行はれて米・大麥・小麥等を產し、薪炭を出す。金銀銅硫化鑛を產する日立鑛山及び高萩炭坑の夫々一部を成す。陸前濱街道より分岐する縣道は梁津川筋に沿ひて東西に通じ、省線常磐線川尻驛（櫛形村地內）へバスの便あり。村內に立割山あり。風土記に見ゆる角枯山（黒前山）は蓋しこれなりと。また一に角杭山といふは角枯の訛ならん。〔黒前神社〕大字黒坂に鎭座。鄕社。祭神、黒坂命。創立年代不詳。常陸風土記に黒坂命奥賊佐伯野佐伯を平げ還る。郡內角枯山に至りて卒す。後角枯を改めて黒前と號すと。蓋し祭神の墳墓の地に祠を建てしと謂はる。山に巨石あり、椏二丈餘、中斷して二片となる。一は立ち、一は轉ず。故らに毀すものの如し。古來領主の崇敬篤く江戸時代天保年間には藩主德川齊昭は社號を改め、二石四斗餘の地を除地とす。又近鄕の產土神と崇める。

【黒前山】常陸國（茨城縣）多珂郡の古山名。仙覺萬葉集所引常陸風土記・信太郡「黒坂命征二討陸奥蝦夷一事了凱旋、及二多歌郡角枯之山一、黒坂命遇レ病身故、爰改二角枯一號二黒前山一、黒坂命之輸轜車、發レ自二黒前山一到二日高見國一、葬具儀赤旗青幡、交雜飄颻、雲飛虹張、瑩レ野耀レ路、時人謂二之赤幡垂國一、後世言便稱二信太國一」と見ゆ。風土記標注にはこの山一に堅破山と云ひ、山上に權現社あり。古へ坂上田村麻呂東征の際、勸請せるものなりと。いま多賀郡黒前村の西北境に聳つ立割山（六五八米）を稱せしものならん。其南麓に黒坂の地あり。

クロサキ　黒崎

【黒崎村】新潟縣越後國西蒲原郡の東北部。新潟市の西南部に近く、その間に北隣坂井輪村あり。東北部は信濃川の下流を隔てて中蒲原郡曾野木村に、東南部は根岸村に相對す。面積二三・四平方粁、土地低平、特に西南半部は早通川の川筋に當り低濕にして大潟の沼湖あり。全村水田よく拓けて米の產額多く、多少の繭產あり。南方三條市より白根町を經て北方新潟市に至る縣道、東部を南北に走りバスの便あり。また近時新潟電鐵線通じ木場・越後大野・新大野・板井の四驛を置く。大字木場は新發田謀叛の際、上杉氏の新城を築きしところ。卽ち本城には鬈沼藤七、二ノ丸には山吉玄蕃を置くと。鬈沼は上野の人にて佐野の一家なり。大字黒島は康平の頃、奥州安倍の殘黨黒島兵輔なるものの居せし地にして黒島なる地名もこれより起るといふも、今これ等は全く事實無根なりとする說あり。〔威德寺〕大字黒島にあり。眞宗佛光寺派。本尊阿彌陀如來。創立年代不詳。應德年中南蒲原郡金背澤の城主羽生田周防守吉豊の祈願所たり、のち安倍貞任の殘黨のため破却せられ、時の住職雅祐黒島に遁け一宇を營む。初め眞言宗なりしが淨花院慶西法印の代、淨土宗に改め、文祿年中、心正院智道法師本宗に改む。文化十三年火災に罹り堂宇灰燼に歸す、現堂はその後の再建に係る。

【黒崎】石川縣江沼郡にありし村。明治二十年本村と橋立村を合併し、新たに橋立村を置く。

【黒崎村】岡山縣備中國淺口郡中部の南岸。玉島町（東）と寄島町（西）との間に位し、北は三和村に隣り、南は水島灘に面す。面積九・三八平方粁、西南境上に龍王山（二三一米）あり、その山肢東方と東北に延びて丘陵地をなし村內平地少く、唯西南部南ノ浦と東南部に小平坦地あり畑地は丘陵の斜面にも開け田地また少からず。農產は米・麥を主とし葡萄・葉煙草・薄荷の特產あり、水產また少からず。省線山陽本線金光驛へバスの便あり。此地古くは和名抄、淺口郡間人鄕の地なるべし。本村字沙美の海岸は海水浴場として知られ、字下水島・大ビシャク島・小ビシャク島は瀨戸內海國立公園の內に入る。沙美の海岸は後に老樹蒼鬱の丘岡を負ひ海岸に迫りて奇巖怪石起伏し、西南は海水を隔てて寄島の一青螺を點じ、其前面海上には水島・鹽飽の群島を望む。海濱は白沙青松相連り風景の美を極む。之より沙美の名起ると云ふ。海底は遠淺にして清澄の潮流西方より來り怒濤をあげず好海水浴場をなす。また沙美の八幡山麓に惠池あり、天明六年備中鴨方の鴻儒西山拙齋かつて中蔣子元と共に此地に遊び詩を賦して里民の淳朴を賞す。時の代官菅谷行春これを德川幕府に申告す。幕府白銀二十錠を里民に下賜して之を褒す。のち里民その事を不朽にし子孫に傳へ賜金を資とし池を鑿ち且碑を池塘に建て西山拙齋その碑に銘をなす。碑文に「惠池碑　本州沙美浦民俗淳美聞。鄰少比。寬政改元己酉三月縣令菅谷君行春過之。親驗其實。且狀聞之公朝。九月六日有旨。賞賜里民白金二十錠。於是公老相議謂朝賞不可浪費。廼資所賜開鑿一池于八幡山下。名曰惠池。示永世不忘也。因立石池上。屬文予余。余嘗有詩稱述。今又爲之銘。云云。寬政六年歲次甲寅春三月。備中西山正拜撰。阿波侍道怡謹書」

【黒崎】福岡縣遠賀郡にありし町。明治三十年町制を布き、大正五年大字前田を八幡町に編入し、大正十五年黒崎町を廢し八幡市に合併す。此地は洞ノ海の南岸に在りて舊名を藤田といひ、舊藩時代福岡藩この地を以て水陸の關津となす。地內に古城址あり、卽ち黒田長政入國の後豐前國境守禦のために築きし所にして家臣井上之房を置きて當部を司らしむ。此時より黒崎城と稱し市街を成すに至りしが、元和年中に至りて廢城となる。

【黒崎】省線鹿兒島本線の一驛（明治二十四年設置）。八幡市にあり。

【黒崎村】長崎縣肥前國西彼杵郡中部の西岸。東は三重村、北は神浦村に隣り、西南は海に面す。長崎市を距る西北約三〇粁、面積一七・七平方粁。西彼杵半島の西斜面にて東北より西南に傾斜し、海岸と其傾斜面の谷間に小低地ありて甘藷・麥等を產し又漁業行はる。縣道海岸に沿ひて南北に通ずるも交通なほ便利ならず。

クロサワ　黒澤

【黒澤峠】白木峠（岩手、秋田縣境）の別名。

【黒澤】秋田縣平鹿郡山內村の大字。省線橫黒線の黒澤驛（大正十年設置）を置く。

【黒澤村】茨城縣常陸國久慈郡の西北隅。大子町の北方に位しこれと佐原村・宮川村を隔て、北より東北にかけては福島縣東白川郡高野・高城二村に、西は栃木縣那須郡須賀川村に界す。地西北より東南に延び面積七二・六平方粁の廣きに亙るも八溝山塊の北部に當り西北境上には八溝山（一〇二二米）、西界には花瓶山（六八〇米）ありて東西方に傾斜し殆んど山林をなす。中部の谷地に沿ひ幅狹き低地ありて畑地・田地やや拓け、米・麥をはじめ茶を產す。山地よりは薪炭・山葵を出し、また製材工場ありて製材行はる。村の中央部なる大字上野宮より省線水郡線大子驛まで約一六粁、バスの便あり。此地は卽ち和名抄、陸奥國白河郡依上鄕の內とす。村名黒澤は中世の庄名なり。黒崎鄕は昔佐竹氏の屬黨、荒牧駿河守の館せる地なりといふ。また新志に據れば村內にある舊館は此地の地頭深谷氏の遺跡なり、深谷氏の出自は詳かならざるも文明年間既に此地に住せり。永正中、佐竹氏依上保を掠領するに及び深谷氏は其管下に屬す。天文中の地頭を顯衡といひ、のち佐竹氏羽州に移るに及び館廢すと。〔八溝嶺神社〕大字上野宮に鎭座。鄕社。祭神、大己貴命・事代主命。一に日光權現と稱す。傳によれば、景行天皇四十年日本武尊東征の砌に創立せられし社となすも明徵なし。承和三年、當社々域より沙金を多く出し、遣唐使の費用を助けたるを以て神位從五位下勳十等に敍せられ封二戶を寄せらる。延喜の制に小社に列す。古來、上下の崇敬厚く神饌供進および社殿の造營すべて藩主これを務む。殊に德川賴房等の尊崇著しく、除地十四石五斗餘を寄せ、當社の事すべて藩費を以て奉仕せり。社殿一宇にして、境內二千二百坪。常陸・下野・磐城三國國境の地を占め高峰四圍に聳ゆ。例祭、四月十七日。〔日輪寺（八溝觀音堂）〕大字上野にあり。天台宗。八溝山と號し、坂東三十三所第二十一番札所たり。白鳳十一年役小角の開創に係り、大同二年空海之を再興し本尊十一面觀音像を彫刻すと傳ふ。江戸時代德川氏より寺領若干を寄せられ寬永二十年火災に遭ひ伽藍烏有に歸す。明治十三年天災の爲め堂宇亡びしも、近時漸次舊態に復せり。御詠歌「ふみ迷ふやみぞの嶺の雲ばれて月の光を見るぞうれしき」「迷ふ身が今はやみぞへ參り來て佛の光山もかがやく」〔高德寺〕曹洞宗。本郡磐田村耕山寺末。慶長八年の創建、開基は黒澤城主荒崎駿河守藤原爲久、開山は舜嶺文藝和尙たり。〔慈雲寺〕大字町付にあり。新義眞言宗智山派。金剛山千手院と號す。本尊大日如來。創建年代不詳。開山は宥心法印たり。もと城州醍醐報恩院末にて、末寺二十餘院を統べ、寺領十六石六斗の朱印を有し、境內に雲綿・泉藏の二院ありて郡內屈指の名刹たりしが、後衰廢す。

【黒澤】山梨縣西八代郡磐和村の大字。富士身延鐵道の黒澤驛あり、甲斐國志によれば、慶長中角倉玄之公命を奉じ富士川の通船を開き萬世に利を被らしむ。當時鰍澤・黒澤・青柳を三河津となし駿州岩淵まで十八里、鰍澤・黒澤は河の左右に

對し留番所を置かれしといふ。而して往來の人々より路銭を取りしといふ。

【黒澤山】 中國山脈に屬する一峯。兵庫縣苫田郡一ノ宮村にあり。北方は入道山（七五二米）に連り、西方に摺形山（六四五米）あり。昔日山頂に虚空藏堂ありしかば虚空藏山の別名もあり。この堂は眞言宗萬福寺に屬す。寺は今倘存す。

【黒澤村】 島根縣石見國那賀郡の西南部。濱田町の西南約一二粁に位し、東は粁東村に、北は井野村に、西は三隅村に、南は美濃郡二川村と各々隣接す。三〇〇米内外の山地連亙し概れ高原狀をなし、三隅川は高原を縫つて南部をほぼ東西に流るるも平地に乏し。三隅川の流域に水田ありて米を主産しまた木炭も少からず。街道は南北及び東西に走り濱田町に自動車の便あり。本村は明治二十二年黒澤・上古和・下古和・河内（いま何れも大字）の四村を合併して本村を設く。

クロサワグチ 黒澤口 御岳山（長野・岐阜縣境）の登山口の一。王瀧口と共に表道と稱せらる。→御岳山

クロサワジリ 黒澤尻 岩手縣陸中國和賀郡の中部。北上川と和賀川との合流地の概れ平坦なる地域を占む北部は洪積層より成る臺地をなすも、地形學的には臺地の要素を備へず普通村畸野臺地と謂はるるものの一部を成す。何れも北上・和賀兩川の侵蝕地域、卽ち氾濫原の一部なる故に、段丘の發達は見るべきものあり。地質構造も簡單にして、大部分は洪積層が占め、沖積層は僅かに兩川近くに堆積されてあるに過ぎず。土性も砂と之に附隨し、壌土がその大部分を占む。故に泉水の外は、良水を得るに至難なり。當町交通の特色は、平和街道による連絡、岩谷堂との連絡に於いて見らるる。勿論、位置的關係よりして、南北の交通に重點は見らるるが、之に交叉する東西の交通が、更に黒澤尻町の交通業落としての特性を見出す。一言にして云へば、黒澤尻町は交通都市としてのみその生命ありと云ひむか。いま東北本線黒澤尻驛（明治二十三年設置）あり、横黒線を分岐す。商業やや盛なるも、消費町なる當町には重要なる產物を見ず。多くは中絶商業による間接的生產業なり。農業に於ては芹栽培の二毛作業の發達すべき要素を認むるのほか見るべきものなし。馬の中繼販賣は黒澤尻馬市として、頗敍に於て内地に冠たり。鎌倉時代多田氏これを領し、江戸時代南部氏に移封せられ、慶長八年參覲道路完成、同九年東町造營、寶永三年諏訪町造營の事あり、明治に至り、同二年江刺縣に、同四年盛岡縣に、同五年岩手縣に編入、同十一年には東和賀郡に屬す。同十四年平和街道開通し、同二十二年には町制布かれ同二十三年東北本線開通の事あり同三十一年には和賀郡役所を當町に置かる。大正に入り同九年都道大迫線、同十三年口内線・横黒線等開通せられ、昭和三年更に岩谷堂線開通す。昭和十年鐵興社、同十一年國產輕銀社設置せられ、同年都市計畫指定地となれり。

〔黒澤尻構址〕 黒澤尻驛の東半粁、北上川河岸に臨み杉の古木に圍まる三角形の小地域。前九年の戰蹟にて、安倍貞時の子黒澤尻五郎正任の據りし所と傳へ遂集の跡殘る。陸奥話記に「康平五年九月十一日官軍入鳥海柵（中略）卽擧正任所居渟彼郡黒澤尻柵攻之所射殺城徒三十三人被疵逃者不知其數」とあるは是なり。〔川岸觀音〕川岸北上川畔にあり。本尊は尺餘の金銅佛にして、印度渡來のものと傳ふ。八幡太郎義家の守本尊にして、和賀三十三番札所の一に當る。〔聚蹟記念碑〕東北電燈株式會社黒澤尻支社地内に在り。明治九年、明治大帝東北御巡幸の砌り、畏くも御駐蹕あらせられたる所なり。

クロジ 黒地川・黒血川 美濃國（岐阜縣）の歌枕。不破郡關ヶ原町にあり。今須峠の北なる溪澗にして、長さ約四粁あり、末は松尾山（標高二九八米）の北麓にて關の藤川に入る。この谷は細流なるも關路の要害たるを以て古より其名著れ、歌枕の名所なり。太平記に曆應元年五月、高師泰兄弟が此地に陣して奥州勢を扼止したる事を記し、前には關の藤川を隔てて、後には黒地川を控へて、其間に陣を取りしこと見ゆ。藤川記「自波は岸の岩根にかかれども黒血の橋の名こそかはられ」堯孝の豐富士記「立寄りて見れば名のみぞ黒地川くろき筋なき瀧の白絲」

クロシマ 黒島

【黒島村】 石川縣能登國鳳至郡の西南岸。南の鹿地村と北の諸岡村の間にあり。面積僅に〇・九六方粁の小村。東南半部は山地、西北部に小低地あり八ヶ川その北部にて海に入る。畑地・田地拓け蘭・米の產あり、また水產少からず。輪島街道に當り、東方穴水町へはバスの便あり。此地古くは和名抄鳳至郡櫛比郷の内に屬す。本村は純漁村なるを以て男子十五歳に達すれば始めて出漁す。これを青首といひ、この際親戚等を招きて祝宴を張る。之を青首祝と稱し縣下奇習の一に數へらる。

【黒島村】 長崎縣肥前國北松浦郡の南部。相浦町の西方、平戸島南部の東南方約八粁の海上に浮ぶ黒島より成る。東西約四粁、南北約二粁、面積四・八九平方粁あり。山地東西に延びて傾斜地多く、南岸には小崎ノ鼻、西端には女瀬ノ鼻突出し、南面には海星多し。海岸所々に併地開け集落をなし、主として漁業行はる。他町村との交通は發動機船による。

クロジョー 黒條村 新潟縣越後國古志郡の西北部。南は長岡市の北界と富曾亀村の西部を隔て、東は新組村に、西南より西北にかけ上川西村・下川西村に接し、東北は南蒲原郡中之島村に隣りす。面積九・九三平方粁、信濃川西部を北に貫流し、土地低平にして田畑廣く、

米を主產しまた繭を出す。長岡市・三條市間の道路に當りてバスの便あり。また省線信越本線の城岡・押切（中之島村地内）の二驛に近く交通便利なり。いま高見・下下條・黒津・河邊・天神・十二潟の六大字より成り高見に役場を置く。

クロス 黒須川 武藏國（埼玉縣）の歌枕。いまの入間郡豐岡町の大字黒須の邊を流るる入間川を黒須川と稱せり。回國雜記「くろす川といへる川に、人の鵜つかひぼべるを見て、岩がねにうちかふ水のくろす川鵜のゐる影や名になかれけん」

クロセ 黒瀬

【黒瀬】 三河國（愛知縣）の古地名。和名抄、設樂郡に黒瀬郷あり、其地今の南設樂郡海老町・長篠村・風來寺村の邊に當り、風來寺村の大字玖老勢は其遺稱か。改正後風土記に武田勝頼火攻の時、ただ二騎を從へて、長篠を落延て黒瀬の小松が瀬を渡り、設訪法性上下大明神を前立にしるしたる秘藏の兜を脱で道に捨てたりとある黒瀬は此地に當るか。作手村の大字にも黒瀬あり、今何れか詳ならず。

【黒瀬】 →明治村（高知縣）

【黒瀬村】 長崎縣肥前國西彼杵郡の北西部。西彼杵半島北部の西岸を距る約三粁に浮ぶ大瀬の地を含む。東は面高村・七釜村に對し、西南は鯛ノ浦島（崎戸村）に近くその間に中戸瀬戸を挾む。南北四粁を超え東西は三粁内外にて面積一二・二八平方粁を有す。百合岳の脈東偏して南北に延び傾斜地多きも畑地よく拓け田地も少からず。農產に米・麥・甘藷あり、水產多く林產なも出す。東北岸の大字黒瀬は面高その他への交通の中心なす。

クロセダニ 黒瀬谷村 富山縣越中國婦負郡の東南部。八尾町の東南に接し、西と南は卯花村に隣り、東北は神通川を界として上新川郡大澤野村と相對す。面積二一・一平方粁。南境にある御鷹山（高距約六百位）の山脚は、村の中部を北方に延亙して北陽杉原村の南部に及び山林をなすも西境を北流する久婦須川と東北界を西北流する神通川の沿岸は土地低平にて田畑拓け、米を主產し、また繭を出す。省線高山本線の笹津驛（大澤野村笹津）・越中八尾驛（保内村福島）に遠からざるも交通なほ便利ならず。〔本法寺〕大字宮腰にあり。法華宗。長松山と號す。正和五年日順の開創に係る。應永元年日乘之を城中に移せしが、永祿元年日球の時授蘭を避けて現寺地に轉じ堂宇を修興す。當時境内廣濶、堂宇莊嚴なりしが、明治四十三年災厄に遭ひて焼上す。近年日晉堂宇を再建して大いに寺觀を改む。寺寶中、法華經曼荼羅圖二十一幅（國寶）は紺木著色、各三副一鋪の掛幅にして、法華經二十八品の意を一幅に一品又は二品づつ畫く。嘉暦元年より同三年に至る年月日のあるものあり、以て是利末期の作たるを證するが、また「雲工堀明」「雲工□□隻」「勧進僧淨信」と識すものあり て、筆者及び勧進僧を知る。序品一幅は後補。〔正福寺〕大字土にあり。眞宗本願寺派。龍吟山と號す。創建年代不詳。もと眞言宗たりしが西信法師、本山覺如上人に歸依して本宗に改む。明治二十九年火災に罹り堂宇焼失す、其後本堂・庫裡・書院等を再建す。

クロタ 黒田

【黒田里】 美濃國（岐阜縣）の歌枕。今その所在詳かならず。慰草「よもすがら光はみせようぞ玉のくろたの里にさける卯の花 正徹」一に此の歌を愛知縣葦栗郡にありし黒田村（今は本曾川町となる）の地なりともいふ。

【黒田川】 美濃國（岐阜縣）の古地名。今その所在詳かならずもめにたてゐ人なかりけりうぞ玉のくろたの川にふれるしら雪 長明」

【黒田】 伊勢國（三重縣）の古地名。和名抄に飯野郡黒田郷あり。東鑑文治三年の條に伊勢國黒田莊とあるは垂藝郡黒田郷か指せるもの。神鳳抄には飯野郡黒田郷、田六十町と見ゆ。地は凡そ今の飯南郡花岡町の邊にして、同町の大字に大黒田・小黒田の名あり。

【黒田】 播磨國（兵庫縣）の古地名。中世の莊號なり。明應六年の記文に見えて、國白渡領なり。また神祇官も之を領せしものの如し。いま明石郡平野村大字黒田は莊名の名殘なるべし。宮鳥記「黒田莊、以御書置□遣伯郷不入手之間、□申云々明應六年十月十日云々」伯家部類記「神祇官領播磨國黒田莊」

【黒田】 播磨國（兵庫縣）の古地名。播磨風土記に託賀郡黒田里と見え、その土の黒きを以てこの名ありといふ。和名抄に多可郡黒田郷あり。地は今の多可郡黒田庄村に當る。播磨風土記・託賀郡「黒田里、（賀布山、支閇岡、大縣野）土下上、右以土黑、爲名」

クロダ 黒田

【黒田】 →慕別村（北海道中川郡）

【黒田】 愛知縣葦栗郡にありし村。明治二十七年町制を布き、同三十九年黒田町は黒小牧村・玉ノ井村の二村と共に廢し新に黒田町を置き、同四十三年本曾川町と改稱す。此地は往時黒田莊或は松田庄と稱せし地にして國太暦に長講堂領、法金剛院領、尾張國黒田莊とあり、また東海道の一宿驛にして、名所圖會に黒田宿は東鑑に見えたりとあり。また古來歌枕の名所として知らる。夫木・三一「みちこちも今はた見えずうぞ玉の黒田の里の夕やみの空 爲相」

【黒田村】 三重縣伊勢國河藝郡の南部。津市の北方に近くこれと一身田町を隔て東は上野村・豐津村に、西は大里村に隣り、面積八・六一平方粁を有す。西北部に低き丘地あるもその他は概ね低平にて田地・畑地廣し。米を第一に、蔬・麥・雜穀等の農產を出す。社線參宮急行電鐵

伊勢線伊勢上野驛(上野村)・豐津浦驛(豐津村)に近く、また津市にも遠からざれば交通不便ならず。和名抄に奄藝郡黑田郷(久呂多と訓註あり)と云ふは本村及び上野村等ならん。東鑑文治三年の條に伊勢國黑田庄・二位經俊領とあり、神鳳抄に北黑田南黑田御厨とあるも之に同じ。

【黑田村】 京都府丹波國北桑田郡の東南部。西は山國村、北は知井村に隣り、東は愛宕郡花香村、南は同じく鞍馬村・雲ヶ畑村に界す。前北約一六粁、東西四粁内外、面積六五平方粁を有す。丹波高原の東北部に當り到る處山地にて南北兩境には九百米以上の地少からず。大堰川の上流中部を刻割して東西に貫きその川筋にやや低地ありて田畑をなす。木材・木炭等の林産を主とし農産には米を出す。大堰川に沿ひて道路通ずるも交通はなほ不便なり。大堰川の水流を利用し、村内に京都電燈黑田發電所あり。

【黑田驛】 出雲國(島根縣)意宇郡に置かれし古驛。郡家所在地にあり、もと其西北二里にありしを此處に移せしものといふ。延喜式兵部省式に驛名見え驛馬五疋とあり。出雲風土記、黑田驛、郡家同所。今郡家西北二里有二黑田村一、土豐色黑、故云二黑田一、舊此處有二此驛一、即號曰二黑田驛一、今屬二郡家東一、今猶追二舊黑田號一耳」その地八束郡出雲郷村大字出雲郷に當り、その舊驛址は竹矢村大字竹矢の邊とす。

【黑田村】 編入縣郡前國京都郡の北部。行橋町と西南方田川郡香春町のほぼ中間に位し、前者とは約六粁、後者とは約八粁を隔つ。東北は延永村、東南は稗田村、南は久保村、西北は諫山村、北は椎市村なり。面積七・九三平方粁、北西境には丘陵性山地あるも、中部より東北部にかけては平坦地ありて耕地よく拓け、米・麥等の農産を出す。行橋・香春へはいづれもバスの便あり。此地は古く和名抄京都郡諫山郷の内とす。いま上黑田・箕田・中黑田・上田・下黑田の五大字より成り上黑田に役場を置く。〔綾塚古墳〕大字中黑田にあり。圓形の大古墳にして巒香巷み成し巨大なる石室あり。其石室は二室に別たれ、奥室は長さ四米、幅三・五米、高さ四米あり。羨道は宏大にて現在長さ一三米を存するも、更に九米を存せしものの如く全長約二二米に達す。奥室に破損せる那須石棺があり黑田の郷屋といひ女體宮(女帝神社)と稱せらる。又附近にある立花塚にも同様なる石室あり。〔黑田神社〕大字中黑田に鎮座。郷社。祭神素戔嗚命・應神天皇・菅原神。創立年代不詳。地方の古社にて、江戸時代には落主小笠原氏の崇敬篤く、社領の寄進、社參、新願等の事あり。例祭、四月二十四日。

クロタキ　黑瀧

【黑瀧山】 那須火山脈淺間火山群に屬する一峯。群馬縣北甘樂郡下仁田町の西方約八粁、同郡磐戸村に峙つ。標高八七〇米。山麓に黑瀧山不動寺あり。關東黃檗宗の中本山にて關東高野山の稱あり。寺は元正天皇の御宇行基作の不動明王を安置し、のち嵯峨天皇の勅願寺となれり。寛延年間、中興開山潮音和尚の際、伽藍建立せられ、寺院の形整ふ。朝廷諸侯の歸依を受け、黑瀧派と稱し末寺二百餘に及びしが、今は諸堂荒廢に歸す。山中奇巖多く、殊に日東・星中・月西の三岩は名高し。その他三十三觀音・九十九谷等の勝景あり。紅葉期は美し。

【黑瀧山】 越後山系彌彦火山群の一峯。新潟縣西蒲原郡彌彦村に屬す。國上山(三一三米)の西北に連り、麓に入道山と稱す。山中に黑瀧城址あり。飯田氏の城なりしも天文十九年落城す。

【黑瀧村】 奈良縣大和國吉野郡の北部。吉野川の一支黑瀧川上流の山谷。吉野町秋野村・下市町の南、天川村・宗檜村の北に隣る。約五三平方粁の面積を有するも東境には大峯山の北部に當る大天井ヶ岳(一四三九米)・四寸岩山(一二三六米)南北に連り、その支脈西方に流生して南境上にほ扁形山(一〇五三米)・槍ヶ岳(七八四米)、北境には百貝岳(八五三米)・高岳(六一八米)等となり、到る處山岳重疊す。黑瀧川(丹生川)東部に發し中部を西に流れ、西隣白銀村に出で、その谷地に沿ひて多少の田畑拓け集落點在す。林産を主とし農産に米・蒟・麥等あり。北隣秋野村を經て下市町へ道路通ずるも交通なほ利便ならず。中世には黑瀧莊の名あり。町村制實施に際し、南芳野村と稱し丹生村なも合併せしが、明治四十五年丹生村を分離し、その殘餘を以て、黑瀧村を建つ。〔河分神社〕大字中戸に鎮座。郷社。祭神、武甕槌命・經津主命・天兒屋根命・天照皇大命。創立年代不詳。近郷數ヶ村の産土神。もと四社神社と稱せしが明治二十九年現社號に改稱す。例祭、十一月申酉。

クロダケ　黑岳山

關東山脈秩父山塊に屬する一峯。大菩薩連嶺の南部に位す。山梨縣東山梨郡奥野田村と、北都留郡七保村・大月町の境界に峙つ。標高一九八七・五米。陸地測量部發行地形圖にはこの標高の山に小金澤山の名を記しあれど、小金澤山はこの北嶺にして標高二〇一四・四米の峯なり。山麓黑木の密林に掩はるるが故に山名出づ。甲斐國志・郡村誌等にも黑岳山の名稱見ゆ。山頂より南方には甕峰富士との間に丹澤・道志兩山塊の群山を一眸に收む。登路は南東方鼻木澤より大峠を經て山頂に通ず。

クロダショー　黑田庄村

兵庫縣揖斐國多可郡の東部。西脇町の北隣にて、東南は比延庄村、西は中町・日野村に接し、北は氷上郡久下・小川・和田の三村に界す。面積三五・三二平方粁、東半部は山地、西境にも二—三百米邃の山脈南北に連るもその中間は加古川中流の流域にて、平地南北に長くつづき田畑よく拓け畑地も少からず。農産は米を第一とし、麥(裸麥・小麥)・繭・蕎麦・茶等とし、蠶製品も少からず。工産には絹織物の産多し。縣道南北に通じて南は西脇町、東北は綾原町へバスの便あり。また社線播丹鐵道また加古川の東方を南北に走り、黑田庄・喜多・本黑田・船町口の四驛(喜多驛は大正十五年、其他は大正十三年開業)を設き交通便利なり。播磨風土記に黑田里と見え、和名抄に多可郡黑田郷と云ふは本村の邊を指せしもの。〔兵主神社〕大字岡に鎮座。縣社。祭神、大己貴命。和銅天皇延暦三年の創建と云ふも、當社の事蹟詳かならず。延喜の制に小社に列し、當郡六座の一たり。明治七年二月郷社に、大正八年十二月縣社に昇格す。例祭、十月十四日。

クロタニ　黑谷

【黑谷】 京都府愛宕郡八瀬村の東部にあり。比叡山四谷の一なる西塔の北谷にして、延暦寺の別所青龍寺あり。此處にて僧源空(法然上人)修道研覺し淨土宗を唱ふ。京都の金戒光明寺を新黑谷と稱するに對して世に本黑谷といふ。

【黑谷】 京都市神樂岡の東南、鹿谷の西にある丘陵。法然上人移りて布教せし所。金戒光明寺あり。世に新黑谷といふ。好色二代男・三「さるかたの下屋敷へ是非よれと、黑谷の邊に竹一村のかま一あつて見た所はさもなく、門に入てのびしき、是を新隱れ里といひならはし、上京の人の避山所とや」

クロダハラ　黑田原

省線東北本線の驛(明治二十四年設置)。栃木縣那須郡那須村寺子にあり。

クロツ　黑津　近江國(滋賀縣)の歌枕。

黑津庄または黑津里ともいふ。地は今の栗太郡下田上村大字黑津なりと。輿地志略には黑津ば古歌に「たなかみや黑津の庄の漢男あしろ守るとて色の黑さよ」と詠はるる地なりと見ゆ。散木集「つかなみの上に夜なる夜な旅寝して黑津の里になれにけるかな　俊重」

クロツチ　黑土村

編入縣郡豐前國筑上郡の東北部。西北は八屋町に近く、これと手東村を隔て、東北は三毛門村、東南は西吉富村、西南は横武村に隣接す。面積四・三六平方粁に過ぎざれども土地低平にして田畑多く拓け、米・麥その他の農産に富む。八屋町・中津市(大分縣)にも遠からず、交通不便ならず。此地は往時黑土莊と稱せられし地にて永久二年の文書にも見え、鎌倉時代寺多院領なりしと。東鑑・建暦三年五月の條に「十日。庚戌。天霽。日光山別當俱馬法眼拂覺預二勅功賞一、即召二御所一、爲二僧徒身一。是戰場、忠節之至。尤被二感悲一。之山。以二相州一。被仰之。拂覺浪申云。奉二新將軍家御壽算一之間。呪咀靈氣之祟。猶以可二降伏一。況所レ令二現形一之御祈。蓋謀レ之歟云云。所拜二領鎮西土黑庄一也。又出雲守長定家二同賞一云云」とある土黑庄とは蓋し黑土庄の誤りなるべし。いま烽井・久路土・堀立・梶屋・小石原・皆毛・高田・廣瀬・鬼木の九大字より成り烽井に役場を置く。

クロツボー　黑頭峯

黑頭山とも云ふ。丹波高原に峙つ一峯。京都府天田郡福知山町の南方約二〇粁。兵庫縣多紀郡北河内村・大山村と氷上郡國領村との三村境界に峙つ。標高六二一米。山體秩父古生層より構成せらる。北麓は直に佐伯峠最高點に連る。北麓を竹田川北西流す。

クロト　黑戸

【黑戸濱】 また畔戸濱に作る。地は今千葉縣君津郡木更津町より金田村大字畔戸の邊に至る海濱一帶を稱せるものならんといひ、また千葉郡稻毛の邊ならんともいふが詳かならず。更級日記「まどろまじ今宵ならではいつか見ん黑戸の濱の秋の夜の月　菅原孝標女」

【黑戸橋】 越前國(福井縣)黑生郡の歌枕。その地いま詳かならず。方角抄「たれぞこの れざめてきけばあさむつの黑戸の橋をふみとどろかす」

クロナギ　黑薙

↓片貝谷村(富山縣下新川郡)

クロノ　黑野村

岐阜縣美濃國稻葉郡の西北部。東南は岐阜市の西北郡に接し、東は當郷村に隣り、南は川武村・木田村、北は方縣村に隣り、西は本巣郡西郷村に界す。面積七・七平方粁餘。北境に高さ一五〇米程度の丘陵東西に連亙する外は平坦にして、東部には田地、西部には畑地多し。農産は米・麥・稗・粟・野菜を産し、また獣皮を出す。岐阜市に接し交通の便よし。此地は和名抄方縣郡鵜飼郷の地にて、古くは鵜飼の郷また鵜飼黑野と呼ばれし地。明治三十一年鵜飼村を黑野村と改稱。別名の起原に就ては、當地方が一般に腐蝕土の黑土より成るを以て名附けしといふも詳ならず。鵜飼發祥の地として名高く、朝廷との關係深く御贄の魚を奈りし事屢〻なり。戰國時代より現在の岐阜市長良に鵜飼を移せり。大字折立は鵜飼庄の本里なりと稱せられ、此地に鵜舟なし。大字古市場は新撰志によれば日本靈異記に「聖武天皇御世、三野國片縣郡少川市」とある少川市の地ならんといふ。〔黑野城〕大字黑野にあり。文祿二年加藤遠州の子、作十郎貞泰、四萬石を賜はり、甲州谷村より此地に移り築城、庚子の亂に西軍に屬せしが、のち東軍に歸し本領を安堵す。居ること十七年にて伯耆國米子に轉じ廢城となる。今荒漠四周し、その内やや高くして竹林を繞す。〔黑野別院〕真宗本願寺派。大正五年本願寺准如の開創に係る。明治二十四年濃尾大震に堂宇倒壞し、爾來再興に努め漸次舊に復す。其後別院となる。

クロノダ　黑野田

↓餘子村(山梨縣)

クロバネ　黑羽町

栃木縣下野國那須郡の東部。那珂川上流の左岸に沿ひ、

西は川を隔てて川西町・湯津上村に對し、北は兩郷村、東は須賀川村、東南は大山田村に隣る。面積五三平方粁に餘るも東境には八溝山の支脈南北に連亙し、その北部に御亭山(五一三米)あり、土地西方に傾斜し山地多し。西境を南流する那珂川に沿ひ、幅狹き平地ありて田地拓く。半農・半商の町にて主産物に米・葉煙草・木材・薪炭を出し、また鮎の產あり。社線東野鐵道の黒羽驛(川西町黒羽向町)に近く、また驛より町の中部を東西に横ぎる道路は東隣須賀川村に通じバスの便あり。和名抄に那須郡方田郷とあるは蓋し此地にして大字片田は其遺稱なり。國誌に據れば太田原備前守丹治資清(入道永存)の長男高増は、大關彌五郎平増次の滅亡するに及び其家督を相續し大關右衞門佐と號す。のち入道安碩といふ。其先は武藏國丹黨より出で丹治眞人の姓なり。世々那須家の羽翼にて武功の家筋たり。但し大關氏はもと平姓にして常陸國小栗御厨庄大關郷より出づと。また野史に據れば大關増次は太田原資清と相爭ひ天文十一年資清、増次を黒羽に襲ひ、増次は石井澤に敗死す。のち増次の父宗増(入道道圓)、資清と講和し、資清の子高増を以て養子とす。高増居を白旗城に徙し天正四年更に黒羽に城くと。當町名の起原は古き文獻口碑に存する所を見るに古は黒埴(くろはに)と稱せしものの如し。蓋し此地肥沃にして物產豐かなりしを以てならん。後黒羽と轉訛す。〔黒羽城〕其址は市街の北方約二二米の段丘上にあり。中世那須七黨の一たる大關氏この地に據る。天文年間大關増次は太田原資清と戰ひて敗死し、その子高増は那須資胤と烏山に戰ふ。のち豐臣秀吉、那須氏を滅ぼし大關資増をこの地に封じて一萬三千石を與ふ。慶長五年關ヶ原の役に東軍の岡部長盛等こゝに陣して上杉氏に備ふ。爾來大關氏は德川氏に仕へて一萬八千石を賜はり子孫相繼いで明治維新に至る。明治戊辰の役には官軍に屬し奧羽征討に出で大功あり今猶ほ城壁の一部を存す。城址は城山公園と稱し櫻樹多く開花の季には雜沓す。〔作新館〕始め何陋館といふ。文政三年藩主大關増業の設立する處にて、皇漢學及び鈴劍弓砲等の諸術を敎授す。のち廢絶せしが、安政四年大關増式の時また設立し、明治四年大關直増官地一反三歩を借り受け學舍の敷地として更に新築し、現米百五十石を以て永く學資となす。同年七月廢藩後閉鎖す。〔大雄寺〕曹洞宗。黒羽山。應永十一年餘瀬村に創建、開山は臨濟宗天日中峰派の劫外和尚。應永三十三年那須太郎資之、五郎資之と戰ひ寺内に亂入す、爲に堂宇・什寶悉く燒失す。天正四年大關高増現地に移建し本宗に改め、玄隣和尚を請じて中興開山とす。爾來大關家の菩提寺となり今日に至る。

クロハマ　黒濱村　埼玉縣武藏國南埼玉郡の中部。元荒川は西南境を流れ、川を隔てて西は蓮田町、南は河合村に面し、東は慈恩寺村、北は日勝村・篠津村に接し、面積一〇・四平方粁あり。土地概ね平坦にして東南部には田地、西半部は畑地拓け、東北部は林野多し。農を主業とし米・麥・繭等を產す。省線東北本線の蓮田・白岡(日勝村地内)二驛に近く交通不便ならず。本村は近世、埼玉郡岩槻領に屬せり。大字城は箕輪郷騎西庄に屬し、岩槻城附の村にて享保の頃、米津梅千之助に賜はり、のち子孫續いて知行す。大字實ヶ谷は郷庄の唱は大字城に同じく、岩槻領分なりしが、のち館林殿の御領地となり、寶暦年中、米津播磨守に賜はり、寛政年中、故ありて幕領となり、文化年中、横田甚右衞門・渡邊捨次郎に賜はり、小久喜・千駄野(共に日勝村の大字)及び實ヶ谷に入會の新田は享保十七年、八木淸五郎の檢地にて同人の支配地となり、明和年中、松平大和守に賜はりし地なり。大字江ヶ崎も箕輪郷騎西庄に屬し、往時は岩槻領地にして、のち幕領となり、明和七年松平大和守に賜はりし地。大字黒濱は箕輪郷太田庄に屬し、岩槻城附の村にして大岡氏の領地たり。元祿十三年、小笠原佐渡守の檢地せし地。大字犍山も箕輪郷太田庄に屬す。もと黒濱村の内なりしが、元祿後に分村せりと云ふ。寛永五年、阿部對馬守の檢地にして、のち大岡主膳正の領地たりし地なり。

クロバル　黒原山　九州山脈に屬する一峯。祖母山(一七五八米)の南東方約二六粁。宮崎縣東臼杵郡北川村に峙つ。標高八八一米。山體斑岩より成ると。北西稜は矢立峠最高點(八九五米)を經て桑原山(一四〇八米)に連る。東麓を本川、西麓を親子川共に南東流す。南麓にこの兩川の流域を結ぶ山道通ず。

クロビ　黒檜山　→赤城山(あかぎ)(群馬縣)

クロヒジ　黒肥地村(くろひぢ)　熊本縣肥後國球磨郡の東部。人吉盆地の東北部に位し、東は水上村、南と西は多良木町に隣る。面積約三六平方粁、北境は九州山脈に屬する三方山の西南嶺にて高度一二〇〇米に近く、南方に低下して村の中部以北は山地をなす。球磨川の上流南境を西南流し其北に小平地ありて耕地拓け、米・麥・繭を產し林產を出す。省線湯ノ前線の多良木驛に近く村の南部は交通不便ならず。和名抄に球磨郡久米郷あり。蓋し本村及び多良木町・岡原村・須惠村・久米村の地なるべし。〔青蓮寺〕(せいれんじ)新義眞言宗智山派。永仁三年相良城主六郎賴宗阿彌陀堂を建立す。のち三年にして庫院成る。現在のもの是なり。阿彌陀堂(國寶)は桁行五間、梁間五間、單層、屋根四注造、茅葺、永仁三年建立。阿彌陀如來及兩脇侍立像三軀(國寶、阿彌陀堂安置)は木造、勢至菩薩足枘に「永仁三乙未東行龜田入道法印院玄作求阿彌陀佛」あり。本堂と同時のもの。

クロヒメ　黒姫

〔黒姫山〕高田市の北東方約三十二粁、新潟縣刈羽郡高柳村と鵜川村との境界上に峙つ。標高八九〇米。山體火山岩より成る。主稜線は北東より南西に走り、南西稜にこの山稜を乘越す地藏峠路の最高點(六四〇米)續く。東麓を鯖石川洗ひて北流す。山中到る處奇岩奇勝に富み、曾ては野猿多く棲めりと云ふ。なほ山中に黒姫明神を祀る。

〔黒姫山〕一名古志峰(こしみね)と云ふ。飛驒山脈北端部の一峯にして日本海に北面して聳立す。新潟縣西頸城郡糸魚川(いといがは)町の南西方約十粁、同郡青海町に屬す。標高一二二二米　西北麓を青海川洗ひて北東流す。又北斜面より布川發して北流し共に日本海に注ぐ。萬葉集に沼名河とあるはこれなり。山容秀抜にして山麓民は沼川姫命のすみ給へる靈峯なりと傳ふ。山中に黽來口と呼ぶ岩窟あり、太古沼川姫命この窟中に住み給ひ、出雲の八千矛神(大國主命)の妃となり給へりと云ふ。山麓に不動瀧あり。

〔黒姫山〕富士火山脈に屬する一峯。信越本線柏原驛の北西方約七粁に當り、北方の妙高火山(二四四六米)と南方の飯綱火山(一九一七米)との中間に位す。北斜面は長野縣上水內郡信濃尻村に、南斜面は柏原村に屬す。標高二〇五三米。幼年期に屬する二重式消火山。この山は一見單純なる圓錐峯の如くなれども黒姫・屛風の二外輪山と小黒姫なる火口丘と太平山なる寄生火山より形成せられ、總稱して黒姫山と云ふ。基底は新第三系(椙層、小田切層等)にして外輪山は複輝石安山岩にして多孔質の黒色岩石より構成せらる。頂上部には舊火口あり。外輪山黒姫山はその東壁を、屛風岳(二〇〇〇米)はその南壁を形成す。外輪山の東側に寄生火山太平山噴起す。中央火口丘小黒姫山は一名御鷹山(舊藩時代放鷹地たりき)とも呼び、舊火口北西壁寄りに噴起し、トロイデ型にして複輝石安山岩熔岩より構成せられ、熔岩の一部は外輪山北西側に流出せり。中央火口丘と外輪山東壁との間の火口原には南北七〇米・東西四〇米の火口原湖峯ノ大池を湛ふ。他にも小池あり。火口內壁の傾斜は甚だ急ならず、偃松・落葉松・石楠花等の高山植物寄生す。山頂よりは四圍の高岳を始めとし、遠く北アルプスの連嶺淺間山・富士山等を望み眺景甚だ佳なり。南東山腹に藥研澤と呼ぶ溪流あり、この水は温かにして凍る事なし。山體內部に高溫なる部分あるに因るなるべし。この流は裾野に入りて湯ノ入り川となる。南方は裾野を長く曳き飯綱山の裾野と合ふ所に鳥居川東流す。北方は斷崖をなし、妙高山との裾合には關川東流す。西方は戶隱山(一九一一米)の北方に續く高妻山(二三五三米)・乙妻山(二三一五米)等と對峙す。支脈に續き、東方は裾野最も長くその盡くる所に信越本線と北國街道南北に竝走す。山頂より東面すれば明鏡野尻湖(芙蓉湖)を瞰下す。登山は東麓柏原村より戶隱街道を西方にとり、次第に登高して達頂す。柏原村より約五時半を要す。關東信仰登山者多し。「白妙を雲の衣に紅葉ばの錦かされしくろひめがたけ　海上胤平」

クロビラ　黒平峠　甲府市の北方約十五粁に當る峠。最高點は山梨縣東山梨郡西保村と中巨摩郡宮本村との境界に跨り、標高一四六二米。北西に降れば荒川(富士川の一支流)河畔宮本村黒平に至り、南東に據れば西保村字北原に達す。南西麓荒川の溪谷は名高き昇仙峽の勝地なり。北西方に倉澤山・奥千丈岳等聳立し、南西方に水ヶ森山(一五五三米)續く。

クロフ　黒斑山　一名三ッ尾根山乃至淺間黒斑山と云ふ。淺間火山第一次外輪山の一峯。現噴火口西方に峙つ。山頂は長野縣北佐久郡大里村と北方の群馬縣吾妻郡嬬戀村との境界に跨り、標高二四〇五米。西稜は車坂、最高點、高峯(二一〇五米)を經て籠塔山(二二二八米)に續く。東方蘭掛山(第二次外輪山)との間は湯ノ平と呼ぶ火口原たり。登山は湯ノ平高原なる淺間火山研究所の後より行はるれども、岩石崩壞狀にあれば困難なり。→淺間山(あさま)

クロフジ　黒富士　富士火山脈に屬する一峯　甲府市の北方約十五粁、山梨縣中巨摩郡宮本村に峙つ。標高一五九六米。山體に富士岩の熔岩流を認む。山の東腹より弱硫黄質の温泉湧く。黒平湯なり。北西稜は曲ヶ岳(一六四二米)・茅ヶ岳(一七〇四米)に連り、北東稜遙かに金峰山(二五九五米)峙つ。

クロフノ　黒生野　省線妻線の一驛(大正三年設置)。宮崎縣兒湯郡妻町にあり。

クロベ　黒部

〔黒部川〕富山縣の大河。水源を越飛信三國の交界なる鷲羽岳に發し、上新川・中新川二郡の東隅を北流し下新川郡に入り、祖父・祖母・小黒部・黒薙の諸溪流を東西より合せ、下新川郡愛本・內山兩村の間に出で、始めて山谷を離れ、廣大なる三角洲平野の中を奔流し、下新川郡飯野村に至り日本海に注ぐ。流程約百粁。其上流の東は、信濃・越後の境上に野口五郎岳・烏帽子岳・針木峠・赤澤岳・祖父岳・鹿島鎗岳・唐松岳・鑓岳・白馬岳・蓮華岳等連亙し、西に北俣岳・藥師岳・立山の連峯・劍嶽・猫又山等が峙ち。兩岸斷崖をなして迫蹙し、山は高く、水は急に、雄壯峻拔なる實に海內稀にみるものにて　水源より八〇粁の間一の村落を見ず。山嶺は偃松蘇生し、谿谷には積雪の四時融けざるがあり、全くの別天地なり。やや下りし山間にも山毛欅・白檜・欅等の林を見る。また所々に温泉湧出し、その中にて黒薙・鐘釣等の諸泉は近年交通の便に伴ひ山民及び登山客の來浴するも

の多し。川はその下流の平野に就くや忽ち諸方に奔流し數十の分派をなす。世に黒部の四十八瀬といふ。水流急なるが上に水路時々變更するを以て舟楫の便を缺く。灌漑の利は相當大なり。川口を新濱湊と呼び、水深淺く、且つ川の水量增大する時は勢ひ烈しきため、小舟すらも碇泊を許さず。

【黒部峽谷】 中部山岳國立公園に屬する指定名勝。北日本アルプス山塊の心臟部を南北に縱貫して、此山塊を立山連峰と後立山連峯とに別くる黒部川は、その中流が一大峽谷をなし、黒部峽谷の名を以て知らる。この峽谷は大體宇奈月溫泉に始まりて「平の小屋」に至る延長約六〇粁に亙る間を云ふが、鼠母谷を境として、既知の「下の峽谷」と未開の「上の峽谷」とに分たる。宇奈月溫泉は黒部川の一大支流なる黒薙川の峽底に湧出する黒薙溫泉の湯を引き來りて、數年前日本電力株式會社によりて開發されし新溫泉場にて、北陸本線の三日市驛より電車通じ、黒部探檢の出發點として恰好の位置を占む。黒部峽谷はただその延長に於て日本一なるのみならず、その雄大にして絕絕なる點に於て、又その原始的にして幽邃なる點に於て遙かに他の群小峽谷に卓越し、日本に於ては黒部を見ざれば峽谷を語るの資格なきこと、恰も「日光を見ずして結構といふ勿れ」といふ古諺の通りなり。否ただ日本に於てのみならず、これを世界に求むるも幽邃なること容易にその匹儔を見出し得ざる國寶的峽谷といふべきものなり。ただ惜むべきは、今日この峽谷の普通人によつて探勝し得らるべき區域は、宇奈月・鼠母谷間約二四粁の比較的平凡なる「下の峽谷」の部分のみにて、それより奧の神秘境なる「上の峽谷」は、容易にこれを跋渉し得ざることなり。宇奈月より日電専用の電車に便乘して、黒部川の右岸斷崖の上を進むこと約六粁にして、黒薙川を横ぎり、なほ進むこと八粁弱にして猫又川の落口に近き猫又發電所に達す。この間車中より蓬石の瀧、佛石及び七谷越の繪屏を望見するを得。猫又にて電車を捨て徒歩約三粁、不歸谷の落口にある新鐘釣溫泉（一名錦繡溫泉）に着く。溫泉の傍に石灰岩より成る東鐘釣の奇峯が兀然として聳え、川を隔てて左岸の西鐘釣山（之も石灰岩より成る）に對峙す。新鐘釣より吊橋にて、本流を渡りて左岸に移れば、間もなく鐘釣溫泉に着く。この溫泉は河岸に露出する石灰岩の洞窟より湧出し洞窟そのものを自然の浴舍となせるものにて、これに浴して太古の氣分を味ふも亦一興なり。ここの石灰岩はまた溫泉の對岸に、筍の簇出する如き形せる百貫山の奇峯を起して景致を添ふ。それよりカラ谷・ウド谷を横ぎり、小屋の平（日電軌道の終點）を經て、六粁にして小黒部川の落合に至る。小黒部川は黒薙川に次ぐ黒部の一大支流にて、その本流に合する所は一大峽谷をなし、小黒部瀧が懸谷（ハンギングヴアレー）の標本なるかの如く懸る。吊橋にて小黒部谷を渡れば、道は二つに分る。右は池の平を經て立山に登る道にて、立山の絕頂に至るに約二十時間を要す。左は黒部の本流に沿うて欅平に至る岨道にして、追分より一粁足らずの所にて、左方の崖下に猿飛の奇勝を見下すを得。猿飛は黒部川の急流が堅き片麻岩を穿りて、深さ二三百米の狹谷を造り其兩岸特に相接せんとする如き地勢を示し、奔馬の如き激湍がこれに擊突して峽谷深く吸込まれゆく有樣方に天下の壯觀なり。猿飛より半粁餘進める所にて、鼠母谷が東より來りて本流に合す。危き吊橋を渡りて、鼠母谷に入れば、入口より四粁ばかりの所に鼠母谷溫泉あり。浴舍は無きも、營林局の山小屋と雜貨店ありて休息するを得。これより道は三方に岐る。一は名劍山・百貫山を經て清水平より白馬岳に至り、二は中背山の尾根を白馬鑓ヶ岳に達し、鼠母谷川の支流を溯りて餓鬼岳の南側に通す。鼠母谷への岐れ路より右へ通ずる小徑は、日電の一根據地なる欅平の小屋に至るものにして數年前これより奧も本流に沿うて測量用の步道が開かれしが、今は殆ど廢道なり。欅平より東を望めば、奧鐘山の西側が高さ一五〇〇米の一大嶂壁をなし、黒部本流を壓して峙ち、その上流が如何に豪壯雄偉なるかを暗示す。鼠母谷の落合より四粁餘り溯りたる所にて、東より餓鬼谷が落合ふ。そこより更に四粁餘り進めば、東谷が東より落合ふ。その間渓間には到る處に溫泉湧出し、黒部峽中の溫泉區をなす。東谷は立派なる懸谷をなし、數段の瀧これにかかるが、この邊より岩石は堅き本質の花崗岩となり、その粗大なる節理に水蝕加はりて、谷全體が三、四百米の屏風を立てつけたる如く峽中更に峽をなす。これ即ち黒部峽の心臟部をなせるものにて、その狹き峽を「廊下」と呼ぶ。謂はゆる「下の廊下」は大體東谷の落口邊より始まりて内藏之助谷の落口邊に至るまでをいひ、長さ十二粁に亙りて絕壁また絕壁の連續なり。今ここにその溪中の奇勝を擧ぐれば、東谷の上約四粁、一大斷層が黒部本流を横ぎりて東西に走る所に、劍・立山間の水を集めて流下する劍澤が西よりし、棒小屋澤の長流が東よりし、この相對する斷層谷が黒部本流を横ぎる部分を十字峽といひ、「下の廊下」絕勝の中心をなせる觀あり。劍澤は黒薙・小黒部と共に黒部三大支流の一にて、全溪が峽谷をなし落口の瀑より數粁溯りたる所に「劍の大瀧」と稱する高さ四〇〇米の大カタラクトあり。「下の廊下」は十字峽より上流なほ一二粁餘も續き、内藏之助谷の落口附近に終る。全長約三四粁、左右絕壁の高さ三〇〇米より一〇〇〇米に及び、最下部の六〇米は谷の若返りにより垂直に切立つ。かか

る大岩壁は固より樹木の生長を許さず。この峽谷部に於ての森林帶は谷の底より一〇〇〇米の高所に追ひ上げられし形となり、黒部峽の一特色をなす。いま一つの特色はこの支谷がみな大懸谷となりて本流に臨み、支谷の落口または落口より稍ゝ後に下りたる所に大瀑布をかくることなり。小黒部川・東谷・劍澤・棒小屋谷・下のタル澤・新越澤等は其最も著しきものなり。之等の懸谷瀑布は岩石の堅剛なること、谷の若返りのなほ新しきことを示せるものにて、黒部の一偉觀をなす。内藏之介谷落口より上流は、溪趣一變して廣潤となり、森林は下りて岩邊に及び、廊下の豪宕なる岩石美は優麗なる森林美に代る。かくて御前谷落口・御山谷落口・小スバリ澤・元ザク谷澤を經て「平の小屋」に出づ。「平」は信州大町より針の木峠を經て、籠の渡にて黒部本流を横ぎりて、立山溫泉を經て越中平野に出づるアルプス横斷幹線の衝に當り、夏季は登山者によりて賑ふ。かくて黒部峽谷の粹は、「下の廊下」を中心として、下は東谷落口、上は「平の小屋」に至る間にあるものといふべく、この間は岩石美・溪流美・森林美の三つが太古その儘に保たれる日本隨一の靈境なり。「平」より上流の黒部川は谷潤く流れ緩かに、稍々上高地に似たる別天地をなすが、その源流の鷲羽山下に至る間には、景趣層ゝ變化して、「中の廊下」及び「奥の廊下」の峽隘がその間に存す。但し鑛山事業のため少からず溪趣を害ひてあるは遺憾なり。

【黒部別山】 飛驒山脈立山群峯の一。立山の東北面に派出せる別峯にして、黒部川の左岸、富山縣中新川郡立山國有林地に峙つ。山體は三箇の隆起卽ち北峯（二二八四米）・中峯（二三二六米）・南峯（二三〇〇米）より成る。北西方は黒部川の一支劍川（劍澤）を距てて仙人山・劍岳（二九九八米）に對し、西方は内藏ノ助平を經て立山本峯を仰望す。東側は大岩壁をなし、基部は黒部川の洗ふ所となる。卽ち黒部下廊下左岸の大半はこの岩壁によりて形成せらる。而してこの山の北東麓、劍川の黒部川に落合ふ箇所は十字峽と稱され、黒部溪谷に於ける一勝地たり。この山は標高大ならざれども、山頂より西方に劍・立山の連峯を、東方黒部溪谷を距てて後立山の連嶺を展望し、又黒部溪谷を俯瞰し、眺景の雄偉・壯大を以て知らる。山頂附近には車百合・白山一華・白根葵・白山風露等生育し、花期は美し。

【黒部五郎岳】 中ノ俣（岐阜・富山縣境）の別名。

【黒部鐵道】 私設鐵道。富山縣下新川郡にあり。石田村にある北陸本線三日市驛より三日市町を過ぎて黒部川の河谷に沿ひ内山村・宇奈月に通ずるを幹線とし、三日市驛より海岸の石田村の石田港に通ずる支線を分つ。全長幹線は一七・一粁、支線は一・七米。軌間一・〇六七米、省線と連帶運絡をなす。

クロヘ　黒檜山 那須火山脈日光火山群に屬する一峯。中禪寺湖の南西方、栃木縣上都賀郡日光町と足尾町との境界に峙つ。標高一九四五米。主山稜は東西に走り、西稜に社山（一八二七米）・阿世潟峠最高點（一四一七米）連る。南嶺は大平山（一九六〇米）にして双子峯をなす。南斜面より久藏川の一支源流す。山頂より北東面すれば脚下に中禪寺湖の碧水を瞰下し、彼岸に男體山（二四八四米）の對峙するを仰ぎ、北西面すれば日光白根山（二五七八米）の雄姿に接す。

クロベイ　黒檜山 赤石山脈の一峯。白峯（根）山間ノ岳（三一八九米）の西方に派出す。長野縣上伊那郡伊那里村に峙つ。標高二五四〇米。北方に仙丈岳（三〇三三米）を望み、南方に鹽見岳（三〇四七米）對す。西斜面より三峰川發源し、一旦南流しついで北方に轉流す。

クロホ　久呂保村 群馬縣上野國利根郡の南部。赤城火山の西北斜面に當り、東北は糸之瀨村に隣り、西北は利根川の支流片品川によりて限られ沼田町との間に利南村を隔て、西は利根川を挾みて川田村に對し、南は勢多郡敷島村と界す。面積二七・六七平方粁、土地東南境の高所（一一三六米）より西方に傾斜低下し大部分森林を以て蔽はれ、西北部の緩傾斜面は桑畑に利用され、西境の川沿には土地拓く。農產に麥・米あり、養蠶行はれて繭の產多し。省線上越線岩本驛（川田村地内）に近し。村内に上毛電力會社伏田發電所（大正十五年設置）あり。片品川を利用せるものにして常時出力は六千キロワツト、最大出力は一萬二千キロワツトなり。村名久呂保は萬葉・一四「上毛野久路保の嶺ろの久受葉我多愛しけ兒らにいや離り來も」によれるもの。久路保とは赤城山の最高峯黒檜山の古稱なるべし。管窺武鑑に天正十年六月瀧川一益は藤田氏の沼田城を攻むる由を聞き廏橋より打出で、長井坂を越え新原・森下へ移り片品川の瀨を渡りて下沼洲へかからんとす。藤田は敵の片品川を渡るべき所を見積りて人形に火繩を結び附け、下沼洲にて森を片取り紙旗等を立てて備の如く見せしを以て、敵は川を渡り得ずして夜の明くるを待つ、其間に藤田は城を卷解きて引取るといふ。ここに見ゆる森下とは大字森下の地とす。

クロホ　久路保嶺 上野國（群馬縣）の歌枕。勢多郡赤城山の最高峯を黒檜山といふ。萬葉集に久呂保の嶺呂とあるは卽ち黒檜の嶺の謂にして、往時は赤城山をかく總稱せしものなるべし。萬葉・一四「上毛野久路保の嶺ろの久受葉我多愛しけ兒らにいや離り來も」

クロホーシ　黒法師山 赤石山脈南西方餘脈に屬する一峯。大井川上流の右岸、靜岡縣榛原郡上川根村と周智郡水窪町に峙つ。標高二〇六七米。山體

古生層より成り、針葉樹の深林を以て掩はる。東麓に續く一峯（上川根村に屬す）を前黒法師岳（一九四三米）と云ふ。北麓は丸盆山（二〇六八米）・不動岳（二一七一米）に到る。西方は戸中山御料林、南方は千頭山御料林をなす。東斜面より寸又川（大井川の一支）の一枝澤源流にて北東流し、西斜面より天龍川の一支戸中川發源して南西流す。この山は古くより知られ居たり。そはこの山が南アルプス連山の前衛峯にして、奥山を後に控へ、人目を惹きし爲なり。

クロホネ　黒保根村　群馬縣上野國勢多郡の東北部。赤城火山の東斜面を占め、東北は東村、西南は新里村に隣り、北は利根郡赤城根村に、東南は山田郡桐岡村に界し大間々町に遠からず。面積一一〇平方粁餘に亙るも、西半は赤城山急傾斜をなし、中部には栗生山（九六八米）峙ちその山麓南北に延び殆んど山地をなし森林ふかし。桐木縣是尾町に發する渡良瀬川、東南部を西南に流れて谷地をつくり、中央部に小溪ありて東に流れこれに合し、これらの河谷に多少の耕地拓け、米・麥の農產あり。省線足尾線と縣道は渡良瀬川に沿ひて通じ、前者は上神梅・水沼の二驛（大正元年設置）を置き、後者にはバスを通じ、大間々町方面へは交通便なり。和名抄に山田郡大野郷あり。蓋し本村邊を稱せしものか。村名黒保根は萬葉・一四「上毛野久路保の嶺ろの久受葉我多愛しけ兒らにいや離り來も」に因めるもの。久路保とは赤城山の最高峯黒檜山の古稱なるべし。大字宿廻に愛久澤の據れるところといふ。深澤城址あり。管領武鑑に天正六年上州の諸城はみな北條方に屬せしに深澤城主深澤刑部少輔定政のみ獨り上杉登勝に屬すと見ゆ。この深澤とあるは蓋し此地か。〔梨木鑛泉〕地は名山赤城山の南麓（海拔約五〇〇米）に位し、前に深澤川の溪流を控へ、後に赤城の諸峯を負ひ森林は檜を圍みて鼠氣深く、盛夏といへども二十七度を超えざる好避暑地たり。泉質は含鹽炭酸泉にして婦人病・痔疾・呼吸器病等に効あり。附近には鶯鳴ヶ峯・赤城神社・石垣沼・不動瀧等の赤城山の名勝があり、初夏新綠の頃には躑躅特に美し。

クロマ　黒味　美濃國（岐阜縣）の古地名。和名抄、土岐郡に異味郷あり、異味は蓋し黒味郷の謂なるべし。美濃神明記に土岐郡黒味明神あり。その地今の土岐郡多治見町・妻木町等の邊に當るか。

クロマツ　黒松村　島根縣石見國那賀郡の東北端。都治村の北に隣り、東は邇摩郡鎌浦村・波積村に界し西北は日本海に面す。面積僅に一・八二平方粁に過ぎず、東部はやや廣きも西部は海岸に沿ふ帶狀の地域にて前面の海中に平島・大島等の小島嶼浮ぶ。陸には繭・米・海上には漁獲物の產あり。省線山陰本線東部を控め黒松驛（大正七年設置）を置く。此地古くは和名抄、邇摩郡津道郷の地。海濱は古くは底干浦といひ歌の名所として知らる。萬葉「天地を底干の浦に我ごとく君に戀ふらん人はさにあらず　依羅娘子」

クロマツナイ　黒松内村　北海道後志支廳管下の一村。後志國壽都郡の南東部を占め、北境の西部は樽岸村、中部は歌棄郡熱郛村、東部は磯谷郡南尻別村に隣り、東は膽振國虻田郡豐浦村（膽振支廳管内）、南は膽振國山越郡長萬部村（渡島支廳管内）、西は後志國島牧郡東島牧村に界す。地東西に長くして約二六粁、最南北は最も廣き部分にて約一二粁、最部は三粁に滿たず、面積約一七六米方粁あり。概ね山地なるも東南境に發して中部を西流する朱太川あり、西北部に於て西部を北流する黒松内川を併せ、更に樽岸村の東境を北流して末は壽都灣に注ぎその兩岸に幅狹き平地をつくる。農產に馬鈴薯・豆類・米等を出し、また林產・畜產少からず。省線函館本線西部を南北に貫きて西北部に黒松内驛（明治三十六年設置）を置き、社線壽都磯谷またここより起るも村内の大部は交通なほ便利ならず。村内に重要鑛山たる來馬鑛山あり、また靜狩鑛山の鑛區は一部本村に跨る。往古は土人部落にて、舊幕府直轄の地たり。天保年間松前福山町の人花岡利右衛門、當地は山越郡長萬部より壽都歌棄方面に至るの通路に當り、地理上より將來必ず發展すべきことを注觀し、朱太河畔に移り住し一戸を構へ渡船守及び驛逓を兼ね旅行者の便を計る。即ち本村に内地人來住の濫觴なり。のち安政年間に郷里より緣故者を誘ひ飲食店を附かしめたり。其後明治四年に至り伊達邦成の臣十六戸有珠郡紋別村より三ヶ年扶助米付にて轉任、函館・壽都間の駄逓を專業とし、後農業を行ふに至り、宮城縣その他内地人の來住するもの增加し一部落を形成し函館・壽都間の宿驛として知らる。明治十五年戸長役場の設置を見るに至るも、尙明治二十年未だ戸數六十三戸を算するに過ぎざりき。明治四十二年四月二級町村制施行。黒松内はもと虻田領と認められしも明治五年壽都郡へ移されしもの。

「歌才ぶな自生北限地帶」　指定天然記念物。字下歌才春川左岸の北東に面せる傾斜地にあり。黒松内驛の東方約四粁。本邦に於けるぶなの自生北限地帶に當る。ぶなを主木とする濶葉樹林にて、面積約八二ヘクタール。混淆の歩合はぶな八五パーセント、いたやかへで五パーセント、その他一〇パーセント。〔來馬鑛山〕本邦重要鑛山の一。上來馬にあり。函館本線熱郛驛より來太川及びその支流來馬川に沿ひて東南凡そ一二粁。その間容易に自動車を通じ、又長輪線靜狩驛よりは五粁内外に過ぎざれども、靜狩峠を越えざるべからず。之を除いて第三紀凝灰岩及び之を貫く石英粗面岩・輝石安山岩等より成り、鑛床は主として安山岩中に發達せる含金黒石英脈にて、石英の外鄰銀鑛・酸化錫等の鑛に富み、黄銅鑛をも伴ふ部分あり。脈は總數一六に達し、含金平均十萬分一（鑛石一瓩に就き金一〇瓦）に達す。本鑛床は大正七年の發見に係り、その後一旦休山せるも、昭和六年再び探鑛を開始せられ、住友合資會社の經營に屬す。その鑛石・これを靜狩鑛山に送りて合併製錬す。

クロミ　黒味岳　霧島火山脈に屬する一峯。薩南諸島屋久島のほぼ中央に峙つ。鹿兒島縣熊毛郡上屋久村・下屋久村との境界に峙ち、標高約一八三六米。北麓は宮之浦岳に連り、東麓は太忠岳に續く。南方より黒味川發し、西南して海に注ぐ。大洋中に聳立する島山にて、一年間に三〇〇〇粍乃至八〇〇〇粍に達する降水量あり、よりて森林の繁茂甚だ良好にて、山中到る處美林をなし、殊に屋久杉は其名高し。山麓には熱帶植物茂生す。山中にはロッタライミンゲに適する岩場もありて登山は興味深し。登路は鹿兒島より汽船にて島の南東、下屋久村安房に至り、營林署の軌道車にて小杉谷の事務所を經、花江河の山小屋にて一泊し、ついで達頂す。→屋久島

クロミネ　黒峰　石川縣珠洲郡にあり上村。明治四十一年木村及び鵜島村・見付村を廢し新たに寶立村を置く。

クロメ　黒目　鹿島縣甲奴郡にありし村。大正二年本村外四箇村を廢し飯家村を置く。

クロモリ　黒森

【黒森山】北上山脈北端部に屬する一峯。八戸市の南々西約五十六粁。岩手縣九戸郡葛卷村に峙つ、標高九四四米。山麓秩父古生層より形成せらる。東麓部に小本街道南北に走り、これより黒森峠路分岐し、黒森山の北斜面を西走す。峠の最高點は黒森山の北西鞍部に當り、標高八七八米を算す。

【黒森】奥羽火山脈に屬する一峯。山頂は山形縣最上郡新庄町の北東方約二十四粁。最上郡金山町・及位村と秋田縣雄勝郡秋ノ宮村との境界に跨り、標高一〇五八米。山麓火山岩より成る。北西麓は金倉山（七五五米）・鳥帽子山（九五四米）に連り、南東麓は水晶森（一〇九七米）・神室山（一三六五米）に續き、南西麓に檜木森（九六〇米）峠つ。西斜面・檜木森との鞍合より雄物川の一支發源して北西流し、東方斜面より同じく雄物川の一支役内川の枝澤源流して北流す。

【黒森峠】郡山市の西方約三十粁、猪苗代湖の南岸に位する峠。最高點は東方の福島縣安積郡荒津村と西方の北會津郡湯村とに跨り、標高六二六米。北東麓には金山（八〇三米）峠つ。峠路は縣道茨城街道に當り、北西方より南東方に走る。昔時この山路は急峻なりしと云ふ。又最高點附近は險路なりしかば、俗に「鬼笑」と呼ばれたり。峠上よりは北東方に猪苗代湖の波光を望む。

【黒森山】石鎚山脈に屬する一峯。別山銅山の南西方、愛媛縣新居郡大生院村・中萩村・加茂村の三村境界に峙つ、標高一六七九米。山麓結晶片岩より構成せらる。山稜は北東方・西北方・南東方の三方に分岐し、南東麓に笹ヶ峯（一八六〇米）聳ゆ。東麓より國領川發源して北流す。東北麓は別子銅山地域なり。

【黒森山】四國山脈に屬する一峯。高知市の西北西約三〇粁、高知縣吾川郡富岡村・大崎村・繩島村・明治村の四村境界に跨る、標高一〇一八米。山麓秩父古生層上中部より形成せらる。北東麓に五在所山（九七三米）聳ゆ。南方に仁淀川曲折を重ねつつ東方に流る。

クロモン　黒門

【黒門】江戸時代、上野寛永寺の總門、三橋より廣小路直の突き當り、寺域の向つて左方にありし黒漆塗りの柵門、黒門と稱し地名となる。元黒門町・東西黒門町など之より起りし町名。明治戊辰の兵亂に彰義隊此處を死守し、門に彈痕多く殘る、明治六年黒門は上野東照宮前に移建せられ、後同四十年彰義隊士埋葬の地たる南千住新町圓通寺境内に移さる。川柳「面黒い門をくぐつて花見也」（同「黒門の内は日照に雪が降り」〈御殿女中花見〉）

【黒門前】江戸下谷の地名。黒門さきともいふ。下谷上野寛永寺の表門向つて方に黒門あり、その前の地名、現今上野元黒門町の町名は之による。男色大鑑・二「武州上野黒門前に母方の姨なたのみてありしに、殿様御寵流の窓より、あれはと仰せらるる」　參黒門

クロヤマ　黒山

【黒山】埼玉縣入間郡梅園村の大字。もと黒山村と稱し入間郡越生郷荏江庄に屬せり。梅園村の南部に位す。德川氏關東入國の後、正保の頃までも幕領なりしが、のち烏田氏に賜はり、子孫續いて知行せり。寛文八年成瀬八左衛門の檢地ありし地。越生の邊より黒山を經て入間郡東吾野村に出づる所に面振峠（標高五〇〇米）あり。往時村内より江戸に出づるものは必ずこの峠へかかれりといふ。またこの地に男瀧・女瀧・天狗瀧あり、黒山三瀧と稱す。男瀧は岩石壁立せる山の半腹より飛流する。長さ約三米。この瀧壺より飛流する約二米ばかりの瀧あり、之を女瀧と呼ぶ。男瀧・女瀧より流出する水一條の流れとなり、谷間を屈曲し面振峠より出づる清水に合し黒山川と呼ぶ。また此瀧より二三百米の所に鑛泉あり。また縣道三瀧の分岐點より約一〇〇米の所に淪澤平九郎自刃石あり、明治元年飯能より遁れて、此石上に自刃せりと。

【黒山村】大阪府河内國南河内郡の西北部。堺市と宮田林町に至る富田林街道に沿ひ、前者の東南約八粁、後者の西北約

六軒に位し、東南は平尾村、南は野田村、西は日置荘村に隣る。面積僅に三・三五平方粁なるも田地概れ平坦にして田畑よく拓け、米・麥その他の農産あり、織布・機布加工等の工業また行はる。社線南海鐵道高野線（電車）の萩原天神驛（日置荘村西）・北野田驛（野田村北野田）に近く、交通便利なり。府立黒山農學校・府立黒山實踐高等女學校あり。古くは和名抄、丹比郡黒山郷の地なり。村は黒山・阿弥太井・南餘部・北餘部の大字よりなり、役場を黒山に置く。孝德紀にも黒山の名見ゆ。日本書紀・孝德天皇大化五年「天皇乃將興軍圍大臣宅、大臣乃將二子法師與二赤猪、（更名蘇）自茅渟道逃向於倭國境、大臣長子興志、先是在倭、（謂在山田之家）聲言造其寺、今忽聞父逃來之事、迎於今來大規近、就前行入寺、顧謂大臣曰、興志請自直進逆拒來軍、大臣不許焉、是夜、興志倉惶欲燒宮、發案士卒、（宮、謂小墾田宮）已巳、大臣謂長子興志曰、汝愛身乎、興志對曰不愛也、大臣仍陣說於山田寺衆僧及長子興志與數十人曰、夫爲人臣者、安得逆於君、何失孝於父、凡此伽藍者元非自身故造、奉爲天皇誓作、今我見讒言身刺、而恐橫誅、聊望黄泉、尚懷忠過、所以來寺、使鳥鈴時、言畢開佛殿之戸、仰而發誓曰、願我生々世々不懷君王、誓訖自經而死、妻子皆死者八、是日、其大伴狛連與蘇我日向臣、爲將領、衆使追大臣、將軍大伴連等及到黒山、土師連身、采女臣使主竈呂、從山田寺、聽來告曰、蘇我大臣既與三男一女、俱自經死、由是將軍等從丹比坂歸」

クロユ　黒湯

【黒湯】　↓田澤村（秋田縣仙北郡）

【黒湯山】　越後山系白根火山群に属する一峯。群馬縣吾妻郡嬬恋村と長野縣上高井郡高井村との境界に跨り、標高二〇〇七米。山麓鄰石安山岩より形成せらる。北東麓は万座山（一九九四米）・白根山（二一六二米）に連り、南西麓は御飯岳（二一六〇米）・土鍋山（一九九九米）に續く。北麓より松川の上支源流して西北流し、その水源地に七味鑛泉湧き、南斜面より万座川發源して南東流す。

クワ　九和村　愛媛縣伊豫國越智郡本陸郡のほぼ中央部。今治市の西南約八粁にて、市との間に日高村を介し、東南は鴨部村・鈍川村に、西南は龍岡村に、北は小西・大井・乃万の三村に隣りす。面積一五・三平方粁。大部分は山地にて高度は四百米に達する處あり。龍岡村に發して村の東南境を流れ蛍瀧に注ぐ蒼社川の谷に沿ひて低地あり田畑拓く。農業を主とし、米・麥を産する外、繭・筍・葉煙草を出す。今治市を初め隣接諸村に里道通ずるも交通なほ便なりとはいへず。此地古くは和名抄、越智郡鴨部郷の地。三島若宮神社は式内社、大野神社なりと。村名は大字長谷・三反地・御厩・桂・鍋地・與和木・摺木・大野・法界寺の九部落和するの意より起るといふ。本村大字桂字居家谷の寶藏寺釋迦堂の本尊釋迦如來立像一軀は木造、清涼寺式釋迦像にして像の正面内部に墨書造像銘あり、文永五年二月四日大佛師薩摩法橋興慶の作と知らる。現に國寶たり。〔和霊神社〕大字法界寺にあり。郷社。祭神、天命開別命・猿田彦命・山家公額。愛媛面影「和霊社　延享三年六月、宇和島より勧請して、法界寺村長浮穴某の庭中に在しを、諸人の信仰によりて、寛政年中山上に一社を建立して移しまゐらせたり、老若男女詣る人、衆夜たえず、神德盛なりといふべし」と。但し明細帳は、延享三年宇和島より勧請の際は、村内三島神社の境内に奉齋し、のち寛政十一年四月その當時の今治城主久松宗剛、當社を厚く崇敬し、字桑坂山七反餘の地を除租し、祠地とし、是に奉遷ぜりと。古來當地の氏神たりしが、明治五年八月郷社に列す。社殿は本殿・釣殿・拜殿、その他神樂殿・著到殿、神饌所・神輿庫等あり。境内七八二坪。例祭、六月二十三日。

クワ　桑村　栃木縣下野國下都賀郡の東部。南は小山町・大谷村、北は國分寺村、東は細村に隣り、西は利根川の支流思川を界として豐田村に對し、栃木市に近し。面積約三〇平方粁、土地概して平坦、田畑・林野交錯し、農産は米を主とし一とし蓼・繭等を出す。國道（除利街道）と省線東北本線は西部をほぼ南北に走り、國道上にはバスの往來あり、また鐵道は小山驛・小金井驛（國分寺地内）にも近く交通便利なり。此地古くは小山町の地と共に和名抄郡賀郡小山郷の地とす。〔琵琶塚古墳〕指定史蹟。村内琵琶塚にあり。前方後圓墳、前方部を南として南北に横はり、後圓部の頂上に熊野神社あり。封土は三段に築かれ、埴及び壺の址の一部分はいま畑地となる。封土は中軸の長さ一二五米、前方部の高さ九米、後圓部の高さ一二米にして、東側の畑地には埴輪圓筒の破片散布す。ここより南一〇〇米を距てて前方後圓の雄大なる古墳あり、頂上に摩利支天堂あり。〔樋原神社〕大字荻川驛に鎮座。郷社。祭神、神武天皇。明治五年の創立。近郷の産土神。社地は字樋原の平原にあり。例祭、四月三日。〔禁雲寺〕大字飯塚にあり。真宗大谷派。光明山と號す。建保年中本郡大光寺村に川井兵部治高といふ者あり、毎夜その妻の長病を室の八島明神に祈願す、然るに妻は夫の夜出を疑ひて妾ありとし妬心の餘り黒川に身を沈めて蛇體に變じ近郷の良民を害す。八島明神宮司大澤友宗これを憂ひ他遷に小祠を建立し其靈を祀り毎歳近郷の子女一人を犠に供す。建長二年親鸞上人關東化導の途次、此地に錫を止め淨土三部の妙典を書寫し之を水渦に投じて蛇身を消度し、其遺骸を葬りて蛇骨

經塚と名づく。寛政元年尾張國海東郡佐折村の以呂女なる者、遺跡を慕ひて此處に來り、領主鳥居丹波守に請ひて一宇を建つといふ。これ即ち當山創立の由緒たり。されどこの緣起は本郡國分寺村の遍華寺の緣起と全く符合す、いま何れが是なるか詳ならず。

クワイチ　桑市　但馬國（兵庫縣）の古地名。和名抄朝來郡に桑市郷あり、其地今の朝來郡中川村の邊に當り、中川村大字桑市は郷の遺稱なり。東大寺天平勝寶二年の文書に朝來郡桑市郷戸主赤染部大野と見え、但馬記に東鑑建久五年の條に、但馬國多々良岐莊は源宰相領たり、而して鳥居禪尼の湯沐料に充つとあり。弘安大田文に「朝來郡多々良岐莊、安嘉門院領、立藤御紙田、皇嘉門院領、菅莊地頭多々良岐長基」とあり、これ上古の桑市郷にして多々良岐は中川村の大字多々良木がその遺稱なるべし。

クワエ　鍬柄川　播磨國（兵庫縣）讃容郡の古川名。風土記に其名見え、古の邑寶里の内の川といへどその名傳らず。或は佐用郡久崎村を東流する千種川の一支秋里川ならんといふも詳ならず。播磨風土記「鍬柄川　神日子命之鍬柄令採此山、故其山之川、號曰鍬柄川」

クワエ　桑饗　筑前國（福岡縣）下座郡の古地名。和名抄に郷名見ゆ。其地いま何れなるか詳ならず。恐らくは朝倉郡金川村の邊ならん。同村の大字に桑原あり、郷名の轉訛を語るにはあらざるか。

クワカイ　桑飼村　京都府丹後國與謝郡の南部。加悦町・三河内村の東隣にて、北は石川村、東は上宮津村、南は與謝村に接す。面積一四・六四平方粁。東南境は大江村の北嶺にて高さ約五百米を有し山裾西北方に降下し山地廣く山林をなす。西部と北部の谷には平坦地ありて田地拓く。農産は米を主として多少の麥を出し、小機業工場多く絹織物の産多し。社線加悦鐵道の加悦驛・三河内驛に近く交通便利なり。往古の沿革詳ならず。和名抄謁叡郷の地にして、延喜式與謝郡阿知江神社は今大字温江の湯ノ谷に鎮座す。温江は元一村なりしを温江・明石・香河の三ヶ村を併合して桑飼村となす。温江の南岩屋村に延内阿知江岸部神社あり、謁叡・阿知江、皆同義にして、安都由の轉にして、即ち温泉噴出による古名なりとす。現在は温泉噴出を見ざるも、本地域は白山火山脈帶に屬し、北陸・山陰の温泉地帶の一連續に當るものなれば上代當地に温泉噴出を見たるものやも知れず、考ふべきことなり。温江の地名も蓋し之に基づくものならん。丹波の大田文にして國寶たる丹後國諸莊園郷保總田數帳（伏見天皇正應元年註進）に據れば、謁江郷田二十二町餘にて、其の範圍は温江・後野・加悦・加悦奥・算所・岩屋諸邑を其の郷域となす。本地域は早くより開拓進みしものなるべく、前記湯ノ谷の式内阿知江神社の他、同所に現府社にて文德實錄齊衡二年正月二十五日知位のものあり。また式内名神大社たる大蟲神社鎮座あり。また同所に式内名神大社たる小蟲神社あり。尚大字明石小字宮ノ越に式内須代神社あり。かく式内社數多く散見するは、その間の事情を物語るものなり。式内分布度の高きは丹波・丹後中他に比すべきものなしっかく早く開拓を見たる理由は明かならずと雖も、南方大江山連峰の峰を越え京都・丹波路より本國の國府に通ずる古道（延喜の古道）の開通は、開拓を促せし一因と見るべし。次に中世の變遷は明かならず、丹哥府志大要には庄名を記述するも庄名の由來に就いての記述なし。桑飼村中の温江・明石・香河の舊三村は共に加悦庄に入れたり。當時加悦庄に屬したるものならん。但し香河は奥山・蟲山と共に石川村の中に入れ、以上三村石川村の枝郷と記述あり、中世變遷の大要を見るべし。次に德川時代の本村の祿高を表示すれば左表の如し。

村名	元草高	延高	改定草高	改定町村名
香河村	三八八・八三石	一八〇・三六八	四四四・一三八	
明石村	一、〇四六・八六〇	二三・七九二	一、八〇・六三〇	
温江村	一、三二・六二〇	一三三・八二三	一、〇八一・五四二 三五四・八八五	温江本村 一中郷村

の朝に名神大社に列す。本殿・拜殿・祠詞舎を具ふ。境内二千八百五十五坪。例祭、四月二十一日。〔蛭子山古墳〕指定史蹟大字明石にあり。加悦鐵道加悦驛の東北約一粁、長さ一六〇米。前方後圓墳にて二段に築かれ、後圓部の頂上には花崗岩にて造られし刳抜石棺露出し、その周りを圍みて埴輪の長方形に樹て廻らされし址を存す。石棺は身と蓋の兩部より成り長さ二米餘。附近にある作山古墳（加悦町・桑飼村に跨る）も指定史蹟たり。尚この他、村内には古墳諸所に存し、石室を有するもの稀から ず。〔作山古墳〕大字明石及び加悦町大字加悦に跨るもの

にて、加悦鐵道三河内駅の東方にあり。昭和五年七月八日、文部大臣指定史蹟となれり。作山古墳とは同所に連接して存在する四基の總稱なり。その内、最北に營まれたるものは昭和四年十一月調査を行ひし所にて、その形式は謂はゆる帆立貝式に屬し、後圓部の基底經約二一米、高さ約二米なるに對し、前方部は丘陵の自然の傾斜面に僅に施工せられ、長さ約一二米、幅約一〇米の平坦地を作出したるに過ぎず、一の特色ある墳形をなす。封土の全面には葺石あり、埴輪には圓筒形のものを繞らしたる跡を見るほか、家形・鳥獸形等の破片の遺存せるものあるは注目に値する所なり。内部構造は、後圓部の頂上に深さ約一米の壙穴を穿ち、之に組合石棺を置けるものにして、石棺は蓋石と側石とより成り、底石を缺き、棺の内部は陽石によりて大小二區に分たる。遺物は大區の中に蝕められ、鏡・玉等の裝身具も亦此處に置かれ、小區には銀利器を納れたり。

クワガサキ　鍬ヶ崎　岩手縣下閉伊郡にありし町。大正十三年宮古町に編入。

クワガワ　桑川　【桑川】新潟縣岩船郡下海府村の大字。省線羽越本線の桑川驛（大正十三年設置）あり。

【桑川】徳島縣麻植郡にありし村。明治四十年川島町と改稱す。

クワギ　桑木　廣島縣豊品郡にありし村。大正二年行勝村・木野山村と共に廢し新に大正村を置く。

クワシホコチタル　細戈千足國　上古に於ける大日本帝國の美稱。精錬なる武器の充實せる國の意にして我國が古來武を以て國を立つるより起れる名稱なり。書紀神武紀に見ゆ。書紀通釋はこれを解して「細戈は知の枕詞にて、細は戈をほめたる詞なれば久波須と訓べし、知とつゞく意は、玉矛の道といふと同じ、上古の人、常に道を行く時には、必ず杖を突きありきしなり、千足とは、應神天皇の大御歌に　百千足家庭とよませ玉へる如く、あかねことなく足らへるを、千足とはのたまひしならん」と云へり。神武紀・三十一年「昔伊弉諾尊目一此國一曰日本者浦安國、細戈千足國、磯輪上秀眞國、云々」

クワタ　桑田　【桑田郡】丹波國（京都府）の古地名。古くは書紀垂仁天皇紀に丹波國桑田村とあり。繼體天皇紀の初に丹波國桑田郡とあるを初見とす。桑田は雄略天皇の朝、桑に適ぜる國縣に詔してこれを植ふしめ給ひしにより桑田の名起れるものならん。両して丹波の國府を本郡に置く。和名抄は久波田と訓じ、桑田・小川・漢部・宗部・川人・荑部・漁邊・弓削・山國・有頭・横作・佐伯の十二郷を載く。延喜兵部省式に桑田郡修馬五疋とあり。明治十三年桑田郡を南北の二郡に分ちて今日に至る。

【桑田】丹波國（京都府）の古地名。書紀垂仁紀に丹波國桑田村の人狗の腹より得たる勾玉を朝廷に獻ぜしこと見ゆ。和名抄に桑田郡桑田郷とあるは略ぼこの桑田村の地なるべく、また桑田郡郡家ここにあり。延喜兵部省式に桑田郡修馬五疋とあれば、郡家にして驛を兼ねしものならん。その地いま南桑田郡の南東、篠村及び保津村の邊を稱せしもの。大谷會主基方の歌「いへいへのこかひの爲にとるに貂つきぬくはたのさとぞさかゆく　貴時」同「家々にとしにやたびのこかひすくはたのさとぞわきてさかゆく　愛蕙」

【桑田】豐前國（福岡縣）の古地名。和名抄、築城郡に桑田郷あり、其地今の築上郡下城井村の邊に當るなるべし。宇佐大鏡に「大宮司公順私領、築城郡桑田郷田二百六十二町、東限赤幡社、南限傳法寺界、西限舟坂峯、北限鹿瀬木大道」とあり。官幣宮傳に神領桑田郷内馬上田、三月田と見ゆる桑田郷は皆此地なり。

クワツ　桑津　【桑津】大阪市住吉區内の一町名。天王寺南方の地、大和の大峯參り、卽ち山上參りより歸る人を、この地に出迎ふる習慣あり、これを阪迎へといへり。女殺油地獄・上「講中何事もうわ山勤めて有難い、今日の下向は知れた事、念頃な友達は桑津まで迎ひにちや」

【桑津郡】書紀應神紀に見ゆる古地名。應神天皇、日向國より迎へ給へる髮白媼を置き給ひし處。其地もと摂津國東成郡北百濟村大字桑津の地といはれ、いま大阪市住吉區桑津町の邊といふ。

【桑津】摂津國（兵庫縣）の古地名。和名抄に豐島郡桑津郷あり、久波津と訓す。何れの頃か河邊郡に編入さる。地はいま兵庫縣河邊郡神津村の邊にて、大字桑津は郷名の名殘なるべし。

クワトミ　桑富　愛知縣寶飯郡にありし村。明治三十九年本村は一宮村と共に廢せられ、その區域を以て一宮村を置く。

クワトリ　桑取村　新潟縣越後國中頸城郡の西部、高田市の西方約一〇粁、其間に金谷村を挟み、南は矢代村、北は谷浜村に接し、西は西頸城郡名立村と界す。南北に長く、面積三五・三平方粁、南界に重倉山（一〇二六米）聳えてその麓西北方に延び、殆んど山地をなす。桑取川、重倉山の西北側に發して村の中部を北流し谷浜村に出で日本海に注ぐ。川に沿へる幅狹き低地に田畑あり。米を產しまた繭を出す。省線北陸本線谷浜驛へは約八粁、道路通ずるも交通尙便ならず。此地桑取川に沿へる山谷なるを以て古く桑取谷と稱せらる。三千風行脚文集に、此地に骨董々といふ異獸出でて農夫五人を咬殺したり、郡司卽ち人夫を出して鉄砲にて打留めしに實に顔の老いたるものなりしといふとあり。

クワナ　桑名　【桑名郡】三重縣五市十五郡の一。伊勢國の一部にして縣の東北端に當る。地西北より東南に延び、西は員辨郡に、南は三重郡に隣り、北は岐阜縣海津郡、東は木曾川の下流とその分流鍋田川によりて愛知縣海部郡と界し、東南は伊勢灣に面し、南部に桑名市を獨す。面積僅に一一九平方粁餘にて縣全面積の二%餘に過ぎず。北部海津郡との境上は養老山塊南部の山地にて五—六〇〇米の高度を有し南端の多度山（四〇三米）に至りて盡き、西北の員辨郡界には養老山塊南部の支脈たる一五〇米程度の丘陵地あるも、南部は町屋川（員辨川の下流）に沿ふ平地、東南部は木曾・長良・揖斐三川の吐口にて水流網横羅合しその堆砂によりて成れる長島・伊曾島・木曾岬島等ありて土地平坦肥沃なるも古來屢々水害を被れることあり。田畑よく拓けて農產に米を第一とし麥・甘藷・菜種・大根・蘿蔔等を出し、工產に綿糸・綿布・清酒・素麺等、水產に蛤・鯽子魚貝・鰕等あり。舊時の東海道は長良川・木曾川其他の河流渡船の類を避け熱田（今の名古屋市南部）より海路によりて桑名（今の桑名市）に至るを常とせしが、今は名古屋よりの國道は桑名市を經て南方四日市方面へ、縣道は桑名市より西北阿下喜方面へ、北方は海津郡方面に通じ、また省線關西本線は略ぼ國道に沿ひ、桑名市を中心に經線參宮急行電鐵の伊勢線は南方に、東海道線は北方に、北勢鐵道は西北方にそれぞれ略々國・縣道に沿ひて走り郡内の交通は頗る便利なり。桑名の名は野に通じ土宜桑に適するを以て桑野の意なりといふ。壬申の亂の時天武天皇東國に行き給はんとして伊勢國に至り給ふや桑名郡家に駐まりましし事書紀天武紀に見ゆ。和名抄は久波奈と訓じ野代・桑名・額田・尾津・漁日の五郷を載く。織田信雄分限帳に横郡とあるは戰國の頃本郡を稱せる一時の稱といふ。長島は元龜より天正の初に亙り一向一揆此處に據居して織田氏に抗せしを以て著る。昭和十二年桑名市獨立するに及び郡城大に縮小す。今城南村外十二箇村を含む。

【桑名市】三重縣五市の一。縣の東北部に位し、西北の一部が員辨郡七和村と界するもその他は悉く桑名郡の諸村に隣りす。卽ち北は古濱村・深谷村、東は揖斐・長良二川の吐口を隔てて長島村・伊曾島村、南は城南村、西南は桑部村・在良村なり。東西約六・四粁南北約五・四粁、面積一八・九平方粁。西北部は養老山塊南端の支脈たる高さ一〇〇米内外の丘陵地にて山林よく繁り、大山田川その中部を東南に流れ市の東北部にて揖斐川に合す。東北部の揖斐川沿ひは平坦にして乾田・水田よく拓け、東南部は市の主要部をなす市街區域なり。江戸時代には松平・氏の城下にて、又東海道中熱田への「七里の渡」（古の謂はゆる間渡の渡なり）の渡津・美濃茶・木曾材の集散地となり交通運輸の要衝として殷盛繁昌せし處。今も時雨蛤・白魚・伊勢海苔・桑名盆・桑名萬古・打刃物等の名產を存し、特に近時は各種の工業行はれ商工都市として榮ゆ。卽ち市の生產は工業その首位を占め、主要工產は綿糸（四百四十五萬圓）を第一に鑄造機械器具・マアリンゲ・漁網・植物油・タオル・琺瑯鐵器等はいづれも年產

類別	主要生產						
		工產	農產	水產	畜產	林產	計
昭和七年		一三、七六四、七二二	三二、八、六七四	一六二、八、二〇	六三、八、八六八	一七、八三七	一四、六六〇、一〇六
昭和九年		二二、三八六、二六八	二八八、一三二	一七五、七二〇	九、一四四〇	二二、一四四	二五、八七八、八八〇
昭和十一年		四二、二六、一〇六	三三七、三二四	三三七、三二四	一〇六、一五三	二四四、六四七	四、四二一、〇五六

類百萬圓以上を示し、煙草・長持等の木製品・清酒・菓子・乾海苔（伊勢海苔）等これに次ぐ。國道（東海道）は四日市市より來り市の東南部を縱貫し福島より延長一一〇五米餘の伊勢大橋によりて揖斐・長良の兩大川を越えて對岸長島村に亙り、更に尾張大橋によりて木曾川を跨ぎ名古屋市方面に去り、縣道は一は西方員辨川流域に向ひ阿下喜町方面に、一は揖斐川西岸の低地を北上して大垣市方面に通じ路上孰れもバスの便あり。又省線關西本線は略ぼ國道に沿ひ、桑名市を中心に經線參宮急行電鐵の伊勢線・養老線及び北勢電鐵への接續點をなし交通至便なり。（沿革）和名抄に桑名郡桑名郷（久波奈と訓す）とあり、桑名首は故里にして天津彦根命の男天久比乃命の後裔なり、のち郡家を設け郡司を置き此地を管す。日本紀天武天皇元年六月東國鎮率の詔次桑名郡家に宿し給ふ事見え、續日本紀聖武天皇十二年十一月戊申至桑名郡石占頓宿」とあり、蓋し石占は當時一地方なるべし。古桑名の地、揖斐・長良・町屋川等の流域に屬し洲渚三分ぜり。故に三夕の洲と云へり。今の三崎通以北を目凝州崎と稱へ、三崎通以南吉津屋町以北を加良州崎と呼び、新町以南を泡州崎と稱す。史籍の徵すべきもの以上にして、上古の事蹟千載の今日知るべからずと雖も、大字江場の北端より新屋敷に亙る一帶は甕塚の舊址にして、地層貝殼より成り、往々にして古代土器の破片を彫り出すを見、また天武・持統天皇行宮の遺址も大字江場字神戸並に神戸岡の地方なりといへば、當時は其の地勢現今と異りて、町屋川は今の西磧より矢田磧の方面に流れ、且つ海岸汎湖の地に近かりしとはいへ、鍋屋町より甕塚近傍以南は古くよりの陸地にして、人民の居住せしは太古よりの事なるべし。保元・平治の頃源三位頼政の領となり、文治中伊勢平氏の當、桑名三郎右衛門行は略ぼ國道に沿ひ、東方町に桑名驛（明治二十七年設置）を設く、驛は省線參宮急行電鐵の伊勢線・養老線及び北勢電鐵への接續點をなし交通至便なり。（沿革）和名抄に桑名郡桑名郷（久波奈と訓す）とあり、桑名首は故里にして天津彦根命の男天久比乃命の後裔なり、のち郡家を設け郡司を置き此地を管す。日本紀天武天皇元年六月東國鎮率の詔次桑名郡家に宿し給ふ事見え、續日本紀聖武天皇十二年十一月戊申至桑名郡石占頓宿」とあり、蓋し石占は當時一地方なるべし。古桑名の地、揖斐・長良・町屋川等の流域に屬し洲渚三分ぜり。故に三夕の洲と云へり。今の三崎通以北を目凝州崎と稱へ、三崎通以南吉津屋町以北を加良州崎と呼び、新町以南を泡州崎と稱す。史籍の徵すべきもの以上にして、上古の事蹟千載の今日知るべからずと雖も、大字江場の北端より新屋敷に亙る一帶は甕塚の舊址にして、地層貝殼より成り、往々にして古代土器の破片を彫り出すを見、また天武・持統天皇行宮の遺址も大字江場字神戸並に神戸岡の地方なりといへば、當時は其の地勢現今と異りて、町屋川は今の西磧より矢田磧の方面に流れ、且つ海岸汎湖の地に近かりしとはいへ、鍋屋町より甕塚近傍以南は古くよりの陸地にして、人民の居住せしは太古よりの事なるべし。保元・平治の頃源三位頼政の領となり、文治中伊勢平氏の當、桑名三郎右衛門行

時代に於ける對外の勢力は甚だ偉大にして、來往の旅客、關西諸侯の參覲皆此地に由らざるはなく、尾・參・勢・濃及び遠近の百貨は爰に呑吐せられ、從つて五十三驛稱要の關門として近國に覇たりしなり。然るに時勢の遷移に制せられ、徴路の開通、三大川の改修等柔く利なく、商機空しく遠轉して又昔日の觀なきを患ひたるも、大正十二年四月赤須賀村を併合し、昭和八年三月更に益生村の合併を見たり。參宮國道も完成して岐阜縣への捷路も開け、鉄に交通・產業の一新紀元を劃するに至り、爾來時運進展すること四周年、往時の感運を挽回する將に近きに在らんとする の期に際し、恰もよし多年の懸案たりし鳴村西桑名町との合併の機運熟し、昭和十二年三月二十日を以て其實現を見、更に同年四月一日を以て市政を實施し、縣下第四位の戸口を有するに至る。天武紀・元年正月「丙戌、且於朝明郡逢太川邊、望拜天照大神」、是時、益人判之奏曰、所[illegible]國者、非山部王石川王、是大津皇子也、便賜益人、參來矣、大分君恵尺、難波吉士三綱、胸田勝忍人、山邊君安摩呂、小墾田猪手、巫部匙麻、大分君稚臣、根連金身、漆部友背之衆從之、天皇大喜、將及部家、勿依乘、謀來奏曰、發美濃師三千人、得之塞不破道、於是天皇美、乘依之勢、既到部家、先遣高市皇子於不破、令監軍事、遣山背部小田、安斗連河加布、發東海軍、又遣稚櫻部臣五百瀬、土師連馬手、發東山軍、是日、天皇宿于桑名郡家、」藤栗毛・四下「熟田の神の慈眼す、七里のわたし浪ゆたかにして、來往の渡船、絶なく桑名につきたる悦のあまり、名物のやきはまぐりに酒くみかはして」

〔明治天皇桑名行在所〕 指定史蹟。三重縣桑名市大字今一色寺町、本統寺境内明治十三年山梨・三重兩縣及び京都府巡幸の際七月二日御駐泊あらせられたる處にして、一部を改造したるも尚舊規模を見るに足る。

〔桑名神社・中臣神社〕 三崎通に鎮座。縣社。祭神、天津彦根命・天久々斯比乃命（桑名神社）。天日別命（中臣神社）。相殿神、綏御雷命・齋主命・天兒屋根命・比賣神。創建年代不詳。一に三崎大明神ともいひ、延喜式の制小社に列す。往時は神宮寺佛眼院を置き、田祿五十石あり き。明治八年郷社に同十四年六月縣社に昇格す。境内一千六百餘坪。例祭、七月十七日（桑名神社）。九月十八日（中臣神社）。

〔鎮國神社・守國神社〕 吉之丸に鎮座。縣社。祭神、松平定綱（鎮國神社）・松平定信（守國神社）。相殿に旭八幡神社・日吉天滿神社あり。祭神松平定綱は德川家康の異父弟松平定勝の第三子、初め荒川氏の養子となりしが、慶長七年初めて家康に謁し、松平三郎四郎定信なる名を賜ひ秀忠に仕へ、越中守に任じ定綱と改名、寛永十一年從四位下に進み、功をなされ同十二年桑名城に移封して十一萬石餘を賜ふ。幕府の元勳として尊重せられ、名將の譽高く、頻りに文武を勵し、士民を撫育し田畑開拓に意を用ひ、神祇を尊みて舊社を再興する等、大いに治績あり。寛政九年正月二十九日卒するや、領民この藩主の德を慕ひその靈を鎮祭せしが鎮國神社なりと云ふ。守國神社の祭神松平定信は彼の有名なる樂翁なり。中納言田安宗武の第三子にして、出でて松平定邦の嗣となり、安永四年從五位下上總介に任じ天明三年越中守となり從四位下に進み白河十一萬石の封をつぐ 將軍家齊の時に老中となり、幕府の諸政を戒め士氣を鼓舞し、爲に風紀頗る振興す。上は皇室を尊崇し皇居造營の事あり、外は海邊の備を嚴にす。寛永二年左近衛權少將に進み、文化九年致仕し專ら文筆に從ひ著作生活に入り、文政十二年五月十二日卒す。多くの著書を遺す。明治天皇深くその德を嘉し給ひ、明治十一年九月九日、正三位を追贈せらる。なほ定綱の子孫、七代定賢（定信の祖父に當る）は白川に封ぜられしかば、鎮國神社も白河城中に祀りしな、文政六年十代定永に至り再び桑名へ移封さるるに方り桑名城内本丸に遷座し、天保五年四月守國神社を旭八幡社の相殿に合祀す。而して相殿の旭八幡社は松平氏祖先の產土神なるを以て、元和六年八月尾張知多郡坂部村八幡社を勸請し來り、吉之丸朝日門の近地へ鎮祭せしものにて、明治十四年四月村社に列し、鎮國・守國の兩社は旭八幡社の相殿たりしが、明治八年四月二社並びに村社に列し、同十三年縣社に昇格し、旭八幡社を相殿とす。日吉天滿神社は明治四十年六月合祀せしものなり。例祭、五月十三日。

〔神鉾神社〕 益生、江場に鎮座。郷社。祭神、天照大御神、火產靈神、大山祇命。もと神明宮とも野代宮とも、野志里神社とも稱す。蓋し垂仁天皇の御宇倭姫命・天照大神を奉戴して桑名野代宮に還幸して奉齋す。後伊勢神宮の神戸を置かれ、現社名を稱せるものといはる。野志里神社は延喜式内社なり。尙延暦儀式帳及び倭姫世記に桑名野代宮と見ゆ。野代は此の地一帶の郷名、或は郷名に因みて社名を然か呼びしものとも云はる。例祭日、十月十三日。

〔天武天皇社〕 益生、本願寺に鎮座。郷社。祭神、天彦原瀛眞人天皇、火產靈神、天日鶏命、品陀和氣命、高天原廣野姫天皇、高市皇子。創立年代不詳。蓋し天武天皇此の地に行幸あらせられし頓宮に因み、何時の世にか天皇・皇后・高市皇子を奉齋する本社を創立せしものとせらる。我藩主代々の崇敬篤く、就中明治維新に際し、德川三位中將此の地取締中、明治元年九月東駕東幸に方り、五辻彈正大弼及び戸田大和守を以て當社の由緒を尋ねられしに依り、天武天皇頓宮御舊蹟の旨奉答申しに、永世湮没せざるやう取計ふべき旨御沙汰あらせらる。例祭日、九月十六日。

〔赤須賀神社〕 大字鎭師町に鎮座。郷社。祭神、天照大御神、火產靈神、大物主命外數神。社傳に依れば永祿年間伊藤氏家臣九人を率ゐて三河より來住し、三河國の舊新願所たる神明社を勸請して氏神とし且つ漁業の守護神と崇めたりと云ふ。慶安三年桑名藩主松平定綱城郭を擴むるに方り、藩費を支出して本社を遷祀せしむ。此時漁人等給數十隻を以て海上より來迎し、また漁師六組より各給一隻を納めて神宝とし、毎祭神前に陳列するを例とす。例祭、九月十一日、甚だ盛大なり。

〔圓妙寺〕 東方にあり。日蓮宗。光德山と號す。開基桑名城主松平越中守定良。境内に定良並に殉死者堀田五郎右衛門・多賀主馬介等の墓あり。

〔海藏寺〕 一色寺町にあり。曹洞宗。薩摩義士平田靱負以下廿二士の遺墳あり。寶暦三年十二月德川九代將軍の治世に當り幕府木曾・揖斐・長良三川の治水工事を薩藩に命ず、此時平田靱負、主命を奉じ來行となり部下を率ゐ具に辛酸を嘗め粉骨碎身、寶暦五年三月工漸く成る、依りて尾・勢・濃三州累年水難厄を救ふを得たり。されど巨額の工費は算外の支出となれるを以て責任を痛感し、死して君公に謝疏せんと旅窓の下遙かに思を故山に馳せつつ靱負以下二十二士悠然屠腹して終る。著聞たる松林間碑一基あり以て往時を語る。また近年桑名義士會忠魂堂を建築し忠魂を弔ふ。

〔桑名別院〕 今一色寺町にあり。眞宗大谷派。織田信長、本願寺顯如等と戰ふや、尾濃勢の門末等これを興し、傳令に便せしむ。時人之を今寺と稱す。これ當院の濫觴なり。東本願寺十二世教如、當寺を掛所となし尾・濃・勢三國の錄所となし其女長姫を寺務代とす。これより世人桑名御坊と稱す。延寶年間災厄に罹りしも、のち現存の堂宇を再建す。天保十七年別格本山となり、同二十年初めて本住職を置くに至れり。

〔西方寺〕 眞宗高田派。本山專修寺第十世眞慧を開基とす。初め眞慧近江戸津の濱妙林寺に入りしが、のち伊勢に來り朝明郡大矢知の光明寺並に本寺を創せり、大矢知の光明寺は後年廢絶し、享保年間其遺址より寶鐸二箇を掘出せしが、今本寺之を藏す。

〔照源寺〕 東方にあり。東海山泥洟院と號す。淨土宗鎭西派にして知恩院の末寺なり、公家菩提所の一。寛永元年松平隱岐守定勝逝去後定行一寺を創建し崇源寺と稱す。遠江掛川天然寺傳命三市を以て開基とす。のち藩祖大境院美濃より堂城に移封後、知恩院より深譽長寛を請ひ崇源寺住職となし、寺名を照源寺と改め、爾來桑名藩主の菩提所なり。

〔金龍樓〕 指定史蹟名勝天然記念物。照源寺域内丘上にあり、藩祖定綱の振津金龍寺より分植せるもの、巨幹根際より八岐し枝條繁茂せり。一枝中八重・一重等數種開花し地方稀有の名木たりしも、近年餘蔭きんとするを以て幼樹を植う。

【淨土寺】 清水にあり。永承四年の創建に係る。開基開山名等不詳。寶治元年遠親和尙之を中興し、慶長十五年城主本田平八郎忠勝の墓所な本寺に定む。

〔大願田寺〕 東方にあり。古義眞言宗。神寶山法皇院と號し、世に桑名大寺と稱せられ現に同宗高野末たり。寺傳に、聖德太子の草創に係り、天武・持統兩天皇行幸ありて較若、仁王の兩會を修し、聖武天皇の朝、千僧法樂會を行はれ、空海亦一夏安居して三密の法を修せりと。宇多法皇行幸ありて方丈か行宮とせられしより法皇院の名起るといふ。弘安年間炎上、伊勢長官頼田部實澄、僧惡性と共に之を中興す。其後數度の兵火に罹り、規模大いに縮小す。現に中本寺格にして北勢の瓦刹たり。寺寶中、絹本着色釋迦八相成道圖一幅・紙本墨書三條西實隆筆の勸進狀一卷並に絹本着色惡性上人像・額田部實澄像各一幅は何れも國寶たり。

〔十念寺〕 傳馬町にあり。淨土宗。行基菩薩の創建たり。後衰廢せしが嘉祿年中中興す。初め朝明郡田光村にありしが良忠上人の法弟譽阿彌當寺に住し、文明・天正年中現地に移建す。

〔瀧の地藏〕 赤須賀の東堤排水川畔にあ

り。眞言宗龍宮山地藏院の俗稱。本尊石地藏佛は往時貝州の濱にて、漁夫の網にかかりたるを、松の五叉の岐れたる處に安置せしに、夜々龍燈の上りたれば、其松を龍燈の松と稱し堂宇を建て之を安置す。當山の開基は詳なら寸。天正十三年大地震のため堂宇崩壞し、寛永八年小堂亦破損す。寛永十三年再建、修驗道當山派に屬す。のち多少の變轉ありて明治三十年大川改修により今の地に移す。當時地藏堂の前に常明燈あり他地方よりの夜中廻船の目標とせり。此地眺望絶佳なるを以て交詢客多し。殊に沙干狩によし。また白魚の特產あり。苞苴の「曙やしら魚白き事一寸」の句碑堂側に立つ。

〔法慶寺〕 萱町にあり。淨土眞宗。西本願寺別院。柳堂法慶寺と號し、初め三河國矢矧村にあり、阿彌陀堂と稱し、天台宗に屬す。親鸞上人布教歸洛の途次留錫し、柳堂と改稱し當宗に改む。法弟忠圓を住せしめ道場となす。のち應仁の亂を避け桑名に移り今の寺號に改む。第十三世寂然、西本願寺第十二世准如の孫たりしに依り留末寺格准進校たり。萬治年間福井より現光院を移し本寺と合併す。本尊阿彌陀佛は淇慶の作なりと傳ふ。長一米御齋具足す。世に齋吹如來と稱す。

〔川口港〕 市の北端揖斐川に沿ふ。桑名港とも云ひ內務省指定港の一。海路七里にて尾張の熱田港に達す。陸に七里の渡といふ。古の謂ゆる遠の渡は即ちこれなり。また佐屋廻として海路三里津島船の發着せし所。伊勢の入口なりとて、大鳥居を建て大神宮一の鳥居と稱し、毎年六月鳥居祭事あり。また上流尾濃地方に舟運の便あるため、その地方の貨物輻輳し甚に集散し市街殷盛を極めたるも、明治三十年木曾川改修工竣はると共に鐵路全通し、漸しく中間驛の如き觀を呈し、また往時の盛況を見寸、されど尙舊態を存し貨物集散の要泊地たり。名所圖繪「有明の月に問遠の渡してとまり急かぬ夜半の舟人」伊勢物語「いとどしく過き行くかたの戀しきにうらやましくもかへる浪かな」

〔愛宕山〕 宇城山にあり、戰國時代、北勢四十八家の筆將矢田市郎右衞門此處に居城を構へ住せしといふ。天正十一年織田信長の襲ふ所となり市郎右衞門奮戰せしも力及ば寸陷る。松平定綱の代に至り愛宕神社を奉祀せしも、明治四十四年立坂神社に合祀せられ廢さる。山上に春景樓あり、東南伊勢內海を望み勢・志・尾・參・遠の諸州の山岳眼中にあり、風景絶佳。桑人此處に遊ぶ者絶えず。

〔江場城址〕 大字江場圓通寺の南田圃中にあり、城山と俗稱す。佐藤巫之助の城址と傳ふ。天正五年矢田城の沒落せる頃滅亡せり。

〔有王塚〕 大字矢田字智(有王)にあり。俊寛の侍童有王丸の墳墓なりといふ。源平盛衰記に有王鬼界ヶ島に至り、俊寛の悲慘なる最後を見とどけ、遺骨を持ち歸り高野山に埋葬してより、諸國行脚の旅に出でしが、偶々齒痛のため病みて此處に死す。里人集りて葬儀の上に墓塚を設び通夜すといふ、この遺風は今尙存し、桑名地方にて死者ある時は其家の戸口に蓬蒿を掛けて忌中の印となす。塚は田畝中にあり。小祠ありて附近に松樹數本あり、齒痛に苦しむ者この祠に詣づれば、齒痛止むとて、今も尙香花の絶ゆることなしといふ。一說に橘諸兄の孫有王の墓なりといふも詳ならず。句佛上人の「塚に泣け晉なき跡か友千鳥」の句碑あり。

〔伊勢大橋〕 當市と長島村に跨り、規模東洋第一を誇る人道橋なり。延長實に一一〇五米餘、その工費一七五五四〇〇圓なり。春鍋屋堤の櫻花、盛夏橋上の涼風、秋月明の夜の渡橋漫歩、雪の遠景眞に四時共にあかぬ眺めとして、今國稱に見る奇觀といふ。

〔揖斐川堤の櫻〕 大字住吉町地先より大字福島に至る揖斐川堤上約一粁に亘る櫻樹の隧道、右顧水を隔てて長島に對し、左駐田畑連り多度江勢の諸峰を望み、風景絶佳、春風駘蕩の烟浸たる艷姿、夏期灼熱の頃の綠蔭等四時風致に富む。

〔走井山〕 大字矢田字城山にあり、矢田半左衞門之に居し矢田城と云ふ。天正五年織田信長一部將羽柴秀吉・攝川一益等をして之を攻めしむ。城主矢田俊元戰非なるを知り自刎して相果つ。元和年中山蔭にありし觀音堂を山上に移し、走井山觀學寺と稱せしも、明治維新後廢寺となる。これを惜み有志者數名說教所として之を保存せり。山上は愛宕山と共に風景絶佳なれば、春時は殊に遊覽の客群をなす。

〔村正屋敷〕 走井山の下にありといふも今何處なるか詳かならず。刀工千子村正の住せし所なり。村正の母走井山の千手觀音に祈りて村正を得たれば、千子を氏となすといふ。その子孫いま大字大福に住し鍛冶業を營む。

〔森陳明の墓〕 傳馬町十念寺にあり、森彌市左衞門陳明は舊桑名藩の重臣、戊辰の變に桑名藩首謀者の一人として、薩長に强抗し、事治るや、一藩の責を負ひ江戸深川の刑場に斬らる。のち遺髮を此處に埋めて墓所となす。

〔播磨山の松茸〕 里に接近する平坦地に冬きがため、比較的茸狩に便なれば、名古屋・四日市・岐阜・靜岡・大垣地方より來り遊ぶもの極めて多し。俗諺に「播磨松茸あのよい香り香る筈だよ海道一じやものの」とあり。產額品質共に東海道に於て著名なるもの。

〔螟塚〕 桑名郡北方約二粁の小山の麓にあり、螟蜀重疊し塚をなす。往古海潮此邊まで來りて、西の山腰は即ち海岸にて現今古き鮪貝の夥しきは其證なりと。字名亦此說に據るべし。當地往古持統天皇潛幸の舊址なりと傳ふ。地中より彌生式土器を始め人類考古學上參考となるべき諸種の土器を出す。又附近より涌出する冷泉を汲め浴用に用ふれば、身神爽快となり殊毒・腫物に効ありといふ。

【桑名電軌線】 私設軌道。三重縣桑名市內を通ず。桑名驛前より本町に至る。停留場は桑名驛前・國道・東庫前・三崎橋・旭橋・田町・本町の七を置き、全區間一粁、全區間約四分を要す。また全區間五錢、驛前—旭橋間及び三崎橋—本町間は三錢。

クワナシ　桂梨村

廣島縣安藝國豐田郡の北部。南は河內町との間に豐田村を挾み、西北は川源村に、東北は世羅郡神田村に隣る。面積二四・二方粁、西南部と東北部には何れも四—五〇〇米の高度を有する山地あれども、中部には西北より東南に低地續き、椋梨川これを潤し田畑拓く。純農村にて主產物は米・麥、特產物に松茸を出す。西北隣川源村より三原市方面への道路に當るも、交通なほ大に便利ならず。此地古くは和名抄・沙田郡椋梨郷の地。郷は訓を闕くも本久奈之と讀むものなるべし。椋は新撰字鏡に牟久乃木と訓じ椋梨にも作る。村名は蓋し此途稱なるも、町村制施行に際し、上草井・下草井・椋梨・大具(今共に大字)の四箇村合し本村を置き、カワナシと讀ますに至る。また椋梨堂古の築きし椋梨城は大字椋梨にあり。

クワネ　桑根村

山口縣周防國玖珂郡の西部。東は賀見郷村・北河內村に接し、北は河山村に、西南は川越村に、西の一部は都濃郡領金村に界す。村內四一五〇〇米の山地連亙し、中部を錦川東南流するも、流域に沖積地の發達少く平地に乏し。木材・木炭・楮皮・山桑等の產に富み、米・麥・蒟蒻・繭等を出す。また古來和紙の製造行はれ、有名なる山代半紙の製造は永祿八年當村にて之を創めしより次第に隣村にも行はるるに至れりと傳ふ。また北河內村に亙り喜和田鐵山ありて、銅・鐵・重石を出す。錦川に沿ひ縣道通じ岩國町・日原村(島根縣鹿足郡)間に省營自動車の便あり。本村は町村制施行に際し、南桑・根笠(今大字となる)の二村の合したるものにして、村名はこの二大字の各一字をとりて名づけしもの。なほ本村の河川中にかじか多く棲息し、特に美麗なるを以て著はれ、いま岩屋觀音窟と共に南桑かじかかへる棲息地は天然記念物に指定さる。

〔山內神社〕 大字根笠村字山ノ內に鎭座。郷社。祭神、四象女命・倉稻魂命・國狹槌命・大己貴命・稻田姫命外數神。創立年代不詳。河內神社・大歲神社の二社を合併せしもの。共に地方の古社にて、江戸時代には社領を有し、近郷の產土神と仰がる。例祭、陰曆九月十九日。

〔岩屋觀音窟〕 指定天然記念物。古生層の石灰岩より成れる根笠臺地にある石灰洞窟なり。洞窟は奧行一三米、幅六米、高さ一一米、規模大なる方と雖も鍾乳石及び石筍は頗る能く發達し、殊に洞內の略々中央に石灰華より成る高さ約〇・八五米の座像あり。是れ石灰華が木像の模倣して造出したるものにして、中部を錦川東南流するも、流域に沖積地の發達少く平地に乏し。木材・木炭・楮皮・山桑等の產に富み、米・麥・蒟蒻・繭等を出す。また古來和紙の製造行はれ、有名なる山代半紙の製造は永祿八年當村にて之を創めしより次第に隣村にも行はるるに至れりと傳ふ。また北河內村に亙り喜和田鐵山ありて、銅・鐵・重石を出す。錦川に沿ひ縣道通じ岩國町・日原村(島根縣鹿足郡)間に省營自動車の便あり。本村は町村制施行に際し、南桑・根笠(今大字となる)の二村の合したるものにして、村名はこの二大字の各一字をとりて名づけしもの。なほ本村の河川中にかじか多く棲息し、特に美麗なるを以て著はれ、いま岩屋觀音窟と共に南桑かじかかへる棲息地は天然記念物に指定さる。

【桑野村】 徳島縣阿波國那賀郡の東部。東の橘町、西の鷲敷町の間に位し、南は新野町に、北は長生村に隣る。面積二三・二四平方粁、南北兩境には東西に丘陵性山地連るも、中部には幅狹き低平地東西に延び、桑野川新野町より來りてこの平地を潤し長生村に出で、田畑よく拓く。農產には米を第一とし麥・蒟等あり。國道東部を南北に通じ北は德島市方面へ、西南は日和佐町(海部郡)を經て、高知縣甲浦町・室戸町方面へバスの往來あり、また省線牟岐線略國道に沿ひ、桑野驛(昭和十一年設置)設けられ交通便利となれり。此地古くは和名抄の郷域詳ならざるも、中世は補陀寺領なる桑野保に屬す。保名は延元元年の文書に見ゆ。また戰國の頃東條國長衞の居りし桑野城あり。東條氏は長曾我部氏のために滅さる。本村大字山日に東寺の名僧長範大僧正の再興になる涅槃寺あり、七堂伽藍その規模大なりしも、天正十三年長曾我部元親の兵火に罹り悉く燒失し、今僅に土器・五輪塔石等により其面影を偲ぶに過ぎず。橘浦海八幡宮文書に「光行阿波國桑野保內海八幡宮神主職並免田等事、(伴常光所)右以人所被充行彼職也於有限之社役者、任光例しむかひて、一重なる松山の侍るなり、くはの山とぞいふ、ふもとに松原とほくなみ立て、あたりはかた濱とて、しほやく所なり、花すゝきまそほの糸をみだすかなしづがかふ見のくはの山かぜと」あり。

致其沙汰、且加修理、且可被致御祈禱之狀如件、建武三年十一月十九日　源重長」〔天神社〕大字桑野に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。初め菅公筑紫左遷の時海上浪荒く舟を進む事能はず、乃ち當村東の渕に舟を寄せて上陸し給ふ。本社は之に因み何時の代にか創立せられしといふ。今橋村の海岸に奥置かれしといふ舊跡に奥居の石あり、神乙女その石の下にて太鼓を鳴らす式あり、因て石をトントン石といふ。室町時代より武田氏等領主の崇敬に加へ、江戸時代には藩主蜂須賀氏は累代社殿の修造等を怠らざりき。また近郷の產土神。例祭、十月二十五日。〔梅谷寺〕大字桑原にあり。真言宗高野派。鶴路山と號す。一に天神坊といふ。文明十五年源常忠の再興に係る。寺内に菅公の廟あり、因りて天神山と號せしが、慶長三年鶴路山と改む。舊寺領十石を領す。〔蓮華寺〕大字山田にあり。真言宗高野派。長範法師、白河上皇御不豫の砌、院宮を榮り太龍寺（弘法大師の草創）を再興す。これ當寺の創興たり。のち蓮華寺と改めて七堂伽藍を建立せしが、天正十三年の兵燹に罹り悉く燒失す。その後小庵を建てしが火災に燒失し、其後數回の建立を經て以て今日に至る。

クワノイチ　桑市　河内國（大阪府）の古地名。敏達天皇の十二年に桑市村見ゆ。また阿斗桑市とも見ゆ。即ち天皇火國葦北國造の子日羅の百濟國にありしを召し給ひし時、日羅を此地に置き給ふ。地はいま中河内郡龍華町の邊と云はる。　※阿斗

クワノモリ　桑野森越　日本海岸を南北に走る秋田街道を山形縣飽海郡高瀬村より離れ、北東高し、鳥海山（二二三〇米）の西方山腹に當り、同郡吹浦村と秋田縣由利郡上浦村との境界上なる觀音森（六八五米）の東側を過ぎ、之より上蒲村を北西方に降り、村の東端部日本海岸にて秋田街道の續きなる酒田街道に合する山路を云ふ。一に觀音森越と云ふ。

クワハラ　桑原　【桑原】下總國（千葉縣）の古地名。和名抄、葛飾郡に桑原郷あり、今何れの地に當るか詳かならず。一書に埼玉縣北葛飾郡杉戸町の邊なりといへど、彼地は下河邊庄内にして古郷域にあらず。恐らく東葛飾郡の流山町の邊その郷域なるべく、流山町の大字加村は桑原の訛なるか。

【桑原】信濃國（長野縣）の古地名。和名抄、諏訪郡に桑原郷あり、久波波良と訓す。其地今の諏訪郡上諏訪町・四賀村等の邊なるべし。上諏訪町に下桑原、四賀村に上桑原の名存するは郷の遺稱なるべし。東鑑文治二年三月の條に「桑原餘目、前堀河源大納言家領」とあるは此地なるべし。

【桑原】近江國（滋賀縣）の古地名。和名抄に高島郡桑原郷あり。地は今の高島郡新旋村なるべし。續紀神護景雲二年の條に、近江人桑原直新麻呂と云ふは此地に本貫せしものなるべし。古歌に桑原濱と云ふは此地湖岸なるに因む。方與集「すめろきの御世はつきせし桑原の濱田は三たび海となるとも　道經」

【桑原】播磨國（兵庫縣）の古地名。和名抄に揖保郡桑原郷あり、久波波良と訓す。播磨風土記には桑原里と見え、應神天皇巡狩山に登りて、此地を眺むに、倉庫並び立つ、因つて倉見と名付け、のち桑原に改めたりと。中世は桑原莊に作り、東鑑文治二年の條に莊號見ゆ。東寺正中二年文書に最勝光院領、播磨國桑原莊、領家山科中將とあり。而して近世は村名に呼びしが、明治四十二年、平井・布施の二村と合併して、揖西村を建つ。播磨風土記・揖保郡「桑原里、（舊名倉見里）、土中上、品太天皇御二立於櫛折山一、覽之時、森然所見倉、故名二倉見村一、今改名爲二桑原一、一云、桑原村主等、從二神宮郡一接見、將來、其主認來、見二此於村一、故曰二接見一、琴坂、所二以號一琴坂一者、大帶比古天皇之世、出雲國人息二於此坂一、有二一老父與女子一、俱作二坂本之田一、於是出雲人欲レ使レ感二其女一、乃彈レ琴令レ聞、故號二琴坂一、此處有二飼牛石一、形似二雙六之狀一」

【桑原】紀伊國（和歌山縣）の古地名。和名抄に伊都郡桑原郷あり。その地詳ならざるも、日本靈異記に伊刀郡桑原里狭屋寺とあり、いま伊都郡笠田町の大字に佐野あり、狭屋の轉と思はるれば、桑原は卽ち笠田町に當るか。

【桑原】筑後國（福岡縣）の古地名。和名抄、上妻郡に桑原郷あり、其地今の八女郡黒木町・豐岡村・川崎村等に當り、黒木町の大字桑原は郷の遺稱なるべし。

【桑原】肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄、託麻郡に桑原郷あり、今詳かならざるも飽託郡小山戸島村の邊に當るか。一に上益城郡高木村・大島村・六嘉村の邊なりともいふ。肥後事蹟通考に古文書を引き沼山津の邊かと論ずれど、郷莊配置より推せば、六反莊の北、小山の附近が郷名を缺けば、恐らく此附近なるべし。

【桑原】肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄、葦北郡に桑原郷あり。いま葦北郷と混じ佐敷町に入る、卽ち大字桑原は郷の遺稱なるべし。佐敷川の上游なる山間の地にして大野村・吉尾村も本郷の内なりしものなるべし。

【桑原】大隅國（鹿兒島縣）の古地名。和名抄、給羅郡に桑原郷あり、今何れの地なるか詳かならず。一說に桑原郡に桑善郷あるは桑原郷の訛れるものにして、一郷が兩郡に分屬せしことは諸書に見え、建久圖田帳に桑東郷・桑西郷あり、謂ゆる東郷は卽ち桑善郷にして、いま囎唹郡に入り國分郷と稱せし地、西郷は卽ち本郷にして、加治木郷と稱せし地にして今の給良郡加治木町の地なりとなす。

クワバラ　桑原　【桑原】省線會津線の一驛（昭和七年設

置）。福島縣北會津郡大戸村にあり。

【桑原岳】常陸國（茨城縣）茨城郡の古地名。風土記の地名說話によれば、倭武命此丘上にて井戸を掘らしめしに、清水出でてよく澄れり。よりて田余里と云ふとあり。田餘は今の新治郡田余村（大字に上玉里あり）に遺名存す。上玉里に玉井の遺址存するといふ。桑原岳。昔倭武天皇、停二留岳上一、遣二乘御膳一時、令二水部新掘一清井一、出泉馨香、飲喫允好、能消水穢、由レ是名謂二田餘一」

【桑原村】長野縣信濃國更級郡の南部。東は稻荷山町・八幡村に、西は牧郷村に、北は信田村に隣り、南は東筑摩郡麻績村に昇す。面積一六・四平方粁餘、西境には聖山（一四四八米）・高雄山（一一六六米）の山地南北に延び森林をなし、東北部には平坦地ありて田畑拓け、米・麥・繭の產あり。北國西街道東北部を通過し大字中山より稻荷山町へはバスの便あり。〔龍洞院〕曹洞宗。桑原山と號し遠州可睡齋に屬す。應永年間桑原左近大夫創建し愚伸和尙を開山とす。文龜年間兵火に罹り燒亡せしも、永正元年第七世大陽、大檀越桑原左近の援資によりて再興す。慶安年間惣川幕府寺領十五石の朱印を附す。のち再び災厄に遭ひしも再建成る。現に末寺七僧寺を有す。

【桑原村】岐阜縣美濃國揖鳥郡の南端。本曾長良二川に挾まれ、北は中ノ鳥村・堀津村に接し、西は長良川を隔てて海津郡海西村・吉里村に對し、東は本曾川を界として愛知縣中鳥郡祖父江町・長岡村を相望む。面積一〇・三平方粁。土地平坦低卑、至る處田畑拓け、東西の河岸は堤防によりて河水の氾濫を防ぐ。米の產多く、製糸行はる。社線竹鼻鐵道（電車）北方より來り正專寺前・八神・桑原・大須の四驛（昭和四年開業）を設き、また竹ヶ鼻町より西南海津郡高須町・今尾町への縣道も通じ、木曾・長良兩川の水運と相俟ち交通便利なり。本村は昭和二年、八神村・小熊村を廢して設けるものにして、此地往古より桑園多く、養蠶盛に行はれし村なり。新撰六帖にも「美の尾張さかひ續きに植並めてよむともつきじ桑のいくもと　光俊朝臣」とあり。大字大須はもと中鳥郡大須庄と稱せし地なり。此地に觀音寺ありしも、慶長年間名古屋に移し實生院と改む。いま大須觀音と通稱す。〔八劍神社〕大字八神に鎮座。郷社。祭神、日本武命。創立年代不詳。江戸時代には代官毛利氏の崇敬を受け、社殿の修復、田畑・祭器等の寄進・祈願等のことあり。又近郷の産土神。

【桑原村】愛媛縣伊豫國溫泉郡の中部。松山市の東南に接續し、東北は湯山村、南は久米町に隣る。面積六・二五平方粁。東半部は二―三〇〇米程度の山地連なるも西半部は松山平野の東北部に當り、田地よく拓け、畑地これに次ぎ、米を主とし麥・蕪菁・繭等の農產物を出す。松山市より東方丸亀市へ至る街道西南部を斜に通じ交通便利なり。此地古くは和名抄、溫泉郡桑原郷の地、郷は久波波良と訓す。桑原氏代々此地に居し桑原寺はその墳寺なりと。また四國八十八箇所第五十番の札所繁多寺あり。〔桑原八幡神社〕畑寺に鎮座。郷社。祭神、崇田別尊・足仲彦尊・息長足姫尊・誉大神。創立年代不詳。天文十一年河野道廣再興。近郷の總產土神。例祭十月六日。〔繁多寺〕畑寺にあり。新義眞言宗豐山派。東山瑠璃光院と號し四國八十八箇所第五十番札所たり。寺傳に行基の開創にして孝謙天皇の勅願所たりといふ。應永元年、泉涌寺二十六世快雲本寺に入りてより高僧相繼ぎて當寺に住す。昔時は七堂伽藍三十六坊並に末院二十箇寺を擁して寺運隆盛を極めしが、のち興亡あり、堂宇多く廢頽し今は佛宇纔に遺る。御詠歌「よろづよの繁多なるとも忘らず諸病なかれと望み祈れよ」

【桑原郡】大隅國（鹿兒島縣）の古郡名。日本後紀延喜二十三年三月に郡名初めて見ゆるが、給羅郡を割きて設きしものならん。往昔大隅の國府位置は本郡内にあれば、和銅六年大隅國建國後、久しからずして置かれしものならん。中和名抄は大原・大分・豐國・答西・稻積・廣田・桑善・仲川の八郷を記すも或は近郡との間に錯綜せるものあるが如し。中世私に桑東・桑西の二郡及び帖佐郡を建て桑原郡名を失ふ。近世に至り桑原郡を建てしも舊域にあらず。明治三十年本郡は西囎唹郡と共に給良郡に入る。

クワバル　桑原山　八本木とも云ふ。九州山脈に屬する一峯。宮崎縣東臼杵郡北川村と大分縣大野郡小野市村との境界にあり。標高一四〇八米。南西方は矢立峠最高點（八九五米）を經て黒原山（八八一米）に連り、北西麓は夏木山（一三八六米）に續く。南西麓より祝子川發し南麓を洗ひて南東流す。山體は原始林にて掩はれ、また鷲谷美に富む。山頂よりは晴天の日豐後海峽方面より四國の山山まで望見し得らる。登山は北方小野市村木浦鑛山方面より大切峠（七四四米）を經て南東高し桑原山の北東山麓に達し、ついで尾根を傳ひて達頂す。

クワベ　桑部村　三重縣伊勢國桑名郡の西南隅。桑名市の西南にあり、村の東北部はこれに接し、北は在良村を挾む。南は三重縣朝日村・八郷村に、西は員辨村久米村に隣る。面積四・八平方粁、南部東西には高さ四―五〇米の丘陵あるも、北半は北隣在良村との界を東流する町屋川の流域にて土地平坦、田畑拓く。米・繭・麥・馬鈴薯等の農產を主とし工產少からず。社線參宮急行電鐵伊勢線の町屋驛（昭和四年開業）は大字東金井にあり、桑名市へも近く交通便利なり。古くは和名抄、桑名郡額田郷に屬せるものか。長谷神社は延喜式内社なりといふ。明治二十二年五月村制を布く。

クワムラ　桑村郡　伊豫國（愛媛縣）の古郡名。類聚三代格元慶八年符に伊豫國桑村郡の名見ゆ。延喜式神名帳桑村郡に周敷神社ありて周敷郡に式内社なし。之によりて見れば、桑村郡はもと周敷郡の北部を割きて設きしものか。和名抄は久波牟良と訓じ篠田・御井・津宮の三郷を設く。堆略天皇の十六年紀に「詔宜桑國縣」殖ゑしとあり。蓋し本郡もその一なり。明治三十年周敷郡と合して周桑郡を建つ。

クワヤマ　桑山村　香川縣三豐郡の西北部。七寶山塊の南麓に位す。面積六・七七方粁、北は比地太村に、南は富野村に、東は笠田・本山兩村に接し、西は七寶山（四四四米）・志保山（三二〇米）を以て仁尾・高篠兩村に隣りす。山麓に沿ひて財田川の支流澤川の網流貫通し流域に平地を作り、西南財田川に向つて開く。山麓は一帶の斜面地にして地勢高燥なるを以て、北池・南池・谷池等多數の溜池を設け灌漑に備ふ。西南部は地勢低く澤川之を貫流すと雖も細流灌漑に適せざるを以て、本山村誤訪池の水を引き、尙その殘水をも揚水して灌漑に供す。農業を主とし、米（五千石）・麥（約四千石）を産すれども、地勢の關係上明治十三年頃より桑樹の栽培起り、最初僅に二反の桑園に過ぎざりしも、同廿年には十反となり、現今約九百反に及び、産繭額の如きも明治四十四年の四萬五千圓より、現今十萬圓内外に達し、縣下有數の養蠶業地をなす。窯業・養鶏・煙草も重要なる產業をなし、窯業の如きはその起源古く、現今、瓦・土管・井戸側等を製す。省線豫讃本線村の東部を略南北に貫通し本山驛（大正二年設置）の設置あり、又縣道高瀬・觀音寺線西部を山麓に沿ひて走り、觀音寺町との間にバスの往來あり、交通不便ならず。本村は舊落時代には丸龜藩下に屬し、廢藩後、本村は七十三區となり、以後大小區の變遷あり、明治廿三年市町村制施行に際し、岡本村・下高野村の二村と合併、新に本村を設く。從來本村は地勢の關係上果樹殊に桃の栽培盛なりしが、蜜柑桑樹栽培の一層重要なるを知り、之が奬勵の意を村内に標榜し、村民の懇ふ所を指導せんがため桑山の村名を選びしものなりといふ。本村地方は石器時代遺跡は多少發見するも、古墳時代の遺跡を缺き、開發の蹟外におそかりしを察せむ。名跡の古きもの少く、神社には村社八幡社、鳥八幡）・國本八幡社、寺院には延壽寺（眞言）の他、最近の創建たる城山寺（日蓮宗）あるのみ。

クワルス　——社　臺灣高雄州鳳山郡の郷社。潮州郡の北部山地郷界、大武山の西方山麓にあり。パイヨン族の中のブクル系統に屬する高砂族の部落なり。この地方に於ける有力なる部落にして、その頭目家、カラジャン家は勢力四圍に及び、その支配下に屬する郷社は十八社に及ぶ（昭和七年現在）。戶數九〇人口四八〇（昭和十一年末）

グンイ　軍郡　【軍威郡】朝鮮慶尙北道二十二郡の一。道のほぼ中央に位し、北は義城郡、東は永川郡、東北は青松郡、南は八公山を境として達城郡に接し、西南は漆谷郡、西は善山郡に隣る。面積一五二三方粁餘。行政上、義興・山城・古老・仙溪・友保・孝令・軍威・召保の八面に分たれ、郡廳を軍威面西部洞に置く。郡内略ぼ丘陵山地をなし、洛東江上支渭川郡内を北西流し、その流域を刻して洛岸一帶は米產に富み、老年期の丘陵斜面には畑地拓けて麥・大豆・棉花・麻・煙草・菊草等を栽培し、特に棉花の產多く、蓋蠶また盛にして、副業として草鞋・莚席等を產す。鐵道未だ通ぜざるも、二等道路の一は孝令・軍威二面を南北に通じて北方義城へ至り、一は永川・義城を連ねる線同じく南北に通じて郡内主要郡間にバスを通じ。交通不便ならず。人口五八一五五、うち内地人一八五、滿洲及び中華民國人一二。

【軍威面】朝鮮慶尙北道軍威郡の西部。東は孝令面に、西は召保面に、北は義城郡鳳陽面・金城面に、南は善山郡長川面に接す。東部及び西部に山地連亙し中部を洛東江の一支渭川西北流し流域低地に耕地拓け米・麥・大豆等を產し棉の產出に知らる。また毎月定期の開市ありて取引盛に行はる。二等道路は中部を南北に通ず。郡廳・警察署等あり地方の中心たり。

グンガイ　郡外面　朝鮮全羅南道莞島郡の北部。莞島の北半を占め西南海上に浮ぶ東花島・白日島・黑日島を含む。南は莞島面に接し、東は古今面に對し、北は海南郡北平面を望む。南境に象皇峰（六四四米）屹立し、山麓は北に延びて面内漑れ山地をなし海岸に僅に低地あり。氣候溫和にして山地には樹木よく繁茂し、米・麥・棉を主產し魚族も少からず。街道は東海岸に沿ひ莞島面に達し、北部海上は北平面との間に渡船の設あり。

グンゲ　郡家　【郡家町】兵庫縣淡路國津名郡中部の西岸。東は屋崎村、南と西南は多賀村に隣り、西北は播磨灘に面す。面積僅に三・二一平方粁、東部の田畠・北山二部落の地は概れ四—五〇米程度の丘陵地、西南部に郡家川北流しこの川筋及び北部の沿海に平坦地あり。平坦部を初め丘陵地も略ぼ田畑に拓かれ米・麥を產し、雞卵・蓙製品を出す。沿岸漁業行はれ漁獲物・水產製造物少からず。大字郡家は街區をなし地方商工業の一中心をなす。縣道南北と西方に通じ、東は志筑町、南は鮎原村を經て三原郡中心部へ、西は江井町・都志町へ、北は岩屋町へ何れもバスの便あり。また近年小笠港成りて明石・神戸兩市方面への汽船の寄港地となり、交通便利なり。古くは郡家郷と云ひ、和名抄は久宇希と訓す。蓋し津名郡の郡家のありし處

なるべし。大正十二年町制施行。

【郡家村】香川縣讃岐國仲多度郡の北部。西は龍川村に、北は南村に、南は乘木・與北兩村に、東は綾歌郡川西村に接す。東西十七町二十間、南北廿四町二十間、長方形を呈し面積五・二六方粁、戶數六五二、人口三二八六人（昭和十年）。一帶の沖積平野にして、條里制の跡よく保存せられ、大字三條の如き殊に著し。寶幡寺池、大池・宮池・矢野池等十餘の溜池を設けて灌漑す。地味肥沃、純農村をなす。米（九千九百石、約三十萬圓）・麥（五百石、二萬餘圓）等の農作物の他、養蠶・藺製品（叺七萬五千圓）・素焼瓦（約三千圓）等の副產を有し村の經濟を支持す。なほ大字三條字黑鳥は裝束を副業とし約五千圓の收入を擧ぐ。本村には縣道の高松金藏寺線並に丸龜琴平線ほぼ東西・南北に交叉して走り、琴平急行電鐵また村の東南部を斜に通り、郡家停留所の設あり、交通不便ならず。此地方は往古郡家郷に屬し、郡家の舊地なれば村名となりしものの如く讃陽廻覽記には郡珂郡三宅（今の郡家村）とあり、又古老の口碑にも往古ミヤケノサトと云ひたりと傳ふれば、上古に正しく稱へしなり、後世音訓するに至りしものならんと云ふ（仲多度郡史）。もと郡家・三條の二村なりしが、明治廿三年市町村制施行の際二村を合併、郡家村と改稱、もとの村名大字とす、小字中には領家・地頭など史的名稱を有す。本村には古墳を發見せざれど名跡多く、郷社神野神社に大字郡家の氏神、懷豐天皇御世の鎭座と傳へ、推古天皇御宇郡家戶主酒部善里が相殿に八幡神を勸請せしより神野八幡神社と稱すと云ひ、又式内社神野神社は是なりとも傳ふ。大字三條の氏神社に村社日吉神社あり、承和年間智證大師の造營と傳ふ。寺塔にも古きものあり、淳和天皇御宇酒部善里が菩提のため建てたりと傳ふる寶幡寺、白鳳の頃木德郷戶主和氣廣足（菩茂）が惡疫退散のため建立せりと傳ふる金林寺も此處に在りしものにて寶幡寺池は寶幡寺址に當り、礎石なほ保存され、日吉神社西方の、金林寺又は枇杷藥師と稱する處は金林寺址なりと云ふ。現今の別院には興正寺の郡家別院あるのみ。〔神野神社〕大字郡家に鎭座。郷社。祭神天穗日尊・譽田天皇、外四神。式内社。懷豐天皇二年社殿を建てて神野大明神と稱し、のち推古天皇五年八幡宮を勸請して神野八幡宮と稱せりと傳ふ。例祭。九月十五日。〔郡家別院〕眞宗興正寺派。明治二十八年興正寺二十八世本當の開創に係る。天正年間長曾我部氏の兵火に燒せしまま纔に五層大塔の柱石を存せしが、其緣由に因りて、のち村民此處に草庵を營むと。明治二十五年本堂建立の工を起し、翌年成る。同二十八年京都府葛野郡山内村の別院を此地に移して、改めて興正寺派郡家別院を公稱し今日に及ぶ。

グンザン　群山・郡山　【群山府】朝鮮全羅北道の郡邑。クンサンとも訓む。地は南朝鮮西海岸の中央に當り、道の西北隅に位し、錦江の河口を擁し、江を隔てて忠淸南道舒川郡と相對す。西及び南に怪火山・月明山等の連嶺を負ひ、東南は花漢たる湖南平野にして地味豐饒を以て知られ、錦江・萬頃江・東津江等の諸流の灌漑と相俟つて良米の產を以て有名なる大平野を控ふ。しかもこれ等の產米は南記諸川の舟運によりて容易に群山港に集められ、加ふるに鐵道湖南線裡里驛より分岐せる群山支線により更にその商圏を大ならしめ、内鮮各地との間に定期航路ありて、水陸交通の樞心に當る。地は恰も内地の福井市・八王子市・熊州灣青島とその緣度を同じうし、東西約三粁、南北二粁弱、面積七・七平方粁を抱擁す。當府はもと荒寥たる一漁村に過ぎざりしが、明治三十二年五月開港せらるるや帝國政府は此地に本邦領事分館を置き、内外通商貿易及び在留民の保護に任ず。當時群山港の内地人僅に二〇戶七七人、朝鮮一五〇戶、七〇〇人に過ぎず。明治三十九年二月領事分館を改めて理事廳となし、同四十三年に至るく稱へしを、後世音訓するに至りしものならんと云ふ（仲多度郡史）。もと郡家・三條の二村なりしが、明治廿三年市町村制施行の際二村を合併、郡家村と改稱、もとの村名大字とす、小字中には領家・地頭など史的名稱を有す。本村には古墳を稱し、以て大正三年の制度改革に及べり。是より先、韓國政府は沃溝府使をこの地に置き、管内統治の任に當らしめ、後幾多の變遷ありしも、明治四十三年九月、地方官々制發布と共に沃溝府及び群山理事廳を廢して群山府を設置し、同時に各國居留地會及び居留民團を廢止す。開港後日露戰役を經て國運隆盛を見ると共に内地人の來住者相踵ぎ、大正十一年末には人口一七六五二、うち内地人六五二八、昭和七年十月府行政區域擴張に伴ひ、隣面沃溝郡米面新豐里・屯栗里・京場里各一部と開井面龜岩里の一部とを合併し、同年末には人口三五五七五人、うち内地人九六〇一に達す。かくて既往の增加率八倍にして、昭和十年末現在戶數八九〇〇、人口四一〇七七、うち内地人九七一一、外國人六二四、一平方粁當り人口五三三四なり。群山港は半島西海岸に於ける樞要の港灣にして、忠淸南北兩道及び全羅北道に於ける錦江流域の物資は多く本港により呑吐せらる。港は謂ゆる河港にして、江口を上ること約一二浬、潮水干滿の差は五—八米に達し、その碇繫區域は約七〇ヘクタールあり、されば干潮時は大船舶の航行不便を感ずること勿からず。明治三十九年來大正十一年に亙り工費二七萬餘圓を投じて木造棧橋、江岸の埋築、鐵道引込線の敷設並に上屋を設け、大正十四年よりは浚渫船を常置し不斷浚渫を行ふ。大正十五年に至り總工費

二八五萬餘圓を以て築港工事に着手し、昭和八年三月之を竣功す。現在に於ては、コンクリート製函船浮棧橋三基を有し、三千噸級の汽船三隻を自由に横着し得、而日正に一變せり。航路は仁川・木浦及び内地各港と連絡し、朝鮮郵船・大阪商船・尼崎汽船その他定期汽船の寄港する外、大正十一年來西鮮・青島・大連線の新航路開設せらる。鐵道は總督府鐵道湖南線群山支線は裡里より來り群山驛（明治四十五年設置）に至り、群山港驛（昭和六年設置）に至り、群山港驛よりは渡船（龍塘渡）により對岸忠南舒川郡長項に連絡し、私鐵京南線は同所を起點とし京釜線に連繫す。道路は一等道路群山・全州線ここを起點とし、全州・裡里・金堤・江景方面等に定期自動車の便あり。貿易は明治三十二年開港以來、朝鮮沿岸はもとより内地各港及び臺灣支那方面との移出入逐年增加し、大正八年に於ては三五一〇萬圓にして釜山港に次ぐ盛況を示し大正九・十年及び昭和五・六年財界の反動により一時頓勢を來せるほか、概ね堅實なる進展を示し、昭和十年中に於ける貿易額は實に移出六三三〇二九九六圓、移入二四〇八八〇七六圓、合計八七三九一〇六三圓に達し、日韓併合當時の三三九萬圓に比し二六倍の增加を示す。而して當港貿易の特色は移入額よりも移出額の遙に多きことなり。移移出は米穀を大宗となし、その額昭和十年には二一四萬餘石、その價格六一四八萬圓、その他大豆（五四・八萬圓）・牛皮・肥料・金鑛・清酒等を擧げ得るも、米に比し遙に下位にあり。移移入品の主なるものは外國米・小麦粉・麦酒・食鹽・織物・石炭・紙類・鐵材・木材・肥料等にして他の貿易港とほぼその軌を同じうす。群山港は貿易額の多きことに於て釜山・仁川・鎭南浦の諸港に次ぎ、全鮮第四位を占む。而して米は移移出總額の九七%を占め、寔に「米の群山」の名に背かず。これ群山が背後に廣范たる全北・忠南二道の沃野を控へ、謂ゆる地の利を占むるが爲にして、群山の盛衰は奥地米作の豐凶並に取引の消長如何により左右せらる。近年水利灌漑開墾干拓の事業普及進展し、產米の改良增殖、米價維持等に關する各般の施設遂拂と共に、より以上の進展が期待せらる。米穀取引は明治四十三年府に米穀商組合を設立せるより組織化せられ、漸次取引數量を增加し、大正十三年には市場一ヶ年の直取引六〇萬石、延取引一五〇〇萬石に及ぶの盛況を示し、その後延取引は廢止せられ、昭和七年取引所令實施に伴ひ、群山米穀取引所の設立開業を見るに至れり。工業は都市發達の歴史比較的新しきを以て、未だ大なる企業を見るに至らざるも、精搗精米盛に行はれ、その他釀造・ゴム・水產加工等これに次ぐ。官公署に群山府廳・沃溝郡廳・地方法院支廳・警察署・稅務署・群山稅關支署・道立醫院・總督府米穀檢査所支所・道水產試驗場・道水產會等あり。また群山中學校・同高等女學校・群山商工會議所・群山米穀取引所・朝鮮銀行・殖產銀行・商業銀行等各支店・金融組合等あり。なほ公會堂・公園・公設市場等の都市的設備漸次完備しつつあり。（公園）府の西北端にあり。山上の風景佳絶にして、東北は府内の一部と港灣展開し、北は對岸の忠南舒川郡長項及び鹽塘を望む。園内に櫻を多く植ゑ、湖南地方の櫻の名所として聞え、公園中央の趣の大稱また名高し。西濱町よりの登路の傍に百濟時代の古塔あり。もと千房山善宗庵とよぶ古刹の前庭にあり、同寺域の上水道水源地帶に編入さるるに及び、大正十年現地に移したるものとす。公園の南に群山神社あり、大正四年の創立に係り、天照大神を祀る。例祭、十月十五・六日。

【郡山面】朝鮮平安北道宣川郡の東南部。宣川邑の南に隣り、東北は東面に、西は新府面・台山面に、南は南面に各隣接す。東北境に三〇〇米内外の山巒え、中部南北に一—二〇〇米の丘陵連り、東南境を東葉江南流す。低地は西部及び東部にありて耕地拓け、米・粟・玉蜀黍・大豆・棉・大麻等を產す。總督府鐵道京義本線東北部を掠め、宣川驛（宣川邑境内）に近く、宣川邑より東方定州邑（定州郡）に至る一等道路これと並行に走り等外道路また中部を南北に、南部を東西に走る二條あり。

【群山線】朝鮮總督府鐵道の一。朝鮮の南西部全羅北道にあり。益山郡益山面にある湖南本線裡里驛より西方海岸の群山府にある群山港驛に至る。全長二四・七粁、裡里驛にては更に全羅線に接續す。

【群山港】群山線の一驛（昭和六年設置）。朝鮮全羅北道群山府榮町にあり。

クンシ　君子面　朝鮮京畿道始興郡の西部。東は秀岩面・南洞面に相對し、西は海に臨む。面内一—二〇〇米の丘陵連り先端は玉貴島・烏耳島となりて海中に浮ぶ。低地は海岸沿ひにありて耕地拓け、米・麥・豆類・棉等を產し、沿海は淺きを以て本陸と玉貴島・烏耳島との間を堰立して廣大なる鹽田を設く。街道は中部を東西に通ずるも交通便ならず。漁業は臺地の條邊に散點し面事務所は新吉里に置く。

クンシコク　君子國　往昔支那より稱せし我國の一稱。奈良時代に我遣唐使節粟田眞人等の一行入唐するや、大使以下容儀端正座作進退遲に叶ひしより唐人痛く之を稱し君子國たるを知ると云ひしより起る。卽ち「唐人謂二我使一曰、函聞、海東有二大倭國一、謂二君子國一、人民豐樂、禮義敎行、今看二使人一儀容大淨、豈不信乎」（續紀慶雲元年七月の條）

クンジュ　訓戎面　朝鮮咸鏡北道穩城郡の東北端。西は美浦面に、南は慶源郡慶源面に接し、東・北境は豆滿江を距てて滿洲國に對す。西部に山地なるも東部豆滿江岸一帶に低地にして耕地拓く。此地は豆滿江岸にある滿洲國境に最も接近せる所にして、市街の前方は江を隔てて對岸の山に接し、從來屢々匪賊の襲撃に遭ひたるものにて、國境警備の重衝たりし所なり。對岸は曠大なる琿春平野にして琿春市街にも最短距離にあり。古來彼我の交通貿易旺盛を極め、奥地の大豆・米材等は主として、ここに積出さる。又附近より南方慶源方面一帶は調戎炭田と稱し埋藏量二千數百萬瓲に達する有望なる炭層あり。現在年額約三千瓲を產出す。街道は東部を南北に通じ、また鐵道總局北鮮線の調戎驛を置き、琿春にバスの便あり。稅關出張所あり。

グンジョー　郡上（郡）（ぐんじょう）　↓郡上郡

グンシン　軍神　宮崎縣都城市のほぼ中央、姶城町にある小丘。老樹天を摩し、丘上に旭丘神社鎭座す。伊邪那美尊他十神を祀る。

グンセー　郡西（ぐんせい）

【郡西面】朝鮮忠清北道沃川郡の西部。東は沃川面・伊南面に、北は郡北面に、西は忠清南道大德郡山内面に、南は全羅北道錦山郡郡北面・秋宮面に各隣接す。西北境に食藏山（五九八米）、南方に西大山（九〇四米）等聳立し、西大山の北斜面に發する錦江の一小支流東部寄りを北に流れ、流域には低地ありて米・麥・豆類・綿・大麻等を產す。總督府鐵道京釜本線東北部を掠め、沃川驛（沃川面）に近く一等道路また之に沿うて通ず。

【郡西面】朝鮮全羅南道靈光郡の中部。靈光面の南に隣り、東は祖良面に、南は佛甲面・郡南面に、西は白岫面に隣接す。面内一〇〇米餘の丘陵緩やかに起伏するも概ね平地にして、灌漑の利多く地味肥え、農耕に適し米・麥・豆類・棉を產す。靈光面に至る二等道路西北部を掠め、また靈光面より佛甲面に至る三等道路東部を南北に走る。

【郡西面】朝鮮全羅南道靈巖郡の中部。靈巖面の西に隣り、南は昆二始面に接し、北に海を距てて北一始面・北二終面に對し、西はまた昆二終面を望む。西境に月出山の山脚ありて山地をなすも、西部の場林灣に臨む海岸一帶は低地をなす。產物は米・麥・大豆・棉等を產し、牛・豚の飼養もあり。靈巖面に達する街道東部山地の山麓を走る。西場林里に會社亭あり、四圍翠色滴るが如き老松鬱蒼として景勝をなす。

クンセン　群仙　總督府鐵道咸鏡本線の一驛（昭和二年設置）。朝鮮咸鏡南道利原郡東面にあり。

クンタ　栗田

【栗田灣】京都府與謝郡東南部の灣。無雙岬と金岬の間に彎入し、西方宮津灣を隔つるに岬角を以てす。灣頭栗田村大字上司の邊は低平にして、よく水田拓け、また北岸には砂濱あり。

【栗田村】京都府丹後國與謝郡の東部。宮津町の東隣にて、東南は加佐郡由良村・岡田中村に接す。面積二五・一二平方粁。村の北半部は北方若狹灣に突出して半島をなしその北端を黑崎といひ、西に宮津灣を擁し、東北角を無雙岬とよび村の東面の栗田灣を抱く。丘陵性山地多きも栗田・宮津兩灣の根部には小平地ありて田畑拓け米・麥等の農產を出し、沿岸水產に富み、また工產少からず。宮津街道村の中部を東西に通じて宮津・舞鶴間のバス往來し、また省線宮津線これと並行し栗田灣岸の上司に栗田驛（大正十三年設置）を設け交通便なり。式内久理陀神社鎭座、大字上司の高妻山に城址あり、室町時代河島氏の據所。大字田井は宮津灣に臨み、式内多田神社あり、いま代長明神といふ。

グンタイ　郡大山　臺灣新高山脈の一峻嶺。新高山の北方約一五粁に位し海拔三二九二米。その東には東郡大山（三六〇五米）が屹立す。東斜面は中央山脈との間に郡大溪、西斜面は阿里山脈との間に陣有蘭溪の峽谷を挾みて、共に濁水溪の主要支流なり。

クンタク　君澤　伊豆國（靜岡縣）の古郡名。此地はもと田方郡の郡家郷の地にして郡家の所在地なるのみならず、また伊豆國府の位置たり。故に郡家と同意義なる郡宅と稱し、やがて莊名ともなり、後に郡名を立てしものか。三島大社延久六年・永德三年の文書に伊豆國郡宅郷と見え、天正以後君澤郡に作る。近世の初め一時郡を廢せしも後これを復す。其地は三島附近及び田方郡の西部を含み、なほ駿河國の駿東郡の一部にも亙りしが、明治二十九年田方郡に合併す。※田方（郡）

グンチク　郡築村　熊本縣肥後國八代郡西岸の中部。東は八代町との間に松高村を隔て、北は日置川を挾みて昭和村に隣り、西と南は八代灣に面す。面積一〇・四一平方粁、もと沿岸の遠淺なりしを八代郡々有地として埋立てし新地にて、全村低平にして耕地多く米・麥等の農產を出し、縣の水產試驗場出張所あり。八代町へ約六粁、自動車の便あり。此地もと八代郡々有財產の埋立新地にして明治四十二年獨立村となる。

クンチャン　國頭　沖縄島の北半を占むる國頭郡の地方名。島の頭部に當るを以て國上と呼ばれ、それが、クンチャンと轉訛したるもの。また俗に島尻郡を下方、中頭郡を田舍と呼ぶに對し、此地を山原と稱するは、蓋し山林原野に富み、村落相隔離するに所因す。↓國頭郡

グンチュー　郡中（ぐんちゅう）

【郡中町】愛媛縣伊豫國伊豫郡の北部。松山市の西南方約一〇粁、松山平野の西南端部に位し、北・東・南の三面は郡中村を繞らし、西は伊豫灘に面し西南部に小港を有す。面積僅に〇・四二平方粁、宇和島街道に沿ふ商工業都邑にて、また漁業

行はれ、生業別戸數を見れば、商業戸數は全戸數の約三〇%、漁業戸數に約二〇%、工業戸數は約一〇%を占む。工產に清酒・醬油・陶器あり、水產に漁獲物・海苔等あり、また蝦蟹餅・すがた燒等の特產を出す。宇和島街道にはバスを通じ、また省線豫讃本線の南郡中驛　社線伊豫電鐵の新川驛・郡中驛（以上三驛とも郡中村地區內にあり）に近く、交通便利なり。此地古くは和名抄伊豫郡吾河郷の地。大字下吾川はその遺稱なるべし。寛永の頃には浦町を小川町とも稱ぜり。文化十四年正月本町附近一帶を郡中と稱すること藩主より達示あり、町村制施行に際し獨立す。本町は後背地の產物即ち紙郡の陶器、その外木材・木綿・砂鐵等すべて此地より運輸せしも以て旅客の往來宗々商工業發達し、嘗て郡役所の置かれし所、いま警察署・縣土木出張所・縣立伊豫實業學校等あり。（寶珠寺）大字上吾川にあり。新義眞言宗智山派。谷上山と號す。白鳳十二年の創建。開基は慈智有興たり。天暦七年太宰大貳藤原國光再興し、永元二年河野通信これを中興す。延寶四年大洲城主加藤遠江守泰經修營を加ふ。文政年中火災に罹り堂宇・什寶悉く焼失せしが、大森彦七寄進の甲冑のみ火難を免る。現堂はその後五回の造營にて成れるもの。

【郡中村】　愛媛縣伊豫國伊豫郡の北部、西に郡中町を抱き、西北部は伊豫灘に臨み、北は松前町、東は南伊豫村、南は北山崎村に隣る。面積五・三八平方粁、松山平野の西南端部に當り、東南部に丘陵地あるを外は土地平坦にて、田畑よく拓く。全戸數中約四割は農業、三割は商業、一割餘は工業に從事し、農業に米・麥・里芋・南瓜・玉蜀黍、水產物に花蛤その他、また果實少からず。南瓜・玉葱・果實等は近年砂丘の傾斜地を利用して耕作さる。宇和島街道に沿ひ、省線豫讃本線、社線伊豫電鐵通じ、前者に南郡中驛（昭和五年設置）、後者に新川驛（大正四年開業）・郡中驛（明治二十九年開業）ありて交通便利なり。此地古くは和名抄、伊豫郡吾河郷の地。いま大字上吾川はその遺稱なるべし。本村の山麓地帶に古墳多く、古くより人の住せしことを證し、中に源範頼及び其從臣等の墓と稱する鎌倉塚あり。又八幡神社近傍の古墳は伊豫玉子の墓なるべしとの傳へあるも何れも信じ難し。もと郡中町と共に郡中と稱されし所、のち分離獨立し現在に至る。

グンド　郡戸村　茨城縣常陸國久慈郡の西南部。久慈川下流の左岸に沿ひ、北は令郷村・久米村に、東は幸久村に連り西南は川を挟みて那珂郡の上野・瓜連・木崎三村に對す。面積一〇平方粁に近く中部に小丘阜南北に連る外は土地平坦にして東部と西北部には田地、南部の川沿ひには畑地よく拓く。農村にて米を第一に小麥・大麥等の產多し。太田町より瓜連村を經て水戸市に至る縣道に當り、バスの往來ありて交通不便ならず。和名抄に久慈郡志萬郷あり。或は本村邊を稱せしものか。新志に大字の小島と中野との間に古墳七八ありて、その最大なるをボンテン山と稱す。其形狀より見るに古墳なるを知るべく、恐らくは久自國造或は郡司の墓ならんといふ。果して如何にや。古墳中、遠山と稱する丘墳あり、古人之を久慈理丘といひ、國郡誌の依つて起る所とす。又この丘墳は後世よほど削られしものの如くなるが、これ昔遠山氏の館か構へんとて土をならせしものならん。當陸風土記久慈郡の條に「古老曰、自郡以南、近有小丘、體似船絕、使武天皇因名久慈」と見ゆる小丘は即ち之ならんといふ。また大字花房の地に中世清和源氏足利氏の族此地に來り住し花房氏を稱す。（高畑房次郎）本村に生る。家業を抛ち有志と交り尊攘を唱ふ。文久元年春江戸に到り有賀半彌等十餘人と謀り、外人の政黨を憤り、六月二十八日夜高輪東禪寺の英館を襲ひ數人を傷く。のち閣老安藤信睦の墓橫を除かんとし相馬千之允と變名、二年正月十五日同志と信睦の登城を坂下門に要し捨身衛士と奮戰し傷きて殪る。明治三十五年從五位を贈らる。

グントー　郡東面（ぐん）　朝鮮全羅南道康津郡の東部。北は古郡面・鳥川面に西は康津邑に、南は七良面に、東は長興郡長興面に各隣接し、西南の一部は康津灣に臨む。北境に二〇〇米內外の山嶺東西に連亘し、南部にも山地あり、中間は低地にして耽津江東流し康津灣に注ぐ。氣候溫和にして地味肥え農耕に適し米・麥・大豆・棉等を產す。二等道路は耽津江の右岸を東西に走り康津邑に達す。

グンナイ　郡內　山梨縣南北郡留郡の稱　甲斐國の舊郡留郡に當る。縣の東偏を占め、御坂山脈を以て他の諸郡と分たれ、從つて甲府盆地を以て他の諸郡と水系を異にす。釜川は桂川にて郡中の水を集め、神奈川縣に入り、相模川となる。別に北偏に武藏國の多摩川發源す。谷は深く山岳重疊し、著しく他と自然の景觀を異にし、從つて人文景も自ら異なり全く一箇の別天地を形造り、古來郡內または郡內山地といふ。水田稻にて米穀の類は多くこれを他に仰ぎ、住民の多くは蠶桑を事とし、有名なる甲斐絹を產出す。

【郡內面】　朝鮮咸鏡南道高原郡の東北隅。南は下鉢面・水洞面に、東北は永興郡愍岐面・順寧面に、西北は同面興面に各隣接す。西部に山地あるも東半は低地なす。西方、八峯山の北麓を流れ來る德德江は南境を東南に流れ低地を潤潤す。產物は米・麥・大豆等を主とす。元山府より北方咸興府に至る一等道路中部を南北に通じ自動車の便あり、總督府鐵道咸鏡本線また之に沿うて走り高原驛（下鉢面地內）に近し。

【郡內面】　朝鮮咸鏡南道長津郡の西北部。東に北面に、南は上南面に、西及び西北は平安北道江界郡從南面・公北面・干北面及び厚昌郡七坪面・東興面に各隣接す。東北境に稀窓峰（二二八五米）、西南境に猛狡山（二二一四米）、南境には白山（八二〇七七米）聳立し、面內山岳重疊し、長津江の上源三浦里江は西北部山地に發し諸水を集めて東に流出するも、平地に乏し。產物は燕麥・馬鈴薯を主產し、木材も出し、また西部山中より砂金・金・銀・銅・鐵を出す。二等道路は三浦里江に沿うてほぼ南北に走り自動車の便あり。郡廳・警察署等を置く。

【郡內面】　朝鮮全羅南道珍島郡の北部。珍島の北部を占め、東南は古郡面に、南は珍島面に隣接し、北は狹水道を距てて海南郡門內面に相對す。面內丘陵起伏するも高からず、低地砂どなきも、氣候溫和にして地味肥沃、農耕に適しまた魚族も少からず。街道は東海岸に沿うて走り珍島面に達し北方門內面には舟禍の便あり。（儀王城）龍藏里にあり。往昔高麗朝の時寺刹を造營し、名付けて龍藏寺と稱す。當時儀王王溫これに據り、王と僭稱し擅專を事とし暴威を振ひし處なり。儀王王溫は九ヶ月にして討伐せられたりと雖も、世人溫王宮殿と稱し城壁今なほ存す。外城の一面は鳴洋水道を眼下に俯瞰し、三面は三上を圍繞し築壁延長二里餘、內扉即ち儀王宮殿に展望滿達、要害堅固なる山谷にあり、當時の營造物火滅せりと雖も、遺存する礎石の大なる、なほ當時の規模壯大なるを髣髴せしむ。（狎鷗亭）子亭里にあり。往昔高麗朝の正言曺希直の謫所なり。今なほ其遺跡存す。

【郡內面】　朝鮮咸鏡南道文川郡の東南端。西北は雲林面に、北は郡草面に、西南は德源郡府內面・北城面に各隣接す。西北境に玉女峯・東南境に紺師峰聳立し、玉女峯の南麓を爬岐伊川が流る。面內は概ね山地なるも東北部に低地あり。爬岐伊川之を潤し肥沃なる平野をなす。米・粟・大豆等の產出多く、文川大豆として名高き大豆は此邊の產出なり。また毎月陰曆四・九日に市ありて、之等產物の販引を主とし年額二十萬圓に達す。總督府鐵道咸鏡本線東北部を貫通し、文川驛（大正四年設置）を置き、また元山府に至る一等道路之に沿うて通じ自動車の便あり。いま郡廳・警察署・地方法院出張所等あり。

【伊均城址】　玉女峯左翼の山麓に高麗時代女眞の南侵に備へるため、高麗成宗八年附近の天險を利用し城壘を築きしものにして、往昔之を妹城と稱し文川防禦使を置きし處なり。文祿役の際龍造寺八郎二郎此要害に駐屯せしことありと傳へらる。（淑陵）文川驛の西北約四粁、陵前里にあり。李太祖の曾祖父翼祖の妃貞淑王后崔氏の陵墓にして城內面積約八〇〇ヘクタール。老松茂りて森嚴の氣滿つ。附近に松茸を產し、遊行の好適地。

【郡內面】　朝鮮京畿道漣川郡の東北部。臨津江の一支漢灘川に沿ふ。東は官仁面に、西は中面・郡南面に、南は抱川郡蒼水面・青山面に、北は江原道鐵原郡新西面に隣接す。東部に約四〇〇米の山地ほぼ南北に走り、西境にも二—三〇〇米の山地連り、中間を漢灘川の一支南に流れ流域に沖積地あるも、南部にては山地を深く刻み峽谷なす。沖積低地は農耕に適し米・麥・豆類・雜穀を產し、また桑園もありて養蠶行はる。車灘里には毎月定期の開市ありて農產物・水產物・織物類等の賣買行はる。總督府鐵道京元本線は川に沿うて南北に通じ漣川驛（明治四十五年設置）を置く。また一等道路は之に沿うて走り北は鐵原邑（鐵原郡）に、南は議政府に達す。車灘里には郡廳・警察署・蠶業講習所・面事務所等あり。

【郡內面】　朝鮮京畿道加平郡の東部中央。北は北面に、西は下面に、南は南面・外西面に隣接し、東は江原道春川郡西下面・南山面に界す。西境に太仝山（七〇六米）聳え山脈南北に連り東に傾斜し、東北境に鷄冠山（七三六米）聳え、山脚は西南に延びて末端に寶納山屹立す。東南境を北漢江南流し西境山地に發する溪流を合して北漢江に合す。低地は溪流に沿うて發達し耕地よく拓け、米・麥・豆類・雜穀等を產す。邑內里には毎月定期の開市ありて商業も行はれ、郡廳・警察署・郡農會・面事務所等を置く。

【郡內面】　朝鮮京畿道金浦郡の東部。漢江に沿ふ。東南は高村面に、西南は鵲丹面に、西北は楊村面に各隣接し、東北は路に邑內里より各溪流に沿うて走る。此地の邑內里にはいま郡廳・警察署・面事務所等を置く。

【郡內面】　朝鮮京畿道抱川郡の中南部。東は內村面に、北は新北面、西は西面、南は加山面に接す。東境に五百米內外の山嶺南北に走り山脚は西部に緩斜し、西境を漢灘川の一支永平川北に流れ、北部に低地ありて耕地拓け、米・麥・豆類・雜穀・棉・大麻・莞草・蔬菜等を產す。三等道路は中部を貫通し永平川左岸の一等道路に合す。聚落は散村型をなすも舊邑里にやや集り、警察署・面事務所を置く。

【郡內面】　朝鮮京畿道長湍郡の南部。開城府の東南約一〇粁、東は津東面に、北は長道面に、西北は津西面に、南は津南面に接し、東南は臨津江を距てて坡州郡臨津面に相對す。西北境に白鶴山（二二九米）聳え、山脚東部に達亘し一〇〇米餘の丘陵起伏し、西境を臨津江の一支紗川南に流れ流域に低地ありて耕地拓け、米・麥・豆類・棉・大麻等を產し外に人蔘・大根・馬鈴薯・甘藷を出す。開城府に至る一等道路東南—西北に通じ三等道路亦之に交叉し、京義本線の長湍驛（津南面地內）に達す。邑內里には毎月定期の開市ありて商業も行はれ、郡廳・警察署・郡農會・面事務所等を置く。

【郡內面】　朝鮮京畿道全南郡の東部。漢江に沿ふ。東南は高村面に、西南は鵲丹面に、西北は楊村面に各隣接し、東北は

農江を限てて高陽郡松汕面に相對す。西南部及び西北部に一—二〇〇米の丘陵連り、中部・東南境を漢江の支流流れ、流域に沖積地をつくる。低地は濕潤の便よく地味肥え農耕に適し、米・麥・豆類・雜穀・棉を產し、外に蔬菜・甘藷・馬鈴薯等あり。三等道路は中部を東南—西北に貫通し、東南方京城府に達し、また漢江には舟楫の便あり。

グンナン　郡南

【郡南面】朝鮮京畿道漣川郡の東部。西北は中面に隣り、西は臨津江を限てて旺澄面・嵋山面に相對し、東は郡內面に、東南は嶺斤面に界す。一—二〇〇米の丘陵連り西境を臨津江南に流れ、南境にて西流し來る漢灘川を入れ、更に東南境を漢灘川の一支南流す。面內の三方はかく河川に包まるるも、概ね丘陵多く低地に乏し。產物は米・麥・豆類・雜穀等を出し養蠶も行はる。街道は臨津江に近く通ずるも交通便ならず。面事務所は三巨里に置く。

【郡南面】朝鮮全羅南道靈光郡の南部。東は佛甲面に、北は郡西面に、西北は鹽山面に、南は咸平郡新光面・孤佛面に接し、西南は海に臨む。南境に君遊山（四〇三米）聳立し、山脚は北に延び南部は山地をなすも西北部は低地にして耕地拓け米・麥・豆・棉・苧麻を產し、また蝦・海藻類の水產あり、特に石首魚は產額著しい。街道北・西部に通じ海上また舟楫の便あり。

クンヌイ　國縫・訓縫

【國縫川・訓縫川】北海道膽振國山越郡長萬部村を流るる川。西境の稻穗峠（一六一米）の西斜面に發し、大字國縫にて海に注ぐ。古くはアイヌこの沿岸に居り、寛文九年、シャセチャリの酋長亂をなし二千人を以て來寇せしが、松前家の臣鵜崎佐左衛門、この河畔に陣し、附近の金坑夫を集めて缺に當る。激戰數度これを撃退し、君縫を距る約三〇粁なる靜苅山（總文華嶽）に之を圍み、遂に破りて趨み、長萬部に至り賊悉く平ぐ。

【國縫】省線函館本線の一驛（明治三十六年設置）にして渡嶋線の起點。北海道膽振國山越郡長萬部村にあり。

クンネップ　訓子府村　北海道網走支廳管下の村。北見國常呂郡の南部に位し、東は野付牛町、西は置戸村、北は相內村に接し、南は網走郡津別村と釧路國足寄郡淺別村とに界す。面積約一九八平方粁。南半には高度五百米臺の分水嶺東西に連りて南半はその斜面に屬する山地なるも、北半は高臺狀の原野廣く、常呂川はその南部を、訓子府川はその北部をいづれも西より東に流れ、それに沿ひて東西に長き低地あり。物產は農產を主とし畜產これに次ぐ。省線網走本線常呂川北岸の低地を東西に走り、中部に訓子府驛（明治四十四年設置）を設け、道路また これに平行して通じ交通不便ならず。本村は大正四年置戸村より分離獨立して置けるものにして二級町村制を布く。

グンベツ　群別岳　北海道留萌支廳增毛郡增毛町・石狩支廳濱益郡濱益村・空知支廳樺戸郡新十津川村の三郡境界に聳立す。標高一三七六米。北東麓は暑寒別岳（一四九一米）、南東麓は知來岳（九八八米）、北西麓は濱益岳（一一五八米）に連る。西斜面より幌川發源し南西流す。北方暑寒別岳との裾合より暑寒別川發して北流し、西方濱益岳との裾合より幌川發して南西流し、南方斜面より群別川發して南東流し、いづれも日本海に注ぎ、東方暑寒別岳との裾合よりは德富川發して南東流し、石狩川に合す。

グンホク　郡北

【郡北面】朝鮮忠淸北道沃川郡の西北部。東及び北は錦江を限てて安南面・安內面に相對し、南は沃川面・郡西面に、西は忠淸南道大德郡東面に各隣接す。西北部に環山屹立し西南境には食藏山あり、東境にまた山地連りて錦江に崖をなして臨む。中部を錦江の一小支北に流れ、僅に流域に低地あり米・麥・豆類・棉を產す。京釜本線西南部を掠め沃川驛（沃川面）に近く、一等道路また之に沿うて通ず。

【郡北面】朝鮮慶尙南道咸安郡の西南部。東は咸安面・伽倻面に、西北は竹南面に、東南は鎰航面に、西南は晉州郡二班城面に各隣接す。南部に一—二〇〇米內外の山地あるも北方は低平にして洛東江の一支南江流域の沖積平野に連る。低地は漑漑の便多く地味肥え農產豐饒にして米・麥・豆類・棉・大麻等を產し、また馬山府・晉州間の中間に位し、一時總督府鐵道慶全線の終點となりし關係上、商取引も發達し今日に至る。慶全南部線は北部を通じ郡北驛（大正十二年設置）を設き、馬山府に至る街道また之に沿うて通じ、北方は宜寧面（宜寧郡）に自動車の便あり。會村里に元曉窟あり、名僧義湘兄弟の修道せし處にて、附近には山水秀麗樹木鬱蒼として夏季避暑に適す。

【郡北面】朝鮮全羅北道錦山郡の東北部。東南は濟原面に、南は錦山面・南一面に、西は錦城面に、西北は秋富面に、東北は忠淸北道沃川郡伊南面に各隣接す。西北境に西大山（九〇四米）聳え、山脚南に延び西南部は一〇〇米內外の丘陵連るも、次第に低くなり、錦山盆地に續く。產物は米・麥・大豆・棉等を出すも、低地には煙草を栽培し、また人蔘の產も知らる。錦山面に至る三等道路西南部を通ずるも交通便ならず。

グンボジョー　軍浦場（ぐんぽじょう）　朝鮮京畿道始興郡西二面の部落。その西南方、南面堂里に總督府鐵道京釜本線の軍浦驛（明治三十八年設置）あり。

グンマ　群馬

【群馬縣】關東地方の西北部を占む。（境域）東は栃木、南は埼玉、西は長野、北は新潟・福島の諸縣と界し、上野國の一國、即ち前橋・高崎・桐生の三市と多野・群馬・多野・北甘樂・碓氷・吾妻・利根・佐波・新田・山田・邑樂の十一郡を管す。面積は六三三五・八七平方粁にて、內地道府縣中の第二十一位、人口は一一二四二四五三人（昭和十年國勢調査）を有し、一平方粁の密度一九六人にして道府縣中第十九位に居る。（地形）東南面の一部は關東大平野の西北端部にて平坦なるも、東北西三面は山岳を繞らし中央部にも火山並立し縣の大部分は山地をなす。東境山地の南部は主として秩父古生層より成る足尾山塊にて、地藏岳（一二七四米）・氷室山・三境山・鳴神山（九八〇米）等北より南に連り、西側の渡良瀨川谿谷に向つて急傾斜す。北部は那須火山帶に屬する皇海山（二二四四米）・錫ヶ岳（二三八八米）・日光白根山（二五七八米）・溫泉岳・鬼怒沼山（二一四一米）等南北に聳立し、片品川と大谷・鬼怒二川の流域の分水界をなす。北境は越後山脈の末端とこれに連りて西南に延びる三國山脈の山地にして、主として花崗岩・第三紀層より成り平岳（二一四〇米）・丹後山（一八〇九米）ありて只見川谷の分水嶺をなし、それより西南には朝日岳（一八二〇米）・茂倉岳（一九七三米）・萬太郎山・仙ノ倉山・三國山（一六三六米）等ありて信濃川の支流魚野川・清津川と利根川・赤谷川の水系を畫し、西境には草津白根山（二一六二米）・四阿山（吾妻山、二三三三米）・淺間山（二五四二米）の火山蟠り、西南界には群馬・多野・北甘樂・碓氷・吾妻・利根・佐波・新田・山田・邑樂の十一郡を管す。面積は六三三五・八七平方粁にて、內地道府縣中の第二十一位、人口は一一二四二四五三人（昭和十年國勢調査）を有し、一平方粁の密度一九六人にして道府縣中第十九位に居る。（地形）東南面の一部は關東大平野の西北端部にて平坦なるも、東北西三面は山岳を繞らし中央部にも火山並立し縣の大部分は山地をなす。東境山地の南部は主として秩父古生層より成る足尾山塊にて、地藏岳（一二七四米）・氷室山・三境山・鳴神山（九八〇米）等北より南に連り、西側の渡良瀨川谿谷に向つて急傾斜す。北部は那須火山帶に屬する皇海山（二二四四米）・錫ヶ岳（二三八八米）・日光白根山（二五七八米）・溫泉岳・鬼怒沼山（二一四一米）等南北に聳立し、片品川と大谷・鬼怒二川の流域の分水界をなす。北境は越後山脈の末端とこれに連りて西南に延びる三國山脈の山地にして、主として花崗岩・第三紀層より成り平岳（二一四〇米）・丹後山（一八〇九米）ありて只見川谷の分水嶺をなし、それより西南には朝日岳（一八二〇米）・茂倉岳（一九七三米）・萬太郎山・仙ノ倉山・三國山（一六三六米）等ありて信濃川の支流魚野川・清津川と利根川・赤谷川の水系を畫し、西境には草津白根山（二一六二米）・四阿山（吾妻山、二三三三米）・淺間山（二五四二米）の火山蟠り、西南界には また妙義・荒船の二火山と關東山塊の西北端なる三國山（一八二八米）ありて千曲川と碓氷川・鏑川の流域を分つ。また縣中央部には赤城・榛名の二火山の略々東西に並立するあり妙義山と共に上州の三山と併稱せらる。利根川は縣の北境なる丹後山の東谷に發し、武尊山と三國山脈の東北部、清水山塊の間を南下して後閑に至り、萬太郎山・仙ノ倉山の南側に出でて東南流する赤谷川を併せ、沼田の南にて縣の東北部山地より西南流する片品川を容れ、更に諏川にて西境鳥居峠に出でて東流する吾妻川を合し、始めて平坦地帶に出で更に東南方に流れ、西南境より來る支流烏川（烏川と碓氷川・鏑川及び神流川の合流せるもの）の水を受け、赤城山南面の諸水を合する廣瀨川・粕川の合流を併せ、ほぼ埼玉縣との境をなして東南流し千葉縣に出づ。別に渡良瀨川ありて足尾山塊の西谷を始め西南に流れ後東南に轉じて栃木縣との境をなし、同じく千葉縣に出でて利根川に合す。されば縣の全部は悉く利根川上流の水系に屬すといふべし。縣の東南部の平地は洪積層より成り、その間利根川とその支流に沿ひて沖積層地あり。地味肥沃にして縣の主要生產地帶をなす。西北部の山地には火山多きを以て到る處に溫泉湧出し、特に伊香保・草津・四萬・水上地方は山水榮或は溫谷美・林相美を兼備し關東地方中著名の溫泉鄕たり。（氣象）關東諸府縣中、最も海洋に遠きため、その影響稀薄にて降水量最も少く、氣溫も大陸性に近く寒暖の較差大きく、殊に山間地方に於て著しく、冬期は積雪融けず、謂ゆる根雪をなす。されど西隣長野縣に比すれば一年を通じて氣溫やや高く降水量また多し。前橋市に於ける氣象要素を見るに、年平均氣溫一三・一度（一月二・三度、八月二四・七度）、年平均降水量一三三〇耗程度、晴曇は快晴五六・九日、晴天一三九・三日、降水日數一四八・六日、降雪日數一九・七日、日照時間二四〇一時、最多風向、西北風。（交通）關東より西北方への交通上の要處に當り、江戸時代より既に中山道・信濃別路・三國街道・清水越街道・日光例幣使街道等あり。中山道は倉賀野・高崎を過ぎ碓氷川の谷に沿ひ碓氷峠を經て信州（長野縣）に出づ。信濃別路は一に追分街道ともいひ藤岡より鏑川筋を西し、餘地峠を越えて佐久平に出づ。清水越街道は高崎より北し、溫川・沼田を經て、利根川谷を上り清水峠を越えて越後六日町に出づ。三國街道は溫川より分れ、赤谷川の溪谷を上りて三國峠を踰え同じく六日町に出づ。日光例幣使街道は高崎より倉賀野・玉村・境・太田を經て縣の東南部を東し、下野に入る。その他前橋より伊勢崎を經て東京に向ふもの、太田・大間々を經て足利に至るもの、沼田より片品川に沿ひ東北境の沼田峠を過ぎて若松市に向ふ會津街道あり。鐵道には省線に高崎・信越本・上越・兩毛・足尾の五線、社線に伊勢崎線（東京淺草・伊勢崎間）・桐生線（太田・新大間々間）・前橋線（溫川・新前橋間）・伊香保線（溫川新町・高崎間）の五線、上毛電鐵線（中央前橋・西相生間）・上信電鐵線（高崎・下仁田間）・草津電鐵線（新輕井澤—草津溫泉間）等あり。高崎線は大宮より來りて高崎に終り、信越本線は高崎にてこれに連り中山道に沿ひて走り、上越線は高崎より北上し、清水越（越後）街道に並行し、ループ式による清水トンネルによりて越後に出で、東京・新潟間の最捷路をなし、兩毛線は高崎より前橋・伊勢崎・桐生を經て、小山（栃木縣）に至りて東北本線に繫がり、足尾線は桐生より起り、渡良瀨川の谷を上りて足尾に至る。かくて縣の東南部の鐵道網は比較的稠密にして、交通は便利なり。（產業）農產物は米・麥・蕎麥・馬鈴薯、果實に梅・桃・櫻桃・苹果・枇杷・梨・蜜柑・ネーヴル・生柿等。生絲工業及び機業は全國稀に見る盛なる地方にて、桑の產額も多し。畜產は馬最も多く飼養され、牛・鷄これに次ぎ、牛・鷄卵は東京市場に送らる。森林原野面積は土地總面積の七五%に相當し、我國屈指の森林國なり。從つて木炭の產も著しく上越國境地方には未だ斧鉞を加へぬ美林多し。水產は利根の巨流を始めとして、片品・吾妻・碓氷等の河川に、鮎・鯉・鮒・鰍等

生産價額（昭和九年）	百萬圓
農産	四〇、四四二、二一〇
畜産	三四、二二六、九二六
林産	五、三九八、九八五
鑛産	一、九四六、三五〇
水産	四、三五、八七七
工産	一三二、七六六、一八七
計	一九二、四二三、〇三八

な産し、特に利根の鮎に有名なり。鑛産の主なるものは石炭・石材にて利根・吾妻・多野・北甘樂・碓氷各郡に廣く分布す。工産額は縣下生産總額の五七%を占め、うち生絲類最も多く、主なる生絲業地は、前橋市・多野郡・北甘樂郡・碓氷郡の各郡にて、特に前橋市最も盛なり。織物は伊勢崎・桐生を中心とし、絹織物及び絹綿交織にて、全國の絹及び絹綿交織物總産額の一四%を占む。〔沿革〕明治元年六月群馬郡岩鼻に岩鼻縣を置き、十二月多胡縣矢田の吉井藩を廢してその地を岩鼻縣に併す。四年七月那波郡前橋の前橋藩、群馬郡高崎の高崎藩、利根郡沼田の沼田藩、碓氷郡安中の安中藩、佐位郡伊勢崎の伊勢崎藩、北甘樂郡小幡の小幡藩、北甘樂郡七日市の七日市藩、邑樂郡館林の館林藩の八藩を廢して各縣を置きしが十月岩鼻・前橋・高崎・沼田・安中・伊勢崎・小幡・七日市の八縣を廢して、高崎に群馬縣を置く。翌十一月館林縣を廢し、同時に置かれし栃木縣の管下に屬せしむ。六年六月群馬縣と武藏の入間縣を廢して藤谷縣を置きしが、九年八月に至りもとの入間縣の地たりし武藏國の地を割きて埼玉縣に屬せしめ、栃木縣所管の上野國山田・邑樂・新田三郡を併せ、また群馬縣と改稱し、以て今日に至る。

【群馬郡】群馬縣（上野國）三市十一郡の一。縣の中央部を占め、東は利根川を界として多野郡・高崎市に、西南は烏川にて碓氷郡に、西北は吾妻郡に、東北は利根郡に隣る。面積四五七平方粁餘、諸郡中の第六位に居り縣の全面積の七・二%餘に當る。郡の西北半部は境上に聳ゆる榛名山の東南斜面に當る山地にて、火山岩に蔽はるるも、東南半部は利根川と其支流烏川とにる挾まれ、川筋には沖積層塩、中部は洪積層より成り、概ね平坦にして桑畑廣く發達す。從つて本郡は縣下諸郡中蠶業最も盛にて、養蠶戸數は一萬三千戸に近く、敷繭額二百十萬圓を超え、製糸また榮えて製糸戸數一千五百餘戸、蠶糸四百三十萬圓を突破す。その他農産に米・麥を主とし、豆類・玉蜀黍・甘藷・菁菜・大根等を出す。道路は中山道は南部を東西に、越後街道は東部を南北に通じ、別に高崎・前橋間を繋ぐものありて、何れもバスの便あり、鐵道は省線高崎線は大宮より高崎市に來りて信越本線に連り、上越線・兩毛線はまた高崎市に起りて北方と東北方に走り、また社線東武鐵道の高崎線・伊香保線・前橋線ありて、前者は高崎・澁川間に、中者は澁川・伊香保間に、後者は澁川・前橋間に通じ交通甚だ便利なり。續紀寶龜八年紀に郡名初て見え、往昔上野國府の所在地たり。和名抄は久留米と訓し、長野・井出・小野・八本・上郷・畔切・烏名・群馬・桃井・有馬・利刈・白衣の十二郷及び驛家一を置く。後これを東・西二郡とし、またこれを合せしが分合の時期は詳ならず。名稱は郡名考以後グンマと訓み、地誌提要はグンマ・クルマと兩様に讀む。明治十三年大體利根川を界として東・西の二郡に分けしが、明治二十五年四月前橋市東群馬郡より分れ、明治二十九年に至り東群馬郡は南勢多郡と合併して勢多郡と稱し、西群馬郡はその一部を吾妻郡に割き、殘部は片岡郡と合併して更に群馬郡を建つ。明治三十三年四月高崎市本郡より獨立し、以て今日に至る。いま澁川・室田・箕輪・倉賀野・總社・金古・伊香保の七町及び二十八箇村を含む。

【群馬】上野國（群馬縣）の古地名。和名抄、群馬郡に群馬郷あり、國府のありし地にして今の群馬郡總社町・元總社村・國府村・金古町等に當る。

【群馬總社】省線上越線の一驛。群馬縣群馬郡總社町大字植野にあり、大正十年設置。附近に指定史蹟たる上野國分寺址あり。

【群馬藤岡】省線八高線の一驛（昭和六年設置）。群馬縣多野郡藤岡町にあり。

【群馬八幡】省線信越本線の一驛（大正十三年設置）。群馬縣碓氷郡八幡村にあり。

ケーアン　慶安面　朝鮮京畿道廣州郡の中南部。郡管内一六面中の一。東は草月面、北は中部面、西は突馬面、南は五浦面に各相隣接す。南北西の三面老年期の花崗岩丘陵を以て圍繞し、漢江支流慶安川中央を流れて盆地を形成し東部に峡谷出口を有す。氣候は寒暑の差共に大なり。産物の主なるものに米・麥・大豆・牛・牛皮等あり。慶安川溪谷に砂金を産す。面邑京安里を中心として北方京城、東南江陵、南方慈賢等に二、三等道路を通じ、京城及び京東線龍仁驛利川驛方面に乘合自動車を通じ、此地方に於ける代表的中心を成す。いま郡政の中心として廣州郡廳を置き、其他面事務所・郵便所・警察署・市場等あり、市は三・八の日に開き蔬菜・穀類・生牛等の取引行はる。

ケーオー　京王電氣軌道　私設軌道。東京市四谷區の新宿より西方に向ひ淀橋・論谷・世田谷の各區を過ぎて東京府北多摩郡に入り、調布・府中等を經て南多摩郡に入り横山村の多摩御陵方面に通ずるを本線となし、調布より多摩河原に至る支線及び南多摩郡多摩村の北野より八王子市の明神町に通ずる支線あり。

ケーカン　鷄冠山　群岡縣椿原郡と長野縣下伊那郡との境上にあり。赤石山脈中の高峯にて標高二二四八米、北東は光岳（二五九一米）・上河内岳（二八〇二米）・聖岳（三〇一一米）・赤石岳（三一二〇米）に續き、南西は黒法師岳（二〇六七米）・龍鱗山（一三五二米）に連なる。此等の成す尾根は大井・天龍兩川を分水し、天龍の一支流川は鷄冠山がその源を涵養す。

ケーキ　京畿　【京畿道】朝鮮十三道の一。朝鮮半島のほぼ中央、黄海斜面にあり、内地の福島縣地方とほぼその緯度を同じうす。東は江原道、北は黄海道、南は忠清南北道に界し、西は江華灣に臨む。面積一二八一四方粁、十三道中第九位にあり、内地の新潟縣より少しく大なり。行政上、京城・仁川・開城の三府、高陽・富川・始興・水原・坡州・開豐・振威・安城・龍仁・利川・金浦・江華・楊平・抱川・漣川・廣州・加平・驪州・長湍の二〇郡に分つ。道廳を京城府に置く。〔地勢〕概して東北部高く西南部低し。即ち東北部江原道界の地方は大白山脈より派出せる支脈蟠居し、五臺山より起りて南西に向ふ東畿山脈あり、概して起伏緩慢にして老年期に屬す。その間、數多の盆地・低地を擁す。北部の元山・京城間を結ぶ窪地、竹嶺嶺地溝帶の兩側にも、明瞭なる二條の山脈平行して走り、西側の山脈はその南端、京城に及んで北漢山（八三六米）となり、北境にては黄海道の境に於て雪峰山（七四四米）・秀龍山（七一七米）となる。東側の山地は江原道との道界に地藏峯（八七七米）・鴻城山（九二三米）・國望山（一一六八米）等を起し、道内に入りては、明智山（一二六七米）・雲岳山（九三六米）・天摩山（八一二米）等となりて聳立す。なほ東南境には聖智峯（七九一米）・雲山等あり。河川の主なるものに漢江・臨津江・禮成江等あり。漢江は朝鮮五大江の一にして大白山脈に發源し、西流して多くの支流を合し、京城の南、龍山附近に於て流路を北西に轉じて後、東北より來る臨津江を容れて江華灣に注ぐ。臨津江は咸鏡南道安邊郡馬息嶺に發源し、江原道より京畿道に入り横入蛇曲流をなして漢江に合す。禮成江は黄海道高達山に發源して南流し金川より下流は黄海・京畿兩道の道界をなす。海岸は出入に富み、烏嶼も多く散在し、漢江々口の江華島は朝鮮三大島の一にして、交通上また軍事上重要の位置に在り。附近には喬桐島・庶毛島・永宗島をはじめ、南部には大阜島・靈興島・德積島その他無數の島嶼碁布す。海底は概して平坦なるも、干潮の差約一〇米に達するに依り良港の發達には不利なる條件に置かれ、ただ人工によつて仁川のみが江華灣唯一の良港たり。〔氣候〕氣候は謂ゆる大陸的氣候にして、内地の同緯度地方とその趣を異にし、寒暑の差甚しく、隱つて春秋の季間頗かく、且つ歳夏三六度内外に昇るに反し、嚴冬に至れば氷點下一八度餘に降る。京城・仁川の測候所觀測によれば、この地方年平均氣温は攝氏一〇度内外にして、内地の山形・秋田に似る。これより内陸の驪州・利川・楊平・加平・抱川等奥地の山間盆地は冬季酷寒なり。降雨は年量一〇〇〇乃至一三〇〇粍にて、一年を雨季と乾燥期とに區別するを得、夏季に於て總量の七八割を降下するを常とし、冬季降雪は少し。〔人口〕昭和十年末米道の戸數は四四八九一二戸、人口二三三〇五七〇人にして、一世帯平均五人强、一方粁平均一八二人に當り、人口總數より見て、全鮮中第三位にて慶北・全南の次にあり。内鮮外國人別の數は内地人一四七六七一人、朝鮮人二一七一七一三人、滿洲國人及び中華民國人一〇六九三人、其他外國人四九三人にて、總數に對し内地人六・四%、朝鮮人九三・二%、外國人〇・四%に當る。而して此等道民の職業は、農林・牧畜業最も多く五八%强、商業及び交通業之に次ぎ一三%强、其他の有業者一〇%强、公務及び自由業九%强、工業五%强、漁業及び製鹽業一%弱となり、更に之を内鮮人別に見れば、内地人にありては公務及び自由業首位を占め、四二%强なるに反し、朝鮮人にありては農林・牧畜業第一位を占め六二%强にして、内地人にありては商業及び交通業之につぐ、朝鮮人にありても同樣商

業及び交通業これに次ぐ。内地人の本籍府縣別人口は、山口縣最も多く一二九二一人を算し、これに次ぐは福岡縣にして一一一七六人とす。而して五〇〇〇人以上にありては前記二縣の他、長崎・廣島・熊本・大分・鹿兒島・佐賀・岡山・東京の一府七縣、三千人以上にありては愛媛・大阪・島根・兵庫・愛知の各府縣順位となり、最少なるは沖繩縣の四〇人にて、なほ樺太籍三人あり。〔農業〕　國有地は全面積の二%强、民有地は九八%强、そのうち林野は總面積の約六〇%を占め、次は耕地にして約三〇%に達し、耕地中水田二〇萬ヘクタール餘、畑は一八萬ヘクタール餘にして、水田と畑の割合は約十對九となる。本道は他の諸道に比較して大小の都市を最も多く抱擁し、人口密度も最大の地方なれども、なほ依然として農業主體の地域なり。これを生産額より見れば、生産總額（昭和十年、以下同じ）二八六九七八六五七圓のうち、農産額一〇五四四〇〇〇圓（三六・八%）・林産額八六一三三三九圓（三%）・水産額二六七七九四四圓（〇・九%）・鑛産額一二一二七六六圓（〇・四%）・工産額一六九〇三四五八八圓（五八・九%）にして工産が第一位、農産は第二位たり。而して生産總額一戸當六三九・二八圓、同一人當一二三・一四圓なり。農産物の主なるものは米にしてその作付反別約二一萬ヘクタール、收穫高約二二二萬石、水原・振威・始興・高陽・坡州等の諸郡を主産地となす。麥は西南の平野その主産地にして、收穫高約一〇四萬石、その他大豆（四七萬石）・小豆・粟等も産出す。特用作物の主なるものは棉にして、水原・安城・利川・龍仁・廣州の諸郡を主産地とし、年産約六四〇萬斤。人蔘は古來有名にして開城人蔘の名は夙に顯はれ、耕作人員三三三人、耕作面積五二六ヘクタール、その産額は紅蔘二二七五三四五圓、白蔘一五八七三〇三圓にて全朝鮮生産額の約七〇%に達す。其他甘藷・馬鈴薯・蘿蔔・白菜等にて、果實は苹果・梨・葡萄等を出す。畜産は牛を主とし、一三萬餘頭。豚・馬これにつぐ。畜産物總額九六〇餘萬圓あり。蠶繭また行はれ、繭産額四〇二三三石を示す。工産は釀造品を第一とし、年産一九二六七七七九圓、その他紡織品の一八二六五九三三圓、煙草の一八一三八二一〇圓、印刷製本の一〇二八一二〇九圓、機械器具の五二五九六六六圓等を重要なるものとし、なほ革子類・藁工品・藥劑等を擧ぐるを得。而して木製品・紙製品・織物・皮革製品・乾麵類・莚席類・冠帽・窯業製品・杞柳製品等は多くは未だ家内工業の域を出でず。また本道に於て古來有名なるものに、江華島の莞蓆、廣州郡の磁器、安城郡の鍮器、加平郡の紙等あり。水産物は石首魚・鯖・蝦を最とし、鰒・鰯・鱈・太刀魚・蛤・牡蠣等これにつぎ、また牡蠣・鯖・鰯を産出し、魚市場賣上高は年額一八七萬圓に達し、水産製造は鹽乾石首魚・煮乾機蝦・鯖鈴類著はれ、年産一一六萬圓を超ゆ。製鹽は富川郡朱安を中心とし、多くは官營にして年産一二二三八萬瓩（九二・七萬圓）あり。鑛業は鑛區三二二を數へ、金・砂金・金銀鑛を主なるものとし、銀・タングステン鑛之に次ぐ。〔交通〕　域内殆ど低平にて朝鮮の中央部に位置するため、總ての道路は本道に向つて集まり、道路の改修よく行はれ、車馬の交通容易なり。鐵道は京釜・京義・京元線等の幹線鐵道、京城または龍山を起點となし、京仁線の永登浦より分岐する他、社線京東鐵道（狹軌）水原・驪州間を通じ、同じく天安・長湖院線南境を走り、線路延長四三二・五粁に達す。漢江・臨津江・禮成江の諸川は何れも道内に入りて河幅と水量を增して舟楫の便を與へ、海岸には仁川港ありて朝鮮各港は勿論長崎・大連・芝罘・青島・上海等と交通繁く、常に内外の航路交錯し、特に對支貿易上の重要なる位置にあり。都邑は京城をはじめ仁川・開城の諸府及び水原邑等を主なるものとす。〔沿革〕本道は昔三韓民族中の大族たる馬韓の領土に屬したるも、のち高句麗・百濟兩國の爭奪地として大いに紛爭を繰む。新羅勃興してつひに三國を統一し、その景德王の時に至りて唐制に模し國内を九州に分つや、この地を漢州の中に屬せしめ、もつて今日の基を固けり。高麗に移り、成宗國内を十道に分つや關内道となる。而して顯宗の世、稍唐道となり、別に開城及び附近十三縣を直轄となし京畿と呼ぶ。高麗末、京畿左右兩道の地となりしが、李朝に入り、大宗國内を八道に分つや、本道は始めて京畿道と稱し、京城附近は、これを中央の直轄となし、漢城府と呼ぶ。建陽元年（明治二十九年）八道を廢して全國を二十三府に分つや、本道は漢城・仁川・水原等六府に分割せられ、翌年更に十三道に革めらるゝや、復活して再び京畿となる。明治四十三年併合と共に道廳を水原より京城に移し、ここに現在の京畿道と稱するに至り、同時に漢城府を廢して京城府を置き、道の所管に編入す。而して大正三年行政區域の變更に當り、道内を二府二十郡となし、昭和五年松都面を開城府となし、現在三府二十郡となる。

【京畿灣】→江華灣（朝鮮京畿道）

ケーキ　京義（けい）

【京義線】　朝鮮總督府鐵道局線の一部。朝鮮の西北部にあり。京義本線・龍山線・釜二浦線・平壤炭礦線・平南線・博川線・新義州江岸線等を含む。

【京義本線】　朝鮮總督府鐵道京義線の一。朝鮮を南北に縱貫して滿洲國方面に連絡する幹線の北半部をなす。京畿道京城府にある京釜本線京城驛に發し、西北方の開城府を過ぎて黃海道の中央を進み平安南道の平壤府、平安北道の新義州府を經て鴨綠江を渡り、滿洲國安東省安東縣にある南滿洲鐵道安奉線の安東驛に至る。全長四九九・三粁。この線は京釜本線及び南滿洲鐵道と連絡して、釜山より率天及び新京に至る直通急行列車を運轉し、京城より率天まで約十四時間半、新京まで約十九時間にして達す。また新村驛（京城府新村町）にて龍山線、土城驛（京畿道開豐郡中西面）にて朝鮮鐵道黃海線に、沙里院驛（黃海道鳳山郡沙里院邑）にて朝鮮鐵道黃海線に、黃海黃州驛（黃海道黃州郡黃州面）にて鎭二浦線に、大同江驛（平壤府約橋町）にて平壤炭礦線に、平壤驛（平壤府紅梅町）にて平南線に、西浦驛（平安南道大同郡西川面）にて平元西部線に、新安州驛（平安南道安州郡新安州面）にて价川線に、孟中里（平安北道博川郡南面）にて博川線に、新義州驛（平安北道新義州府緑町）にて新義州江岸線に夫々接續す。

ケーキョー　雞胸嶺（けいきょう）

臺灣臺中州新高郡の山。集集庄と魚池庄の境界點に當り、濁水溪の上流に至りて集集庄より魚池庄に入るには水裡坑より通ずる唯一の鞍部にて土人は公鞍嶺とも稱す。乾隆五十年の頃既に小路を通ぜるが道光四年更に改修し以て魚池庄方面五城堡の開拓の幹線となす。水裡坑より約二十町の距離にして鞍部に土地公の小祠を有するにより、土地公鞍嶺の名をもつて有名なり。

ケーゲン　京元線（けい）

朝鮮總督府鐵道局線の一。朝鮮の中央部を南北に横斷す。京畿道京城府にある京釜本線龍山驛より起りて北上し江原道の西北邊を經て咸鏡南道に入り元山府にある元山驛に至る。全長二二三・七粁。この線は元山驛に於て咸鏡本線に接續し更に北鮮管理局線と連絡して京城府より羅津府（咸鏡北道）に至る直通列車を運轉す。龍山驛にては更に龍山線に、鐵原驛（江原道鐵原郡鐵原邑）にては社線金剛山電氣鐵道に、安邊驛（咸鏡南道安邊郡鶴城面）にて東海北部線に各接續す。

ケーゲン　慶源（げん）

【慶源郡】　朝鮮咸鏡北道十一郡の一。道の東北端。北は穆城郡に接し、東方一帶は豆滿江を隔てて、滿洲國間島省と相對し、西及び西南は鍾城郡に、東南は慶興郡にそれぞれ相隣る。面積八六一方粁、本道十一郡中、穆城郡につぐ小郡なり。北・西・南の三方山に圍まれ、西に雲籠嶺・甑山（一〇四〇米）・鹿頭山等の連嶺南北に走り、松鼠山（一一四六米）は南境に聳え東西に連なりて本郡及び鍾城・慶興郡の分水嶺をなし、東南境には忠德山・望德山の兩山嶺走り、豆滿江の一支阿吾地川之を貫きて東流す。豆滿江の本流東境を流れ、地勢概ね東に傾斜するも、各面を通じて丘陵起伏し、その間柳川・豊圓川・安原川・五龍川・阿吾地川等悉く東流して豆滿江に注ぎ、自然に灌漑の便あり。殊に豆滿江本流及び西南方面にある南滿洲鐵道安奉線の安東驛に至る。全長四九九・三粁。この線は京釜本線及び南滿洲鐵道と連絡して、釜山より率天及び新京に至る直通急行列車を運轉し、京城より率天まで約十四時間半、新京まで約十九時間にして達す。また新村驛（京城府新村町）にて龍山線、土城驛（京畿道開豐郡中西面）にて朝鮮鐵道黃海線に、沙里院驛（黃海道鳳山郡沙里院邑）にて朝鮮鐵道黃海線に、黃海黃州驛（黃海道黃州郡黃州面）にて鎭二浦線に、大同江驛（平壤府約橋町）にて平壤炭礦線に、平壤驛（平壤府紅梅町）にて平南線に、西浦驛（平安南道大同郡西川面）にて平元西部線に、新安州驛（平安南道安州郡新安州面）にて价川線に、孟中里（平安北道博川郡南面）にて博川線に、新義州驛（平安北道新義州府緑町）にて新義州江岸線に夫々接續す。

ケーキョー　雞胸嶺（けいきょう）

臺灣臺中州新高郡の山。集集庄と魚池庄の境界點に當り、濁水溪の上流に至りて集集庄より魚池庄に入るには水裡坑より通ずる唯一の鞍部にて土人は公鞍嶺とも稱す。乾隆五十年の頃既に小路を通ぜるが道光四年更に改修し以て魚池庄方面五城堡の開拓の幹線となす。水裡坑より約二十町の距離にして鞍部に土地公の小祠を有するにより、土地公鞍嶺の名をもつて有名なり。

ケーゲン　京元線（けい）

朝鮮總督府鐵道局線の一。朝鮮の中央部を南北に横斷す。京畿道京城府にある京釜本線龍山驛より起りて北上し江原道の西北邊を經て咸鏡南道に入り元山府にある元山驛に至る。全長二二三・七粁。この線は元山驛に於て咸鏡本線に接續し更に北鮮管理局線と連絡して京城府より羅津府（咸鏡北道）に至る直通列車を運轉す。龍山驛にては更に龍山線に、鐵原驛（江原道鐵原郡鐵原邑）にては社線金剛山電氣鐵道に、安邊驛（咸鏡南道安邊郡鶴城面）にて東海北部線に各接續す。

ケーゲン　慶源（げん）

【慶源郡】　朝鮮咸鏡北道十一郡の一。道の東北端。北は穆城郡に接し、東方一帶は豆滿江を隔てて、滿洲國間島省と相對し、西及び西南は鍾城郡に、東南は慶興郡にそれぞれ相隣る。面積八六一方粁、本道十一郡中、穆城郡につぐ小郡なり。北・西・南の三方山に圍まれ、西に雲籠嶺・甑山（一〇四〇米）・鹿頭山等の連嶺南北に走り、松鼠山（一一四六米）は南境に聳え東西に連なりて本郡及び鍾城・慶興郡の分水嶺をなし、東南境には忠德山・望德山の兩山嶺走り、豆滿江の一支阿吾地川之を貫きて東流す。豆滿江の本流東境を流れ、地勢概ね東に傾斜するも、各面を通じて丘陵起伏し、その間柳川・豊圓川・安原川・五龍川・阿吾地川等悉く東流して豆滿江に注ぎ、自然に灌漑の便あり。殊に豆滿江本流及び西南方面にある南滿洲鐵道安奉線の安東驛に至る。全長四九九・三粁。この線は京釜本線及び南滿洲鐵道と連絡して、釜山より率天及び新京に至る直通急行列車を運轉し、京城より率天まで約十四時間半、新京まで約十九時間にして達す。また新村驛（京城府新村町）にて龍山線、土城驛（京畿道開豐郡中西面）にて朝鮮鐵道黃海線に、沙里院驛（黃海道鳳山郡沙里院邑）にて朝鮮鐵道黃海線に、黃海黃州驛（黃海道黃州郡黃州面）にて鎭二浦線に、大同江驛（平壤府約橋町）にて平壤炭礦線に、平壤驛（平壤府紅梅町）にて平南線に、西浦驛（平安南道大同郡西川面）にて平元西部線に、新安州驛（平安南道安州郡新安州面）にて价川線に、孟中里（平安北道博川郡南面）にて博川線に、新義州驛（平安北道新義州府緑町）にて新義州江岸線に夫々接續す。

ケーキョー　雞胸嶺（けいきょう）

臺灣臺中州新高郡の山。集集庄と魚池庄の境界點に當り、濁水溪の上流に至りて集集庄より魚池庄に入るには水裡坑より通ずる唯一の鞍部にて土人は公鞍嶺とも稱す。乾隆五十年の頃既に小路を通ぜるが道光四年更に改修し以て魚池庄方面五城堡の開拓の幹線となす。水裡坑より約二十町の距離にして鞍部に土地公の小祠を有するにより、土地公鞍嶺の名をもつて有名なり。

蘭江に合す。面の略々中央に位置する慶源邑を核として道路網四通し、殊に南方會寧・蟻蒐に通ずるもの及び西方鍾城、東北方訓戎邑に各二等道路を通じ、滿洲國へは豆滿江を昭和九年完成したる城川の木橋により連絡し琿春に通ず。また吃水淺き汽船は江口より慶源まで遡航す。

産物は大小豆・粟・蜀黍・人蔘・大麻等を産するも對岸の琿春平野は地味肥沃にて農産豐富なるため豆滿江を渡り、同地方（越墻耕作を爲す者頗る多し。慶源邑は面の略々中央に位し、琿春との交通最も頻繁にして商取引また盛に、國境都市として重要視さる。守備隊・慶源郵便局・地方法院出張所・警官駐在所・公立小學校等あり。邑内より約五粁東に北鮮線慶源驛あり。豆滿江岸雪にして、邑内とは各列車發着毎にバスを以て接續す。

ケーコ　溪湖街（けいこ）　臺灣臺中州員林郡の西北方。東は坡心庄に、西は北斗郡二林庄に、南は同田尾庄に、北は埔鹽庄に夫々隣接す。廣袤東西一・三二里、南北一・二八里、面積二・一六方里。人口約二萬、その六七%は農業を營む。八堡圳・大義圳・慶豐圳・義和圳は街内一圓を流灌し、其の延長幹支線を合すれば十八里に及ぶ。かかる水利の便と、地勢の平坦なることに依り、管内は一帯肥沃なる水田を展開す。住民は農業を主生業とし、農産物にては、米の産出豐饒的なり。その年産六萬六千叺石に及び、價格百二十八萬圓を遙かに超ゆ。その他甘藷（年産約一千七百十二萬斤、價格約十九萬圓）・甘蔗（年産約七百八十二萬斤、價格三萬餘圓）・蔬菜類（約五萬圓）・果物類等を産す。農家の副業として養豚・養鶏甚だ盛にして、豚は年産約四萬圓、鶏は約二萬圓に上る。農業に次ぐものは製糖業にして、管内に明治製糖株式會社の溪湖工場（大字溪湖に在り）あり、その原料甜搾高二億一百四十六萬餘斤、製糖高五千三百三十萬餘斤、價格四百六十五萬余圓、種類は分蜜糖にして、歩留一割三二三なり。金融機關としては、溪湖信用購買販賣利用組合（出資金九五、四六〇圓）及び溪湖郵便局あり。衛生狀態良好にして、傳染病の流行殆んど皆無なり。庄の昭和九年度豫算額は八八、八二五圓なり。管内には富豪の數比較的多く、五萬圓以上の者九、十萬圓以上の者五、二十萬圓以上の者一、五十萬圓以上の者一あり。教育狀況は小學校一、公學校一、本島人兒童の就學歩合は二四・五%なり。社會教化施設として、國語講習所・家長會・青年團等を設置す。交通は比較的便利にして、明治製糖株式會社經營の員林・鹿港間鐵道は管内を略々東西に通過し、管内に於ける其の路線の延長四哩五に及び、溪湖・頂寮の二驛を設置す。重要道路は、彰化道路・鹿港道路・員林道路・北斗道路・二林道路等にして、近隣の各街庄を結ぶ。溪湖の街路は員林を距る西方約三里、員林・鹿港間の中央に位し、明治私鐵の外、北斗・鹿港・員林・彰化・二林各地との間に乘合自動車の便を有す。本街はもと二林上堡（溪湖・頂寮・西勢厝・非頭・大突・田中央の六庄）、馬芝堡（三塊厝・四塊厝の二庄）、武西堡（番仔脚・阿鳳厝の二庄）の三堡に分屬し、管内にて最も早く開拓せられしは、二林上堡に屬せし大突庄（今の大字大突）にして、雍正年間福建人が蕃人より賺得して開墾せし所に係る。平埔蕃族のトアトゥ社の所在地なりしより、當初之に近音譯字を宛てて、大突新庄と稱せり。其他の地方は總て乾隆の中葉までに開墾せられたるものなり。行政上清領時代には彰化縣の管轄に屬し、溪湖に保長を置き、附近の諸部落に總理を配置して、治安行政に任じたり。明治二十八年本島が我が領有となるや、臺灣縣（臺中）鹿港支廳の管轄に屬し、三十年六月同支廳廢せられて、臺中縣鹿港辨務署及び社頭辨務署置かれ、本庄を其の管下に分屬し、溪湖區庄長の任命を見たり。三十四年臺縣廳廳の結果、彰化廳を新設せられ、同時に鹿港辨務署廢せられて、彰化廳管轄の下に鹿港支廳を置かれ、本庄は該支廳の所轄となれり。爾それと同時に、溪湖區の管轄區域變更行はれて、同區は前記二林上堡に屬する六庄（現在各々大字となる）及び武西堡に屬する前記二庄（現在二大字となる）を管轄することとなれり。四十二年彰化廳廢せられ、鹿港支廳は臺中廳の管轄に移る。大正九年地方制度改正に依り、清領時代より存續し來りし堡は撤廢せられ、舊鹿港支廳の管轄區域は、鹿港街となれる部分を彰化郡に編入し、溪湖區は更に馬芝堡に屬したる前記二庄を合はせ、合計十庄を十大字とし、之を一括して溪湖庄と改稱し、臺中州員林郡の管轄となり、昭和十三年二月溪湖街となる。街役場を溪湖に置く。舊蹟としては三塊厝荷蘭番名勝碑あり。

ケーコー　溪口（けい）

【溪口庄】臺灣臺南州嘉義郡十庄中の一。本郡の西部北端に位し、北港溪の中流域に跨り、東北は三疊溪（北港溪の一支流）を隔てて大林庄と相對し、西は斯巷庄に連り、北は斗六郡大埤庄、西北は北港郡元長庄と夫々界を接し、南は民雄庄と交界す。北港溪は庄の東北境を流れ來れる三疊溪を大字溪口に於て合流し、夫より庄の北部溪口・渕厝二大字間を蛇蜒として横切り、更に北方より流れ來れる虎尾溪を合して、庄の西北境を貫流す。本庄は即ち其流域の一部分を占め、管内は一帯坦々たる平野を展開す。面積二・九二方里にして、本郡中最小區域の庄なるも、人口約一萬二千、人口密度一方里平均約四千人に上り、本郡中最高の人口密度を示す。農業人口は、總人口の約四分の三を占め、純然たる農村を形成す。耕地面積は田畑を合して約三千甲歩に達し、灌

漑用には、柳子溝圳・好收圳あるも、灌漑能力尚甚だ不充分にして、兩期作田は單期作田（謂ゆる看夫田）の四分の一に過ぎず。主要農産物は、甘藷を第一位とし、米・甘藷之に次ぐ。其他落花生・豆類・蔬菜類・果物類等を産す。農家の副業として養豚・養鶏等、家畜・家禽の飼育盛なり。其他見るべき産業なし。教育狀況は公學校一、本島人兒童の就學歩合は約三〇%なり。社會教化施設として、共榮會（分會）一、青年團二、國語講習所等を設置す。溪口信用組合は、地方唯一の金融機關として、設立以來よくその機能を發揮す。昭和九年度の庄豫算額は二二、〇八五圓なり。管内平坦なる爲め、交通の便至つてよく、大日本製糖株式會社經營の北港（北港街）・小梅（小梅庄）間鐵道は、庄の中央部を東西に貫通して、東は大林驛に於て縱貫鐵道に連絡し、西は北港街に達す。道路は甚だよく發達し、副員概して廣く、其の總延長二十里に及ぶんとし、管内主要部落及び附近主要地との間を乘合自動車にて結ぶ。本庄開拓の歴史古く、南隣民雄庄が鄭氏時代に於いて、早くもその一部を開かれたる關係上、その隣接地たる本庄もまた早く康熙の末年より雍正の初年に亘り、熟番官莊として、福建・廣東兩籍民に依りて開かれたり。清領時代より、柴林脚（打猫西堡）・渕厝（打猫北堡）の二大字を除き、餘の各大字は打猫南堡に屬し、領臺後は初め臺南縣嘉義支廳に屬し（但し渕厝のみは臺中縣雲林支廳管轄）、明治三十年嘉義縣の新設とともに、同縣打猫辨務署（民雄）の管轄となり、翌年嘉義縣の廢止と共に打猫辨務署は臺南縣の管轄に移りたるも、本庄は從前の如く同辨務署に屬せり。三十四年十一月、臺縣廳廳と同時に、嘉義廳打猫支廳の管轄となり（但し渕厝のみは斗六廳土庫支廳管轄）、四十二年の制度改正に際しては、打猫支廳の管轄區域及び所屬官廳に變更なく、斗六廳の廢止と共に、其の管轄區域を全部嘉義廳の管下に編入せられたる爲め、渕厝は始めて嘉義廳の所轄となれり。大正九年には地方制度の大改正ありて、清領時代より存續し來りし堡は廢せられ、本廳は打猫南堡に屬したる豐溪口（溪口と改稱す）・頂坪・上崙・崙尾・本廳・厝仔八仔を子に改む）・三疊溪・柳仔溝（仔を子に改む）、打猫西堡に屬したる柴林脚・打猫北堡に屬したる渕厝の十庄を十大字とし、之を一括して溪口庄と稱し、臺南州嘉義郡の管轄となりて、庄役場を溪口に置く。（北白川宮能久親王御遺跡三疊溪御舍營所）大字三疊溪に現存す。昭和十年十二月五日臺灣史蹟天然記念物委員會に依り、史蹟として指定せられたり。此の地鐵買鐵道大林驛を距る西南約二粁。御舍營所の建物は改築より約二十年前の建築にして、竹木混造土角造瓦葺、主屋は東向きにして間口十間、奥行三間、その左端に隣接して長さ五間、幅二間の袖屋あり、其の袖屋の北側に方三間の房間を附す。御舍營の際、御寢室に充てさせられたるは袖屋の内東側の一室三坪の所にして、竹壁をもつて西側の室と區劃せらる。明治二十八年十月八日、此の日節團の各區隊は他里霧（斗南）・打猫（民雄）の間各所に於いて頑強に抵抗せる賊徒を擊攘し、前衛は打猫に、右側枝隊は番仔庄（番子）に、左側枝隊は蜜仔庄（蜜子）に、本隊は三疊溪附近より、大莆林（大林）の間に進せしが、能久親王は本隊を率ゐ、午前六時莉桐巷御發、他里霧を經て、大莆林に進み、午後八時十分、三疊溪附近の鄧舍營地に至り、劉秋の宅に御舍營、聖朝嘉義に向ひ御道發あせらる。同統物は當時の戸主劉秋の子、家世これを所有し、なほ當時の御使用品と傳ふる竹製寢臺・卓子・椅子各一箇を保存す。

【溪口】熱管府鐵道臺東線の驛（明治四四年設置）。臺灣花蓮港廳部庄溪口にあり。

ケーコー　慶興（けい）

【慶興郡】朝鮮咸鏡北道十一郡の一。道の東北部。東は豆滿江を距てて〻聯沿海州に、北の一部は滿洲國間島省に相對し、西北は慶源郡に、西南は鏡城郡・富寧郡に夫々相隣接す。咸鏡山脈の東北端綾内の地鐵買鐵道大林驛を距る西南約二粁。御舍營所の建物は改築より約二十年前の建築にして、竹木混造土角造瓦葺、主屋は東向きにして間口十間、奥行三間、そ

地域たはる。中北部には松鶴山より支脈東走して釣玄德・雄基嶺の諸嶺を連ね、更に一支雄基嶺附近より蛇れて北走し沙器峰山を起す。河川は北部に慶源郡内に發する阿吾地川東流して豆滿江に注ぎ、中北部の山嶺を分水嶺として甫項川は北流し、同じく豆滿江に注ぎ、南は諸河川多く南流して日本海に朝す。日本海沿岸地帶は咸鏡山脈の東端山脚部の沈降によりリヤス式海岸をなし、羅津灣・雄基灣・大津灣等多くの灣入を持ち、蒸隧鎮・郭鎮・城亭鎮・老生鎮等無數の岬角あり、その内側は何れも良灣をなす。東南部には湖沼多く、龍水湖・晩浦・西落浦・東落浦あり。東部の豆滿江に接する部分は一帯の沼澤地にして、赤池・玄潭の湖沼あり。交通は鐵道北鮮東部線（滿鐵北鮮鐵道事務所線）雄基より北上して東北境を貫き雄基・九龍坪・洪儀・四會・青鶴洞・阿吾地・松鶴の各驛を經て、羅津港に達す。道路は主として日本海沿岸と東境とに通じ、雄基より西南清津方面、及び東方西井羅に至る間、北部の慶興・阿吾地間、慶興・青鶴洞間には、夫々定期乘合自動車の便あるも、西部山地地方は交通便ならず。海路は雄基を起點として、清津・元山・釜山その他の海岸諸港に沿岸航路あるほか、北海道・寳日本・大阪・東京等の各航路の寄港地となり、奥地物資の呑吐港として發展し、羅津港は灣内

水深く、入口に大草島・小草島の二島嶼あり て自然の防波堤をなし、天然の良港をなし、昭和七年日滿連絡鐵道の終端と決定して以來、一躍その名世界的となり、一大港灣施設計畫せられて着々工事進捗中なるを以て、將來の發展測り知れざるものあり。また豆滿江は小汽船溯航し、沿岸の慶興・古邑洞・甑山洞・龍堀洞・土里洞等と對岸との間に渡船連絡あり。產業は水產業及び農業を主業とし、農產に粟・稗・黍・燕麥・大豆・亭麻等あり、米は稗作されず全部これを移入す。畜產は馬殺も著はれ、雄基に軍馬補充支部・成鏡北道種馬所を設けらる。海產物には鮭・鱒・鰯・明太魚・海參・牡蠣及び海草・食鹽等を產す。鑛產は石炭著はれ、慶興面青鶴炭礦より年產八十瓲、同面阿吾地炭礦よりは年產三四千瓲を出し、特に後者は埋藏量一億瓲と稱せられ、炭質は東油等の波化に最適のものとして有望視さる。郡邑としては國境警備の慶興、港市としての雄基及び羅津(いま府に昇格す)、漁港としての西水羅等はその主なるものなり。行政上雄基邑及び豐海・上下・慶興・蓋西の四面に分ち、郡廳を雄基邑に置く。

國境の慶興及び古邑には守備隊置かる。

【慶興面】朝鮮成鏡北道慶興郡の北東部。郡管內一邑四面中の一。東南は蓋西面、南は雄基、西は上下面、北及び東は豆滿江を隔てて滿洲國琿光及びソ聯沿海州に相對す。西境には沖積山その他諸山嶺相連なるも東北部の豆滿江に面する地域は土地頗る低平にて、沿岸には低濕地多く開拓に不適の地あるも蘆田として利用することを得、又低地中開墾し耕地として有望なるものあるも住民稀薄にして空しく遺棄したるの狀態にあり。氣候は夏季は日中炎熱激しけれども日沒後は攝氏十六七度內外となり、冬季は寒氣厳しく氣溫低下し零下三十度に下ること珍しからず。河水も十二月上旬より三月迄氷結し人馬悉く其上を往來す。道路は南方雄基より慶源郡新阿山及び邑より琿明を經て會寧に通ずる二三等道路を主なるものとし、慶興は對岸ソ聯沿海州地方との交通上の要衝に當り、國境都市として軍事上重要なる位置を占む。鐵道北鮮東部線は面の略々中央を横斷し四會・青鶴洞の兩停車場ありて後者よりは慶興・雄基に各乘合自動車の便あり。水運は上流は慶源まで百噸未滿の汽船を通ずるも冬季三ケ月餘結氷の爲め交航杜絶し人馬は氷上を自由に往來し、爲に國境警備は頗る苦心を要す。農產物は粟・稗・黍・燕麥・大豆・亭麻等にして南鮮地方と農業景觀を著しく異にし、米作は行はれず全部之を移入するの狀態にあり。この地は昔より孔城または匡城と稱せられ、六鎭の一として歷史上有名の地たり。慶興邑には慶興郡廳・地方法院支廳・郵便局・稅關監視所・小學校等あり。また國境警備のため守備隊駐屯す。

ケーコク　溪谷面（けい）　朝鮮全羅南道海南郡の北端。郡管內一三面中の一。卽ち海南半島の頸部に位置し、東は康津郡城田・康津・道岩、北は靈巖郡鶴山・美岩、南は玉泉・馬山の諸面と各相隣接し西方馬山浦の入江に面す。北半部は月出山(八〇九米)の餘脈延びて六六〇米を最高とする連嶺東西に走り平地に乏しきも西南の馬山浦に入つて漸次低下し、砂濱相連なる。本面に於ては風に西部馬山浦の開拓に留意し千拓成れるもの昭和六年三六〇ヘクタールに達し、又灌漑水利の便により水田化されたるもの三〇〇餘ヘクタールに達し郡內に於ける米作の重要地域を成す。其他綿花・大豆・菜種・組織物等を產す。水產物は干潟地を利用し製鹽業行はる。北方靈巖より來る二等道路は面の東部を南北に縱斷して海南に、其他里道は面邑里津里を中心として康津その他に連絡す。海岸は水淺く、舟運の便に乏し。漁落は主として南半部に偏在し、康節・方容・月溪・呂水・士丁・屋頭里等の諸部落あり。

ケーザン　兄山（けいざん）

【兄山面】慶尙北道迎日郡の東端。郡管內一邑一五面中の一。北は興海面、西は達田面、南は浦項邑に各相隣接し、東南は迎日灣に面す。域內丘陵起伏し平地に乏しく海岸は岩石海岸をなし單調にして良港に乏し。耕地は丘陵面を開墾せる爲淺沃不便にして水田少なく畑作農業にして大豆を主とし粟・煙草を產し、海產物には鰊・鯖・鰯・蛤等あり、又鮑・螺螺等の產多く之等は濟州島海女の出稼により潛水漁業に從事する者多し。鐵道東海中部線浦項邑鶴山まで通じ、驛より面內役南浦ほか主要部落に道路を通ず。

【兄山江】朝鮮慶尙北道東部にある川。水源に凡そ三あり。主流は慶州郡西面の山地に發し、南東流して沿岸に水田を拓き、內東西地內に於て慶尙南道蔚山郡北部の山地に發源し北流し來れる西川、及び慶州郡外東面に發して北々西流する南川を合せ、更に北流すること數粁にして東川を併流し、この附近に慶州平野を形成し、更に北流し安康附近に於て迎日郡內より南流する一支を入れ、これより北東流して迎日郡に入り浦項邑內に於て迎日灣に注ぐ。沿岸概ね狹長の平野をつくり、地味肥沃、殊に慶州・安康附近の平野には米產多し。沿岸の郡邑慶州・安康・浦項はいづれも地方の中心として著はれ、慶州地方は古へ新羅朝の盛時、王都を置かれ、燦然たる一千年の文化を誇りし地にして、古蹟頗る多し。

ケーザン　惠山（けいざん）

【惠山邑】咸鏡南道甲山郡の西南端。惠山鎭と通稱す。鴨綠江上流左岸に臨む。鴨綠江上流森林帶中の代表的邑なり。市街は海拔七〇〇米の標高を示す高地集落にして江を隔てて滿洲國の長白府に相對す。

十〇土地傳聞交通極めて不便なれども大森林地帶を控へて、淺狩の基點として重要な位置を占め、春夏の候は木材・藪柳・馬鈴薯・獸皮・藥草等の取引盛に行はれ市況頗る活氣を呈す。冬季は酷寒零下四〇度內外を示し、江水結氷して人車・馬車・橇等の交通自由となり雲ては最も國境警備に腐心する時期なりしなり。此地は又白頭山登山根據地を成し、此地より普天堡を經て龍飛里に至り之より虛項嶺を經て紳武城・無頭峰、白頭山頂上迄凡そ六日、往復十日間を要す。惠山邑には邑軍務所・警察署・稅關出張所等あり。近年北鮮資源の開發と國境警備の充實を目的として、總督府鐵道咸鏡線吉州より此地に達する惠山線建設中にして、現在吉州・風岡里間九九・七粁の一部開通を見また拓殖鐵道の中部線(惠山鎭・滿浦鎭間)の建設豫定あり。東方風頭里、南方甲山、北方普天堡方面には夫々定期乘合自動車路を通じ、交通の整備漸く加はらんとしつつあり。

【惠山線】朝鮮總督府鐵道局線の一。朝鮮の東北邊にあり。咸鏡北道吉州郡英北面にある咸鏡本線吉州驛より北西に進み長白面・鳴社面を經て咸鏡南道に入り甲山郡雲興面に通ず。全長九九・七粁。白岩驛(咸鏡北道鳴社面)にて白茂線に接續す。

ケーザン　慶山（けいざん）

【慶山郡】朝鮮慶尙北道二十二郡の一。

ケーサ——ケーサ

道の南部。東北は永川郡に、西は達城郡に、南は清道郡に夫々相隣接し、面積四九二方粁。東北部を除くの外、四境殆ど山陵起伏し、西北境には環城山脈連亙して印峰(八九一米)・環城山(八〇九米)等屹立し、西南には大毬山(六〇二米)・龍角山、東南には九龍山(六七三米)・仙義山等低山性の山嶺連なり、その餘脈北に延びて南川面の小盆地を圍む。中央部及び西部は概ね低平にして、琴湖江は東永川郡より來りて郡のほぼ中央を東西に貫き、南部山地に發して北流する南川・五木川を合せ、その沿岸に廣大にして肥沃なる琴湖江平野を拓き、大小四百四十餘の堤塘と共に灌漑に便し、氣候比較的溫和なるを以て、農產頗る多し。郡內耕地は田八八四六ヘクタール、畑五六六五ヘクタールにして、耕地面積は全域の約三五%を占め、農家總戶數は、實に總數の八六%に當る。農產の主なるものは米(約八萬石)・麥(約九萬石)・大豆(約二・七萬石)にして、殊に慶山大豆は、良質を以て著はる。特用作物としては、棉やや多く、牧種高六十四萬斤を超え、外に、煙草・大麻・楮・菊草の產また少からず。養蠶も盛にして、產繭高一〇萬圓を超え、畜產は牛多く、養鷄も盛んなり。商工業は未だ幼稚の域を脫せずと雖も、西南は京釜本線に、北は東海中部線に沿ふ關係上、米穀集散地としてやや著はれ、工業は製紙の產著はるゝほか、まだ見るべきものなし。輸移出は年々增加の趨勢にあり、農產物を主とし、米を首位として大豆・大麥・小麥・繭・綿花・葉煙草等これに次ぐ。穀物其他の取引は輸送の關係上、慶山・河陽に於て行はれ、主として內地・釜山及び大邱方面に移出され、葉煙草は大邱專賣支局に供給す。なほ雜貨食料品は大邱・釜山・浦項を主なる仕入地とし、慶山・河陽・慈仁の商店及び市場に於て販賣せらる。交通は郡邑慶山及び河陽を中心として四通八達し、京釜街道(一等道路)郡の西南部を走り、大邱・浦項間の二等道路慶州街道は安心・河陽・瓦村の各面を東西に貫き、慶山より河陽を經て北方新寧方面に三等道路を通じ、これ等の主要道路には概ね定期乘合自動車の便あり。鐵道は京釜本線郡の西部を南より西北に貫き、南より三省・慶山・顯母の諸驛を置き、東海中部線は西方大邱より來り、慶州街道と竝走して、半夜月・浦泉・河陽の諸驛を設け、交通頗る便なり。本郡は行政上、慶山・孤山・安心・河陽・瓦村・珍良・慈仁・龍城・南山・押梁・南川の十一面に分ち、郡廳を慶山面三南洞に置く。主要なる聚落は、郡邑慶山を最とし、ここに米豆檢査所を置き、琴湖江平野の農產集散地たり。河陽は慶州街道と新寧街道の交點に當り、農作物集散地として地方的に賑きをなし、慈仁は東南部の中心をなす。郡內人口稠密にして、密度は道內にて達城郡に次ぎ(一方里當り二七〇八人)、內鮮人戶數多く、琴湖江平野には早くより內地人移住して農業に從事し、郡勢の隆昌に貢獻せり。本郡はもと押梁小國(一名押督)の地にして、新羅景德王の時改めて獐山と稱し、高麗の初め更に章山と改め、個宗九年慶州に屬す。忠宣王の初め今の慶山に改稱。泰護王に至り郡に陞せしが、李朝太祖のとき縣と改め、萬曆年中に一度、大邱に屬せしめ、幾許もなく郡を置く。大正三年三月府郡廢合に際し、慈仁・河陽の二郡と新寧郡南面の一部と合併し、慶山郡と稱し、今に至る。

【慶山面】朝鮮慶尙北道慶山郡の中央部。郡管內一一面中の一。東は押梁面、南は南川面、西は孤山面に各相隣接し、北は琴湖江を隔てて安心面に相對す。南部及び西南部は大毬山・仙義山等の餘勢を受けて丘陵起伏すれども、北半部琴湖江の支流南川・鷺川等流れ、殊に琴湖江に接する地域は地味肥え、灌漑の便に富み、米・大豆・麥・棉花等を產し、殊に慶山大豆は品質良好を以て著はれ大阪府及び和歌山縣下に移入されて凍豆腐の原料として名聲高し。面邑慶山を中心として慈仁・河陽・永川地方に通ずる道路は何れも平坦にて、殊に一等道路京釜街道は面內を南北に縱斷し、鐵道京釜線慶山驛(明治三十八年設置)と結び、慈仁・大邱に乘合自動車を通じ交通頗る便なり。面邑慶山は面の略々中央に位し西方に慶山驛

ありて米及び慶山大豆の集散頗る多く、倭館に次ぐ米・大豆の移出驛なり。驛の附近に郵便所・金融組合及び市場等あり。また市街の東方に慶山郡廳・警察署・地方法院出張所・米豆檢査所・小學校等あり。

ゲージツ　迎日

【迎日郡】朝鮮慶尙北道二十二郡の一。道の東南部。北は盈德郡に、北西は青松郡に、西は永川郡に、南は慶州郡に相接し、東部一帶は日本海に面す。面積一三二三粁。大白山脈、郡の北西部を南走して分水嶺をなし、その餘脈域內各所に直巒起伏して、香爐峰（九三〇米）・飛鶴山（七六二米）屹立し、平野に乏し。河川は概ね東流し、南方慶州郡より流れ來る兄山江及びその支流中部を潤ほし、兄山江流域と迎日灣の北西岸にやや廣き低地あり。海岸は斷層海岸をなして海岸線僅に一〇〇粁。屈曲少なくして良泊に乏しきも、長鬐岬の地嶠半島突出して迎日灣の重要港灣を抱擁し、灣內深く、容易に大船を容るるべく、東南岸には一小屈曲ありて九龍浦港を抱擁す。產業は水產業最も著はれ、鰒・鰮・鯖・鮪・蟹・蟹・蟹・食鹽を主たる海產となし、農業は興海・延日の平野を中心に、米（年產八・二萬石）・麥を栽培し、その他大豆・粟を產す。特用作物にては棉・煙草・麻・大麻を主要なるものとす。畜產は北部に牛の產多く、養蠶・養蜂また盛に行はる。東南岸地方には近年蜜柑の產多く、三倫柑橘園（面積一八〇〇タダール）設けらる。工產は製紙・菓製品・織物等やや多きも、水產製造の盛なるには及ばず。交通は東部海岸地方及び南部に道路・鐵道通ずるも、西部山間地方は概ね峻嶮にして不便なり。即ち二等道路は郡邑浦項邑を中心として西南慶州及び北方盈德方面に通じ、三等道路は浦項より東方九龍浦へ通じ、主要道路間に定期乘合自動車の便あり。總督府線東海中部線は南方慶州より來りて足山江に沿ひて郡內に入り、孝子・浦項の各驛を過ぎ、鶴山をその終端驛となす。港津は浦項をその尤なるものとなし、總督府命令航路たる大連・北海道南線の定期航路のほか、釜山・蔚陵島間、釜山・元山間、釜山・浦項間、墟基・阪神間の四航路の海運あり。郡邑は東海岸に沿うて分布し、浦項・興海・清河・延日・九龍浦・長鬐等を選別とし、西部の杞溪は山間の一中心たり。行政上、浦項邑及び兄山・達田・興海・曲江・神光・清河・松羅・竹北・竹南・杞溪・延日・大松・烏川・東海・汀洲・峰山・長鬐の十七面となし、郡廳を浦項邑浦項洞に置く。迎日といふ地名の由來につきて、傳說あり。新羅朝第八代阿達羅王の時、烏川（迎日）よりほど近き海濱に夫婦あり、夫を迎烏郎、婦を細烏女といふ。一日、迎烏藻を刈るべく小舟に乘りて海邊に出でしに、忽ち强風起りて波浪高く、小舟は忽も蒼々たる大海原に影を失す。日ありて細烏女は迎烏が日本國の一小島に漂着し烏王と爲れるを聞き、夫を其地に尋ぬ。時に新羅は天地忽ち晦冥となる。卜者奏して曰く、迎烏・細烏は日月の精なり。今兩人此地を離れて日本に去る。故にこの怪事ありと。よりて急に使を遣はし、兩人の歸國を乞ひしに、迎烏曰く、我の此國に來りしは天命なり、復た歸るを得ず、此品を持ち還りて天に祀らば新羅の天地再び明かなるべしと、妻細烏が織るところの絹を贈る。使者その絹を恭しく受けて携へ歸り迎烏の云ふ處を奏し之を池上に祀りしに果して天地光の如く明るし。よりてその絹を匿に收めて寶藏し、その池を名づけて日月池といひ、縣令を迎日となせりといふ。即ち迎日は古語にて「朝日の浦」ともいふべき意味にして、日月池は浦項を距つこと四粁にあり。本郡はもと長鬐・延日・興海・清河の四郡を大正三年三月府郡廢合の際一郡となせしもの。もと長鬐郡は今の長鬐・峰山・汀洲の三面にして、新羅初期は只吞縣といひ、景德王これを鬐立と改め義昌郡の領縣たり。高麗朝に至り慶州府に屬し、恭讓王の時、縣監を置き、その後壓改あり、明治二十八年に至り郡守を置く。もと延日郡は今の大松・烏川・延日・浦項・東海の五面にして、新羅朝に行烏縣と稱し、義昌郡の領縣たり。高麗朝に至り迎日と改め、顯宗王の時慶州府に移屬し縣監を置く。李朝太宗王の時に至り縣を置き、のち變改ありて近世、郡となり以て大正三年三月に至る。もと興海郡は今の興海・達田・曲江・神光・杞溪五面にて新羅の朝には退化縣と稱せり。高麗朝の初め興海郡と改む。光武河郡は今の清河・松羅・竹南・竹北の四面にしてもと義盲國の領縣たり。新羅時代海阿と呼び有隣縣寧海の領縣とす。高麗朝の初め清河に改め縣監を置きたるが近世に至り郡となる。往昔出雲倒延が半島と往來したる當時、此の迎日灣が其の要津となり、降りて神功皇后征韓の節、神を上陸せしめたるもまた迎日灣にて、浦項邑の西南、竹林山は實に皇神駐驛の陣址なりと傳ふ。その海灣深く內方に灣入し、兄山江の水また今より遙かに深かりし等の推理を綜合すれば交趾の發すべきものなきも、亦强附會の說にはあらざるが如し。

【迎日灣】朝鮮慶尙北道迎日郡にある灣。日本海岸に於ける重要港灣にて、東南には長鬐岬の地嶠半島、海中遙かに突出し灣を抱し、灣頭には兄山江が河口を開き砂濱をなすも、灣內一〇米の周深線が深く灣入す。大船の碇泊も自由なれど防波設備なき缺點を有す。灣內は魚族豐富にて鎭海灣に電ぐ好漁場をなし、漁期には內鮮各地より出漁するもの多く、灣頭には浦項の漁港、鶴山の商港あり。

ケーシュー　溪洲（しゅう）

【溪洲庄】臺灣臺中州北斗郡の一庄。本郡の東南隅、濁水溪の北岸流域に位し、東は員林郡下田中・二水の二庄に、西は竹塘・埤頭の二庄に、北は北斗街に夫々隣接す。南は濁水溪を隔てて臺南州下虎尾郡西螺街及び斗六郡莿桐庄と相對す。本庄は濁水溪に面し、且つ往時は同溪のデルタなりしを以て、溪州の名出づ。溪流に面する地方即ち下水埔・過溪子・下莿・三條圳・潮洋厝・水尾の各大字には、現時防水の堤防完成せしも、その以前に於ては、一朝暴風雨に際會せば、忽ち濁水溪の水害に見舞はるる狀態なりき。廣袤東西三里十七町、南北二里三町、面積四・九一六六方里。管內を圳寮・西畔・下莿・下水埔・過溪子・溪州・溪厝・溪尾・三條圳・潮洋厝の十一大字に區分し、庄役場を大字溪州に置く。人口約一萬七千四百。管內は平坦にして山を見ず、地味概ね肥沃なる爲め、純然たる農村を形成す。故に產業は農業を第一位とし、他は殆んど之に附隨するかの觀を呈す。耕地面積は田一、九五七甲餘、畑二、〇一四甲餘、合計三、九七一甲餘に達す。莿子埤圳・永基圳は庄內一圓を灌漑し、總人口一萬七千四百の內、一萬四千四百餘は農業人口なり。農產物中米の產出最も多く、之に次ぐものを甘藷・甘蔗・蔬菜類・黃麻・胡麻・豆類・柑橘類等とす。米の年產約四萬三千八百石、價格約八十三萬圓なり。農業の好不況は直ちに地方經濟に影響するところ甚大にて、近年農產物特に米價の昂騰は、其の我埔面積を增加せしめ、他の農產物の生產にも增加を示しつつあり。農家の副業としては、養豚盛なり。工業は鹽然製糖業を首位とし、溪州に鹽水港製糖株式會社溪州製糖所あり、資本金二九、二五〇、〇〇〇圓にして、生產能力一、九五〇噸、一製糖期間に於ける原料甘蔗搾重量は三〇六、五九五、〇一〇斤、生產砂糖重量四二、五一九、九七一斤、價格三、一五八、九二九圓、平均歩留は一三・五四なり。その他工業の見るべきもの殆どなし。民度一般に低く、教育狀況を見るに、小學校一、公學校二、同分教場一あるも、本島人兒童の就學歩合は、尙三〇%程度に過ぎず。國語普及練圃として、公立の長期國語講習所二、簡易國語講習所約十箇所を設置し、農閑期を利用して、國語の普及並びに國民精神の涵養に努め、相當の成績を擧げつつあり。社會教化施設として、青年團三を設置す。民度低き爲め、住民は一般に寫生觀念薄く、近年は傳染病の流行を見ざるも、地方病たる「マラリヤ」・「トラホーム」あり、當局者は之が撲滅に努力しつつあるも、尙未だ徹底せしむること能はざる狀態なり。溪州信用購買利用組合（出資金一六、八六〇圓）ありて、設立以來地方唯一の金融機關として、よくその機能を發揮す。庄の財政狀態を見るに、基本財產約四萬四千圓、普通財產約八千四百餘圓にして、昭和九年度に於ける戶稅及び戶稅割賦課額況は、一戶當り平均計十五圓五十七錢なり。なほ昭和九年度に於ける庄の豫算額は五〇、三九三圓なり。管內には十萬圓以上の富豪皆無なるも、五萬圓以上のもの八あり。交通は一般に便利にして、鹽水港製糖株式會社經營の私設鐵道は、東方、田中、西方、二林間を運行し、本庄管內を通過して、庄役場の所在地大字溪州（溪州驛あり）を他の主要地と結ぶ。道路には縱貫道路（管內の西部を南北に貫く）其他、保甲道路ありて主要部落を連絡し、地方の產業開發に貢獻する所鄙からず。なほ此等の道路の中には乘合自動車の通ずるものありて、交通上重要なる役割をなす。本庄の沿革を見るに、土地は濁水溪のデルタに由りて形成され、往昔は全く礁碕にして、砂礫の地に非ずんば、沼澤蘆荻の地なりしため、漢人の手に依りて開拓せられたるは、郡下の主要地に比して遙かに遲れたる感あり。然れども郡役所の所在地、北斗街の前身たる東螺街は、現在本庄管轄區域內の大字舊厝（もと舊厝庄と稱す）の內に屬し、雍正初年間人によりて街肆を立てられ、一時當地方の中心市場たるの觀を爲したるも、嘉慶十一年漳泉人の分類械鬪に際して兵火に罹り、次で東螺溪の水害を被り、市街全く壞滅に歸せし爲め、道光二年更に現在の場所（當時實斗庄と稱す）に市街を創建せしなり。雍正五年三條圳（もと三條圳庄と稱す）に、乾隆十三年潮洋厝（もと潮洋厝庄と稱す）に夫々泉州人の移住を見、乾隆の末年には下莿（初め下埔庄と稱し、後下莿庄に改む）・下水埔（もと下水埔庄と稱す）等の部落を立てられたり。改隸以前にありては彰化縣の管轄に屬し、改隸後は初め臺灣縣（臺中廳港支廳の管轄となり、明治三十年六月地方制度の改正に依りて、臺中縣北斗支廳舊署の所轄となり、舊厝に區役場を設置し、翌三十一年には潮洋厝區役場を合併せり。三十四年廢縣設廳の後は、彰化廳北斗支廳に屬し、三十五年牛稠子區役場の管轄區域たる溪域厝・新庄仔・斗六甲の三庄を、當區の管轄區域內に編入し、三十七年新庄仔・斗六甲の二庄を再び牛稠仔區役場に返讓せり。四十二年十月彰化廳は廢せられて、舊轄地を臺中廳に合併せられたる爲め、北斗支廳は臺中廳の所轄に移れり。大正九年十月地方制度の大改正に依り、下莿區と舊厝區を合併して、現在の溪州庄となり、臺中州北斗郡の管下に屬す。而して本庄區域中、圳寮・西畔・下莿・下水埔・過溪子の五大字は、現行制度實施前には東螺東堡に屬し、溪州・舊厝・溪域厝・三條圳・潮洋厝・水尾の六大字は東螺西堡に包括せられ、各々庄と稱す。

【溪州】臺灣總督府錄道湖州線の一驛（大正十二年設置）。臺灣高雄州東港郡林邊庄溪州にあり。

ケーシュー　溪洲（しゅう）

【溪洲堡】臺灣臺北州羅東郡の舊堡名。

いまの三星庄及び冬山庄の一部に當る帆里沙溪に沿ふ一帶の地。溪洲の名は同地一帶到る處に浮洲を有せしに因るものにして、本堡の開拓は清嘉慶九年頃に顧建省泉州の者、集團移住せるに始まる。光緒元年浮洲堡に改められ、領臺後も行はれたるが、大正九年十月地方制度改正を以て廢止せらる。

【溪洲堡】臺灣臺南州斗六郡の舊堡名。今の朝桐庄及び斗六街の一部を含む地域にして、清光緒十四年東螺西堡より分れて一堡を立つ。南北に西螺溪と虎尾溪を控へ、その三角點に位し、溪洲の名もその地勢の兩溪間の浮洲たるに因る。

ケーシュー　慶州（けいしゅう）

【慶州郡】朝鮮慶尙北道の東南端に位す。道管内一府二十二郡一島の一。東北及び北は迎日郡に、西は永川・清道の二郡に、南は慶尙南道蔚山郡に隣接し、東南部は直接、日本海に面す。面積一三〇七方粁。地勢は大白山脈域内を南北に走り武陵山（四五九米）・龜尾山（五九四米）・斷石山（八二八米）・金鰲山（四九五米）等を聳立せしめ、周圍また山地を繞らし、西部と南部やや緩峻にして、西境に道德山（七〇三米）、西南境に文鼎山（一〇一四米）・高嶺山（一〇三三米）等屹立す。かくの如く、中央に南北に横はる兒山江の低地及び慶州盆地より東南蔚山灣に達する熱溝帶の外は殆ど山地にて、域内の水は略ど兒山江となりて迎日灣に朝し、西南境の西面及び山内面の溪流は潘東江の水源をなし、日本海舒面には吐含山南麓に發する大鐘川の東流するあるのみ。東岸は斷層海岸をなし屈曲乏しく、僅かに甘浦の泊港あり。前記の低地は地味肥沃にして農業榮え、郡内の農業戶數は總戶數の八一%を占め、米產特に多く年產一二五三四〇石にして道内諸郡中第三位にあり。その他、大麥・小麥（約一七・五萬石）・大豆（約三・六萬石）を產し、特用產物には棉・楮・大麻・莞草やや多く、また柿・梨果の產あり。養蠶また行はれ、畜產に牛・豚・山羊あり、牛の產は道内の首位を占め、その數約二萬頭、養鷄は極めて盛にして、飼養戶數は金泉郡につぎて多し。工產には紙・酒類・木綿織物・麻布・蓆席等あり、殊に紙は品質優良にして產額多く、また陶器を產す。東海岸には鰒・鯖・蟹等の漁獲多く、水產製造また見るべきものあり。交通は二等道路慶州街道西方大邱より來り、慶州より北方浦項に延び、また南方蔚山を經て釜山方面に通じ、三等道路は慶州より南方彦陽を經て梁山へ、東方は甘浦港に達ずる外、北部安康より西方永川に至るものあり、これらの各道路は多く定期乘合自動車の便あり、殊に慶州街道は大邱との往來極めて頻繁なり。鐵道は總督府鐵道東海中部線が京釜線大邱驛より分岐し慶州街道に沿うて東進し、慶州より北走して浦項に達し、沿線に阿火・乾川・光明・西岳・慶州・金丈・士方・安康・扶助の諸驛を設け、東海南部線は慶州驛より分岐して南方蔚山に達し、域内に道只・佛國寺・入宝・毛火の各驛を設け、交通頗る便利なり。郡邑は慶州・安康・甘浦を主なるものとし、慶州は新羅の古都として著はれ附近に新羅王朝の盛時を語る史蹟名勝に富み、安康は北部農業の中心をなし、地方的交通の要衝たり、又、甘浦は東海岸唯一の港津なり。行政上、慶州邑及び江東・江西・見谷・西・山内・内南・内東・川北・外東・陽北・陽南の十一面に分ち慶州邑東部里に郡廳を置く。史を按ずるに、もと朝鮮遺民、東海の濱、山谷の間に分居し、六村を爲せしが、漢宣帝五鳳元年（崇神天皇四一年）六村の長、閼川（いま北川）に會し、朴赫居世を立てて王となし、國號を徐伐と稱す。これを新羅建國の始とす。四世昔脫解王の時、鷄林と稱し、十五世基臨王の時新羅と稱す。のち五十六世敬順王に至り高麗に降りしを以て、新羅は茲に滅亡せしが、世數五十六世、歷年九九二年、この間に於ける新羅の王都は實に此地なりとす。王都除かるゝや高麗太祖十八年に慶州と號し、のち陞して大都督府となし、成宗の時東京と改めて留守使を置き、高麗三京の一となす。顯宗三年慶州防禦使、同九年慶州大都護府、同十八年改めて牧を置き、同二十一年更に留守使を置く。のち鎭を置き、安康・杞溪・慈仁・神光の四縣を屬縣となし、太皇帝三二年（明治二十八年）始めて郡となし、郡守を置く。高麗朝に於ける都督府の所管は、西は慶山・慈仁・永川より東海岸に及び、今の慶尙南道東萊・機張諸郡を管し、李朝に至り屬縣の外に一府二郡四縣を鎭管し、慶州府尹は兵馬節度使及び漕運使を兼ね、甘浦營の水軍をも併有したり。太皇帝の時郡と改めてより郡内十七面なりしを、光武十年十面となし、更に大正三年府郡廢合に際して、もと長鬐郡の二面（現陽北・陽南）を編入し十二面となりしが、昭和六年四月地方制度改正に伴ひ慶州面は邑となり、現今は一邑十一面なり。

【慶州邑】慶尙北道慶州郡の首邑にして新羅の古都。郡の略中央に位し、四面山地を繞らす。卽ち東方に明活山聳え、北には金剛山（北岳）、西に玉女峯・仙桃峰（西岳、三八〇米）、南に南山（金鰲山、四九五米）を擁し、その景觀奈良盆地に酷似し、兒山江上流の西川淸流は月城の彼方より來れる南川（蚊川）を合流して市街の西側を北流し、東方明活山下に發源せる北川と共に慶州邑城を環流し、謂ゆる山河襟帶自然の城塞を成し以て新羅五十餘代一千年の王都として嘗ては全盛一三〇〇坊、民戶十八萬戶を擁する大都城の營まれし理由が肯かる。而して佛教を中心とせる新羅文化は、この山川の勢態に育くまれ榮えしものにて、南山より小金剛、仙桃山より明活山の間を埋むる大盆地には數十の宮殿樓閣の址、堂塔伽藍の礎址、整然たる新羅大都の條里の跡等、細徑田圃の間に拾ひ得て、その往昔の盛大を偲ぶに足る。交通は總督府鐵道東海中部線、西方大邱より來り、域内を貫きて東北走し、西より光明（大正十一年設置）・西岳（大正七年設置）・慶州（大正七年設置）の各驛を置く。東海南部線は慶州驛より分岐、東南蔚山を經て釜山に達し、坦々たる街道は西方大邱、東北浦項、南方釜山・梁山、東方甘浦に通じ、多くはバスの便あり、特に大邱との往來盛なり。慶州市街は邑の東部に位し、舊都城の西市巷に當り、北川と西川の落合ふ河間の地にあり、東西・南北各一・五粁、略々方形の市街にして、西北部に慶州郡廳・朝鮮總督府博物館慶州分館等あり、分館の内には新羅時代の遺物を一堂に蒐め、銅鐘・純金の寶冠等新羅文化を表象して燦たり。慶州驛は邑の南門にあり。慶州に於ける新羅遺蹟は現慶州邑を中心とし方二〇粁内外に亘り、歷朝王陵は盆地の周緣に非布羅列す。殊に太宗武烈王の陵は有名なり。其他、半月城・四天王址・鮑石亭等あり。また新羅文化を語る天文觀測の瞻星臺は市街の東南一粁にある等、所挾きまでに平野丘陵山上に散點し、宛ら一大歷史繪卷を繰擴げたる觀あり。

「總督府博物館慶州分館」西北部、郡廳の傳にあり。溫古閣本館・同別館・新館・館園等の諸建物に分たる。本館はもと慶州府尹の官舍たりし建物。館内陳列品の重なるものは、石器時代より高麗時代に亘る土器・陶器・瓦塼類並に小佛像・銅印・古錢・古墳出土物・石佛・石獸・石塔・石函・陵護石・日時計・石碑・踏種の玉石物・政璃製飾玉・石彫製物・古鐘・玉笛等、その他皇龍寺・芬篤寺・四天王寺・半月城の遺跡等より出土せる古美術品なり。殊に鐘閣内の梵鐘は新羅聖德王神鐘と稱し、また奉德寺鐘ともいひ、久しく鳳凰臺下の鐘閣にありしが、大正四年十月館内に移す。銘文に據れば、新羅第三十五世景德王その父聖德王の爲に銅十二萬斤を投じて大鐘を鑄造せんとせしも果さずして登遐し、その子惠恭王遺命に依りその七年十一月鑄造すと。口徑二・二七米、口周七・一米、厚さ二四・二糎、卽ち朝鮮第一の巨鐘なり。鐘の形狀頗る優美にして、口邊八稜形をなし、上緣下緣には寶相花花文を陽刻し、四面に天人を配し、極めて豐美、羅代に於ける美術の精華を發揮す。大正十年秋、慶州邑の入口、鳳凰臺の西方の金冠塚より發見され、世界を驚嘆せしめし純金王冠も同館新館に安置し、尙これと同時に發掘せし黃金の鈴帶・同歷佩一揃・同耳飾・指環・黃金の魂等・純金の重量のみにて約三貫目に近き寶器、其の他金裝の刀劍、無數の珠玉・漆器・玻璃器・玉龜の羽のちりばめたる透彫の馬具等、燦然たる金色は觀る者をして全く驚嘆せしめ、共に蒼然たる新羅古都の風物をして更に感慨深からしむ。

「雁鴨池」月城の東北半粁餘にあり。第三十世文武王が半島統一記念として十四年二月（天武天皇二年西紀六七四年）に造りしものと傳へらる。現今は貯水池となりて遺され廢墟を埋むと雖、尙御苑の面影を存し、文武王時代の宮殿の位置を確定するに必要なる遺蹟地なり。池中に一島あり、石橋を架したる橋基を存し、其昔樓臺石宇相映ぜし當時を髣髴せしむ。その西に臨海殿基址あり。大なる礎石の田圃中に散在せるを以て、其の境域を知り得べし。

「金庾信墓」邑の西郊、西川の左岸、松花山の中腹にありて南面す。金庾信は新羅の名族に生れ、少時より高勾麗・百濟の二國が常に新羅を壓迫するを憤慨しゐたりしが、長じて忠誠・智略すぐれ、よく兵を用ひ、三十二歲の時高勾麗と戰ひ勝ち、新羅の眞德女王の末年に將軍となりて百濟を破り、女王の死後繼嗣なきより眞智王の孫金春秋を擁立す。これ英邁なる太宗武烈王にて、庾信と君臣水魚の交あり、羅定方が唐の大軍を率ゐ來たり百濟を擊つや、彼は唐軍と兵を合せ武烈王の子文武王の時に百濟を滅ぼし、唐の文物制度を輸入し文化を進め國本を培養し、その女を王の妃となす。のち屢々相將となり、人を遣はして唐軍と謀を通じ高勾麗を滅ぼすに力あり。武烈・文武二王の時は新羅の全盛時代にて、これを現出せるは主として彼の力によれり。唐朝にても大いに彼を重んぜしが、七十九歲にて歿せり。この墓の構造は二十四箇の護石を繞らし二十四本の石柱を立てて之を支へ、一枚の間隔を置きて十二神像を陽刻す、技巧また精妙なり。

「掛陵」佛國寺驛の南四粁、新羅時代代表的陵墓の一。圓墳にて封土の基邊に護石を繞らし封上には芝草を植う。護石の東石には各方位に從ひ十二支神像を陽刻し、その手法の優麗なること金庾信墓と並稱せらる。周圍には石欄を繞らせしが今は大半毀たれ、僅かに立石のみ殘す。陵前の參道數十歩の左右に石獸二對・石人二對・石柱一對が對立す。これらの石彫物は支那漢代以降唐代の陵墓に見る謂はゆる石人石獸の制を襲へるもの、十二支神像と共に唐初藝術の特質を發揮す。墳陵の被葬者は新羅第三十世文武王ならんとの說あるも、確かならず。掛陵といふ名稱につきては「東京雜記」に「葬二於水中一掛二柩於石上一、因築二土爲一陵、故名焉、云々」と所傳す。

「元陵」慶州驛の南方、南川の左岸松林中にあり。一に蛇陵。陵内約十町歩、松樹蒼蒼、大小五箇の陵墓あり。南端にありて規模や大なるを新羅の始祖王赫居世及同王や妃閼英夫人の二陵とし、他は第二世南解王・第三世儒理王、第四世脫王

を稗りし所なりといふ。附近に崇德殿あり。始祖赫居世を祀る祭殿にして、朝鮮英祖三十五年にたてたる碑あり、現在の祭殿は約百三十年前の再建なり。殿の後方、五陵の東南方に閼英井の址あり、始祖王妃發祥の所と傳ふ。

〔西岳書院〕　武烈王陵の北隣。新羅の名臣、金庾信、同中期の學者薛聰及び末期の學者崔致遠を祀る。附近には眞興・眞智・文聖・憲安の諸王陵等あり。

〔聖德王陵〕　佛國寺驛より西一粁を距つる松樹參差、清爽肌に心地よき森林中にあり。陵前に神將の裝をなせる十二支護石を有し、周圍に瑞獸を廻らし、四隅に二對の石獅と文人石一對を安置す。

〔武烈王陵〕　西岳驛の西南約三〇〇米、道路の傍にあり。陵は今より約千二百五十年前の築造に係り、圓形にて周約一〇三米、高さ約一二米の斷面稍んど半圓狀をなせり。陵前約七十歩の北側に其の碑あり。いま碑身を失して龜趺及び螭を存せるのみ。龜趺の長約三・五米、甲幅約二・五米にて、頭・足・甲それぞれに精巧なる彫刻あり。螭首は高さ約一米餘、幅約〇・三米にて六龍相背きて蟠結し、後足を擧げて寶珠を捧ぐるの狀を爲し、その前面中央に太宗武烈大王之碑と二行に陽刻せられたり。文樣等また玲瓏たる我李朝の樣式に符合し、華麗雅趣を極む。蓋し庾代技術の精華を發揮すべき絕好の資料たるべし。武烈王は新羅第二十九代の王。諱は春秋、眞智王の孫にして善德・眞德二女王の後を嗣ぎて立つ。その子文武王と共に新羅の半島統一の宿志を成就せし英王なりき。王は風采端正、眞德女王の元年（六四七）日本の使節を迎ち、日本に質となりて一年間滯在す。而して翌年唐に入朝し太宗の厚遇を受け、百濟討伐のことを奏す。この頃高句麗は唐の征討を受け居りしに拘らず、武烈王の親唐策は成功なりき。ついで眞德女王三年より唐の衣冠を用ひることゝし、唐の年號を用ひしが、眞德女王死し後嗣なかりし時、功臣金庾信を始め國人に推されて即位す。（六五四）當時百濟は武王及びその子義慈王、遊冥に耽る、新羅この機に乘じて討滅せんとして唐に出師を請ひしが、武烈王七年に高宗、百濟討伐の軍を出すことゝして蘇定方を大總管とし、武烈王の子金仁問を副總管として伐たしむ。一方太子法敏（文武王）と金庾信の率ゐし兵、これに策應す。百濟はこれに對し抵戰せしが利あらず、その都城、泗沘城は唐羅の聯合軍に圍まれ、遂に義慈王降り、百濟滅亡す（六六〇）。此後、武烈王、太子と共に百濟諸城の降らぬものを平げ慶州に凱旋す。而してその翌年歿し、太子法敏（文武王）之を嗣ぎて立つ。

〔鷄林〕　一に始林と稱す。半月城址の西にあり。上代よりの神聖林にて、樓・幕等の古木參差として一望寂寥たり。第四世脫解王の九年八月、一夜林間に鷄鳴を聽く。時の大輔瓠公往きて之を檢せしに、金色の小櫃、樹枝に掛りて、白鷄その下に鳴き、異常の事あるを告ぐるものゝ如し。瓠公還りて之を王に告ぐ。王は人をして櫃を下ろし之を開かしむれば、一男兒その裡にあり。王喜びて曰く、これ天我に令嗣を授けしなりと。因て名を金閼智と命じ、子として撫育す。のち金閼智七世の孫味鄒、新羅第十三世の王位を繼げり。森の中央に神閣あり、金閼智降誕の由來を詳記す。鷄林の名玆に始まり、のち國號となすに至れりといふ。「脫解王と瓠公」　脫解王は新羅中興の英主なり。我が筑紫多婆婆（肥後玉名郡）の人と傳ふ。初め金官國（任那伽耶）に就し、のち阿珍浦（今慶州にあり）に至り、南解王の女婿となり、大輔に任ぜられて國政を扶翼せしが、南解王薨じて後、其子、儒理王を輔けて功あり、遂に其の後を承けて王位に即く。姓は昔氏なり。倭人瓠公を拜して大輔に任じ、國號を更めて鷄林と稱す。時に百濟の來攻屢々なりしも克く之を防ぎ、國威漸く盛なりき。

〔遠源寺址〕　毛火驛の東約四粁、毛火川上流にあり。新羅統一時代の名僧金庾信が時の重臣等と共に外敵調伏國家鎭護のために發願創立すと稱す。三方に山を負ひ、南に溪谷を控へたる掌大の地に亘長なる石壇を築き、石橋を架し、金堂址・講堂址を南北に止め、金堂前方に石燈、その左右に石塔を存す。普後の山中に存圓四箇あり。伽藍形式は佛國寺に類似し石燈・石塔等悉く優秀、注目すべき新羅建築の一たり。石塔には東西兩塔とも第一塔身に高さ一米餘の四天王像を、またその上成基壇には高さ約〇・九米の十二支方位神像を雄健なる手法にて高肉に彫刻し塔彫刻として類少し。

〔金冠塚〕　新羅時代の古墳。大正十年純金製の寶冠・腰佩・金銅製馬具・刀劍等の遺物發見せられ、今それ等は慶州博物館に陳列せらる。

〔掛佛〕　小金剛山麓なる柏栗寺の坂下にあり。世に四面石佛と稱せらるるものはこれにて、往時は此處に掛佛寺の堂宇ありしも、今は廢滅して僅かに二體の石佛を遺すのみ。本尊は藥師如來の如く、一大自然石より作り出され、衣文、褶襞の線條殊に遒勁なり。其の一側に立てる一體は脇侍菩薩の像なるが如く、胸飾を着け袈裟を纏へり。彫刻の手法孰れも我が寧樂朝のものに近く頗る優秀なり。

〔石窟庵〕　吐含山の東にある朝鮮唯一の石窟佛龕。新羅景德王の時、佛國寺を創建せし宰相、金大城これを築造す。石窟中央の石蓮座上の釋迦如來の坐像（高さ二・七三米）とその後面中央の十一面觀音の立像浮彫とは、東亞の石彫佛教造像中の白眉と稱せらるる傑作にて、實に崇高、優麗なる作なり。觀音の左右には、十羅漢を同じく浮彫にて表はし、その左右には天部四龕を浮彫す。前室には入口の左右に仁王像を高肉にて現はし、左右に八部神將の立像を半肉彫にて現はし、更に入口の左右側壁に四天王像を左右各二龕づつ配す。いづれも硬剛なる花崗石を使用し、自由なる表現を遺す。彫刻ある壁石の上部に長押石を置き、更に石材を累積し、穹窿を構成し、その中心に大なる蓮華を彫刻し、その下の本尊の天蓋を成す。簡單なる構造の奇にして妙なる、その彫刻の靈妙なると相俟ち無比の傑作と稱すべし。此の石窟庵近年荒廢甚しく危險に瀕せしが大正四年總督府より費用を補助し修理をなせり。その際石造仁王の頭部・腕・手・小寶塔及び諸種の巴瓦・唐草瓦・平瓦・塼並に當時使用せし鐵製釘・釘・衽の屬を發見す、いま慶州博物館内に陳列す。

〔瞻星臺〕　月城の北、道路の傍にあり。第二十七世善德女王時代の築造に係る天文臺にして、二重地形石の上に立ち、圓筒狀の一大石廓を爲す。高さ九米、下方圓形五米、全部花崗岩を以て巧に積み上げ、上方次第に縮少す。南面中央部に四角の窓口あり、之より内部に出入し得べく、圓塔の頂上に石材の梁を載す。層梁千三百平の星霜を閲し、依然舊態を存し古色蒼然たり。蓋し東洋最古の天文臺なり。

〔鮑石亭〕　韻井の南約一粁。内南面の北部、南山城址の西麓にあり。新羅の盛時、王寛遊の遺跡にして、流觴曲水の遺風を示せる鮑石なるもの今尚ほ殘存す。五十五世景哀王詩賞に起と共に宴飲し、敵の至るを知らず、遂に覆滅に亡ぼされ、（韻今凡そ九八〇年）、一代の悲哀を留めたる處なり。

〔羅井〕　五陵の東南半粁餘の一丘阜、松林寺の小高き丘にあり。茂の地節元年新羅始祖王赫居世、此丘に於て白馬に守られし大卵より生れしと傳へらるゝ所にて其由來を詳記せし碑あり。碑は今より百二十餘年前に立てしものにて新羅諸國の傳說を語る興味ある遺蹟たり。此附近また六部時代の閼川楊山村にて、その後方丘陵中に當時民族の占據せし舊跡あり、種種の石器を發見す。三國史記「高墟村長蘇伐公、望楊山麓、羅井、傍林間有馬嘶而嘶、則往視之馬忽不見馬、只有大卵、剖之兒出焉、則收而養之、及年餘歲岐嶷然成六部、人以其生神異推尊之至、是立爲君焉、辰人謂瓠爲朴、以初大如瓠、故以朴爲姓」

〔月城〕　鷄林の東南にあり。蚊川（南川）の北岸に臨み彎曲せる河流に沿うて半月形を爲し川を隔てて南山城に對す。半月城とも呼ばる。新羅婆娑王二十二年の築造に係り、爾後代々の王城たりし址あり。高き一〇米乃至二〇米許の土壁、丘陵の如く綿延して一帶の地域を圍繞し、裡に廣き平地を存す。これ當時の宮居の遺址なるべし。その多くは今や畑地となりたれど其の地盤は外部より觀る高く、斷礎、瓦片の處々に散見せらるること稀ならず。いま月城内にある慶信殿は司治三十九年の創建にて脫解王を祀る。

〔石氷庫〕　新羅時代、氷を藏せし所にて月城の土壁内に在り。花崗石を以て築造され、内徑、横約六米、奥行約十七米、高さ約五米、天井を巧妙なる穹窿形に築く。入口の楣石に「景德紀元後丙辛秋移基改築」と刻さる。即ち朝鮮英祖十七年の改築に係ると雖、その創始は新羅第廿二世智證王の時代に在りしが如く我朝氷室の濫觴とほぼ同期なるは興味深し。

〔南山城址〕　月城の南、蚊川を隔てたる南山（約二六〇米）にある廣大なる山城にして、今なほ石壁を存し、城壁の内外より往々古瓦また倉庫の址らしき僧所より燒米を發見す。この城は明活山城及び仙桃山城と共に、新羅都城の三方に聳立せしものにて、新羅時代に於ける重要なる山城をなせり。

〔皇龍寺〕　邑の東部にあり。一に黃龍寺に作る。新羅眞興王十四年二月、新宮を月城の東方に營むにあたり、黃龍の瑞あり、乃ち一寺を創して皇龍寺と號す。その工十三年にして成れりと。のち同三十五年、（敏達天皇三年）海南に一瓦舫來泊し黃鐵五萬七千斤、黃金三萬分並に釋迦三尊丈六像を印度より齎せるあり。之によりて新に丈六の三尊像を鑄成し當寺に納む。眞平王六年（敏達天皇十三年）金堂成る。同三十五年（推古天皇二十一年）秋、隋使來朝に際し、當寺に百座の道場を設け、諸高德を請じて經を說かしむ。圓光之が上首たり。のち慈藏・惠訓等の名德當寺に住せしが、善德女王十二年（皇極天皇二年）、慈藏唐より歸來するに及び、王に請ひて九層塔を建立す。高さ鐵盤以上四十二尺、以下百八十三尺。百濟工匠の手に成りしものなりと傳へ、隣國の侵入防禦の爲に興せしものにて、第一層は日本、第二層は唐、以下吳越・托羅・靺鞨・丹國・女狄・濊貊に偉へしものと云ひ、塔成りて後、久しからずして新羅統一の大業なりしは、この塔の靈威により しものなりとせり。孝昭王七年（文武天皇二年）當寺に火災ありしが、聖德王の時之を重修し、景德王のとき梵鐘一口を納む。孝眞伊王三毛夫人の施捨によりしものにて、高さ一丈三尺なりしと云ふ。第五十五世景哀王二年（延長三年）當寺に百座を設け禪教を通說し僧三百を飯す。王親しく行香して佛を致す。これ通說禪教の創めなり。その後、高麗時代に入りても尊崇弗らざりしが、高宗二十五年（嘉祐四年）四月、蒙古兵の兵燹に罹り堂宇概ね焚上し爾來、寺運頓に衰微す。いま瓦大なる礎石田圃中に存し纔かに往時の壯觀を偲ぶのみ。寺内大雄殿址の後方に迦葉佛寶坐石と傳ふるものあり。高さ五、六尺、周圍約三尉なり。附近に鴨鴨龍（新羅文武王十四年二月に築きし宮苑の址、今その殿堂の一たる臨海殿址あり）・月城址・瞻星臺・雞林等の古跡多し。

〔柏栗寺〕 小金剛山中の中腹にあり。新羅法興王二十五年の草創、新羅第三十一世神文王時代重創すといふ。今日は二三の建築あるのみ。現在博物館慶州分館に陳列する金剛藥師立像は高さ約二米、新羅統一時代の佛像中の雄作なり。

〔佛國寺〕 吐含山麓にあり。新羅十九代訥祇王の時、我道、高句麗より來り佛法を弘めんとし迫害に遭ひ、吐含山麓に茅菴を結びて住す。法興王十五年その菴址に伽藍を建立し佛國寺と名づく。更に景德王の時宰相金大城これを重修す。降りて李朝に及ぶや寺門倉よ榮え、殿宇の壯、雲礎の義、東國寺院中比肩するものなしと稱され、住僧數百を擁せり。然るに文祿の兵火に罹り堂宇燒失、李朝孝宗王十年及び英宗王四十七年に共に重修きる。現存の主なる堂宇は大雄殿・極樂殿・泛影樓・紫雲門・安養門等にて寺の正面に有名な青雲橋・白雲橋あり、また境内に七寶橋・蓮華橋・多寶塔・釋迦塔・舍利石塔等あり。堂宇の配置はほぼ當時の佛を止め、散多き石造遺構の悉くは唐風を受けし新羅文化の絶頂にあり、我が天平文化と時代及び性質を等しくする當時の最も代表的なるものなり。大雄殿（本堂、五間四面、單層屋根入母屋造り、内部格天井）・紫雲門は近世の再建なるもそれぞれ昔時の金堂・中門に當り、講堂・行廊の礎石をも止め、前方の石壇・青雲橋・白雲橋・蓮華橋・七寶橋等は奇麗巧構驚くべし。大雄殿前東なる多寶塔は全部緻なる花崗石より成り、方約四米、高約二・五米の基壇の上に立てる四層塔にして、地盤より頂上までの全高約十米。基壇の四面に各十級の階段あり。初層の塔身・屋蓋ともその平面は方形なるも、第二層以上は皆八角形にして、各層の側面像鐫には勾欄、又は蓮華狀の小塔を繞らし、且つその塔身・屋蓋の構造等それぞれ特異の意匠を以てせられ、その手法はわが寧樂・藤原期に似通へるものあり。これを仰ぐにその塔婆頗る秀麗にして奇拔變幻の紗を綾め最も著名なり。なほこの塔は有影塔とも稱し、これを造れる工人及びその妻に絡る悲話を有す。塔の基壇の四隅に石獅を安置す、その姿勢珍奇にして、頭少しく仰ぎ、高く胸を張れるの狀、龍る我が東大寺南大門の石獅（宋人作）に似たるところあり。西なる釋迦塔はまた無影塔とも稱し、新羅三重石塔を最もよく代表し、殿前の石燈石床と慈悲殿前の石燈石床等はこの種の俳作なり。また毘盧殿前の著名な浮屠は久しく失はれてありしが最近發見せらる。大雄殿中の銅造釋迦坐像と阿彌陀坐像は新羅佛像中の大作なり。

〔芬皇寺〕 新羅善德女王三年の創報と傳ふ。景德王の頃、寺勢最も隆盛、皇龍寺と相對して新羅の二大寺と稱せられ、三十萬六千七百斤の巨鐘銅像を造立す。寺内に善德女王時代建立といふ石塔あり。朝鮮に遺存せる最古建造物と稱せられ、もと九層なりしが、文祿役に破毀せられていま纔かに三層を遺すのみ。塔は小形の安山岩截石を積み建てしものにて、殆ど磚築の如く、初層は方二十一尺四寸五分、高さ八尺六寸、四面に入口を設け、其兩側に半肉雕金剛力士像を侍す。何れも雄麗にして、隋唐式手法を寫ふに足る。塔内空虛にして方五尺、四隅に石造獅子を置けり。初め六箇ありしも先年内二箇を博物館内に移し今は四個を存す。大正四年總督府に於て費を給し修繕を爲す。其の際石函を發見し函内より玉類・金具・鉄・針筒・鈴・古錢等數十點を出だせり。現に總督府京城博物館に藏し、石函は慶州分館にあり。また當時左殿の北壁に千手觀音畫像あり、百兒これに前りて開明せりとの故事を傳へ、土民の尊崇他に異る。なほ境内に元曉の碑と稱せらるるものの基石あり。

【慶州平野】 朝鮮慶尙南道の東南部に展開する平野にして、慶州郡の略中央に位し兄山江流域を包括す。平野は周縁緩らすに山地を以て劃するもその分水嶺は極めて低く何れも一〇〇米内外に過ぎず。平野は慶州邑を中心として西方は兄山江の支流西川の流域に展び、南は同南川の流域に、東は支流北川の谷に、而して東南には蔚山に通ずる地溝谷に展開し、宛ら其形狀を形成し、之等諸流を中央に集めて兄山江に北流し、兩岸に倉を展き平野を形成し遂に安居平野に連なる。平野は往昔千年の新羅文化の發祥せし地にして地味肥え、瀧料の便に富む沃土なり。古都慶州邑を始め多數の聚落、平野に分布し人口稠密なり。農産の豐かなる事全道第一位にして米・麥・豆類の產多く、工產品には紙・綿布・麻布・蔗糖等あり、殊に製紙は品質優良にして產額多く、慶州邑にては窯業も行はる。鐵道は平野の中心慶州邑を核として、東海中部線は、西川の谷により西方大邱、兄山江に沿ひ北方鶴山に通じ、阿火・乾川・光明・西岳・金文・士方等の諸驛あり。また東海南部線は慶州邑より蔚山・釜山に通じ、平野内に於て入室・佛國寺等の諸驛あり。道路また一、二等道路各支谷を經て西方大邱府、北方浦項邑、その他、諸地方に通じ交通頗る便なり。

ケーショー　慶尙

【慶尙道】 朝鮮の古地名。もと朝鮮八道の一。朝鮮半島の東南部に位し、一に嶺南と稱す。北は江原道に、西は忠清・全羅の兩道（この二道はいま夫々南北に分つ）に接し、東南は日本海に面し、洛東江その中央を流れ、地味從つて豐饒なり。本地方は古く辰（また辰）の地にして、のち分れて南部は弁韓となり、北部は今の慶尙南道洛東江以東の地と共に辰韓となり、北方は濊（いま江原道南部）に、西方は馬韓に接す。三韓の興るに及び、新羅は洛東江右岸地方及び沿海にありし駕洛國を滅して辰・弁二韓を併せ、その所に建たるや三國を統一し、慶尙道に倚・良・康三州を置く。新羅は建國後九九二年を經て高麗に滅され、三州の地は併せて東南道となり、のち屢々變改ありて嶺南道・嶺東道の二となり、次で慶尙晋州道・慶尙晋陝道の二等となりしが、忠肅王の元年に慶尙道となし、李朝に至る。中宗十四年、洛東江を境して江東を左道、江西を右道となし監司を置き、のち屢々二道分合せり。李太王建陽元年（明治二十九年）の改革に際し、改めて南北兩道に分ち、南は晋州、北は大邱に觀察府を置き今に至る。

【慶尙北道】 朝鮮十三道の一。朝鮮半島の東南部にあり、緯度は鎭井・富山の諸縣に當る。東は日本海に面し、北は江原道、北西は忠清北道及び全羅北道に、南は慶尙南道に隣接す。面積一八九八六平方粁、岩手・奈良兩縣を加へたる面積とほぼ匹敵し。行政上大邱府及び達城・軍威・義城・安東・青松・英陽・盈德・迎日・慶州・永川・慶山・清道・高靈・星州・漆谷・金泉・善山・尙州・聞慶・醴泉・榮州・奉化の一府二十二郡と鬱陵島とに分ち、道廳を大邱府に置く。（地勢・氣候）北境には半島の脊梁山脈たる大白山脈、江原道より南下して脈中の最高峯大白山（一五四九米）及び綿山・通高山・白雲山等あり。西北境は大白山脈より分岐ずる小白山脈、急傾斜の一大障壁をつくりて氣候を左し、脈中の金峯小白山を始めとし、その東には鄙望峯（一四二一米）、その間に竹嶺、更に西方には鳥嶺・鳥嶺山・秋風嶺等あり、その西南には蛇周之山、慶尙南道昇には修道山（一三一七米）・伽倻山（一四三〇米）、南境には高嶺山（一〇三三米）・雲門山（一二〇〇米）・甚慶山（一〇八四米）等あり。即ち道内は二大山脈によりて洛東江流域地方と東部海岸地方とに分けらる。洛東江は剛山脈の間に夥多の支流を集め紆余曲折して上流に於て善山盆地をつくり、更にその南に於て東方より來る琴湖江と會する大邱を中心とするところに一大盆地を形成して慶尙南道に入り、釜山の西方にて海に注ぐ。東部海岸地方には河流の長大なるものなく、たゞ東南隅の迎日灣に注ぐ兄山江はやゝ顯著の河流とす。海岸地帶にありては内陸に比し雨量多く較降も少く、氣候温和なれど、洛東江流域の諸盆地は殊に上流、善山・金泉・醴泉・榮州と上流に行くに從ひ較寒大にて大陸的となり、降水量また少し。（產業）いま鮮戶數四四九〇六五中、農業及び牧畜業三四八八七戶（七八%）、漁業及び製鹽業四七五四戶、工業九六一戶、商業及び交通業三四九二六戶、公務及び自由業一六八〇六戶、その他三四〇七七戶（昭和九年末）にして、中農業地方なり。耕地面積は水田一九五〇二六ヘクタール、畑一八四八〇五ヘクタールにして、水田と畑とは相半し、農產物の多きこと半島第一なり。主なるものは米二三三二五一九石（昭和八年）、尙州米は品質ともに第一にて義城・慶州・金泉の諸郡これに次ぐ。麥は一九四一一四五石（昭和八年）にて、大麥を主とし各郡に亙つて栽培さるるも、殊に達城・慶州の諸郡最も盛なり。その他、大豆・小豆・粟等を出す。特用作物にありては近年棉の產著しく作付反別二二〇四二ヘクタール、收穫高一四六八一六四六斤に達し、大麻・楮・蒲草の產また少からず。果實の優良なるものは苹果にして、大邱林檎の名最も著はれ、大邱府の東郊四軒の東村附近一帶はその中心をなし、多く内地人によつて栽培せられ、產高七五七五八八貫、外に葡萄・梨等を產出し、特に葡萄は近年栽培盛にして、年產四〇萬貫に達す。養蠶も全道に亙り盛に行はれ蠶の產額は全鮮の首位にあり。（昭和九年四四四八〇五八延）畜產の主なるものは牛にして、養豚・養雞また全道に盛なり。林野面積は一三六七八二九陌にして本道總面積の七二・一%に當り、うち成林地は全林野の約三分の一に過ぎず、其他の地積は雜樹地及び無立木地たり、過去に於て林政及ばず、林野荒廢に歸したるきまを惜すべく、なほ代材の時代に入らざるも、近年砂防・植林事業の進捗に伴ひ著しく改善せられ、現在立木地は全林野面積中八七%弱に達せり。鑛業は鑛區總計二六六區に亙り、金銀銅その半を占め、金五四〇〇四五瓦、砂金三四九三一瓦、黑鉛九二一六瓦を主なるものとし、殊に尙州の金は名高く、外に硅砂酸・水鉛鑛・タングステン・石炭等を產す。煤礦二流ありて四季魚族の群集を見、殊に鯖・鮪・太刀魚・鰯・鰊・鱈及び鬱陵島近海の柔魚はいづれも本道の重要產物にして、慶州・迎日・盈德及び鬱陵の沿岸漁民朝鮮人一〇五八三人、内地人三九一人によりて年產約五百四十萬圓の漁獲あり、而して水產製造物は魚肥・油脂類等を含し年產額約二百五十萬圓に達す。工產額は一九五四六千圓にして、織物は頭角を顯はし三五六六千圓。古來織物は盛に行はれ、かの安東布として有名なる麻布は本道の特產たり。また近年尙州に於て內地式甲斐絹・紬等の絹織物を產す。なほ鹿ノ子較の新興產業あり、從業人員二六五〇〇人に達し、着尺物・帶揭その他の加工濟移出絹布の年產八二萬圓を超ゆ。その他、輦綱工製品・紙及び紙製品等あり。（交通・都邑）主要邑間は殆ど車馬を通じ、鐵道は大邱を中心として道の西南部を京釜線走り、南端浦項驛より西北鵲直指寺まで一三八・二粁の間に一五の停車場を有し、大邱よりは更に東、迎日灣岸の鶴山に東海中部線一〇五粁、途中慶州よりは更に南方釜山に東海南部線を分ち、京釜本線金泉驛よりは北方に向つて、私鐵慶北線一一八・

一軒あり、これ等の各主要驛よりは乘合自動車の便あり。水運には洛東江本流及び慶州方面に於ける兄山江等は舟運の便あり、海運には浦項・九龍浦等に港岸航路船寄港す。都邑には大邱府を始め、東部には新羅の古都慶州邑あり、金泉邑は物資集散地として長足の發展を遂げ、安東・尙州の諸邑また古くより名邑として聞ゆ。人口昭和九年末二三七〇六一七(うち內地人四八五七四、滿洲國人及び支那人一二六一、其他の外國人七九)。內地よりの移住者は山口の四六〇二人を筆頭として福岡の四三五一人、熊本の二八〇三人、廣島の二五五七人を始め內地全域に亙る。近接諸縣に多きはその位置關係によること勿論なり。〔沿革〕舊史に依れば本道地方は古の韓(また辰)の地にて、後分れて南は弁韓(また弁辰)となり、北卽ち本道の大部は今の慶尙南道洛東江以東の地方と共に辰韓となれり。當時此の地方は北方濊(今の江原道南部)に接し、西方馬韓(今の忠淸・全羅地方)に接せり。新羅、百濟・高句麗と共に興るに及び、新羅の洛東江右岸地方及び洛海に占據せる伽倻諸國を滅して辰・弁二地を併せしが、其の漸く盛にして三國を統一するや、今の慶尙兩道地方は尙・良・康の三州を置くに至り、本道地方は卽ち尙州及び良州(今の梁山)の統轄に屬せり。新羅の滅後、高麗三州卽ち兩道の地を併せて東南道となし、のち屢々改め發州・晉東の二道、慶尙晉州・慶尙晉陝の二道となせしが、忠肅王の元年慶尙道となし、李朝に入りてもまた之れに依れり。而して中宗の十四年、洛東江を境して左右兩道に分ち、監司を置き、のち屢々二道分合を爲せり。現今に於ける本道の區域は、當時の左道の大部分と洛東江流域に沿ふ右道の一部とを包有す。大皇帝卽ち李太王の三十二年地方官制を改定し、道を廢し府を置くや、本道地方は大邱府・安東府及び其の一部卽ち東萊府地方は東萊府の所管たりしが、翌年府を廢し十三道を置くに至り慶尙北道と稱し、觀察使を大邱に置き四十一郡を管せり。併合後大正三年府郡廢合を行ひ、更に一府二十二郡一島と爲し以て今日に至る。

【慶尙南道】 朝鮮十三道の一。朝鮮半島の東南隅を抱する重要なる位置を占め、內地と一連帶水を隔て、釜山・下關間は僅に八時間航程の近距離にあり。東及び南は海に臨し、北は慶尙北道に、西は全羅南北二道に隣接す。緯度上內地の大阪・京都の二府とほぼ等しき位置に當る。面積一二三〇五平方粁、新潟縣とほゞ相等し。海岸の延長は島嶼を除きて九〇八・五粁、殊に南岸は沈降によるリヤス式海岸をなし、灣入島嶼に富み、島嶼の數四〇三の多きに達す。〔地勢及び氣候〕本道は慶尙北道と共に小白山脈の弧狀壁を以て劃され、半島東南隅に自然の一地理區を構成し、大部分洛東江の流域地域にして、慶尙北道とは洛東江沿岸低地によつて連なり、東北部は大白山脈の餘脈域內に及んで、概して低山性の山地をなし、雲門寺山地最も顯著にして高嶺山(八一〇三三米)・聚岳山(九三二米)等あり、西境山地は小白山脈の餘居するところにして慶尙北道との境には伽倻山(一四三〇米)・鷲道山(一三一七米)等あり。全羅北道との境には德裕山最も顯はれ、全羅南道との境には老姑壇等あり。なほこれ等の餘脈は城內に展びて智異山(一九一五米)・黃梅山等の峻峯をなし、西部は山岳重疊、概して峻峻なり。地質は道の西部は片麻岩、中央部は下部及び上部慶尙層にて東部及び南部には玢岩多く、花崗岩は各地に散在し其の面積尠からず。道の中央を貫流する洛東江本支流の沿岸一帶は第四紀層に屬し豐澤なる平野多く、各種の農產物を產出す。しかして平野は東部にては蔚山灣頭に、中央部には西北より東南の方向に橫はる帶狀の一大平原あり。半島第二の大河洛東江は慶尙北道より來りて道の中央部を南下し、黃江を容れ、西より來る南江と合し流路を東に轉じ、北より來る密陽江を合し再び南に轉じ、釜山の西方にて海に注ぐ。本道は半島中最も溫暖にて降水量最も多き地方の一なり。殊に南海岸地方は暖流の影響によりて氣溫高く、夏季雨多く、冬季は雪を見ること稀なり、卽ち釜山に於ける平均氣溫一月二・二度、八月二五・五度、年平均一三・五度にて、東京の一月三・〇度に比し稍々低きも他は略々等し。降水量は一四五二・四粍にして東京と略々等しく七、八、九の三箇月の雨量は全年の半を占め冬季は寡して少なし。〔產業〕總戶數三九八五〇一の中、農業二八五七二二戶(七二・〇%)、漁業及び製鹽業一〇九四三戶(三・〇%)、水產業者は全羅南道に次ぎ全鳥第二にて、殊に內地人の漁業に從事するもの五七八七人、全鮮の內地水產業者の二分の一に及び全鮮第一位なり。工業・商業及び交通業は京畿道につぎ第二位、殘りは公務及び自由業、その他なり。耕地面積は水田一七九〇四〇町歩、畑九六七三九町歩、合計二七五七七九町歩にして水田は全耕地の六二・〇%に當る。農產物は年產六九四六萬圓にて、主要產物は米・麥・大豆にして、米の收穫高二三七〇五六七石、晉州郡を最とし、洛東江流域の沿岸金海・昌原・密陽・陝川の諸郡並に蔚山地方を主產地とす。麥は二一〇八五四一石にして、全鮮各道中高位にあり。大麥最も多く一七八〇九一三石にて小麥・裸麥は少し。特用作物及び蔬菜中の主なるものは棉を最とし、棉作面積二七五八六七町歩、實棉收穫高は三四七二九八一六斤、晉州・昌寧・泗川の各郡特に盛にて、棉花共同販賣數量は一八二七萬斤、金額三一三萬圓に上る。なほ大麻(九二萬貫)・楮(二八萬貫)等多く、蔬菜は蘿蔔・甘藷・白菜・甜瓜・西瓜・苽於等の順に多し。製實は製の產最も多く、水產の首位を占め、年產六八・六萬貫を算し、金海・蔚山・晉州の各郡を主產地とす。その他、柿・桃・葡萄・梨を產す。本道の海岸線は本陸及び島嶼を合せて、延長實に二三〇〇粁に達する關係上、水產業極めて盛にして、全鮮の首位にあり、水產業者は漁撈・養殖・製造を合せ專業一六一二九人、兼業一四四一七人、被雇者八三八九人の數字を示し、鮮內道府郡に最も多く、漁船の總數一一一九四隻、而して漁獲高總計一三〇七萬圓に達し、鰮・鯖・鮮・鱈・蟹・太刀魚・鰹等をその主なるものとす。製鹽は再製鹽の年產五〇萬圓に近く、水產製造物は煮乾・乾魚等の食用品五〇六萬圓、肥料其他の非食用品五九五萬圓に上る。工業による生產高は二一七一萬圓にして、工產品の主要なるものは、織物(主として綿布・麻布、二七三萬圓)・紙(九五萬圓)・酒類(四〇四萬圓)、その他窯業製品・金屬製品・木製品等あり。〔交通及び都邑〕本道の交通は內鮮聯絡上また朝鮮半島の關門として重要なる位置を占め、下關・釜山間の連絡船は僅に八時間にして兩地を結び、その他內地航路に釜山・長崎間、釜山・博多間等あり。又、釜山を中心として東岸蔚山に、西方は鎭海・馬山・統營・三千浦等の諸港(の沿岸航路あり、大阪・仁川間及び大阪・濟津間の中間寄港地なり、又釜山・濟州島間、釜山・鬱陵島間、釜山・元山間、釜山・木浦間、釜山・羅水間等の諸航路網の中心をなす。陸路は總督府鐵道京釜線東部を南北に縱走して域內に十一個の停車場を有し、三浪津驛(明治三十八年設置)よりは更に西に向ひて慶全南部線を岐ちて、晉州に達し、この線には二十停車場あり、途中昌原驛より鎭海に至る鎭海線を分ち、交通頗る便利なり。又東岸には北、慶州より東海南部線を敷設して蔚山邑を經て釜山棧橋驛に到る。また釜山府內より東萊溫泉へは電車の便あり。道路の改修も亦よく行はれ、自動車の便もよく交通頗る便利なり。都邑の主なるものは釜山府を始め、溫泉郡としての東萊・海雲臺、東岸唯一の陸上物資集散地及び定期空輸飛行の着陸場としての蔚山、軍港としての鎭海、商港としての馬山、天然の良港統營、南江流域平野の晉州等にして、此等はまた文緣・慶長の古戰場としても知らるるものあり。〔沿革〕慶尙南道の地は、三韓時代にありては辰韓・弁韓の地にして三國時代に當りては新羅の地たりき。三韓當時の事蹟は省とし知り難きも、辰韓の地は本道東北部にして、弁韓の地は南部より全羅道の南端に亙りしが、新羅の國運未だ振はざりし時、弁韓の故地に駕洛國興り、駕洛國又は金官國に稱したりき。都城は今の金海邑の地にして歷世此地に占居したり。國勢盛なるときに於ては、其の四境、北東伽倻山に至りて東、洛東江を限り、北西は全羅南道界の智異山に至り西、蟾江を限り南は大海に及び、その領土は略んど本道の大半に亙りしが、建國以來三百十三年を經て仇衡王の時、遂に新羅に併せらるるに至り、全道の地悉く新羅の領有する所と爲れり。新羅は久しく此地を領せしも建國後九百九十三年を經て、遂に高麗に滅され、高麗全國を統一するに及び東南道都部署使を今の慶州邑に置き本道を統轄せしめ、李朝成宗十四年境土を分ちて十道を置くに至り、本道の地は卽ち嶺東・嶺南・山南の三道に分割せられ、のち一道と爲し慶尙晉州道と稱し、又分ちて慶尙道・晉陝州道の二道とし、再び之を合して尙晉安東道と爲し、更に之を慶尙晉安道に改む。高宗四十六年蒙古入寇の時、今の盈德・靑松以北、平海に至る一帶の地を溟州道に移ししが、後復舊し忠肅王の元年に至り慶尙道と稱し、建陽の改革に於て南北二道に分ちて今に至れり。本道は行政上、釜山府・馬山府及び晉州・宜寧・咸安・昌寧・密陽・梁山・蔚山・東萊・金海・昌原・統營・固城・泗川・南海・河東・山淸・咸陽・居昌・陝川の十九郡に分ち、道廳を釜山府中島町に置く。

ケージョー　京城府

朝鮮の主都。京畿道にあり、半島のほゞ中央に位し、北緯三七度三三分、東經一二六度五九分に當る。半島をほゞ南北に中斷して西流する漢江の中流北岸にありて、全半島の稱勝をたし、政治・經濟・交通・文化の中心をなす。北は高陽郡恩平面・崇仁面に相接し、東は漢江の一支中浪川(漢川)を境として、楊州郡九里面・高陽郡蠶島面に面し、南部には朝鮮五大河の一漢江環流し、南東、江を距てて廣州郡彥州面・始興郡新東面に相對し、西南は始興郡東面に、西南は金浦郡陽東面に隣り、西北は弘濟院川によりて高陽郡恩平面に接す。東西一六・八粁、南北一二・六粁、周圍六二・八粁に達し、面積一三三・九方粁の地を占む。〔地勢〕養京城は四面山を以て圍まれたる盆地にして、京都盆地に似、西南の一方、南大門の分水界(三六・六米)によつて龍山に開けて廣闊なる漢江の平野に通じ、盆地床は南大門の分水界を境として東方に漸次低夷して、淸溪川東流す。北方山地は、北西の仁王山(三三八・二米)より、北方の北岳山(白岳、また三角山、三四二・四米)に連り、餘脈は更に東に延びて駱駝山に達す。この屏風を引廻せし如き一連の山地は花崗岩よりなり、突兀たる山貌をなして盆地に臨む。府の中央、盆地の南方には南山(木覓山、二六五米)及び、その東に鷹峯(一七五米)あり、更に東北に延びて舞鶴峰(九三・二米)に達す、この山地は片麻岩系にして、全山多くは老松鬱茂して盆地に臨む。更に白岳の後方には北漢山(八三六米)の背貫峰及び文殊峯を始めとし、花崗岩より成る七〇〇米以上

の尖峰、蒼々として聳立す。南方の山地背後には、漢江を距てて南漢山（四九五米）・冠嶽山（八二九米）など高く聳巻き、自ら二重の天然壁によりて圍まれたる謂ゆる山河襟帯の地をなす。而して蓋都の初め城壁を繞き、その長さ縄幅一八粁に及び、城廓の四方に四大門を設け、更に四小門ありしが、現存するものは興仁門（東大門）・崇禮門（南大門）・彰義門（北門）にして、その他は道路改修の際、取毀されその形跡を止めず。盆地床のほぼ中央を東に流るる清溪川は東郊に於て、南流し来る安岩川・貞陵川等を合せ漢川に注ぎ、次で漢江本流に合し、その盆地床に於ける南北両側の地は比較的低平なるもなほ点々に丘陵を起伏せしめ、その他西部には鞍山（二九六米）を主峰とする丘陵櫛まり、南に延びて老姑山（一〇四米）・臥牛山等となり、漢江に向つて緩斜し、南境始興郡界にも、冠岳山の北につづく一〇〇乃至二〇〇米豪の丘陵起伏して漢江岸に傾斜し、漢江岸に汝矣島及び西氷庫西方の廣大なる河原を望む。舊京城市街の南北は直ちに白岳と南山との傾斜地にして、その東西に亜ぐる道路上には幾多の緩かなる坂を上下するものあり。その他市街は西南方平地及び京義街道に沿うて發達するもの、漢江北岸に沿うて散在するものを顕著とし、更に昭和十一年始興郡の一部邑永登浦町等と高陽郡の數面を併せ、都市として粉々複雑なる形相を呈するに至る。〔氣候〕海岸を隔る僅に三〇粁なるも、四周山地に圍繞されたる盆地なるため、寒暑の差甚しく、最高温平均七月三三—三四度に昇り、最低一月零下一八度、全年平均は一〇度にありて冬季に寒し。されど寒氣は一寒一暖各数日毎に交錯して謂はゆる三寒四温を呈し、夏は氣温の高き割に軟風ありて凌ぎ易し。秋は快晴つづきて健康季節たり。

〔産業〕工業及び商業を主體とす。農業に關するものとしては京畿道内に產する大豆・綿花・小麦・煙草、開城附近に產する紅蔘・紅尾蔘・白蔘等の集散を行ふ外に、それ等の加工業盛に行はれ、製粉・製藥・藥酒製造・煙草製造等により、小麦粉・煙草・葉煙草、紅蔘・紅尾蔘・白蔘の精製加工品として强壯劑・藥酒、胡麻油・花蓆等の產物あり。また製絲・織物の工場多く、絹布・綿布・布帛加工裁縫品を產す。林產方面にては薪炭材・漆液・染料を產し、また水產方面にては鹽再製及び乾貝類の製造行はる。皮革製造（六三萬圓）・ゴム製品（二九六萬圓）・朝鮮筆筒をはじめ各種の木製品・柏柳製品等の和洋家具類も主要なる產物たり。化學工業方面に於ては第一は釀造業にして、清酒・藥酒・醬油・味噌・清涼飲料水等あり、石鹸及び化粧品の產また多し。なほ美術工藝品として純金銀細工は見るべきものの一にして、建築用・電氣・瓦斯用器具として眞鍮製品・鐵工品の產も多し。金屬製品に於ては他に煙爐・ベーチカ・釜等を製造し、漆器の產また少からず。以上の外に陶磁器・箱子製品・セメント瓦・石器等も相當の額に上れり。而して府内の工場總數八八五、從業者二三七二六人にして、食料品工場を最とし、製材木及び製品業・印刷及び製本等・機械器具工業・金屬工業之に亜ぎ、諸工場の年產總額は八八〇〇萬圓を超ゆ。いま主要工產額を表示するに別表の如し。（昭和十年）

精米	一二、五二〇、九八四	西
印刷	九、五九八、五六一	
穀粉	四、五五六、七七六	
金屬製品	三、六五一、八五四	
葉子	三、四八〇、〇六二	
ゴム製品	二、九五五、一五六	
布帛製品	二、九八一、四六二	
機械及器具類	二、七九三、六九七	
酒類及醋	二、四一〇、四七一	
木製品	二、〇四九、四八八	
藥劑	一、八三九、五一八	
歯製品	一、三六八、六五二	
醬油及味噌	一、〇八八、六八一	
織物	六七六、八九八	
窯業製品	六五六、三八四	
皮革製品	六二九、二七〇	
紙及紙製品	五三二、六五四	
官營工場	一九、五二三、八四八	

商業の中心は、內地人の商廛軒を並べて最も殷盛を極むる本町通なるが、市內各所に大小の市場多く設けられその主なるものは南大門市場（昭和十年賣上高五一三萬圓）・東大門市場（二三八萬圓）・京城家畜市場（四三二萬圓）・府水產市場（一五八萬圓）等とす。南大門通は市內第一流の街路にして問屋等多く、門外に近く商品陳列館あり、總督府殖產局管理の下に朝鮮の物產は廣くこれを蒐集し、內地の產物をも加へて陳列し、朝鮮生產界の一瞥を紹介すると共に、その調査・販賣・擴張に從事す。貿易を概觀するに、輸移出貨物價額二五七萬圓、輸移入二八一三萬圓、總計三〇七一萬圓にて、輸移入超過額二五五六萬圓。これを國別に見れば輸移出先は內地三八萬圓、關東州一一萬圓の外は滿洲國のみにして二〇八萬圓を示し、輸移入は內地より二五三一萬圓、滿洲國より一〇一萬圓、自餘は北米合衆國の七九萬圓を最とし、英國・加奈陀これに次ぐ。重要輸移出品は布帛及び布帛製品の四七・九萬圓を最とし、小麦粉（四二萬圓）・諸機械類（三六・九萬圓）・衣類及び同附屬品（二二・五萬圓）等これにつぎ、輸移入品は絹織物最も多く一〇三三萬圓、毛織物（五三九萬圓）・綿織物（四三二萬圓）これに次ぐ。〔交通〕京城府は總督府の所在地にして、半島に於ける政治・經濟その他主要なる機關あるのみならず、李朝五百年の王都たりしため、內

陵諸方との交通より開け、西北は義州に通ずる京義街道、東南には慶尙・全羅兩道並に江原道に通ずる街道、東北は元山を經て咸興に達する街道あり、新政以來これ等の諸道路に改修を行ひしのみならず、更に重要道路數線を新設す。また鐵道は本府を中心として釜山・新義州・仁川・元山に至る各線あり。即ち京釜線は府の中央、京城驛（明治三十三年設置）に發して、龍山驛（明治三十三年設置）の南、漢江鐵橋を渡り、鷺梁津驛・永登浦驛（何れも明治三十二年設置）を經て南走し、京仁線は永登浦驛より分岐し、外に永登浦より北、堂山町に至る小分岐線あり。京義線は京城驛に發し、阿峴のトンネルを通り、新村驛（大正十年設置）を經て西北走し、京元線は龍山より分岐して府の南部漢江々岸に沿ひ、西氷庫驛（大正六年設置）より東北に走り、府の東邊を貫きて、漢江里（昭和六年設置）・水鐵里（昭和九年設置）・佳十里・清涼里（いづれも明治四十四年設置）の各驛を設く。更に龍山線は、龍山驛より舊京義本線を利用して、漢江岸の唐人里驛（昭和四年設置）に達し、途中西江驛より分れ新村にて京義本線に合し京城に至り、市街の西北郊を迂回する循環線をなし、これに元町・彌生町・孔德里・東幕・西江・鉄橋里・放送所前・唐人里・延禧・阿峴里・西小門の各驛を設く。京城驛の乘降客數は年六五二萬人に達し、龍山は八八萬人、永登浦五七萬人、清涼里五〇萬人にして、此等四驛は府內の最主要驛をなす。水路は漢江の水運によつて仁川及び春川方面に通ず。昭和四年以來日本航空輸送株式會社の旅客輸送が開始され、汝矣島に飛行場を設け、ここより北は大連・新京等に、東は蔚山を經て內地に至り、釜山・大阪・東京に達す。而して市內の交通に於ては市區改正の事業大に進捗し、從來紆餘曲折に富みし舊市街は漸次坦々たる大道路と化し、その多くは鋪裝せられ、面目を一新す。市街の發達は、その地形に支配されたるものなることは注意を要く。即ち北部山地と南部山地との兩山麓線は盆地床のほぼ中央に出會ひ、そこに西より東に流路を持つ清溪川を決定し、この兩側の低平部を二大幹線道路、川に並行して東西走す。即ち北部を走る鐘路通と南岸を走る黃金町通これにして、前者は東大門と西大門とを結べる大路にして、幅一五米乃至一八米を有し、後者もまたほゞ同一の幅を有し、東方光照門附近より西方府廳前に至るまで一直線に通ずる二大路ありて、いづれも東部に延長する外は道幅の大なるものなく、南北に通ずるものに南大門通・太平通等數條の大路あり。その他の道路は極めて不規則にて道幅も狹く、迂路に乏しく、多くは袋小路をなして朝鮮特有の特色ある道路網を呈す。西南部龍山には鐵道とほぼ並行して二本の幹線道路前に走り、その一は漢江橋を渡りて永登浦町に達し、尙ほ鐵路通の延長たる西大門通り西南に延長して漢江岸麻浦に達し、麻浦渡によりて永登浦に連絡す。京城電氣會社の經營にかかる電車は、市內重要地點の間を運轉し、その延長三五・五粁、また同會社の市內乘合自動車は、二一・七粁の線を走り、府內交通の便を助く。〔市勢〕政治上の中心地として朝鮮總督府をはじめ遞信局・鐵道局・專賣局・李王職・中樞院・高等法院・京城覆審法院・京城地方法院・京畿道廳・府廳・各國領事館等の諸官衙は皆この地に集まり、また軍事上の要地として朝鮮軍司令部・第二十師團司令部・歩兵第四十旅團司令部・憲兵隊司令部等あり。經濟上の重要機關としては商工會議所・京城株式現物市場・朝鮮銀行・朝鮮殖產銀行ほか多數の銀行・會社傭はれり。教育方面に於ては京城帝國大學・法學專門・高等商業・高等工業・醫學專門・セブランス醫學專門・延禧專門・商科醫學專門以下の各學校、それに附隨して中央試驗所・大學附屬病院・恩賜科學館・總督府博物館・總督府圖書館・測候所等完備す。また報道機關として京城日報・朝鮮新聞・ソウルプレス・日本電報通信等あり、社會事業としては恩賜授產機業所を初め各種事業團體施設、文化機關としては電車・自動車、上下水道・電話・電燈・瓦斯等の施設、娯樂機關としては劇場・映畫館・寄席・遊技場等備はり、公園は南山公園・パゴダ公園・塔洞塔公園等七を數へ、その總面積九・五方粁に達す。

〔沿革〕京城の地は往昔支那の樂浪郡に屬せしが、同郡が南北に兩分されてより帶方郡に編入せられ、のち高句麗・百濟・新羅三國鼎立せし初期には百濟の領地となる。三國互に攻爭し數次の變遷ありて後、百濟南遷して公州に遷るや、高句麗の南平壤となり、次で新羅の北進に際しその領域の北境となる。新羅亡びて高麗の世となり、第十一代文宗王は京城の地相を好み、附近の郡民を移住せしめしより、始めて一聚落地となる。爾來今日まで八百六十餘年を經過せり。その頃新羅の僧道詵の記せしものに「臘いで王として立つべきものは李氏にして、漢陽に都す」と誌されたりとて、第十五代忠惠王これを愛ひ、こゝに都を建てて南京と稱し、木覓山に離宮を設き、以て此地半島四京の一たり。而して王は年に一回巡狩して龍鳳の書を埋め、王氣を鎮せしと傳ふ。第二十五代忠烈王の時漢陽府と改稱し、恭愍王同じくこれを信じ、漢陽に宮闕を築かしめ、恭讓王また一度遷都せしことあり。李朝開國の始めに當り、第一代太祖王は王師無學及び群臣の獻說を聽き、此地を首府と定め、三年十月、高麗朝四七五年の都たりし開城より遷都す。即ち漢陽府を置き府政の機關とせしが、間もなく漢城府と改め、その長を判府事と稱す。判府事はのち判尹又は府尹と改

む。而して太祖王の遷都せんとするや、新都宮闕造成都監なるものを置き、新都の經營に當らしむ。而して白岳（北岳山）の麓に景福宮を建て、その東西に太廟と社稷とを設く。その五年、十萬餘の民を徴發して城壁を築造せしむ。その周囲約二〇粁、その間に八門あり。東は興仁門（東大門）、東南は光熙門、西は敦義門（西大門）、西北は彰義門、南は崇禮門（南大門）、西南は昭義門、北は肅靖門（北門）、東北は惠化門といふ。すべて二層樓の宏壮なる建物にして、古くは南大門樓上の鐘により朝三時（曉鐘）夕七・八時の交（人定）に開閉せり。城内の地は東西中南北の五署に區分し、更に四九坊、三四四洞に分割し、營々たる都市計劃をなせり。二代定宗に至り、百官士民共に舊都開城を慕ひ、且つ天文・古算・厝象・測候・漏刻等を掌る書雲觀の上疏もあり、開城に還りしが、社稷・宗廟に遠く災害起るとの理由によつて、五年後の三代太宗の四年七月再び漢城に還り、爾後五百年連綿として朝鮮の首府たり。宮殿の主なるものは、昌德宮・景福宮・德壽宮等とし、その中の景福宮は太祖の創建に係り一時荒廢せしも、大院君が李朝末の衰運の現はれし頃、宮闕を壯麗となし、以て王室の尊嚴を知らしめんとなし、國帑を傾け、民財を湯らしめて再興せしところなり。その規模の宏大なることに於て、未曾有建築物中半島第一と云はるる勤政殿は、李朝時代元日の朝拜、その他の大禮の行はれたるところなり。その石階の前に一品より九品までの文武兩班の石の位版あり。その盛時を偲ぶに足る。第二世定宗の創建に係り、第十一世中宗の代に補修を加へ、第十九世肅宗の代に至つて完成せられたる昌德宮は、現在李王家御使用の宮殿なるため、特別の許しのある者のみに拜觀を許さる。李太王三十二年（明治二十八年）全鮮は二十三府に分たれ、漢城府尹を改めて漢城觀察使とす。幾許もなく二十三府を廢し、全鮮を十三道に分ちて之に觀察使を置き、京城には漢城府尹を置く。當時の漢城府は昭和十年までの舊京城府に高陽郡中、崇仁面丑か四面を加へたる地域を管轄せり。光武九年（明治三十八年）・隆熙元年（同四十年）の數次に渉り制度の改正ありしも漢城府治には何等の改革なかりき。明治四十三年韓國併合と共に、同年十月漢城府尹を廢して京城府尹を置き、大正三年府制施行に際し、舊記五面の大部は都部に編入せらる。近世に於て内地人の來住するに至りしは明治十三年四月日本公使館設置以來の事にして、爾來人口漸次增加し、居留民は代表を置て自治政治を行へり。但し舊稱龍山方面は之と全く別個の發展をなせり。明治三十九年京城及び龍山に民留民團を設け、同四十三年龍山居留民團は京城の民團に併合され、大正三年府官制の發布とともに一切を京城府尹の下に置き統一せらる。昭和六年地方制度改正の結果、府制はその面目を一新し、府會を置きて、決議機關たらしむ。昭和十一年四月一日行政區域の擴張をなし、隣接せる一邑八面中の全部又は一部を編入せるに依りて府の面積は擴張前の三六・一八方粁より、一躍、一三三・九四方粁となり、人口六三・七萬を數へ、面積に於ては神戸市を凌駕し、全國第六位となり、人口に於ては第七位となるに至れり。（市街）これを三區に分ちて概觀せん。一は府の中北部を占むる舊來の京城市街、二はその西南に接し、龍山を中心として、北は義州街道に沿ふ地區及に昭和十一年新編入の西郊と漢江對岸永登浦・鷺梁津地區、三はもと府の東郊を成せる地區なり。

（一）中北部　この地區は更に南大門通以西の地域と、それ以東の地域を清溪川を以て兩斷する南・北の二地域に分つを得べし。その西部區は官衙商店街をなす。先づ京城府の玄關とも稱すべき京城驛はその地區の西南部に近代建築の壯重なる輪奐を見せて東面し、肆前廣通を北東に進むこと數百米にして、南大門（崇禮門）に達す。堆大莊麗なる樓門の、下層に萬かづらを纏ひたる古色蒼然たる景觀は、よく李朝の太祖の建立せし古城の面影を偲ばしむ。南大門は現在市街の五主要大路の分岐點に當り、市衢の最大中心をなす。南大門通三丁目より二丁目にかかる地點に大廣場あり、これを右に進まば山の手とも稱すべき南山山麓の高燥地を東西に通ずる本町通、左に取らば德壽宮に出づる近道なる長谷川町通にして、この廣場には、京城郵便局・舊府廳跡に新裝成りたる三越京城支店・朝鮮銀行等の大建築あり。南大門より左の道路は、太平通と云ひ北は光化門通に直通し、突當りは朝鮮總督府廳舍及び景福宮なり。太平通二丁目・一丁目の境にも大廣場あり、て、東より黄金町、東南より前記長谷川町通、西南より西小門町、東北より武橋町の通を集中し、市内交通上の主要なる一結節點をなす。廣場の西側にある大漢門は李太王の永く居たまひし德壽宮の正門にして、構内には成寧殿・中和殿・石造殿等の古建築あり。太平通二丁目の東側の北米倉町及び前記西小門町は、中華民國人の密集せる支那人町にして、雜多の雜商軒を鉤ぶ。太平通一丁目の東側に專賣支局工場・京城府廳舍聳え立ち、西側に美術品製作所あり。西側は土地漸次西南に向ひて高まり、四四米の高距に達する貞洞町には英・米・蘇の各領事館を始め京城放送局等あり。太平通の盡きて光化門通に移るところ、東西に走る鐘路通と交叉して大廣場をなす。この廣場より北の光化門通は官衙街の中心にして、昔ながらの廟謨なる大路の兩側には、今なほ古雅なる朝鮮風の笠地・屋根の反れる建物を存す。東側には京畿道廳・警察

官講習所・法學專門學校等あり。西側には遞信局・爲替貯金管理所等既かる。正面の景福宮苑の一角に燦として輝き、擬然として聳ゆる總督府の廳舍はルネサンス式鐵筋コンクリート花崗岩石裝の五階建にして、六百萬圓の工費と十餘年の歳月とを要せし大建築。廳内の大ホールは大理石を以て作り上げ、善美を極む。北部は中央を流るゝ清溪川を界とせる以北の地域にして、鐘路通を主道に持つ朝鮮人の居住區なり。昔ながらに榮ゆる鐘路通には内地人の商店交れるも、主として朝鮮人宏大なる店鋪を構へ、朝鮮人向の布帛・雜貨を販賣す。而して鐘路通の南部河岸に至る帶狀の地域には、網狀の複雜なる細路を有し、比較的下層の市民屯集し、北部は舊官人の居宅と思はるる土壁・石塀の小住宅群がりて住宅地區をなし、朝鮮人特有の生活樣式あり。鐘路通三丁目・四丁目の域に近き北側にパゴダ公園あり。もとの大圓覺寺跡にして園内に有名なる十三層の塔水石塔を有す。十字街地點より東方約二粁に於て五米の低下あり。北進すること、約一粁にして宏莊なる敦化門に達す。同門内に昌德宮あり、李王の居殿たり。昌德宮の後苑は秘苑と呼ばれ、丘陵起伏し松杉繁茂し、泉石怪奇を極め既に仙境たり。昌慶苑内には溫室の規模東洋第一と稱せらるゝ植物園、珍稀の動物を飼養せる動物園あり。昌慶苑の東北一帶の地域は孝苑町とも稱すべき地域にして、秘苑の東隣に經學院あり、その他京城帝國大學・高等商業學校等あり。南部は清溪川以南の地域にして二三乃至二四米の河岸の低地より南進するに從ひ漸次高度を增し、南山の山麓標高五〇米の地點にまで市街發達し、内地人の商店街及び住宅區をなし、町名も明治町・永樂町・若草町・櫻井町・花園町・旭町等と稱す。道路は街造の東西直通大路としては黄金町通あり、これは日韓併合後、擴張せられし新道なり。これに鉤行し町幅こそ狹きも、内地人の商店軒を連ねて最も繁昌を極むる本町通あり。南北を連ぬる大路は圓記の如くにしてその間の道路は概して細路をなし、曲折に富み朝鮮舊來の道路網を殘せるところ少からず。總督府新廳舍竣工移轉前は、廳舍この區の倭城臺町（標高五〇米）の高燥地にありて、政治の中心地をなし、朝鮮統治の樞要なる官衙區域を成せり。從つてこの地域を中心に官舍・舍宅・住宅建築せられ、本町通を中心として内地商人發展し今日の盛況を見るに至れり。總督廳舍移轉後も、總督官邸を始め各官邸は舊來の如く存在し、更に年と共に住宅を增して發展す。最近は南山西麓の岡崎町・三坂通を中心として内地にも珍しき立派なる住宅區あり、一見内地と異ならざる市街景觀を呈するに至れり。

〔朝鮮神宮〕南山町に鎮座。官幣大社。祭神、天照大神・明治天皇。朝鮮守護の神として天照大神並に明治天皇を祭祀し奉るものにして、大正十四年十月十五日の創建に係る。大帝晩年不朽の御事蹟たる日韓併合の成れるは實に明治四十三年八月の事にして、翌九月李朝五百年の舊都京城府内に總督府を設置して、爰に朝鮮統治の實蹟漸くその緒に就く。而して鷄林の民拳げて大帝の御聖威を德となし奉り、その御德澤に感泣す。大正九年十一月明治神宮の鎮座祭了するや、次で不世出の英主の御神靈を遣く此地に迎へ奉り、永く大帝の御鴻業を偲び奉ると共にその御聖威を永久に讃へ奉り、且つはその御加護を乞ひ奉らんとして朝鮮神宮の議成り、五年五箇月の歳月を閲して大正十四年十月十五日社頭の景觀成る。同日官幣大社に列す。境内神域十萬坪を算し社殿輪奐の美を盡す。社域は漢陽の高臺に鎮座して、脚下に京城全市を俯瞰し鏡湖たる漢江の長流を一眸に收むる景勝の地を占め、恰も金烏十三道を睥睨するの思ひあらしむ。例祭、十月十七日。

〔京城神社〕倭城臺町に鎮座。國幣小社。祭神、天照大神・朝鮮國魂大神・大己貴命・少彦名命。明治三十一年十一月の創建。初め皇祖の神靈一座のみを奉祀せしが、昭和元年に境内擴張を畫し、且は新に神殿を建立するに及びて、更に國土開發の始祖なる朝鮮國魂神一座、大己貴命・少彦名命一座を增祀せんことを請し昭和四年九月官許せらる。因りて同月二十四日莊嚴なる遷靈式を行ひ翌二十五日遷座式を行ふ。爾來官民の崇敬厚く京城府民四十萬の總鎮守と崇められる。祭神中朝鮮國魂神は、そのみみ半島の開發經營に大功を樹立し給へる神にして、堆略天皇御代、百濟國をして祭祀せしめられし建邦神は即ち之なり。攝社の天滿宮は明治三十五年一月に當社の攝社として創建。同八幡宮は昭和四年十二月の創祀、官幣大社宇佐神宮の分靈を勸請せるものと云ふ。同稻荷社は昭和六年六月、府内龍山三角地より遷座せしものにて、同乃木社は近年に當社の攝社と定められる。社殿は本殿・拜殿・幣殿・神饌所・瑞垣・參籠所・手水舍・社務所等、境内六千三百十五坪の外、龍山文平山なる御旅所の飛地境内地約八百坪あり。例祭、十月十七日。氏子、京城府一圓、七萬三千八百戸。

〔京城別院〕南山町にあり。眞宗大谷派。明治二十三年、現如の創立に係る。明治三十年、本堂建立の議起るや、韓國皇帝並に皇太子より金員下賜あり。同三十八年堂宇建立に際し、韓國皇帝より再度の下賜あり。翌三十九年移轉供養を修するに當り、韓國皇帝勅使を遣して之に列せしめ、大韓阿彌陀本願寺の扁額並に金員下賜あり、日韓兩國官民參列す。以來鮮人當院を大韓阿彌陀本願寺と稱す。現に院内開教監督部を置き本島内の別院三、布教所四十餘を統轄す。

〔朝鮮別院〕若草町にあり。眞宗本願寺派。明治四十年、開教師松浦勞英本山の命を受け、長谷川町に本願寺出張所を設けて布教に着手せしが、同四十五年現寺地に移り、大正元年假本堂を建立し、同年總督府の許可を受けて朝鮮別院を公稱す。のち龍山の朝鮮開教總監部を之に移し、別に私立佛教高等學院及び啓成學校を設立せり。

〔圓丘壇址〕長谷川町にあり。いま朝鮮ホテルの地。往時南別宮と稱し、文祿の役には宇喜多秀家ここに駐陣す。近くは故李太王即位の大典を擧げさせらる。八角形の高樓、異彩を放つものは皇穹宇とす。因みに朝鮮ホテルは鐵道局直營に屬し、諸施設完備す。〔記念碑殿〕光化門通と練路通との交叉點、朝鮮總督府構内にあり。李太王即位四十年記念及び還六即ち寶齡五十一歳の記念碑なり。表面には「大韓帝國大皇帝陛下寶齡望六旬御極四十年稱慶記念碑並序」とあり。〔訓練院〕黄金町七丁目。東大門の西南にあり、明治十五年韓國の兵制改革せられたる時、軍隊に新式の訓練を施したる練兵場の址なり。その東方に京城運動場あり。運動場は京城府が東宮御成婚事業として築造し、總面積七〈クタール餘、極めて整備せり。〔經學院〕明倫町にあり。昌慶苑より北約一粁。院は文廟を中心とせる儒林の學堂にして、廟には孔子を主座とし、顔子・思子・曾子・孟子の諸聖賢、朝鮮の儒賢等を祀り、明倫學院を附設す。李朝太祖の創建にかかり、建物は再三焚上せしもその都度修築され、歴代典祀を絶たず。今もなほ毎年春秋二回祭典を執行す。〔景福宮〕北岳山の南麓にあり。李朝宮殿の一。李朝太祖、開城より京城に都を遷し、此處に宮殿を建て景福宮と稱す。當時のものは輪奐の美を極め豪壯を誇りしが、文祿の役、日本軍の入城に先だちて罹災の爲に灰燼に歸し、再來二百七十餘年間、廢宮に歸せるを、攝政大院君(李太王)再建し、明治初年完成。規模宏大にして李朝末期の經營として誇るべく、完備時代の規模には、東西約六〇〇米、南北約一粁、周圍約三粁、高き石墻に包まれ敷地面積四三〈タール餘。南に正門(光化門、いま東壁に移建す)、左右墻壁の北折點に角樓、東に建春門、西に迎秋門、北に神武門あり、光化門以内の南北線上に各南面して主要殿堂を配せしが、のち明治二十九年李太王殿下露國公使館潛行の事ありて、再び廢宮となり、いま勤政殿・思政殿・慶會樓等の主要殿閣を殘し、他は移轉、または取毀され、南方一部に總督府廳舍建てられ、今日に及ぶ。光化門は朝鮮唯一の三扉式重層門にして輪奐堂々、朝鮮最大の樓門なり。以前は門前に、壇・石欄・怪獸石像を置く。門内正北に順次、興禮門・錦川橋(共に今なし)・勤政殿門を配す。勤政殿門の建築群は當宮最大最重要にて我が大極殿に當り、嘗ては即位等の禮賀、並に使臣の朝賀等に用ひられし勤政殿を包む複廊と前方の勤政門とを以て成り、内庭は石敷なり。參道左右に白大理石を立て文武官各位の參列位置を示す。勤政殿は二重石壇上にあり。石欄・石階を備へ、五間五面、重層入母屋造の堂々たる朝鮮有數の大建築なり。内部は一大廣間を爲し、朱塗の獨立柱嚴然として鉞び、宏壯なる天井に五色映發し、正面の玉座は四方に階あり。朱欄を繞らし、五山日を彩繪せる屏障を立て上方を折上天井となす。この殿門後方に思政殿(中央、我が紫宸殿に當る)・萬春殿(東)・千秋殿(西)あり、更に北方順次に康寧殿(我が清涼殿に當る、王の常住殿)・交泰殿(玉妃の常住殿)等ありしが、共にいま昌德宮に移され、今僅に交泰殿後方庭園に築山(飛閣山)と溫突煙突四基を殘す。後者はその東方慶會殿の畫屏と共に優雅なる五彩をなせる塼築あり。また勤政殿西方に近く修政殿あり、もと内閣の跡にして、大谷光瑞の將來せる西域の發掘物を陳列す。慶會樓は東西三四米餘、南北二七米餘、高さ四・五米の石柱四八本を以て支へられたる大樓閣にして、重層入母屋造、下層は吹抜となる。廣き方形池に浸々たる水を湛へて、これに三石橋を架す。樓の階上・階下は嘗ての君臣饗宴の所にして、實に李朝末期に於ける代表的建築の一とす。後方に廣き後苑あり。〔社稷壇〕社稷町にあり。壇は太祖の時の築造にかかり、社壇は國土、稷壇は穀を祀るもの。範を支那にとりしものなるも、いま中華民國に殘存するものなく、京城に唯一つあるのみとせらる。昭和十一年保存令により指定せらる。いま社稷壇公園となり、散策道路を設け、その面積一・六八方粁あり。〔昌慶苑〕昌慶宮一帯の地。李王家が京城府民のために庭園の一部を解放し、園内に博物館・動植物園等を設けしものにて、いま四季を通じ京城府民の娯樂地たり。此地はもと壽康宮と稱せし宮址なり。中央は博物館にして、明政殿・涵仁殿等數多の宮殿址に古代の佛像・陶磁器・繪畫・古鏡・金屬品・彫刻物等を陳列す。明政殿は高麗末期の建造物にして、殿が東面して建てられあると、京城最古の建築物たる事に於て注目すべし。更に博物館新館(煉瓦建)には貴重なる寶物を藏し、遊覽者の眼を驚らしむ。苑の南方は動物園、北方は植物園にして、何れも李王職の經營に係る。秘苑は植物園より奥、宮殿の背後なる鷹峰の麓にありて、幽邃の境地をなし、林泉の美を以て知らる。〔奬忠壇公園〕西四軒町にあり。南山東麓の谷間に位し、南山の松翠を負ふ閑靜の地にして、いま京城府營の名公園たり。もと光武四年九月奬忠壇を南小洞に設く。壇は即ち公園の中央にあり、反閣妃派の政客が大院君を孔德里の隠居より起して夜陰宮城に入らんとする時、赤命に斃れし宮内大臣李秉植・侍衛隊長洪啓薰等を合祀す。壇の傍に記念碑ありて由來を記せり。地は面積二・一一方粁、周囲一・八粁に及び、散策道路・運動場・兒童遊園地其他の設備よく具はる。博文寺は園内にあり。〔昌德宮〕府の北部にあり。李朝三代太宗の五年、離宮として建てられ、爾來幾多の變遷を經て明治四十年來、李王殿下の御住居となる。文祿の役には日軍入城に先だち兵火に罹りて燒失し、今の建物は其後の再建にかかる。正門を敦化門といひ、南大門と共に李朝最古の建物の一にして、門を入れば右に李王職、左に仁政殿、續いて宣政殿、奥まる所に日當の御住居なる大造殿・樂善齋等あり。宮苑は廣大にして幽邃の地たり。此處は普通、一般には解放せられ居らず。〔水標橋〕水標町にあり。清溪川に架する石橋。李王朝の初め、都城の中央を東西に貫流する下水道に橋を架し、世宗に至り水標をこの側に立つ。よりて水標橋の稱あり。現在の橋はその後數回の改修にかかり、全部花崗岩を以てつくる。〔洗劍亭〕府の西北錦町にあり。景福宮の北西、北門より坂を北へ下ること約一粁、北漢山南麓より流るる弘濟院川上流の溪流が盆狀をなす窪地に建てられたる六角形の亭なり。新羅武烈王の時、その臣下が高句麗の軍を破りし古戰場と傳へられ、のち李貴・金筌等の志士、光海君を廢して仁祖王を擁立せんと此處に集まり策謀を凝せしところ、洗劍亭の名は當時義士の血を吸ひ劍を磨せしに因むといふ。なほ附近には白佛・弘智門・七間水など見るべきものあり。此地は北漢山登山口の一をなす。〔總督府博物館〕景福宮構内にあり。樂浪・三韓の發掘物、新羅時代の佛像・王冠、高麗時代の陶器、李朝時代の漆器・書畫等を陳列す。この建物は大正四年景福宮の地に始政五年記念共進會を開催せし時の建物の一部なり。〔宗廟〕昌德宮に隣る。太祖三年の創建にかかり、太祖以前四代と李朝歴代の神位を安置せる殿堂あり。閑雅の地なり。〔德壽宮〕太平通京城府廳舍西側にあり。もと月山大君の邸宅なりしが、宣祖の時宮闕となす。李太王殿下嘗て露國公使館へ潛行の事ありて後、正宮を此處に移され慶運宮と稱し、約九年間半島の政權發動の源泉をなせり。其後明治四十年李太王殿下讓位後の居宮となり、德壽宮と改稱。昭和八年に至り李王職は宮殿を一般に開放し、幾多の藝術品を陳列し、觀覽に供す。宮門は即ち大漢門にして、濟明殿及び石造殿等あり。王宮生活を偲ばしむる遺構少なからず〔南山〕京城市街の中央に聳ゆる山。南山は一名木覓山と稱へ、また終南山といふ。木覓とは前方の義にて、此山は市區改正以前までは市街の南方に位置せるため、斯く名づく。南山は片麻岩より成り、海拔二六五米、京城盆地床を拔くこと二三〇米、山上に京城舊城壁の址あり。また國師堂址あり。山は松その他の樹木により緑常に濃く、東南は靈鷲岩となり低下す。西南斜面の山麓は龍山の兵營街及び學校街をなし、北の斜面は中腹に文祿役に增田長盛・大谷吉隆の陣所たりし倭城臺あり、此の地域より山麓に亘る緩傾斜面は内地人の京城に於ける發展の中心たりし所なり。南山町及び大和町一帯には舊總督府廳舍を始め、總督官邸・憲兵司令部・恩賜科學館等あり、中腹に官幣大社朝鮮神宮あり。社前の外苑は舊漢陽公園にて三方開闊して市街を眺下に俯瞰し、北方北漢山を初め市街を圍繞する諸山も指呼の間に望まる。外苑より裏參道を下れば南山公園あり、老松緑の中に天滿宮及び京城神社あり。附近の櫻谷は花季には市民の行樂を以て賑ふ。〔南大門〕本名を崇禮門と稱す。太祖五年に建造。のち四代世宗王三十年に改修せられ今に至る。上に二層の門樓あり、交通の要衝に當るを以て明治四十年以來兩側の城壁を毀ち道路を開き、樓門周圍を石垣にて圍繞し、植樹、芝付をなして風致を保つ。古來京城八城門の一として東大門と共に結構宏壯を誇り、觀る世に著はる。〔南廟〕吉野町にあり。蜀の關羽を祀るところにして、正殿に關羽像を安置し、兩壁に關羽に關する繪畫あり。明朝陳寅、陳賚して建てしが、祝融の襲するところとなり、のち再建して舊觀に復せり。因みに東大門外にも關羽廟(東廟)あり。〔博文寺〕奬忠壇公園にあり。春秋山と號す。伊藤博文の日露戰役後第一代統監として遣したる勳功を記念し、且つ公を追憶するため建設せる伽藍なり。總門は慶熙宮(いま京城中學校の地)の宮門、興化門を移築して慶春門と改稱したるもの。本堂は鎌倉時代の禪宗伽藍に擬し、朝鮮風を加味したる鐵筋コンクリート二階建にして、約四百坪の建築なり。東裡は景福宮内の溫溫殿及びその附屬建物を移築せしものにて、昭和七年十月落成、入佛式を行ふ。寺は公園の東部、老松茂生せる高臺にあり、眼下に公園を眺め、遙かに京城市内を展望し、景勝の地たり。〔パゴダ公園〕鐘路二丁目にあり。また塔洞公園といふ。高麗朝の興福寺址、李朝の大圓覺寺の址なり。園内に大理石の塔及び龜碑あり。塔は十層にして三重の基石の上に立ち、中に舍利を藏む。いま上部の三層は側に下しあり。圓覺寺碑は風雨に曝され文字剝落して讀むに堪へざる所多きも、鏞首龜趺なほ完存して雄麗の氣象、技巧の精神掬すべきものあり。城内〇・一一方粁に過ぎざるもヲヂオ塔・普壁堂・兒童遊園その他の設備よく備はる。〔普信閣〕南大門通と鐘路通の交叉點南隅にあり。朝鮮式樓閣にして、中に瓦鐘を懸く。鐘は高さ三米餘、周圍六米餘、世祖十三年に鑄造せられし大圓覺寺の遺物にして、太祖の時

この鐘樓を建て朝夕各城門に開閉の時刻を報ぜしめたり。鍾路通の名はこれより起り、李朝時代より互商、此處に軒を並ぶ。〔老人亭〕南山の麓にあり。明治二十七年七月大鳥公使が韓廷の重臣と會同し改革問題を商議したるところ。

（二）西部　龍山は京城府の中心より漢江畔に向つて西南に展開する市街の一部にして、俗に新・舊龍山の二に分つ。新龍山はもと漢江畔の一沙洲なりしが、日露の風雲急を告ぐるに及んで、京義線の起點となり、鐵道關係の總本部となる。ついで陸軍の首腦部此處に置かるるに至り、渺茫たりし一沙洲も今は立派なる市街地となり、鐵道局・朝鮮軍司令部・第二十師團司令部その他の兵營この方面に集る。舊龍山は漢江畔の一要津にして、昔は仁川より測航し來りし舟の碇泊地となり、物資の集散地として知られしところ。いま書籍印刷會社・京城電氣會社發電所・孝昌園・彌生町遊廓等あり。京城電車方面よりの電車は鎮兵町にて分岐し、右方に延びる線は舊龍山の市街を貫通し漢江河岸に、直路の線は新龍山を貫き、漢江人道橋に達す。電車分岐點の鎮兵町一帶は文祿の役加藤清正の駐陣せし所にて、今の陸軍倉庫の邊は食糧米倉庫のありし所なり。

〔永登浦〕　府の西南隅に位置す。西は京釜道金浦郡陽東面に、南は始興郡東面に接し、北西は漢江に臨み、東北は沙尖島幾行場に隣る。南に丘陵起伏する他は、開ゆる永登浦平野の一部をなす。この平野は漢江の一支安養川と漢江との間の三角地帶にして、地味頗る肥沃、米・大豆・野菜その他の雜穀を產するも、年々此等の河水氾濫して洪水の害を蒙るは遺憾なり。此地もと一寒村に過ぎざりしが、鐵道開通と共に發展の緒につき、最近は京城郊外の工業地として頓に發達し、朝鮮皮革會社・紡績工場・製紙工場・煉瓦工場・朝鮮麦酒及び昭和鹽鱗等酒會社等の諸工場あり。もし東の鷺梁津と漢江との間の廣闊なる空地が整理さるる曉には、水と交通の便と相俟つて、大工業地帶の出現遠からざるべし。前記工產の外、附近平野に產する米・大豆・野菜・雜穀等の集散盛にして、陰曆三・八日の開市と一・五日の牛市の市況は活氣を呈す。鐵道京釜本線の重要驛（明治三十八年設置）にして、西に京仁線を分岐し、京城へは僅かに九・二粁、釜山へ四四一・三粁あり。坦坦たる一等道路京釜街道はここより南折して南走し、仁川街道また出で、東方鷺梁津との間にはバスを通じて漢江人道橋畔に達し、府營電車と連絡するを以て、交通は頗る便なり。この地は大正三年始興・果川・安山の三郡合併して、始興の名を以て代表する一郡となりてより、郡廳所在地となり、次で永登浦邑となりしが、昭和十一年四月京城府に編入されて永登浦町となる。町の南鎮に始興郡廳あり、其他金融組合・公立小學校・普通學校・銀行等あり。驛附近の小丘に放鶴亭の史蹟あり。李王來遊して多くの鶴を放ち、高く翱翔するを見て、樂しめる處なり。

〔孝昌園〕　青葉町、蓮華峰の一角にあり。一に孝昌園といふ。正祖の王子、文孝世子を祀るところの墳墓あり、老松枝を交へ風光明媚の地なり。地積二・三三方粁、周圍約二粁。大正十三年公園となり、諸種の施設をなす。〔清水館址〕天然町にあり。現在向上會館の地は最初、日本公使館の存せし京城中營の址なり。附近に清水湧出するを以て、その建物を清水館と稱す。明治十五年七月二十三日公使館は暴徒に包圍せられ花房公使以下三十七名重圍を衝いて遁る。公使館はその時燒き拂はれ、いま僅かに天然亭の小亭を殘存す。亭は第二十二代正祖の時建てられ、東側にありし池を西池といひ、附近に老松ありしを以て、鍵松池とも稱し、また老論と稱する一派の政客の集會所なりしを以て老論池とも稱せり。また國王この池邊に於て旱天に雨を乞ひしことあり。夏季には池の全面に蓮花滿開し、美觀を呈せしが、竹添公立普通學校建築のため埋沒せらる。〔西氷庫〕府の南部。漢江河岸。往時ここに漢江の氷を採取して貯藏せし王室使用の氷庫ありしによりこの地名起る。漢江の舟着場にして、上流地方との舟楫の便よく、奥地に產する大豆の集散地として知られ、農業倉庫・精米工場等あり。前面の所き河原は官用土地にして、工兵大隊の演習地に充てられ、また砂利採取場たり。京元本線の西氷庫驛を設け、また對岸との間に渡船の便あり。なほ東隣は東氷庫町と稱す。〔獨立門〕義州街道、吉村町にあり。この地にもと迎恩門ありしが、日清役の後、清國に對して獨立を宣言し、その記念として石門をたて獨立門と稱す。門の奥に獨立館あり。初め慕華樓と稱し、日清役後、今の稱に改む。〔迎恩門〕獨立門建設以前より存せし門にして、現在門柱のみ殘る。第十一代中宗の時まで紅箭門なりしが、支那に敬意を表するため扉根付門と改む。門は最初迎詔門と稱せり。門柱は獨立門と共に昭和十一年、保存令によりて指定せらる。〔鷺梁津〕漢江の左岸にあり。附近一帶の土質製陶に適し、煉瓦及び瓦の工場あり。仁川府水道出張所・總督府地質調査所等あり。史蹟に四忠書院址・鷺江書院・六臣墓碑・六臣墓及び正祖の時設けられた行宮址・龍鳳亭等あり。

（三）東部　〔往十里〕府の東部。往十里町・下往十里町等に分る。南部に舞鶴峰（九三・二米）あり、南に延びて水道貯水池の高臺をつくる。黄金町通より市街電車は京元線の往十里驛前まで通じ、京城軌道會社の輕便線路は東大門に起り當地を經て、護國に達す。附近は漢江畔の地味

悪沃なる耕地にして、夜に對岸の義烏は果樹・園藝作物盛に栽培せられ、京城府内の市場に出る青果の大部分はこの附近より供給せらる。往十里はもと高陽郡漢芝里のうちにして、昭和十一年四月府に編入せらる。〔清凉里〕府の東北部。京元線清凉里驛附近の總稱。東大門より電車を通ず。南山を近くに望み、北漢・道峰・水落等の峻峰東北に聳え、松林と楊柳の鉛木に配するに清流ありて、風致頗るよく、清凉の名に背かざる景勝の地として、京城市民散策の好適地たり。ここに總督府林業試驗所・京城帝國大學農科・京城農業學校・無電受信所等あり。永徽園は李王御生母嬪妃の御墓所にして、それに隣る崇仁園は李王の王長子晉殿下の御遺骨所とす。林中に清凉寺の尼寺あり。〔興敬寺址〕東大門外にあり。朝鮮佛教。創建年代沿革不詳。現在田圃中に五重石塔婆を存するのみ。塔は高麗時代中期のものと推定せらる。

ケージョー　桂城面　朝鮮慶尙南道昌寧郡の東南部。郡管内一五面中の一。東及び東南は靈山面及び二同面、北は昌樂面、西は文麻面に各と相隣接す。東境には靈鷲山（六八二米）聳立して、東半部は山地を成せども、西南部は洛東江の蛇曲流帶に當り、潤沼群地帶に臨み土地一般に低平、地味肥沃にして、良田連なり本郡重要農業地域の一部をなす。道路は靈山邑より北昌寧邑に至る二等道路中央部を縱貫し、之より更に里道數本を分岐して諸部落と連結し交通便。住民は質朴にして農業に從事し、產物は米・麥・大豆を主とし棉花・大麻・煙草等あり。

ケージョー　掛上峰　朝鮮咸鏡北道にある山。鏡城郡朱南面の西境、茂山郡三社面との境界上に聳立す。標高二一三九米。山嶺は北の櫃床峰（二三三三米）。南の萬塔山（二二〇五米）に連る。

ケージョー　傾城山　阿武隈山脈の一峯。福島縣平市の南西方約五粁、同郡湯本町の北嶺。山中には松樹岩石の見るべきものあり。南麓湯本町には溫泉湧き、北方に磐城炭坑あり。山腹を陸前濟街道ほぼ南北に走り、この部分の坂路を堀坂と呼ぶ。常磐線はこの山に六〇〇米餘の隧道を穿ちて通ず。維新の際山麓にて戰鬪行はれたり。

ケージョーナン　慶尙南道　→慶尙南道

ケージョーホク　慶尙北道　→慶尙北道

ケージン　京津　京都と鎭津を指して京津と呼ぶことあり。また京都と近江國の大津の併稱。

ケージン　雞心嶼　臺灣臺東廳臺東郡の舊保名。今の臺東郡火燒島庄は臺東の東方太平洋中の一島にして、島中の火燒山よりその名を生ずるものなるも別に島の形狀より之を雞心嶼と呼ぶこと清康照六十一年編の黄叔璥の臺俗六考に見ゆ。

ケージン　京仁線　朝鮮總督府鐵道京釜線の一。京畿道にあり。京城府永登浦町にある京釜本線永登浦驛より西方海岸の仁川府に通ず。全長二九・七粁。

ケーズカ　瑩塚山　日光白根山（二五七八米）の西方に續く山。群馬縣利根郡片品村に峙ち、標高一八八五米。北麓には北東より南西にかけ菅沼・丸沼・大尻沼連り、大尻沼より發する水は南西流して小川となり、片品川に合し、南斜面より源流して西流する仁加父澤は小川に落つ。仁加父澤を隔てて南方には笠ケ岳（二二四六米）對峙す。片品川との合流點より小川を遡行し、瑩塚山の北斜面を西に登りて白根山に達する山徑あり。

ケーズル　景鶴山　奥日光尾瀨ケ原の北西峯にして、沼より約三粁に當る。北側は新潟縣北魚沼郡湯之谷村に、南側は群馬縣利根郡片品村に屬す。西嶺は大白澤山（一九四二米）にして、大白澤の北稜には白澤山（一九五三米）續き、南稜には至佛山（二二二八米）・笠ケ岳（二〇五八米）連る。景鶴山の東麓は北流する只見川に隈られ、川の東方には燈岳（二三四六米）對峙す。山頂よりは尾瀨ケ原を下瞰し、その全貌を知るに適す。

ケーセー　京成電氣軌道　私設軌道。東京市より千葉縣に通ず。下谷區の上野公園より地下鐵道によりて、東北本線日暮里驛に出で、それより荒川・足立・葛飾各區を貫いて、千葉縣市川市に至り、船橋・津田沼・佐倉等の諸町村を經て成田町に通ずるを本線となし、葛飾區の青砥より本所區の押上に至る線、葛飾區の高砂より同區内の金町に至る線及び津田沼より千葉市方面に通ずる線の三支線あり。

ケーセー　慶西庄　臺灣臺中州東勢郡新社庄の一大字たる水底寮の一部の開墾當初に於ける名稱。もと平埔蕃族パセッヘ部族中の一小社の占居せし所にして、その始めて開墾に着手せられしは乾隆三十七年臺灣の漳州人林番薯なる者に依れり。道光十年頃には移民の一部大甲溪を越えて大茅埔（東勢街）に移住し、土地を開墾して慶東庄及び慶福庄をつくれり。

ケーセー　鷄井　朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛（明治四十一年設置）。朝鮮黄海道金川郡古東面にあり。

ケーセン　桂川村　福岡縣筑前國嘉穗郡の中部。遠賀川上支嘉麻川の流域に位し北隣穗波村を隔てて飯塚市あり東は稻築村・碓井村に、西は上穗波村・大分村に接す。面積一九・九方粁。東南境に長谷山（三一二米）、西南境に彌山嶽（三七八米）あり。東北部にも低き丘陵あるも泉河内川中央を北流し、流域に沖積地ありて稻地拓け米・麥その他の農產を出す。村は筑豐炭田の一部を占め飯塚・平

山・豆田・吉隈の炭坑あり。遠賀川の谷に沿ひ、炭田地を貫通する省線筑豐本線は村の西北部を掠め、長尾驛（明治三十四年設置）を置き、縣道之に沿ひ、北方は飯塚市へ、南方は冷水峠を越えて筑紫郡二日市町方面（バスの便あり。和名抄に穗浪郡土師郷とあるは蓋し此地にして、大宇土師は其遺稱とす。いま土居・吉隈・瀬戸・壽命・中屋・豆田・九郎丸・土師・内山田の九大字よりなり、土居に役場を置く。（王塚古墳）指定史蹟。大字壽命字坂元にあり。穗波川の右岸に位する丘陵の南端にあり、前方後圓型古墳にて封土はほぼ三段に築かれ長徑約六〇米、後圓部の徑約三〇米あり、西々南に面す。昭和九年九月前方部の土砂を採取し後圓部に及べる際、石室を發見せり、石室は玄室及び前室より成り、玄室は底部に於て、奥壁幅約三米、長さ約四米高さ約三・五米あり、奥壁に沿ひて二個の古枕を存す。前室は幅略ぼ玄室に等しく奥行約一・九米、羨門によりて玄室に連絡す。玄室側壁・石床等には赤・黄・青の顔具を用ひて、各種の裝飾模様を描き特に羨門の兩側に位する前室の奥壁には、鎧冑を以て馬を描出せり。玄室内より漢式鏡一面・直刀・馬具・式具・竹玉等を發見し、前室より靫部土師を發見せり。

ケーゼン　慶全（けいぜん）

【慶全線】　朝鮮總督府鐵道局線の一部。朝鮮の南邊にあり。慶全南部線・慶全西部線・鎭海線・光州線等を含む。

【慶全西部線】　朝鮮總督府鐵道慶全線の一部。全羅南道にあり。光山郡松汀邑にある湖南本線松汀里驛より起り、羅州・光山・和順・寶城の諸郡を經て順天郡に入り、順天邑にある全羅線の順天驛に至る。全長一三四・六粁。全南光州驛（光州府）にて光州線に接續す。

【慶全南部線】　朝鮮總督府鐵道慶全線の一部。慶尙南道にあり。密陽郡三浪津面にある京釜本線の三浪津驛より西方に向ひ、全海部・昌原郡を過ぎて馬山府に至り、更に成安郡を經て、晉州郡に入り晉州邑に達ず。全長一一〇・一粁。昌原驛（昌原郡昌原面）にて鎭海線に接續す。

ケーソク　鷄足（けいそく）

【鷄足山】　阿武隈山脈南端部準平原地帶に於ける一峯。標高四三〇米にして、古生層より成る。東側は茨城縣西茨城郡七會村、西側は栃木縣芳賀郡益川村に屬す。主稜線はほぼ南北に走り、北稜に花香月山（三七八米）聳き、南稜に佛ノ山峠最高點（一九四米）連なる。山頂に大なる石あり。石面、蓋八枚を敷くに足り、面上に鶏の跡に似たる文鮮明に見ゆ。因りて山名出づ。

【鷄足山】　野登山（三重縣）の別名。

【鷄足山】　中國山脈南方支脈に屬する一峯。岡山市の北西方約二九粁、岡山縣上房郡高尾町南境に峙つ。南稜は吉備郡富山村に延ぶ。標高五八六米。山麓秋父古生層より成る。西・南麓を高梁川南東流し、これに沿ひ伯備本線通ず。山頂よりは瀬戸内海を望み展望よし。山麓の人々は七月二十六日の夜此山に登り海面より月の出づるを望み、三尊の彌陀を拜する風習あり。

ケーチョー　鷄頂山（けいちょう）

郡須火山脈に屬する高原山の一峯。櫻原温泉の南西方に峙つ。栃木縣鹽谷郡塩原町に峙つ。標高一七六六米。↓高原山（たかはらさん）

ケートー　桂東（けいとう）

朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛（大正十二年設置）。朝鮮黄海道鳳山郡會仁面にあり。

ケートク　慶德村（けいとく）

鳥縣岩代國耶麻郡の西南部。喜多方町の西南に接し、東は豐川村・棠鳥村に、北は上三宮村に、西北は小川村に各隣接し、西は日橋川を距てて河沼郡川西村に相對す。西部に琴平山（三七七米）・虚空藏森（三〇四米）聳立し、山嶺前北に連亙し、西半は山地をなすも、東半は土地低平にして東境を日橋川の一支濁川南に流る。東半は會津盆地の北西緣に當り、灌漑の便よく水田拓け、米・繭を主産し、外に材木を出す。此地は藩政の頃は慶德組と稱されし所、新宮氏代々の居所にして、建暦二年の築造になるといふ新宮城あり、大館ともいはる。村名は村内の慶德寺によるといふ。（熊野神社）大字豐岡に鎭座。祭神、熊野櫲樟日命・伊弉冉尊・速玉男命（新宮）。天喜三年、鎭守府將軍源頼義、安倍貞任追討祈願のため、紀國牟婁郡熊野に坐す三所の神社を、河沼郡熊野新堂村に勸請し、其後、寛治五年源義家の清原武衡征討の際に、新堂村より耶麻郡新宮村（今の豐岡）御嶽山に遷座し、社領として百餘町村を寄附せり。壽永年中、越後城長茂の爲に社領多く押領せられ、永で文治五年佐原義連の入國に及び社領悉く没收せらる。故に事を鎌倉幕府に訴へたれば、將軍源頼朝は改めて社領二百町歩を寄す。然るに弘治以來領主芦名家の一族は内訌紛亂止む時なく、其間に社領また押領せらる。慶長六年蒲生秀行復封して芦名氏に代るや、社領五十石を寄進せしも、のち二十年を經て寛永四年加藤嘉明の入國するに及びまた社領を没收す。ここに至つて神官社僧漸く離散し、加ふるに同十六年地震ありて社殿朽廢に傾く。猶拜殿の如きは十三間半に六間、鋼座以來のものたりしも類燒するに至り再村を以て修補するに過ぎざりき。寛永二十年保科氏の代つて當郡を領するに及び崇敬厚く、社頭を再興し、その新願所となす。寛文七年九月その領内の神社を調査し、當社を領内七大社の一に加へ、爾來七年ごとに指定、十四年ごとに葺替へと定む。且つ近郊の村々に命じて高十石に付米四合づつの神饌を寄獻せしむと云ふ。明治五年郷社に列し、後に縣

社に昇格す。境内一千四百餘坪。例祭、七月二十日。

ケーナイ　溪内面（けいない）

朝鮮全羅北道長水郡の東端。同郡七面の一。北は溪北面、西は天川面及び溪南面、南は蟠岩面、東は慶尙南道咸陽郡西上面に各相隣接す。小白山脈東境を南北に走り鶴裕山（一八七三米）・鶴の高峰相連り、西南境に白華山（八五〇米）・鶴峯え、急傾斜を以て面内に下り、錦江の支流溪内谷を造り谷底盆地を形成す。溪内川の兩岸には美事なる河成段丘の發達あり。流域の便と相俟つて水田の發達を見る。産物には米・麥・大小豆等あり、山地には楮・三椏を栽培し、また漆・柿等を産す。面政の中心長溪里は溪口に位置し、西方鐵安に一五粁、南方郡邑長水に一〇粁、北方安城里に一七粁、東方慶南咸陽郡安義に各二等道路を通じ、各線乘合自動車の便あるも安義へは面境に於て七三四米の六十曲必峻坂あり。聚落は主として盆地周縁に環狀分布をなす。

ケーナン　溪南面（けいなん）

朝鮮全羅北道長水郡の略々中央。郡七面中の一。東及び北は溪内面、南は蟠岩面、西は長水及び天川の兩面に各相接す。地勢—小白山脈中に位置し、殊に東南境には白雲山（一八七三米）・長安山（一二三七米）等聳立し、餘脈長びて西境を劃し、谷底に狹小なる盆地あり。産物には麥・大豆・蕎麥・綿・柿等あり。山間には山蜜も得はれて蜂蜜を産す。北方溪内面より來る二條道路、西境の桃峠（六一一米）を越えて長水邑に達する外、未だ道路の改修を見ず交通絶めて不便なり。聚落は山麓線に沿うて散村形に分布し、その主なるものに好德里・華陰里・弓陽里・佳谷里・祐谷里・華陽里等あり。

ケーナン　藝南電氣軌道線（けいなん）

私設電車。昊市内電車線ともいふ。廣島縣にあり。昊市より東方の加茂郡廣村長濱に通ず。本線は川原石より停車場前を經て長濱に至る一一・六粁、支線は停車場前より昊驛前に至る〇・三粁。

ケーノ　慶野松原（けいの）

兵庫縣三原郡松帆村大字榎個野にあり。指定名勝。瀬戸内海に臨み西方遙に小豆島に對し、北端は美麗なる五色濱に接し、南端は風景崎の突角を望み、東西の延長三粁餘にして、長大なること肥前唐津の虹の松原に及ばざるも、風光の美はこれに相似たり。松原には白色の砂丘起伏し、風に依つて移動し、ために松樹の半ば埋れたるものあり、海に面する部分は一帶の砂濱をなし、松は概ね黑松にして、砂上に點在し、その枝四方に擴がりて蒼鬱爾る美しく、幹圍の大なるものは約三・九米に達す。萬葉・三「個個の海のには好くあらし苅藻の亂れ出づ見ゆ海人の釣船　人麿」同・一二「個個の浦に寄する白浪しくしくに妹が容儀は念ほゆるかも」越南國敦賀郡に個個の語あり、右の歌に或は鎭西の歌か。村上忠順氏は名所集に越前の歌枕とせり。

ケーハン　京阪（けいはん）

【京阪】　京都市及び大阪市の總稱。日本文化地帶の一。古くは單に京都と大阪を繋ぐといふ意味なりしも、のち關西の代表的文化地區としての汎稱となる。

【京阪電氣鐵道】　私設鐵道。近畿地方中央にあり。京阪線は大阪市北區の天滿橋より京都市東山區の三條に至るを本線とし、伏見區の中書島より久世郡宇治町に通ずる宇治支線、三條より滋賀縣大津市に至る京津線、滋賀縣滋賀郡坂本村より大津市の石山寺方面に至る大津線あり。新京阪線は大阪市北區の天神橋より京都市中京區の四條大宮に至るを本線とし、天神橋より三島郡千里村に通ずる千里山支線、東淀川區の淡路より同區内の十三（じゅうさん）に至る十三支線、京都市右京區の桂より同區内の嵐山に至る嵐山支線あり。

ケービ　景尾（けいび）

【景尾】　臺灣臺北州文山郡深坑庄の南部にある一小聚街。景尾溪と新店溪との合流點に位置し、臺北市よりは、鐵道萬華驛より私設鐵道、又臺北市内よりは乘合自動車の便あり。何れも十數分にして達す。此地は文山郡新店庄、石碇庄、又は海山郡中和庄へ通ずる要衝として、古くより知られ、人口・戶數共に相當多く、臺灣電力株式會社變壓所・製塩會社・公學校等の設備あり。もと文山堡枕尾街と稱し、嘉慶の初年、臺北地方に住居せし泉州人との地方に侵入して一街市を形成せりと云ふ。枕尾とは往時郭錫留なる者、新店溪の水を引きて一大圳を築き灌漑に利し（錫留の開築にかゝるを以て留公圳の名あり、現に此地を程遠からざる景尾溪畔に留公圳成立由來を記する石碑を存す）景尾溪を跨りて一水枕を架設せしより枕頭及び枕尾の地名出でたり。枕尾は同音の轉換により景尾と書す。

【景尾溪】　臺灣臺北州文山郡の西部を流るる川。淡水河の上流をなす新店溪の一支流にして、其源は遠く文山郡石碇庄山地に發し、石碇・深坑の兩庄を横切りて西流し、深坑庄景尾に於て新店溪と合流す。此川は魚族に富み、捕獲さるゝ鮎は臺北人士の食膳を賑はす事多大なり。又臺北近郊の漁場として、四時釣客の絶ゆる暇なし。

ケービ　猊鼻溪（げい）

岩手縣東磐井郡の長坂村より松川村に亙る溪谷。指定名勝。この溪峡は北上山地の一部を作る非常に厚き石灰岩の砕んど西に向ひて直立せる中を、松川の上流砂鉄川の流が紆餘曲折して穿ちし延長二粁餘の峡谷なり。兩岸壁立高さ百米を超え、屏風の如く廣く平に屹立せる岩壁あり、それより分れて天を摩する瓦筍の如く形を變ぜし部分あり、洞窟あり、溪流懸り、流は瓦砕の底に潜みて深淵をなし、深淵は盤の中腹よ

り隠りて伏籠をかゝぐ。その岩壁の壯大、雄壮の怪異はまさに天下の一偉觀たり。船に乘りて溪水を溯れば鏡明岩・淺雲岩・昆沙門窟・吐雲峰・壯夫岩・少綿岩・小飛泉・大飛泉・馬鼠岩・曲屏岩・歩雲岩等の奇勝展開す。峽の東に盡くるところに大岩壁上より絶えず細流を迸出せしむる怪突起あり。その狀、恰も獅子の鼻の如きを以て古くより獅子ケ鼻と名付けられしが、稅鼻溪なる名稱はこれに起因するもの。また其の對岸の小丘、攬勝丘は稅鼻を正面に眺むるに最も良好なる位置なり。

ケービ　藝備 びん

【藝備線】 省線山陽線の一。興山縣・廣島縣兩縣に跨る。省線庄原線と社線藝備鐵道を合併し本線を置く。山陽本線廣島驛（廣島市）より安藝郡・安佐郡・高田郡・雙三郡と北に走り、これより比婆郡を經て興山縣阿哲郡に入り上市村の伯備線の備中神代驛に至る。全長一五九・一粁。廣島驛にては更に省線宇品線・廣濱線自動車に、備後十日市驛（廣島縣雙三郡十日市町）にて雲藝本線自動車に、甲奴村）にて省線福塩北線に各接續す。

【藝備鐵道】 廣島縣にありし社線。昭和十二年省線に買收され省線庄原線と共に藝備線となる。

ケーヒン　京濱 ひん

【京濱】 東京・横濱・川崎三市の總稱。商工業地區として日本有數のもの。古くは單に東京と横濱を擊ぐといふ意味なりしも、漸次關東の商工業の代表的なる地區としての汎稱となる。

【京濱國道】 東京市より伊勢神宮に至る國道中、東京・横濱間の部分の俗稱。兩市の發展に伴ひ、兩市の連絡と、その中間區域に兩市より漸進的に發達して一續きとなれる品川・大井・川崎・鶴見・神奈川等を縫ふ自動車道路の必要に迫まられ、ほぼ舊東海道に沿うて改修せしもの。幅員は二〇—三〇米位あり、中央車道瀝青コンクリート鋪裝、兩側歩道は砂利鋪裝とし、その境にはプラタナスを植附く。大正十五年竣成す。

【京濱電氣鐵道】 私設鐵道。東京・川崎・横濱三市を連ぬる鐵道。東京市芝區にある東海道本線品川驛より東海道本線に並行してその東側を走り、品川・大森・蒲田各區を過ぎ、川崎市を貫いて横濱市に入り鶴見・神奈川各區を過ぎて東海道本線横濱驛に至り、それより市内中區日ノ出町に達す。なほ東京市蒲田區羽田鈴木町の穴守驛に通ずる支線及び川崎市大師町に通ずる支線あり。

ケーフ　京釜 ふ

【京釜線】 朝鮮總督府鐵道局線の一部。朝鮮の南半部にあり。京釜本線・京仁線等を含む。

【京釜本線】 朝鮮總督府鐵道京釜線の一。朝鮮を南北に縱貫し、滿洲國方面に連絡する幹線の南半部をなす。慶尙南道釜山府にある釜山驛より慶尙北道の大邱府、忠淸北道の南部、忠淸南道の大田府を經て京畿道に入り、京城府にある京城驛に至る。四五〇・五粁。京城驛に於いて縱貫線の北半部たる京義本線に接續し、更に南滿洲鐵道と連絡して、釜山より奉天及び新京間に直通急行列車を運轉し、奉天まで約二十二時間半、新京まで約二十七時間、釜山・京城間は約八時間にして達す。釜山鎭驛（慶尙南道釜山府水晶町）にて東海南部線に、三浪津驛（同密陽郡三浪津面）にて慶全南部線に、大邱驛（大邱府錦町）にて東海中部線に、金泉驛（慶尙北道金泉郡金泉邑）にて朝鮮鐵道慶北線に、大田驛（忠淸南道大田府榮町）にて湖南本線に、鳥致院驛（忠淸南道燕岐郡鳥致院邑）にて朝鮮鐵道忠北線に、天安驛（同天安郡天安邑）にて朝鮮京南鐵道に、水原驛（京畿道水原郡水原邑）にて朝鮮京東鐵道に、永登浦驛（京城府永登浦町）にて京仁線に、龍山驛（京城府漢江通）にて龍山線・京元線に夫々接續す。

ケーフイ——社

臺灣新竹州大溪郡の舊社。大料崁溪の上流蕃界の比較的平地近くにあり、アタヤル族の中のマカナジーの系統に屬する高砂族の部落なり。一般には大料崁前山蕃と稱さる。戶數四二、人口二〇三。（昭和十一年末）

ケーフシュー　圭府聚庄 ふしゅう

臺灣北部臺北市の内、大稻埕と總稱せらるる部分の開拓當初に於ける稱呼。もとケエゲーツヲ（圭母卒）社といへる平埔蕃族の所在地にして、清の乾隆二十九年に成りし臺灣府志（續修）に奇武卒庄と見ゆるは、ケエゲーツヲに充てたる近音譯字とし、のち更に近音の佳字に改めて圭府聚庄といへり。此の地方は漢族移植の初め、水田を開きて中に一大堤（堤とは穀類を曝す庭なり）を作り、農民は稻の熟せる際、堤上に稻を曝せしにより、大稻埕の稱呼起れり。

ケーホ　景浦面 けいほ

朝鮮咸鏡南道洪原郡の中南部。郡管内十一面中の一。東は雲浦面、北は好賢面、西は看賢・鶴泉・州賢の諸面に各相接し、南は日本海に面す。蓋馬熔岩臺地の東南緣部をなし、龍臥山（八〇五米）屈起して、其山脚南方に展びて遂に海岸に達し、西半部は景浦川南流し兩岸に稍平地を見、河口附近に砂濱海岸を形成する外、海岸一般は岩石海岸をなし、灣口に聳ゆる松嶺（一五七米）は出入船舶の好標識を成す。道路は東北は北青邑、西南は咸興府に通ずる一等道路海岸に沿ひて東西に横斷し、鐵道咸鏡線また域内を縱走し登浦驛あり之を核として三等道路及び里道四近に通じ交通便なり。農産物は大豆・麥・玉蜀黍等にして婦女は麻布の製織に從事する者比較的多く、臨海民は半農半漁にして、明太魚鼓も著はれ年産十數萬圓に達す、其他、鰯・鹽等あり。又後背山地には鐵鉛の產あり。最近隣接雲浦面と併合して登雲面を

建つ。人口一一六八九。（參象田）登雲面の西南半部。往年日露戰爭の衝突せし地點。近き海岸には松原つゞき、神には鵜島あり、海は遠淺にして岩石なく多數の貝類棲息し、海水浴・潮干狩に適す。

ケーホ　鷄母岳 けいぼ

臺灣境の一峯。→御岳山

ケーホー　桂芳山 けいほう

朝鮮江原道にある山。平昌郡の東北境、麟蹄郡との境界上に聳立し、山は珍富面（平昌郡）と内面（麟蹄郡）とに跨り標高五七七米。山陵は北方の五臺山（一五六三米）・鷹伏山（一三六〇米）に連る。

ケーホク　溪北面 けいほく

朝鮮全羅北道長水郡の東北端。郡管内七面中の一。北東は茂朱郡安城面に、西北は鎭安郡銅旭面、西は天川面、南は溪南面、東南は慶尙南道居昌郡北上面に各々隣接す。地勢、小白山脈中に坐し、東南境に鎭裕山（一五〇八米）屹立して、急傾斜を以て域内に下り他の三面赤山岳起伏し、其中央に小谷底盆地を形成す。盆地内を流流する錦江の支流溪北川は僅に月峰里の出口峽谷により錦江に合す。住民殖る質實にして農を主とし麥・大豆・馬鈴薯等を產し、副業として養蚕を行ふ者多し、其他薪炭・柿・栗等の產あり。交通、二等道路は北方より來り、面の中央を南北に縱貫して南方長溪里に通ずる外、何れも里道且つ坂路多く車馬を通ずるもの少し。

ケーホク　慶北線 けいほく

私設鐵道。朝鮮慶尙北道にある朝鮮鐵道會社線。京釜本線の金泉驛（金泉郡金泉邑）より分れ安東郡安東邑の慶北安東驛に至る。全長一一八・一粁。

ケーヨ　藝豫海峽 げいよ

廣島縣安藝國と愛媛縣伊豫國高縄半島との間の海をいふ。大三島・大島・大崎上島・大崎下島・伯方島等の大小多くの島嶼、その間に點在す。その内安藝側の小海峽を柳瀬戸といひ、伊豫側の海峽を來島海峽といふ。

ケーヨー　桂陽面 けいよう

朝鮮京畿道富川郡の東北端。郡管内十五面中の一。京城府の西方二〇粁、北は金浦郡高村面及び黔丹面、西は西串面、南は富内面、東は吾丁面及び金浦郡陽西面等に各々相隣接す。西境に桂陽山（三九五米）屹立し、其餘勢を受け西半部は丘陵起伏するも、東半部は漢江の洪流地に屬し、土地肥平、地味肥沃にて重要なる農業地域を成す。果樹・蔬菜類は京城・仁川等の大消費地に近接するため、其栽培盛大にして毫厘栽培區域を擴張し車梨・葡萄を產し白菜・大根・蕃椒・蒜等を主產物とす。其他、米・麥・粟・小豆等の產あり。鐵道京仁線富平驛は南方約一〇粁にありて、之より二等道路を通じ、域内を縱貫して北方金浦郡金浦に達し、本線に乘合自動車を通ずる外、等外道路網比較的密なり。面の略中央、場基里に面事務所を置き、普通學校あり、また市を開く。（桂陽山城址）面の西境にあり。京仁線富平驛の北方約六粁、富平邑近くの高臺に位す。附近の眺望よく、漢江の長流は悠々と繞り、冠岳・南漢山・北漢山等の秀峰を望み、展望甚だ快濶にして、全山紅葉する頃は杖を曳くもの多し。

ケーリュー　鷄龍 りゅう

【鷄龍面】 朝鮮忠淸南道公州郡の南端。一邑十二面中の一。本郡中の大面にして東は反浦面、北は州外面、西は木洞・瀧川の兩面、南は論山郡豆磨・上月・魯城の諸面に相隣接す。地勢、東境に鷄龍山（八二八米）、北境に明德山（三二七米）等聳立し、東北一帶は山地連なれども、西南部は論山江の上流流域に屬し、土地稍々低平なり。交通、公州邑へは北方僅かに數粁、此地よりは一等道路通じて面内を南北に縱斷し、南方一五粁にして論山邑に達し、此間乘合自動車頻繁に通じ、更に支線數本を分ちて、面内主要地域と連絡し交通甚しく便なり。產物は米・麥・大豆・棉花・煙草等にしてまた明紬・絹布等あり。聚落は北半部には極めて少なく、南半部に多し。その主なるものに面事務所々在地なる歓天里及び錦帶・陽化・華軒・上城・月谷・柳坪・月巖里等あり。

【鷄龍山】 面の東の境にあり。標高八二八米。朝鮮名山の内に數へらるる湖南の秀嶺にして、樹木茂り、岩間を走る溪流は澤となり、碧となりて、景致に絶えず變化を與ふ。山中には東鶴寺・甲寺等の寺庵あり、境内より江景・公州の兩平野を瞰下し、展望よく、鮮人の靈地として探勝に赴くもの多し。登山には、大田より公州行きの乘合自動車を途中まで利用するを得。また湖南線豆溪驛よりの道あり、故に大田方面より登り、歸途豆溪に下山するか又はその反路を選ぶべし。なほこの山麓の一部にある東鶴寺溪に沿へる兩側の斜面には、李朝初期より中期頃までの間に燒かれし陶窯散在す。そこより發掘せられたる俗稱鷄龍山窯の古陶器は好事家間に珍重せられ有名なり。

【鷄龍山】 朝鮮忠淸南道にある山。公州郡鷄龍面・反浦面及び論山郡豆磨面の三面交界上に屹立す。標高八二八米。錦江の一支甲川の一上支、南斜面に發源す。

ケーリン　圭林 りん

山梨縣東八代郡にありし村。明治三十六年、本村は五成村・舊柰村・寺尾村と共に廢せられ、新に笛川村を置く。

ケーリン　鷄林 りん

【鷄林】 朝鮮の別稱。鷄林八道と云ふに同じ。新羅が朝鮮半島を統一して以來、朝鮮全土を總稱していふ別稱なり。鷄林の名稱は慶州の東南約二粁にある鷄林なる森より起る。鷄林は一に、始林とも稱す。新羅第四世、脫解王の九年三月（垂仁天皇九十四年、後漢永平八年、西暦六五年）に金色の小櫃が始林の樹に懸れる下に白鷄鳴けり。脫解王この金櫃を開けば、その中に卵あり、中より一男子を得て之を金閼智と名づけ、よつて始林を鷄

林と改め、のち國幾となる。

【慶林】朝鮮總督府鐵道會寧茂嶺線の一驛(明和三年設置)。朝鮮咸鏡北道會寧郡雲頭面にあり。

ケーワ　慶和　朝鮮總督府鐵道鎮海線の一驛(大正十五年設置)。朝鮮慶尚南道昌原郡熊川邑にあり。

ケアゲ　蹴上　京都市左京區の地名。東山日岡峠の北麓を云ふ。南禪寺の南に位し粟田口三條通の東の終點にして、往時京都より東國に到る出口に當る。名稱は往昔關原興市なるもの、此處にて馬蹄にて水溜の水を原義經にはね上げしより蹴上げと稱すと云ふも信ずべからず。此處に京都疏水の蹴上溜あり、此處より鰻管を以て蹴上發電所に水を送る。また京都上水道の淨水池は道路を挾んで西南方の高地にあり。

ケイ　氣比　【氣比】越前國(福井縣)の古地名。中世の莊號にて、建暦二年の舊記に出で、氣比社領なり。その田は四十三町四十歩と云ふ。建長二年の記文には八條左大臣領とあり、其寄緯これを傳へて、最勝金剛院に寄進し、遂に關白道家の所管に歸し、後また後宇多院興等院領となれり。日本書紀に笥飯浦、萬葉集に氣比海出で、延喜神名帳に敦賀郡氣比神社あり。地は凡そ今の敦賀郡敦賀市の一部及び東郷村に當る。筈鑑記文「一、寺院、八條禪尼寄進狀、崎城郡御國氣比莊、長田莊、作莊々者、故八條左大臣領也、後家禪尼相傳之、施入功德、可勘授菩提之由有命、仍寄進最勝金剛院以檢校僧慈源、可令付屬之由、契約已畢、即以承諾、彼一期之後、爲寺領、檢校可知行、以年貢之上分、可充寺用」後宇多院御領目錄「興善院領、越前國氣比莊、以上別當惟方卿以下寄附也」

【氣比松原】福井縣敦賀市の西端にあり、敦賀灣に臨む。指定天然記念物。東西一〇九〇米、南北六五五米の地に三萬六千株の松樹繁り、一勝區をなせり。松の約八割は赤松にして、他は黑松なり。白砂青波に松の綠を配し風景佳絶なり。此地は往古神土に往復せし地にして、曾て垂仁天皇の朝、大加羅國王の子、都怒我阿羅斯等この浦に入津せしことあり、氣比神社の大宮司をして、これを檢校せしめしことありきと。いま松原神社及び明治天皇駐蹕の記念碑あり。此地、萬葉集第三卷及び第十二卷の笥飯浦・笥飯浦に當るともいふ。日本書紀・垂仁天皇二年「御間城天皇之世、額有角人、乘一船、泊于越國笥飯浦、故號其處曰角鹿也、問之曰、何國人也、對曰、意富加羅國王之子、名都怒我阿羅斯等、亦名曰于斯岐阿利叱智干岐、傳聞日本國有聖皇、以歸化之、到于穴門、時、其國有人、名伊都比古、問之曰、吾則是國主也、除吾復無二王、故勿往之、故處曰、吾則是國主也、除吾其名、爲人、必知神王也、即更還之、不如詣路、留連鳴浦、自北海一廻之、經出雲國、至于此間也」

【氣比】但馬國(兵庫縣)の古地名。中世の莊名にして、本家は白川千體阿彌陀堂領、領家は左兵衛督局、前地頭は太田太郎左衛門政綱なり、後には北野社領となれり。弘安中、田五十町一段餘ありと。地は城崎郡港村及び城崎町の淨を含みしものの如く、港村の大字に氣比の名を存す。

ケイ　慶伊三嶋　沖縄縣にある島。那覇港の北西方約六浬に位し、全部石灰質の砂礫より成れる三嶋なり。最東に位する慶伊嶋は、平坦にして阿且樹叢茂し高さ三七呎、高潮には分れて二嶋となり、石花礁に圍繞せられ、最西にある亀洲嶋は高さ二〇呎、阿且樹叢生し、東西約二浬幅一浬半なる石花礁の東部に位す。この石花礁の北部及西部は低潮に干出すること四乃至五呎、最南嶋は古伊奈といひ高さ僅に七呎、前記二礁脈の南端間にある狭石花礁上にあり。此三嶋は共に人家なく唯漁期中、那覇及び糸滿近傍の漁民、此處に茅舍を設くるのみ。魚洲の南方約二浬七鏈に寅き約七鏈、水深六尋乃至九尋の淺堆あり、周圍は陸界なり。

ケイシヌ　蹴石野　豐後國の古地名。また柏峡大野とも蹴石野ともいふ。その地いま詳ならざるも、直入郡那野村・城原村・宮城村の邊に當るか。豐後風土記・直入郡「蹴石野、在二柏原郷之中一、同天皇獵伐二土蜘蛛之時一。柔二於柏峡大野一。其野中有二石。長六尺。廣三尺。厚一尺五寸。天皇所之日。陰暗滅二此陵者一。常蹴二鼓石一。聲如二柏葉一。而舉揚即蹴之。陵如二柏葉一。因曰二蹴石野一。今柏峡大野」

ケイノ　筒飯野　福岡縣遠江國引佐郡の中部。濱名湖の東北岸に位す。東は中川村・井伊谷村に、北は奥山村に、西は東濱名村に相接し、東南は濱名郡に境し、西南に引佐細江を擁す。北部及び南部はやゝ高きも、中部は一帶に低平にして、寧ろ車湖に過ぎ湖岸一帶には茲前密生し蘆(氣賀蘆)の產出多し。また米の產額からず、織物業また盛んなり。社線濱松鐵道通じて氣賀驛(大正十四年設置)を置き、また縣道濱松市方面より來り、中部を西走し、引佐峠を越えて東濱名村に入る。此地は和名抄引佐郡伊福郷の地とす。古くは眞川村にも作る。管下は郡役所の所在地なり。近世一萬五千石の邑にして幕府ここに圖書を設けて、新居と相倚り東海道の關鍵をなさしめたり。近藤氏の祖、登之助(石見守)秀用は、井伊谷黨なりしが、永祿年中井伊氏と共に德川氏に歸服してその軍を迎ふ。子孫家本に列し三家に分れて舊邑を保つ。【引佐細江】灣岸の延長約一一浬、都田川これに注入し、東北岸に平坦なる沖積層地を成し、南岸と西北岸は屈曲をなし、松樹繁茂し風光美はし。延元四年宗良親王井伊谷城に在りて詠じ給ひし「夕暮はみなともそこのしらすけの入海かけてふすむ松原」の歌は最もよく知らる。萬葉・一四「遠江引佐細江の澪標吾を還めてあさましものを」夫木・二三「我そなくいなさぼそ江の友ちとりあとふみつけしむかし思へば夢讃爲相」【細江神社】大字氣賀に鎮座。郷社。祭神、素盞嗚尊・奇稲田姫命・大蛇神。もと牛頭天王社と稱す。延喜式內社大敍神社に充つる說あり。天正十三年十二月社殿再建の棟札を藏す。また江戸時代には三石の朱印領を安堵せらる。例祭、七月十二・十五日。【壽樂寺】大字伊藤にあり。臨濟宗方廣寺派。大慈山と號す。本尊は定朝作馬頭觀世音。文龜元年の創建、開山は湖峯和尙なり。往昔寺內に慶田・淨光の二院ありしが、のち當寺に併合す。慶安元年德川家光より朱印三石並に山林二町一反九畝二十二歩を賜ふ。

ケカチ　毛勝山　日本北アルプス(飛騨山脈)北端部の一峯。北西流する黑部川の左岸にあり、白馬岳(二九三三米)の南西方一六粁餘、鹿岳(二九九八米)の北方五粁餘に當り、富山縣下新川郡片貝谷村と內山村との境界に峙つ。標高二四一四米。南東方には猫又山(二三七八米)・赤谷山(二二六六米)等連嶺をなす。北斜面より片貝川の一支東又谷の流水發し、西流して本流に合す。麓屋なる山麓と有り、極高大ならざれども、眺望すぐれ、南方には鹿岳・立山を始めとし、日本北アルプスの北半の高岳巨峰を見渡し、殊に東方黑部溪谷を距てて後立山山脈の連嶺を展望する好所たり。春夏の候殊雪甚だ多く、アルプス的風光に接し得る。山頂には西方片貝川を廻行して至るか、南東方黑部川支谷、小黑部谷の中ノ谷を廻行して達するか、又は南方鹿岳より尾根筋を縱走して至るかすれども、いづれも登路整はず、相當困難なり。

ケカネシリ　毛鐘尻山　北見山脈の一峯。北海道上川支廳名寄町中心街の北東方約三十二粁、剣走支廳紋別郡雄武村に峙ち、南斜面は名寄町に亙る。標高九一六米。東方にトーウツ岳峙ち、兩山の裾合よりイソサム川發源し、北流して雄武川に合す。北方斜面よりパンケオロピリカイ川源流し、北西流して幌內川に落つ。南斜面は名寄川の一上支にして西南流するサンル川の水源地なり。

ケガノ　天下野村　茨城縣常陸國久慈郡の中央部。久慈川の支流山田川上流の地にて太田町の北方約一四粁を隔て、北は高倉村、南は塙和田村に隣す。東境には東金砂山(約五〇〇米)、西境には金砂山(四二四米)の山地共に南北に連亙し森林あり。中央はこの兩山脈の裾合にて山田川南流し、幅狹き低地をなし稻作拓け、薪炭草・麥等の農產、木炭の林產あり、また常陸藩の製鐵行はる。山田川に沿ひて縣道走り、南方は太田町に、北方は袋田村を經て大子町に通ず。和名抄に久慈郡山田郷あり。本村は塙和田村・山田村と共に其地內とす。新編常陸國志稿に據れば、元祿十二年下高倉村を割きて本村を置くといふ。村名の起源は詳ならざるも、傳ふるところに據れば、此地に舞樂(鄙)の名人ありしが德川光圀公側これを御覽になり、其妙手なるに驚き天下一と稱したり、然るにこの事上聞に達し將軍家の膝下にて、天下一とは將軍を侮辱するも甚だしきものなりとて、詰問せしに、光圀公は領內に「天下村」と稱するあり、其村の舞樂者なる故に天下ノ一と稱せしのみと辯解す。之より天下野と稱しケガノと訓むに至るといふ。中世源頼朝、佐竹氏を攻むるの際、佐竹氏西金砂山に籠り戰ひしが、利あらずして本村を過ぎ敗走す。いま村內に殘る「逗坂」「城落」等の地名は其際の稱なりと。北海探檢家木村謙次は本村の人。謙次、字は子虛、醉古堂と號す。寛政五年、藩主德川治保の許を得て、普く蝦夷沿岸の踏査を試み、北地警備の志を發す。のち十年幕東近藤重藏と北海探檢の命を受け、樺太諸島を巡視し、具さに地勢風土を筆錄して之を復命す。文化八年歿。明治四十年正五位を贈らる。

ケコ　警固　福岡縣筑紫郡にありし村。大正元年本村を廢しその區域を福岡市に編入す。

ケゴヤ　警固屋町　廣島縣吳市の町名。もと安芸郡の町なりしが、昭和三年吳市に編入せるもの。丁の南部にして、普戸瀨戸を隔てて西は能美島、南は倉橋島に對す。蓋し警固とは古代衛戍の名にして、要衝の地なれば此處に兵を屯し、安藝海上を防衛せしなるべし。その設置の時代は明ならざれども、榎倉幕府の末葉か、足利氏の初頃ならん。或はいふ近世毛利領國の時なりと。慶正の年代また詳ならず。のち地名に轉ぜり。

ケゴン　華嚴瀧　栃木縣上都賀郡日光町にある瀧。中禪寺湖の北口大尻より東方約五百米、石英斑岩の浸蝕面を掩ふ男體熔岩に懸る。總高は約百米、幅は上部にて約十米、瀧壺は深き二十米。熔岩の下端は集塊岩狀を成し、地下水はここにしばらく石英斑岩の直上より流下し、主瀧の兩側に數條の小瀧布を作る。水色は淡碧石を呈し岩壁の前に直下し、極めて壯觀なり。毎年四月より十一月頃までは岩燕多くこの岩壁に棲息し、瀧前に群を成して飛翔す。瀧水は冬季は全く凍れて主瀧は消滅し、僅に地下水よりなる小瀧布を見るのみ。而してその氷結して懸る狀はまた一偉觀たり。もと中禪寺湖は其東方の大谷川の河谷と連ぬるに他の水路を取りしものなるも、男體山より流出せる熔岩により其水路は堰塞され、供つてこの大瀧を見るに至る。瀧見茶屋より

は正面に落口を眺め得るのみなるも、之より少しく降れば、更に下方鑑壺近くまで其全貌を俯瞰し得。なほ近年完成されしエレベーターにて鑑見茶屋の側より五郎平茶屋の前に降り、容易に鑑壺の畔へ行くことを得。五郎平茶屋とは星野五郎平翁が幕嚴の仰觀を世人に紹介せんがため、獨力十年の歳月を費して明治三十二年に完成せし鑑見の茶屋なり。近時交通機關の發達に伴ひ、東京より日歸り遊覽地として此地を選ぶ者多し。

ゲザ　下座　筑前國（福岡縣）にありし郡。筑後國の南端にあり、西北は千歳川を隔てて筑後國に隣り、東南は舊上座郡に、北は舊夜須郡に接し、河川多く水利に富む。明治二十九年廢して上座・夜須二郡に合せ朝倉郡とす。當時は三奈木・蜷城・金川・頴田・立石（皆現存す）の五村あり。和名抄は下都安佐久良と訓じ、馬田・青木・髙鍋・三城・城邊・立石の六郷を管す。

ケサマル　袈裟丸山　那須火山脈に屬する一峯。栃木縣上都賀郡足尾町、群馬縣利根郡赤城村、勢多郡東村との境界に跨る。標高一八七八米。北麓には遠く皇海山、南西麓には赤城山、南東麓には二子山（一五五六米）續く。山頂より北東面すれば、脚下に渡良瀬川に沿ふ足尾銅山地域を瞰下し、その彼方に日光山彙を望み、東南方には赤城・榛名の諸峯を指呼し、眺望雄豁なり。

ケシキ　氣色杜　大隅國（鹿兒島縣）の歌枕。今の姶良郡國分町大字上小川にありと。春雨・蕨・鶯・蟬・納涼・蝋・月・紅葉・時雨・雪等の名所たり。古今六帖「我ためにつらき心は大隅のけしきのもりのきもしるきかな」玉葉集「うつりゆくけしきのもりの下紅葉秋きにけりとみゆる色かな　有敎」千載集「秋のくる氣色の杜の下風にたちそふものはあはれなりけり　待賢門院堀川」

ゲジヨー　下條【下條村】新潟縣越後國東蒲原郡の西北隅。阿賀野川に沿ふ。東は揚川村・三川村、北は北蒲原郡安田村、西は中蒲原郡川東村、西南は同郡川内村に界し、面積約七八方粁。北境の菱ケ嶽、西境の菅名岳、南境の日倉山等は何れも高さ八—九〇〇米に及び、全村殆んど山地をなす。阿賀野川中部を西流し、その川沿ひ、及びこれに注ぐ本支流の谷には所々に小平坦地ありて漸次拓け米・繭の產あり、山地には闊葉樹林多く林業行はる。省線磐越西線は阿賀野川の南岸に沿ひ、多くの小トンネルを穿ち、五十鳥驛（大正二年設置）を設け、若松街道は川の北岸を東西に通ず。此地古くは揚川村・三川村等二十六村と共に下條組と總稱せられ地にして、村名は蓋し其遺稱とす。往時本村の通路は險惡を極め出水・大雪の際は全く往來を絶てりといふ。また若松藩より村内の石間・釣瓶の二所に關所を設け、行人を監視せり。

【下條村】新潟縣越後國南蒲原郡の北部。三條市の東方約七粁にあり。土地東南より西北に細長く、東北は加茂町、西南は井栗・大崎・鹿峠の三村に接し、東南は中蒲原郡七谷村に隣りし、面積一七平方粁あり。東南の半部は高度一〇〇米程度の丘陵なるも、西北半部は信濃川沖積平野に屬す。その支流略中央を縱貫し沿岸に聚落多し。平地には水田よく開け、米の產多く、繭をも出し、丘陵部は森林繁茂す。縣道及び省線信越本線は丘陵の末麓部に沿ひて村の中央を橫斷、加茂驛に近く三條市・村松町（中蒲原郡）方面へはいづれもバスの便あり。村名下條は蓋し條保制度の遺名ならんといふ。略風土記に據れば、加茂下條氏は越後新田の一流にして田中彈正重氏の次男、小森澤七郎經氏の三男、下條三郎重纒を其祖とすと。上杉景勝の時代には下條駿河守忠親あり。いま下條・天神林の二大字より成り下條に役場を置く。

【下條村】新潟縣越後國中魚沼郡の北部。信濃川の中流々域に位し、中條村の北、岩澤村の南に隣り、西は川を隔てて橋村に面し、東は中魚沼郡田藤山村に界す。略々方形の地域を占め面積約二五方粁あり。東境を南北に延びる高さ二—三〇〇米の山地より西方に緩く傾斜し、西部の信濃川洪積地に下り林野廣し。西部の平地には田畑よく拓く。農村にして米・繭を主產地とす。縣道と省線十日町線西部の平地を南北に走り、前者には バスを通じ、後者には下條驛（昭和二年設置）あり、南は十日町、北は小千谷町を經て、長岡市方面への交通便利なり。沿革の殊に記すべきものなきも、江戸時代以前はこの邊を下條郷と呼べるものの如し。明治維新に至り柏崎縣より、新潟縣の管轄となり、三十二年三好下組を合併し、下條村と稱し、同三十四年更に東下組をも併合し以て今日に至る。

【下條村】富山縣越中國中新川郡の西北部、富山平野の東北部に位す。東は上市川を境に西加積村、西に白岩川を境に西水橋町・三郷村に接し、北は富山灣岸との間、東水橋町を隔てて南は上條村・相ノ木村・宮川村に界す。面積五・五二平方粁、全村殆んど水田にて、農產は米を第一とす。また賣藥製造行はる。縣道四通し、上市町・東水橋町、滑川町等へバスの便あり、省線北陸本線は北部を橫斷し水橋驛（三郷村地内）に近く、交通便利なり。此地古くは下條郷二十一村と稱せられし地なり。明治二十二年町村制施行の際二十三ケ小村を合して本村を置く。

【下條村】山梨縣甲斐國北巨摩郡の南部。釜無川とその支流鹽川との間に挾まれ、韮崎町の北に隣り、北は駒井村に、東北は鹽川を距てて穩坂村に、西南は釜無川を距てて清雪村に相對す。八ケ嶽の南斜面の末端に當り中部は山地をなし、

西部の釜無河岸に七里岩と稱する南端にして崖をなし、釜無川及び鹽川流域に沖積平地ありて水田拓け、山地には桑園ありて米・繭を主產す。省線中央本線中部を貫通し韮崎驛に近く、韮崎町を經て甲府市に至る二條の縣道また東西兩河川に沿うて走り交通便なり。この村は和名抄、巨麻郡餘戸郷の内なるべく、中世は甘利庄と稱し清和源氏の一條次郎忠頼の氣色にして、のちその子孫この地に住し下條氏を稱せり。太平記に武田下條十郎とあるは此の一族か。

【下條】愛知縣八名郡にありし村。明治三十九年手川村と共に廢し、下川村を置き、下川村は昭和七年豊橋市に編入さる。

ゲス　下須島　熊本縣天草群島の一。天草下島の南端にありて、牛深港の南側を屏障す。島はほゞ馬蹄形に北方に彎曲し南側に砂月浦を抱き、砂月部落は其灣頭に發達す。牛島・法ケ島・築ノ島・二子島・黑島等附近に散在す。

ケセマノサキ　氣前　陸奥國（岩手縣）の古地名。和名村、氣前郡に氣前郷あり。その地今の上閉伊郡釜石市・大槌町の邊なるべし。一口氣仙郡大槌灣町・末崎村・小友村・貝田村・米崎村・氣仙町・矢作村・竹駒村・横田村・世田米村等に當るともいふ。

ケセン　氣仙【氣仙郡】岩手縣十三郡の一。陸前國に屬す。縣の東南隅にあり、郡内は北上山脈の末端の山岳相連なり、平地少なし。海岸はリヤス式海岸にして屈曲多きも、大槌灣を除き良錨地なし。生業は農業と共に牧畜盛なり、郡の南邊に高田松原あり。氣仙河口より東に連なる弓形の砂濱にして、風光明媚にして、日本百景の一に數へらる。省線大槌灣線は一ノ關より出でゝ東磐井郡千厩を經て宮城縣本吉郡氣仙沼に至り、北上して本郡に入り略東南部海岸に沿ひて更に北上し、高田町に至り東し小友村より再び北上し、盛町に至る。道路は東磐井郡大原町より來る今泉街道、郡の南部を東西に走り、高田町を經て小友村に至り北上して盛町に延び、更に北上して白石峠より西に走り、郡内の世田米村にて高田町より北上せる高田街道と合し、西走して姥石峠（標高六二米）を經て江刺郡に入る。弘仁元年記に陸奥國氣仙郡見え、延喜式はケセンと訓じ和名抄は介世と註し氣仙・大島・氣前の三郷を置く。また氣憚（大同類聚方）に作る。幾國時代の頃南部を本吉郡に割く。郡名考以後はケセンと訓む。明治元年陸奥國を分ちて陸前國を置くに及び、その管下に入り以て今日至る。

【氣仙町】岩手縣陸前國氣仙郡の南部。高田町の西南に隣り、西北は矢作村に、南は宮城縣本吉郡唐桑村・鹿折村に各隣接し、東は廣田灣に臨む。西北境に橫手山（三三六米）、南境に笹長根山（五二〇米）聳立し町内樹ね山地をなすも、東北部にて氣仙川廣田灣に注ぎその下流流域は沖積平地をなす。氣仙川の河口と其南白濱崎との間は西に灣入ありて長部港を成し、好錨地たり。沖積平地には水田拓け、米・麥等を主產し外に木炭を出し水產また少なからず。東濱街道は海岸に沿うて通じ、西方の大原町（東磐井郡）に至る。縣道氣仙河岸の字今泉より分れ乗越（八〇米）を通ず。この地は和名抄氣仙郡氣仙郷の中心にして中古氣仙氏の根據とせし所なり。小槌の綻縫地として絶好の地。長圓寺の庭に隕石を安置す。方體を成し二尺餘、嘉永三年五月四日の曉に降下し大地陷沒五六尺に及びしといふ。本町は郡の南端に位し、平泉藤原氏の盛時其勢力範圍に屬し、文治五年同氏沒落後葛西氏之を領し、天正十九年同氏亡び伊達家の管する所となり爾來明治維新に至る。明治四年廢藩置縣となるや江刺縣に屬し爾來水澤縣・磐井縣・宮城縣の管轄を經て同九年岩手縣の所轄となり今日に及ぶ。而して本町往古は今泉・長部の二部落を包容したる一村なりしが、慶長年間兩村に分れ、明治に至り再び合して一村となり人口戸數の增加、富の發展等に伴ひ、大正十五年十一月町制施行を爲すに至れり。本町は伊達家時代に於ける郡治の中心地にして、町の今泉豐前・西條七兵衛・白石右近・山田六郎兵衛・及川相模・吉田筑後等相續して大肝入と爲り、爾來明治維新に至り、九代間吉田氏世襲勤務す。同氏は德望一郷に高く本郡の浮屠良俗は藩中賞揚するところなりしといふ。村内に產形觀音堂あり、創建年代詳ならず。此處に產形石あり、仙臺封内風土記によればその形婦人の子を產む形に似たり、故に產形石といひ婦人の安產を祈ると。仙臺封内風土記によれば、本町の大字今泉に村上戴郎道清人道道慶なるものあり、葛西の家臣たりしが葛西晴信が領地を失ひし後この地に居す。正保元年に高田町と今泉の兩村界に川あり、兩村民嘗に於て道慶その仲裁に入り、村民に言つて曰く、我れ齢幾許もなし、川に入り自ら首を刎ねん、其屍は兩岸に漂着せば則ち兩村は一月を等分して漁すべしと。正保元年十月川に入り自殺し衆人之を見ればは屍は兩岸に漂着せりと、よつて村民は一月の日數を等分して漁せりと。

【氣仙川】岩手縣氣仙郡世田米村に發源し、多くの小支流を合して橫田、竹駒兩村を貫き、矢作村氣仙町に接し東流高田灣に注ぐ、延長四七粁。流域面積五三五平方粁に及ぶ。此川は落政當時水澤岩谷堂地方と氣仙郡高田地方を結ぶ唯一の交通路なりき。大槌灣線の開通により、矢作・竹駒・高田等の各驛、此川の流域に設けらる。下流は鮎と鰻の魚獲盛に行はれ地方的名產なり。沖積洪涌地には、水田開け、沿岸山麓地には果樹園發達しつつあり。

ケセンヌマ　氣仙沼

【氣仙沼町】　宮城縣陸前國本吉郡の最北端。氣仙沼灣に臨み、東北は鹿折村・唐桑村を隔てて岩手縣氣仙郡に隣し、西は新月村、南は松岩村に接す。北方一帶は北上山脈の一派にして市街の背後安波山を負ひ、山脚を流るる大川は、岩手縣東磐井郡に發し、新月村を經て當町本町に入り氣仙沼灣に注ぐ。東西十五町凡そ南北一里十三町、面積一方里に充たず、人口一萬七千餘戸數三千八百餘。市街は安波山と氣仙沼灣との間にありて東西に長く南北に短し。最近大船渡線開通、漁港修築完了し氣仙沼魚市場の開業と陸上無線電信電話發受局の設置となり、海陸の連絡至便にて物資の集散益々活潑となりなほ三陸鐵道氣仙沼―前谷地線は昭和十一年より實測開始同十五年開通の豫定なるを以て、多方面の船舶出入頻繁となりしと相俟ち益々發展の途上にあり。遠洋・近海漁業は勿論、鮮魚の冷凍冷藏、水產物加工製造等の業盛にして、主なる漁獲物はかつを・まぐろ・たら・ぶり・さば・たひ・ふか・さめ・あかを・めぬけ・さんま・ひらめ・かれひ・たこ・するめ・いわし・かぢき・わかさぎ・すゞき・ます・さけ・うなぎ・はも・あゆ・あはび・あかどひ・かき・ほや・うに・えび・あさり等にて製造物には、鰹節・鮪節・鯖節・削鰹節・竹輪蒲鉾・板付蒲鉾・各種罐詰・鹽味噌・のしいか・乾たこ・乾あはび・あはび鮨讀・味付のり・乾のり・味醂干・鮫水・索乾・煮乾・其他鹽魚佃煮等あり。氣仙沼町は文德實錄延喜式に計仙麻とあり。文治五年源賴朝、葛西淸重に奧羽兩國の政を掌らしむ。同年熊谷三右兵衞尉直宗を本吉及桃生に封じてより累代氣仙沼莊赤岩寨に居りて當地を領し天正末年まで細浦城・新庄城・長崎城等櫛然たるものあり門葉大に繁盛せり。天正十八年豐臣秀吉、葛西大崎參禮遲延の罪により葛西大崎の地を沒收し從にその幕府赤岩館主熊谷太郎左衞門尉直春亦其城地を失ふ。追て木村伊勢守を經て文祿役後伊達政宗の領地となり其臣鴇田淡路地頭となり、氣仙沼古町に在り三千石を領す。寬文年間伊達兵部宗詳に黨して他に移さる。因て元祿四年伊達家の一家鮎貝兵庫頭宗重氣仙沼地頭となり、一千石を領して明治維新に及べり。〔階浦〕本町の海濱をいふ。由來本吉郡一帶の海岸は長汀曲浦に富み、白波翠松の景到る所に賞すべし。遠く金華山を雲煙模糊の間に望み、近く鼎峯頂上に立つて展望を恣にせば、北群山巒走横逸し高低起伏せる狀皆一目に觀るべく、南太平洋は煙波縹渺として其涯つる所を知らず。脚下紺碧の滄海には大小漁船の快走するあり、爽涼の海風面を吹くあたり身人界に非ざるを覺ゆ。因りて灣内外一帶の風光を包含し先年日本百景の一として入選し普く天下に其名紹介さる。〔神明崎〕綠樹鬱蒼として茂り碧海三面を繞りて幽趣誠に掬すべきは神明崎の神苑なり。村社五十鈴神社は永承の昔八幡太郎義家公、奧州征伐の折内宮を勸請して祭りしもの。白鷗の交遊、浮見堂の夕涼み等々水陸の情景約してこの崎端に集る。境内には縣譜物產海苔製法の開祖猪狩新兵衞翁の祠堂あり。〔鳴々窟(管弦窟)〕神明崎の西端にあり、天然の斧鑿妙を極め、人工の企及し能はざる雅致を誇る。洞内碧水を湛へて響灘と共に干滿す。潮水それに應じて洞内あり。大なるは蓼に鼓響を發し小なるは噌々切々、琅瑟を奏するが如し。是れ實に管弦窟の名ある所以なり。窟内は石乳を垂して自然の柱梁をなす。これ蓋し鍾乳岩の海水に浸蝕せられたるものにして、有名なる玄武洞と共に、地質學上の好資料たるべし。〔安波山〕氣仙沼町の背後に聳え、高さ二四〇メートル。眺望の佳最も優る。山上には大杉神社を奉祀す。遠く牡鹿の靈峰南に水平線上を飾り、水上五葉の連峯は北に重疊すべく、室根の雄姿は西に聳え、眼下階浦の盆地には幾多の漁船往來し、鎮に海色の優艷たるを見るを得べし。一景島の綠樹蒼々として茂る内に辨才天を祀りて一景島神社と稱す。潮滿つれば華表水上に浮ぶの樣、恰も嚴島の景に彷彿たり。陽春の候、潮干狩の好適地として名あり、四方の景佳にして都人士の遊憎を惹くもの多し。島中柄橙を產する亦妙なり。

【氣仙沼灣】　宮城縣の北端に位し太平洋に面せる東灣と西灣に分れ、西灣は東に大島村龍舞崎、西に階上村岩井崎に對應して灣口をなし、氣仙沼港には各灣口より漁船その他の船舶出入すと雖も主として西灣より出入す。港は本灣の北方にあり、南より北に灣入する狹長形狀を成し奧行五浬に及び、灣口の幅員約一千八百米、水深七メートル乃至十七メートルを算す。大島村橫沼地先より梶ケ浦に至る間約三浬半は幅員約一千米乃至二千米にて水深七米乃至十八米、外海性を有するも東に大島在るを以て大船舶の假泊に適す。梶ケ浦地先より峰ケ崎に至る間約一浬は幅員約九百米乃至三百米水深七米乃至十四米を有し、峰ケ崎以北灣頭に至る一浬間は平均幅員四百五十メートル、水深は六米乃至九米を有す。灣頭に近く舶崎及び神明崎に抱擁せらるゝ灣ありて、市街は之に臨む。内灣の面積は十ヘクタール、水深は、五米乃至七米を算す。覆物在るを以て、波浪全く平穩にして碇繫に便なり、且つ港内沿岸には護岸工事を施し棧橋築造しあるを以て、漁船の碇繫荷役には、支障を感ずることなき現況なり。

ケタ　氣多

【氣多山】　能登國(石川縣)羽咋郡の歌枕。今の羽咋郡一宮村鎮座の國幣大社氣多神社の森なるべし。聞家集「神にますけたのみ山木しげくともわきていのらむ君か千とせを」

【氣多村】　靜岡縣遠江國周智郡の中部。天龍川の支流氣田川に沿ひ、面積一〇九四六方粁の寒村。東は熊切村及榛原郡上川根村、北は水窪町、西は磐田郡山香村、西南隅は龍山村、南は犬居・熊切の兩村に界す。四方の境界線は何れも赤石山脈の支脈たる千四五百米程度の山脈にて、西境龍頭山(一三五二米)・東境龍岳(一五〇一米)・岩嶽山(一三六九米)等殊に著し。氣田川は西部山麓を深く刳りて南に曲流し、東より杉川・熊切川等の三支流を合し、何れも深き壯年期の溪谷をなす。聚落は南部の谷に多く、僅かの平地を見るも、他は山地にて森林よく繁茂せり。交通は之等各谷沿ひの細き山道により信州街道に通ずるのみにて頗る不便なり。主生業は林業にして木材・薪炭を出し、米產これに次ぎ、また繭・茶の產あり。和名抄に山香郡氣多郷と見ゆるは蓋し本村の地とす。或は隣村熊切村をも含めしものか。大字小俣の諏訪神社棟札に正德四年周智郡氣田庄小俣村と見ゆ。掛川志稿に氣田村の中に十五七百といふ部落ありてキイナゴと謂む。是は天野氏の家人十五人にて此部落七百貫文高の地を知行したる故に十五七百と書すといふ。大字小俣京丸の京丸は、天龍川の一支流氣多川に合流する石切川の源をなす山中にあり。交通不便の地にして、一部よりは仙境視さる。山中に特殊の牡丹を產し、その開花の時は遠方より望まれ、落花は溪流に流れくるとの傳說あり。住民は、その昔京都より世を避けて隱れ住みたるものの裔と傳へられ、悉く藤原の姓を名乘り、京丸なる地名は京人の住むにより出でしと云ふ。或は貴人の隱棲の遺跡とし、貴人とは平家の殘黨とも後醍醐帝或はその皇子宗良親王ならんとも云ひ、應永年間の筆錄と稱せらるる「浪合記」等の記事より、遠江・信濃・三河等の山地に傳へらるゝ尹良親王に關係ありとも云はれたるも、信憑すべき根據なし。更に里長の屋敷の結構、地内の阿彌陀堂に傳ふる親鸞上人筆と稱する畫像、また葬式の場合僧侶のあらざるところより、阿彌陀の畫像を以て導師に代ふる等の事實、及び日常の生活・言語等に見らるる特異性によりて、この地を仙境視する說ありしが、こは山間奧地に隔絕せる部落にその類例多き、隱れ里傳說の一型式を備へたる普通の山村に過ぎず。村内古くは木器を製せりとの說より推して、木地屋一派の開拓土着せるものとも見らる。京丸の地名は掛川志に遠江奧山鄉に浚いて「……御料の地であつて、三年毎に上番をした、仕丁一人ありこれを京夫丸といふ云々」と書かれたる記事より見て、奧山鄉と隣接する京丸も、また京夫丸より轉訛せしものなりとの說あり。京夫とは、京に來るべき人夫の謂にて、村人の藤原姓を名乘るも却つて何等異とすべきには非ず。山村の神人の家にはかくの如き例多し。葬式の際阿彌陀の畫像を以て導師に代ふるの風は、同じ周智郡の山村を始め、三河・飛驒等の山地にも行はれ、京丸のみの特色にはあらず。牡丹の傳說は諸書により花の色にも異說あり、更に七年・十年・六十年毎に開くとも云ひ、植物學上の問題にあらざることも明らかにして、實在のものとせば一種の石南花ならんとの說あり。柳里恭の「雲萍雜志」には「……十五里ほど山に入れば、遠江と信濃の國のさかひなる川そひの地に、京丸と呼ぶところあり、その地は他より人の行きかふべきところにもあらず、國の境に、藤の蔓もて長き五六十間もあらんとおもふほどの橋をかけたり……その地は家わづかに四五軒ありて、農の業はすれども、常の食は米は聊も食はで、稗にあづきをまじへて粮とす云々」とあり。西村白鳥の「煙霞奇談」には、牡丹に就いて「……綸岨なる山のはらに大木二本あり、遠く見渡すところ、一本は凡そ四圍、一本は二圍ほどにて、初夏に花を開く、其色白く徑尺ばかりに見ゆる。外に類すべきものなく牡丹なりしといへり……古しへ内裏の跡にて、其時の花壇なりと土俗いひ傳へり云々」。その他遠江風土記傳・乘穗錄・蟬獺奇談・遠山奇談・東海道名所圖繪・遠山著聞集、馬琴の「山牡丹」などにもこの地のこと見ゆるも、孰れも傳說又聞の類にして、多くの誇張と虛構より成るものなり。

【氣多】　但馬國(兵庫縣)の古郡名。續日本後紀承和七年紀に郡名見え、和名抄は太多・三方・樂前・高田・日置・高生・狹沼・賀陽の八鄉を置く。郡名は大己貴命を祀れる氣多神社(いま城崎郡國府村)より起るか。明治二十九年美含郡と共に城崎郡に入る。

【氣多】　因幡國(鳥取縣)の古郡名。古事記に始めて氣多之前と見ゆ。蓋し、大己貴命の裔氣多君居住の地にして後の氣多郡の海岸を稱せしものなるべし。延喜式氣多郡に作り傳馬五疋を置く。和名抄は大原・坂本・口沼・勝見・大坂・日置・勝部の七鄉を置く。明治二十九年東方の高草郡と合併して氣高郡を建つ。

【氣多島】　出雲風土記・出雲郡の條に見ゆる島。風土記に「意保美濱、廣二里一百卅歩、氣多島、生紫菜海松、有鮑螺子蕪甲贏」とあり。今その所在詳かならざるも、意保美濱は與宇賀の西、鰐淵村の河下浦にあたれば島根縣簸川郡鰐淵村の海岸なるべし。

ケタ　家田

能登國(石川縣)の古地名。中世の莊名にして、永承六年の立券狀に、田八十五町六段七とあり、建久二年頃は、後白河院長講堂領なり。延喜神名帳羽咋郡氣多神社はいまの羽咋郡一ノ宮村に鎮座すれば、その邊が卽ち莊域なるべし。田數目錄「家田莊、捌拾五町六段七、

永承六年立券狀」長講堂領目・六「一御影堂領、能登國家田莊、院宣院、年貢米一石」

ケタカ　氣高郡　鳥取縣二市六郡の一。因幡國の一部にして縣の略々中央部を占む。東は千代川を隔てゝ鳥取市及び岩美郡に、南は八頭郡に、西は伯耆國東伯郡に界し、北は日本海に臨む。面積三二五平方粁餘、六郡中の第五位、人口は五二一一一人（昭和十年調）。密度は一平方粁一六〇人にて第二位にあり。郡の南部及び西部は、中國山脈に屬する三國山（一二五二米）その山脚を廣くのばして山岳連亙し、地味は痩せ磽る東部及び北部は鳥取平野の一部を占めて、低平なる肥沃の地をなす。河川は、鳥取平野に千申部代川、西部因伯國境に近く青谷川、または河内川あり、何れも北流して、日本海に注ぐ。海岸は西部に長尾ノ鼻の小半島ある外出入に乏しく砂丘發達し平滑の砂濱長く連る。東北部には潟湖・湖山地あり。平地は米・馬鈴薯等を產し、山地よりは木炭を出し、工產には紙・絹織等あり、水產また少からず。交通路は鳥取市より西方米子市方面（省線山陰本線と國道（山陰街道）が通じ、發者にはバスの往來あり。本郡は明治二十九年氣多・海草の二郡を合併して建てしもの。

ケタノミヤ　氣多宮　鳥取縣河沿郡にあり村。大正十二年本村外四村を以て八篠村を建つ。

ケチ　鶏知村　長崎縣對馬國下縣郡（上島）の北部。東は對馬海峡、西は朝鮮海峡に臨み、北部は上島・下島間に西方より灣入し、小島嶼に富める淺海灣に面す。面積七三七四平方粁。村内白嶽・遠見嶽の山地は中部を南北に、櫻現山の山嶺は東部を南北に延びて山地多く、海岸は屈曲に富み、北部淺海灣南岸には、高坊浦・洲藻浦・箕形浦等の灣入多く、大小數多の島嶼散在す。海岸地は水產業發達す。東部に縣道ありて東南隣の鰐原町に通ず。村の地域は附近町村と共に要塞地帶内に屬し、對馬要塞司令部・鶏知重砲兵大隊・鶏知陸軍病院等あり。和名抄に下縣郡鶏知郷と見ゆるは本村及び舟越村に當る。對島の椽官阿比留氏は中世本村に住したり。大椽阿比留平太郎國信の祖比伊國津は蘇我稻目の裔、上總國畔蒜郡の人なりしが、弘仁年中國津の子行兼當國に任ぜられ、子孫ついに在廳官となる。寛元三年在廳官阿比留國信大宰府の命に從はざりしを以て宗知宗府の軍兵を發して來訪し、國信を與良郷（今の鰐原町邊）に撃破しこれを殺すといふ。大字豊ケ浦は古く比留ケ浦にも作る。一にこの邊阿比留氏の住みし地なるより阿比留浦と稱せしを、のち阿の字を省略せしものならんといふ。昭和七年竹數村を編入し以て今日に至る。竹數は古來多く詩藻に入りし地とす。萬葉・一五「竹數の黄葉を見れば香妹子が待たむといひし時ぞ來にける」同・一五「竹數の浦廻の黄葉我行きて歸り來るまで散りこすな勿」同・一五「竹數のうへかた山は紅の八入の色になりにけるかも」同・一五「竹數の玉藻靡かしこぎ出なむ君が御船をいつとか待たむ」（洲藻自岳原始林）指定天然記念物。洲藻自岳の植物帶は、對馬中部の代表的のものにして、日本分子分布の西限、朝鮮分子分布の東限をなすもの等多し。絶日本分子にして分布の西限をなすものはモミノキ・ヒメコマツ等その他十四種、絶朝鮮分子分布の東限をなすものはチリハコナラ・ムラサキカラマツ外三種なり。特に其山頂附近は對馬全島を通じてヒメコマツ唯一の產地なり。（住吉神社）郷社。祭神、豐玉姫命・彦波瀲武鸕鷀草葺不合命・玉依姫命。神功皇后御征韓の歸途、紫瀨戸に祀り給ひしを、のち現在地に遷祀せるを以て當社の創めなりといふ。承和四年より元慶三年に至るまで四度神位を進め從四位下に陞叙せられ、延喜の制に名神大社に列す。興國三年、太宰府の命に依り、放生會を興せりと云ふ。明治七年郷社に列す。例祭不詳。

ケッカ　月華面　朝鮮平安北道義州郡の南端。郡管内一邑一五面中の一。北東は古寧朝面、北西は古館面、西は枇榔面及び鐵山郡西林面、南は同姑面、東は宮川郡山面及び龜城郡沙器面等に各相隣接す。郡内の最高點に位置し、四面山地を以て圍繞す。即ち東南境に聳立する文秀山（七四一）米を最高となし、東端に華岩山（六二〇米）・僧岩山（五九三米）・笠峰（四九二米）の諸山連なり、北境には東盤山（六二三米）、西境には月出峰・天頭山・望日山等聳立して境内殆ど低地なく、只三橋川の支流南洞川沿岸に僅に平地を見る。氣候は寒暖の差顯る大にして冬季零下二〇度を示し農業は畑作を主とし玉蜀黍・粟・大豆等の產あり。交通は山間僻陬に位する爲、概して便ならず。西方京義線枇榔驛及び北方永山市に定期自動車を通ずるあるのみ。面政の中心を鷹峰洞と稱す。

ケッカン　月串面　朝鮮京畿道全羅郡の西北端。郡管内九面中の一。漢江・鹽河の河間にあり東は霊城面、南は陽村面及び大串面に隣接し、北は漢江を隔てて開豐郡臨漢面及び興敎面に對し、西は鹽河を隔てて江華郡府内面及び仙源面に相對す。西北端に聳ゆる文珠山（三七六米）を除いては著しきものなく、全域花崗岩山地の老年期に達せる三〇乃至四〇米の丘陵地域にて、濫觴の便に乏しく主に畑作地域を成す。農產物には陸稻米・大豆・豆類・煙草・茯等にして水產物に鰻・鮒・鮒等あり。面政の中心通津（郡下里）は中央より稍西に位し、東南金浦へ一五粁、京城へ四〇粁、また西方江華へは五粁各二等道路を通じ乘合自動車の便あり。通津には面事務所のほか郵便局・醫療署あり、また東郊に洛陽二七の

日に開く市場ありて頗る活氣を呈す。

ケッコー　月恒面　朝鮮慶尙北道星州郡の東北端。郡管内一二面中の一。郡の長北端に位置し東は漆谷郡若木面及び北三面、西は草田面、南は星州面及び鮒南面に各隣接す。北境に蔚鮒山の聳ゆる外は概しきものなく城内丘陵起伏し、西南部白川（洛東江支流）沿岸に河成段丘平地あり。產業振はず產物に米・麥・煙草・甘藷・落花生等あり。南部を二等道路横斷し西南星州、北東倭館に達し、倭館は鐵道京釜線驛の所在地にして此地より乘合自動車を通ず。

ケッコク　月谷面　朝鮮慶尙北道安東郡の中部。安東邑の東北に隣り、東は臨東面に、北は禮安面に、西は臥龍面に、南は臨河面に各隣接す。面内は太白山脈に屬する三〇〇米餘の山地起伏し、中部を洛東江の一支牛邊川は南に流るるも平地に乏し。產物は米・麥・豆類・煙を主とし牛の飼養行はる。街道は中部を西北より東南にかけて貫通するも險坂ありて交通便ならず。

ケッサン　月山面　朝鮮全羅南道潭陽郡の北西端。郡管内一二面中の一。東は潭陽・龍面、北は全羅北道淳昌郡鶴興面、西は長城郡上下面、南は水北面に各相隣接す。廣嶺山脈の餘脈域内に及び西境に屏風山（八二二米）、東北境に秋月山（七二〇米）等屹立せるも、東南部は秋月山に發源せる蔚川により稍々廣き平野を成す。產物には米・麥・大豆・蕎・稗等あり。城内の道路網は東隣せる潭陽邑を起點として扇骨形に展びるも、何れも等外道路にて面内相互の連絡を計るに過ぎず。聚落分布は東南部の低地に密に、西北部は極めて疎なり。即ち前者には面邑東山里を始め月山里・月平里・中月里・五星里等あり。

ケッジョー　結城面　朝鮮忠淸南道洪城郡の西部。郡管内一一面中の一。東に銀河面・龜項面、北に高道面、西は西部面、南は保寧郡川北面に各隣接す。西境に青龍山（二三〇米）の屹立する外は概ね丘陵起伏し東南部は猿頭の低地の横はるに過ぎず。產物に大麥・粟・黍・花・馬鈴薯等あり。近時養蠶も盛となるに至れり、南部に位置する結城邑を中心として道路網四通八達し、就中東南方廣川、東北方洪城邑、北方高道に通ずるもの何れも二等道路にして乘合自動車を通じ交通便なり。

ケッジョー　月城面　朝鮮黄海道金川郡の最東端。郡管内一〇面中の一。北及西は外柳面、西南は碧石面、北東は江原道伊川郡安峡面、東は鐵原郡馬場面、東南は京畿道鐵川郡北面に各隣接す。帶狀山脈中に位置するを以て域内山岳起伏し平地極めて乏しく中央部を臨津江南流し兩岸段丘の發達を見る。沿岸曾勝の地あはし、住民は主として農業を本業とし、傍ら採薪に從事す、又林蠶を飼ふ者あり。產物は大豆を主とし燕麥・薪炭及び人蔘等之に次ぐ。道路は東南方京畿道議政府より來り面内を縱走し、北西方新溪に通ずる二等道路の外は車を通ずるものなく、交通概して不便なり。面事務所は北部の兎山に置く。

ケッセー　月星　朝鮮にある鎮山。鎮區は忠淸北道永同郡龍化面、全羅北道茂朱郡雪川面に跨り金銀を採掘す。

ケッセーリ　月井里　朝鮮督府鐵道京元線の一驛（大正元年設置）。朝鮮江原道鐵原郡北面にあり。

ケッセン　月川面　朝鮮慶尙南道居昌郡の略々中央。郡管内一三面中の一。東は南下面、北は王尙面に、西は馬利面、南は居昌面に各相隣接す。西部に霊雨嶺（七九五米）屹立し東境も赤山地をなし中央を黄江南流し、稍々大なる平地横はる。住民は主として農業に從事し、農產物には米・麥・大小豆・大麻等あり。郡政の中心居昌邑に隣接し同地より來る一等道路は面の中央を南北に縱貫し乘合自動車を通じ交通便なり。聚落極めて少なく面邑東邊里の外西邊里・陽坪里その等主なるものなり。

ケッソン　月村面　朝鮮全羅北道金堤郡の西南部。郡管内一邑一五面中の一。東は金堤面及び下隊面、北は自山・梨德兩面に、西は竹山面、南は扶逸面及び甘谷面に各相隣接す。城内丘陵起伏するも概して平坦にて、南部は院坪川の濫觴により水田發達す。產物には米・大麥・甘藷・大豆等あり。養蠶も近時盛に行はる。金堤邑に隣接する爲に其影響大にして南方古阜、西南方扶安に通ずる各二等道路は何れも此地を起點として城内を横斷し、鐵道湖南線金堤驛は東方三粁餘の地點にありて乘合自動車を通じ交通便なり。面邑立石里は略々中央に位置し、堤月里新月里・月鳳里・新德里・洪山里等何れも東南部にあり。

ケットー　月燈面　朝鮮全羅南道順天郡の西北端。郡管内一三面中の一。東は黄田面、北は谷城郡竹谷面、西は同木寺洞面、南は雙鶴面及び西面に各相隣接す。周囲山地に圍繞せられ中部は谷底盆地を成し、蟾津江の支流之を流貫し、東南隅の峡谷により外部に連絡す。產物には米・麥・甘藷・綿花等あり。鐵道全羅線は明和十一年末開通して面の東部を南北に縱貫し、又求禮・光陽間二等道路は東部にありて乘合自動車を通じ、東部は概して便なるも、西半部は道路の改修未だ進まず交通便ならず。聚落は盆地床に集中し面邑大坪里を始め、新月里・鶴坪里・松東里・月林里・月龍里・農等里等あり。

ケッパイ　月背面　朝鮮慶尙北道達城郡の略々中央部。郡内一〇面中の一。大邱府の西南七粁に位置し東は嘉昌面、北は善城面及び城西面、西南は花園面等に各隣接す。碧瑟山の支脈北に延びて著

龍山（七九三米）東南方に峰ち、東北境に山城山（六六三米）・前山（六六九米）の諸峰繋え西北部は低平にて地味肥沃なり。氣候は内陸に位置せる爲め大陸的にして晝夜氣温の差甚し、住民の多數は農業を主とし又養蠶・果樹・煙草等の栽培をなす者少からず。産物は米・麥・大豆・綿花・麻・藺茣等あり。二等道路は東北七軒の大邱より通じ中央部を横斷して西方高靈及び玄風に達す、此間乗合自動車の便あり。聚落は西半部に多く西政の中心辰泉洞を始め、大泉洞・上洞・下洞等あり。

ケツヒ　月眉庄　豪州新竹州竹東郡峨眉庄の一大字たる峨眉の舊名。大正九年地方制度改正に伴ひ改稱せらる。

ケツヒ　月尾島　朝鮮京畿道にある島。仁川港（濟物浦）の前面に於て永宗島の東方にあり。島勢は漸次其中央に隆起して高さ約一〇七米に達す。島の西側は其東側に比すれば傾斜緩なり。而して島の北端は高さ約一二米の小丘を成す。島の南西疫所及煙軒の家屋あり、又東側に漁村あり。

ケッポー　月峰　朝鮮咸鏡南道咸平郡の別稱。

ケツヤ　月也面　朝鮮全羅南道咸平郡の東北端郡。竹内九面中の一。東は羅州郡三道・本良兩面、北は長城郡森西面、西は靈光郡畝良面、南は海保及び食如の兩面に各相隣接す。平均高度百米前後の豪地を成し、中央部を古幕院川南流す。産物は麥・大豆・小豆・明紬・棉花等あり。東方光州より來る一等道路は面の南部を東西に横斷して靈光に達する外何れも等外路線にして之亦其數甚だ少なく交通便ならず。聚落は豪地面上散在し分布し其主なるものに北より月溪里・禮德里・龍岩里・龍亭里・桂林里・亭山里・月岩里・月也里・外峰里・令月里・陽亭里・龍月里等ありて面事務所を中央の亭山里に置く。

ケツロー　月籠面　朝鮮京畿道坡州郡の中北部。郡管内一一面中の一。東は廣灘面、北東は州内面、北は臨津面、南は條里面及び衙洞面、西半は炭縣面に各相隣接し、他の一部は臨津江を隔てて長湍郡津南面に相對す。西境に月籠山（二四六米）の聳立する外著しきものなく、大部分丘陵性、東半部は稍々低地開けて耕地よく發達す。風土よく農業に適し、米・麥・大豆・蔬菜等の産多く其他西部に於ては黄蠶・煙草の栽培盛なり。鐵道京義本線域内を南北に縦貫し北塩に近く汝山驛、南方に近く金村の兩驛あり、一等道路京義街道亦南北に域内を縦貫し前記汝山驛より乗合自動車連絡して交通頗る便なり。聚落の主なるものは内清里・陳山里・徳陸里・英太里・都内里・登院里等にて面政中心楚田里は面の略々中央にあり。

ケツロク　月祿面　朝鮮黄海道海州郡の西南端。郡管内二三面中の一。東は茄佐面及高山面、北は壯谷面、西は代車面、南は甕津郡馬山、及び富民の兩面に各相隣接す。西境には國師峯（五二七米）等相連なり、域内又花崗岩山地の老年期に屬する丘陵面を以て覆にれ、平地極めて乏しく灌漑も亦便ならず、從つて水田極めて乏しく主に畑作農業を行ひ、麥・大豆・粟等を産し、又薪炭・栗等の果實の産あり。道路は總て等外路線にて、車を通ずるものなく交通極めて不便なり。聚落は域内普く分布し且つ散村型を成せる爲、戸數度は比較的小なり。面事務所を東北端の桑林里に置く。

ケド　花渡川　鹿兒島縣川邊郡枕崎町にある川。町の北部加世田町との境上附近に發源して南流し、中流以下兩岸に開けたる沃野を灌漑して海に入る。流程約七粁。

ゲトー　夏油　→岩崎村（岩手縣和賀郡）

ケトーイン　祈答院　薩摩國（鹿兒島縣）の古地名。一に祈禱院に作る。貴菱刈郡の西南、その北なる牛屋院と合して伊佐郡を建てしも、その時期は詳ならず、明治二十年に至り、祈答院の地を以て南伊佐郡を建て、牛屋院を以て北伊佐郡を建つ。明治二十九年南伊佐郡を廢して薩摩郡に入る。名稱は建久八年の候に見えて鳥津荘寄郡に屬し、田百十二町あり。大前氏の一族この地に祈答院氏を稱す。落攻の頃は宮之城・鶴田・大村・佐志・園牟田・山崎・黒木の七郷（いま宮之城は町、他は何れも村となり薩摩郡に屬す）を總べたり。寶治年間鎌谷氏この地の地頭となり、永祿年間まで相續せり。國田帳に「祈答院百十二町内（鳥津御荘寄郡）没官御領地頭千葉介、宮光五十四町、本郡司熊同丸、念丸、本主瀧岡太郎道房、時吉十五町、本名主在廳道友、得米十三町、本名主悪後國住人沼田太郎實秀」

ケトイ　計吐夷島　千島列島中部の島。新知郡の主島新知島の北岸を距る東北方約二〇粁の海上に浮び、東北方に宇志知諸島を望む。東西約一〇粁、南北約一一粁、西北部にある計吐夷山（一一一七二米）を最高峯とし、白煙山（一一〇〇二米）・兜岳（八七二米）等の火山聳えて平地乏しく、海岸は懸崖をなし、南岸の差崎附近のほかは寄船に便ならず。定住者なし。

ケナシ　毛無　【毛無岳】北海道渡島半島の西端。日本海岸に面して峙つ山。北斜面は神山支廳太櫓郡太櫓村、南斜面は久遠郡久遠村に屬す。主山稜は南東より北西に走り、南東稜には雁毛山（四九一米）・峠丸斜（三八一米）連り、北西稜は低爽し、尾花岬をなして海に没す。南斜面より砥歌川發し、西流して海に注ぎ、川を隔てて南方

相沢山（五三二米）に對す。北斜面は小川の一支の水源地にして、北流して本流に合す。小川は北西流して海に注ぐ。

【毛無山】關東山脈御坂山塊の一峯。甲府市の南東方二十三粁前後に當り、河口湖の北東方に峙つ山。山梨縣南都留郡河口村に峙ち、標高（一七二〇米）を算す。草山にして灌木の他樹木茂らず。東方に三ツ峠山（一七八五米）西方に御坂峠最高點（五二五米）あり。南方山下に母の白源と稱する湧泉かかる。

【毛無岳】山梨縣西八代郡と、靜岡縣富士郡に跨る大高山（標高一九四五米）の別名。

【毛無山】一名大平峯と呼ぶ。富士火山脈に屬する一峯。高田市の南方二十五粁前後に當り、長野縣下水内郡柳原村と新潟縣中頸城郡豐葦村に跨る。標高一〇二二米。南稜に斑尾山（一三八二米）聳立す。東方は北東流する千曲川の流域にして、西方には妙高山（二四四六米）・赤倉山（二一四一米）の對峙するを眺め、北方には遠く高田市・直江津町の街衢の彼方に日本海の波光を遥望す。

【毛無山】長野縣下高井郡飯山町の北東方に當り、同郡往郷村・瑞穂村・豊郷村の境界に跨る。標高（一六五〇米）を算する渭火山。南東麓は大永郎山（一六六二米）にて、南方に城廠山（一五六九米）あり。西麓は北東流する千曲川に洗はれ、東斜面よりは數條の渓河發源し、それより北東流して千曲川に落合ふ。この山の基底は新第三系にして、山體は複雑れ安山岩より形成せらる。山頂部に西方に開くカルデラ狀の窪地あり、毛無山・大槍山・佛頭山・猪ケ鼻山等はこの東・南壁をなす。北東麓は良く發達するも、南麓は噴火山麓に防げられて十分なる發達を見ず。

【毛無山】中國山脈に屬する一峯。日野川上流の右岸に峙ち、東側は岡山縣眞庭郡新庄村、西側は鳥取縣日野郡神奈川村に屬す。標高（一二一八米。北東稜は金ケ谷山（一一六四米）に連り、南稜は出雲街道にあたる四十曲峠路の最高點に續き、西方は寶佛山（一〇〇二米）に至る。金ケ谷山との中間鞍部を走る山徑あり。北西方にて出雲街道より離れ、南東方にて再び出雲街道に合す。

【毛無山】中國山脈の一峯。廣島縣の北端にあり。比婆郡上高野山村に峙ち、北麓は島根縣仁多郡阿井村に延ぶ。標高（一一四七米。また北東稜は鬼政山（一二六八米）に連り、西稜に大篤木山（一二一八米）峠つ。南東斜面より神ノ瀬川發源し南麓を流れて西流し、北麓より褒伊川源流して、北流す。

ケニヤラン　見乃梁海峡　朝鮮慶尚南道にある海峡。鎮海灣の南西隅より続尋海灣に通ずる狹水道にて、其長狹幅約一粁、最少水深二尋なり。鎮海灣口より加助島北角に至る迄は水深約七尋にて加助島の西側とその西方に位せる諸島との間に無數の暗礁あり。本海峡北口十九米を距る島に見乃梁燈豪（大正十四年設置）あり、燈質は連閃白光、光達距離一二浬。

ケヌ　毛野

【毛野】關東平野の一部、後の上野・下野兩國邊の古稱。毛野川北東部地方を流る。上古東國の重要性に鑑み崇神・景行・惠神・仁德の諸朝皇族をして屢々東國を鎮撫せしめらる。書紀崇神天皇四十八年に豐城命を以て東國を治せしむ。これ上毛野君・下毛野君の祖なりと見ゆ。崇神天皇の御代毛野國を分ちて上下の二國とせしものと見え、上毛野國造を置き仁德の朝更に下毛野國造を置く（國造本紀）。のち和銅年間國名を二字と定められしより字を省き上野・下野に作りしも、尚カミツケ・シモツケと訓み爾後これに依る。名稱の起原は詳かならざれども毛は或は草木の義とも、又は美弁にして即ち御食なるべしといふ。※上野・下野

【毛野川】下野國の日光山麓の中にある鬼怒沼に發源し大谷川を併せ宇都宮市の東方を南流する鬼怒川の古稱。一に絹川・衣川ともいふ。中流以南は河道屢々蛇行常陸・下總二國境の邊に至れば今も竜崖川（小貝川）との間に水流の連絡ある如く竜崖川と合し來は流海（即ち霞浦の西南の一部）に直に入りしものの如し。即ち常陸風土記を見れば新治（今筑波郡の内）、筑波・信太（今稲敷郡の内）、那珂湊（後郡壁郡と改む）・河内（稲敷郡の内）の二郡は毛野川を以て南境とす。されば當時の毛野川は今の竜崖川の河道を流れしを知る。近世の初めに至り鬼怒川を竜崖川より分ち共に利根川に入らしめ以て今日に至る。※鬼怒川

ケヌシ　氣主岬　樺太本斗支廳にある岬。本斗町の南にあり。加登呂半島の最西端にて、岬頭は高さ五四米平坦無樹の豪形地を成し、南北より望わるときは顔る顯著なり。沿岸は礁脈三乃至五鏈間伸出し、岬の西方約一・五浬に水深一六米の一點礁あり、其の附近は満潮を起すことあり。毛主崎燈豪は氣主岬上に在り。群閃白光燈にして、毎三〇秒に二閃を發す。即ち二二秒を隔てて八秒間に二閃を發す、光達距離二一・五浬、明氣二至二一〇度間、燈高礎上一五・一米、平均水面上六五・一米、構造黒白横線塗八角形混凝土造。

ケネウシ　杵臼　北海道日高國日高郡にありし村。大正四年浦河町に合併す。

ケネポリ　驗暮歸島　北海道釧路國支廳厚岸郡濱中村に屬する島。散布埼の北東方四・五浬に在り、豪形島にて東西の長さ一浬、高さ五九米、島の南西角に接し圖著なる二瓦岩あり。一は高さ一六米、一は高さ二一米、島周は總て礁漬なり。

鳥と西方枇杷瀬鼻との間は、幅皿餘の一小水道あり、小舟をやり得べし、鳥の南岸は甚だ多岩にて且つ黠礁あるを以て、六乃至七鎖以内に近寄るべからず。

ケネベツ　計根別

【計根別線】　省線釧網本線の一。北海道根室國にあり。釧網本線の標茶驛（釧路國川上郡標茶村）より分れ、標津郡標津村の計根別驛に至る。全長三一・九粁。將來は省線標津線の中標津驛（標津村）に達し標津線と釧網線とを結ぶものなり。

【計根別】　省線計根別線の一驛（昭和十年設置）。北海道根室國標津郡標津村にあり。

ケノ　毛野村　栃木縣下野國足利郡の東南部。西北は足利市に隣り、南は渡良瀬川を隔てて埼玉縣田村・久野村に對し、東北は安蘇郡赤見村と界す。面積一三・六七平方粁。村内北部は足尾山塊東南の一山脚の南端に當り約三〇〇米の高きの山地をなし針葉樹林あり。南部は關東大平野の一部にて南界の渡良瀬川までの間平坦にて水田貴く、東南部・西南部には桑畑多し。農産に米・繭・麥あり、また織物工場少なからず、絹布の製産多し。人口八、〇〇九。足利市より兩毛線來りて村の中央を横切り東部佐野町（安蘇郡）に通ず。縣道またこれに並行しバスの便あり。和名抄に足利郡大窪郷とあるは蓋し本村の地とす。大字大久保は其遺稱ならん。大字北宿田の地は天正八年、長尾顯長（足利城主）の佐野宗綱と合戰せし地なり。餘倉大草紙、結城戰場の條に見ゆる結城方八幡氏は、蓋し大字八幡に在住せしものならん。這久年中、小野寺城主通綱大字小野の地に築きその子通業を置く。のち北條氏に屬し、小田原の落城とともに亡ぶ。

ケノマイ　慶野舞　北海道日高國沙流郡門別村の大字。省線日高線の慶野舞驛（大正十三年設置）を置く。

ケヒ　氣比　→氣比

ケマ　毛馬　大阪市旭區の町。淀川と新淀川の分岐する所に毛馬洗堰あり。これは大阪を洪水の慘害より救はんため、明治二十九年以降、十五箇年の歳月と千餘萬圓の巨費を投じ、此地に洗堰を設け、淀川の流水量を調節し、中津川（淀川の分流）の河道を利用し、長さ約一六粁、上流に於て幅約五四〇米、下流に於て幅八二〇米を保ち、兩岸に堡防を築き、淀川の餘水をこれに放流し、直ちに大阪灣に注がしむ。別にその左岸に沿ひて長柄運河を開き、洗堰より水を通じ、安治川・正蓮寺川・傳法川に連絡し、和船の通航及び沿岸にある工場用水に利用せしむ。また洗堰に隣りて閘門を設け、淀川本流の船舶の通行に供ず。一代男・六・寝覺の菜好「或る太夫は吉田屋にて毛馬の里人の綿縮舶の下帯無理取にして」

ケマナイ　毛馬内

【毛馬内町】　秋田縣鹿角郡の中都。西は美林を以て有名なる長木澤國有林地帶に續す。町の東半は米代川支流小坂川大湯川合流地帶、西半は山地を形成し主として第三紀層より成る。東半地域は、第四紀層より成り、表土は壌土に砂利を夾雜せる漫灰土なり。道路はよく發達し、舊名津經街道・盛岡街道を初め、青森縣三戸町に至る來満街道（ライマン氏の調査を記念せるもの）、東方大湯町を經て、十和田湖より青森縣上北郡三本木町に至るもの、大館町（北秋田郡）に至るもの等あり。停車場は隣村錦木村（鹿角郡）にあり、毛馬内驛より、十和田湖旅客自動車は、毛馬内驛より、十和田湖客自動車各方面に通じ極めて便利なり。本町は農業を主とするも、小坂鑛山に近き関、其の鑛毒水の被害を受け沃度を減じ、加ふるに鑛山煙害の爲田畑漸次荒廢に傾き農の懸命なる耕種肥培の改善努力により、收支償ひつつあつり。其他の產業特記すべきものなし、鑛山は慶長三年の發見に係る小倉木鑛山ありて、往古金銀を採掘せり。十數年前廢山となりしも、數年前貴鑛處理方法完備し現在復活して事業を行ひ、六百餘人の勞働者を使役し、主として金を採取しつつあり。位置的關係より農村を顧客とする商業盛にして、行商人多し。毛馬内は往古の地名豐岡と云ひ奥羽郡の里若しくは奥布の里ともいひたり。成務天皇三年狭名大夫郡司となり下向して溝渠を開き、農耕を敎へたりと云ふ。承久三年十二月南部三郎光行奥州糠部五郡に封ぜられてより、世々南部藩の所領となり、廢藩置縣の際三戸縣に屬す。次いで江刺縣に轉じ、明治三年秋田縣の管轄となる。明治二十二年町村制實施に際し、瀬田石・岡田の二ケ村を合して、毛馬内町と稱することとなれり。郷土出身名士には、文學博士内藤虎次郎氏あり。湖南と號し、元京都帝大教授たり。學德高きを以て知らる。十和田湖開發の恩人和井内貞行氏、日清戰爭當時の志士石川伍一氏また此の地の出身なり。

【月山神社】　毛馬内に鎮座。縣社。祭神、月讀命・倉稲魂命。景行天皇御宇に東夷の叛あり、皇子日本武尊これを平定せられたりと雖も、未だ時を見ては諸蛮蠢動す。朝廷これが鎮定に努められしが叛亂なほ止まず。爰に於いて桓武天皇は大伴家持・紀古佐美等を遣はし、次いで坂上田村麿征夷大將軍として之を攻めしむ。大同二年田村將軍なほ此地にありて、その東夷征討中この奥羽に七ケ所の月山神社を建立せしが、當社は即ち其一なりと云ひ傳ふ。明治六年郷社に列し、同四十一年同村大坊館稲荷神社を合併す。大正十四年七月九日縣社に昇格す。社城は松山の北、花輪を距ること約六粁に位し、大湯川・小坂川の交會點に鎮座す。境内三萬九千七百五十餘坪を有す。例祭、七月十一日。〔小倉木鑛山〕本邦重要鑛山の一。毛馬内町の西部にあり。米代川を挟みて花輪線東京驛の北方約一粁に位し、同河畔まで自動車を通ず。本鑛山は昔て自根鑛山・小倉木鑛山・館石鑛山と稱せられたるものを包括し、そのうち自根鑛山は、慶長年間の發見にかかり、石英粗面岩中の網狀脈を採掘したるものなれども、今は全く採り盡され、現在採掘中のものは、小倉木鑛山の上部を占める角礫凝灰岩中に鑛染せる黄鐵鑛が酸化し、そのうちに含まれたる金の集中せる部分にして、品位一瓩に低けれども、露天掘によりて盛んに採掘せらる。本山附近には舊坑の數極めて多く、明治廿六年尾去澤鑛山の支山となり、同廿八年まで銅の製錬を續けしが、その後之を中止し、大正十一年以後一時休山の運命を見たり。然るに昭和八年以來金山として復活し、同九年以來青化製錬をも開始し、上鑛は之を尾去澤に送り、下鑛を自山に製錬し、例へば昭和十年度には、金渡物七、四二一瓩、金鑛二、七三七瓩を產出せり。三菱鑛業株式會社の經營に屬す。

【毛馬内】　省線花輪線の一驛（大正九年設置）。秋田縣鹿角郡錦木村にあり。

【毛馬内盆地】　→花輪盆地

ケミガワ　檢見川　千葉縣千葉郡にありし村。明治二十四年町制を布き、昭和十二年本町を廢し千葉市に編入す。此地は和名抄、千葉郡三枝郷の内なるべく、鎌倉同盟當時は驛を檢見川に設くる規定なりしも、同地住民の反對に遭遇し已むなく幕張町に設かれ、のち三十二年地元の用地寄附請願により更に稻毛に新設せられしもの。當地は下志津・習志野の原に連る一面の原野の開墾せられたるものなれば附近一帶は畑地にして、最近に至り海水浴場・避暑地として世に知られ、都會人士の來往頻繁となり、別莊・住宅の新築漸く增加の傾向にあり。されど冬季烈しき浦風の砂塵を加へて襲來し、且つ日常物資の購求に不便なる爲め、夏季の殷賑に引き換へ冬季は寂寞たり。大字稻毛は桓武平氏、千葉馬加氏の族、稻毛氏の居邑にして、明治十五年、千葉縣下に行幸の際の御野立所あり。

〔檢見川逓信所〕　字寶原にあり。東京無線電信局に屬し、空中線用鐵塔は高さ九〇米のもの六基、七五米のもの三基、三〇米自立式のもの二基ありてこれに四組の空中線を架設し、外に短波長用空中線數組を備ふ。局舍には逓信機七臺を備へ主として植民地との間に通信を行ひ、東京無線電信局より直接にここに傳ふる電報を翻作し、自動的に空中線より電波を發射し同時に七箇所への逓信をなす。

ケムヤマ　煙山村　岩手縣陸中國紫波郡の西北部。東は德田村、南は不動村、北は飯岡村、東北の一隅は見前村に、西は岩手郡御所村に境す。地勢一般に西部に高く東するに從ひ平坦となる。山岳地帶は第三紀層に屬し南昌山彙は古成層及び成岩より成る西部洪積層より沖積層に漸移し主要農耕地となる。生業は農業と林業にて、農業は耕地面積の增加（舊田約五百町歩、新田約四百町歩）と產業者の奮勵により增收益に產米改良行はれ、煙山米の名を中央市場に高めつつあり。昭和十一年度の產米一萬三千八百七十六石に達す。林業は煙山苗圃を控へ殖林盛に行はれ用材、薪炭材及び苗木の產出夥し。農家の副業として近來蓙工品（繭蓙）の產出著しく發達せり。東北本線は本村に矢幅驛（明治三十年設置）を置き交通不便ならず。往時斯波氏本村に支城を置き其臣煙山某を居らしむ。後南部氏の領有に歸す。明治元年十二月直隷、二年七月盛岡藩、三年八月盛岡縣、五年正月岩手縣に屬す。其後數次の變遷を經て明治廿二年町村制實施と共に赤林・廣宮澤・煙山・上矢次・下矢次・北矢幅・南矢幅・又兵衛新田の八ケ村を併せて初めて煙山村と稱し大字赤林に村役場を設く、後五年にして大字上矢次に移轉し現在に及ぶ。村名はアイヌ語「ケェムヤピ」即ち鼠め登る意にて、この地の南昌山をかく呼びしに因むといふ。正しき調み方はケムヤマにして、ケムリヤマ・ケブヤマとするは誤りなり。

〔城内館址〕　斯波氏の支城煙山某の居城なり。天正十六年主家亡命と共に沒落す。のち南部氏の領有に歸し栗谷川氏の居城となる。址上より飯米・麥等掘り出さる。

〔稻荷山道〕　獨南部藩主、志和稻荷社（參詣の信徒設けしもの。松並木・一里塚等昔の面影を止む。中に御小休場と稱する方百間位の屋敷跡今に存す。〔南昌山〕標高八百四十八米。山中に南昌山神社あり。舊藩主尊信の名山にして大護・幣懸護・神居鎗・笂潤・馬踏石等の奇勝に富む。山麓には苫ケ平の舊小部落ありて薪摘みを以て有名なり。

ケヤ　毛屋　越前國（福井縣）の古地名。和名抄、大野郡に毛屋郷あり、高山寺本は毛屋を尾屋に作るは誤なり。其他今の大野郡勝山町・平泉寺村・村岡村等に當り、勝山町の大字に毛屋あるは郷の遺稱なるべし。當山紀談に關ケ原の役に黒田長政の斥候に毛屋主水あり、蓋し此地より出でしものなるべし。東寺安貞二年の文書に越前國毛戸岡莊を載す、毛戸とは恐らく毛屋の譌なるべし。

ケヤ　芥屋村　福岡縣筑前國糸島郡の西北鎗。糸島半島の西南部にて西方玄界灘に突出し、前面に浮ぶ屬島姫島に對し、東北は可也村、東南は小富士村に隣る。面積一〇・八六平方粁、西部に立石山（二一〇米）あり、東界にも小山地あるも中央部は土地平坦にして田畑拓く。村の北鎗に突出せる大門崎は高さ約六〇米、幅約二七〇米。柱狀節理をなせる大岩壁をなし、水際には浪蝕によりて成れる洞はゆる「芥屋の大門」この大洞窟あるを以て著はる。また村の南鎗は野邊崎となり東南隣小富士村の西南鎗、船越の小半島

と相對し、その間に唐津灣の小支灣引津ノ浦を抱く。農産に米・麥を出す。社線北九州鐵道前原驛へは東方約九粁を隔て交通なほ便ならず。和名抄に志摩郡鷄求郷あり。求は蓋し矢の誤にして本村の地に擬すべきか。續風土記に此邊を總稱して久米郷といひしが、本村の地を特に安富莊と稱すと見ゆ。いま駄志・井屋・新町・櫛島の四大字となり、駄志に役場を置く。〔井屋大門〕大門崎の突端にあり。玄武岩によりて構成せられたる岩塊にして、直立七三米屏に連し、東北西の三面は直ちに玄界灘に臨み、南方の一條地帶を以て僅に陸に通ず。玄武岩は柱狀節理よく發達し、多少の板狀節理を伴ひ、石柱は概ね六角なれど、五角或は四角のものも亦少からず。最も長きもの五四米半に及び、橫徑は普通三〇糎内外なり。岬の東北面は怒濤によりて浸蝕せられ海蝕洞を呈し、大門と呼ばる。洞門は幅約一八米、高き約九米、これより間隔次第に縮まりて七米餘となり、これより急に縮迫して幅約二米七の庭下狀の洞窟となる。洞内深くして暗く、但し洞口より約七三米の間は海波靜穩なる日には小舟を容れ得るといふ。大門の東方に小洞窟あり。神風窟、或は鯨穴とよび、幅約五米半深さは大ならず。北九州鐵道前原驛の西北一二粁、大門まで自轉車の便あり。〔花掛神社〕大字駄志にあり。村社。祭神、住吉大神・神功皇后（相殿）。社傳にいふ。神功皇后新羅に赴き給ふ時、この社の側なる山にて花を掛けて住吉大神を祭り給ふ。よりて其處を花掛山と呼び、後に住吉大神の社を建て、花掛大明神と號すと。もと社の傍に大なる松あり、綱掛松と呼び、皇后御祓の麗を繋ぎ給ひし樹と傳ふ。いま境内に補數の石（神宮石）あり、漁夫この石上に神饌を供へて豐漁を祈る。〔穴瀬〕村の北岸にあり。汀より約四十米の所、干潮の時は石階あらはれ、その下極めて深く淵の如し。幅約二十米、東西の長さ約五十米。この附近一帶の陸棚中、ここのみ特に深く、よりて穴瀬と名づく。古來土民ここにて雨乞をなす。〔南林寺〕大字駄志にあり。禪宗。大龍山と號す。弘治の頃、高祖城主原田隆種、その實子五郎鶴門・三郎繁種を誘んじ庶子親種を嗣たらしめんとし、家臣本木道知これを知りて謀を構へ五郎・三郎を討つ、二子この寺の前に防戰し衆寡敵せずして自殺す。隆種のち悔恨し、ここに寺を建てて二子の位牌所とし、菩提寺と名づく。原田家滅びて寺もまた廢絕せしが、のち鶴岡藩主黑田忠之、上座郡宮野村八坂南林寺の寺號を此所に移し、寺地を寄附す。今の南林寺これなり。

ケラ　介良村　高知縣土佐國長岡郡の南部。高知市の東方五粁餘にあり、これと高須村を隔て東北は大篠村、東南は稻生村、西は五臺山村・高須村、南は下田川を隔てて三里村、北は大津村と界す。面積五・六平方粁の小村にて物部・國分兩川の沖積地より成る高知平野の中央部に位す。東南村境に彫拔二一四米の丘陵鈴供山のある外は土地極めて平坦にして、地味肥沃、高溫多雨の氣候に惠まれ、水稻は二毛作行はれ、また繭・麥の產あり。高知市に通ふ縣道村の中央を東西に走りバスを通じ、街道に沿うて猥雜發達す。本村は五臺山村・稻生村と共に和名抄、長岡郡氣良郷の内にして、東鑑に介良莊とあるも此の地なり。永曆元年、源頼朝の弟、土佐冠者希義、義朝の謀に坐して此地に流されしも、壽永元年、希義起りて平家に抗し、平重成の家人藤池資綱と戰ひ遂に殺さる。介良山の西麓、定淵山西養寺にその墓あり。寺は曾麻紙上人の開く所なり。此地文治三年に至り、頼朝より源内行景を地頭に補し、且つ墓所の傍に一宇を建造せしめたりと。また南北朝の亂に足利氏に屬して軍功ありし長曾我部信能は介良庄中鹽田に居りきと。而して信親より十代の孫は即ち元親なり。また村内に式内朝峯神社あり。東鑑・元暦二年三月「庚戌。土佐國介良庄住侍琳獄（〇下文獄に作る）上人。參上于關東。是有功于源家者也。去壽永元年。武衛令弟土佐冠者希義。於此國。號蓮池壇守屋綱。被討取之時。秋月陽。死魂於迦羅。愛土人之中。自號有存忠之輩。怖平家後聞。不及御感沙汰。而此上人。其住日御堂。坂田郷内點。墓所。訪。沒後。未久。皇。國靈祭髮。今度問禍。所詣。參向也。屬于走湯山住僧良寛。申子細之間。武衛有御對面。以上人之光臨。用亡魂再來由。被處旁讃。云云」（朝峯神社）字宮冠に鎭座。郷社。延喜式内社。祭神、木花佐久夜姫命。古來安產殺に酒の神として士民の崇敬深く當村の產土神なり。社の東北方に圓錐形の一峯あり、里俗、介良富士と稱す。駿河國淺間神社と同神にして、而も介良富士の麓に鎭座せるは、蓋し富士山の木花開耶姫命を齊きまつれるに擬せるなり。また朝峯神社は淺間神社に轉せしものならんといふ。貞觀八年六月、從五位下を授けらる。三代實錄に「貞觀八年六月癸巳。授土佐國從五位下朝峯神社從五位上」とあり。大永七年銘宝積山治部尉、天文十六年橫山左京亮等の古棟札を存す。また墓元左銘の狛犬の破損物、高さ一尺二寸の古雅木像等あり。例祭、七月十日・十月十日。〔源希義墓〕舊西養寺跡にあり。墓塔の形は卵塔にて銘なきも七百年の古色を留む。蓋し土佐國に於ける年代の明白なる古塔はこれを最古とす。希義は源頼朝の同母弟にして、母は熱田大宮司藤原季範の女なり。平治の亂土佐に流され介良の庄に居る。依りて介良冠者または土佐冠者と稱す。治承四年兄頼朝兵を擧ぐるや、壽永元年九月二十五日平氏はその家人藤池堀頭家綱・平田五郎俊道等二人に命じ希義を討たしむ。希義遂に長岡郡年越山にて討たるるに。時に介良の豪族上人盤ことより希義と密交あり、其業命の死を哀み、遺骨を拾ひ之を介良庄内坂田郷に葬り、又遺髮を面にして關東に下り頼朝に寄す。頼朝深く之を感とし上人を留めて關東の一寺に別當たらしめんとす。上人固く辭して聽かず、遂かに土佐にかへり永く希義の追福を營むべしと逃ぶ。頼朝より屢々文書を下し莊園田地を寄附し又土佐國の地頭守護に命じ厚く上人を保護せしむ。文治三年五月八日、希義墓上に一宇の梵宇を創建し上人をその住僧とし走湯山西養寺と號す。また希義の法號を西養寺殿圓照大禪定門と稱せしむ。

獨來西養寺は鎌倉室町時代を通じて、將軍執權家の保護極めて厚く頼朝下知狀、高武藏守師直執達文、その外寛元・應永間の古文書十七通餘を存せしが、正德三年十二月十五日、火災に罹り文書一切烏有に歸せり。明治維新後寺は退轉しいま跡形を留めず、希義の墓は卵塔にして銘なし。東鑑・壽永元年九月「癸巳。土佐冠者希義者。武衛弟也。（母季範女）去永暦元年。依ㇾ故左典厩（〇義朝）餘殃。配ㇾ流于當國介良庄。處。近年武衛。於ㇾ東國。聞ㇾ義兵。給之間。稱ㇾ有ㇾ合力緊。可ㇾ誅ㇾ希義ㇾ由。平家加ㇾ下知。仍故小松內府（〇重盛）令ㇾ入。（各當國住人）擬ㇾ圍ㇾ功擬ㇾ襲ㇾ希義。希義日來與ㇾ夜須七郎行家。（土州住人）依ㇾ有ㇾ約諾之旨。聞ㇾ介良城。向ㇾ夜須庄。于ㇾ則。家綱供送。給。道ㇾ到于吾河郡年越山。誅ㇾ希義ㇾ訖。行家者。又家綱給。聞ㇾ希義ㇾ之由聞ㇾ及之。攝ㇾ相扶。伴一族等馳向之處。於ㇾ野宮邊。希義被ㇾ誅之由聞。空以歸去。兩家綱（俊達）等。又欲ㇾ討ㇾ行家ㇾ之間。被ㇾ制。相ㇾ乘之。自ㇾ佛崎（浮）海上。逃亡。家綱等馳ㇾ到于其崎津。先搦ㇾ渡ㇾ行家。遣二人使者於行家之船。有可ㇾ談合事。稱可ㇾ來臨ㇾ由。行家令ㇾ參ㇾ家綱等造意。斬ㇾ二人使者首。棹ㇾ船赴ㇾ紀伊國ㇾ云々」

ケラマ　慶良間群島　沖繩縣島尻郡に屬し、那覇港の西方に群る。前浜・座間味・阿嘉・慶留間・屋嘉比・渡嘉敷・自志垣・黑前等の諸島より成り、渡嘉敷島（八・五方粁）・座間味島（八方粁）を最大とし、渡嘉敷・座間味の二村に分たる。沖繩島の國頭地域と連絡する古生層より成り、山勢急峻、常綠樹よく繁茂し、鹿等の野獸多く、溪水また乏しからず。渡嘉敷には毒蛇棲息す。家の周圍にツゲ・フクギ・アカギ・ガジュマル・タワ・マキ等を密植し、烏尾地域の如く石垣を纏らさず、村落は恰も森林の觀を呈す。沈降性の海岸にして港灣は發達せず、座間味村の阿護ノ浦は水深く良港なり。昔は宋國の地とせられ「相魂入らんせ—ケラマ寶り」等の俚言ありて幼兒を恐怖せしめしも、近年は漁業の發達に伴つて經濟力も向上し、壯丁・納稅成績の如きも縣下中優良の部に屬す。兩村にいづれも落政時代の烽火臺・遺見番の跡あり、渡嘉敷・阿嘉等には昔の唐船船頭の家あり。往古より彼此の交通路に當り、支那人はこの群島の形狀によりて馬齒山と呼べり。鷄籠より渡嘉敷まで一一・三浬。座間味まで二二浬。慶良間渡の瀨ぞ枯れるとものよで、恒蔵と吾契り仇になゆめ」

ケラモイ　計羅武威崎　北海道根室國にある崎。國後島の南端にして根室海峽南口の北角を成し、南方（約四・五浬）に出ず。崎端は砂濱をなし雜草繁茂し西岸に漁舍多し。附近の井水は總て鹽分多く、崎端の燈臺にては泊村より飲料水を運搬使用す。ケムライ淺瀨は水深九米より淺き沙堆にして、距濱約九浬間は處々水深五・五米より淺く、潮上時として強浪を起すことあり。崎上にケムライ燈臺あり。燈質は閃白光、光達距離一二・五浬。

ケリロー　——山　豪北州蘇澳郡・羅東郡、中央山脈の一部をなす高峯。標高二四五四米餘、蘇澳郡・羅東郡の境界にあり。

ゲロ　下呂町　岐阜縣飛騨國益田郡の南部。益田川（飛騨川）中流の谷に位し、東は竹原村、東北は小坂町、北は萩原町、西北は川を隔てて川西村、西は馬瀨村、西南は中原村、東南は上原村に界す。面積約四四平方粁。益田川町の西北界より南部の中央を曲流して南に貫く。東境上には御前山・鍋ケ峯（一〇六七米）、西界には八尾山（一一〇一米）この山脈、南北に連亙して、山麓は益田川の谷に迫り、川に沿ひて幅狹き低地あり。多少の耕地ある外は殆んど山地をなし森林多し。鹿・米の外林產を生產とす。また溫泉客相手の桑木細工・下呂燒・麻木直餅・かやのみ神・味噌等の特產あり。古く美濃より高山に至る交通路に當る。益田街道及び省線高山本線は益田川の谷に沿ひて通じ、前者にバスの便あり。後者は下仁羅（昭和五年設置）を置き、盤落その沿線に發達す。下呂溫泉あり。下呂町は光仁紀に「寶龜七年美濃國菅田驛、異飛驛國大野郡伊有驛、相去七十四里、岩谷險深、行程殊遠、其中間置一驛、名曰下留」これ下留は下呂驛にして中古飛騨路の一驛驛たり。中世は下呂郷と呼ばれ、明治維新となり、萩原町・竹原村と共に三郷村と改稱し、明治十六年となり東上田・湯之島・森・小川の舊四村を分屬して下呂村と改め、のち三原・少ケ野を分屬す。のち萩原町・竹原村は分離獨立す。本町は大正十五年町制施行す。此地に下留驛を置かれしことは續日本紀・寶龜七年の條に見ゆ。大字湯ノ島は有名な下呂湯泉のある地にして、古來より溫泉湧出する故に湯ノ島と稱するに至れりと。大字森は上古より松森神社のある地なれば森と稱するに至りしものかといふ。大字小川は此地に二筋の小川ある故に小川の名生ぜしと。〔下呂の大杉〕指定天然記念物。

大字森の村社八幡神社境内にあり。目通り周圍約一三米、高さ約五十米、數年以前境内整理の爲その根元に土を盛りたれば、下部埋れたれども今尚根元の周圍約一五米餘あり。樹幹地上にて兩岐し生育旺盛なり。安政年間湯之島の大火に損傷したれば今特に保護を加ふ。〔下呂温泉〕飛騨川の上流益田川畔に在り。地名を湯之島と稱するを以て湯之島温泉ともいふ。外湯にして藥師湯・白鷺湯の共同湯あり。泉質、無色透明の鹽類性硫黄泉にして硫化水素特有の臭氣を有す。温度四四度。胃腸病・リウマチス・婦人病・痔疾・皮膚病・神經痛等に效あり。概して療養並に行樂向なり。本湯は口碑に依れば七百餘年前の發見に係るといふ。昔村上天皇天曆年中湯ケ嶽の上に湧出せる温泉が下呂温泉最初のものにて、のち三百年を經て龜山天皇文永二年に湧出中止となり、更に後現在の河原に湧出するに至る。往古傷ける白鷺飛び來り、附近の河中に入り嬉々として飛び立つを見、行きて瑠璃光藥師の如來像と温泉の湧出せるを發見す。即ち如來、一夜にして、湯之峯よりこの河原に温泉を移されしものなりと傳ふ。附近の孝池水は足利時代の末川原左近と云へる孝子母の病を癒さんため遠く琵琶湖の水を汲み來りしに、母既に没せり。これを見悲歎の餘り覆せる水當地に溜りたるもの、附近の屏風岩は左近の住みし岩窟なりと。古來著名なる温泉にて林羅山も「我國諸州多有温泉、其最個著攝津之有馬、上野之草津、飛騨之湯島」と云へり。温泉は河原に湧出せるを以て幾度か水害のため湧出口を失ふ。安政初年の大洪水に因り酒く壊滅の狀態にあり、のち發掘されしも好結果得られず。大正十三年に至り一涌出口を發見、鐵筋コンクリートの根を設け完全なる永久的工事を施せり。高山線開通するや下呂驛設置され、飛騨及び岐阜方面よりの浴客頗る多し。

ケワイ　假粧坂（けわい）　神奈川縣（相模國）鎌倉郡鎌倉町大字扇ケ谷より深澤村大字梶原に出づる坂。また氣生坂・形勢坂に作る。名稱は遊女の居せし地なるより起るとも、平家の大將の首を假粧して實檢に備へしより起るともいふ。所謂鎌倉七口の一。元弘三年五月新田義貞の鎌倉攻の時その中軍は此處より討入り、かつ施永二十三年十月上杉禪秀の亂の時の古戰場。新編鎌倉志、假粧坂（假粧或作氣生又形勢坂）は、扇谷より西の方へ行坂なり。往還の道なり。相傳、昔し平家の大將の首をけしやうして、實檢したる地なり。故に名づく。或云、古へ遊女の住居せし故に名づくとも云と。曾我物語に、假粧坂の麓に、曾我五郎時宗が通し遊女あり。梶原源太景季も、亦此女に通て歌など詠じけるとなん。時宗が歌もあり。東鑑には假粧坂不見。太平記に新田義貞、五十萬七千餘騎、假粧坂より寄するとあり。又鎌倉大草子に、禪秀亂の時、持氏方より、氣生坂へは、三浦相模の人々を差し向けらるとあり。此時持氏、佐介谷に居られたり」太平記・一〇・鎌倉合戰の事「去程に義貞の兵、三方より寄すると聞えければ、鎌倉にも相模左馬助高成、城式部大輔景氏、丹波左近大夫將監時守を大將として、三手に分けてぞ防ぎける。其一方には金澤越後左近大夫將監を差副へて、安房、上總、下野の勢三萬餘騎にて、假粧坂を堅めたり。一方には大佛陸奥守貞直を大將として、甲斐、信濃、伊豆、駿河の勢を相隨へて、五萬餘騎、極樂寺の切通を堅めたり。一方には赤橋前相模守盛時を大將として、武蔵、相模、出羽、奥州の勢六萬餘騎にて、州崎の敵に向けらる。此外宋々の平氏八十餘人、國々の兵十萬餘騎をば弱からん方へ向くべしとて鎌倉中に殘されたり。去程に同日の巳の刻より合戰始つて、終日終夜攻め戰ふ。寄手は大勢にて、新手を入替へ〳〵攻入りたれば、鎌倉方には防塞殺所なりければ、打出で〳〵相支へて戰ひける」

ケン　兼面　朝鮮全羅南道谷城郡の西北部。郡管内一一面中の一。東西は三岐面、東は谷城面、北は立面、北西は玉果面、西南は火面に各相隣接す。東北境及西南境共に山地をなして、中央部に下り其兩山麓間合線に沿ひ玉果川の低地を見る。待城は此の兩岸に僅かに發達せるに過ぎず。産物には麥・馬鈴薯・大豆・麻等あり。道路の改修未だ遂まず路線疎にして交通便ならず。面事務所は玄亭里にあり。

ケン　劍・劒

【劍峯】　高妻山（たかつま）（新潟・長野縣境）の別名。

【劍ケ岳】　福井市の北東方七粁前後に當り、福井縣坂井郡（さかい）新岳村と丸岡町との境界に跨り、東斜面は石川縣江沼郡西谷村に亙る。標高五六八米。主稜線は北西より南東に連り、福井・石川の縣境をなす。北西稜は風谷峠最高點（五一〇米）を經て、刈安山（五四六米）に連り、南東稜は大内峠最高點（二九八米）を經て火燈山に續く。風谷峠路は東西に、大内峠路は南北にこの國境山稜線を乘越す。劍ケ岳の山頂よりは東麓脚下に大聖寺川の溪谷を瞰下し、南・西方には山麓線を縫ふ竹田川を見降し、また銀蛇の如き九頭龍川の流々として北西流し、日本海に注ぐを望む。

【劍ケ崎】　神奈川縣三浦郡にある崎。三浦半島の南端、浦賀海峡の西南角に突出す。三崎町の東隣南下浦村に屬す。卿鍋は海波に洗はれて崖をなし、尖鋭に劍崎燈臺（明治四年設置）あり。燈質は連閃綠白交光にして光達距離一七・五粁。燈臺はまた船舶通報に屬する事務を取扱ふ電信局（二等）を設置す。

【劍ケ峰】　富士山（静岡・山梨縣境）の外輪山の一峯。峰頭は富士山の最高點をなし、標高三七七六米を算す。

【劍山】　劍山（ぎざん）（徳島縣）の別稱。

ケン　縣面　朝鮮咸鏡南道德源郡の東端。郡管内六面中の一。東は安邊郡安道面、南は同靖花面、西は同瑞谷面及び赤田面、北の西半部は元山府に、東半部は永興灣に向つて葛麻角の半島を成して突出し更に元山灣を區つ。南大川南方より流れ來り、域内に於て數多の分流を生じ網狀流を成して後永興灣に朝す。北方海中數軒に突出せる葛麻角は實に南大川の排出する土砂と沿岸潮流の土砂運搬の結果形成されし分岐砂嘴にして其尖端部は元山灣に鈎狀を成して屈曲す。氣候は大陸性にして寒暑の差甚しく内地青森地方に酷似す。生業は農を主とし、海岸の住民は漁業に從事すれども其數甚だ少し。産物は米・大豆を主とし、海産物に鰊・鰮・鯖等あり。鐵道京元線は南方安邊驛より永で域内に入り縱貫し葛麻驛あり、更に之より元山驛へは僅かに四・一粁にして速し京元一等街道亦南北に縱貫し、中央より更に江原道海岸線の一等道路を岐も交通極めて便なり。面邑内元山里は西北部に位置し、警察署・小學校・葛麻停車場等あり。〔明砂十里〕葛麻驛の東北約六粁。葛麻半島の海濱の稱。恰も内地の天橋立の如く、松林續く白砂清澄の岬にして、海水浴に適し、外人の避暑地として知らる。

ケンカイ　玄界

【玄界灘】　福岡縣の北方なる大島及び神島と壱岐との間の海上の稱。五十尋以下の淺海にして陸棚をなし、東部に燈臺瀬・長間・巢ノ上等の險礁あり。暖流對馬海流ここを流る。潮流は灘の喰ど中央なる瀬戸灣附近に集り、落潮も亦此地にて分離し、大潮の際は速力一節半に及ぶ。航路は尋常の天氣に於ては容易にして安穩なれど、冬季は卓越風のために風浪高く、航海困難の海とせらる。明治三十七年日本海々戰に於ける東郷聯合艦隊司令長官の戰況報告に見ゆる「天氣晴朗なれど浪高し」の一句は玄海灘の波浪高き狀を端的に表現したるものといふべし。漁獲に鯛・鰤等あり。海上東部の大島及び壱岐水道東口にあたる烏帽子島に燈臺を設く。玄界灘は文永・弘安の役に元・高麗の大軍來寇し、文永の役には志賀島附近の海上にて元軍撃滅せられ、弘安二年には大軍鷹島附近に假泊し大風博多を襲はんとして閏七月一日大風に遭ひ、その船艦の多くを失ひしところ。その鷹島は博多灣口の玄界島なりとも、また伊萬里灣口なる鷹島ならんともいふ。〔元寇〕蒙古の帝忽必烈（世宗）既に歐亞に跨る空前の大國を建設し、更に日本をもその羈下に慣かんと志し、龜山天皇文永五年正月以來高麗國を通じて國交を開くべく、牒狀を送ること數度に及ぶ。その文辭頗る不遜にして國交の承諾なくば戰を以てせんとの意を以てす。鎌倉幕府、朝廷に奉し、文辭無禮の故を以てこれに答牒せざりしが、これ等數度の使節は實は我國の地形人情を調査するの密命を有せり。かく元は一方國書を以て國交を迫り、他方に戰を決し、文永五年（至元五年）には高麗に向つてその兵員數の調査と造船とを命ず。日本また早く蒙古の勢威韓半島に伸び來りしことを探索し、筑紫殊に博多・今津附近の警備を嚴にし、太宰少貳をしてこれに當らしめ、文永八年には時宗・政村の連署を以て薩摩西南部を領せる二階堂氏に、守護人島津氏と協力して薩摩地方を防禦すべきことを命ずる等、備ふることあつし。朝廷また伊勢大神宮に勅使を遣はし、京都附近の社寺に異國降伏の祈願あらせらる。かくて後宇多天皇文永十一年十月、蒙古は征東都元帥忻都を總司令官とし、右副都元帥洪茶丘・左副都元帥劉復亨を副司令官となし、蒙古・漢・女眞の軍二萬、別に都督使金方慶等の率ゐる高麗軍約五千六百、その他高麗梢工水手等六千七百、大小艦約九百隻を以て征日本行に上り朝鮮合浦を出帆し、十月五日その先頭部隊は對馬淺茅浦に集合を開始し、一隊千人は西岸佐須浦に進出せり。守護代宗助國警を聞き國府を發して出陣せしが、部下僅に八十騎、奮戰してこれに死す。對馬の民害を蒙ること甚しく、蒙古軍は對馬に約一週間滯在し、十四日壱岐を侵し、守護代平景隆防いで利あらず自刃す。これより先、宗氏の家士急を太宰府に告げ、西國の豪族將士、兵を肥筑の沿岸に集めつつあり。蒙古軍倉々壱岐を發し肥前松浦地方を荒掠し、進んで博多灣に來り、十九日一部は今津灣長浜より、主力部隊は早良湾より上陸を開始し、亀原・百道松原を占領す。二十日我軍は少貳景資を總指揮とし、菊地武房・竹崎秀長等の隊前面の敵を討ちしが、敵は新鋭の兵を陸續上陸せしめ、我軍また怡土・松浦・原田・日田・粟屋・山田・詫麻の諸族の兵加はり、少貳景資自ら百道松原に出陣し、亀原・島飼・百道原一帶の地に激戰を交ふ。我軍、敵の集團陣戰法と鐵砲に惱み、日没に及んで水城方面に移動し、また箱崎方面にも敵の一部上陸し、筥崎八幡宮は遂に兵火に罹るに至る。しかし敵軍は陸上の兵を撤退して、總て船艦の中に收む。これ恐くは大軍の展開をより廣き地に求め作戰を改むる意ありしによるならん。偶々同夜俄に暴風雨起りて船艦多く破壊し、行方不明の者一萬五千。翌日我軍は殘餘の兵船なほ志賀島附近の海上にあるを見てこれを掃蕩せり。この戰に敵將劉復亨は重傷し、高麗の將金侁は溺死す。これを文永の役となす。のち幕府はその再襲を豫想して國防の充實を謀り、建治二年三月より博多灣沿岸に石壘を築き、その左翼は糸島郡今津沿岸より遠く右翼は多々良川口箱崎邊にまで及び延長約六里、また多々良川口に亂杭を設け、その他博多・箱崎・姪ノ濱・今津邊に蒙

古人用心者を設け、遠くは長門警固番役を置きて中國筋の防備統制を行ふ。更に建治元年十一月頃異國征伐を太宰少貳經資に命じて船舶を博多に回漕せしめ、朝廷に於ては龜山上皇石清水八幡宮に祈願あらせられ、また筥崎宮の造營に際して敵國降伏の宸筆を下さる。また朝廷幕府並に用度を節約して軍費に充て一ヶ蒙古襲來に備ふるところあり。元朝また再征の計畫を樹て、總部侍郎杜世忠をして一層強硬なる態狀を日本に奮しむ。世忠長門に著し、幕府これを鎌倉に致して龍ノ口に斬る。此間元は南宋の征伐に日もこれ足らず。かくてわが弘安二年正月南宋全く滅ぶるに及び、日本遠征を決し、征日本行省を設け遠艦を急ぎ、兵員を編成す。總司令官は右丞相阿剌罕、軍を二に分ち、東路軍司令官は征東都元帥忽都、副司令官征東都元帥洪茶丘、都元帥金方慶にして部下十二萬三千餘人、船艦九百隻、また江南軍は右丞范文虎を司令官とし部下十二萬五千人、船艦三千五百隻、而して東路軍は蒙古人・高麗人・漢人を含み、江南軍中には南宋の新附軍を包含せり。東路軍は弘安四年五月二十一日對馬東岸佐賀浦に到着し日本軍と交戰し、二十六日轉じて壹岐に來りて江南軍を待ちしも消息通ぜず、よつて六月五日・六日に進みて博多灣口に來り、一部は別途長門を侵す。主力は博多灣對岸西戸崎に上陸し、我が西國の武士は海陸兩方面に戰鬪を開始す。伊豫の河野通有・同通時、肥後の竹崎季長、天草の大矢野種保・同種村の如きは敵艦に乘込みて戰ふ。この戰は六日より十三日に亙る。敵艦利あらず、惡疫また起りしを以て、六月中旬一先づ博多灣口を撤退し壹岐附近に移りしが、肥前の御櫛に當れる龍造寺・松浦の黨これを海上に襲ふ。かくて江南軍は阿剌罕の後任者たる左丞相阿塔海に率ゐられ六月中旬寧波を發し、下旬には平戸近海に著し、漸を以て東路軍と合し、鷹島附近に碇泊し、一部は上陸し、日本軍船と交戰しつつ、今や大舉博多附近に上陸すべく投錨せんとする時、閏七月一日またまた大風に會ひ船艦破れ、遂に艦隊の積極的戰鬪力を失ふに至る。志氣衰へ部將和せず、江南軍の范文虎等遂に合浦に退航す。我が軍盛に機誠戰に力を盡し、捕虜數千を得る。かくてこの戰に敵は三分の一の軍を失ひ、一の得るところなく退却の已むなきに至る。これを弘安の役といふ。

【玄海島】 福岡縣糸島郡北崎村に屬する島。福岡灣口の西側を成し、周圍約四粁。もと月海とよびしを後改むといふ。元寇覆沒の鷹島、元史に見ゆる五龍山は此島ならんといふ。建暦天皇の時、百合若大臣異國討伐のため豐後より此島に來りしに、家臣別府貞俊兄弟、大臣を此島に捨ておきて歸りしかば、藤丸とよぶ大鷹、内室の使として往來すること仰傳す。

ケンガク　劍岳村　福井縣越前國坂井郡の北部。丸岡町の北約四粁。東は石川縣江沼郡に界し、南は竹田村・長畝村に、西より北は坪江村に隣接す。東境に刈安山（五四八米）・風谷峠（五一〇米）・觀ヶ岳（五六八米）等南北に連り、夫等の山脈何れも西に延び、村内疏ね山地を成すも、西部は稍々從平にして耕地拓く。九頭龍川の小支西北部に發して西南流し灌漑に便す。產業は地形上より林業最も盛んにして炭の產出多く、平坦地より米・麥・蕎・茶・甘藷等を出す。また大字椚村より產する青白石の椚石は墓石・基礎石として、雨露霜雪火水によく堪ゆるを以て著名なり。交通未だ全からざるも、丸岡町及び北方石川縣江沼郡大聖寺町方面の諸町村にバス通ず。往古の事は以て徵すべきものなきも、村名は蓋し東部に聳ゆる劍ヶ岳に依れるものとす。いま椚・櫻井・櫻世・謙谷・清瀧・後山の六大字よりなり椚に役場を置く。

ケンキ　介木　愛知縣東加茂郡にあり永祿年中野島の海賊屢々來侵せし頃より鳥民宮ノ浦に移住して警察し、のち慶長に至りまた住民ありといふ。いま鳥民は南岸に小集落を成す。島は四面險崖にして、標高二一八米。北端に近く黑瀨の岩石あり、北西に柱島の岩礁あり、南西音無瀨戸を隔てて大机島・小机島あり、また柱島の西方海上約十粁に長間瀨・燈臺瀨等の岩礁を見る。

ケンガマ　劍熊村　滋賀縣（近江國）高島郡の北東端。海津村の北に接し、西は西庄村に、東は伊香郡永原村に、北は福井縣敦賀郡の栗野村及愛發村に境す。四境山岳に圍まれ全村山地多く平地は僅かに知内川の沿岸に存するのみ。即ち北部に秦峠嶽（八六五米）を中心とする花崗岩の傾斜地塊あり、東部に秩父古生層より成る萬治山連山（最高五七二米）が南北に延び斷層崖をなし、西近江路に沿ふ斷層谷に向つて急斜し其の南西にも同じく秩父古生層の西濃山（四四四米）を中心とする山塊あり。知内川は秦峠嶽の東の七里半越附近に發して南下し西近江路に沿ひ小荒路の西方より西に轉じ、落合にて秦峠嶽の西より發して南下する支流と合し之より南東に向ひ、西庄村を通過し百瀨村にて湖に注ぐ。七里半越は史上に名高き江越の交通路にて海津より敦賀に至る距離七里半あるを以て名づけられ越前側に愛發關ありし爲重視せらる。現在の交通路としては縣道に七里半越を含む西近江路（村内にては南は小荒路より北は字國境に至る）・白谷小荒路線（西庄村字白谷より本村字山中を經小荒路に至る）・蛭口小荒路線（西庄村大字蛭口より字上岡田を經て本村に入り字浦を經て小荒路に至る）あり。生業は農林業にして特産に炭藍紙あり。古の劍熊野莊にて長し村。明治三十九年本村外三村を廢し、旭村を置く。

ケンクマ　劍熊村　滋賀縣（近江國）高島郡の北東端。海津村の北に接し、西は西庄村に、東は伊香郡永原村に、北は福井縣敦賀郡の栗野村及愛發村に境す。四境山岳に圍まれ全村山地多く平地は僅かに知内川の沿岸に存するのみ。即ち北部に秦峠嶽（八六五米）を中心とする花崗岩の傾斜地塊あり、東部に秩父古生層より成る萬治山連山（最高五七二米）が南北に延び斷層崖をなし、西近江路に沿ふ斷層谷に向つて急斜し其の南西にも同じく秩父古生層の西濃山（四四四米）を中心とする山塊あり。知内川は秦峠嶽の東の七里半越附近に發して南下し西近江路に沿ひ小荒路の西方より西に轉じ、落合にて秦峠嶽の西より發して南下する支流と合し之より南東に向ひ、西庄村を通過し百瀨村にて湖に注ぐ。七里半越は史上に名高き江越の交通路にて海津より敦賀に至る距離七里半あるを以て名づけられ越前側に愛發關ありし爲重視せらる。現在の交通路としては縣道に七里半越を含む西近江路（村内にては南は小荒路より北は字國境に至る）・白谷小荒路線（西庄村字白谷より本村字山中を經小荒路に至る）・蛭口小荒路線（西庄村大字蛭口より字上岡田を經て本村に入り字浦を經て小荒路に至る）あり。生業は農林業にして特産に炭藍紙あり。古の劍熊野莊にて長く京都青蓮院領たり。江戸時代には初は幕府直轄なりしが、慶安四年より館林領となり、延寶八年より更に直轄に歸り、享保九年に郡山藩に屬し明治に至る。史蹟としては大字野口字無量家に創施圓所址あり、一名天照圓又は野口御番所と稱せられ、今關址に當時の役宅一棟存し關吏たりし三上氏の子孫此處に住す。（觀音堂）大字清にあり。曹洞宗。當村の菴庵所屬なり。草創沿革不詳。本尊、木造千手觀音像一軀は藤原期の作にして、國寶なり。

ゲンケー　玄蘆面　朝鮮咸鏡南道務安郡の東北端。郡管内二〇面中の一。東は外邑面及び咸平郡咸平面、北は同孫佛面、西は海陸面、南は望雲・清溪の兩面に各相隣接す。務安半島の小肢節部を占め行政區域地區の二分の一は淺海部を含み他の二分の一は陸地部を成す。慶鏡山脈の末梢部の沈降の結果に成るため無數の地峡部を以て相連なり、平地極めて乏し。產物は麥・大豆・黍穀類・棉花・食鹽等あり。東方五軒の咸平邑より智島に通ずる二等道路の中央部を橫斷する外は、何れも道路改修行はれず交通便ならず。海上交通は海岸遠淺のため舟運便ならず。面邑外盤里は中央頸部の樞要なる位置を占む。

ケンコク　見谷面　朝鮮慶尙北道慶州郡の北西部。郡管内一邑一一面中の一。慶州邑の北西に隣り、東は兄山江を距てて川北面に相對し、北は江西面、西は西面及び永川郡古村面に各相隣接す。南・北・西の三面山地を以て圍繞し西境の龜尾山（五九四米）最も著はる。而して東方に漸次傾斜し、兄山江に向つて展く。產物には大豆・大麥・小麥等多く、東部金城里には窰業行はれ瓦・水甕等を產し、又副業として養蠶・飼牛・養鶏等も盛なり。鐵道東海中部線、面の東端部を南北に走り金文驛ありて慶州驛（六・七粁）、大邱（七五・七粁）、北方鶴山驛（三一・一粁）、安通便なり。面に新羅二十八世眞德女王陵あり。

ゲンコク　元谷面　朝鮮京畿道安城郡の西端。郡管内一二面中の一。東は陽城、北は龍仁郡南四面、西は振威郡松炭及び平澤、南は孔道の諸面に、各相隣接す。東境に千德山（三三六米）・高城山（二九八米）等聳え、西境また德岩山、其他の諸峯聳え域内殆んど平地なく老年期地貌の丘陵起伏す。水田に乏しく畑作を主とし麥・大小豆・粟・黍・馬鈴薯等を產す。道路は二等道路東南安城邑より來り、中央を橫斷して京釜街道に連絡する外は、改修未だ行はれず交通便ならず、面政の中心、外加川里は略ミ中央にあり。

ケンコク　見國嶺　高知縣長岡郡にある山。五臺山西峯の奇巖たり。此巖高く聳え、四方の眺望ひろきより名付く。樹三百年を經て山内氏入國高知山に治城を開きしより此名も一しほ其實に叶ふに至る、谷秦山が詩に纖得先賢見國名といふも此名を讃みしなり。吸江十景の一。

ケンザン　拳山堡　臺灣臺北州文山郡の舊堡名。今の新店庄・坪林庄・深坑庄・石碇庄の地を一堡として拳山堡と稱せしが、一時石碇堡の置かれたる事あるを以て、その主要區は何れに在りしや明ならず。然れども我國領臺以後拳山堡を改めて文山堡と稱せる一區は明瞭に記されたる東北西の三方を山に圍れ僅に南に新店溪の南岸地區の平地を有する一區なり。清領當初の康熙・雍正の頃此地一帶は密林地帶にて現在臺北市の東端にして本堡の門戸を開せる公館附近は秀郎社なる平埔蕃の古地なりしを、雍正七年には新店溪を溯れる廣東人の墾首廖簡岳なる者、秀郎社蕃と和して景尾附近の開墾を行ひ、次で乾隆元年福建省泉州府安溪の移民の一團は先着の粵人を排して公館を本拠とし新店庄・深坑庄の地を次第に收めたるは嘉慶・道光の間にして、景尾（舊稱枕尾）・深坑・新店・坪林等相繼で連絡せられ、咸豐年間新店庄屈尺地方を領せる後はアタヤル族の生蕃に妨害せられ前進を阻止せられしが、光緒十一年に此地方蕃地の討伐を完了するに至りて、始めて坪林より山を越えて北勢溪に沿ひ宜蘭に出る道路を開通するを得たり。赤本堡の地は茶葉の適地にして開人多く茶の栽培を盛し、道光年間既に福州に輸出せる事に淡水廳誌に見ゆる所にして、その後同治三年（一八六五年）英人ジョン・ドットは福建省安溪の茶の良種を移植して、萬華に茶館を設けて厦門へ輸出せり。現在に至るもその狀態を維持せらる。大正九年を以て堡名を廢せらる。

ケンザン　檢山面　平安南道平原郡の北端。郡管内一六面中の一。東は肅川面及び松面、南は朝雲面、西南は海蘇面、西北は西海面に、北は安州郡立石面及び大尼面等に各隣接す。域内百米以下の丘陵起伏し平地乏しく、北部の文川江沿岸には稍ミ廣き平野ありて米・大麥・大豆・粟等を產し其他蔬菜等の特產あり。東方近く肅州邑に通ずる道路は改修せられて同地及び北方新安州方面に定期乘合自動車を通ずるも、其他は未改修にして交通便ならず、塚路分布度も極めて小にして多く散村をなす。

ケンザン　劍山嶺　朝鮮咸鏡南道にある山。白山山嶺の一峯。定平郡高山面の西北境、平安南道寧遠郡大興面との境界上に聳立す。標高一一二七米。東方の咸興府より西方寧遠郡に至る二等道路山上を通ず。

ケンザン　縣山面　朝鮮全羅南道海南郡の西南部。郡管内一三面中の一。東は北平面、北は三山面、西は花山面、南は松旨面等の諸面に相隣接し、西南の一部は松旨面の入江に面す。東境には頭嶺峰山・臺面北に連なりて、大屯山（六七二米）最

も著はれ鹽脈域内に展びて丘陵起伏し平地に稀めて乏し、只中央を南流する縣山川流域及び江岸に猫額の平地を見るに過ぎず。氣候は稀めて溫暖にして三寒四溫の現象も顯著ならず。降水量大にして半島中の夏雨地域を成し、米・麥・大豆・粟・蕎麥等を產す。入江は水淺く干潟地をなすを以て、開拓して鹽田となし又は干拓を成すに適す。郡邑海岸南邑を隔る、南方一五粁、二等道路を通じ乘合自動車の便あるも、其他は等外道路にして交通便ならず。主要聚落は略んど街道に沿うて分布す。

ゲンザン　元山

【元山府】　朝鮮咸鏡南道の郡邑。東朝鮮灣の灣頭にあり。南より半島葛麻角、北より虎島半島(南角)の兩トンボロが突出し、更に永興灣を擁し、灣口には、猫島・茅島・鵝島・鷺島等大小二十餘の島嶼あり、自然の防波堤をなし、灣は更に北の松田灣と南の德元灣とに分かれ、德元灣の奥に元山の港市あり。市街は西長德・北望等の諸山を背ひ、海岸に沿ひ帶狀をなして南北に走り、赤田川の橫斷によりて南北二部に分つ。南部は元山里と稱する舊市街にして內鮮人混淆の市街、北部は內地人居住し本府の中心をなす。府廳の北に偕に支那町と稱する支那人の多き一區域あり。更にその北方に風光明媚の海水浴場ありて別莊多し。元山はもと元山津と云ひ、古來咸鏡道の南部と江原道の北部との要路を扼し、首府京城に通ずる咽喉の位置を占め、また平壤に至る樣要の地にして、加ふるに昔時當地以外の飢饉救助に備へんがため、備荒貯蓄米の倉庫として常平倉を設き、慶尙道方面より米穀を廻送してここに貯藏せし場所たり。古來、商業地として知られ、東海岸地方に於ける大市場たり。元山港は水深くして、干滿の差少なく、自然の良港にして、加ふるに築港工事完成し、日本海沿岸に於ける屈指の良港となり、下關・敦賀・釜山・浦鹽間に定期航路船往復し、陸は總督府鐵道京元線の終點にして、且つ咸鏡線及に東海北部線の起點となり、貿に水陸交通の要衝たり。これ等の鐵道により漸次商圈を擴張し、最近奥地方に水力電氣・窒素肥料・セメント・無煙炭等の軍業の勃興に伴ひ、物資の集散締めて殷賑なり。輸移出入總額三六〇四萬圓、重要輸移出品は米・大豆・牛・木材・木炭・セメント・金鑛・黑鉛・乾鹽魚類・魚油等、輸移入重要品は鑛油・粟・鐵製品・綿織物・機械石等にして、輸移入額は輸移出額の約四倍に達し、對滿洲國貿易は一七萬圓を超ゆ。產業は水產業を主とし、漁獲高一〇八萬圓、明太魚・鰯・鯖・鰈等を主なるものとし、水產製造高も一〇五萬圓に達す。その他、米穀(二四萬貫)等の產あり。工產は水產製品の外、酒類多く、生產總額三六五萬圓に達す。官公署は元山府廳・內務局土木出張所・德源郡廳・穀物檢查所支所・道立元山醫院・仁川稅關支署・調査所・地方法院支廳・咸鏡南道水產試驗場・移出牛檢疫所等あり。また永興灣要塞司令部を置き、學校には公立中學校・商業學校・高等女學校等あり。この地は往昔沃沮の地にして高句麗の時泉井郡と稱し、高麗の時淸珠と呼べり。李朝に入りて宣州と改め、のち德源郡と稱し監理署を置き海外交涉の府となす。明治十三年開港と同時に我總領事館をおき、同三十九年これを廢し理事廳及び居留民團を設く。日韓合併の後德源郡一圓を元山府と改稱し、その後變更あり、昭和八年十月德源郡に屬する七ケ里を編入して現在に至る。市街の後方長德山上に大神宮(元山神社)及び金比羅神社を祀る。兩社間に御大典記念道路ありて山頂を繞ひ、眺望絕佳にして港內の勝景を一望に收む。海濱に松濤園遊園地あり、遠淺にして水淸く、白沙青松、ゴルフリンク・公設グラウンドなどありて保養地たり。葛麻半島の砂濱・小松原を負ひて里除にわたるところは明沙十里にして、海水浴場として著はれ、驛より三粁餘、新豐里に元山スキー場あり。〔元山神社〕泉町に鎭座。無格社。祭神、天照大神。大正五年十二月二十六日、朝鮮總督府令を以て神社創立のこと官許せらる。社殿は本殿・拜殿等にして境內地五百四坪。例祭、五月十七日・十月十七日。氏子、內地人六百五十八戶。鮮人二千二百八十戶。

【釜二鎭線】　朝鮮總督府鐵道局京義線の一。朝鮮の北西部黃海道にあり。黃郡州黃州面にある京義本線の黃海黃州驛より分れて西方の釜二浦邑に通ず。全長一三・一粁。

別院】　眞宗大谷派。明治十三年元山開港成るや、本山にては奥村圓心を當地に派して開教に從はしむ。明治十四年圓心、此地に堂宇建立す。其後鮮人の基督起りて一時衰微の止むなきに至りしが、同十八年再興し釜山別院支院とし、且つ境內に小學校を設け兒童教育に從ふ。爾來頓に發展し、同三十四年獨立して元山別院を公稱す。同四十一年幼稚園及び實業補習學校を興し、また奥仁日本語學校を創立する等、鮮人教育に益すること甚だ大なるものあり。

【元山島】　朝鮮忠淸南道保寧郡の西方海上に橫たはり、端山郡安眞島の南鎖に位置す。本島は郡管內四十九島中の最大島にして周圍凡そ二九・五粁あり。軍艦山脈の餘脈西南方に走り、其の末稍部の沈降の結果生ぜし列島の一にして、海拔七〇乃至一〇〇米を有し、西岸は岩石海岸を成すも其他は其後の隆起に伴ひ砂濱海岸を成す。水產物には食鹽・比目魚・石首魚等あり。聚落は西部に元山島里、東部に渚頭里あり。

ゲンジ　源氏

【源氏山】　神奈川縣相模國鎌倉郡鎌倉町字扇ヶ谷にあり、壽福寺の西に聳ゆ。標高九二米。此邊に於て最も高き山にて、頂上の二株の松は遠方より望わを得べし。源義家奥州征伐の途、此山に白旗を樹てて戰捷を祈りしと、故にまた白旗山とも云ふ。其脈東南即ち停車場近く延びて一小山をなす。鹽昔山といふ。當に鹽昔の像を安置せる處あるを以てなり。其山頂に徑二三間の石突手として坐せり。望夫石といふ。島山重保、由比ケ濱にて戰死せし時、其妻此山にて望み見て懸死にし、終に石に化すと。或は松浦佐用姫の事を附會せしにはあらざるか。和漢共に望夫石と稱するもの多し。程伊川は「江山を望みて石の人の形をなせるものは凡て望夫石と稱す」と云へり。

【源氏岳】　日本南アルプス(赤石山系)白峯(根)山脈東方山脚に峙つ山。甲府市の南西方二十二粁前後に當り、山梨縣南巨摩郡五筒村に屬す。標高一八二六米。玲岩より成るが如し。西方に富士川の一支早川南流し、川の左岸に西山溫泉湧く。川を隔てて西方には白峯山脈に屬する笹山(二二三七米)・別當代山(二二二一五米)對峙す。北西方には丸山(一九一〇米)聳立す。東方富士川の流域なる鰍澤町より西方に發する山路は、山頂の茶屋を經て、この山の南斜面を通り、早川流域に至る。丸山の南斜面にも富士・早川二川の流域を結ぶ山徑東西に通ず。山頂に新羅三郎義光の古據せしものと傳ふ古城址あり。近年まで刀劍等を發掘せりと云へど詳かなれず。又この地は甲斐源氏の發祥地なりと云へども確かならず。山腹・山麓一帶の地は、源氏山御料林をなし、松・椿・樅・檜・楓等の樹木茂り、美林を以て知らる。登路は輸しく登攀する者稀なり。

ケンシ——ケンシ

ケン・ジホ　釜二浦

【釜二浦邑】　朝鮮黃海道黃州郡の西北端。總督府鐵道釜二浦線の終點にして大同江下流左岸、江を遡る二八の浬上流にあり。昔ては一漁村に過ぎざりしが、明治三十七八年日露戰役に際し陸軍の京義線敷設用鐵道材料陸揚場として工兵中佐渡邊秀二の發見により釜二浦と稱するに至れり。港內水深く四千噸級の汽船を裕に碇泊し得るに足る。水陸交通共に便にして、東方黑橋に乘合自動車を通じ、鎭南浦行の發動機船は每日二往復(大同江を發動汽船にて渡り自動車と連絡す、所要時間一時間半)あり、農產豐富なる載寧・大同の兩平野を後背地とし物資の集散締めて活潑なり。大正六年三菱製鐵所市街の西方江岸の地を選びて設けられ、昭和九年日本製鐵釜二浦製鐵所と改まり、いま焼鐵爐二基・平爐一基・製銅工場・發電所・コークス・セメント・硫安・ベンゾール・煤炭等の諸工場建設され、鳳料は鮮內鐵山及び本溪湖等より輸送し來り半島屈指の工業都市となり、最近東洋一の高き煙突の築造を見、年と共に發展しつゝあり。製品の主なるものは銑鐵(年產二二萬瓲)・鋼鐵(六萬瓲)の外、副產物として骸炭・コールタール・ピッチ・ナフタリン・タール油・硫酸アムモニヤ・ベンゾール・煉瓦・高爐セメント等なり。邑內に江鄕便局・釜廳署・郵校組合・公立小學校・金融組合等あり。

【釜二浦神社】　無格社。祭神、天照大神。大正十二年八月十六日、朝鮮總督府令を以て神社創立のこと官許せらる。社殿は本殿・拜殿等にして境內地五百四坪。例祭、五月十七日・十月十七日。氏子、內地人六百五十八戶。鮮人二千二百八十戶。

ゲン・シュー　原州

【原州郡】　朝鮮江原道二十一郡の一。道の西南隅にあり。東は寧越郡に北は橫城郡に西は京畿道驪州郡・楊平郡に、南は忠淸北道堤川郡・忠州郡に各隣接す。面積約三八一平方粁。大白山脈の餘脈が郡內に蜿蜒起伏し、東境に南豪山(一一二二米)南境に白雲山(一〇八七米)聳立し平野に乏しく、僅かに蟾江及びその支流の原州川の沿岸に帶狀の平野ありて耕地拓く。產業は農產を主し米・麥・粟・稗等を主とし、特用作物は煙草を第一とし小豆・大豆・胡麻等を出す。交通は鐵道の便なく水運の利またなきも二等道路は春川邑(春川郡)に、南は忠州面(忠州郡)に西は京城府に通じ、京城府より江原道に入る南入口に當り交通の要衝に當る。本郡は古句麗の地にしてのち新羅に統一せられついで高麗の有となり李朝を經て日韓併合に及び今日に至る。古來平原・北原・京一新靖原・益興・成安・平凉凉・原城・鶴城と郡名の改稱ありて現名に至る。本郡はもと二十面なりしを光武九年地方行政區域變更により康川・池內の二面は驪州郡に、左邊・右邊・水周三面は寧越郡に、古毛谷面は橫城郡に各移屬し、大正三年更に面の廢合を行ひ、現今原州・所草・好楮・地正・建登・富論・貴來・興業・板富・神林の十面を管す。大正四年臨時土地調査の結果里の分合を行ふと共に洞名を廢す。郡廳は原州面上洞里に置く。

【原州邑】　朝鮮江原道原州郡の ほゞ中央部。東及び北に所草面、西は好楮面、南は板富面に各相隣接す。車嶺山脈東南境を走り雉岳山(一二二八米)聳立するもその他著しきものなく、漸次西方に低夷し原州川の平地を成す。原州邑は原州川左岸の邑城にして、古來「原州赤岳、富に證世の地」と稱せられ、高句麗の平原郡にして、新羅時代に北京が置かれ、爾來地方行政の一中心として重きを成し、高麗朝に入り現在の名に改められ、都護府を置き牧となる。李朝に入り江原道政治の中心として觀察使、兵馬節度使の監營を置き李太王の時世に及ぶ。邑は歷史的都城にして、古來兩班の居住する者多く此點南鮮の邑城に類似す。昭和十二年六月

産物に富み、米・麥・大豆・煙草等の外明論・絶布・紙・薪炭等豐富に産し、道路網亦色を中心として四通八達し時に北方鴨川、東方江陵、西方京城へは何れも日々定期に乘合自動車を往復し、物貨の集散活潑にして市場取引一ヶ年十萬圓に達す。原州郡廳・地方法院支廳・郵便局・小學校・工業學校・蠶業傳習所・金融組合等あり、邑の東方八軒嶺岳山は文祿役の古戰場として知られる。

ゲンシュー　彦州面　朝鮮京畿道驪州郡の西北端。郡管内十六面中の一。郡東及び南は中華面及び大旺面、北は漢江を隔て高陽郡蘆島面に相對し、西は始興郡新東面に各相隣接す。南半部は太母山（二九三米）を始め丘陵起伏すれども、北半部は概して低平にて地味肥え灌漑の利に富み京城府の郊村として集約度高き農業經營行はれ蔬菜の栽培盛なり。京城に通ずる二等道路面の西部を南北に走り、また漢江に舟運の便あり。面政の中心、肆三里は面の南端新東面に接す。

ゲンセー　縣西面　朝鮮慶尙北道青松郡の西南端。郡管内八面中の一。東は縣東面、北は安東郡吉安面及び義城郡玉山面、西は義城郡舍谷・春山兩面、南は永川郡新村面にそれぞれ相隣接す。南境に普賢山（一一二四米）、西境に山頭峰（七四九米）等屹立し西南一帶は山岳重疊して平地に乏しく、漸次北東に傾斜す。住民一般に質朴にして農業に從事し、傍ら黃蠟製紙の業に從事するもの多し。産物は大麥・大豆・粟・馬鈴薯・煙草・紙・松實等にして又陶土多く瓦、甕類を産す。北方青松邑より來る三等道路は面内和睦を經て面の西部を縫貫し、南方永川に達するも道路良好ならず。洪水ある毎に橋梁破損屋落等ありて通行困難の場合少なからず。また西方義城に三等道路を通ず、郡中絲に見る樂落度の大なる地域にして域内普ねく分布し其主なるものに北より豆峴洞・德溪洞・九山洞・東川洞・小金里・鶴洞・金泉洞・德城洞・聖才洞・武溪洞・水洛洞・栢子洞・慕溪洞・道洞・月亭洞・沙村洞等あり。主邑は北部の和睦にして、小學校・金融組合等あり。

ゲンセーダ　源清田村　芙蓉縣常陸國稻敷郡の南部。西より北、生板村、東は長竿村に隣す。南は利根川に面し、川を隔てて千葉縣印旛郡安食町と相對す。面積八、二一平方粁。利根川下流流域の低地に位し、新利根川北部を東流し村内全部水田にて東北隅は根本村・柴崎村に連る沼田地帶の一部をなし米を主とし大麥・小麥の産あり。縣道中央を通り、西北約七・五粁にて龍ケ崎町に至る。また利根川によりて東京市・銚子市方面への汽船の便あり。往古のことは以て數すべきものなし。いま源清田・布佐・平三郎・宮潤・猿島・駒子鈴・古河林・手賀の八大字より成り源清田に役場を置く。

ゲンソー　元倉　朝鮮總督府鐵道局慶全西部線の一驛（昭和五年設置）。朝鮮全羅南道順天郡別良面にあり。

ゲンタ　巖多面　朝鮮全羅南道咸平郡の南端。郡管内九面中の一。東は咸平川を隔てて鶴橋面に相對し、北は咸平面西は彭安郡の外邑面、南は同石津面に各相隣接す。域内丘陵起伏し概して平地は少なく東部咸平川沿岸に稍平地を見る。叙上の地形は灌漑水利の便に乏しく臺地上は主畑作農業行はる。農産物には大麥・大豆・甘藷・棉花等あり。一等道路は東方羅州より來り域内を東西に横斷して木浦に達する外見るべきものなし。樂落は咸平沿川岸もより、寧ろ臺地上に多に跨る。標高八九七米。西麓は直に八本越の最高點に達る。北降すれば上佐治村字加茂に、南降すれば阿波村・大畑に至る。峠路は名の示す如く險し。

ケンショー　建昌街　臺灣臺北州臺北市港町三丁目の舊稱。淡水河に臨む。光緒十三年臨撫劉銘傳の提議に依りて、臺北の富豪林維源の起せる建昌公司なる建築會社に依りて建てられし街肆にして街名これより出でたり。現時商勢を太平町等に奪はれ、甚だ寂れて古色蒼然たる建物に昔時の面影を殘すのみ。

ゲンショージ　源聖寺坂　朝鮮慶尙南道釜山府の北端。鹿鳴峠・稍平地を見る。南斜面より細流發し、南西流して北上川に落つ。この流に沿ひ水沼・鶴野の部落あり。

ゲンジロー　献上山　朝鮮慶尙北道大邱市の北東方約八粁に當り、宮城臨牧鹿郡精井村の北端に峠ち、北側は桃生郡大川村に亘る。南斜面より細流發し、南西流して北上川に落つ。この流に沿ひ水沼・鶴野の部落あり。

ゲンジロー　源次(治)郎岳　關東山脈秩父山塊の一峯。甲府市の北東方二十二粁南後、大菩薩嶺の南西方約七粁に當り、山梨縣東山梨郡奥野田村と大篠村との界境に聳ゆ。標高一四七七米。北東稜には祇山（一六〇五米）を經て大菩薩嶺（二〇五七米）續き、西北稜には恩若ノ峰（九八三米）連る。東方には小金澤山（二〇一四米）・黑岳山（一九八八米）對峙す。天目山はこの山の南方に當る。

ゲンセー　縣西面　朝鮮慶尙北道青松郡の西南端。郡管内八面中の一。東は縣東面、北は安東郡吉安面及び義城郡玉山面、西は義城郡舍谷・春山兩面、南は永川郡新村面にそれぞれ相隣接す。南境に普賢山（一一二四米）、西境に山頭峰（七四九米）等屹立し西南一帶は山岳重疊して平地に乏しく、漸次北東に傾斜す。住民一般に質朴にして農業に從事し、傍ら黃蠟製紙の業に從事するもの多し。産物は大麥・大豆・粟・馬鈴薯・煙草・紙・松實等にして又陶土多く瓦、甕類を産す。北方青松邑より來る三等道路は面内和睦を經て面の西部を縫貫し、南方永川に達するも道路良好ならず。洪水ある毎に橋梁破損屋落等ありて通行困難の場合少なからず。また西方義城に三等道路を通ず、郡中絲に見る樂落度の大なる地域にして域内普ねく分布し其主なるものに北より豆峴洞・德溪洞・九山洞・東川洞・小金里・鶴洞・金泉洞・德城洞・聖才洞・武溪洞・水洛洞・栢子洞・慕溪洞・道洞・月亭洞・沙村洞等あり。主邑は北部の和睦にして、小學校・金融組合等あり。

く。花陽里・水洞里・皇泉里・新溪里・鶴野里・松路里・鼓谷里・三亭里等五校・臺地上に點在す。面事務所を鼓谷里に置く。

ケンタン　劍潭　【劍潭】臺灣臺北市大直にあり。基隆河の劍潭山下を環りて迂流する所にして一深潭を為す。是れ即ち劍潭にして、尹士俊の臺灣志略に「劍潭、有樹、名茄冬、高蔭障天、大可數抱、峙於潭岸、相傳荷蘭人、挿劍於樹、生皮合、劍在其内、因以名焉」より其名出でたりと云ふ。劍潭に臨みて一古刹あり。即ち劍潭寺にして、明末鄭氏の時代の開基にして、觀音菩薩を祀る。臺北市の東方一里の郊外にあり。劍潭の名は、古來人口に膾炙し、歌文に良く見られるところなり。

【劍潭山】臺北市大直に在り。劍潭に臨みて立つ一峰即ち是れなり。山高からざるも、附近の景色良く、山巒水明にして、劍潭の碧水を隔てて、西南に臺北平野を一望に收め、遠く眺むれば、中央山脈は蜿蜒として其偉容を見す。山の中腹には臺灣神社鎭座ましまし、一帶は靈域にして、其大半は神社の境内なり。蓋に一古刹あり、之れ即ち劍潭寺なり。

ケンタン　檢丹面　朝鮮黃海道海州郡の最北部。郡管内一邑二二面中の一。東は羅德面及び信川郡斗麗面、南部兩面に、北は龍門面、西は長淵郡の長陽面、南は雪山面及び彌陀面に各相隣接す。高鳥山脈の餘脈展びて東北境及び西北境は山地を以て劃し天峰山（五八六米）・指南山（六二三米）・鵲山（五九三米）・達磨山（五九六米）・八峰山（四八一米）等相連なり。鹿灘・川北兩山地に發源し準平原化されし臺地内を流れ南流す。物産には米・大麥・小麥・大小豆・粟等あり、又梨・栗等の果實を産す。面政の中心溫泉里は西南端にありて廣灘川の右岸に位置し、道路網の核心を成し、北方は信州邑に、西北方は鶴嶺を越えて松禾方面に、南は竹川・苔灘邑へ、東南は海州邑へ各二等道路を通じ何れも路線の改修を見、交通頗る便なり。溫泉里は炭酸鹽泉にして藥水として來飲する者多し。警察署あり。陰曆二・七の日に開く市日には藥水と相俟ちて頗る賑ふ。

ケンタン　黔丹面　朝鮮京畿道金浦郡の南部。郡管内九面中の一。東北は郡内面、西は陽村面、南は富川郡西串面、東南は同桂陽の諸面に各相隣接す。城内の西半部は淺海地を成して中に升島・吉鮮島・栗島・陸島等の小島點布し、東半部は丘陵性地帶にして北境の獅岳峰（二一五米）稍注意を惹く。産物には米・麥・大豆・棉花・煙草・花等あり。又水産物には鰒・蟹・鱈・鰕等あり。郡邑金浦に近く商圏は金浦邑の勢力圏内に屬す。道路改修一般に進まず交通不便なり。聚落は中部の麻田里、西端の稽柳里を顯著なるものとし、麻田里に面事務所を置く。

ゲンチョー　元長庄　→元長庄（臺南州北港郡）

ケント　賢都面　朝鮮忠淸北道淸州郡の南端。郡管内一邑一六面中の一。淸州邑を去る南方一五粁にあり。北東は文義面、北西は芙蓉面に隣り、西は錦江を隔てて忠淸南道大德郡の九則面、南は同北面に相對す。東境に九鳳山（三七〇米）の聳ゆる外著しきものなく老年期の丘陵性地貌を呈す。南境を流るる錦江は蛇入メアシダーを成し峽谷美に富む。産物には大麥・大豆を主とし、其他莞草・棉花・麻等あり。鐵道京釜本線域内を南北に縱貫するも停車場なく錦江對岸の新灘津驛又は北境に近き芙江驛或は梅淸驛より連絡す。面事務所を縫塞里に置く。

ゲント　玄菟　古、滿洲朝鮮に跨がりありし郡名。前漢武帝古朝鮮を降してその地に帶方・樂浪、玄菟、眞番の四郡を置く。玄菟郡は今の咸鏡南道の地に當り治所は慈興府。次ぎの昭帝の時滿洲國興京を中心とせる地に移り治所を高句麗（今の興京城北）となす。後漢末更に軍閥方面に移り治所を玄菟城といふ。蓋し高句麗國强盛となるにつれ强域北方に移動せるなり。西晉代、遂に高句麗に併呑さる。五胡十六國時代前燕國一時玄菟城を再興せしことあるも後又高句麗に亡きる。唐太宗高句麗征伐の時攻めたる玄菟城は奉天附近の舊城を指せるもの。

ケントー　建登面　朝鮮江原道原州郡の西端。同郡一〇面中の一。東は興業面及び原州邑、北は也正面、西は京畿道驪州郡康川面に、南は富論面及び貴來面に各相隣接す。車嶺山脈域内に及び東境に鳴鳳山聳え山地を成せども中央部は淺江の支流蟾江貫流し、沿岸稍大なる平野を成し、地味肥え農業盛なり。農産物に米・大麥・大小豆・煙草等あり、稀に大小豆は良質を以て名あり、其他明紬、絶布、薪炭等を産す。道路は東方原州邑、西方驪州邑に各二等道路を通じ、面の中心文講里より何れも一五粁内外、乘合自動車の便あり。蟾江の河運は文講里より下流は舟を通ず。主要聚落は蟾江沿岸低地に分布し建登里・梨屏里・磨溪里・浦津里・宮月里・厚月里等あり。

ケントー　劍頭山　朝日岳（山形縣西置賜郡・西村山郡との境界にあり）の別名山頂　劍頭に似るを以てこの名ありと云ひ、又ケントーは見當の意にして龍標の義より出づとも云ふ。

ケントー　縣東面　朝鮮慶尙北道青松郡の南部。郡管内八面中の一。東は府面及び迎日郡竹北面に、北は安德面、西は縣西面に各相隣接す。域内山岳重疊にして平地に乏しく中央部を洛東江の支流吉安川の上流北流すれども、蒐川にして發源山地に於ける砂土の供給甚しく雨期を除いては常に淺瀨流を成す。從つて灌漑の便少なく稻地發達せず。薪炭

砂金等の產あり。位置鄙陬に位する爲道路の改修行はれず何れも等外路線にして車を通ずるものなし。面事務所は北境に近き印支洞に置く。

ゲンドー　元堂面（げんどう）　朝鮮京畿道高陽郡の略中央。郡管內九面中の一。東は神道面、北は碧蹄面、西は中山、西南は知道面に各相隣接す。域內一般に丘陵起伏し神積地に乏しく、耕地は多く丘陵上に位置するを以て灌漑不利にして畑作卓越し、果樹・蔬菜の栽培多く、苹果・甜菊・白菜・大根・人蔘等を京城市場に送る。一等道路の京義街道は面の東線を北走し、鐵道京義線西方を走り陵谷驛西境に近く位置するを以て鐵道によるを便とす。面邑舟橋里は西境に近く交通頻の焦點にあり。

ケントク　乾德山　國東山脈秩父山塊の一峯。甲府市の北東方二十二粁前後に當り、山梨縣東山梨郡三富村に峙つ。標高二〇〇〇米。花崗岩より成り、巍然たる山容を有する岩峯たり。北嶺に黑金山（二二三二米）にして、西北方には國師ケ岳（二五九一米）、奥千丈岳（二四〇九米）・創ノ峰（二〇五三米）等連亙す。東方山麓は西南流する笛吹川に洗はる。川に沿ひ秩父往還延走す。山中に無窓國師の草創と傳ふ瑞林寺あり。國師の座禪せしと云ふ座禪石・枕石・休息石等存す。

ケントク　劍德山　朝鮮咸鏡北道茂山郡にある山。小白山脈の一峯。逸下面の西境にして延上面との境界上に聳立す。標高一九〇一米。

ゲントク　玄德面　朝鮮京畿道振威郡の西端部。郡管內一〇面中の一。東は安城川を隔てて牙山郡の西面に、北東は梧城面、北及び西は清升面に相隣し、南は安城川を隔てて牙山郡靈仁・仁州の兩面に相對す。踏鐵形に周縁丘陵を以て圍繞し、低地は中央に横はり南方安城川岸に連なる。低地は地味肥沃にして、良質の米を產する外大豆・大麥・煙草等の產あり。道路は何れも等外道路にして車を通ずるものなく交通便ならず。面邑防築里は面の略中央に位し、他の聚落は山麓線に沿ひて環狀分布を見る。卽ち北より薦陽里・靈井里・道峯里・斗梅里・岐山里・太安里・黃山里・仁光里等を其主なるものとす。

ゲンナ　元和村　埼玉縣武藏國北埼玉郡の東端。東北は東村を隔てて利根川に近く、東は北葛飾郡靜村を挾みて堀橋町に續く。面積五七二平方粁の小村なり。利根川流域平野に位し村內一帶に平坦、南半は台地にて畑地、北は水田をなす。農產に米・麥を多產し、また養蠶行はれて繭を出す。省線東北本線の堀橋驛（靜村地內）に近く、交通不便ならず。この地は近世埼玉郡向川邊領の內にして太田庄に屬す。大字琴寄は往時より幕領にして、元祿十年酒井河內守の檢地ありし地なり。大字北平野は平野村と稱し古くより幕領にして寛文年間に土井氏に賜はりし地なりと。大字北下新井はもと下新井村と稱し正保の頃は幕領なりしが寛文五年土井信濃守に賜はり、子孫續いて領せり。寛永十八年伊奈半十郎の檢地せし地。

ケンナイ　縣內

【縣內面】　朝鮮江原道高城郡の東端。郡管內七面中の一。北は高城面、西は水洞面、南は稻谷面に各相隣接し、東は日本海に面す。太白山脈の東斜面に位置するを以て西境に小鵲峰（六八〇米）を始め諸峯相連なり、東方に向つて漸次低減し遂に日本海に達す。海岸は岩石海岸を成し砂濱を見ず、出入また極めて少なし。只南境にこの單調を破る花津浦の潟湖あり。附近一帶は稍平地開け郡中の代表的米作地たり。農產物は米・大麥・小麥・大豆・粟等にして、外に蜂蜜・繭等あり。海產物には鰒・鮑等あり。二等道路は北方高城より來り、面內を海岸に沿ひ南走し、杆城に達し乘合自動車を通ずるも、其他の道路は往來頗る不便なり。

【縣內面】　朝鮮江原道平康郡の東南部。郡管內七面中の一。東は淮陽郡鄰谷面、北は高獅面、西北は楡津面、西は木田及び西面に各相隣接す。面の東半部は松嶺山（五七八米）、雲層山（七六六米）・長岩山（一〇五二米）等の聳立により山地を成せども、西半部は北方洗浦・南方鐵原に連る一帶の平原の一部を成し、海拔四〇〇米の高原にして地溝帶中にオーバーフローせし玄武岩台地にして漢灘江は高原を侵蝕して幼年期の谷を刻みて流る。高原一帶は夏季冷涼にして草生地多く特色ある景觀を呈す。夏季陸軍の演習地として利用せらる。農作物には馬鈴薯・蕎麥・燕麥等冷涼地作物卓越す。鐵道京元線は西部の玄武岩の熔岩臺地上を縱貫して北上す。面界は東西分水界に位置する地理上興味ある地點にして面界に近き鐵摩驛は海拔五五四米の高臺に位置し、全朝鮮鐵道中の最高驛を成し、列車は鐵摩浪を出で四〇分の急勾配を上りつつ朝鮮線の最高點六〇三米の分水嶺を過ぎ、ここより下りて洗浦驛につく。道路は鐵原より鐵道に併行して北方洗浦に通ずる二等道路の外は何れも等外路線にして改修成らず交通概して不便なり。面邑旬龍里は面の南端、福溪驛附近にあり、聚落度極めて稀薄にして未開墾地多し。

【縣內面】　朝鮮黃海道金川郡の南端中央。郡管內一五面中の一。東は京畿道長瑞郡小南・大南兩面及び口耳面に、北は白馬面、西及び西南は金川面に、各相隣接す。東北境に軍長山（九五六米）聳え其餘勢城內に及びて東半部は山岳重疊すれども、西北部に向つて下り西北部に稍低地あり。產物は大豆を主として粟・黍等あり、又近次郡鐵剛青各所に行はるに至れり。京義街道より分岐せる三等道路は面內を斜

して東北方江原道伊川に通ずる外は道路の見るべきものなく交通不便なり。面事務所を松亭里に置く、一般に散村聚落にして戶口疎なり。

ケンナン　縣南面　朝鮮江原道襄陽郡の東南端。郡管內九面中の一。郡政の中心襄陽を去る東南約二〇粁にありて、北及び西は縣北面、南は新里面に各相隣接し東は日本海に面す。大白山脈の支脈西境に迫り、鐵甲嶺（一〇一三米）・滿月山（六二六米）等の諸峯相連なり、殊に西南部は壯年期の山貌を呈し急峻、東南に向つて漸次低下するも尙山麓の海岸に達して各所岩石海岸を成す。東岸中央部は砂丘の發達を見、其內側に前浦の潟湖を湛ふ。耕地は海岸に沿ひて發達し物產に大麥・大豆・鰯・鰒・鯛・海草等あり。陸路には郡邑襄陽より南方江陵に通ずる二等道路、海岸地帶を縱走する外何れも等外路線にして僅に面內の用を辨ずるに過ぎず。

ゲンナン　元南面　朝鮮平安南道孟山郡の東南端。郡管內八面中の一。東北は東面、西北は孟山面、西は玉泉・封仁の兩面に、西南は鶴泉面、東南は陽德郡化村面及び吳江面に接す。狼林山脈中に位置する爲、四面山岳重疊し殊に北境の伏虎德山（八二七米）、西北境の鐘山（九五六米）、南境の四嶽山（八七二米）等何れも峨々たる山骨を露はし突兀として聳え、境內殆ど平地たく開墾未だ進まず、耕地も極て少なし。農產物は大豆・粟・玉蜀黍・小豆等にして特產物に尤麻及び麻布あり。道路改修未だ成らず、他地方との交通便ならず。

ゲンナン　元灘面　朝鮮平安南道江東郡の西南端。郡管內六面中の一。東及び南は晩達面、北東は晶湖面に接し、北は古邑面及び高阜面に、西は大同郡柴足面等に各相隣接す。西北より東南に狹長なる地域を劃し、西北境に國土峯（四四六米）聳え中央に向つて低減し、東境には黑龍山（四〇〇米）聳え、これ亦中央に向つて緩傾斜し、兩者相合する所に大同江大きく弧狀を描いて南流し、稍廣き平野橫たはる。流域灌漑の便に富み、地味亦肯農にて農產物豐かなり。住民は專ら農を主業とし、粟・大豆を主產し麥・小豆・米これに次ぐ。一等道路は平壤府より來り橫斷して、東北方江東邑に通ずる平元街道の外は、所々に阪路多く車を通ぜず交通運輸不便共になり。面事務所は上里に置く。

ケンパク　兼白面　朝鮮全羅南道寶城郡の略々中央。郡管內十二面中の一。東に鳥城・栗於の兩面、北に碧內面、西に彌力面、南は得粮の諸面に相隣接す。北境天馬山（四〇七米）・南に方丈山（五三六米）相對立し、其中央は淺き盆地を形成す。住民は農業を主とし近年養蠶業漸く盛と成れり。等外路線網比較的密なるも改修未だ行はれず車を通ずるものなし。產落は盆地の周緣に多く分布し北より陸德里・平湖里・石湖里・道安里・南陽里・砂谷里・龍山里等あり。面事務所を石湖里に置く。

ケンヒ　劍尾山（けんびさん）　劍尾山（大阪府）の別稱。

ゲンビ　嚴美村　岩手縣陸中國西磐井郡の西部。西は秋田縣雄勝郡に界し、東は本郡山目村に、南は宮城縣栗原郡鉛萩村に接し、北は體澤郡若柳・衣川兩村鉛に本郡平泉村に接して、地形東西に長く二七粁、南北一四粁、面積四九粁なり。村の中央より西部は奥羽山脈に屬し殆ど山地をなして、西端に須川岳（一六二七米）聳立し、是より第三紀層より成れる小支脈東に向つて分派し居れり。而して須川岳に源を發したる磐井川は村の中央を東流し、沿岸に鹽狀に連續せる小盆地を成し、爰に小猪岡（海拔二〇〇餘米）・瑞山・本寺・山谷（海拔一〇〇餘米）猪岡・五串（海拔七〇米）の部落を形成し、七百五十餘戶、五千四百人の人口を抱擁せり。地質方面にては村內各地に灰岩露出し、本寺部落にて花崗岩、山谷部落にて長石陶土、五串部落山地に多量の貝殼層の露出せること、山谷部落の段丘發達等は注目すべきことなり。本村に於ける產業は主として農林業にして、米の作付反別五百四十二町歩（昭和十一年度）、生產高九千二百石、價格にして二十四萬七千圓、平均反當一石七斗の收穫なり。麥の作付反別百五十三町歩、生產高三千百五十石、價格にして二萬五千餘圓、大豆は六百十七石、馬鈴薯二千三百貫、蔬菜類其他穀類等價格にて二萬圓、桑葉三萬貫にて三千四百圓、繭二千貫この價格八千四百圓、その合計三十二萬圓、產馬頭數百二十、賣上高一萬二千圓（現在飼育頭數七百）にして、其他畜產額合計一萬六千圓、副業方面に於て特色あるは製炭業にして、主として村の西部に行はれ、その生產高六十萬貫、價格にして約十二萬圓に上り、其他薪材の一千五百圓、用材竹材を加ふれば約十五萬圓に上る、鑛產に於て石材土石等の六千圓、竹細工の一千圓、藁工品の六百五十圓、其他工產物合計六千八百圓、生產額總計四十九萬六千四百圓にて、現住戶數一戶當六百五十七圓。主要路線は地形上磐井川に沿ひ、村の略中央を東西に通じ、これより各地に支線を出し、五指狀に發達するに至れり。（イ）保勝道路、隣村山目村より來り嚴美溪に至つて北折し、平泉村に去るもの村內五粁。（ロ）院內線、嚴美溪にて保勝道路より分岐し、西に走つて須川山麓瑞山に至るもの此間一二粁。（ハ）岩ケ崎線、嚴美溪より南方萩莊村を經て岩ケ崎に至るもの村內二粁。（ニ）栗駒線、嚴美溪より西南猪岡・小猪岡部落を經て、宮城縣栗原郡栗駒村に至るもの村內二五粁。（ホ）菅生澤線、山谷部落に於て院內線より分岐し、西南に延び衣川村に至るもの

村内五軒。(〇)須川登山線、瑞山を發し須川岳正面より登るもの約二五粁、同所を發し貢湯温泉を經て、曲折迂回して登るもの約三五粁等はいづれも林道に屬せり。本村は雁仙峯領なりしが明治四年七月一關縣に屬し、爾後官制變更と共に水澤縣・磐井縣等に改まり、明治九年四月岩手縣の管轄する所となり。明治二十二年町村制實施に際し、五串村(現在五串・山谷・本寺の諸部落)・猪岡村(現在猪岡・小猪岡・瑞山の諸部落)を合併し厳美村と改稱し今日に至る。(厳美溪)(ゲンビケイ)厳美村五串にある磐井川の峡流にて自動車の便あり。溪は天工橋を中心とし、橋の上下約一粁に亙れり。この間石英粗面岩は岩盤をなし、河道に横はりて河水これを浸蝕し峡流を作り、或は懸りて瀧となり、或は穿ちて深潭となり、數多の甌穴が兩岸に形成さる。橋の此方に櫻の並木あり。これは伊達政宗の植ゑさせしものにして貞山櫻と名づけらる。その中に黄色の花の咲くものが一株あり。これを黄金櫻と云ふ。河岸に下れば建猪岩の上に御覽場と云ふものあり。ここは天工橋附近の景を望むに絶好の地なり。その附近に獨り潤・亂れ岩・大瀧・壺ケ淵の勝あり。天工橋の上に立てば、上流に向ひ岸の岩に落下せる小松瀧が眺めらる。橋を渡りて左に向ひ河岸を下れば赤鯉の間に曾虹臺址あり。荆澤時代に落主遊覽の屋臺を設けし處なり。その近くに龍ケ淵・龍頭岩・白糸瀧・石割松などの勝景あり。天工橋に引返し更に上流に向へば小松瀧の上に廣大なる枕曳岩あり、その左方に天工橋記念碑が立つ。松平定信の題額、松崎慊堂の天工橋記を刻せしものにて、文政二年の建碑なり。その上流に瀧見橋が架せられ、可惜瀧・峰雄瀧・鳴門の渦などが橋より上に眺めらる。更に上れば京田瀧・千叠敷岩・蛙石などの勝景あり。厳美溪全景の觀覽には一時間を要せり。

ゲンブ　玄夫島　高知縣長岡郡にある島。浦戸灣奥をなす吸江灣の江心にある岩礁、今の黒礁が玄夫は亀のことなりと。此島滿潮に浮き出る時は亀の甲に似せるに似たる故名付く、出所は蘇東坡の詩に倒見玄夫曝日時といふに基く。黒岩悠庵十景詩玄夫島、小島波心經緯浮、玄夫曾擬飛春秋、釋法螢吸江寺十境記、又有二物於水中一注、其色如點、其形似浮者玄夫島也、かく小島波心といひ一物水中といへば海中の孤島なるに似たり。鳳凰起伏せる黒礁はこれに適せず、古今地勢に變ある事故確に知り難きも、吸江神の島といへば先づ黒礁の他に其場所なきに似たり。何は考ふべし。

ゲンブー　玄風面　朝鮮慶尙北道達城郡の西南部。郡管内十六面中の一。大邱府の南方約二五粁、洛東江左岸に位し、東は琿伽面、北は論工面及び洛東江を隔てて高靈郡開津面に相對し、西南は求智面に相接す。西半部は丘陵地帶を成すも、東半部は洛東江の蛇曲部に當り土地低平肥沃なり。住民の多數は農業を主とし、又養蠶・苹果樹・櫛柿・煙草の栽培に從事する者少なからず。道路は北方大邱府より來る二等道路東部を縦貫して南方慶尙南道昌寧・靈山に達す、其他等外路線なれども面内よく連絡す。面邑玄風は二等道路に沿ひ、市街地を成し郵便所・警察官駐在所・金融組合・小學校等あり。

ゲンブチ　劍潤村　北海道天鹽國上川郡の西南部。上川支廳の管下にて東北は士別町に、東南は和寒村に、西北は温根別村に界す。東部と西部には丘陵性山地あるも、中部は土地平坦にて天鹽川の支流和寒川その東部を北流蛇行し、北部に於て西北隣温根別村より東南流して來る犬牛別川を併せ士別町に出づ。平坦部には耕地開拓せられて農產多く、また工產少からず。省線宗谷本線中部の平坦地を南北に走り假潤驛(明治三十三年設置)を置き、道路また南北に通じ士別町・和寒村方面への交通便利なり。もと屯田兵村なりしが明治三十九年二級町村制を施行して今日に至る。

ゲンフッロー　劍拂浪　朝鮮總督府鐵道局京元線の一驛(大正二年設置)。朝鮮江原道平康郡高拂面にあり。

ゲンブドー　玄武洞　省線山陰本線の一驛(明治四十五年設置)。兵庫縣城崎郡内川村にあり。驛の東方五〇〇米、田鶴野村の地籍に名稱玄武洞あり。

ゲンペー　元平面　朝鮮咸鏡南道新興郡の西南部。郡管内八面中の一。東南は咸州郡德山・岐谷の兩面に、北は東古川・西古川の兩面、西は咸州郡下岐川面、南は加平面に各相隣接す。西北より東南に長徑三〇粁を有し短徑一〇乃至五粁の地域を有し、東南部及び西北部は山岳重疊して兩山地相對立し、中央部は咸川流域の平原地帶を形成す。當面の主體は實に此の咸川平原帶にして耕地拓け、米・大豆・粟・大麥を主產す。朝鮮鐵道咸南線(ガソリン車運轉)五老より來りて北上し、面の中央部を南北に貫き、鳳洞(昭和八年設置)・千佛山(大正十五年設置)の二驛を置き、道路は咸興より來る二等道路咸川の左岸を經て、禁山郡黄水院に達する外、面邑元平を中心として北西境晩項(一二二六米)の峻を越えて長津江流域に出づるもの、東方海岸地域に出づるもの等あれど、險坂多く車馬を通ぜず交通不便なり。面邑元平里(元平場)には面事務所・警察署・金融組合、隔旬三・八の日に開く市場あり、開市日には山間地帶より集まり活況を呈す。千佛山は面の西北隅に聳え、標高一四五五米、巍峩たる峻嶺奇峰は雲表に拔きんで、山骨深溪は天工の妙趣をなせり。古く支堤峰・聖代峰とも稱せられしが、後年聖僧道詵唐山中に隱り、山頂に塔千基を築き

民の安寧を祈りしより、遂に千佛峰の稱あり。山内の名所頗る多く、千佛山驛より五粁半、新成里に古來著名なる產金地あり、採鑛跡を處々に散見し、昭和六年朝鮮開發鑛業株式會社貢本金二百萬圓を投じ採鑛に着手せし以來、附近は急劇の發展を示しつつあり。朝鮮開發鑛業株式會社より西北四粁半に開心寺の名刹あり、境内奇巖の趣をなし、雨花樓・綠樂殿・大雄殿・羅漢殿等の大伽藍等あり。

ゲンボー　源豐(げんぽう)　臺灣臺北州七星郡にある炭坑。礦區は松山庄五分埔及び内湖庄東新庄子に跨る。臺灣炭業株式會社の經營に屬し、年產約八千瓩。

ケンホク　縣北面　朝鮮江原道襄陽郡の南部。面郡管内九面中の一。東隣の南半部は嶺南面に接し、北半部は日本海に直面す。北は雉陽面、西は西面、南は江陵郡連谷面に相隣接す。西境一帶大白山脈に割せられ鷹伏山(一三六〇米)・組峰(一一八三米)・鐵甲山(一〇一三米)等何れも千米以上の高峰聳立し、峻嶺重疊す。山勢漸次北東に低傾し、郡中第一の大河南大川前記山地に發源し北流して襄陽平野を洪涌す。物產は農穀の外著しきものなく臨海地域に於て製鹽業行はれ海產物に鰒・鯖・鯛等あり。山間に位置するため道路の改修未だ行はれず交通極めて不便なり。聚落は主として東北の海岸地帶及南大川沿岸に帶狀分布を見る。

ゲンヤダナ　玄治店　東京市日本橋人形町附近、新和泉町と敍行せる横町の名稱。役者・芝居者が多く住めるを以て有名なり。玄治を玄治(げんじ)と混同し玄治店、轉名して源氏店ともいふ。柳樽「玄治店あたりに馬も店を借りし」(馬の足役者)

ゲンヨー　彦陽面(げん)　朝鮮慶尙南道蔚山郡の中西部。郡管内一邑二六面中の一。東は凡西面、北は千東・斗西の兩面に、西は上北面、南は中南及び三同の諸面に各相隣接す。西北境に高嶺山(一一〇三三米)聳えて一般に高峻なるも、其他は一般に丘陵性にて中央部に南北に走る通谷ありて、此地域に於ける重要地帶を形成す。產物に大豆・馬鈴薯・粟・黍等あり。殊に大豆は本郡移出品の大宗にして、彦陽大豆は良質を以て名あり。面事務所を南境に近き彦陽里に置く。慶州梁山間に於ける唯一の大聚落にて交通の要衝に位置し、前記二地方に三等道路を通ずる外、東方二二粁の蔚山及び西方密陽に各三等道路を通じ、慶州・蔚山・梁山方面に各定期乘合自動車を通ず。本邑は彦陽郡廳の所在地にして郵便所・金融組合・市場等ありて地方中心の諸機關何れも備はれり。聚落の主なるものに慶州街道に沿ひ盤谷里・平里・直河里・松溪里等、東部に盤松里・盤泉里・盤潤里・溪禮里等あり。

ケンヨシ　劍吉　青森縣三戸郡北川村の大字。省線東北本線の劍吉驛(明治三十年設置)を置く。

ケンロク　兼六公園　石川縣金澤市にある公園。水戸の常磐公園・岡山の後樂園と共に日本三公園の一と稱せらる。小立野の臺地にありて金澤城と相對す。總面積一〇〇・六三五平方米。前田家の舊園にて、明治七年公開せられて公園となりしものにて、其の創めは二世利長とある故、江戸時代初期の作と云ひ得るも、十二世齊廣が其の規模を擴張し、十三世齊泰之を完成すと言はるるにより、寧ろ江戸初期の作に屬し、其の樣式は江戸庭園全盛時代を記念するものと見らる。地形は東南部より西南部に向ひて自然傾斜をなし、大體に於て上下二段に分る。意匠は廻遊式にてその局部に於ては自然描寫に意を用ひ、園内處々に江戸時代の顯著なる技巧を表す。本庭園に最も重要なる用水は、淺野川の水を引き、途中底地をサイホン作用を利用して導けるため、當時にありては不可思議なる工法として喧傳せらる。水は園内にて溪流を見せ、地形に從ひ極めて變化ある瞰郭の池とし、鳥を浮べ或ひは二灯籠の飛瀑を懸け、また噴水とする等、遺憾なき利用法を示す。園内よりの眺望は頗るよく、近くは卯辰・醫王・戸室の山々より遠く河北潟まで見晴らさる。有名なる造園材料としては徽軫燈籠・黄門橋・邯鄲手水鉢・海石塔等あり。今日公園としての本園は、建築物を尖ひし私園をそのまま公開したるものにより、多少統一を缺く憾あり。兼六の名は、洛陽名園記の廣大・幽邃・人力・蒼古・水泉・眺望の六者を兼ぬといふに因みて、松平定信の命名せるものなり。霞亭池門に松平樂翁公の筆「兼六公園」の扁額を掲げ居たりしも、今は園内の倉庫に藏せらる。門址の南に瓢池あり。池畔の名頗亭は瓢庵又は觀瀑亭とも稱し、亭前の露地に、高さ五〇糎餘の邯鄲手水鉢あり。これは後鶴祐筆の作と云ひ、表面には、高人醉臥の狀を彫り、一に伯牙の像とも云ふ。瓢池の中洲には海石塔建てり。高さ四米餘、六層にて石質古艶、秀吉の征韓の役に之を獲て利長に贈りしもの。池に落す翠瀑は高さ六米幅一米半にて那智瀑の模造なり。夕顔亭の後より松濤阪を上り、常磐阜に至れば噴水あり。その下流は白龍淵となりて瓢池に入り、淵流には黄門橋として長さ約六米、巾幅一米、厚さ四〇糎餘の花崗岩の石橋が架かる。千歳臺は園の東半を占め、廣寂なる平地にして霄ケ池あり。池は周圍三六〇米餘。池心に蓬甲山また蓬萊島と稱する小島あり。北方の水汀には名高き徽軫燈籠あり。東部の丘には唐崎松あり。此の邊より東北方鑑然として展望廣く、市街を脚下にして遠く日本海の蒼波が望見さる。

ゲンワ　源和　臺灣臺北州基隆郡にある炭坑。礦區は瑞芳庄三爪子及び双溪庄白壁坑に跨る。臺陽鑛業株式會社の經營に屬し、年產約六千瓩。

コ

コ 子

【子島】 萬葉集第一巻に見ゆる島。今その所在詳かならず。萬葉集古義には「紀伊國名草郡和歌山城府より今道三里ばかり北に兒島といふあり、今人家千五六百戸許ありて、往來の船の泊る處なりと其國人云へり、是なるべし」とあり、されどこの小島は大阪府泉南郡多奈川村の大字小島にして大和より紀伊への通路には非ず。野島の誤なるべし。萬葉・一「吾が欲りし子島は見しを底深き阿胡根の浦の珠ぞ拾はぬ」

【子島】 萬葉集第七巻に見ゆる島。和歌山縣東牟婁郡下里村大字浦神は一に玉浦と呼べり。子島はこの海上の島なるべし。玉勝間・九「玉の浦は那智山の下なる粉白浦といふ所より十町ばかり西南に在り、飾小島といへるは玉の浦の南の海中にちりぢりに岩あればそれをいへるなるべし」とあり、即ちこれによれば那智町の海邊なるべし。萬葉・七「荒磯よもまして思へや玉の浦離れ小島の夢にし見ゆる」

コ 小

【小沼】 →豐北村(樺太豐原郡)

【小沼】 北海道渡島國龜田郡の北部。駒ヶ嶽の西南麓にある瓢形の湖の南部をいふ。北の大なる湖を大沼といひ、その狹所を函館本線が通る。海拔一三〇米。面積三・八平方粁。いま大沼公園の一部をなす。→大沼公園

【小島】 東京府八丈島支廳管內にある島。八丈島八重根港の西方五粁に位し、島周僅か八粁の小火山島。平坦地を全く缺き、嶮岨なる坂を平げて茅屋を結び、絶壁に棧道をかけて漸く往來す。漁を主とし畜牛・養蠶も行はれ、飲料水は雨水のみなり。宇津木・鳥打の二村に分れ、源爲朝自刃の地と傳へらる八郎神社(宇津木村)あり。

コ 古

【古面】 朝鮮平安北道楚山郡の東端。東は渭原郡崇正面及び江界郡化京面、北は渭原郡密山面及び東面、西は豐面、南は松面に各相隣接す。崇積山彙に屬する諸山面境を劃して聳立す。即ち東南境の三峰山(一五八五米)を始め何れも千米以上に及び、域內山岳重疊して平坦殆んどなく、只四周の山地に涵養されし古面川中央を北流し西北部に於て河成段丘を形成し、そこに僅の平地を見る。產物には大豆・粟・馬鈴薯・蘆葦・山蔘等あり。山間僻陬の地たるを以て道路の改修殆んど行はれず、北方楚山に通ずる二等道路の如きも嶮坂多く馬背によるさへ容易ならざる狀態にあり。面事務所を古場に置く。其他聚落は多く古面川の段丘上に散村形式に分布す。

【古面】 朝鮮黃海道新溪郡の東端。東に江原道伊川郡鶴鳳・山內・樂壤の諸面に、北は村面、西は沙芝面及び新溪面に、南は多面に各相隣接す。北境には太乙山(六八一米)聳立し、東境には角後峰(五六七米)・栗木山(六九一米)・華蓋山(七五九米)・高柱嶺山(七五四米)等相連なり更に中央に名山香爐峰(七六〇米)聳え域內大部分山地を成し、西北部の禮成江の支流古新恩川の流域やや平坦と成る。物產には大麥・粟・大豆・玉蜀黍・人蔘等あり。道路は西南方の新溪邑より二等道路を通じ面邑丁峰里を結び陽德に向ひ北走する外、何れも等外路線にして坂路多く交通便ならず。聚落は集村なく散村として山間溪谷に分布す。

ゴ 五村

和歌山縣紀伊國有田郡の東南部。有田川支流に跨り西は岩倉村・石垣村に、北は城山村・八幡村に、南は日高郡川上村に界す。四周山地を繞らし北境より東境に兵ヶ城山(七〇一米)・水ヶ寶形山(一〇六四米)あり、南境に白馬山脈連亙して白井山(九五二米)・白馬山(九五八米)等の山峯聳え其支脈北に延びて西境を限り、東境、水ヶ寶形山より發する有田川の支流は中央の谷を西流し、隣村岩倉村に入りて有田川に合す。森林地廣く林產を主とし、川筋の乾田には米を產し、また繭を出す。西隣岩倉村に出づれば縣道有田川筋に沿ひ西方湯淺町・箕島町方面に通ずれど交通概して便ならず。もと阿瀨川庄の內に屬せり。いま中原・川合・二澤・北野川・三瀨川の五大字よりなり、中原に役場を置く。

コー 江面

朝鮮平安北道楚山郡の西端。東は豐面、北東及び北は南面、西は碧潼郡雲時面及び加別面に、南は板面に各相隣接す。東境に得潤山(一〇八一米)・加御山(一〇七〇米)・沖瑟山(七九四米)、西境に大峰山(一一四九米)・鏡猫山(八六〇米)、北境に斗簾山(七六八米)等聳え餘勢域內におよび、中央を忠滿江狹入蛇曲流を成し兩岸斷崖屹立し殆んど平地を見ず。耕地は火田民の開墾により山腹の緩斜面に散點す。農產物には馬鈴薯・粟・山蔘等あるも漸く自給の程度に過ぎず。面邑新豐里は忠滿江の右岸にあり。道路の改修行はれず何れも等外路線に過ぎずして交通極めて不便なり。

コー 幸島

宮崎縣南那珂郡市木村の屬島。市木村の東方海上約四〇〇米に浮ぶ。島周約四粁、最高處一一四米、常綠樹を以て蔽はれ、風光明媚の一仙境たり。島內には野猿多く棲息し其數百餘頭に及ぶ。いま幸島猿棲息地として指定天然記念物たり。

コー 紅島

朝鮮全羅南道務安郡にある黑山諸島中の一島。黑山面に屬す。島上に紅島燈臺(昭和六年設置)あり、燈質は連閃白光、光達距離二四浬。四五秒を隔て五秒吹鳴の霧笛あり。

コー 高山

中國山脈西南端部に屬する一峯。山口縣阿武郡須佐町に屬す。標高五三三米。東・北・西麓は直ちに日本海の波浪に洗はれ、北麓は高山岬となる。舟人の良き望標たり。南麓を北東方より西南方へ山陰本線走る。この山は標式的餅盤體にして主に斑糲岩より成り、岩漿の晶出分化作用認められ、岩石成因學上重要なる研究材料たり。山頂の岩石は磁力強く磁針を狂はしむ。頂上よりの眺めは美しく、南西麓は指定天然紀念物にして又指定名勝たる須佐灣をなす。

コー 神

【神ノ島】 岡山縣備中國小田郡に屬する島。周圍約一六粁。東方淺口郡との狹き瀨戸を神ノ島瀨戸とも天神瀨ともいふ。島はいま二村に分たれ、西北部を神島內村、東南部を神島外村といふ。本島は古く萬葉集にも其名見え、古來風光を以て知らる。外浦は商家軒を竝べて好海水浴場あり。萬葉・一五「月よみの光を淸み神島のいそみの浦ゆ船出すわれは」 續拾遺集「建久九年大嘗會主基方御屛風備中國神島 神島の波のしらゆふかけまくもかしこき御代のためしとぞみる 資實」

【神崎】 長崎縣對馬島にある崎。對馬島の最南端に位し龍良山の山脈南方に延び松無山となり海に盡くる所に殘りし崎。東に松無浦を、西に豆酘灣を擁す。岬端に神崎燈臺(明治二十七年設置)を置く。燈質は閃白光、光達距離二一浬。船舶通信に關する事務を取扱ふ。

【神島】 長崎縣對馬島にある島。奴加岳村に屬し村の西北海にあり。南に綱島・中ノ島・榎島等浮ぶ。

コー 蒼島

朝鮮全羅南道麗水郡にある島。麗水諸島中の最大島にして金鰲水道西口の北側に位し周圍岩岸なり。島の南側に二灣あり其の東灣は士脩、蟹浦と稱し水深四尋乃至七尋、泥底にして偏南風を除く外は小形船二―三隻を容るべき好錨地あり其灣首に月項なる村あり。其の西灣は灣首に淺水撲延せるを以て中央以外水深三尋半乃至五尋の處に假泊するを得。全島人家百二十餘戸にして僅に少許の鷄・鷄卵を得べきも淡水なし。

コー 鴻

【鴻(村)】 岡山縣兒島郡にありし村。明治四十年本村及び田ノ口村を合併し琴浦村を置く。

【鴻島】 岡山縣和氣郡にある島。日生町に屬す。片上灣の灣口に横はる島嶼中の一。鹿久居島の西南にあり、北に曾島、東に頭島等浮ぶ。東西及び南北は夫々約二粁、海岸は比較的屈曲に富み、島內は丘陵連り樹木繁茂す。

【鴻島】 朝鮮慶尙南道統營郡にある島。朝鮮叢島南東部の最外方島にして巨濟島の最近岸より十一・五浬。對馬の淺海灣より約三〇浬にあり。高さ約一二〇米の峻嶮なる一孤立島にして其の北側に一山嘴を有し或方面より望むときは雙頂の海面に臨下せるを見るべし。島岸を距る半浬以內の處は水深三三乃至三五尋なり。島の西側の灣形を成せる處は東風の時、東側南端の凹處は西風の時、舟艇の假泊に適す。鴻島燈臺(明治三十九年設置)あり。燈質閃白光、光達距離一六浬。

コー 古府

【古府】 →伏木町(富山縣射水郡)

【古府】 →國府村(石川縣能美郡)

【古府】 →矢田鄕村(石川縣鹿島郡)

コー 兒饗野

→子負野・子饗(筑前)

コー 府中

德島縣名東郡國府町の大字。省線德島本線の一驛(明治三十二年)設置あり。

コー 國府

【國府村】 栃木縣下野國下都賀郡の中央より稍北部。栃木市の東約四粁に位す。西は栃木市との間に大宮村を挾み、北は家中村、東北は壬生町、東南は國分寺村、南は豐田村と隣す。關東平野の北端に近く、村內全部平地にして東境には思川の一支流南流す。水田は南部及び西部にあり、その他は畑地にして米・麥・繭の產あり。東武鐵道宇都宮線、栃木市より來り村の北部を通り東北に向ひ、村內に野州大塚驛(昭和六年設置)を置く。縣道また此線に沿ふ。和名抄に都賀郡布多鄕あり。大宮村・家中村等と共に其地とす。古の國府のありし地にして蓋し村名は其遺稱とす。國府の政は中世早く衰へたるも、在廳代官の族黨なほ累世此處に占住し、南北朝亂の頃までも府邑の形狀を留めしもの丶如し。下野府は小山・結城の族黨その大介職を世襲し代々國守に任ぜらる。是れは藤原秀郷以來の譜代の門地に因るも、鎌倉幕府の庄園統一の世に及びて國府も全く小山氏の私占に歸し、いはゆる國領公田も、小山庄と其類を同じうするの觀を呈せり。即ち此處には國符郡の名を命じて早く其占領を遂げられたり。されば他國に比すれば在廳代官の徒もなく、一の小山の族黨ありて之を占有し、府政の廢絕は最も早かりしもの丶如し。【大神神社】 大字總社に鎭座。縣社。祭神、倭大物主櫛𤭖玉命・彥穗瓊々杵命・彥火々出見命・木花開耶姬命・大山祇命・倉稻魂命外二柱。創建年代に就き、社傳によれば崇神天皇十二年天下屢々災害あるを以て、天皇は豐城入彥命をして日本大三輪大物主神および相殿の神四座、新宮の神一座、新宮相殿の神一座を當社に合祀すといへり。仁和元年神位從四位下に進む。社殿宏壯にして美麗なりしが、天正十二年兵火に罹り悉く烏有に歸せしを、徳川家光は酒井雅樂頭に命じて再建を圖らしめ、天和二年社殿復舊す、これ則ち現今の社殿なり。明治五年鄕社に列し同十四年縣社に昇格す。境內七千五百坪、往古歌人の賞愛せる勝地にして、室ノ八島は當社の西南五町の地にその跡を止む。例祭、四月十六日。

【國府川】 新潟縣佐渡郡にある川。佐渡島の中央部を流る。佐渡の島はこの川の流るる國中平野によりて、地形的には二つの異れる地塊が相繫る。嘗てはこの國中平野は海峽を成せしが如しといはれ、それが佐渡全島に分布する海岸段丘を作りしと同時代の全體的隆起によりて、平野となれり。この平野の分水嶺は東偏し吉井村、水渡田附近に於てその高二五米位を示すに過ぎず、國府川の本流はこの附近より源を發し、國中平野を西南流し眞野灣に入る。本流の流路約一〇粁に相當す。然しながら其の支流は南北の山地中より流れ出て本流に合する所の極めて長大なる河なり。最長は新穗川にして、新穗村の山中、國見山（六二九米）より西北流し、流路約四粁、小佐渡地塊の背面を開析し、新穗村の水田地帶に出で、更に今迄と同方向に流れて、本流に合す。國中平野に於ける新穗川の流路は、兩岸ともに堤防をもつて圍まれたる天井川式の形態をとる。南方よりの支流中長大なるものに、大野川あり。同川は小倉村東部大地山（六四六米）の中腹に源を發して新穗村の中心聚落に向つて西北流す。新穗川とは其處で略合流する如くなるも再び分れて西流す。小倉川もまた南方より流入する一支流にして小倉峠（四〇五米）男神山（五〇四米）附近より源を發して西北流し、その流路約一〇粁にして、河口近く金丸の西にて本流に合す。畑野村に於て洪積層を約三〇米深く開析す。一方北方よりの支流には、新保川・中津川・藤津川等ありて、何れも一路南流す。新保川は最も長大にして、金北山（一一七三米）に源を發し、藤津川は妙見山（一〇四二米）の位置に源を發す。北方の三支流は共に國中地溝帶北緣の斷層崖に對して斜の方向の流路をとる。而して之等北方よりの支流は何れも大和田・赤坂・下矢馳附近の山麓扇狀地を開析し、平野に出づれば何れも天井川式の流路形態をとる。國府川の眞野灣に流入する右岸地域は雪の高濱と稱せられ、左岸地域は長石濱と稱さるる砂濱の連續なり。國府川の流路一帶は低濕なる水田地帶を構成し、米作に適す。交通路としての道路は河の流路とは比較的無關係に走り、地方中心的なる聚落としては新穗村あるのみ。

【國府町】 愛知縣三河國寶飯郡の北部。豐橋市の西北約八粁の地。北は御油町・八幡村に、南は牛久保町・小坂井町に、西は御津町に接す。北部には木曾山脈の南に連る古生層山地あり、そこを音羽川切つて流れ渥美灣に注ぐ。此の山地に接する南部平野は洪積層よりなる。中世以來、東海道、此の山地のギャップを岡崎より豐橋へと拔け通れり。本町は東海道に臨み、北接の御油はその宿驛たりき。この脇往還として本坂街道（姬街道）分かれ、鐵道としては名古屋電鐵豐川線、東海道に平行し、國府驛（大正十五年設置）・小田淵驛（昭和九年設置）を設かる。平地部には米・麥の栽培盛んなり。町は德川時代は御油の接續地として相當に榮えしが、鐵道開通ののち漸く衰ふ。此地は御油町と共に和名抄、寶飯郡望理郷の地にして本町の大字森は郷の遺稱なり。和名抄に「參河國府在二寶飯郡一行程上十一日、下六日、管二郡八一、田六千八百二十町七段三百十步、正稅公廨各二十萬束、雜稻七萬七千束、本稻四十七萬七千束」とあり。此地はもと府中と稱せしが、のち國府のありし地なるにより國府と改む。八幡村に國分寺あるより推して、いまの大字白鳥より八幡・平尾邊にかけて總て國府と稱せしものなるべし。靈龜・養老の頃、國司を國々に置ける時、藤原豐成なるもの在住し、當時は穗村と稱せしことありと。天正十年米津清右衞門檢地繩打水帳を改めたり。此時は現在の國府町以外に八幡村も國府村の內なりき。慶長九年檢地繩打の際に水帳を改めて、國府・森・久保・白鳥（今は大字となる）・八幡村（今は獨立して一村をなす）の五箇村に分る。寬永十三年、德川幕府直轄の地となり享保十年までは代官支配地となり、享保十一年より寶暦十二年迄は岡崎城主水野監物の領となる。明治二十二年町村制實施の際、國府村となり、同二十六年町制を布き、同三十九年國府町・白鳥村を廢し新に國府町を置く。〔總社〕白鳥に鎭座。縣社。祭神、創建年代ともに不詳。國內神名帳を按ずるに、寶飯郡に正三位白鳥大明神並びに從四位上白鳥三獅子明神坐す由見え、而して古蹟考に白鳥村の上宮を總社、下宮を白鳥社と云ふとあり。即ち國府の所在地に設けられし總社の一にして、創立年代は詳かならざるも、永和四年と記せる棟札一枚を藏す、蓋し社殿再建の時ならん。例祭日不詳。

【國府村】 三重縣志摩國志摩郡東岸の中部。伊勢海を扼せる拳狀の志摩半島の東面に位し、東は太平洋に臨み南は甲賀村に、西北は的矢灣に跨る的矢村に、東北は同灣の南口を扼する安乘村に接す。東北部は細長き半島狀をなして突出しその西北面は、紀伊山地に東より喰ひ込める深き谷の的矢灣に臨む。村內四—五〇米の低き丘陵起伏し海岸に僅に低地あり、米・麥・繭を產し、また漁業行はる。聚落は沿岸低地に村道に沿ひて發達し、交通は水運による外概して不便なり。上古志摩國府のありし處。和名抄に「志摩國府、在英虞郡、行程上六日下三日」とあり、府廳の址は詳ならざるも、國分寺址の邊ならんと云はる。また和名抄に英虞郡甲賀郷と云ふは本村及び安乘村・甲賀村の邊をも含めるものの如し。〔國分寺〕天台宗。護國山と號す。天平十三年、聖武天皇の勅願によりて國每に建立せられし金光明四天王護國之寺の一にして、鎭護國家の祈願寺たり。行基と最澄の倶に勅命を蒙りて開基する所にして、初めは七堂伽藍を備へ廣大なる寺域を有し寺運隆盛を極めしが、應仁元年兵火に遭ひ堂宇悉く烏有に歸す。明應二年漸く假に堂內の一隅に草堂を結ぶに至る。もと法相東大寺に屬せしも、のち日光輪王寺末となり、更に維新後延暦寺末となる。

【國府】 →道明寺村（大阪府南河內郡）

【國府山】 播磨國（兵庫縣）の歌枕。今の兵庫縣姬路市の國府寺町の邊にありしものか。忠見家集「たれをかはとふの山への郭公くさのまくらにたびたびはなくし」

【國府】 鳥取縣因幡國岩美郡にありし村。明治四十年隣接の法美・御陵の二村と共に新に宇倍野村を建つ。大字廳は往昔因幡國府のありし處なり。

ゴー 江ノ川 中國地方第一の大川。古くは可愛川といひ、一に石見川とよび、また劫川・郷川にも作れり。上流可愛川は廣島縣山縣郡大朝村に發じ初め東南流、後東北に向ひ、雙三郡三次町に出で、三次川（西城川・馬洗川の合流）を併せて西方に轉じ、右岸に神ノ瀨川を容れ、次で左に生田川を受け、門田にて大屈曲をなし西北に向ひ、左岸に出羽川を合し、中國山脈の主軸の山地を横りて峽谷をなし、石見國邑智郡に出で江ノ川とよばる。濱原に至りてまた大彎曲をなし西南に向ひ、那賀郡江津町にて日本海に注ぐ。長さ約二〇〇粁、流域面積三八一〇平方粁。三次町以下舟楫の便あり。可愛川の上流は瀨戸內海に注ぐ太田川の支流たる根谷川に奪はる。上根に於ける瀨戸內斜面と日本海斜面との分水界は二六〇米內外にすぎず。三次町より西北に嵌入曲流をなし高さ七—八〇〇米の中國山脈を橫斷するは中國地方の準平原時代に存在せし川が何の中流に於ける準平原面の隆起に打ち勝ち浸蝕せしことを語る。準平原面の遺物は三次盆地にて四—五〇〇米ありその平坦面は牧場に利用されその中心に七塚原育牛試驗場あり。曲流橫谷には平野の著しきもの發達せず、濱原・粕淵・川本等の小區域中心聚落發達す。

ゴー 神ノ池 茨城縣鹿島郡にあり。鹿島神宮の南、息栖神社の西、鹿島灘より約三粁の所にして、東は砂丘にて他の三面は松原及び水田なり。海拔四米。湖岸四・三六粁。深度は一—二米位なるも、興味あるは東部及び西部の一部に溝狀の箇所あり、それぞれ二・三米及び一・七米を測る。これらは風による湖流のため泥の掘られたるものなり。底部には藍藻が繁殖し、厚さ一米に達する粒狀の層をなし、底が二枚ある如き感を與ふ。ただ前記溝の所にはなし。水色は黃色。透明度は約一米、水溫は夏季三〇度に達し冬季は結氷す。湖底動物は搖蚊を以て代表さる。魚類は鯉・鮒・鰻等にして、冬には鳥類が數多飛來す。本湖は調和的（正）富榮養型に屬せるもの丶如し。湖畔の松原は近年鹿島文化村として宣傳せらる。

ゴー 郷

【郷村】 石川縣加賀國石川郡の西北部。松任町・野々市町に挾まれ、加賀狭海岸平野の略々中央部に位す。全村水田よく開け、南北に貫通せる犀川の一支流により灌漑さる。主生業は農業にして米を主產物とす。省線北陸本線及び社線金澤電鐵松任線、村內を東西に通じ交通便なり。往古の事は以て徵す可きものなし。いま田中・橫江・專福寺・三日市・德用・堀內・蓮花寺・番匠垣內・柳町・二日市・田尻・長池の十二大字より成り田中に役場を置く。

【郷村】 京都府丹後國竹野郡の西南部。網野町の南、木津村の東に位し、東南は中郡丹波村・吉原村・五箇村に、西南は熊野郡下佐濃村に界す。大部分は二百米臺の丘陵性山地起伏し山林廣く、淺茂川東北部を流れ、沿岸に幅狹き低地ありて田畑拓く。丹後縮緬の本場峰山町に近く村內に小工場多く縮緬の產多し。宮津・網野間の縣道東北部を通じ、また省線宮津線の網野驛（網野町南部）に近く交通不便ならず。昭和二年三月七日に起りし奧丹後地震によりて生ぜし幾多の雁行的斷層中、郷村・生野內の二斷層は本村內に屬し、前者は北一〇度西の方向をとり、郷村小學校々庭より郷と公庄間の道路を橫斷し、長さ三・五粁に及び東側は〇・八米、西側は二—三米の水平低位を示し後者は北一五・四度西の方向に長さ二・五粁に及べり。大字郷に式內社大字加神社あり。古くは和名抄竹野郡網野郷に屬す。建武五年一色範氏及び子範光之を領し、正中年間山名滿幸丹後守に封ぜられ之を領し、天正六年細川藤孝一色を滅し之を領す。慶長五年細川氏に代り、京極高知之を領し、寬永二年京極高廣之に代り、明暦三年京極高國之を領す。寬文六年德川氏の領となり久美濱代官所に屬し同九年永井右近大夫の領となる。字高橋は延寶八年再び德川氏の領となり久美濱代官所に屬す、天和元年阿部對馬守正邦之を領す。元祿十年奧平大膳大夫昌春之に代る。享保二年三度德川氏の領となり久美濱代官所に屬す。寶暦十一年仙石越前守の領となり、天保六年復た久美濱代官所に屬す。明治二年、久美濱縣に屬し、同四年豐岡縣に屬す。同九年六月京都府管轄內に編入さる。切畑・公庄は延寶八年阿部正盛之を領し、元祿九年奧平昌春之に代り、享保二年より幕府直轄地として滝宮村代官所に屬し、其の後代官所の久美濱に移りて以來久美濱代官所の所屬となり、明治二年久美濱縣に屬し、同四年十一月豐岡縣に屬し九年京都府管轄となる。郷・新庄・生野內は元祿十年より奧平昌春領し、享保二年より青山幸道之に代り、寶暦九年松平資昌之を領し、明治四年宮津藩に屬し、四年豐岡縣、九年京都府所管となる。明治十八年郷村外五ケ村聯合し、同二十二年四月町村制施行せられ、その聯合區域の儘に郷村となる。

〔郷村斷層〕 京都府奥丹後半島の頸部を橫切り、同心圓的なる綱野・峰山の著しき裂谷あり。此谷の南側を走る斷層崖は階段斷層にして、且つ幼年期の浸蝕により良く削剝さる。この各階段斷層に沿うて最近の地震のため、新しき次の五つの地震斷層或は裂目生ぜり。(一)高橋斷層 淺茂川と磯との間の海岸より、南三〇度東の方向をとり、三反田に走り、この點に於て、漸次南一五度東に變じ、安に至る全長八・五粁の龜裂なり。(二)新治斷層 高橋斷層の南端より、東へ五〇〇米の地點より始まり、新治村を經て北八度東より南八度西に走り、三軒屋の南の山に消ゆる全長二・四粁のもの。(三)長岡斷層 全長三・七五粁あり、新治斷層の南側より東へ〇・五粁の地點に始まり南三〇度東の方向に口大野村へ走るもの。(四)峯斷層 峯村の西端より長岡斷層の南東まで觀察され、北六〇度西—南六〇度東の方向を有し、全長僅に〇・三粁。なほ以上四斷層は線狀には排列せず。然し各斷層の南端が次の斷層の北端と或る一定の限界を有する狀態は、階狀排列の模式的型を示す。(五)杉谷斷層 前記の階狀排列のものより孤立す。峰山町の北に始まり、杉谷に走る全長〇・九粁の斷層なり。以上の五斷層はすべて淺茂川附近の日本海岸に始まり、北三〇度西—南三〇度東に向つて峯村の西端に至る間の重要な斷層帶を形成す。この斷層帶は最初の發見地にて且つ移動最大なる郷村の名を取り一般に郷村斷層帶、或は單に郷村斷層といふ。斷層の南西の地塊はこの斷層に對して反對に上昇、且つ南東に移動す。斷層線に沿ふ土地移動は道路・橋・垣・壁、その他種々なる物の分離により良く測定さる。最大の水平移動は高橋斷層の中央、郷村の谷に於て二・八一米あり。この量はこれより北或は南に行くに從ひ減少す。而して北端の海岸は〇・三二米、南端は〇・七二米となる。新治と長岡兩斷層の水平移動はそれぞれ〇・五三米に、て、後者は漸次減少し口大野にては何等移動の形跡なし。峯斷層にては〇・三米の水平移動あるも杉谷斷層にては全く觀察されず。垂直移動は水平移動よりも少なく最大量〇・七九米にて、土地の固有の地形に非常に支配さる。一般には斷層の南西の地塊上昇す。但し高橋斷層は例外、十倉谷及びその北方の山にては或る地域は同側が陷沒す。斷層が低き水田或は平な谷を橫切る所は一般に著しき斷層崖を作る。時には土龍の跡の如く見え、また地表にゆるやかな彎曲を作る。山の傾斜面にては土地を深く切り込み急な裂目を作り、一般に階段狀排列をなす。斷層中最も顯著にて長きは高橋斷層にして、大移動を示して山野を走る。一方また新治斷層は平坦な平野を走るも、これは寧ろ山に於て分離されしもの。長岡斷層は平野に於てのみ追跡さる。峯及び杉谷兩斷層は比較的不明にて且連續せず。斷層線に沿ひ斷層の南西地域の地塊に階段狀に排列する幅〇・五米乃至二〇米の張力による裂目の帶あり。但しこれは斷層の東北側には極めて稀なり。家の損害は東北地域に於けると同樣、斷層帶上に於てもまた著し。今村博士は餘震の震央が常に郷村斷層の西南側にありといふ事實より諸斷層の傾斜を西南へ七〇度と概算す。多田學士は高橋及び新治兩斷層が山坡或は谷を橫斷する地點にて測定し、西南へ六〇度乃至八〇度の値を得。なほ氏はこの斷層を逆斷層と斷定す。今この一部分は天然記念物に指定さ

【郷村】 岡山縣美作國苫田郡の西南隅。津山市の西方凡そ五粁餘、吉井川に沿ひ、東は芳野村に、北は中谷村に、西及び西南は久米郡大井東村に、南は同郡久米村に界し、西北より東南に伸びたる狹長な小村なり。西北部に高さ六〇〇米餘の檜ケ山(紗見山)が緩傾斜をなして聳え、南部には二〇〇米前後の小丘陵が連なり山地には牧牛盛んに行はる。東部は津山盆地の西端吉井川の沖積平野に位し耕地よく拓けて米作行はる。聚落は低地を避けて概ね山麓に散在するも連絡路の大なるものなし。吉井川に沿うて東南より北に里道を通ずるの外、中央部に村を橫斷する線一二本あるのみ。省線作備東線・出雲街道は南方一粁餘の地點を通過するも直接便なし。此地或は和名抄、苫西郡大野郷の内に屬せしものか。いま新義原・河本・原・高山・下原の五大字より成り、新義原に役場を置く。

コーアン　幸安面(かうあん) 朝鮮全羅北道扶安郡の西北端。東は扶寧面、北は東津面、西境の北半部は直接黃海に面し、南半部は下西及び上西の兩面に隣接す。東南境に一〇〇米内外の小丘陵起伏する外、一般に低平にして、北西部の海岸は極めて遠淺にて、干潮時には海上五粁の界火島まで徒渉し得。界火島は周圍約四粁海拔二四七米に達し、東方海岸に界火里の小聚落あり。產物には米・大麥・大豆・甘藷等あり、又水產物は石首魚を第一位とし鰕・貝類等あり。郡邑扶安面の東境に接續し此地を起點として道路網域內に及ぶも何れも等外道路にして車馬の便に乏し。面邑驛里は扶安に隣接す。

コーアン　高安面(かうあん) 朝鮮平安北道定州郡の北部。定州邑の北に隣り、東南は德彥面に東は博川郡龍溪面に、北は同龜城郡五峰面・力峴面に各隣接す。北境に三—四〇〇米の山地ありて山脈南に延び南部に石秀峯(二一九三米)聳え面内概ね山地をなし、東境を南流する河の流域に低地ありて耕地拓く。產物には米・麥・粟・大豆・棉等あり。街道は東部溪流に沿うて走り定州邑に達す。此地の松亭洞に大陣峴あり、洪景來役に官軍この峴に列陣せしを以てこの名起るといふ。

ゴーウラ　渦浦村(がうら) →渦浦村(うずうら)

コーウン　甲運村(かふうん) 山梨縣甲斐國西山梨郡の東南部。甲府市の東隣にあり。南は玉諸村、東は東山梨郡岡部村と隣する小村。中部より北部にかけて山地をなし、關東山脈中、甲武信嶽より南に走る一支脈の南端を占め東境は七一六米あり。南部は甲府盆地の一部にて平地をなし水田あり。東の一部は桑畑をなし、米・麥・繭・桑の產あり。省線中央本線村の南部を西走するも驛を置かず、西隣甲府市内に酒折驛、東隣岡部村内に石和驛あり。此地は和名抄、山梨郡表門(うはと)鄕の地にして、本村の大字和戶は卽ち表門の訛なり。いま橫根・櫻井・川田・和戶を合し甲運村と改稱す。大字櫻井は武田信玄の族、逍遙軒信綱此處に住し櫻井氏を稱せる處。曹洞宗向富山逍遙院ありて信綱の位牌を藏し境內に信綱の嫡子平太郎信隆の墓あり。大字川田に武田氏の館址あり、里人が御所曲輪と稱する所が卽ち其地にして、地名に公用屋敷・御臺・女中屋敷・大庭・築地サンフ・出水・久圓・御廐・的場等あり、武田信虎が未だ躑躅ケ城に遷らざる以前、累代の居館なりと云ひ傳ふ。今は笛吹川の瀨を轉じて石和驛と隔たるも、往時は引續きたる地なれば謂はゆる石和の館跡も或はこれにあらずやと思はるるも、他にも亦武田氏の舊址多く見ゆ、數世の間ここに居り、のち移轉せしものなるべし。大字和戶は笛吹川に近く表門の訛れるものにして、此地の在原塚は、甲斐名勝志によれば、在原滋春(業平の二男)の墳墓なりといふ。大字橫根の鹽泉山光福寺(淨土宗)は上下の二堂あり、上の堂は岩壁に十一面觀音を安置し、下の堂は本尊聖觀音を安置す。上堂は甲州二十一番の札所、下堂は二十二番の札所たり。

コーエー　行營面(かうえい) 朝鮮咸鏡北道鐘城郡の西南端。東は龍溪面、北は豐谷面、西は南山面及び會寧郡花豐面、南は同龍興面に各相隣接す。咸鏡山地を以て圍繞し、中央に行營盆地橫はる。而して之等山地に發源せる屈山溪・仲峰溪・敦山溪の諸流は盆地の中央に於て合流し東南境の洛生の峽谷により流出す。產物は粟・蕎麥・稗・大豆等にして大豆は最も重要なる移出品たり、その他良質の馬鈴薯を產す。道路網は行營を核心として西南方會寧邑、北方穩城邑(穩城郡)に各一等道路を通じ、鐵道北鮮線會寧驛よりは二〇粁、乘合自動車の便あり。其他東方慶興に通ずる二等道路を始め等外線四通八達して隣接各面を結び交通比較的便なり。面事務所は面中部の行營にあり、面邑には警察官駐在所、陰曆二・七の日に開く市場ありて市日には活氣を呈す。

コーエイ　後營(こうえい) →西港庄(臺灣臺南州北門郡)

コーエン　香椽渡(かうえん) →二八水(ニハチスイ)

コーエンジ　高圓寺(かうゑんじ) 東京市杉並區の町名。一丁目より七丁目に亙る。杉並區の東北部に位し、北は中野區沼袋南町に接し、東は中野區圓町・桃園町に、南は杉並區和田本町・堀ノ內町に、西は馬橋町に接す。省線中央本線町の北部を東西に通じ町內に高圓寺驛(大正十一年設置)を置き、青梅街道は本町の南部を東西に走り、西武鐵道新宿線はこの街道上を通ず。此の町は東京西郊の住宅地として發展せるものにして、近世は多摩郡野方領に屬し高圓寺村と稱せり。往古は小澤村と稱せりと。明和年中、伊奈備前守忠次が代官の頃のものに小澤村とあり。高圓寺と稱するに至りしは、大猷院(德川家光)がしばしば此地の高圓寺に來りしを以て、世人は高圓寺に御成あり、などと云ひしより、何時となく村名となり古名は失はるるに至れりと。此地は德川家康關東入國以來幕領となり、寛永十六年、某の檢地あり、その後、延寶二年に中川八郎左衞門・關口作左衞門ただせり。代官は寛永十一年より伊奈半十郎の支配所にて、のち小野田三郎右衞門の預りし地なり。〔高圓寺〕 高圓寺五丁目にあり。曹洞宗。宿鳳山と號す。中野區成願寺末。後奈良天皇弘治年中、建室和尙の開創に係る。本尊聖觀世音は惠心僧都作といふ。當寺を御殿山と俗稱するは、境內に德川將軍鷹狩の節立寄りし假御殿の設けありしによる。又桃樹多かりしを以て、桃園觀音或は桃堂と云ひしも、享保年中桃園は中野に移轉せられたりといふ。寛保年中堂宇燒亡、明和二年再建せられしが明治二十年再び炎上、同三十五年再建成る。

コーオー　鴻應山(こうおう) 丹波高原の一峯。京都府南桑田郡西別院村(にしべつゐん)に峙ち、西及南方は大阪府豐能郡との境に近し。標高六七九米。山體秩父古生層より形成せらる。西方に歌垣山(五五四米)・妙見山・川尻山(六四〇米)、北方に雲仙ケ岳(五三六米)、東方に黑柄岳(五二七米)、南方に石堂ケ岡(六八一米)峙つ。東方黑柄岳との中間部に茨木街道ほぼ南北に走る。

コーオン　孔音面(こうおん) 朝鮮全羅北道高敞郡の西南端。東は大山面、北は茂長面、西北は上下面、西は全羅南道靈光郡法聖面に、南は同靈光面に、各相隣接す。南境及び北境に各二〇〇米前後の丘陵起伏する他は何れも六〇乃至七〇米前後の小丘により波狀臺地を形成す。主要產物は麥・豆類にして副業として、最近養蠶業勃興するに至れり。東方茂長邑より西方法聖浦に達する二等道路の域內を橫斷する外は道路の見るべきものなく交通不便なり。面事務所を西境に近き七岩里に置く。

コーカ　甲賀・甲可(かふか)

【甲賀村】 三重縣志摩國志摩郡東南部の小村。志摩半島の東南岸に臨む。西南には立神村・神明村を隔てて英虞灣のリヤス式灣入あり。北は國府村に接し、東南

には志島・豊浦・名田の三小村を隔てて小丘陵起伏し治井に接に続き終る。農家は主として副業として漁業を行ふ。特産物は海苔・アラメ有名なり。波切町より伸び明村・鳴力村を経て鳥羽町への道路、西浦郡を通ビスの往来あり。國府村・安乗村と共に古くは和名抄、志摩郡甲賀郷の地なり。

【甲賀・甲河】 河内國（大阪府）の古称名。和名抄に甲賀郡甲賀郷と見ゆ。近世昭和七年四月、錦村と改む。

ヨーカ　安河面　朝鮮京畿道錦山郡の西南部。京城府の西北約二二粁、北は錦の西南部面・安城面に、東は幕田面及び高麗郡新面に、南は同郡南面に、西は安城江を隔てて全羅南道高敞郡に相対す。高麗山（二〇九米）の山麓北に発び、面内は一〇〇米内外の丘陵起伏し、西南部安城江の谷に臨む。北部を流れる江の小支流川西に流れ、東北部及び流域に沿て肥沃なり、産物は米・麦・豆類・粟を出し、外に特用作物はとして綿・麻・煙草・蔬菜等あり。農産京城市場に輸送し、家畜は牛・豚・鶏・犬等を出す。面谷市所・面事務所・郵便局・学校・駐在所・郵便局・学校・駐在所・郵便局・学校・駐在

を作り雲井を經て擧太郡より瀬田川に入る。農林業を主とし牧畜も行はれ製茶・寶藥製造等も盛なり。省線草津線が郡の中央部を北西より南東に向ひ、石部・三雲・貴生川・深川・大原市場の五驛を設け、貴生川より分岐する信樂線には雲井・信樂の二驛あり。近鐵線は貴生川より水口を經て北東、蒲生郡方面に向ひ、別に省線バスが中山道に沿ひ草津驛を起點として本郡内を經て三重縣亀山に至る。甲賀郡は古くは鹿深(日本書紀)、甲可(倭簒世記・正倉院文書・東大寺文書)、甲加(正倉院文書・圓城寺文書)又は甲香(扶桑略記)等に作りしが、甲賀は板上系圖・續日本紀等に見え、茲に之を郡名とするに至る。當時の郡司の所在地は甲賀(今の岩根村大字善提寺)なり。奈良朝の頃より其名著はれ、聖武天皇が今の雲井村大字黄瀬に造營し給ひし紫香樂の宮も一に甲賀宮と稱し、更に甲賀寺を建て盧舍那佛の製作をも計畫せらるゝも、天災の效果さざりしが之によりて佛教盛んとなり、互刹の郡内に建立せらるゝもの多く聚雲寺・正願寺・光明寺・藥王寺・飯道寺等これなり。之と共に神社にも由緒古きもの尠からず式内社として川田・川枯・飯道・水口・矢川・石部・鹿鹽上社の六社あり。平安朝時代の郷村には老上・夏見・山直・藏部・甲賀・信樂の六郷あり、當時驛傳の制定まり、平安京より勢田驛・四日驛を經て本郡に入り甲賀は重要なる驛となり、之より甲賀坂を越え野洲郡篠原方面より中山道に出で、東に向ふものとす。戰國時代には守護佐々木高頼勢力を振ひ其下に所謂甲賀五十三家の甲賀武士の活躍あり、彼等は佐々木氏滅亡の後は諸國に離散して諸大名に仕へしと云ふ。織田信長統一の後、豐臣秀吉は中村一氏をして水口城を築き本郡を治せしめ、次で長東正家之に代り關ヶ原の役に西軍に屬し落城す。江戸時代に至り一時水口に城代を置きしが天和二年加藤明友封ぜられ子明英下野に移り、其子嘉矩正德二年再び水口に歸封せられ大體附近を領して明治維新に及ぶ。別に信樂は郷士多羅尾氏が幕府の信任を得て代官たり。明治四年廢藩、初め大津縣に管せられしが、十二年郡制布かれ、大正十二年郡の自治制度廢せらる。現時、水口・石部・土山・信樂の四町と三雲・岩根・下田・伴谷・柏木・大野・佐山・鮎河・山内・大原・油日・宮・龍池・寺庄・貴生川・北柚・南柚・雲井・朝宮・小原・多羅尾の二十一村となる。面積五五二・一九方粁、人口七一九五六人。(昭和十年)

【甲賀山】 滋賀縣甲賀郡水口町に在り。横田川の東にして大岡山とも稱す。治承四年二月山本義經・柏木義兼等源氏に應じて起る。平知盛追討使として赴き其の居館及郎從の宅を燒きて戰ひ、義經等走る。長享元年、六角高頼、寺社本所領を多く押領して還さず。九月將軍足利義尙兵を率ゐてこれを討つ、高頼支ふる能はず此山に籠る。永祿十一年九月織田信長近江に入るや、六角義賢父子觀音寺城にあり、その攻むる所となり、和を請ひ城を致して又此山に入る。これより六角氏の屬城風を望んで皆降り江州平定す。この山また古來歌枕の名所として知らる。夫木・一三「秋くればかふかの山に立つきりを海とそみつるなみたたなくに」

【甲賀】 近江國(滋賀縣)の古地名。延喜式の甲賀牧のありし處。いま甲賀郡雲井村の大字に牧の名あり、甲賀牧の遺稱ならん。延喜左右馬寮式「近江國甲賀牧左寮云云、右諸國所貢馬牛、各放件牧、隨市繁用」

【甲賀】 近江國(滋賀縣)甲賀郡の古驛名。延喜・兵部省式に驛名見え驛馬二十疋とあり。此地はまた甲賀郡家の所在地にして驛傳を掌し傳馬五疋を置く。驛址は今同郡柏木村大字泉の邊に當るか。

コーガ 高牙面(かう) 朝鮮慶尙北道善山郡の西南端。東は洛東江を隔てゝ漆谷郡仁同・山東・海平の諸面に、北は善山面、西は金泉郡牙浦面、南は龜尾面に各相隣接す。西半部は花崗岩の丘陵起伏すれど、東半部の洛東江に面する地域は土地頗る低平、地味亦肥沃にて灌漑の便に富み重要なる農業地帶を成す。住民の大部分は農業に從事し、產物には米・麥・大豆・棉花・大麻・苧草等を產し、其他麻布・綿布等の工產物あり、鑛產に砂金あり。遺跡は北方善山に通ずる三等路線の外改修行はれず交通便ならず。面事務所を善山に近き北境の宮心洞に置く。其他、聚落の主なるものに善老洞・伊禮洞・巴山洞・鳳山洞・新村洞・大望洞・項谷洞・大里洞等あり。

コーガ 高賀山(かう) 岐阜縣郡上郡相生村と武儀郡板取(いたどり)村・洞戸(ほらど)村との三村境界に跨り聳ゆ。標高一二二四米。この山の稜線は北西より南東に走り、郡上・武儀の郡界をなし、北西稜はタヅガ谷越(六八〇米)となり、南東稜に諏ヶ岳(一一六三米)を起す。東方に長良川の上流上ノ保川南流し、板取川は西流を洗ひ南東流して長良川に合す。山容秀拔にして山下に虛空藏堂あり、高賀明神と稱せらる。又天暦年中、藤原高光、山中に住みし鬼を退治し、寺を建て蓮花部寺と名附けたり、この寺はのち蓮花寺と呼ばれ、堂宇殘りゐたり。

コーカイ 江界(かい)

【江界郡】 朝鮮平安北道の東北部。東北は厚昌郡、北は慈城郡に接し、西北は鴨綠江上流を距てて滿洲國安東省と相對し西は渭原郡・楚山郡に、南は川熊郡に、東は咸鏡南道長津郡に、東南の一部は平安南道寧遠郡に接す。面積五四〇四平方粁、全鮮第一の大郡にして、千葉縣よりも大きく、愛媛縣と相伯仲す。東境に臥碣峰山脈南北に走りて、含鄂峰(一七八七米)・猛扶山(二二一四米)・臥碣峰(二二六二米)・大紅山(二二一五二米)・古石谷山(一八七一米)・天寶勿山(二二〇三米)・小白山(二一八四米)の峻嶺を起し、西南妙高山脈に連なり、臥碣峰山脈の支脈は西北及び西に延び、厚昌郡界に寺德山(一三五五米)・月起山(一二三八米)等を聳立せしめ、郡中央には檀木山(一八一七米)・非三峰(一八三三米)等東西に連亘し、南方熙川郡界にも石立山・白山(一八七五米)等の高嶺東西に走り、そのほか域内に群嶺重疊、極めて峻險にして、此等の山地をほぼ南北に貫流して鴨綠江に注ぐ秃魯江の下流及び鴨綠江沿岸に狹長なる平地あるのみ。耕地は多く山の傾斜地を利用す。米產は殆どなく、粟・大豆・大麻を主產し、三者はその產額、道中の首位にあり。その他棉・苧等を產し、牧牛と養蜂は盛なり。鑛產には金・銀あり、また銅を產す。林野は全面積の九割を超え、カラマツ其他の林產あり。交通は秃魯江に沿うて幹線道路南方熙川方面より來り北走して江界を經、滿浦鎭に達し、また江界より北は厚昌、西は渭原に通ずるもの等ありて、何れも定期乘合自動車を通ずるも、他は概ね山地聚落間を連ぬる里道にして、交通便ならず。郡邑は郡の中北部の江界邑、鴨綠江岸の滿浦鎭・高山鎭の外著しきものなく、人口密度も一方粁二七・五人に過ぎず。行政上江界邑ほか一六面に分ち、郡廳を江界邑東部洞に置く。

【江界邑】 朝鮮平安北道江界郡の首邑。郡の中北部、鴨綠江支流秃魯江の沿岸にあり。北は從西面・從南面・曲河面に、東南西の三方は公北面に隣る。四方山に圍まれ、北に飛來峯山脈に屬する子北山(八三六米)屹立し、南東には臥碣峯山脈に屬する黄鐵山の連嶺聳え、邑内にも東部に約六〇米の丘陵蟠り、これ等山丘に圍まれたる盆地に、北東より北川來り、南境また南川流れて秃魯江に注ぐ地點に市街は發達す。最低部に於ても尙ほ二八〇米餘の標高を有するを以て、氣候寒暖の差甚だし。交通は二等道路江岸に沿うて走り、北は滿浦鎭に、南は安州に達し、また東北方厚昌方面にも通じ、何れもバスの便あるも、物資の運搬には困難あり。郡の政治・產業の中心にして、郡廳・法院支廳・檢事局分局・道立醫院・稅務署等置かれ、また郡農業組合等あり。市は陸層二・七の日に開かれ、牛の取引を第一とし、農產物・織物類これにつぐ。邑の西北端に仁風樓あり、秃魯江と北川との合流點に巍然として立ち、眺望よく關西八景の一なり。江界神社儀座し、昭和三年の創立にして天照大神・月讀命を祀る。本邑は昭和十年三月、隣接せる江西・江北兩面の各一部を編入せり。

コーカイ 黄海(くわうかい)**【黄海道】** 朝鮮の中西部、十三道の一。朝鮮半島の中央よりやや北により黄海に向ひ突出して半島の形をなし、遠く海を隔てゝ支那山東省に對す。東南は禮成江により京畿道に界し、東は急峻なる山脈によつて江原道及び咸鏡南道に、北は大同江を距てて平安南道にそれぞれ相隣接し、廣袤東西最長一九六粁、南北は最長二一六粁にして、面積一六七三八方粁、鮮内各道中第六位にあり、内地の四國より一五四〇方粁小なり。行政上、海州・延白・金川・平山・新溪・甕津・長淵・松禾・殷栗・安岳・信川・載寧・黄州・鳳山・瑞興・遂安・谷山の一七郡に分ち、海州郡海州邑に道廳を置く。(地勢)域内には小鷹博士の謂ゆる古朝鮮に屬する大斷層山脈が東西の方向に三條、南北に四條、ほぼ經緯度の方向に走り直角に交はる。即ち東西の第一は滅惡山脈にて、平山郡の滅惡山(八一六米)より西に伸びて佛陀山(六〇八米)となり、西部の長山串を形成して海に沒し山東半島に顯はるるものにして、その斷層崖は北に向ひ、道の中軸山脈をなす。第二はこれと併行して南側にある首陽山脈にして、海州邑の北なる花崗岩地首陽山(八九九米)に顯はれ東方穢岳山に及び、この斷層は南方の海岸地方より認めらる。第三は朝日嶺山脈にして、滅惡山脈の北方を東西に走つて西端は石板石高地、東端は道境の百年德に終り、斷層崖を南方に向く。南北に走る山脈は東より第一は東部の東境をなす馬項山脈にして東に斷層崖を向け、第二は六磐山脈にて斷層崖を西に向け、平安・黄海の道境をなす。第三は慈母山脈によつて斷層崖を西に向け延安より北進し平壤附近にて一時沒し高坊山に再起して安州・雲山よりさらに北進す。第四は最西側にある九月山脈にして斷層崖を西に向く。その他無數の斷層にて縱横に切られたる地塊の集りにて、地勢概して周邊高く中央凹み、載寧平野はその凹陷部に當る。全體として地貌は老年期なり。水系の主なるものは禮成江及び載寧江とその支流にして、禮成江は本道東南の互流にして幾多の支流を合せ、河口にて臨津江・漢江と合して黄海に注ぐ。海岸線は實に一六一八粁に及び且つ海上に大小の烏嶼百三十餘點布しリヤス式海岸をなすも、仔細に檢すればその差七米に及ぶ潮の干滿や波濤による海岸汀線上約六七十米の高さに海岸段丘ありて、近き過去に上昇運動のあり し事を示す。(氣候)中央部を東西に連亙せる滅惡山脈を界とし氣候も自ら南北に分れ、南部は仁川灣に面する點、仁川に似て比較的温和なるも北部は平安道に似て稍々寒冷、植物の生育も平安道に似たり。而して年平均氣温一一・八度、最高氣温は三四・〇度、最低零下一五・八度を示す。(產業)農業は本道產業の大宗にして、耕地總面積五五・六萬ヘクタールに達し、全鮮に冠たり。うち水田一四・三萬ヘクタールにして耕地總面積の二六%に當り、畑は四一・三萬ヘクタールにして七四%に當り、各

道中首位を占む。農家戸數二四〇八三一戸にして全戸數の七六%に當り、うち自作農一五%、自小作農二三%、小作農は五九%に當り、一戸當平均耕地面積二・三三ヘクタールにして、米作・畑作・棉作盛に行はる。主產は米にして、年產一六七萬石に達し、麥は八六萬石にして小麥大部分を占め、大豆は五〇萬石にして全鮮第一位、その他粟一一七萬石、棉花一五二六萬斤等を算し、また甜菜の特作あり、果實は黃州郡を中心として梨果四九三萬貫を產し、外に梨・柹・柿・柿等を產す。而して米は延白郡を最多產地方とし、海州・信川・載寧・安岳の諸地方これに次ぎ、麥は海州・長淵・平山・甕津・鳳山の諸地方最も多し。而して農產總價格は九二一二萬圓を超え、本道總生產額の六割に及ぶ。養蠶も逐年盛んにして產繭四萬餘石(九五萬圓)を產するに至り、畜牛は一二・五萬頭にして、年々約二萬頭を內地に移出す。水產業は海岸線の長大なると、鳥嶼多く、廣大なる干潟地あり、前海は水深五十尋を超ゆる所少く隱所に海床を擁するを以て魚介藻類の繁殖に適し、加ふるに寒暖二流交錯する底、各種の魚族廻遊し、年產額五九三萬圓に達し、石首魚最も多く九九萬圓、その他鰯・いかなご、なまこ・ばか貝・にべの產多し。海州郡延坪島近海は朝鮮三大石首魚漁場の一にて鮫鰭刺網漁業船一千餘隻に上り、長淵郡大青島には日本捕鯨株式會社の事業場あり、また甕津郡、龍湖島を中心とする干潟地に海苔養殖盛にて年產二十萬餘圓に達す。水產製造物には煮干いかなご(四八萬圓)・煮干えび(四一萬圓)・鹽干ぐち(四〇萬圓)・乾海苔(一八萬圓)あり、其他、海藻等の產多し。鑛產は鐵鑛(三一萬瓩)・タングステン鑛(五〇萬瓩)・金・金銀鑛・石炭を主とし、また螢石・重晶石・硅砂・高嶺土を產し、總產額八〇三萬圓に達す。鑛產の大部分は黃二浦製鐵所の銑鐵なるが、遂安・栗浦・樂山の諸金山、載寧・下塊・殷栗の鐵山、鳳山炭礦等は有名なり。林野面積は九九・三萬ヘクタールにして全域の五八%を占め、大部分稚樹地にして、未立木地は比較的少なし。ナラ・クヌギ・カシハ・アカマツ・カラマツ等を主なる樹種とし、林產年額五一一萬圓にして、木炭は良質にて內地に移出さる。遂安の栗は品質佳良にして、平壤を經て平壤栗の名にて內地に移出さる。〔交通〕總督府鐵道京義本線中東部を貫き、道の中央部沙里院より南、海州邑と、西部の溫泉地方に朝鐵黃海線通じ、海州より東にも海岸に沿うて黃海線通じ、京義線土城驛に連絡し、域內鐵道軌程三七四粁に達し、道路は京義街道・京義線とほぼ並行して走るほか、海州・沙里院等を中心として、二、三等道路縱橫に通じ、交通便利なり。河川は載寧江・禮成江・黃州川等いづれも下流に航行の便あり。港灣は海州・甕二浦を主とし、海州よりは內地・仁川間に定期船入港す。〔都邑及び溫泉〕都邑は海州邑、道政の中心として發達し、殷二浦は大正六年製鐵所設置と共に急速の膨脹を遂げ、沙里院は交通の要衝に當りまた農產の中心として著はれ、その他鳳山・信川・載寧・延安等は著名地とす。本道は溫泉に富み、延安・白川・平山・馬山・松禾・安岳・信川・三泉・達泉等實に十一箇所の多きを算し、何れも湧出量豐富なると風光の佳なるを以て著はる。〔沿革〕本道は謂ゆる箕子朝鮮の舊土の一部にして、のち樂浪郡治下に屬す。次で京畿道と共に帶方郡治下となり、のち一度麗の領地となりしが、幾許もなく高句麗の版圖に歸す。新羅三國を統一するや平壤の安東都護府管下に屬し、かくて新羅支配下にありしが、弓裔に次で起りし高麗太祖此地を服し、成宗十年道制を布くや、海州等の諸郡を以て關內道に屬し、後改めて西海道と稱し、忠烈王の時、黃州牧管下の地を以て今の平安南道の一部に屬せしめ、十餘年を經て本道に隸屬す。李朝太祖四年、豐海道と改稱、大宗十七年黃海道と改め、海州に觀察使を置く。光海君時代に一時黃延道と改めしが直ちに舊稱に復す。開國五百四年(明治二十八年)海州府の所管となりしも、翌年府を廢し、復た黃海道の舊名を用ひ今日に至る。日韓併合當時十九郡を設きしが、大正三年郡の廢合を行ひ、いま一七郡三邑二一六面となす。

【黃海線】私設鐵道。朝鮮黃海道にある朝鮮鐵道線。總督府線京義本線沙里院驛(鳳山郡沙里院邑)より分岐し、載寧郡・信川郡・松禾郡を過ぎ長淵郡長淵面の長淵驛に至る、全長八一・八粁。更に上海驛(載寧郡三江面)より海州郡西邊面の海州港驛に至る上海・海州港間、全長六六・五粁の線を分岐し、別に京義本線土城驛(京畿道開豐郡中西面)より岐れ西走して海州を經、甕津に至る一二一・八粁あり。

【黃海黃州】朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛(明治四十一年設置)。朝鮮黃海道黃州郡黃州面にあり。

コーカイ　興海面　朝鮮慶尙北道迎日郡の東端。東は日本海、北は曲江面、西は迎田面、南は兄山面に各々隣接す。域內丘陵性地帶にして河川は多く瀾湯流を成し海岸は出入に乏しき砂濱海岸を成し地形頗る單調なり。農產物は米・大豆・大麥等にして、海產には鰊・鯖・鰒・鰯等あり。道路は南方七粁の浦項邑より北方清河に通ずる一等道路ありて、東海中部線の浦項驛よりバスの便あり。兩邑興海は西部に位置し、元興海郡廳の所在地たりしが浦項に移轉後、政治上の中心都市的生命は失はれしも金融組合・郵便局・小學校等あり、殊に市場は穀類・海產物の取引行はる。

コーガイ　江外面　朝鮮忠淸北道淸州郡の西端。東は江內面・玉山面、北は忠淸南道燕岐郡全東面、西は美湖川を隔てて西面に相對し、南は東面に相對す。北半部は丘陵起伏すれども、南半部は美湖川の沖積平原の一部を成し土地頗る低平且つ地味肥沃、氣候癒して適耕にして夏季最高攝氏三四度、冬季最低零下一三度、京城に比し夏冬共に凌ぎ易し。住民は勤勉にして農を主業とし、副業に養蠶を行ふ者多し。產物には米・麥・大豆・棉・麻・煙草・明紬・陶磁器等あり。鐵道忠北線は京釜線の鳥致院驛より分岐して面內を橫斷し、中央に五松驛(大正十年設置)を有し、東方淸州・忠州の諸邑に連絡する外、二等道路、東は淸州、西は鳥致院に通じて京釜街道と連絡し交通緊めて便なり。面事務所を五松里に置く。其他集落は南半部に集中し宮坪里・芷中里・東坪里・西坪里等あり。

コーカケ　高懸山　中國山脈北東端部の一峯。醴井縣遠敷郡三宅村にあり。北麓は北西流する北川に限られ、川に沿ひ小彌線及丹後街道南東より北西に走る。山中瓦岩大石橫はり登攀を妨ぐ。

ゴーカワ　合河村　福岡縣豐前國築上郡の南部。火山英彥山塊の一部を占め經讀岳(九九二米)・雁駁山(八〇七米)の北斜面に位し、北は橫武村、西北は山田村、西は岩屋村にて、東は友枝村に隣り、南は大分縣下毛郡津民村に接し、東北より西南に稍長き村あり。土地東北に向つて傾斜し北部を東流する佐井川は南部山地より東北に下る支流を併せ中津平野の南西隅を占むる低地をつくる。その北に二三〇米程度の丘陵ありて村の北境を限る。森林地廣きも北部佐井川の低地には耕地拓け豐前米を出す。また園藝農業行はれ川底柿の特產あり。東北約九粁、八屋町に省線日豐本線の宇島驛あり、バスによる連絡ありて交通不便ならず。

コーカン　公館庄　臺灣新竹州苗栗郡の東部。東は打鹿坑山(五四五米)を始めとし、秀峰相連りて大湖郡獅潭庄と界し、西は後龍溪を隔てて苗栗街及び銅鑼庄と相對し、北は頭屋庄に接し南は銅鑼庄及び大湖郡大湖庄と交界す。廣袤東西約八粁、南北約一五・五粁。總面積約七一平方粁。公館・麻壽寮・中小義・蟹塢・大坑・出礦坑・石圍墻・五穀岡・鶴子岡・尖山・南河・北河の十二大字を含む。渺茫たる平野は山麓より後龍溪に沿ひて展開し、地味豐沃にして美田・獺野に富む。往時當地方に沿山一帶と云はれ、また地形蛤に似たるを以て、蛤仔市とも稱せられたり。河川は後龍溪を主とし、水源は大湖郡蓍地より發し、本庄の西南を北上して、頭屋庄に入る。幅廣く洪水氾濫の際は、往々にして田園流失さることありと雖も、その灌漑水田實に一千五百五十餘甲に達す。尙ほ尖山溪・南河・北河・大坑溪ほか數條の河川(何れも後龍の支流)ありて、此等の灌漑面積三百餘甲に及ぶ。當庄は東北に山麓を繞らし、西南に河川ある爲め、氣候溫和にして、冬季嚴寒の候と雖も九〇度を超ゆること稀なり。人口約一萬九千三百、住民は廣東系大多數を占め、其の過半數は農業人口なり。產業中、農業壓倒的にて、產物は米(約四萬六千石、七十萬圓)を第一とし、甘藷・甘蔗・果物類とれに次ぐ。果物類にては柿・蜜柑が殊に有名なり。農業に依る年生產總額九十萬圓に及ぶ。農業に次で特筆すべきは養蠶中の石油なり。出礦坑油田は本島唯一の石油產地として古くより原油の噴出を見、領臺前より之が掘鑿行はれ、改隸後邦人の手に移り、爾來經營轉々として移りしが、現在日本石油株式會社の經營に係り、今日まで時に噴油量に消長ありたるも、本島唯一の探油中の油田として、其の名著く內外に喧傳せられ、非常時燃料國策の見地より顧る重視せらる。當庄の中橫道路たる苗栗・大湖間の指定道路は、庄の中央を南北に貫き、苗栗と公館との中間にある後龍溪には龜山大橋を架設し、庄交通の主脈を爲す。なほ本道路には苗栗大湖間に輕便軌道(手押臺車)及び乘合自動車を通じ、交通至便なり。衞生狀態は良好にして惡疫の流行殆んどなく、氣候溫和にして、天然地下水豐所に湧出し健康地と稱せらる。主要部落には公共井戶及び排水溝の施設あり。加ふるに近時庄民の衞生思想向上に伴ひ、公衆衞生も漸次向上しつつあり。教育狀況は、農業專修學校一、尋常小學校一、公學校二、同分教場一ありて、本島人兒童の就學步合約五〇%なり。國語普及機關としては、主要部落に國語講習所又は國語練習會を設置し、社會教育機關には、家長會・婦人會・青年團及び公學校卒業生の指導を目的とする公民講習所等あり。庄の昭和十二年度豫算額七二七四八圓なり。本庄內の漢民族に依る開墾は、後龍溪(もと後壠溪と書す)の河口地方及びそれより以南の海岸地帶(以上の諸地方は康熙の末年頃より雍正九年頃までの間に開墾せられたり)より遙かに遲れ、當時は未化の平埔蕃族の巢窟をなしたり。漸く嘉慶二十三年に至り、後壠溪東岸の石圍墻庄(現在の大字石圍墻)は廣東人吳琳芳なる者墾首となり、之を八十股に分ち、これを各々個人(小作人ともいふべきもの)に分配して開墾せしめ、次で公館庄(現在、大字公館)の附近もまた開拓せられたり。蓋し石圍墻の名は石圍を墻として蕃害を防遏せしに起り、公館の名は墾戶の公館の設けられしによりて起れり。其他の地方の開拓は以後の事に屬す。行政上初め後壠堡に屬し、同堡は光緒元年竹南二堡と改稱され、光緒十四年更に苗栗一堡に改められたり。是より先、光緒十一年臺灣を一省となすや、臺中に臺灣府を置かれ、その下に苗栗縣ありて、苗栗一堡は之に隸屬せり。帝國領臺後明治二十八年

六月總督府假條例に依り、臺灣縣(臺中)苗栗支廳の管轄に屬し、三十年六月新竹縣の新設と共に、同縣苗栗辨務署の所轄となり、現在の庄管内に公館・五鶯山の二區を設置し、下級行政機關として、區に庄長を置かれたり。翌年六月新竹縣の廢止と共に、苗栗辨務署は臺中縣の管轄に移れり。三十四年十一月地方制度の改正に依り、苗栗廳を新設せられ、本庄は同廳の直轄となれり。四十二年十月苗栗廳を廢せられ、その舊管轄地は新竹廳に合併し、その下に苗栗支廳を置かれて、本庄之に屬せり。同時に交通上及び施政上の便に鑑み、鶯隆區の内、石圍墻・出磺坑の二庄(現在各々大字となる)を公館區に編入し、更に大正七年四月一日、獅潭區桂竹林庄(現大湖郡獅潭庄大字桂竹林)の一部を公館區内顯茅庄(現在大字顯茅)に編入せり。大正九年十月一日地方制度の大改革に依り、公館及び五鶯山區を合併して公館庄と改稱し、新竹州苗栗郡の管轄にして、庄役場を大字公館に置く。

〔出磺坑油田〕庄の東端大字出磺坑即ち苗栗の東南約一五粁、後龍溪の左岸にありて、苗栗より自動車(四〇分)及び手押臺車の便を有す。此の地方に石油を産出することは、早く漢民族によりて知られ、淡水廳志及び苗栗縣志に據れば、清の咸豐の末年、蕃割(蕃人の通事)邱苟なる者、生蕃を勾引して之を殺せる犯案あり、逃れて山地に入り、猫裏溪(今の後龍溪、猫裏は苗栗の舊稱)の上流邊に於て、油氣の水面に浮ぶを發見し、汲取り煎煮せしに、用を爲すに足りしより、此の溪に據りて己の有と爲し、同治三年私かに一年一百餘兩を以て吳某なる者に讓與し、翌年又改めて一年一千餘兩を以て實順洋行に讓與せり。是に於て吳と實順と互に權利を爭ひ、衆を集め、私鬪を酿さんとせしを以て、同九年二月淡水同知は差役(犯人逮捕の役人)をして邱を捕縛せしめ、且つ事を蔵くするの虞れありとして之を封禁せりといふ。而して當時は採掘を爲すに至らずして、唯地面に湧出せるを汲み取りしものの如し。降つて光緒十三年臨撫劉銘傳は新に礦油局を設け、統領林朝棟に命じて之を兼辦し、旗昌洋行をして採掘を請負はしめ、米國ベンシルヴァニヤより技師二人を聘し、機械鑿井を試み、好結果を奏せしが、深さ六〇米に達したる時、鐵管に破損を生じたる爲め之を中止し、後任臨撫邵友濂(光緒十八年着任)の時には、全く廢棄に歸せりといふ。故録後邦人の手に移り、明治二十九年手掘によりて一斗の原油を採取せしを以て試掘の嚆矢とし、明治三十年五月淺野總一郎氏は、早くも此の地に石油鑛區の許可を受けしが、事業開始前、三十年九月には更に其の周圍に於て、寶田石油株式會社外三名の許可せられし爲め、此等の企業家は、臺灣試掘組合なるものを組織し、明治三十七年一月始めて綱式に依り出磺坑油田の開鑿に從事せしが、之れ實に改録後本島油田に於ける機械掘鑿事業の初めなり。三十九年には南北石油株式會社、更に四十一年には寶田石油株式會社と其の經營轉々として移りしが大正十年寶田石油株式會社は、日本石油株式會社に合併せられ、現に同社の手に依りて經營せらる。明治三十七年の開鑿以來、原油の探掘は今日に至るまで續行せられ、各油井とも一般に井壽に富み、永きは二十年に及ぶものあり。大正十四年以後大量噴油を見、本島唯一の探油中油田として其名餘りにも高し。現在鑽區面積三八〇ヘタールにして、今迄に掘りたる油井七〇餘、多くは千米内外の深度を有し、嘗つて第四十號井の如きは、日産二千石に及べり。近年出油量非常に增加し、苗栗驛附近に在る精製所のみにては同に合はず、基隆に大タンクを組立てて原油のまゝ移出す。

コーカン　黄澗面　朝鮮忠清北道永同郡の東北端。東は梅谷・黄金の兩面に、北は慶尙北道尙州郡牟東面及び本西面に、西は龍山面、西南は永同面に各々隣接す。小白山脈中に位置し東境に鳳凰山(六五四米)・芝庄山(七七二米)北境に白馨山(九三三米)等聳え、餘勢域内に及んで山地を成し平地極めて乏し。産物には大麥・大豆・麻・莞草等あり。鐵道京釜本線中央を東西に横斷しほぼ中央に黄澗驛(明治三十八年設置)ありて此地に面事務所を置き、此處を核として道路網四通八達し、殊に京釜街道及び青山邑への二等道路には定期乘合自動車を通じ交通極めて便なり。

コーガン　高岩面　朝鮮慶尙南道昌寧郡の東北端。東は密陽郡淸道面、北は城山面、西は大谷面、南は昌寧及び昌樂の兩面に、西南は大池面に各隣接す。南境には烈旺山(六六三米)・觀龍山(七四〇米)・火旺山(七三七米)等相連り、西北に向つて傾斜し、域内殆んど山地にして耕地に乏し。從つて住民は賃朴勤勉にして農を主業とする傍ら採薪・炭燒の業に從ひ又副業として養蠶・養豚を行ふ者多し。産物には大麥・大豆、其他雜穀等ありて自給自足す。道路は何れも未改修の等外道路にして交通便ならず。聚落は西半部に集り其主なるものに北より潤上里・鑑上里・桂上里・中大里・大巖里・牛川里等ありて、面事務所を牛川里に置く。

ゴーカン　合歡　【合歡山】臺灣臺中州新高郡と花蓮港廳花蓮郡の境にあり、中央山脈の一部をなす。第三紀粘板岩系より成る。標高三三九四米なり。この山を越えて合歡越道路通ず。

【合歡越道路】臺灣臺中州能高郡霧社より花蓮港廳花蓮郡研海區に至る交通路にして、理蕃上の重要道路とす。全長約一〇九粁あり、三三九米の合歡山を越え、その登攀も雄大、天下無比の稱あり。その道に當るタロコ峽は國立公園に指定され、その溪谷の美また三曦に倩す。途中一五〇〇米以下は高砂族の居住區域にて臺中州側は霧社蕃及び白狗蕃、花蓮港側はタロコ蕃居住す。途中要所に警察官の駐在所あり。その所在地左の如し。臺中州側——霧社・見晴・立鷲・追分・櫻ケ峰・合歡山・石門。花蓮港側——合歡・鬪ケ原・巒峯・カラバオ・セラオカ・見晴・タバヤン・シキリアン・タビト・ドヨン・合流・鹿蔓・バタガン・溪畔・アヨ・ブセガン・研海。

コーカンゴ　公館後　(こうくわんこ)　庄(臺灣臺北州海山郡)

コーカンシ　公館子　(こうくわんし)　庄(臺灣新竹州竹南郡)

コーギ　光義面　(こうぎ)　朝鮮全羅南道求禮郡の略ぼ中央。東は馬山面、北は山洞面、西は龍方面、南は求禮面に各隣接す。小白山中の智異山の西南斜面を受け東北境に老姑壇(一五〇七米)屹立し、西南に向つて漸次高度を減じ、西半部はやや平地開く。産物には大麥・米・棉花・煙草等あり。其他麦・瓦等の陶物、木製器具等を産す。其の位置郡邑求禮に近接するも山地多き爲め域内路線は何れも等外道路にして車を通ずるものなく、交通概して不便なり。聚落は總て西半部の低地に集り烟波里・大田里・放光里・水月里・柔山里・芝川里等は其の主なるものにして面事務所を烟波里に置く。

コーギ　洪儀　(こうぎ)　鐵路總局北鮮線の一驛(昭和四年設置)。朝鮮咸鏡北道慶興郡豆滿西面にあり。

コーキョー　興敎面　(こうきよう)　朝鮮京畿道開豐郡の南部。開城府の南方約一二粁、東は臨漢面に、北は上道面に、西は大聖面に各隣接し、南は臨津江に臨み江華島に相對す。面内概ね平地乏しく二〇〇米内外の丘陵性山地連り、西南境に白馬山(九一米)聳え、臨津江の河口に注ぐ一小支東境を南に流れ流域に僅に低地あり。て耕地拓く。産物に蓼・大豆・米・馬鈴薯・蔬菜等あり。北方開城府に至る三等道路は領井里より西南部を北上し、その他等外道路は領井里を基點として東西に走る。また江上には領井里と江華島の府内面月串里との間に渡船の設あり。東北方小溪の右岸に沿ふ蠻岩場には毎月定期の開市あり。面事務所は鳳敎里に置く。

コーキョー　興業面　(こうきよう)　朝鮮江原道原州郡の略中央。東は板富面、北は原州面、西は龍登面、南は貴來面及び忠淸北道堤川郡白雲面に各隣接す。鳴鳳山(五九〇米)は西境に、白雲山(一〇八七米)は東境に近く對峙し郡内概ね山地を成す。産物には米・大麥・蕎麥・山蓼・蜂蜜等あり。面邑興業里は中央より稍々東部に偏し、原州・忠州(忠淸北道)間一等道路に沿ひ交通便なり。其他の道路は何れも等外路線にして未だ改修に至らず。山間地方は特に不便なり。

コーキン　黄金面　(こうきん)　朝鮮忠淸北道永同郡の東北端。東は慶尙北道金泉郡甕傳面、北は同尙州郡功城面・牟東面、西は黄澗面、南は梅谷面及び慶尙北道金泉郡鳳山面に各々隣接す。小白山脈西境を走り、芝庄山(七七二米)・鳳凰山(五五四米)等聳え、域内丘陵起伏し、平地極めて乏し。産物には大麥・大豆・粟・黍・莞草等あり、特に黄金大豆は良質にして醬油釀造用原料として内地に移入さる。鐵道京釜本線面の南部を横斷し、秋風嶺驛(明治三十八年設置)あり。道路は京釜街道(一等道路)南部に通じ其の沿線は便なるも、その他は等外路線にして交通便ならず。面事務所を官里に置く。郵便所及び陰曆三・八の日に開かるる市場ありて雜貨・雜穀の取引行はる。

コーク　咬狗　(こうく)　→斗六街(臺灣臺南州斗六郡)

コーグキ　鴻窠村　(こうか)　埼玉縣武藏國北埼玉郡の南部。騎西町の東南隣なり。北は高柳村、東は水深村、西は種足村、南は南埼玉郡菖蒲町に隣す。關東平野内にあり村内全部平地にて畑と水田をなし米・麥・薯の産多し。北方約四粁に加須町あり、東武線加須驛を置き、當村へ縣道を通ず。此地は近世、埼玉郡騎西領山根庄に屬す。騎西とは此邊が郡の西にあるを以て號せしものなるべし。此地には當國七黨の私市黨あり、此邊に住せし故に在名を以て黨に名づけしものならん。蓋し私市とは、此地久しく繁昌の地ゆ為私に市を立てしことなどありしより私市の字を用ひて稱によりきさいと呼びしが、その後、此地に城壁を築きし頃に武士屋敷の集りし所を根小屋と呼び、市店の並べる所を騎西町と唱ふるに至りしと。大字根小屋は私市城のありし地にして、德川家康關東入國の初は松平周防守に賜はり、慶長年中に幕領となり、のち大久保加賀守に賜ひ、寛永九年また幕領となり、同十五年松平伊豆守に賜はり、元祿七年松平美濃守に替り、寶永二年より秋元但馬守に賜はり、子孫左衞門佐に至れり、正保四年松平伊豆守の檢地せし地なり。大字芋窪は往時は芋ケ窪と稱せりと。此地も往昔は松平伊豆守の領地にて、のち幕領となり、秋元左衞門佐及び窠藤增五郎の知行せし地。延享三年神尾若狭守の檢地あり。大字鴻窠は往古鴻ケ窪と稱せしがのちケの字を省けり。松平伊豆守の領分たりしが、のち秋元左衞門佐の領地となれり、正保四年に松平伊豆守檢地す。大字牛重は始め松平周防守に賜ひ、慶長年中に幕領となし、のち大久保加賀守に賜ひ、寛永九年また幕領に復せしが、同十五年に松平伊豆守の領分となり、元祿七年松平美濃守に替り、寶永二年秋元但馬守に賜はり、子孫相續いて領せり。その餘は根古屋金剛院の寺領及び、此地の妙光寺領入り交りし地なり。

〔私市城〕 大字根古屋に其址あり。その創始は詳ならず。諸書に私市の山根の要害といへり。舊記に山根城は太田道灌の築く所に係り、城主本間彌郎・小田大炊助・同小三郎、此處に居城すと云ふ。永祿五年三月成田長康の次男小田顯興此城に籠りしを上杉謙信來り一日一夜交戰す。德川家康關東を領するに及び騎西に於て松平康重に二萬石を給し、のち數年を經て寛永中に至り廢するに至る。山根は此邊の庄名に呼ばれ、近世二十八ケ村に及べるも其名義頗る疑はしきものなり。城址は現今、大部分水田となる。

コークリ 高句麗 朝鮮北部より滿洲南部に亙りて大領土を開きし古の大國。魏書の高句麗傳に據れば、朱蒙の母、扶餘といふ國の王に仕へ、孕みて大なる卵を產み、その中より生れ出でたるが卽ち朱蒙なり、長じて扶餘人に惟しみ恐れられ、母の忠告に從ひて、扶餘國より東南へ脫走し、遂に紇升骨城に居を定め、高句麗と名づくる部落を作れりと。これに類似せる傳說は、後漢の王充の論衡吉驗篇にも載せらる。そは橐離王の侍婢の生める東明と言へる者、扶餘國の始祖なりといふ。卽ち魏書の記事と逆になるも橐離は高句麗にして、東明は朱蒙のことなり。物語の筋は魏書の方を正とす。三國史記の高句麗紀に、魏書に據りて朱蒙のことを記し、彼の落著きたる處を沸流水上と誌せり。沸流水とは、現今の鴨綠江右岸の大支流たる佟佳(佟家)江の上流を指したる名稱なり。なほ朱蒙は卒とも郡墓とも書かる。また沸流水上の谷地を卒本川とも言ひ、三國史記の百濟紀に卒本扶餘と稱す。卒本扶餘とは卽ち後の高句麗國の始源地なり。朱蒙に次ぐ第二代琉璃王の二十二年(西紀三年)に遷りて國內城に都し、第十代山上王の十三年(二〇九年)に丸都城に移り、第十六代故國原王の十二年(三四二年)に再び國內城に還り、第二十代長壽王の十五年(四二七)に至りて平壤に遷りて、國亡ぶるまで都せり。三國志の魏志に據るに、高句麗國はもと五部族より成立せりと稱し、涓奴部・絕奴部・順奴部・灌奴部・桂婁部といふ名を揭げしも、始祖朱蒙は桂婁部族ならん。而して朱蒙が、後の高句麗國の基礎を築きし年月詳ならず。三國史記に、その建國の年を前漢元帝の建昭二年(前三七年)に當てしも、支那側の記錄に何ら明文なし。恐らくは前漢末期の事ならん。而してこの國の興る以前、前漢の武帝の代に鴨綠江上流地方に高句麗縣なるものを置きし事あり、高句驪(卽ち高句麗)は本來の土名にして、朱蒙の始めて作りたる稱呼にあらず。前揭魏書の記事に、朱蒙の始めて作りたる名の如く記せるは誤謬なり。〔沿革〕前漢末期に於ける建國以來、高句麗國の領土は次第に擴められ、三國の代となりて、魏の將軍毋丘儉に攻め込まれて一旦、丸都城を陷られしが(二四六)、間もなく晉代となりて、更に國勢を恢復し、北朝鮮の大同江地方の樂浪郡を占有し(三一三)、二年の後、晉の玄菟郡を奪ひて、高句麗の領土は西方遼河平地にまで進出せり。その間鴨綠江下流地方もまた高句麗の有となりて、從來支那の領土なりし遼河平地と大同江地方の聯絡は高句麗のために遮斷せらるるに至れり。東晉の代になりて、東蒙古の鮮卑族の中より興りたる慕容贇が一時は高句麗を苦しめて丸都城を攻め落せし事ありしが(三四二年)、それより五十年後に至りて、第十九代廣開土王(好太王)が高句麗國王となり、大いに領土を拓きて、その西境は滿洲の遼河に達せり。ついで南北朝の世となり、その頃高句麗の領土は、南は北朝鮮の漢江流域を東は咸鏡道地方を含み、北は今の間島地方より松花江を超えて、現今の長春・農安方面に延び、西は遼河に達する程の大國となれり。而して東晉の世より南北朝の世に亙りて、支那文化の高句麗國へ傳はりて、第十七代小獸林王の代(三七二)に、北支那の大國前秦より佛僧・佛像・佛經等傳來せしが、こは朝鮮への佛教傳來の始めと認めらる。同年高句麗に於ては大學が建立され、翌年律令が制定せられたり。〔滅亡事情〕支那に於て南北朝を合一せる隋朝は、高句麗征討を企てて三回共に失敗に歸し、高句麗をして益々自己の强盛を誇らしむ。隋に代りて唐興るに及び、唐の太宗は高句麗征討を企てしも失敗し、次の高宗の代に至り、また屢々征討を試み、遂に唐の乾封二年(六六七)唐將李世勣は大軍を率ゐて先づ遼河平地に作戰し、次第に戰功を收めて、總章元年(六六八)唐軍は遂に平壤を攻め落し、高句麗全くここに滅ぶることとなれり。唐は安東都護府は平壤に設け、高句麗の故地を治む。三國記に、高句麗は二十八王七百五年と記さる。支那側の記錄に高句麗の世代年數を明確に記したるものなく、三國史記に據りて、朱蒙の建國より唐に滅ぼさるる迄を約七百年と見るべし。その二十八王は次の如し。東明王(朱蒙)・琉璃王・大武王(大朱留王)・閔中王・慕本王・太祖大王(名は伯固)・次大王(名は遂成)・新大王(名は伯固)・故國川王・山上王・東川王・中川王・西川王・烽上王・美川王・故國原王・小獸林王・故國壤王・廣開土王・長壽王・文咨王・安臧王・安原王・陽原王・平原王・嬰陽王・榮留王・寶藏。〔日本との交渉〕高句麗は、その種族より云へば貊と呼ばるる種族の一種なり。我國の古書に、高句麗を高麗とも狛とも書きこれをコマと訓ませたるも、その理由は判然せず。狛は駒の略年なり。また高句麗の始祖朱蒙(鄒牟)の第三子は百濟國の始祖と考へらる。高句麗・百濟よりの歸化人多く我が國に居住しをりしを以て我國の古書にも朱蒙のことが散見す。例へば紀日本紀延曆八年の條に、光仁天皇の皇后に關する記事の中に百濟遠祖鄒墓王といふ名見ゆ。鄒墓は卽ち鄒牟と同人なり。新撰姓氏錄の右京諸蕃の部に、「長背連、高麗國主鄒王(原註に一名朱蒙とあり)之後也」と見ゆ。我國と高句麗との交渉關係もまた國史に散見す。日本書紀に、崇神天皇七年高句麗の始めて朝貢せることを記し、仁德天皇十二年には織的蘇唐を來獻し、雄略天皇八年に我軍新羅を撃ける高句麗を討ち、欽明天皇十五年には高句麗の使節、我が越國に漂著し、同二十三年大伴爽手彥が高句麗を伐ちし記事あり。

コーゲ 上毛(郡) 豐前國(福岡縣)の古郡名。後風土記逸文に見ゆる上毛縣の國郡制定の時郡となりて上三毛郡(大寶二年の戶籍)となりしを、更に和銅の制地名を二字と定めしより上毛となせしもの。名稱の起原は景行天皇御西狩の時供御を率ひしより起るといふ。續紀天平十二年八月に郡名初めて見ゆ。和名抄は加無豆美介と註し山田・炊江・多布・上身の四鄕を置く。蓋、山國川の下流の左岸を占めコーゲ郡と通稱せしが、明治二十九年西方の築城郡と合して築上郡を建つ。

コーゲ 郡家 鳥取縣八頭郡賀茂村の大字。省線因美線及び省線若櫻線の郡家驛(大正八年設置)を置く。

コーケー 江景邑 忠淸南道論山郡に屬する邑。論山邑の西南一〇粁、錦江の支流論山川との落合に位置し、江景平野は邑の東南北の三方に展開し、土壤膏腴にして米產多く、舟運の便よきため米穀の集散地として夙に著はる。邑內に鐵道湖南本線通じて江景驛(明治四十四年設置)を置き、道路四方に通じて論山・扶餘・礪山にそれぞれバスを通じ、錦江には扶餘・群山の兩地に舟行の便ありて交通の要衝をなす。此地は三百年來商業地として發達し來れるものにて、その市場は大邱・平壤のそれと共に三大市場として榮えたりしが、鐵道湖南線開通後後分その繁榮を奪はれしも依然在來市場の特色を保持す。市は陰曆四・九の日に開かれ、集る者一日一萬餘に及び市中頗る雜閙を極む。海產物・織物・雜貨類その他の取引額は年凡そ百萬圓に達し、商店の取引も亦主として市日に行はれ、其商圈實に十郡の廣きに達す。論山川は標式的蛇曲流を成し、市中を貫流して錦江に合流す。潮汐の影響を受くるため論山河口に閘門を設け水位を調節し、荷役及び灌漑の便に供す。かくの如き自然の利用は他に類少なく、米穀は歸橋より下流に繫船して荷役し直ちに群山港の汽船に移乘し得。河岸には精米所多く短摺高年十五萬石の多きに達す。邑內に道立穀物叺檢査所・江景米穀組合・農業倉庫・大阪商船出張所等ありて米穀の移出極めて便にして、積出年額約二十萬石に達す。其他地方法院支廳・警察署・郵便局の外三南殖產會社・信託會社・殖產銀行支店・公立農學校・商業學校その他工場多數あり。江景驛の北方約一粁の玉女峰はいま公園となし、園內に江景神社あり、大正六年の創立にして天照大神を祀る。錦江の平野を一望に收むる眺望佳き處にして春は櫻の名所たり。また驛南面に彩雲山の小丘あり、滿山松樹繁りて眺望に富む。

コーケー 控溪 臺灣新竹州大溪郡にある溫泉。桃園街の南方角板山より淡水河谷を遡ること約六〇粁の峽谷中にあり。交通不便、旅舍等の設備なし。附近の蕃地警備の一中心をなす。

ゴーケー 豪溪 指定名勝。岡山縣吉備郡池田村大字尖栗にあり。省線山陰本線倉敷驛より岐るる伯備線豪溪驛より八粁、バスの便あり。豪溪驛はもと尖栗驛と稱せしが、昭和十年五月現在の名に改む。豪溪は高梁川の支流樫谷川の峽谷にして、花崗岩より成り、規模はさして大ならざるも、約五—六〇〇米の間、兩岸は花崗岩の山骨垂直及び水平の節理をあらはして屹立し、懸崖を飾るに松を點じ、紅葉をもつて彩り、豪宕のうちに優美の景趣を添へ、中國の耶馬溪の稱あり。天柱峰・圭峰・盆子岩・劍ケ峰・雲梯峰等は特に勝れたるものとす。盆子岩は東西に長く南北に狹き長方形の岩にして、水平節理極めてよく發達し、その聳立するさま恰も箱を重ねたるが如く、より て重箱岩の異稱あり。雲梯峰は屏風を立てたる如く、一方は梯形をなす。河床には特に巨〻べきものなきも、三鈷御潭と稱して水平の岩盤上に水流の激するところあり。この溪は中國筋隨一の紅葉の名所として聞え、また山椒魚の產地として知らる。

コーケン 好賢 【好賢面】 朝鮮咸鏡南道洪原郡の北部。東は龍川面、北は新興郡下光川面、西は希賢面、南は登道面に各相隣接す。北境には八峰(一六八一米)及び中德山(一三七九米)屹立し、西境には靈氣峰(一二七二米)・九節峰(九七二米)東境に聳え、城內山岳重疊し平野殆んどなく唯西大川の流域に精〻平地を見る。農產物は大豆・馬鈴薯・粟等にて就中大豆は最も重要產物たり。道路の發達極めて不良にて、南大川河谷に沿ひ域內を縱貫する外は未だ道路の發達を見ず、交通極めて不便なり。聚落は西大川右岸の段丘上に大部分分布す。卽ち雎澤里・龍潭里・虎興里・虎下里・延爲里・中興里・農海里等を其主なるものとし延爲里に面事務所あり。

【好賢面】 朝鮮黃海道金川郡の西北部。東は左面、北は新溪郡美水面、西は多火面、南は白馬の諸面と各相隣接す。鶴峯(四〇一米)北境に聳ゆる外著しきものなく、城內老年期の地貌を呈する花崗岩質丘陵起伏し、禮成江の支流九潤川東南境

より西方に入り後著しき蛇曲流を成して西南方に流出す。此蛇行地帶に稍〻廣き平地を見る、産物は大豆を主とし粟・馬鈴薯・大麥等之に次ぎ其他蔬菜・山蚕等あり。鐵道京義線南川店驛より二等道路を連絡し乗合自動車一日に四往復ありて交通便なり。面邑白陽里は略〻中央に位置し、警察官駐在所あり。

コーケン　降峴面　朝鮮江原道襄陽郡の略〻中央。東は日本海に面し、北は道川面、南は襄陽面・西面に、西は麟蹄郡北面に相隣接す。西境には雪岳山脈中の主峯雪岳山（一七〇八米）を始め一〇〇米以上の高峯相連なり、西半部は山岳重疊し、中部に到りて漸く丘陵地帶となり、海岸に到りて稍〻低地を見る。海岸に鰍洞山（七九米）聳え、其砂濱海岸の單調を破る。産物には大麥・大豆・玉蜀黍・鹽・鮑・鯛等あり。二等道路は南方襄陽郡を經て本面に入り海岸に出で、海岸線に沿ひ北方杆城に達する外は道路絲めて疎なり。聚落は殆んど海岸地帶に偏在し、此地域に於ける聚落密度は襄陽平野と共に絲めて大なり、面事務所の所在地長山里を始め重なるもの二〇餘聚落を算ふ。

コーケン　高嶺山　朝鮮慶尙北道大邱府の南東方五〇粁に當る一峯。標高一〇三三米。慶尙北道慶州郡山内面と、慶尙南道蔚山郡斗西面・上北面に跨り聳ゆ。

コーケン　江原道　朝鮮の中東部。北は咸鏡南道、西は黃海・京畿の二道、西南は忠淸北道、南は慶尙北道に各相隣接し、東方一帶は日本海に面す。面積二六二六方粁。朝鮮十三道中第三位にして、内地の最大縣岩手と廣島二縣の和に略〻等し。行政上、春川・鐵原・金化・伊川・平康・淮陽・通川・高城・楊口・襄陽・麟蹄・江陵・平昌・洪川・横城・原州・寧越・旌善・三陵・蔚珍の二十一郡に分ち、道廳を春川郡春川邑に置く。（地勢）半島の脊梁をなす大白山脈は東岸に迫りて婚蛾し、金剛山脈・香爐峯山脈・雪岳山脈・五臺山脈等と部分的に稱へられ、平均高度一〇〇〇米、東岸は急斜して日本海に下り、狹長なる海岸地帶をつくり、海岸は斷崖に富みて屈曲少なく、良港に乏し。脊梁山脈以西は高原にして、古來嶺西地方と稱し、北部には玄武岩に蔽はるる熔岩臺地ありて、本道稀に見る平坦面をつくる。他の大部は開析高原にして漢江の流域に屬し、平地に乏しく、一般に人煙稀少、産業も他に比し見るべきもの少なし。一般に高地にあるため同緯度の京畿道に比すればやや寒冷なるも、北部・南部・海岸地帶と自ら氣候を異にす。（産業）農産　米やや多く、麥・粟・大豆等これにつぎ、また大麻を産す。米は始政當時作付面積三萬町歩に足らず。産額三十萬石にて道内の消費にも充たざりしが、昭和十年には水田面積九〇九五五町、米收穫高八三六八八二石にして、道外にも移出をなすに至れり。大豆も道外搬出多く、品質全鮮に卓越し、龍山大豆等の銘柄により内地市場に歡迎さる。大麻の産は全鮮第一位にして六萬貫を示す。蚕繭は氣候風土これに適し、野桑の分布極めて廣く、殊に鐵原地方は有名なりしが、優良繭種の普及を圖りし結果、産繭高二五八萬瓩に達し、慶尙北道につぎ第二位を占む。木道は地積廣大にして牧草に富み、天惠の畜産地にして、江原牛の名は夙に全鮮に高く、一九・三萬頭を産し、全鮮にては平安北道につぎ第二位にあり。林野面積二一九萬町歩にて、本道全面積の約八割を占め、造植林に努めつつあり。海岸線の延長二五七浬、沿海百三十餘漁村を抱擁し、漁獲高六七一萬圓にして、鰯・鰯・鰯・鮮・鯖・明太魚・鱈・鮑・海鼠・和布・岩海苔等を産し、鰯の産殊に多し。工産の重要なるものは麻布・明紬にして、麻布は古來「江布」と稱へ、全鮮に名高く、その他陶器・朝鮮紙・蕃工品・醸造品等を産し、工産總額一一六〇萬圓に及ぶ。域内各種鑛物の埋藏多く、各郡に鑛區を設定し、旋善・洪川・横城・平康・三陵等の金鑛、通川の石炭、楊口郡の高嶺土等著はる。（都邑及び交通）地勢に制せられて、大中心の發達を見ざるも、なほ春川・原州・鐵原の各地方的中心あり、また東岸の江陵は古來の名邑たり。鐵道は位置及び地形の影響によりて全鮮中その敷設最も遲れたる地方なれど、近年やそその面目を改め、北西部には總督府鐵道京元線、高原地方を通じ、東海北部線は京元本線安邊驛より分れ海岸線に沿うて南下し、南方慶尙北道の東海中部線に連絡せんとす。また京元線鐵原驛より、金剛山電鐵道じて長安寺に達し、内外遊覽客を誘引す。道路網も春川邑その他を中心として近時整備す。海上は小屈曲を利用して東底・長箭・注文津等の沿海寄泊地あるも、良港に乏しく、貨物乗客少きため廻航度少なく、船も小きくして便ならず。道の東北部には天下の奇觀金剛山あり。また東海岸は海水清澄、奇岩怪石叢立し、風景絶佳なる處多く史實に富み、關東八景は古來人口に膾炙す。（沿革）本道は古の濊貊の地にして、中世後漢に屬し臨屯郡を置かれ、一部は樂浪郡に屬す。高麗朝に及び成宗王の時朔方道となし、江陵等數東一帶の地及び春川等の郡縣を之に屬せしめしが、明宗八年（高倉天皇治承三年）改めて沿海溟州道となし、春川等を分離して別に春州道又は東州道と名づく。ついで元宗の時沿海溟州道を江陵道に、東州道を安州道となし、高宗王の時江陵道を江陵朔方道と改めしが、恭讓王（後龜山天皇元中年）に至り、今の咸鏡道（即ち朔方道）と分離して江陵道に復す。のち安州・江陵三道を併せて交州江陵道となし、江陵をして管轄せしめ平昌來屬す。李朝太祖四年（後小松天皇應永二年）に至り始めて江原道と稱し、のち孝宗王及び肅宗王の朝一時原襄道又は江襄道と唱へたることあるも、幾許もなくして江原道の舊名に復し、監營を原州牧に置き監司又は觀察巡撫使・水陸兵馬節使を駐營せしめ、春川に左營を、横城に中營を、三陟に右營を置く。李朝中葉江陵に於いて逆名の事變あり、原泰道と改名し、約十年を經て江原道と復稱す。李太祖二十四年（明治二十年）春川に留守郡を置き江原道とその管轄を異にせり。同三十二年道を廢し、管内を二分し原州監營を廢し、春川留守郡を春川府と改め、江陵及び春川に觀察府を置きしが、原州・寧越・平昌・旌善の四郡は忠州觀察府に移屬し、翌年再び江陵を併せ觀察道を春川に置き、原州等四郡をも復屬せしむ。もと本道は二十六郡なりしが、隆熙四年（明治四十三年）二十五郡となり、大正三年平海郡を蔚珍郡に、高城郡を杆城郡に、金海郡を金化郡に、安峽郡を伊川郡に合併し、大正八年杆城郡を高城郡と改稱し今日に至る。

コーケン　洪原（こうげん）【洪原郡】朝鮮咸鏡南道の中部。道管内二府十六郡の一。東は北青郡、西北は新興郡、西南は咸州郡に夫々相隣り、南東一帶は日本海に臨む。長白山脈に屬する八峰（一六八一米）等は郡の北境に聳え、その支脈域内に蟠居し、概ね山地にして、これ等の山地に發源して南流、日本海に注ぐ西大川・東大川の沿岸と海岸に狹小なる平地ちるのみ。生業は農業及び水産業を主とし、農産に大豆・米・燕麥・馬鈴薯・麻等あり、婦女には麻布を織るもの多し。沿海には鰯・明太魚・鯛・鱈・鰒等の漁獲多し。前津港は唯一の良港にして明太魚の輸出を以て著はる。鐵道は咸鏡本線西南より來り、海岸線に沿うて東走し、域内に三湖・龍雲・前津・登浦・雲浦・靈武の各驛を設け、一等道路咸興より來りて郡の南部を東西に貫通し、その他洪原を中心として道路稍やや見るべきものあるも、北部は便ならず。行政上州翼面ほか六面に分ち、郡廳を州翼面新興里（洪原）に置く。本郡の地は往古洪脅又は洪獻と稱し高麗末業始めて縣を置く。太祖の時洪原を改め、咸興府に屬せしめ、世宗十五年縣を置き、のち變改ありしが建陽の改革に際し始めて郡を置き今日に至る。

【洪原面】朝鮮咸鏡南道洪原郡の南部。郡管内七面の一。東は登浦、西北は鶴泉、西南は西大川を距てて龍雲の各面にそれぞれ隣り、東南は日本海に面す。赴戰嶺山脈の支脈延びて域内北部に二—三〇〇米豪の丘陵蟠居し、西南に緩斜して西大川左岸に肥沃なる洪原平野をつくる。海岸は東半は屈曲に富み、前津の泊港を擁し西半は砂濱を成す。鐵道咸鏡線海岸に沿うて域内を貫走し、前津驛（大正十三年設置）を置き、道路亦一等道路京會街道東西に走りて西四八粁にて咸興に、東五二粁にて北青に通じ、他に二等道路海岸線を経うて西南に通じ、交通の要衝を占む。洪原邑に郡廳・警察署等を置き、穀物檢査所あり。前津港は邑の東南二粁に位し、洪原の咽喉を扼する近海航路の寄港地にて、附近に産する明太魚・鱈・鯛・洪原平野より産する大豆等の水産産物は概ね此處より呑吐さる。また一方明太魚漁の根據地にして、本道内屈指の漁業地に數へられ、その魚市は殷盛を極む。鳥の東方約二粁に松鳥の勝地あり、東に突出する一小半島の前面に羅列せる鳥嶼にて老松生ひ茂り蒼老風致に富む。また東北約四粁の東南岸に節婦岩あり、往昔北青にありし牛鎭といふ年若き寡婦、洪原の官奴の意に從はずしてこの斷崖より身を投じ節を守る。これより山を思郎山といひ、鎭を節婦岩と稱し、後世海月亭の祠を建つ。本面はもと州翼面と稱せしが、昭和十一年現稱に改めらる。

コーケン　高原（こうげん）【高原郡】朝鮮咸鏡南道の南部。道管内二府十六郡の一。北は永興郡に、東南は文川郡に、西及び西南は平安南道陽德郡にそれぞれ相接す。西境に狼林山脈連亙し、白山（一四五二米）・白頭山（一三七〇米）等聳え、偉勢域内に延びて山岳重疊し、東方に急斜して日本海に臨む。河川は北部を東西に貫流し東方永興郡に注ぐ德池江ありて、その本支流域内を潤ほすも、急流にて峽谷深淵多し。地産に乏しく、米作は東部の德池江下流平野に行はるるのみ、大豆をやや多く産し移出する程度にして、概ね郡内の需要を充たすに過ぎず。養蠶やや行はれ、畜産は牛最も多くして豚これにつぎ、鑛産は東部に石炭、西南山地に金・銀・銅・鉛等を産す。特産に鮭・鱒等あり、德池江支流の上山面會洞里に道水産試驗場支場を置き人工孵化を試む。總督府鐵道咸鏡線東部をかすめて笥灘・高原の兩驛を設け、一等道路これに竝走し、三等道路南部に通ずるものあるの外は、輸路多くして交通便ならず。但し近年高原驛より鐵道分岐し、德池川の溪間を経うて南、平安南道に入り平壤に達せんとする平元線の豫定路線あり。本郡を行政上、下鉢面ほか五面に分ち、下鉢面倉項里（高原）に郡廳を置く。本郡の地は高麗光宗二十四年初めて郡を盤龍山（いま上山面樂泉里）に置き洪原郡と稱し、のち郡を今の郡内面潤昌里に移し高州と改め防禦使を置く。顯宗十五年下鉢面舊校里（いま朝陽里）に移し、李太宗十三年更に高原と改稱し、成宗二年下鉢面南山里に移せり。明治三十七年日露の役露軍退却するに臨み郡衙を燒き古記錄すべて燒失し、其後郡廳を下鉢面倉項里に移す。大正三年永興郡雲谷面を本郡に編入し、今日に至る。

【高原】朝鮮總督府鐵道咸鏡本線の一驛（大正五年設置）。朝鮮咸鏡南道高原郡下鉢面にあり。

ニ一三　口湖庄　[illegible]

[illegible]

ニ一四　素波　[illegible]

ニ一五　江口面　[illegible]

ニ一六　港口　[illegible]

ニ一七　光郷　[illegible]

ニ一八　口公館　[illegible]

ニ一九　高谷　[illegible]

ニ二〇　——社　[illegible]

ニ二一　公郷面　[illegible]

ニ一三　口湖庄　[illegible]

ニ一四　素波　[illegible]

ニ一五　江口面　[illegible]

ニ一六　港口　[illegible]

ニ一七　光郷　[illegible]

ニ一八　口公館　[illegible]

ニ一九　高谷　[illegible]

ニ二〇　——社　[illegible]

ニ二一　公郷面　[illegible]

絲川上流の不斧の大森林を控へ、木林集散地をなす。縣道西部低地を通過し北方御船町及び熊本市方面に至り、後者へは自動車の往來あり。また肥線熊延線道貫き甲佐驛（大正十二年開業）あり。往古神功皇后の三韓征伐の砌、此地の高佐神社（隣村宮内村の地籍）に戰勝を所願し給ひ、凱旋の後これ神威に由るものとし甲鎧を奉納せられ、また勅命を以て高佐を改めて甲佐とし給ふ。これ甲佐の起原なり。降りて落政時代には細川藩に屬し甲佐手永惣庄屋の支配を受く。當時岩下町・東寒野村・西寒野村・豐内村・仁田子村・大町村・横田村・有安村の一町七ケ村なりしが、明治四年廢藩置縣となり、等いで同二十二年町村制施行せられ以上の一町七ケ村合併して甲佐町と稱し、從前の町村は大字として其名を存し以て今日に至る。大字豐内の松尾山は阿蘇家人伊津野氏の塞址にして甲佐の要害たり。國志に據れば、鎌原合戰の時、天正九年十二月、相良義陽は東海部に千餘騎を率へて伊津山城守の守る松尾城に向はしむ。伊津野氏これを聞き絲川を打渡し日和瀬河原に出張せしが海部が岩下村油坂（大字岩下の地）に控へしを以て油坂に走向ふ。然るに、伊津野の兵敗北し引べき道もなく遂に悉く討死するといふ。〔甲佐葉場〕絲川にある葉場。慶長十二年加藤清正河川改修の際これを設備す。維新前は御葉と稱し有落主の直轄にて、落主黒代證池の場所たり。葉場は二ケ所ありて舊葉外葉といふ。この邊は此川筋第一の鬼遊境と稱せられ、夏季は鮎の漁獲多し。（鶴ノ瀬堰）町の東南鶴宮内村境の絲川筋にあり。堰の東南北の三面は峯巒重疊溪流嚴に擋け水勢頗る急なれども、此地の下流は稍ゝ平坦なり。慶長十三年國主加藤清正絲川を斜に横斷し、一大瓦壕を設け堰壕の斜長三百六十四間其の幅四十七間に瓦り、上下水中深く疊石を篤す。其石一石の長さ二間有餘、幅一間以上の巨石を用ふ。堰の下流三百六十七間の處に幅四尺の楠木を埋めあり、鶴の瀬堰の基礎と云ひ傳ふ。而して堰壕に取入るる養水路開門は分水口を距る百六十七間の下流に設け、用水の灌漑並に洪水の排除に便する爲め、二ケ所の排水樋管をなし、灌排水等總めて自由ならしむ。往昔甲佐平野一帶の地には絲川・佐俣川の二川併行して貫流せしが、加藤清正鶴ノ瀬の堰築造と同時に新に川を掘り替へ、佐俣川に合流せしめ、河床を埋め水理の自然を圖り、地勢地形を變慮なく利用し、堅牢無比の堰壕を築き、後世其の恩澤に浴すること幾許なるを知らず。本水路灌漑大井手は甲佐平野の動脈と云ふべく、甲佐町・龍野村・白旗村及び乙女村の一部を潤し、なほ下流豐秋村に渡及し、現在甲佐町ほか三ケ村背通水利組合區域灌漑面積三百五町餘歩に及ぶ。

【甲佐郡】九州山脈に屬する一郡。熊本縣上益城郡水越村・宮内村の二村と下益城郡東砥用村に跨り、標高七五三米。山巒秩父古生層より成り、南麓には絲川西北流す。山容美しく阿蘇の別宮たる甲佐ノ三宮の内上宮・中宮はこの山中に鎮座し、下宮は西麓宮内村にあり。北麓甲佐平は昔、社僧の坊のありし所にしていま福城寺あり。

コーザ　高座郡　神奈川縣四市十郡の一。相模國の一部にて縣の中部を占め、境川斷層谷を境として北より東北は東京府南多摩郡に、東南は鎌倉郡に接し、西は相模川（馬入川）を以て津久井・愛甲・中の三郡及び平塚市と限られ、南は相模灣に面す。東西一〇粁内外、南北約三〇粁にて、面積二九九平方粁餘を有す。大部分は洪積層より成る相模野臺地にて、北部の川尻附近にて約一五〇米の高度を有するも南するに從ひ次第に低下し、麻溝村にて約九〇米、座間町邊にて七五米、南端藤澤町の北部にて約五〇米を示す。臺地の表面は北部に於て極めて平坦なるも南するに從ひ小河川の浸蝕と斷層のため多少の起伏あり。南端は急斜面をなして藤澤町・茅ケ崎町に連なる謂ゆる湘南砂丘地帶に下る。また臺地の西端は相模川の浸蝕により成れる南北長く東西に幅狹き平地をなす。臺地上には畑地よく拓け、麥・豆類・落花生・甘藷・馬鈴薯等の產多く、また到る處桑畑分布して養蠶行はれ、繭の產は縣下第一に屬る。西部の平地には水田拓けて米の產多く、また南部の砂丘地帶には松林多くその間畑地多くして甘藷・野菜・西瓜・甜瓜等の栽培地をなす。近年南部地方には工場次第に增加し各種の工產を出し、沿海には漁利少なからず。省線東海道本線は南部を、横濱線（東神奈川・八王子間）は北部を、社線神中鐵道（横濱・厚木中新田口間）は中部を横ぎり、小田原急行鐵道（電車）の本線は中部を斜に走り、その支線江ノ島線（新原町田・片瀬江ノ島間）は中部を、相模鐵道（茅ケ崎・橋本間）は西部をそれぞれ南北に通じ、國道（東海道）は南部を、大山街道は中部をほぼ東西に通じ、その他の縣道は縱横に走り、交通の便よし。郡内、藤澤・茅ケ崎・上溝の三町の外十六ケ村に分かる。書紀天武二年紀に高倉郡見え、延喜式以後高座に作り、和名抄は太加久良と訓じ美濃・伊參・有鹿・淺見・高座・渭提・寒川・鹽田・二賀・岡本・土甘・河會・大庭の十三郷、驛家一を置く。また高座・鷹倉・田倉にも作る。戰國の頃私に鎌倉郡と併せ東郡と呼び一時郡名を失ひしが、天正年中舊に復し、爾後コーザと訓ず。後世鎌倉郡及び津久井・愛甲・大住の諸郡との郡境に多少の變化あり以て今日に至る。

コーサイ　→江西

コーザイ　香西町　香川縣香川郡の西北部に位し、高松市の西方一里に當る。東は弦打村、南は上笠居村に接し、西は下笠居村に隣し、北は風光明媚なる瀨戸内海に望み、遙に側山縣兒島郡宇野町と相對す。西に勝賀の秀峰を負ひ、東は本津川流域平野を控へて、南方遠く香川・綾歌平野に連なり、北に香西港あり。此地は足利時代には香西氏の城下として發達せし處にして、往古は笠居郷と稱し一村なりしが、明治五年三月區劃設置の際四十一區となり、同七年二月第十八大區七小區と改正（飯田・鶴市・郷東三村と聯合）、同八年九月第六大區と改正（小區故の如し）、同九年八月第一大區九小區と改正、同年九月第四大區と改正（小區故の如し）、同十一年十二月廢區置郡により一村獨立となり、同十四年一月上中下笠居村に分離、同十七年一月更に上下笠居村と聯合、二十三年一月獨立、大正四年二月十一日町村制施行により香西町と改稱す。戶數の六割は農業、一割は漁業、他は商工業に從事すれど、以前は漁業盛にして、春季鯛大網五帖、鰯瀨曳網十一帖、冬季にも中高網・地曳網の如き大網使用せられ、漁期には五百人以上の漁夫を要し、小豆島・其他より傭入るるの盛況、實に縣下第一の漁業地なりしが、近時魚族の減少と不漁とに依り衰類、現今之に代りて工業を奬勵しつつあり。重なる工業は製紙（二十萬圓）・陶器（素燒にて土管・火鉢・七輪瓶の類）（約五千圓）・漁具（六千圓）・船舶（五千圓）・畳（三千五百圓）・寒稈莚田（三千餘圓）・瓦（二千餘圓）・以（約二千圓）・金鎖（約一千圓）等なり。この他酒造は古來著しく、殊に酒造從業者の出身地として縣下第一位を占め、香西杜氏の名知られ、二百餘名の杜氏を有し、年三萬圓の收入を得つつあり。果樹の栽培も發達、蜜柑（一萬圓）・富有柿（六千圓）・林檎（三千餘圓）・葡萄（四千圓）を出す。道路はよく發達し、香西線が南部より來り町を南北に貫通の香西港に達し、生島線は東西を橫斷して町の幹線をなし、定期自動車は高松・小坂間を往來し交通便利なり。港は指定港として、既に築港も略ど完成、郡内隨一の港灣たるに堪ず。附近の產業交通の發達と共に、船舶輻輳、郡内の農產物等を取扱ふ傳讃岐諸港を始め、阪神・九州乃至は朝鮮との交通頻繁なり。〔香西港〕香西町の海岸は古來本津・釣・中須賀の三浦を含み、本津は町の東端本津川尻の地にして、本津の浦と稱し海港たりし處。釣の里は現今町の中心を占むる所に當り、古釣の濱と稱し、漁夫苫屋を鉛べし所。中須賀も古來の漁村地なれど、香西氏、綾・香川の守護となり、香西町に本拠を構へ、香西實茂は此處に軍船を浮べ、内海の海賊を平定し、沿岸諸島警衛の權を得たる事あり。斯くて香西浦は古來香川の津として東西沿岸水路は素より、備前兒島特に下津井・日比遙川邊より讃岐中部に至る間は殆る備讃の連絡通航の繁盛の津たり。今は海岸に堤立を施し、新開地・鹽田も發達し、現今の港の發達を見るに至る。現今の香西港は町を貫流する舟入川口を利用せしものにて、滿潮の際陸地深く船を入れ得べく、河の岸壁に山積せる貨物、大小幾多の船舶はこの港灣得の登龍をなし、西に芝山を控へ、防波堤を築き、近年大に浚渫を加へ、郡内隨一の港灣たるに恥ず、附近の產業交通の發展と共に、船舶輻輳し、檀紙・上笠居を始め香川郡南部の農產物ここに集り、備讃諸港を始め、東は阪神・和歌山、西は九州地方（若松・佐世保・長崎・熊本）への取引繁く、朝鮮地方（釜山）より牛の移入も主として此港による。近來町内家屋の新築改築盛に行はれ、大厦高屋漸く多く、香西港頭の面目大に改まれり。尙ほ最近には十二萬圓を投じて築港を營み、港内面積六萬七千方米、東は舊港對岸鹽田北端より一八五米、一は槃山より北に向ひて一五〇米の堤防を築き、水深干潮時一・八六米、潮位二・七六米、百五十噸級の船舶を入れ得べく、沿岸には倉庫を設け、米穀檢査所をも設け、綾歌・香川邊の米麥を取扱ふの計畫を有し、又最近耐火煉瓦工場設立の議あり、一層堤立をも營みつつあり。〔宇佐神社〕大字香西に鎭座。郷社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。後堀河天皇の嘉祿年中香西資村、豐前國宇佐神宮を香西鄕の原に勸請し產土神となすと傳ふ。後磯崎山に移し、磯崎の名を改めて厳尾八幡と稱す。正親町天皇の御代これを是竹山に移し、後陽成天皇の頃、舊地藤尾原に移す。例祭、十月二日。〔香西寺〕古義眞言宗。寶幢山と號す。同宗大覺寺末。天平十一年行基の草創に係り、天長年中空海之を中興すといふ。天慶二年勅に依りて讃岐四箇談議所の一に加へらる。天正年中兵火に罹り、慶長年中國守生駒雅樂頭近親之を再建して、高禪寺と改號す。萬治年中再び炎上す。寛文九年松平頼重現寺地に移建して現寺號に復す。木尊地藏菩薩は空海作と傳ふ。

コーサイリン　江西林　臺灣臺中州竹山郡竹山庄十八大字中の一。もと江西林庄と稱し、竹山の東北にある丘地を占め、乾隆五十二年十一月匪首林爽文を小半天山に討伐する時、將軍福康安の大營を置きし地なり。雲林縣採訪册は「江西林山は田を穿ちて突起し、勢横屏の如く、山頂坦平、四面玲瓏秀麗、山背の二峰は形獅象の如く、清澗の兩溪を俯瞰す」と其の形勝を述べ、更に「乾隆中廟中堂の林爽文の亂を平ぐる時、大營を山上に駐す。故老猶能く其の營址を道ふ」と記せり。

コーサカ　香坂　→三井村（長野縣）

コーサギ　光鬼山・光兎山　越後山脈朝日山塊に屬する一峰。新潟縣岩船郡村上町の東南方約十六粁、同郡女川村に峙つ。標高九六六米。一水發し南

西流して女川に合し、女川を南西流して荒川に落つ。北東方は西流して日本海に注ぐ門前川の發源地たり。

コーザキ　幸崎　省線日豐本線の一驛（大正三年設置）。大分縣北海部郡神崎村にあり。

コーザキ　神崎　【神崎町】千葉縣下總國香取郡の西北端。利根川の南岸に位す。佐原町の西約一〇粁にて、西は高岡村、東より南は米澤村と隣す。大部分は利根川流域の低地にて水田拓け、米・麥・繭の產あり。町の中央部は米澤村より續く低き丘陵地の北端をなす。省線成田線は町の南部を掠めて東方佐原町に通じ隣村米澤村に郡驛を置く。縣道もほぼ之に沿ふ。もとは常陸國に渡る利根川の渡津として、また銚子街道の驛次として、賑ひしも鐵道開通後衰ふ。縣社神崎神社あり。境內にナンジャモンジャと呼ぶ瓦樹あり、根廻り一三米、この地方に珍らしき樟の大木にして、水戸黃門の命名と云ひ、天然記念物に指定せらる。此地は高岡村・米澤村とともに和名抄、香取郡佐田郷の內なるべく、のち神崎郷・小松郷と稱せられし地にて、明治二十二年町村制施行の際に神崎本宿・神崎神宿・小松・並木・松崎・今・高谷の七大字を合併し、首なる大字の舊稱により神崎村と名づけ、同二十三年町制を布く。近年この地より精巧なる石器出土し、石枕・石鐘・石刀子等あり。【神崎碧址】地勢東西に延亙し長蛇形の山脈を爲し、その一部轉じて南方に突出し水田を瞰す。分けて東城・中城・西城・田向城の四區を爲す。其大部分は大字並木に屬するを以て並木城と稱す。頂上平坦の地は悉く芝地にて餘は山林たり。神崎御時及びその子御重・義胤、義胤の子景胤・胤秀等これに居る。【小松碧址】大字小松字要害にあり。いま井圍及び山林たり。空濠の跡尙存す。千葉氏の族小松爲胤及び其子佐胤等これに居る。【城氏墓】大字小松にあり。一は字殿山にあり。圓形塔石三基あり。高さ四尺、信茂・宮茂及び其室家の墓となす。一は縣道の南に沿ひし小岡上にあり宇天神山と稱し塔形相類す。之を城朝茂・維岡二世及び室家の墓となす。城氏は平維茂の裔にて源平の際長茂あり、その姪資長また武を以て北國に顯はれ、その姑板額勇猛無雙にて後利義遠の室となる。降りて天正に至り城意庵甲斐にあり、武田氏に仕へて軍謀に參し、武田氏亡滅の後、意庵の子昌茂、德川氏の臣となり、其麾下に列し、後裔采地を此地に賜ふ。【神崎神社】神崎本宿に鎭座。縣社。祭神、少彦名命・大己貴命。もと子松（或は小松）神社とも云ふ。傳說に白鳳二年、大清沼の二島より小松村宇神崎に遷祀ありとす。元慶三年從五位下に敍せらる。承平二年勅ありて社領を寄せまた社殿を修造せしめらる。天正十九年德川家康朱印二十石を寄進す。もと東大戸村の大戸神社と共に香取神宮に附屬せり。例祭、陰曆四月六日。【神宮寺】大字並木にあり。新義眞言宗智山派。妙法山と號す。本尊は阿彌陀佛。草創年代不詳。舊時は神崎神社の別當たり。寺傳に、永久三年六月二十四日神宮寺料田云々とあれば、その起原の古きことの證となすに足る。德川時代は神領中より五石の配當ありしが、明治維新後神佛分離の際寺領を失ひ、いま昔時の觀を失ふ。

【神崎村】大分縣豐後國北海部郡の北海岸。豐後水道に突出する佐賀關半島の北斜面にして別府灣に臨む。東は佐賀關町、西は坂ノ市町に隣り、南隣は白杵灣岸の佐志生村・一尺屋村に界し、面積三二・一方粁。南境に樫ノ木山脈の山嶺連なり北に傾斜し西北部に僅に沖積地あり。海岸は屈曲少なく單調なり。山地多きも氣候溫暖なれば、農を主とし、西北部低地に米の產あり。また麥を產し養蠶も行はる。特產に酒・瓦・松茸あり。國道は北部海岸に沿て東西に通じ、西は鶴崎町・大分市方面へ、東は佐賀關町に至る。省線日豐本線は西方大分市・鶴崎町を過て村の西部を南に走り、樫ノ木山嶺のトンネルを越えて白杵町方面に向ひ、西北部に幸崎驛（大正三年設置）を設け、東隣佐賀關町へ自動車の便あり。附近町村と共に製塩地帶に屬す。往古の事は以て徵すべきものなし。明治四十年七月神馬木村・大志生木村を合して神崎村と稱し以て今日に至る。いま神崎・大志生木・木佐土・大平・馬場・小志生木の五大字より成り神崎に役場を置く。【築山古墳】指定史蹟。小丘上に築れたる前方後圓形古墳にて、直徑約五十間、後圓部徑約二十五間、前方部幅約二十五間あり。後圓の東北部は八幡神社々殿造營のため多少削られたるも、二段築成の外形を見るべく此部分の高さ約三十六尺あり、封土上に樹木繁茂し東部に環堤の址存せり。後圓部頂上に大小二個の石棺南北に併存し、棺身は何れも緑泥片岩を組合せたるものにて各蓋石あり。石棺の大なるものは內法長さ約六尺七寸、幅約二尺六寸乃至二尺四寸、深さ約二尺七寸、底に板石を有す。此內より三體の人骨並に漢式鏡一面・刀・劒・鏃・斧・鋤・玉類・貝釧等多數の副葬品を發見せり。石棺の小なるものは內法約五尺九寸、幅約二尺、深さ二尺二寸、底面には砂利を敷きたり、內部より人骨一體・管玉及び貝釧を發見せり。

コーサシ　神指村　福島縣岩代國北會津郡の北部。若松市の西北に隣り、東は町北村・高野村に、西は荒井村・館ノ內村に、北は河沼郡勝常村と各隣接す。會津盆地の中央部に位し土地低平、たゞ西境を日橋川の一支大川分流をなして西北に流れ、また日橋川の一小支流は東境を大川と並行して流れ地形に變化を與ふ。地味肥沃灌漑の便多きを以て水田よく拓け米・麥を生產し蔬菜も栽培さる。西北方の坂下町（河沼郡）より若松市に至る縣道東部を貫通しバスの便あり。この地は慶長の初年、上杉景勝の會津に移封さるるに及び、その府城をこの地の大字高瀨に移さんとし、香指城を築かんと着手せしも、關ヶ原の役起り工を完うせざりしといふ。大字高久は會津藩政の頃は高久組と稱し、今の會津市の西北、神指・高野町・北の三村の地を含み、代官所をこの地に置き本組及び西方の河沼郡を支配せしめたり。

コーザト　神郷村　愛媛縣伊豫國新居郡の北東部。東は多喜濱村に、北は垣生村に、北西は高津村に、西は金子村を隔て新居濱市に、南は角野村・泉川村に界す。同郡二十九ケ村中第十四位にあたる小村。村の東及南部に一五〇米前後の丘陵あり、北に向ひ緩く傾斜す。北半は石灰質層屋根につくられたる帶狀の沖積地、新居濱平野の東端を占め、土地極めて平坦にて耕地廣し。村の八割は農業に從事し米・煙草・西瓜・甘藷等を栽培す。製鹽の盛なる多喜濱村、鐵業都市新居濱市の間にある爲、商工業活潑に行はれ交通も發達す。省線陰讃本線は丘陵の下を東西に走り、多喜濱驛をおく。縣道はこれに平行して北側を走り、多喜濱村と新居濱市をつなぐ。和名抄に新居郡新居郷あり。蓋し本村の遺を絕べしもの。いま松神子・郷の二大字よりなり、松神子に役場を置く。

コーザト　郡里村　徳島縣阿波國美馬郡の北部。東は岩倉村に、南は吉野川を隔て太田村・貞光町に、西は重清村に界し、北は香川縣香川郡安原上西村に隣す。北境に讃岐山脈の一峻峯龍王山（一〇五七米）聳え、その南側に高度五〇〇米余の連嶺續き、中央を南北に蟠居して東西兩斜面に分つ。山地の南麓には段丘發達す。山地を切りて東西の村境を流南下し、山地の端に扇狀沖積地を突出せしめ、河は水無川となり南の吉野川に注ぐ。吉野川は東西に流れ、その流域の河谷に徳島平野ひらく。水田は平野及び窄谷をなす僅かな谷地にあり、他は畑地にて桑畑・扇狀地にては蜜柑畑・桐林を作りつつあり。蜜柑の藪畑は次第に減少の傾向を辿る。吉野川に並び山麓下を東西に拖曳街道通じ、小長谷・郡里・中山路等の街村散在す。郡里は主邑をなし人家多く集まる。和名抄に美馬郡大村郷とあるは蓋し本村の地を稱せしものにや、本村は古より單立の一村にて、明治二十二年町村制施行の際も部落の分合なし。【願勝寺】眞言宗。阿波八門首中の一寺たり。寺傳にいふ、少納言入道信西の女を阿波の內侍と呼び、其母は麻植忠光の女にして、新院に仕へて寵あり。崇德院讃岐に遷り白峯に於て崩御の事あるや、內侍悲嘆のあまり發心して比丘尼となり常の冥福を祈り、大師法師の弟子となれり。寺に役場を置く。

コーザキ　幸崎　省線日豐本線の一驛（大正三年設置）。大分縣北海部郡神崎村にあり。

コーザキ　神崎　【神崎町】千葉縣下總國香取郡の西北端。利根川の南岸に位す。佐原町の西約一〇粁にて、西は高岡村、東より南は米澤村と隣す。大部分は利根川流域の低地にて水田拓け、米・麥・繭の產あり。町の中央部は米澤村より續く低き丘陵地の北端をなす。省線成田線は町の南部を掠めて東方佐原町に通じ隣村米澤村に郡驛を置く。縣道もほぼ之に沿ふ。もとは常陸國に渡る利根川の渡津として、また銚子街道の驛次として、賑ひしも鐵道開通後衰ふ。縣社神崎神社あり。境內にナンジャモンジャと呼ぶ瓦樹あり、根廻り一三米、この地方に珍らしき樟の大木にして、水戸黃門の命名と云ひ、天然記念物に指定せらる。此地は高岡村・米澤村とともに和名抄、香取郡佐田郷の內なるべく、のち神崎郷・小松郷と稱せられし地にて、明治二十二年町村制施行の際に神崎本宿・神崎神宿・小松・並木・松崎・今・高谷の七大字を合併し、首なる大字の舊稱により神崎村と名づけ、同二十三年町制を布く。近年この地より精巧なる石器出土し、石枕・石鐘・石刀子等あり。【神崎碧址】地勢東西に延亙し長蛇形の山脈を爲し、その一部轉じて南方に突出し水田を瞰す。分けて東城・中城・西城・田向城の四區を爲す。其大部分は大字並木に屬するを以て並木城と稱す。頂上平坦の地は悉く芝地にて餘は山林たり。神崎御時及びその子御重・義胤、義胤の子景胤・胤秀等これに居る。【小松碧址】大字小松字要害にあり。いま井圍及び山林たり。空濠の跡尙存す。千葉氏の族小松爲胤及び其子佐胤等これに居る。【城氏墓】大字小松にあり。一は字殿山にあり。圓形塔石三基あり。高さ四尺、信茂・宮茂及び其室家の墓となす。一は縣道の南に沿ひし小岡上にあり宇天神山と稱し塔形相類す。之を城朝茂・維岡二世及び室家の墓となす。城氏は平維茂の裔にて源平の際長茂あり、その姪資長また武を以て北國に顯はれ、その姑板額勇猛無雙にて後利義遠の室となる。降りて天正に至り城意庵甲斐にあり、武田氏に仕へて軍謀に參し、武田氏亡滅の後、意庵の子昌茂、德川氏の臣となり、其麾下に列し、後裔采地を此地に賜ふ。【神崎神社】神崎本宿に鎭座。縣社。祭神、少彦名命・大己貴命。もと子松（或は小松）神社とも云ふ。傳說に白鳳二年、大清沼の二島より小松村宇神崎に遷祀ありとす。元慶三年從五位下に敍せらる。承平二年勅ありて社領を寄せまた社殿を修造せしめらる。天正十九年德川家康朱印二十石を寄進す。もと東大戸村の大戸神社と共に香取神宮に附屬せり。例祭、陰曆四月六日。【神宮寺】大字並木にあり。新義眞言宗智山派。妙法山と號す。本尊は阿彌陀佛。草創年代不詳。舊時は神崎神社の別當たり。寺傳に、永久三年六月二十四日神宮寺料田云々とあれば、その起原の古きことの證となすに足る。德川時代は神領中より五石の配當ありしが、明治維新後神佛分離の際寺領を失ひ、いま昔時の觀を失ふ。

【神崎村】大分縣豐後國北海部郡の北海岸。豐後水道に突出する佐賀關半島の北斜面にして別府灣に臨む。東は佐賀關町、西は坂ノ市町に隣り、南隣は白杵灣岸の佐志生村・一尺屋村に界し、面積三二・一方粁。南境に樫ノ木山脈の山嶺連なり北に傾斜し西北部に僅に沖積地あり。海岸は屈曲少なく單調なり。山地多きも氣候溫暖なれば、農を主とし、西北部低地に米の產あり。また麥を產し養蠶も行はる。特產に酒・瓦・松茸あり。國道は北部海岸に沿て東西に通じ、西は鶴崎町・大分市方面へ、東は佐賀關町に至る。省線日豐本線は西方大分市・鶴崎町を過て村の西部を南に走り、樫ノ木山嶺のトンネルを越えて白杵町方面に向ひ、西北部に幸崎驛（大正三年設置）を設け、東隣佐賀關町へ自動車の便あり。附近町村と共に製塩地帶に屬す。往古の事は以て徵すべきものなし。明治四十年七月神馬木村・大志生木村を合して神崎村と稱し以て今日に至る。いま神崎・大志生木・木佐土・大平・馬場・小志生木の五大字より成り神崎に役場を置く。【築山古墳】指定史蹟。小丘上に築れたる前方後圓形古墳にて、直徑約五十間、後圓部徑約二十五間、前方部幅約二十五間あり。後圓の東北部は八幡神社々殿造營のため多少削られたるも、二段築成の外形を見るべく此部分の高さ約三十六尺あり、封土上に樹木繁茂し東部に環堤の址存せり。後圓部頂上に大小二個の石棺南北に併存し、棺身は何れも緑泥片岩を組合せたるものにて各蓋石あり。石棺の大なるものは內法長さ約六尺七寸、幅約二尺六寸乃至二尺四寸、深さ約二尺七寸、底に板石を有す。此內より三體の人骨並に漢式鏡一面・刀・劒・鏃・斧・鋤・玉類・貝釧等多數の副葬品を發見せり。石棺の小なるものは內法約五尺九寸、幅約二尺、深さ二尺二寸、底面には砂利を敷きたり、內部より人骨一體・管玉及び貝釧を發見せり。

コーサシ　神指村　福島縣岩代國北會津郡の北部。若松市の西北に隣り、東は町北村・高野村に、西は荒井村・館ノ內村に、北は河沼郡勝常村と各隣接す。會津盆地の中央部に位し土地低平、たゞ西境を日橋川の一支大川分流をなして西北に流れ、また日橋川の一小支流は東境を大川と並行して流れ地形に變化を與ふ。地味肥沃灌漑の便多きを以て水田よく拓け米・麥を生產し蔬菜も栽培さる。西北方の坂下町（河沼郡）より若松市に至る縣道東部を貫通しバスの便あり。この地は慶長の初年、上杉景勝の會津に移封さるるに及び、その府城をこの地の大字高瀨に移さんとし、香指城を築かんと着手せしも、關ヶ原の役起り工を完うせざりしといふ。大字高久は會津藩政の頃は高久組と稱し、今の會津市の西北、神指・高野町・北の三村の地を含み、代官所をこの地に置き本組及び西方の河沼郡を支配せしめたり。

コーザト　神郷村　愛媛縣伊豫國新居郡の北東部。東は多喜濱村に、北は垣生村に、北西は高津村に、西は金子村を隔て新居濱市に、南は角野村・泉川村に界す。同郡二十九ケ村中第十四位にあたる小村。村の東及南部に一五〇米前後の丘陵あり、北に向ひ緩く傾斜す。北半は石灰質層屋根につくられたる帶狀の沖積地、新居濱平野の東端を占め、土地極めて平坦にて耕地廣し。村の八割は農業に從事し米・煙草・西瓜・甘藷等を栽培す。製鹽の盛なる多喜濱村、鐵業都市新居濱市の間にある爲、商工業活潑に行はれ交通も發達す。省線陰讃本線は丘陵の下を東西に走り、多喜濱驛をおく。縣道はこれに平行して北側を走り、多喜濱村と新居濱市をつなぐ。和名抄に新居郡新居郷あり。蓋し本村の遺を絕べしもの。いま松神子・郷の二大字よりなり、松神子に役場を置く。

コーザワ　金澤村　岩手縣陸中國上閉伊郡の北東隅、大槌・小槌二川上流の山谷にて、南は大槌町に隣り、東・北・西三方は下閉伊郡の釜間根・小國二村によりて圍まる。東北境上には高瀧森（一一六〇米）連亙し、水呑場山・烏古ノ森・山田ノ森等、八—九〇〇米の諸峯を起し、西境にも紗澤山（一一〇三米）・長者森（一〇一一米）・白見山（一一一七米）等連り、また中部にも小槌山・駒ケ森等の山脈東南に延び、東谷には大槌川、西谷には小槌川東南流し、聚落この二川の谷に沿ひて點在す。農產に稗・粟等の產あるも、牛の飼育・養蠶・木炭製造等を主業とす。もと阿曾沼氏の家臣大槌氏の所領、のち南部領となり、金山の發見さるるや移民次第に增加し、現在の金澤村の基をなす。村內至る所に舊金山の坑口の殘存するを見る。藩政時代は當地の金山は落の財政を助くる事大なりしも、いまは全く衰滅す。

コーサン　公山面　朝鮮慶尙北道達城郡の東北端。大邱府の北東約八粁にあり、東は永川郡清通面及び慶山郡河陽面、北は永川郡新寧面及び軍威郡伯溪

面、西は漆谷郡東明面及び城北面、南は鷺項面に各相隣接す。八公山（一一九二米）東北境に聳え、東境には印峰（八〇一米）・瑞城山（八〇〇米）、西境には道德山（六六〇米）・巖盤山（五〇七米）等聳立し、之等の間隙山地に發源せる門岩川（琴湖江支流）中央を西流し、其の沿岸に稍低地を見る。住民素朴にして農を主とし、蠶業も近年副業として盛大になりつつあり。產物に米・粟・大豆・煙草・麻・等あり。また金・銅鑛等もありて往靈を認く。道路は何れも等外路線にして交通便ならず。面事務所を中央の米谷洞に置く。〔桐華寺〕八公山中に在り、三十一本山の一なり。新羅炤智王十五年（仁賢天皇六年）の開創なりと云ふ。同興德王の七年（天長九年）に至り、曾、心地これを重修す。時は恰も嚴冬にて雪裡に桐華ひらく。仍りて舊名瑜伽寺を桐華寺と改むと。境内約四〇〇（クタール、古林鬱密の間十五棟の伽藍—大雄殿・金堂・毘盧殿・浮屠庵・内隱庵・念佛庵等あり。毘盧殿なる毘盧舍那佛の石像及三重石塔等は當代技術の代表的作物として珍重すべく、その他諸琉瑠物にもまた鑑賞の價値あるもの多きが上に、その圖境は以て心目を洗ふに足るべく、殊に秋色の美を以て名あり。

【公山面】朝鮮全羅南道羅州郡の西南部。東は潭南面及び旺谷面に、北は榮山江を隔てて、多侍面及び成平郡碧橋面に、西は洞江面に各相隣接す。境邊には一五〇米前後の丘陵起伏すれど、概して土地平坦にして西南部には王洞の湖沼あり。氣候は朝鮮半島中最も良好なる地方に屬し溫和にして三寒四溫の現象顯著ならず。住民は農業を主とし蠶業を行ふ者少なからず。產物は米・大麥を主なるものとし、豆類・棉花・竹細工等の移產あり。道路は等外道路にして車を通ずるものは、鐵道洞南綠鶴橋驛に通ずるのみ。面事務所は今谷里に置く。その他部落の主なるものは鶴龍里・上方里・花城里・東村里・佳松里・中浦里等あり。

コーサン　光山郡（くわうさんぐん）　朝鮮全羅南道の西北部。東北は潭陽、西北は長城、東南は和順、西南は羅州の各郡にそれ〴〵相隣接す。小白山脈の南端延びて東半部は山地をなし東南部に於て最も高く、無等山（一一八七米）聳ゆ。西半部は概ね低平なり。榮山江の上流綿樂江及び黃龍江の本支流郡内を縱橫に走り、その流域概ね拓け、西南部は羅州平野に接し廣漠たる平野をなし、灌漑の便よく地味肥沃なり。農業盛に行はれ、米を主產し、麥・大豆・小豆・棉花・麻等の產また少からず。總督府鐵道湖南本線は郡の西部を南北に縱走して林谷・松汀里の二驛を設け、松汀里驛よりは慶全西部線を分ち、光州府を經て南海岸の順天・麗水に通じ、綿樂江・靈岩・全南光州・新光州・碧橋・孝泉の諸驛を設け、更に全南光州驛より光州線を分ち、北方潭陽に通じ、此線には望月驛設けらる。道路は光州を中心として一、二等道路の發するもの五線、また松汀里も郡西部に於ける交通の中心をなし、郡内交通の便極めてよし。行政上、松汀邑及び綿樂・瑞泰・石谷・孝澤・西倉・大村・東谷・河南・飛鷺・芝山・林谷の十一面に分ち、孤島を光州府に置く。光州府は全羅南道道政の中心をなし、商工業盛に、また諸學校設けられ、道内に於て木浦に次ぐ大都なり、無等山は一に瑞石山と稱し、朝鮮八景の一に數へられ、立石・廣石臺・風穴臺等の奇勝あり、中腹に無等ノ禮を懸け、山麓には證心寺の古刹あり。本郡の地は往古武州と號し楓堂玉を稱し、のち百濟を起すや一時王城を光州に置き、全半島を睥睨す。郡の地域はその後變遷推移常なかりしが、李朝の末葉にありては四十一面、四百三十四洞里の多きに分れ、大正三年に至り四隣各郡と共にその境界を整理し十五箇面となり、のち昭和七年、面の廢合により一邑十三面となし、同十年十月光州府の設けらるゝや光州郡と改めて光山郡となし、孝池面外十一面となし、次で昭和十二年六月松汀面を邑に昇格せしめて今日に至る。

コーサン　黃山面（くわうさんめん）　朝鮮全羅南道海南郡の西南部。郡管内一三面中の一。東は海南面及び馬山面に、北は山二面、西は門内面、南は黃山灣に面す。城内類する低平にて半島狀をなし、北及び南の兩面は入江に面し淺瀨相連なり、西部の玉洞河附近に於ては鹽田としての利用を見る。住民は農業または漁業に從事し、傍ら蠶業を行ふ者極めて多し。產物は米・麥・大豆・棉花等にして海產物に食鹽・鰻・鰯等あり。二等道路は東方海南邑より來り城内を橫斷、西方右水營に流し乘合自動車の便あり。面政の中心は市廳にて面の略中央に位置し街道に沿ひ、鰲蔡琴、陰曆三・八の日に開く市場あり。穀類・海產物・日用品の取引行はれ、海南邑及び右水營間唯一の市場として活氣を呈す。

コーサン　鴻山面（こうさんめん）　朝鮮忠淸南道扶餘郡の西端。東は南面及び九龍面、北は內山面に、西は保寧郡の嶺山面、南は玉山面に各相隣接す。西北境に近く月明山（五四四米）聳え、山脚二方に分れて東北境及び西南境を劃し、中央低く且つ東南に向ひ傾斜す。產物には米・大豆・白菜等を產し、副業として近時養蠶・養豚・養鷄を營むもの增加する傾向あり。面邑鴻山は南部低地の略中央に位し道路網は此地を核として東は扶餘、東南は館川、東南方は韓山邑、北は鷲浦に各二等道路を通じ、其他の等外道路も此地を起點として、面内に放射狀に通じ交通頗る便なり。鴻山は舊鴻山郡廳の所在地にて、恩賜授產傳習所・郵便所・金融組合・小學校等あり、また紀元二・七の日に開市

も見る鴻山市場は、附近に於ては扶餘に次ぎ活況を呈す。

コーザン　甲山（かふさん）

【甲山町】慶尚南道後國世羅郡の南部。三原市の眞北に當る。町は吉備臺地の西端にあり、南方の宇根山（六九九米）、北方の新山（六三五米）の間の苔田川上流の盆地に開かれたる都邑。附近一帶は水田良く拓け、また蘭草の栽培もなし桑表の產あり。町は蓋野山城址を中心とし川の兩岸に發達し、物貨集散の中心地をなし交通路四方に通ず、尾道市・三原市・三次町（雙三郡）に縣道通じ、また上下町（甲奴郡）より庄原町（比婆郡）に村道通ず。此地或は和名抄、世世羅桑原郷の内に屬せしものか。鎌國の頃、上原元祐ここに居り毛利元就に屬し、其女婿となりて城を當國に振ふ。町内に其址ありて高野山城といふ。もと郡役所の所在地にして明治三十一年町制を布く。いま西上原・甲山・小世良の三大字より成り西上原に役場を置く。〔觀音堂〕甲山にあり。宗派草創沿革等不詳。聚安の十一面觀音立像二軀（國寶）は木造、藤原初期の作にて、一軀は高五尺九寸、他は五尺四寸。後者は一木造の背部に背刳を施し、像内に延寿逆寿十枚を藏めたり。

【甲山郡】朝鮮咸鏡南道の東北部。道管内二府十六郡の一。東及び東北は咸鏡北道茂山郡に接し、西北は鴨綠江上流を距て滿洲國と相對し、西は三水郡に、南は豐山郡に、東南の一部は鏡川郡に夫々相隣接す。東境に白頭山脈の東南支、長く連亙し、北端に朝鮮半島の主峰白頭山（二七四四米）雲表に聳え、東南境には赴戰嶺山脈の東西に走るあり、域内略ど山地にして、謂ゆる叢馬高臺の主要部を占む。河川は白頭山に發する鴨綠江本流北境を蜿蜒と流れ、其他の諸川も多く西流して鴨綠江に合流す。甲山に於ては標高約八〇〇米なるも、その他は海拔透に高き爲め氣溫甚だ冷く、年平均二・五度、冬季三箇月は何れも零下一七度以下、最低は零下四〇・一度となり、最高の八月に於ても平均二〇度に達せず。地形氣候の關係上米產は殆どなく、燕麥と馬鈴薯を主とし、他に大麥・粟・蕎麥等を產す。馬鈴薯は小兒の頭大のものも珍らしからず、燕麥は玄武岩の雪爾地に殊によく生ず。これ等は何れも住民の常食たり。畜產は牛最も多く一萬七千頭にて道内の首位にあり。城内には產林多く、謂ゆる鴨綠江材はこの地方より伐り出され、惠山鎭に蒐められる。郡の東南隅天火嶺に近き鎭東面鎭店には有名なる甲山鎭山あり、一時盛に採掘製鍊を行ひしが目下は休業す。工業はやや見るべきものあり、木材加工品・銅鑄・陶磁器等を產す。交通は二等道路西南部及び北部を通ね、三等道路中央を東西に走りて咸鏡北道内と連絡し、自動車を通ずるも概して便ならず。鐵道は咸鏡本線、吉州驛より惠山線岐れて西北走し本郡内に入り、慶下・南中・生長を經て中東部の鳳頭里に達し、近く惠山鎭まで完逕せんとす。郡邑の主なるものに甲山・及び惠山鎭あり。行政上惠山邑及び長平・山南・鎭東・會麟・同仁・雲興・普天の七面に分ち、郡廳を長平面東部里に置く。甲山の地は高麗の初より女眞族ここに據り、西女眞と稱し、甲山附近を恤品路と稱し、次で迎賓と改稱す。元來に及び高麗に編入せられ、恭讓王二年初めて甲山萬戶を置く。李朝の初め慶川縣監をおき、のち甲山郡守、兵馬節馬使都護府に順次陞し、孝宗朝に至り府使は左營將を兼ね、鎭東・同仁・雲嶺・惠山の四鎭堡及び現鏡川郡内黃土岐・雙青の兩堡を領す。のち變改あり、建陽の改革に甲山府を置きしも翌年廢して甲山郡となす。大正三年天南・里仁・鵲耳三面を割きて豐山郡に讓り、今日に至る。女眞城址は長平面南部長平山上にあり、女眞都統時代の築城にかかり今僅かに舊容を遺す。諸堡のうち鎭東堡は長も古く約五百四十年前の設置にかかり、鎭東面にその址あり。往時權官或は萬戶を置きしが、明治十五年廢し惠山鎭に移らしむ。同仁堡及び雲嶺堡は何れも二百數十年前の創設にして、權官を置き、兵鼎の割據を講ぜしめ、同仁堡はのち普天堡に移轉さる。

コーザン　香山庄（かうさんしやう）　臺灣新竹州新竹郡七庄の一、北は新竹市、南は竹南庄、東は竹東郡に接し、西は海に臨み盛方の丘陵は海に迫り平地僅少なるも產業多し。面積三・五八四方里、人口五千三百八十四。農產は米四十五萬八千四百八十五圓を最高に、甘藷九萬一千五百九十二圓、柑橘一萬三千四百十一圓、以下蔬菜・落花生・西瓜等にて合計六十二萬七百七十五圓に達す。畜產は肉豚の十二萬六千七百八十九圓を始め家禽・牛等二十四萬五千八百一圓。林產は東方山地に於て木炭・薪材等三萬二千餘圓にして、海に臨む本庄の水產方面は、海岸一帶面積六十餘町歩に明治三十七年、臺南方面より牡蠣の種苗を購入して養殖場を設け、現在年產一萬五千餘圓に達し、香山蠣の名高し。沿岸漁業はイワシ・鰹等一萬八千七百七十二圓、柔魚は一萬六千五百六十五圓にして、煮干鰹等の水產製造品は一萬二千五百五十圓とす。本庄は青草湖、牛埔・香山坑・茄苳溪・香山・海山署・鹽水港・南隘・楊寮・虎子山・淺水の十一字に分たれ、海岸近くの平地は縱貫鐵道及び縱貫道路を以て鐵道・自動車の便多く、殊に新竹市と近接せるは其產業上の位置を有利ならしむ。公學校一、普學率一五%、その他國語講習所・國語練習所・公民講習所等により、國語の普及狀況は一四%とす。香山庄役場は牛埔に在り。〔香山港〕海山署・鹽水港廳字に圍まれ狹く鹽水港溪の河口たりし地點に北側に井水港、南側に鹽水港を控へ

その外口を香山港と稱し、清道光年間には、對岸鴨綠との往來商船の避難港として、五百石の支那船を容れ得たるも、海岸絶めて遠淺にして、同治年間より益々港口の砂礫の沖積甚しく、全く魚舟・小船の寄泊に便ずるに止り、また市街絶めて寥々たりしと云ふ。

コーザン　高山（かうざん）

【高山】朝鮮總督府鐵道局京元線の一驛（大正二年設置）。朝鮮咸鏡南道安邊郡衙益面にあり。

【高山面】朝鮮咸鏡南道定平郡の北西部。郡内第一の大面にして南北四〇粁、東西一五乃至二〇粁の境域を有す。東は廣德・府内・朱伊の諸面及び咸州郡の川西面・下朝陽面及び下岐川面の六面に接し、北は平安南道寧遠郡大興面に、西は同新城面及び咸鏡南道永興郡宣興面、南は長原面に各相隣接す。西境には狼林山脈に屬する遮日峰（一七三四米）を始め白山（一六三七米）・香爐峰（一六〇〇米）・潤水山（一七四七米）・絶嶺峰（一〇五三米）等の高峰相連なり、北東及び東境には黄峰（一七六三米）・白雪山（一〇七八米）・皇德山（七〇九米）・萬年山（八五八米）道成山（六四三米）等、相聳立し東・西・北の三面山地を以て劃し、之等山地に發源せる諸水は中央に集りて錦津川と成り南流しのち日本海に朝す。錦津江沿岸に稍稍地を見る。産物は米・大豆・小豆・粟・麻等にして畜牛の産出少なからず。道路は東方地境邑の咸南興上驛より二等道路を通じ面の北部を縱走し西方新安州に通ずるものを除きては道路の改修行はれず交通不便なり。面邑新豐里は略中央錦津川の右岸に位し、また家落の大部分はこの沿岸地帶に分布す。その主なるものを上流より擧ぐれば、平床洞・豐松里・鳳浦里・新成里・新京里・豐陽里・高陽里・興川里等あり。

【高山面】朝鮮平安北道江界郡の西端。東は漁雷・時中の兩面に、北は文玉面に隣接し、北西及び西は鴨綠江を距てて滿洲國に相對し、南は渭原郡鳳山面に相隣接す。蓋馬高臺の西北隅に當り城内玄武岩の山地を以て被ひ、西北部の鴨綠江沿岸に稍廣き低地を見る。耕地は多く傾斜地を利用し、粟・大豆等を栽培するに過ぎず。大豆は郡中第一位にあり。陸路の京義線新安州驛より分岐せる滿鮮線は寧遠・熙川を經て雲松・前川に達し、前川驛より和昌・渭松を經て面内に達する二等道路には、自動車を通ずるも峻阪多く便ならず。其他、面邑高山鎮よりは上流滿浦鎮及び東方江界に自動車を通ずる二等道路の改修を見たるも交通便ならず。面邑高山鎮は鴨綠江に臨み郵便所・警察官駐在所等あり。

【高山面】朝鮮黄海道海州郡の西北部。東は席洞面に、北は獵栗面に、西は壯谷面・月線面に、南は茄佐面に各隣接す。北境に望嶽山（三五六米）・創峰山（三二五米）の山嶺東西に連り、西境にも山脈延びて二〇〇米内外の山地となり東西の分水嶺をなす。山地は概して東南に傾き東境を石潭川東南に流れ、流域に僅に低地あり特地拓く。産物には米・麥・豆・棉・大麻等あり。東南の海州邑に至る三等道路は東北部を掠め、等外道路は東部を南北に、また之より分れ西北の獵栗面に至る街道は中部を走る。面事務所は東南部の原坪里に置く。東北部石潭里に堰谷先生の遺蹟あり、碩學堰谷陸柄の地にして、地方人を集め教育したる所。

【高山面】朝鮮全羅北道完州郡の北部。管内一六面中の一。全州府の北方約一五粁にあり。東は所陽面及び高山面、北は飛鳳面、西は鳳東面、南は龍進面の諸面に各接す。南境に西方山（六一二米）聳立し、山脚その南半部を占め山地帶を成せども中央部は萬頃江、西南流して全州平野の一部を成し、沿岸地味肥沃且つ灌漑の便に富み重要なる農業地帶の一部を形成す。産物は米を第一とし、果實・野菜の栽培も行はれ、果實中全州梨は市場聲價高く内地にも移出せらる。その他花・竹細工品等あり。鐵道慶全線全州驛より二等道路を通じ乘合自動車を連絡し、交通便なり。面邑高山は東北境の萬頃江左岸に位置し、警察官駐在所・陰暦四、九の日に開かるる日用品穀類市場あり。

コーザンコク　高山國（こうさんこく）→

コーシ　孝子（こうし）

朝鮮總督府鐵道局東海中部線の一驛（大正七年設置）朝鮮慶尚北道迎日郡延日面にあり。

コーシ　口耳面（こうじ）

朝鮮黄海道金川郡の中央より稍東南。東は合瀦面、北は西泉面及び左面、西は白馬面及び縣内面に、南は京畿道長湍郡大南面に各相隣接す。東南境に秀龍山聳え、軍長山（三五六米）西境に對立す。而して南半部に山岳重疊し漸次北方に低落し、九龍江の諸支流何れも北流し、北半部は稍低平なり。住民は農を本業とし傍ら採薪に從事す、また家畜及び柞蠶飼育も行はる。産物は大豆を主とし雜穀・薪炭及び人蔘等之に亞ぐ、二等道路、西南金川邑より來つて西北部を通過し市邊里に達するも、沿線の外は交通便ならず。面事務所を安德里に置く。

コーシ　光時面（こうじめん）

朝鮮忠清南道禮山郡の南端。東は青陽郡雲谷面及び新陽面に、北は大興面、西は洪城郡金馬・洪東の兩面に、南は同長谷面及び青陽郡飛鳳面に各相隣接す。東西兩境に地巒山地、中央に地清低地の三帶南北に併行して排列し、遠く南方の保寧に達す。中央低地は地味肥沃にて灌漑の便に富み、氣候温和にて農業に適す。産物は米を最とし、大豆及び特用作物たる麻・苧麻・煙草の栽培盛なり。大興・大川間の二等道路中央低地を南北に縱貫し、道路網の地勢構造と見事に一致をなす。面邑光明里は中央低地の西部に位置し、警察官駐在所。陰暦二・七の日に開かるる市場ありて、農産物・豆牛・日用品の取引行はる。

コージ　厚峙嶺（こうち）

朝鮮咸鏡南道にあり。北青郡泥谷面と豐山郡安山面に跨る。最高點一三三五米。

ゴーシ　合志（ごうし）

→合志（郡）

【合志村】熊本縣肥後國菊池郡の西南部。阿蘇山麓と熊本平野との漸移地帶に位し、熊本市の東北約一四粁。北は渭水村、西は西合志村、南は原水村、東は護川村と界す。東部は阿蘇山麓西端を占め一二〇—一三〇米程度の豪地をなし、西南方に緩めて緩く傾斜し、西半は五〇—六〇米の高さを示し、所々に緩き豪地波狀に起伏す。全村、肥沃たる黑石豪の洪積層（阿蘇山より氾濫せる物質より成り上部は黑色の土壌、次で赤褐色クローム、其下は浮石層）より成る透水層の一部を占め、概して水利惡く多くは畑地をなす。又牧馬地と森林地廣し。西境に接して隣村を熊本・隈府間の縣道通じ、それと並行し肥後菊池電氣軌道走り、南隣原水村には東西に走る豐肥本線の三里木驛（南約三粁）あり。此地は和名抄、合志郡合志郷の地ならん。大字竹迫に竹迫城（一に合志城）址あり。國志に據れば齊院次官中原親能の四男大膳大夫兼攝津守領員建久年中當國合郡地頭職を賜はり、竹迫の城を築く。領員は即ち合志竹迫氏の始祖なり。其子孫代々饗倉幕府に仕へ、また北條氏に從ひ後に菊池氏に屬す。竹迫日向守重種の時菊池家衰ふるに及び豐後大友家に降り漸く合志半郡の地頭職となる。其子正種、其子忠種、其子駿河守久種等相續き半郡の地頭職として竹迫城に居せしが永正大永の頃久種、大友義鑑に近仕して終に豐後國に移る。初め竹迫日向守重雄大友家に降れる時に當り、近江源氏佐々木四郎左衛門尉長綱、大友氏の裁許に依りて當國に下向し、合志半郡の地頭職となりしが、長綱より十二代の孫、合志伊勢守隆岑の時、永正中竹迫城に移り、相續きてここに居す。伊勢守親匡の時、天正十三年閏九月薩州島津の都將、新納武蔵守忠元、竹迫城を攻略し合志氏亡ぶ。また明治十三年西南ノ役の際官軍の陣せし地なり。

ゴーシ　剛志村（ごうし）

群馬縣上野國佐波郡の東南部。伊勢崎町の東南四粁に位す。北は柔女村、東は境町、南は烏村、西は豐受村に隣し、西北は伊勢崎町との間に茂呂村を挾む。南隣烏村を隔てゝ利根川に近く、村内を支流柏川南流し、村内全部平地なるも水田畑どなく、全部桑畑なり。武線東武鐵道伊勢崎線は村の東北をかすめ、北端に剛志驛（明治四十三年設置）を置く。本村は和名抄、佐位郡雀部郷の内なるべく、いま保泉・上武士・下武士・小此木・中島の五大字より成る。保泉は往昔、元明天皇の和銅年間、穀積親王御駐蹕の地たりしに因み命名せるものにて、天正の頃より保泉の字を用ふ。武士は竹石又は武石とも書きたりしを頼朝の臣、安達景盛が上野の守護たりし時この地に於て武を練りたるに因り武士と改めたりと。慶長年間上下の二箇村に分る。小此木は稱德天皇の天平・神護の頃は朝日の里と稱し、剃根の水傳に在りて芝草のみなりしに因り始め小芝村と呼び、樹木生ずるに及び小柴村の名起り。のち柴の字を割きて小此木村と稱す。元亀・天正の頃に能登の人小柴左衛門長光が小柴桑を築き此處に居住す。のち小此木・中島・假宿（境）・島の四ケ村に分る。以上各村は慶長六年に稻垣氏の采邑となり、同八年榊原領となり、延寶九年以後は伊勢崎領となりて明治維新に及ぶ。同二年伊勢崎藩の所轄となり、同四年群馬縣に屬し、同六年熊谷縣となり、同九年再び群馬縣に歸す。同二十二年、五ヶ村を合して一村とし剛志村と名附け、境・島は各獨立し一町村となる。

【城山】大字上武士の南端柏川と廣瀬川の合流する北岸に一丘陵あり、城山または館の山ともいふ。天正年間、根岸三河守繁道の館を置きし所なりと傳ふ。この附近一帶に古墳の多きと、武士・保泉に陣場等の名所あるとにより碓氷親王の駐御あらせられし古跡とも傳ふ。村内古墳の群集著しく、しかも埴輪の埋置盛んなりしものなるべく、いまなほ多くの埴輪の發掘あり。殊に天神塚と呼ばるる前方後圓墳よりは、樂人等の埴輪を出土せしを以て知らる。

〔能満寺〕大字上武士にあり。新義眞言宗豐山派。本尊虚空藏菩薩は行基の作なりと傳へ、長和元年の創立に係り、法師快尊、下野國足利郡小俣町鶏足寺より法流を分もて能萬寺と號せり。文化三年火災にかゝり、堂宇・寶物・記錄悉く烏有に歸す。現今の堂宇は文政四年法印榮鐸の再建せるもの往時は本末二十餘寺ありしが現在十三箇寺を有す。

〔醫王院〕大字小此木にあり。新義眞言宗豐山派。寛晴文山と號す。本尊薬師如來。開基は獨鈷日圓大和尚、開山は宗順法印たり。もと醍醐三寶院に屬せしが、元禄三年領主小此木長光の願所となり、慶長三年南昌法印これを再興し以來新義眞言宗豐山派に改む。文政十一年火災に罹り堂宇燒失す、現堂は嘉永六年紹明法印の再建に係る。

〔法光寺〕大字下武士にあり、眞言宗豐山派。瑠璃光山藥王院と號す。本尊藥師如來は傳恵僧都作。大同四年大和國の人法光、空海に從ひ此地に來り獨り停りて一宇を建立し、自ら法光庵と稱し持佛藥師の尊像を勸請して國家の太平を祈る。獨後幾星霜修驗者の住して玉藏成就の願願所となりしことあるも快尊和尚、能萬寺を開き老後、法光庵に隱居するに及び法光寺と改稱し、瑠璃光山藥王院と號

す。爾後屢々火災に罹り貴物は悉く烏有に歸す。明治三十九年再建す。

コーシエングチ 甲子園口 ［こうしえんぐち］ 省線東海道本線の一驛（昭和九年設置）兵庫縣武庫郡瓦木村にあり。甲子園は鳴尾村の地籍に屬す。

コーシケン 溝子墘 ［こうしけん］ ［溝子墘］ →沙山庄（臺灣臺中州北斗郡）［溝子墘］ →麻豆街（臺灣臺南州曾文郡）

コーシケン 港仔墘庄 ［こうしけんしょう］ 臺灣高雄州鳳山郡小港庄の一大字たる小港の舊名。大正九年地方制度改正に伴ひ小港と改稱せらる。

コーシスイ 江子翠 ［こうしすい］ 臺灣鐵道縱貫線の一驛。臺北州海山郡板橋街にあり。ガソリン機動車の停車場なり。

コーシトー 港子頭 ［こうしとう］ 六甲庄（臺灣臺南州曾文郡）

コーシナイ 巷子內 ［こうしない］ 林邊庄（臺灣高雄州東港郡）

コーシナン 蛤仔難 ［こうしなん］ 臺灣臺北州の宜蘭の舊名。宜蘭平野を占居せる平埔蕃はカゲランと呼ばれたるを以て此附近一帶をも此名稱を以てし、その名稱の史料に現れたるは一六三〇年代西班牙宣教師の手記中に Kibanuran とあるを最初とし、清領後は此に漢音を附して明末に臺灣に流寓せる沈文光の文開文集載する所の平臺灣序に蛤仔難と書せるに次で康熙年間には郁永河・黃叔璥等の著書に出づ。その譯字には葛雅蘭・蛤仔蘭・甲子蘭等種々あるも、皆同一語音を寫せるものとす。清嘉慶十六年現在の宜蘭・礁東・猴洗三郡の地に一廳を設けて正式に範圍に收めたる時に、蛤仔難を噶瑪蘭に改め、光緒元年更に宜蘭と全く名稱を一變せり。宜は佳字にして、蘭の一字に蛤仔難の俤を殘せるもの。

コーシビ 港子尾 ［こうしび］ →安定庄（臺灣臺南州新化郡）

コージマ 幸島 ［こうじま］ 【幸島村】 茨城縣下總國猿島郡の北隅。古河町の東約十粁にあり。西は岡郷村、南は櫻井村・八俣村、東は結城郡江川村・名崎村と隣す。關東平野内にありて村内全部平地なり。利根川は村の南方約十粁の所を東南に向ひて流れ、村の東境にはその支流飯沼川南流す。村の中央にも小流あり。これに沿ひて水田あり。其他は畑多く所々林を交ふ。米・麥・蔴・茶を產す。古河町及び南方境町より縣道來り、北方結城町（結城郡、約十二粁）東方下妻町（筑壁郡約十三粁）に通ず。和名抄に猨島郡八俣郷あり。八俣村・逆井山村と共に其地域とす。結城街道の一驛次にして、古く古河公方成氏の旗下箱禮信濃守の據りし地とす。いま大字諸川に殘る御川城址これなり。諸川は始め御河と稱せしをのち室川に轉じ、更に諸川に作るに至りしもの。明治戊辰の役大鳥圭介の軍勢と官軍の一隊は此地にて戰ひたり。いま諸川・五兵・上和田・駒込・上片田・下片田・新和田・大和田・仁連・諸川新田の十大字より成り、諸川に役場を置く。

【幸島村】 岡山縣備前國邑久郡の西南端。吉井川々口の左岸にあり、北は太伯村に、東は大宮村に、南は朝日村に界し、西南は水門灣を隔てゝ兒島半島東北部の小串村に、西は吉井川を限てゝ上道郡の九幡村に對す。全村吉井川々口に面する沖積平野の西南端をしめ、灌漑の便よく、水田ひらけ備前米を產す。吉井川に沿ふ所に西幸西・羽島の部落あり、また水門灣に面する所に東幸西・南幸西の部落あり。西南端の外渡崎は吉井川口と水門灣をわかつ砂嘴なり。本村の地は堆積泥沙よりなる地にして近年開拓せられし地なり。いま南幸田・東幸田・西幸田・北幸田・東幸崎・西幸崎の六大字より成り南幸田に役場を置く。

コージマチ 麴町 ［こうじまち］ 東京市三十五區の一。舊市の中部に位し、また丸ノ内ともいふ。宮城並に諸官衙の所在地たると共に一ビジネス・センターなり。東は神田・日本橋・京橋の三區、南は芝・赤坂の二區、北より西は小石川の一部及び牛込四谷の兩區に接す。蓋し麴町とはもと東京宮城の半藏門より西方四谷區の東部に至るまでの街道筋をいへり。此の街道は甲州街道の發端にて德川時代に於ても重要路の一にして、街道に沿ひ早くより商店街をなす。天正十八年の奉行獨書に「城內北の方より國府方へ此度町屋を開き諸商の繁利致させ候に付無手次第其所に移り商始め候て不苦候云々」とあり。新井白石の書紳に「麴町は家康公江戸入城の時に開かれしものなり」とあり。また慶長三年の江戸圖に江戸城の西口に路線を描き「此邊町人住居、國府方より角管に出、甲州街道四ツ谷通り」と註せり。これ等により江戸開府直後甲州街に沿ふ商店街をなすに至りしものと解さる。麴町と書くは後世にてもとは上述の如く國府方と書けり。國府方とはこの街道甲府に達する途中武藏の國府を經由せるより起りしもの、卽ち麴町は國府路町より轉じたる地名とさる。傳說にもとこの邊一帶の地、藪をなしその間に麴造の民家四・五軒ありしを取り名づけたりといふものあるもこれ文字より想像せる附會の說なり。現在東京市の一區なる行政上の麴町區はこの麴町の地名より起りしものなるも地域はもとの麴町より遙かに廣大なり。皇城推城の葵を擔ふ本區の沿革を辿るに、今より四百六十餘年の昔扇谷上杉家の臣太田道灌は武藏野の一角に地を擇して城を築き、自然の松鎭壽祖を友とし兵馬の身を慰めしも、この江戸城建設こそ吾が東京市の胚胎たると共に實に麴町區の搖籃たり。その後、江戸城は德川氏三百六十八年間の柳營となり、明治維新成りて從ても皇城と定めさせらる。明治十一年東京市十五區制定さるるや大內山を中心としその外濠の圍繞する區域に麴町區と名付けらる。江戸時代に於ける本區の地域は武家地にて、城西の高臺には直屬の臣旗本屯し、城東一帶の平地には主なる譜代大名及び閑老の邸宅等あり。武家地は謂はゆる武家文化の溫藪をなし、その大名小路は助詞の鈎の曲、へうたん屋のそば切、つぼや飯頭等と共に江戸名物の一に數へらる。當時町屋としては麴町區平河町九段中坂附近等、極く僅少に過ぎざりしも、その經濟的活動は實に目覺ましく明和より化政にかけ幕府の全盛時代にては、下町の越後屋、今の三越と併稱されし岩城松屋、麴町三丁目に在り、間口三十六間の店舗、十一戶蔵の倉を有し、手代只下七百人に近き使用人を有せしことに依りてもその一班を察し得る。然れども明治維新の變革は武家地の急激なる凋落を來しその經濟的中心は漸次丸の內方面に集り、高臺は上流の住宅地となりしに反し、東部の丸の內一帶は帝國統治の主たる行政機關の集合地なると共に一方東京驛を中心とし大小數多のビルディング櫛比するに至る。謂はゆる三菱ヶ原の偉々二三十年內に於ける異常な發展は、恰も明治維新以來の帝國の榮耀を物語るが如き觀あり。［麴町、始店］ 江戸の地名。今の麴町區平河町一・二丁目の舊稱。小町村芝居丑月・四「イイエ、麴町のはまぐり店さ。そりや廣店の近所ぢやアどざんせぬか」（常盤橋門址）指定史蹟。江戸城大手門筋に外部正門なり。門は維新後破壞されて石垣のみ現存するも、舊觀見るべきものあり、外部に架せる常盤橋は明治十年、洋式石橋に改造せらる。

コーシミズ 高清水 ［こうしみず］ 富山縣婦負郡にある鑛山。黑鉛を產す。鑛區は山田村及び東礪波郡利賀村に跨る。年產約五三〇瓩。鑛夫一一人（昭和十年）

コージャク 江若鐵道 ［こうじゃく］ 滋賀縣西部にある地方鐵道。大津市濱大津より琵琶湖の西岸に沿ひて北上し高島郡今津町の近江今津驛に終る。延長五一粁。軌間一・〇六七米、蒸氣車・ガソリン車を運轉す。

コージャク 上津役 ［こうじゃく］ 福岡縣遠賀郡にありし村、昭和十二年五月八幡市に入る。

コージャクガイワヤ 嵩雀窟 ［こうじゃくがいわや］ →南礦村（秋田縣）

コーシヤマ 神志山村 ［こうしやま］ 三重縣紀伊國南牟婁郡の中部。紀伊半島の東面熊野灘に臨む斜面に位し新宮市より北方約十五粁にあり。東北より東は有井村に、西北は神川村、西は尾呂志村、南は市木村に界す。北部・西部一帶に山地を繞らし北境に長尾山（七八三米）、西境に西ノ峰（五九四米）聳立し、東部は臺地狀の丘陵起伏して、西・北山地との間に北より南流する市木川の谷をつくる。東隣有井村との境に五〇米程度の段丘發達し其內側に湖沼あり。全村山地蔽く森林多きも海岸段丘の內側と市木川の谷に耕地拓く。農產に米・麥・蔴・林產に木材・薪炭あり。交通路は隣村有井村に熊野街道あり、東境の段丘下を熊野浦に沿ひて南方新宮町方面に通ず。村名は神木・志原・金山を合併して村制施行の際、その各一字を取りて命名せるもの。

ゴージュ 蒡樹 ［ごじゅ］ 朝鮮總督府鐵道局全羅線の一驛（昭和六年設置）朝鮮全羅北道任實郡屯南面にあり。

コーシュー 公州 ［こうしゅう］ 【公州郡】 朝鮮忠淸南道の中南部の郡。東は燕岐郡、東南は大德郡、南は論山郡、西南は扶餘郡、西部は靑陽郡、西北は禮山郡、北は天安・牙山の二郡に夫々相隣接す。西北部には大白山脈の支脈延びて山岳重疊し、楮項峰（四二〇米）・東嶺・國師峰（四八九米）等あり、南部にも鷄龍山（八二八米）等の諸山屹立するも、他は概して低夷にして、錦江本流は郡內を東西に橫斷して、舟楫及び灌漑の便よく、流域に肥沃なる平野を拓き、米產頗る多し。その他農產に麥・大豆・粟・棉花・煙草等あり、また生牛を產す。織機も盛にして明紬・木綿の產著はる。未だ鐵道を通ぜざるも、一等道路南北を貫き、公州邑を中心として道路網よく發達し、交通不便ならず。郡の北部寺谷面には麻布寺の巨刹あり、て、本道各寺院の大本山をなす。行政上、公州邑及び州外・木浦・瀋川・鎭龍・反浦・長岐・儀堂・正安・牛城・寺谷・新下・新上の十二面に分ち、公州邑に郡廳を置く。本郡はもと百濟に屬し、文周王は公州（もと熊川）に都し、のち新羅百濟を滅すや熊川都督府を置かれ、神武王の時熊川州と改め、都督を置き、景德王に至り熊州と改稱、高麗太祖二十三年公州と稱す。成宗二年牧を置き、十四年河南道に屬し、穆宗に至り牧をやめて節度使をおき、安東都となし、のち改變ありしが、李朝世祖に至り判官を置き、仁祖二十四年公州牧を昇して公山縣となす。高宗三十二年公州府に二十七郡を屬せしめ、府に觀察使をおき郡に郡守をおく。翌年の改革に公州郡を公州府となし、大正三年府郡廢合に際し東郡の一部は燕岐郡に、南郡の一部は論山郡に、西郡の一部は扶餘郡及び靑陽郡に移屬せられ、以て今日に至る。

【公州邑】 朝鮮忠淸南道公州郡の中央部。郡管內一邑一二面中の一。鐵道湖南線驛鳥致院線の西方二五粁錦江の右岸に位置す。忠南中央高地帶の南邊に當るを以て比較的平野に乏し、殊に三方山に圍まれ北に錦江を控え古來要害の地として知られ、百濟の二十一世文周王の元年南漢山より來つて此處に都し以て熊川と稱し、二十五世現王に至る數十年間の百濟の舊都なり。唐は一時こゝに新羅都督府を置く。新羅に至り熊津郡護府を置き、のち熊川と改め、高麗朝に入り現在の

合併まで続いた。明治四十年（一九〇七）合併組合設置許可され、翌年六月米沢市外五町村合併組合設立許可の際、市外合併組合の構成として、米沢市・置賜郡の米沢市外五町村・置賜郡の米沢市外一町村・置賜郡の米沢市外一町村・置賜郡の米沢市外一

り。產物の主なるものは米・麥・大豆・生牛・牛皮・蔚炭・煙草等にて、また砂金・銀・銅・陶土等を產す。交通は郡中央の京安里を中心として二三等道路南北に通ずるほか概ね便ならず。ただ北境を環流する漢江は骨格の便ありて、京城方面の物資の集散を助く。行政上、慶安面ほか十五郡に分ち、郡廳を京安面京安里に置く。郡の西北部に南漢山(四九五米)屹立し、山上に南漢山城あり、その西北孤州面の修道山中には率思寺の名刹あり、またその附近に李朝純祖嘉皇帝の仁陵、九代成宗王の宣陵、十一代中宗王の靖陵あり。百濟の始祖溫祚王國を建つるや、都を壁禮(禮山)より現中部面山城里に移し南漢山と和す。近肯古王に至り、都を平南壤城(北漢山、京城府北部)に移し、唐の蘇定方來りて百濟を攻略し、卸還るに及び、新羅は漸次百濟の古地を併せ、この地を改めて漢山州または南漢州と稱す。景德王十五年漢州に改め、高麗太祖に至り廣州郡となす。成宗二年牧使を置き、同十四年節度使を置き奉國軍と號し管內道に隸す。顯宗の時これを廢し、按撫使に更へ、のち數年にして牧使に復し、李宗の始め之を因襲し、世祖の代に鎭を置きしが、明治四十年改めて郡守となし現今に及ぶ。而して郡廳は大正六年十二月中部面山城里(廣州)より現在の京安面に移轉す。

【廣州】 京畿道廣州郡山城里の通稱。百濟始祖溫祚王ここに遷都し南漢山城を築き、近世に至りても久しく郡政の中心たり。→山城里(サンジョーリ)

ゴーシュー 江州 (ごうしゅう) **近江**(おうみ)**國の略稱。**

コージュコー 猴樹港街 (こうじゅこう) 臺灣臺南州東石郡朴子街朴子の街肆に附せる最初の名稱にして、乾隆二十九年、頃朴仔脚街と改稱せられ、更に大正九年、地方制度改正の際朴子街朴子に改められたり。

コーシュン 恒春 (こうしゅん)

【恒春郡】 高雄州にて最南たると同時に臺灣最南の一郡。高山連立する中央山脈は高雄州に入りて、漸く其高度を減じ本郡に入りて全く盡く。本郡は其斜面地と、南部なる高原と此間に縱橫する峽谷及び四重溪・保力溪(西部)・港口溪(東部)に沿ひて生ぜる平地よりなり、地域狹隘なるも地形は甚だ複雜す。郡の東西南は海に面し、其海岸線の延長は約一〇一・九粁に達し、其東岸には海口港(車城庄)、大坂埼港(恆春庄)二港を有し、北部は高雄州潮州郡・臺東廳臺東郡大武庄に接す。東西約一六・五粁、南北約三五・六粁の南北に細長き土地にして、面積約五四五・一六方粁、戶數五一五四戶、人口は二九七〇六(蕃人を含む)を有す。本郡一帶の地は熱帶圏內に位置する關係上棲息する鳥獸植物の珍奇なる物多く、その熱帶的景觀は屬る特色を有す。本地方は舊と鄭氏と稱し、パイワン族の占據せし處にして、其開拓は明末鄭氏の時代に遡る事を得。即ち鄭軍は開屯の目的を以て兵を鄭墓灣(現車城灣)に進め此地に上陸し、其東方なる荒埔に駐留し、屢々山蕃と戰ひて蕃々蕃地を蠶食しつつありしが、康熙二十二年、鄭軍清朝に降りて臺灣の清領に歸するや此地に在りし屯兵は留りて蕃人と和し、且つ蕃婦を娶りて定住し、その住居せし區域は西海岸なる射寮(車城庄)、南なる大樹房(恆春庄)・瀏沙(恆春庄)に及べりと云ふ。此地方の漢族に朱・柯・董・趙・黃等の姓多きは蓋ね其子孫なりと云ふ。爾後閩人相繼ぎて此地方に移住を企つる者多く、海路車城灣・大樹房に上陸する者、また陸路海岸に沿ひて移住する者を增加せり。其結果康熙末年、雍正初年に亙りて、車城及び大樹房の海岸地區は閩人の根據地となり、此地を中心として漸次奥地に向け侵出を開始し、車城には一市街を形成せり。而して嘉慶の初年には粵人東海岸なる港口溪附近を開拓するに到り、同治初年には粵人は更に東海岸北部に侵入し開墾に從事せり。されど是等の地方は蕃・閩・粵人間の爭ひ反覆常なく、依りて當局は臺防理蕃同知の分派なる總通事、軍功匠首を車城に駐劄せしめ、これ等間の軋轢その他を處理せしめたり。降りて同治六年には南灣に漂著したるローヴァー號乘組員のタラール(龜子角)社蕃に殺害せらるるあり、又同十年に我琉球落民五十四名は牡丹社蕃に殺害せられ、爲に西鄭都督の征臺の役となる等、國際問題を惹起するに到れり。爲に清當局は同十三年車城より枋寮の間に二百名の駐屯兵を置き防蕃と共に、沿海の防備を厳にせり。且つ當局は未開の蕃地を開拓するの急務を認め、臺灣曾紳防番として駐留せし船政大臣沈葆楨の上奏裁可の後、車城の東南なる瑯潤(恆春)に恆春縣を開き筆城せしめたり。これ即ち恆春城なり。鼓に於て里を劃して宜化・仁壽・至厚・德和・興文・美飽・永靖・泰慶・成昌・安定・長樂・治平の十二里とし、其後嘉禾の一里を加へ、一方には撫墾委員を特設して撫蕃墾地の事を司り、他方招墾局を對岸なる厦門・汕頭に置き大いに此地方への移民を奬勵したれば、此地方は大いに開け東港を樞て恆春に到る道路を改修したり。されど當局の蕃民操縱の失敗は屢々蕃變を起さしめ、爲に一時恆春・東港間の道路は往來杜絕せんとする狀態に立入りたり。因りて知縣蔡麟祥は特に防蕃の制を立て、蕃界の沿道に大營盤一、營盤六、礮位十七を設備し、多數の職員を配して防蕃の僧となせり。現に之等防蕃設備の殘址は鹿巒鼻を訪れる遊子の目に映ずる處なり。我領臺の後本郡下の地は臺南縣の管轄に屬せしも、爾後改廢されて明治三十四年には恆春廳置かれ、次で四十二年には阿緱廳の管轄する處となりて、宜化・仁壽・德和・至厚・興文・成昌・永靖・安定・長樂・治平・泰慶の改正により是等の里を改廢集合して、恆春・車城・滿洲の三庄とし、是を統轄する恆春郡を置き、同時に茄芝來・外茄芝來・女仍・牡丹・高士佛・竹社・八瑤・四林格の八蕃社を包轄せしめて高雄州の管下に歸せしめらる。本郡は上記の如く開拓の歷史古きも土地廣きに比して山地多く、郡下住民の生業とする農業に於ても其產額少なし。其主要なる農產を擧ぐれば米を主とし、其產額は四十八萬八千圓、甘藷之に次ぎ二十一萬圓、その他甘蔗・大豆・落花生・蔬菜等を合して、百萬圓に達せず。畜產業は本郡下有數の產業にて、恆春庄麻丁には、中央研究所恆春種畜支所ありて、熱帶種畜の試育並中印度牛・ヒリッピン馬・緬羊等の飼養・蕃殖をなす他、一般農家に於ても山羊・豚・黃牛等の飼養行はる。東西南三面を海に圍まるる本郡は水產業に於ても相當の漁獲あり。殊に恆春庄大坂埼なる日本捕鯨株式會社臺灣事業場は、大正九年二月事業開始以來本島に於ける露威式捕鯨の嚆矢にて、年々約五十頭の捕獲あり。其多くは巴頭鯨にして、少數の抹香・白長須等あり。山岳重疊たる本郡下に於ては海產も又多く、就中南部に產する黑檜・鐵心木等は床柱・ステッキ等に珍重さるる材木なり。本郡にては地勢の關係上交通便なりと云ふを得ざるも、郡役所々在地たる恆春を中心として、漢合目鎮東相當に發達す。就中臺灣八景の一なる鹿巒鼻と、此地に到る枋寮よりの道路は坦々として海岸を走り、又は木麻黃の鉛木道を通り拔け其景色の變化に富み訪客の目を樂ましむる處多し。恆春は郡役所の所在地として、郡下政治・經濟の中樞をなし、從つて郵便局・測候所・營林所出張所等の官衙を初め臺灣製糖會社・恆春製糖所・電氣會社・製氷會社等の設けあり。其他鹿巒鼻には燈臺・林業試驗所、四重溪には溫泉等を有す。本郡には前記のごとく歷史的に沿革古く史蹟に富む。即ち石門戰蹟(車城庄)・琉球落民墓・龜山(車城庄)・恆春城(恆春)・墾丁寮石器時代遺蹟(鹿巒鼻)等は何れも史蹟として指定せられたるものにして、本郡の沿海には機息する傭員、鹿巒鼻に於ける毛柿は榕樹林、熱帶性海岸原生林はまた何れも天然記念物として指定せらる。(恆春郡蕃地)恆春方面には本島人の他に多くの高砂族が居住す。恆春方面の高砂族は一般にはパリジャリジャオの名をもつて呼ばる。パリジャリジャオは何一層正確に表はせば Paclarilao にて、1の音と J の音が區別されにくき爲め斯く呼ばる。Paclarilao (パクラリラオ) は南の端の意にして、高雄州潮州郡の南部方面の高砂族の云ふ稱呼にて、彼等自身はスパイワンなり。此の地方の高砂族は行政區域內のものと、蕃界のものとあり、行政區域內のものは熟蕃と稱せらる。恆春郡內に於ける蕃界の社は七社にして、その戶口は昭和十一年末現在のものは、牡丹社(一〇八戶、五〇六人)・クスクス社(七四戶、四四九人)・パヨウ社(三〇戶、二〇五人)・牡丹灣(一戶、四人)・外カチライ社(二三戶、九〇人)・チョカチライ社(六三戶、二九三人)・シナケ社(一〇九戶、六八九人)、合計四〇八戶、二三三人(警務局蕃社戶口昭和十二年による)。なるも、その行政區域內にあるものは本島人と雜居、雜婚し、その數明ならず。併しその住居地として古くより傳へらるるものは、猪勝東・貓仔・滿州・港口・加祿巷・射麻里・龍鑾・老佛・龜仔角等なり。恆春地方のこれ等蕃社を今特に記述するは、これ等が郡嶠十八社の名を以て特に古くより有名なりし爲に外ならず。鳳山縣誌卷三には、郡嶠歸化番共十八社、郡嶠社・猫仔社・紹猫蘆社・猪勝社・合蘭社・上哆囉快社・蚊率社・蔑洞社・龜勝律社・貓蘭逸社・貓海社・滑思滑社・加銀來社・施那隔社・新園牡丹社・下哆囉快社・德社・埋留社と記載され、郡嶠の名は幾多史籍に表はれ、恒春地方の稱呼として呼ばれ來たり、郡嶠(ランキャウ)は「琉球」の轉音にて、往時琉球人が渡航し、この地方に部落を作り勢力强大なりしためリウキウの名が轉じ轉して郡嶠となりしものと、帶原坦博士は云へるも未だ確定に至らず。郡嶠十八社は說く人によりて其含む社幾分異なるも、猪勝東社の潘阿陵、及び潘加必所君の云ふ所に依れば、猪勝東(チラソック)・貓仔坑(カバルク)・高士佛(クスクス)・女仍(ダダクダル)・滿州(バンツール)・港口(バキツン)・龜仔角(クラルツ)・加祿巷(カトロ)・牡丹(シンパラジャン)・快仔(チョロコアイ)・竹(サバルク)・頂加銀來(チョカチライ)・龍鑾(リンダン)・四林格(シダキ)・牡丹中社(チャリウナイ)・沙保力(サブチク)・滿洲埔(ヌリダク)・嶺林—老佛(カナボス)となり、又猪勝東の潘阿別の云ふ所は之と異る。ロンキャウなる名稱は面白き事にはこの地方にては決してかく云はれず、パイワン族の間にても潮州郡下に入り、始めてこの名稱を知り尙本島人の間に於ても、北部地方の人々の間に此の呼び方用ひられゐたり。此の地方の高砂族、特に猪勝東附近のものは、北部の高砂族よりスカロの名を以て呼ばる。スカロはその性慓悍にて屢々北方の諸パイワン族を恐畏し、その勇名は遠くスポン社・リキリキ社方面まで轟けり。此のスカロに屬するものは、元來が臺東附近のパナパナヤン族(八社蕃)に屬するものにて、遠き昔、臺東方面より一部は中央山脈を越えて西海岸に出でて南下し、一部は東海岸より南下して今の位置に移住したるらしき形跡あり。元來、八社蕃は其勇敢天下に名高く、此の地に來たりてもその武威は忽ち四隣を壓したるが如し。即ち猪勝東社の頭目ガルヂュグル家は大股頭

人として其支配は謂ゆるパリジャヌの全部のみたらず、滿州都南部のサブデク部族にまで及び、その家には莫大の蓄積が各社より收納せられたり。尙ガルチュグル家の他に射萬里の頭目マパリウ家も大股頭人の下にありて數社の支配者社を有し、又龍驤社にはロパニアウ家、猫仔社にはラハリグル家がそれぞれ大股頭人の下にありて小數の社を支配せり。この地方には又パッツア、卻ちアミ族の居住するものあり。パイワン族はこれをカミカミと稱し、その故地は遠く豪東の馬蘭社附近、花蓮港のチキラヤに出づるものあり、いづれも北部よりの移住民にて、その地位はスカロに對して從屬的なり。その主なる住地は港口を始めとし、萬里稈・老佛・八瑤・九枠等。かくの如く恒春地方はパイワン族・パナパナヤン族・パンツア族、加ふるに平埔族が相當本島人と交りて住したるらしく、人種的に非常に複雜性を有す。尙この地方の本島人には魏姓の漢族、高砂族の系統を引くもの多きが如く見受けらる。兎に角今の行政區域內のかくの如き高砂族は餘程早くより本島人との混交を來せるものの如し。

【恒春郡】 高雄州恒春郡三庄の一。臺灣最南の地を占むる一庄にして、東西南は海に面し、北は郡下の滿州、車城の兩庄に接す。地勢は中央に高峻なる中央山脈連續して其餘脈東西南に走りて海に臨まり、平地は僅かに西北、車城庄との境界附近に見らるるのみなり。中央山脈の餘脈は遠く東南に延びて一突角を形成す、之を鵝鑾鼻となし、猫鼻頭は同じく西南に延びて一岬を形成し、此兩突角は其間に南灣を抱く。熱帶圏に位置する本庄は氣溫高く庄下の景觀は全く熱帶色を帶び珍奇なる動植物に富む。庄下の平均氣溫は攝氏二十四度七分にして、非夏を雨季とし、季節風は秒速十米を示す。本庄の面積は五・六方里にて、人口は約一萬四千五百人を有す。庄役場所在地たる恒春は又恒春郡役所の所在地にて、郡下產業交通政治經濟の中心をなし、主なる官衙・會社等は皆この地に存す。本庄の地は平地に乏しきも住民の生業は農を主とし、其總生產額は約五十七萬圓に達し、米・甘藷・甘蔗・蓽撥蓋・芭蕉實・鳳梨等は其主なるものなり。其他豚・水牛・黃牛・羊・家禽等の生產約三十八萬圓、木材・竹材・薪炭等の林產に約二十二萬圓の產出を見る。その他大敕埒の鯨漁は年約五十萬の捕獲あり、他の魚類・海藻等の捕獲と合して約二十萬圓の價額あり。又水產業に附隨して鯨油・鯨節の工業行はれ、龍泉水にあるサイザル纖維工場に於てはロープ・化粧品・刷毛等の原料製造行はる。本庄下には鐵道の便全く無きも、道路は恒春を中心に相當發達し居るをもつて、自動車の便良く、又大板埒港は小なるも、良港に乏しき臺灣に於ける一軍津たなし、本島沿岸定期船の寄港地なり。教育施設には小學校一、公學校二あり、その他國語講習所・青年團等の活躍も盛なり。本庄は大正九年地方制度改正前の宣化里・仁壽里・德和里・至厚里及び興文里の一部の地を占め、現在は高雄州恒春郡下の一庄として、恒春・山脚・鼻子頭・側蛤・虎頭山・猫子坑・龍泉水・連鄉林・大樹房・水泉・大平頂・鵝鑾鼻の十二大字に分たれたり。〔恒春城〕字恒春にあり。現恒春郡役所・庄役場の所在地に位置して造られたる清朝時代の一古城にして、本堂の所在はもと戴洞と稱し、同治十三年（明治七年）我が牡丹社討伐の結果、沈葆植の奏議に依り、新に恒春縣を置く事となり、光緒元年（明治八年）築城の工事に著手し翌二年竣工す。周圍九百七十二丈、壁高二丈、厚さ八尺、東西南北の四門を設け、經費約十餘萬兩を費したりと云ふ。此城は領臺の始め、明治二十八年十一月一日我が第二師團歩兵第四聯隊第三大隊が戰鬪の後驅逐して、之を占領したる所にして、又翌二十九年土匪蜂起の際には、官民城內に籠りて、之を死守し、能く敵勢を免れたる事あり。爾來一時守備隊を置き又應虎は郡を置きて、今日に及ぶ。現狀を見るに城內は半ば傾毀し、城壁も所々崩壞を來したれど、清朝時代築造の城垣にして、內壁共に現存し、當初の狀態を知るを得。昭和十年十二月五日史蹟に指定されたり。〔恒春社〕字恒春に鎭座す。恒春郡下官民の總文に係る。昭和八年三月十五日創建。祭神は臺灣神社と同樣にして、大國魂命・大己貴命・少彦名命・能久親王の四柱を奉祀す。例祭、四月二十八日。〔船帆石〕南灣に面する海岸にある一巨岩にして、高さ十米。遠く之を望めば稍々東方に傾き、帆船の駛走するに似たり。因りて此の名稱ある故因にして登攀するに難く、脚下は四時狂瀾怒濤の洗ふに任せ、風景甚だ佳なり。

【恒春街】 臺灣高雄州恒春郡恒春庄字恒春の舊郭。大正九年十月の地方制度改正前までは阿緱廳宜化里の一街なりき。

コーシヨ　廣儲里（こうちよ） 臺灣臺南州下新化郡新化街及び新豐郡永康庄に亙りて存在せし一區にして、早く蘭人・鄭氏の時代に拓殖の緒に就き、鄭氏の時里を立て、清領の後之を襲ぎ、康熙六十年分ちて東西の二里となせり。其の西里に屬せし王田庄（現新豐郡永康庄王田）は和蘭の時に於ける墾田の遺址にして、東里に屬せし大坑尾庄（現新化郡新化街大坑尾）は鄭氏開屯の區に屬せり。大正九年地方制度改正に依り里を廢せられ、西勢・王田の二庄（西里）・車行の一庄（東里）は新豐郡永康庄の管轄となり、大坑尾・知母義・竹仔脚・洋仔・埤口・北勢の六庄（東里）、及び崙仔頂の一庄（西里）は、新化郡新化街の區域內に包括さるることとなれり。

兒島郡の北部。中國本土と兒島半島を連絡する頸部の東側を占め兒島灣に面す。東北部は錠ケ瀬川を隔てて御津郡芳田村に、北は都窪郡妹尾町・早島町に、西は同郡茶屋町に接し、南は倉敷川を挾みて瀧崎村と隣る。兒島灣の淺海は干拓事業によりて造成せられし耕地の一部を占め面積一七・六方粁、全村悉く備前米の良產地なり。米・麥を產し、他に藺の產多し。村の稍ミ西部を南北に妹尾町より四國街道來りて半島の南端下津井町に通ず。省線平野線は僅かに西北隅を掠めて通過す。往古の事は以て徵すべきものなし。明治三十八年東興除・西興除の二村を廢し新たに本村を置く。いま中疇・西疇・曾根・內尾・東疇の五大字より成り中疇に役場を置く。

コーシヨー　厚昌（こうしやう）

【厚昌面】 咸鏡南道北青郡の西南部。郡邑北青邑の西南方四粁にあり。東は坪山面、北東は北青邑、北は佳會面、西は洪原郡德面、南は俗厚・陽化の兩面と各相隣接す。南大川の支流厚昌川を流域とする小盆地區を成し、周緣山嶺を以て圍繞し、僅か北東隅の峽谷を以て南大川に合す。而して周緣山地の主なるものに、天憐峰（三六六米）・南嶺（六三六米）・盤山（七〇六米）・太陽山（七〇五米）・屋涼山（四三二米）等あり。農產物には米・粟・大豆・蕎麥等あり。大豆は北青大豆として市場に著はる。道路は厚昌川の出口峽谷を紆出する北青街道（咸鏡一等街道）の外は全部峻路を通過する盆地交通の特色が摸式的に見られ、前記一等道路も西方光山に向つては南篤嶺（三一五米）を越え、南方陽化驛に連絡する二道等路は梨木嶺（一八一米）を、其他俗厚への長崎・大口嶺・通耳峴等何れも峴に歸る。面事務所は盆地の中央なる二里に置く其他聚落の主なるものに一里・栢坪里・雷洞里・庶隅里等あり。

【厚昌郡】 朝鮮平安北道の東北隅。道管內一府十九郡の一。北は鴨綠江を距てて滿洲國と相對し、西北は慈城郡、西南は江界郡に、東南は咸鏡南道にそれぞれ接す。東南境に臥碣峰山脈連亙し、衝天山・南社山・稀寒峰（二一八五米）等の高嶽を聚立し、西南には牛項嶺山脈走り、舍屈峰（一七八七米）・直嶺（一〇五七米）・白三峰（一五五六米）・牛項嶺（一一一五米）・寺德山（一三五六米）等を起す。而して郡中央部には五住山山脈ありて東北に走り以て本郡を二分し、東區は嶺東、南區を嶺南と呼ぶ。かくのごとく郡內高山重疊起伏し、東北鴨綠江に向つて傾斜し、厚州川・林芝江・慈城江等何れも北に流路を取りて鴨綠江に合流す。全域老樹喬木繁茂し、紅松・たうひ・落葉松等の針葉樹の美林相を以て聞え、就中江界郡境の直嶺茂林は謂ゆる原始的美林として名高く、森林地帶の視察並に林業研究の好適地とせられ、西部の五住山美林また著はる。而してこれ等の森林よりは炭平村・家具用材・船艦土工用材・鐵道枕木・電柱用材等の伐出さるること勿なからず。農產は粟・大豆を主とし、米產は殆どなく、また生半・牛皮を產す。鑛產は郡の西南部南新面銅山に厚昌鑛山あり銅鑛を採掘す。域內は人煙稀薄のところ多く、人口密度は一方粁一六・八人に過ぎず、道路は西南方江界より來りて鴨綠江岸の厚昌江口に至りて自動車を通ずるものを主とし、隣接諸郡にも自動車を通ずる道路開くるも交通梳して不便なり。行政上厚昌・東新・南新・七坪・東興の五面に分ち、郡廳を厚昌面郡內洞に置く。本郡の地は約四百年前、李朝中宗王時代に東新面茂昌洞に文昌郡を設けしも、獲許ならずして之を廢し、のち顯宗十五年東興面古邑洞に始めて僉使を置き、肅宗二十九年に府使に改め咸鏡道に隸屬せしめしが、李太王の代これを廢し（明治二年）、厚昌郡に改め、南の一部を併合し、平安北道に移屬せしめて今日に至る。

【厚昌面】 平安北道厚昌郡の西北境。郡管內五面中の一。郡の大面にして南北に長く實に六〇粁に達す。東は南半部は東新・東興の兩面に隣接し、北半部は鴨綠江を隔てて滿洲國に相對す。地勢、蓋馬豪地の西北邊部に當り、東境には獨山（一一七五米）・鋼鼠岩山（一一〇〇二米）・小獨山（一〇一六米）、南境に松大峰（一四四一米）等の高峰相連なり。西境には頭鹿峰（一二六六米）・壁峰（一二五八米）・五住山（一一九六米）・國望峰（一四九七米）等聚立して山岳重疊し、西北境の江岸地域は玄武岩の熔岩臺地を成し、鴨綠江は此熔岩臺地內を嵌入蛇曲して兩岸斷崖絕壁を成し、兩岸より注ぐ無數の支谷は壯年期の深き峽谷をなし景勝の地多し。山岳には紅松・赤松・落葉松等の老樹喬木鬱蒼として繁茂し、朝鮮第一の大森林地帶を形成し、殊に南方の五住山美林地帶は有名なり。氣候は寒氣酷烈にて、七八月の候既に降霜を見、盛夏と雖も五住山等の陰谷には氷を認むる事あり。耕地の開拓未だ遙まず、多くは火田民にて、粟・蕎麥・馬鈴薯・大豆等を栽培し、米・麥は他より全部移入す。其他蜂蜜・山蔘・藥草等あり。厚昌鑛山は金を產し、元伊太利人の經營なりしが、內地人の經營に移り大規模の計畫下に採鑛中なり。而色厚昌は南部に位置し、街村を成し、道路は此地を核として江岸の厚昌江口、北方中興鎭、南方安州に達するもの何れも二等乃至三等道路に改修されたるも、急峻にて坂路多く往來困難を極む。厚昌は厚昌郡政の中心をなし、李太王の時（明治二年）府使を置きしところ。邑內に郡廳・警察署・地方法院出張所・郵林署・郵便局・金融組合・公立小學校等あり。二粁餘に觀音寺あり。四季眺望の美を以て著はる。

コーシヨー　後庄（こうしやう） 臺灣總督府

鐵道南州線の一驛（明治四十一年設置）。臺灣高雄州鳳山郡松庄にあり。

コーショー　高敞（こうしょう）【高敞郡】朝鮮全羅北道の西南部。道管内二府十四郡の一。東北は井邑郡。北の一部は扶安郡に、東南は全羅南道長城郡に、南及び西は同じく靈光郡に夫々相接し、北及び西北は黄海に臨む。鳥獸約十個を算するもおほくは無人島なり。廣壁山脈東南境に横亘し、半登山（七四三米）・文殊山（六二〇米）等を聳立せしめ、北部にも三—四〇〇米臺の丘陵起伏し、平地に乏しきも、大體に於て西北に低く、舟津川その他の河川北又は西に流れて沿岸に狹長の平地を拓く。海岸は沙洲綿めて廣く、特に北岸に著るしく、近年上下面・心元面・海里面の地先に干拓事業行はれ、その面積約百ヘクタールに達す生業は農を主とし、米・麥・豆類を產し、蠶業もやや盛なり。工產にありては苧布長も著はれ、無紋戸數六三〇〇を超え、絶布・交織これに次ぎ、他に製紙及び高敞燒の製陶行はる。鐵道を通ぜざるも主邑高敞を中心として道路網やや發達し、交通不便ならず。行政上、高敞・古水・雅山・茂長・孔音・上下・海里・星松・大山・心元・興德・星内・新林・富安の十四面に分ち、郡廳を高敞面に置く。郡邑は東部に偏在する高敞を主とし、北部の興德、西部の茂長は夫々地方的小中心をなす。石谷面兜率山の麓石谷に禪雲寺の古刹あり、新羅眞興王の時義雲國師の創建にして百刹として聞え、境内兜率山の一帶は峻嶮の山と鬱蒼たる森林にして幽邃の地とし、滿月臺・靈山岩等の風景に富み、四時探勝者絶えず。北鶴の興德面沙浦里の海岸は海水浴場として著はる。本郡は大正三年三月に高敞・茂長・興德の三郡を合併せるものなり。元高敞郡は馬韓時代は半伊郡國縣、新羅時代は毛良夫里縣、百濟時代は半島縣、高麗時代は高敞縣と稱し、元茂長郡は李朝太宗時代に茂松・長沙の二縣を合して茂長縣と稱し、元興德郡は百濟時代の上柔縣にて高麗時代興德縣と稱し、李朝開國五百四年各縣を郡に改め郡守を置きたり。

【高敞面】朝鮮全羅北道高敞郡の東部。郡管内十四面の一。北は新林、西は五山、南は古水の各面に、東は長城郡の北二面と北面に隣接す。面はほぼ圓形をなし、東境に蘆嶺山脈連亙し、漸次西に斜きて舟津川上流の流域に平野を拓く。道路は三等道路邑内より四方に通じ、何れもバスの便あり。東方洞南線四街里驛までは廣嶺山脈の鞍部松峙（二八三米）を超えて僅かに一〇粁に過ぎず、交通便利なり。農產の集散地にして、また優雅なる青磁燒を產し、高敞燒の名をもつて知らる。面に郡廳・全州地方法院出張所・米穀檢査支所を置く。邑内里に高敞公園あり。地積一四ヘクタール餘、周圍は城壁を以て繞らし、園内に神祠を祭祀し、老樹蒼蒼としてまた櫻の名所たり。

コージョー　功城面（こうじょう）朝鮮慶尙北道尙州郡の南端。東は金泉郡位良面及び舞乙面、北は青里・外南の兩面、西は本東面、南は忠淸北道永同郡黃金面及び慶尙北道金泉郡求所面に各相隣接す。掛水峰西南境に聳立せる外著しきものなきも、城内花崗岩質の丘陵性臺地にて、灌漑の便に乏しく主畑作農業行はる。住民は質朴にて勤勉主として農業に從ふ者多し。產物は養蠶・紬織の業に從ふ者多し。產物の主なるものは大麥・大豆、その他雜穀類にして又干柿の特產あり。鐵道慶北線は南方二〇粁の京釜線金泉驛（金泉邑）より分岐して、面の中央を縱貫して北方尙州に達し、面内に玉山驛（大正十三年設置）あり。此地を中心として道路網四通發達し、殊に金泉・尙州街道には同驛より乘合自動車を發し交通便なり。玉山は面事務所の所在地にて、警察官駐在所、陸屋二・七の日に開かるる市場ありて穀類・雜貨の取引盛んなり。

コージョー　光城面（こうじょう）朝鮮平安北道義州郡の西北端。新義州府に隣接し、東は古津面、北は古城面に相接し、北西及び西は鴨綠江を隔てて滿洲國安東に相對し、南は三橋川を隔てて龍川郡楊西面に相隣接す。東南部は多少丘陵を成せども、其他は鴨綠江の氾濫原に屬し、土地綿めて低平。耕地は低平なる氾濫原を遮けて東南部の丘陵地域に多く、主として稗・粟・大豆・馬鈴薯等を栽培し、近時氾濫原地域に水田の發達を見るに至れり。交通鐵道京義本線は面のほぼ中央を橫斷し、新義州驛（新義州）府より龍巖浦に一等道路を通じ、面内乘合自動車の便あり。聚落は東南臺地上に密集し偏在的分布を成す。即ち巡上洞・書堂洞・疊西洞・白土洞・瓦工洞・煙墓洞・水門洞・城外洞・土城洞・會浦洞・正心洞等皆水害を避けし臺地上にあり。

コージョー　江上（こうじょう）【江上面】朝鮮京畿道楊平郡の南部。東は金沙面に隣し、東及び北は漢江を隔てて葛山面に、西は江下面、南は今沙面に各相隣接す。西南境に楊子山（七〇四米）聳え、北東に向つて漸次低廣し遂に漢江岸に達す。江岸地域は比較的土地低平にて耕地よく發達し、米・麥・大豆・煙草・粟等を產す。聚落は河岸の低地に偏在分布し、從つて道路も河岸に沿ひて等外路線僅に一線を有するのみにて、道路網極めて疎なり。面邑文坪里は江を隔てて郡邑楊平と相對す。

【江上面】朝鮮京畿道長湍郡東北部。西は大南面に、南は小南面、大江面に夫々隣接し、東は漣川郡に境し、北は黃海道金川郡に界す。北境に五二〇米の峯ありて其山脚面内を南走し概ね山地を成す。從つて產業は振はず、丘陵地を利用せる畑地ありて麥・大豆・小豆・粟等を產するのみ。三等道路南方郡内面方面より來り、面の東部を東北に走りて黃海道に入る。またこれより分岐せる等外道路は西北す。

コージョー　洪城郡（こうじょう）朝鮮忠淸南道の西部。道管内十四郡の一。北東は瑞山、東北は禮山、東南は青陽、西南は保寧の各郡にそれぞれ隣接し、西方は淺水灣を距てて瑞山郡安眠島に對す。三面山岳丘陵を繞らし、北境には龍鳳山（八峰山、三七九米）あり、東境に龍首山（四八四米）あり、南境には烏棲山（七九一米）あり。殊に烏棲山は洪城・保寧・青陽の三郡に跨り、忠淸南道北部の峻嶺にて、西海岸に於ける航船の羅針目標として重要なり。なほ城内に日月山（三九四米）・智華山（三二八米）・青龍山等蟠踞して分水嶺をなし、其他到る處に丘陵起伏し、平野は金馬川の流域にやや廣きものあるほか著るしきものなし。氣候溫和にして、農產に富み、米・麥・豆類を多く產し、特用作物にては棉最も多く、大麻・莞草・花・煙草の產も少なからず、養蠶また行はれ、その他工產も多し。鐵道は朝鮮京南鐵道線の忠南線、京釜本線天安驛より分岐して西走し、城内中央を南北に貫きて南方長項に達し、洪城・廣川の諸驛を置き、道路は、洪城及び廣川を中心として四方に通じ、交通は不便ならず。郡邑は洪城を主邑とす、郡政の中心にして、又米・木材・瓦・苗木・繭等を產す。その東方に金馬家あり、金馬を埋わと傳へ、金馬川の名はこれより起る。行政上、洪州・洪北・金馬・洪東・長谷・廣川・銀河・龜項・結城・西部・高道の十一面に分ち、郡廳を洪州面王官里に置く。本郡はもと海豐・洪陽・巡州等と稱し、契丹明骨六年に州治を日月山下に建つ、即ち海豐縣古基なり。高麗成宗十四年郡團練使を置き、顯宗三年知州事に改め、のち洪州と改稱す。高麗毅愍王七年に牧使となし、次で忠淸南道のうち舒川外十八邑を鎭管せしむ。李朝開國四七九年に至り廳を現在地に定め、次で洪州府を設け觀察使を置き、附近二十二郡を之に屬せしむ。光武元年府を廢し郡守を置く。明治四十三年の併合に際し、郡守を任命し、大正三年に至り從來の洪州郡及び結城・保寧兩郡の一部を合して洪城郡となし、同年更に面洞里を廢合して十一面百三十九里となし、同六年洪陽面を洪州面に龍川面を結城面に改め、以て今日に及ぶ。

コージョー　高城（こうじょう）【高城山】長白山脈の一峯。朝鮮咸鏡北道富寧郡富寧面・西上面、鏡城郡龍城面の境界に跨り聳ゆ。標高一七五六米。南西方に大連谷山（一五五〇米）續く。西麓は北西流して豆滿江に落つ城川水に隈らる。又南方斜面より羅北川發源し、南東流して日本海に注ぎ、輪城川は東方を南流し、清津府附近にて海に入る。

【高城郡】朝鮮江原道の東北部。道管内二十一郡の一。東方一帶は、日本海に臨み、北西は通川・淮陽の二郡、西南は鱗蹄、東南は襄陽の各郡にそれぞれ隣接し、南北に長く、東西に狹し。西部に大白山脈連亙し、殊に西北境は昆盧峰（一六三八米）を盟主とする金剛山連峰重疊起伏し、外金剛・新金剛の勝地はいづれも本郡域内にあり。西南にも香爐峰等の高嶺聳え、東南に向つて緩斜し、金剛山より發し北流する南江は下流に於て神溪川を合せ高城附近にて海に注ぎ、流域に狹長なる沃野を開き、米作行はるるも、その他は平地に乏し。海岸線はやや屈曲に富み、長箭・豆津・烽燧里の良港ありて何れも朝鮮定期船の寄港地をなし、北岸には海金剛の絶景あり。氣候は寒暖の差甚だしく、冬季積雪數米に達し、春夏の候强烈なる颱の吹くことあり。耕地は水田と畑と略々相半ばし、米の產多く、その他大麥・小麥・大豆・小豆等を產し、麻布・生牛・蚕蜜・繭等の副產物あり、養豚、養鷄も盛に行はる。また藥草の原料として山人蔘・當歸・芍藥・蒼朮等の天產物少からず。海岸には鱈・明太魚・鰯・鮑・海鼠の產多く、その他蟹・鰒等に富む。鑛產には金・銀・亞鉛・タングステン等あり。交通は鐵道東海北部線が海岸線に沿うて南北に通じ、高城及び溫井里より金剛山遊覽自動車路の通ずるほかは概ね便ならず。郡邑は長箭・高城・杆城を主なるものとし、これらは何れも東海岸に位す。行政上、新北・高城・西・水洞・縣内・梧桐・杆城の七面に分ち、郡廳を高城面東里に置く。本郡は往古濊貊國の屬領にして、高句麗に至り迹忽州と稱し、新羅朝景德王の時郡に改め、高麗朝に至り安昌縣となり縣令を置く。李朝に入り郡と改め郡守を置き、東面ほか六面を管轄せしが、大正三年、杆城郡に併合し、同年郡内面ほか八面となす。ついで郡内面は杆城面に變更され、八年郡名を高城と改め、廳舍を舊高城邑に移し、新たに通川郡臨南面の數里を新北面に編入すると共に、竹旺面の大部分及び土城面全部を襄陽郡に分割し今日に及ぶ。

【高城面】朝鮮江原道高城郡の東端。東は神溪川を隔て、新北面、西は水洞面、南は梧桐面に各相隣接し、東は日本海に面す。西境に山脊富士を聳峙せしめる月飛山（四五九米）聳立する外著しきものなく、全地區東方に緩傾斜し、就中神溪川南江の下流地域は風る低平なり。海岸は東北端の水源端の突角を除きては全線砂濱より成り、内側に潟湖を湛へ砂丘の見事なる發達を見る。農產物中米は其半を占め、大麥・小麥・大豆・粟等之に次ぎ、蜂蜜・牛等も產す。交通路は北方長箭より來る一等道路は城内を橫斷して後海岸に沿ひ南下し、杆城方面に向ふ。その他は何れも等外路線にして車を通ずるものなし。東北端に突出する水源端は本道中著名の卿角にして、卿端に達四白色燈臺あ

り。海上交通の重要なる示標となり光達距離一七浬に達す。西邑高城は西北端に位置し郵便所・警察官駐在所等あり。

ゴーショー　郷荘　大阪府和泉國泉北郡にありし村。昭和八年本村及び國府村・伯太村を廃し、その地域を以て和泉町を建つ。

コーショーシ　後庄子　↓仁武庄（臺灣高雄州鳳山郡）

コーシリョー　公司寮　臺灣鐵道縱貫線の一驛（大正十四年設置）。新竹州竹南郡後龍庄にあり。

コージロ　神代　【神代村】　宮山縣越中國氷見郡の南部。氷見町の南方、高岡市の東北凡そ七粁に位置す。北は窪村、東は布勢村・佛生寺村、南は西礪波郡國吉村・射水郡守山村、西は宮田村に界す。村の東南部大半は、賓迫山脈の支脈とも稱すべき丘陵地に屬し、西南部に三方峯（一五六米）あり。礪波平野之を限る。西北部に多少の平野ありて米作を行ふ。交通線は氷見・高岡間の縣道と、氷見より佛生寺村への縣道とを結ぶ細き道路、及び丘陵地を越えて高岡市方面に出づる小道あるのみにて、概して不便なり。和名抄に射水郡古江郷あり。蓋し宮田村・太田村と共に其地ならん。古くは加久彌と調ずといふ。いま猫田・神代・溜田・矢方・中島・古江・大浦の七大字より成り猫田に役場を置く。式内社加久彌神社（祭神倉稲魂神・天照大御神）曹洞宗延暦寺あり。

【神代】　岡山縣後月郡にありし村。明治三十三年東村及び江原村を廃し、新たに花原村を置く。

【神代村】　岡山縣備中國阿哲郡の西部。北は新郷村に、東は上市村に、東南は新砥村に、南は矢神村に接し、西は廣島縣比婆郡小奴可村に、西北は鳥取縣日野郡蘇陵村に隣す。西北隅に一一〇〇米を越える三國山あり。夫を中心として北及び西南に九百米餘の高山連亙して聳立す。爲に、村は殆んど六〇〇米餘の豪地性山地をなす。南部の中央を西南より東北に流れる高梁川の上支西川と、東境を南流して西川に注ぐ溪流は僅にその流域に狹長な耕地をつくり、米・麥・薯・蒟・木炭の産あり。交通は地形線を利用して東境を北に省線伯備線を通じ、備中神代驛（昭和三年設置）よりは西南に三神線を出し隣村矢神驛に通ず。岡山市と米子市を結ぶ中國横斷の縣道は、伯備線を交錯しつつ東境を近く南北に貫通するも、村内を通過せず。鳥原鐵道は村内を走り神代町驛（大正元年設置）を置く。又三神線に沿うて村道は廣島縣比婆郡東城町に通ず。此地は和名抄晋多郡神代郷の地にて、村名は蓋しその遺稱とす。いま下神代・油野の二大字よりなり下神代に役場を置く。

【神代】　↓神代（あんのしろ）

【神代】　備後國（廣島縣）三上郡の古地名。和名抄に郷名見え、中世には之を長江荘と稱せしものの如し。藩藩通志に據れば三上郡川手村に甲代八幡宮ありと。甲代は即ち神代の遺稱の轉なるべく、川手は今庄原町の大字なるを以て、郷域は今比婆郡庄原町の邊に求むべきか。

【神代村】　長崎縣肥前國南高來郡の北海岸。島原半島北半の各町村は、雲仙岳の北斜面に放射狀に區劃され、神代村は、雲仙岳の北部の一峰島甲山（八二二米）を頂點として眞北に傾斜せる一村なり。南北約一〇粁。東西の幅は北部海岸に於て約三粁の細長き村なり。東に土黒村、西に西郷村あり。雲仙岳の灰層北方へ緩かに褶を引き、淺き數多の放射谷北に向ひ、北東部に僅かに低地開く。海岸は單調にて邊淺なり。この放射谷及び低地に田畑拓け、甘藷・小麥・粟等を產し、牛馬を牧し養蠶行はる。一方粁の人口の密度二八〇人を算し、長崎縣下最密の臨海人口群を形成する島原地方の特徴を示す。されば附近町村と共に一般に西肥地方に珍しく富める樂天的なところなり。北部海岸に沿ひて縣道通り社線島原鐵道これと並行し神代町驛（大正元年開業）あり。此地は西郷村・土黒村・多比良町と共に和名抄高來郡神代郷の地に當る。蓋し村名はその遺稱とす。和名抄は加無之呂と訓ずるも、村名はいま專らコージロと讀む。村内の上古賀名・山ノ上名・片田名の地は雲仙國立公園の内に屬す。

【神代村】　山口縣周防國玖珂郡の南東部にある濱海の村。西及び北は鳴門・日積・由宇の諸村に包まれ、東南は瀬戸内海に面し、大島海峡を隔てて大島郡の屋代島と相對す。面積は一方里五八八、戸數七七八、人口三四六二（昭和十年）。地勢は海岸線に並行して山邱相連なり、海濱並に其の他には平地あれど狹小なるをもつて、耕地は比較的多からず。されど海上の交通風に開け、從つて古き歴史を有し、村名神代のごときも、神稲代の轉にて、蓋し稲の字の省かれしものともいはれ、古く神祀と關係ありし土地のごとく思はる。天文二十年の文書に神代保といひ、寛永八年には神代保村と書せり。神代の稱については、神稲代に基づくといひ、一に延暦年間に一信者、泉州堺に佛庵する住吉明神の神宣により、住吉明神を此の地に勸請し、爾後神代と稱せりともいはる。源平時代以後には、秦族神代氏の據有する所となり、建武年中、神代彦五郎健治なるもの足利尊氏を援けて戰功ありしこと傳へられ、大永三年には大内氏が宗設を明國に遣はすや、神代源太郎（水軍の將なるをもつて、警固の任に當れるものか）なるもの其の一行に加はり、事によりて死を賜はりしこと文獻に見ゆ。その後天文十年神代氏は大内氏に屬して藝豫海上に戰ひしことあり。弘治元年の陶晴賢の亂には、神代氏また其の海戰に參加せしこと後大平記に出づ。要するに神代氏は、累世この地を根據とせる所謂大島海賊名家の一にして、夙に海戰の術に長ぜしものなり。神代氏は陶晴賢滅亡の後毛利氏に隷し、子孫連綿以て今日に至る。本村そのものは、徳川時代には岩國藩領にして、由宇組に屬し、由宇組代官の支配を受けしが、明治四年代官を改めて部署と稱し、同五年村は岩國支藩の所屬となり、郡區制の布かるるや、一時大島郡の管轄に屬し、同九年玖珂郡に改屬し、二十二年市町村制の實施に伴ひ、爾來神代村と稱し、以て今日に至れり。村の南には梅井線の大島驛あり、大島に至る渡船場とす。また村内の南ケ濱に海水浴場あり。物產は米・麥・鶏卵等を主とし、外に多少の海產物も出す。附近の山中に觀音の巖窟の跡・滑り岩・烏帽子岩・鬼怒り岩・多賀の立岩及び鏡岩・横巖の獅子岩等探るべき地多し。（正八幡宮）山城國石清水八幡宮の分靈にて、祭神は仲哀・應神の二帝、並に神功皇后なり。創立の年代判明せざれども、明治六年、郷社に列せらる。（大磯磐若寺）大島の瀕にして、屋代島の飯ノ山に最も近接せるところ、之を迫門といひ、ここに五個の礁あり、之を大磯と稱し、滿干潮の波激しく、舟人の古來苦しめるところとす。傳へいふ、欽明天皇の御宇、用明天皇が御母穴穴部の宮と稱せられ給ひしとき、筑紫の長者の娘弊若姫を寵愛させ給ひ、之を郷に遣へさせ給ひける際、この迫門にて御舟は進退に窮したれば、これ龍神の所爲ならんと思召し、茲に祠を御屋敷といふところに沈めさせられ、後御嘆き一入深く、この處、伊保ノ庄の峰上に一宇を建立せられ、磐若寺といふ觀音の觀宸筆あらせられしとの口碑あり。（瀧の觀音堂）その瀧は世に岩尾の瀧と稱せられ、直下三十五尺、幅一丈五尺、瀧壺約二十五坪、瀧の傍に觀音堂あり。昔、延暦年間傳教大師、住吉明神の神託に依つて當地に來り、住吉明神を祀り、且つ自ら觀音像を彫刻して安置す。その後元和六年、洪水に依つて當時の觀音像は流失し、現在のものは光明寺の本尊を率安せしものと傳ふ。

コーシン　江津面　朝鮮全羅北道任實郡の西南端。東は徳峙・青雄兩面に、北は雲岩面、西は蟾津江を隔てて井邑郡山内面に相對し、南は淳昌郡龜林面に各相隣接す。北境には道莊山（七五四米）西南境には圓文山（七七五米）相對峙し、兩山脚の中央に於て相交る所、溪谷を成し南流して蟾津江に合す。城内極めて平地に乏しく、耕地は山腹の緩斜面を開墾せるため灌漑不利にして、主畑作農業營まる。產物は大麥を主とし米・大豆・煙穀・煙草・綿花等あり。道路は南境に近き面邑萬澤里を中心として、二等道路は東北方任實邑・南方淳昌・南方全州に各連絡して、乘合自動車を通じ交通極めて便なり。聚落は散在的に分布し白蓮里・鶴石里・文方里・玉井里・笠峯里・官興里等をその主なるものとす。

コーシン　庚申山　那須火山脈日光火山群に屬する一峯。栃木縣上都賀郡足尾町の北西嶺なり。標高一九〇一米。北西稜は直に皇海山（二一四四米）に連り、南西稜は袈裟丸山（一八七八米）を經て赤城山に續く。東斜面より渡良瀬川の上支久蔵川の一支發源す。山體火山岩より成り、山中奇岩怪石多く證ぶ者跡からず。この山は元祿の頃、都賀郡の醫師佐野某なる者藥草を採らんとしてここに來り、美景を人々にも知らせんとし、登路開かるるに至れりと云ふ。文政三年夏の頃、上總の人三橋臣彦なる者「庚申山記」と云ふ紀行文を著したり。庚申の名は昔時山中に白猿棲みしと云ひ、又山中に猿の形に似たる岩石あり、見ざる、聽かざる、云はざるに似る故とも云ふ。登山は足尾線足尾町駅より東北に向ひ、渡良瀬川を渡り、庚申山川に沿ひ、途中天狗の投石と呼ぶ安山岩の累々たる場所を過ぎ、かがみ石等を見つつ社務所に至る。それより百間幕と稱する絶壁、寶珠岩・三十三間堂と呼ぶ岩壁、其の他鮭石・葺石・椿石等を眺め、裏見ノ瀧に至る。この附近には大文字草・雪割草等の群落あり。更に五色岩・二十六夜の岩戸烏帽子岩・仙人岩を過ぎ、高天原と稱する見晴に至る。それより一ノ門・蛙ノ番人等の奇岩を經て富士岩に達す。ここより富士山を望み得るに因り名付けらる。富士岩より道は分れ、一は千丈ケ窟なる行者の靈場へ、一は胎内くぐり・親不知・扇岩を經て庚申を祀る岩戸に着す。ここより最高峯劍ケ峯に至る。山頂よりは南方に筑波山、南西方に富士山、脚下に關東平野を望む。この山は指定の高山植物地帶にして、いはどんだ・つるどんだ・いはきんぱい・どぜんたちばな・つまとりさう・みやまかたばみ・わうれん・みつばわうれん・つるつげ・つるりんだう・しやくなげ等の群落を見る。又世界の珍草、庚申草はこの山に於て始めて發見せられたり。又この山は馬琴の里見八犬傳により有名となれり。この山の八入、秋の紅葉は特に美し。此山より北西の皇海山へは尾根傳ひに至り得。里見八犬傳・六ノ五上「抑赤岩庚申山は、下野州安蘇郡にあり、二荒山と相距ること、西のかた七里にして、ここよりは路五里にあまれり、さればこの網苧の里よりゆくこと十町あまりして前凸の山路也、既にして登ること二十町にして横に至り又下ること十町也、この所より銀山まで、一里の間水源を傳ふ。路の苦辛はいふべくもあらず、かくて又登りゆくこと、大約三里あまりして庚申山第一の石門に到るべし。土俗これを庚申山の胎内寶と呼做したり。壺化自然の石門にして、その廣きこと方十間、この處より進み入ること、二十間許にして、左右に建る大石あり、高各五六丈、その形二王の如し……傳聞く宗岩庚申山

は千鹿嶋神代に稚日女尊・経津主神・武甕槌神・素盞嗚尊・猿田日子・倒三柱の太神・神議に相謀給ひて、件の山に登らせ給ひ、石を穿て宮を造り、橋を渡して路を通し、住せ給ひし神迹也」

コーシン 幸震 しん 北海道十勝國河西郡大正村の大字。省線廣尾線の幸震驛（昭和四年設置）あり。

コーシン 康津 しん

【康津郡】 朝鮮全羅南道の南部。道管内二十一郡の一。東は長興、北は靈巖、西は海南の諸郡に夫々隣接し、南は海峡を距てて莞島郡の諸島嶼を望む。郡は南北に長き楕圓形をなし、中央部を北に向つて康津灣深く彎入し、東北西の三境ともに小白山脈の餘勢延びて成す山地に圍まれ、北境の月出山（八〇九米）最も秀峻なり。これ等の山地中央より康津灣に向つて傾斜し、耽津江これに注ぎ、その兩岸と北部の支流流域に平野を拓く。この低地は地味肥沃にして灌漑の便に富み、最も米作に適す。其他農産には麥・大豆・綿花等あり、工産には木綿・絹布・鐵器等あり。水産には食鹽・石首魚・太刀魚・貝類・海苔等多し。交通は康津を中心として四方に道路を通じ、北部にも隣接諸郡を通ずる良路走る外、南朝鮮鐵道線の寶城驛より分岐して郡内に入り、西方木浦に通ずる鐵道豫定線あり、郡内の交通頗る整備せんとしつつあり。行政上、康津・城田・鳳川・長興・郡東・大口郡か三面に分ち、郡廳を康津面に置く。

【康津邑】 朝鮮全羅南道康津郡の西北部。東は郡東面、北は城田面、西は海南郡の溪谷・玉泉の二面、南は道岩面及び耽津江河口の喇叭狀入江をなす康津灣に相對す。地勢、西南境に瑞氣山（五一一米）及び、南境に萬德山（四〇九米）の聳立する外は著しきものなく、殊に康津灣々頭地帶頗る低平にして、干潮時には南方七軒の竹島附近まで淺堆を露はす。氣候溫暖にして海風の關係上比較的夏季涼しく、冬季溫暖にて、農業に適し内地人の移住せる者多し。産物は米・麥・大豆・綿花を始め工産物に綿織物・明紬・鐵器・銅器等具等あり。交通、道路は康津邑を基點とし東方長興、西方海南に至る二等道路、北方靈巖、南方馬良里に至る三等道路は改修され、各線定期乘合自動車を通じ交通頗る便なり。康津灣は潮水干滿の差二・五米餘に達し、水減退時は船舶の碇繫不便なり。邑は人家稠密商業盛にして市場は東門外にありて、陰曆四・九の日に開き附近村落より來集するもの多く、市場圏大にて取引額・康津・海南兩郡中の首位にあり。邑内には郡廳・警察署・郵便局・地方法院出張所・靈業傳習所・小學校等あり。昭和十二年六月邑制實施。

コージン 好仁面 じん 朝鮮咸鏡南道三水郡の東北部。鴨綠江の上流惠山鎭の西南約一五粁にあり。東は別東面、北は鴨綠江を隔てて滿洲國に相對し、西北は江鎭面、西は自西面、南は禮水面に各隣接す。西境には一〇〇〇米以上の秀峯連亙し山岳重疊するも、東半部は玄武岩の熔岩臺地にして高原狀を呈し、針葉樹林の林相美を以て掩はれ、鴨綠江森林地帶の重要地區を形成す。氣候寒冷、冬季積雪一米以上に及び、嚴寒の際は零下三〇度に達することあり。産物は大麥・燕麥・豆類・粟・玉蜀黍・馬鈴薯・蕎麥・毛皮等にして鐵産に砂金あり。道路は東方惠山鎭より長津邑に通ずる二等道路域内を東西に横斷する外は、何れも等外路線にして、道幅狹く急峻坂路多く交通便ならず。面邑は農坪下里にして三水川左岸にあり、其他聚落は火田民の永住化せるもの多く散村聚落を成し戸口稀疎なり。

コージン 洪仁面 じん 朝鮮咸鏡南道永興郡の中部。東は德興面、北は長興面、西は福興面、南は順寧の諸面に相隣接す。龍興江北及び東境を流れ土地頗る低平農業に適す。住民は農を主業とし、副業としては養蠶業盛に行はる。産物には大豆最も多く米・麥・粟・麻等あり。鐵道咸鏡線は面の東部を縫貫し、永興驛にて急に東方海岸線に沿ひ大曲線をなし、道路は永興邑を中心として北方定平、南方高原に至る一等線、柳烏より邑内を經て平安南道に至る二等線等ありて交通の要衝をなし、郡廳・地方法院支廳・警察署・憲兵分隊・郵便局・農學校・小學校・金融組合・大豆檢査所・機業傳習所・山下鎭業會社等あり。

コージン 荒神 じん

【荒神山】 奥羽火山脈に屬す。仙臺市の北西方三十七粁前後に當り、東斜面は宮城縣加美郡小野田村に、西斜面は山形縣北村山郡大倉村に跨る。標高一二七〇米。山頂に火口あり。全山火山岩より成る。西斜面より丹生川（最上川支流）の一水源流出して、直に本流に注ぎ東斜面より鳴瀬川の一支源源す。

【荒神山】 滋賀縣愛知郡の北部。琵琶湖畔にある山。稗枝村に屬す。また平流山ともいふ。山中に奥山寺あり、行基四十九院建立の時その奥院とせりと傳ふ。

【荒神岳】 高野山の東方、奈良縣吉野郡野迫川村西鎗郡に峙ち、西斜面に和歌山縣伊都郡との境界線走る。標高一〇〇〇米餘。北麓は陣ケ峯（一一〇六米）に續き、南方は十津川支流、川原樋川を距てて伯母ケ岳（一三四二米）・護摩ノ壇山（一三七〇米）聳ゆ。

【荒神山】 岡山縣津山市の南部にある丘阜。東麓を吉井川南流す。山頂に城址あり。元亀中宇喜多氏の磐花房職秀の居城たりしところ。

コーズ 上津 つ

【上津村】 三重縣伊賀國名賀郡の東北隅。鈴鹿山脈の延長布引山脈の西斜面の地を占め、阿山郡上野町を距たる東南約一三粁。阿保町の東に接し、西北に神戸村・比自岐村・阿山郡布引村を繞らし、南に矢持村あり。東は布引山嶺を界として一志郡倭村に隣す。現在は伊勢地・下川原・北山・勝地・妙樂寺・鹿の六ケ大字に分る。東境を南北に連亙する布引山脈緩傾斜をなし西に下り、伊賀川の支流長田川東北山地に發源して、村の西南隅に神戸原を作り阿保町に流れ入る。全村山地廣きも、耕地よく拓け、西南水利よき低地には伊賀米の産あり、農・林を生業とす。現在戸數三二〇戸中、農二五三戸、工八戸、商十二戸、自由業一五戸、其他三二戸なり。西北方上野町及び東南方名張町方面より阿保町に來る縣道は更に東に延びて村の南部を貫き、東境の青山峠にて布引山脈を越え、伊勢平野の久居町・津市方面に通ず。參宮急行電鐵は青山峠のトンネルを過ぎ西南方名張町方面に至るが、村内にその參宮上津驛・西青山驛（共に昭和五年設置）を置き交通不便ならず。この地は和名抄伊賀郡阿保郷の内にして、東大寺の康平七年の古文書に阿我郷上津阿保とあるは此地なり。大字伊勢地は伊勢路の義にして、天武紀に見ゆる伊賀驛家とは此處なり。いまも此處より東阿保山を越えて、一志郡倭村大字垣内まで山徑一六粁にして大峠あり。惟ふに天皇御東行の時は名張より此處に至り、東臨を果さず中山に還り、更に柘植路を取り給へるものか。天武紀・元年春三月「大伴朴本連大國為讒者之首、則悉喚令之從屬、亦徵美濃王、乃參赴而從矣、運之湯休之柔、伊勢國獄五十西、遇、於英田郡家頃、仍皆棄米而令乘之步者、到大野、以日落也、山暗不能進行、則壞取當邑家籬、焼燭、及夜半、到壓郡狹壓驛家、因喝邑中曰、天皇入東國、故人夫諸參赴、然一人不肯來矣、將及横河、有黑雲廣十餘丈、經空天、時天皇異之、則駐燭親乘式占曰、天下兩分之祥也、然獲逢得天下、敷、即急行到伊賀郡、焚伊賀驛家、逆之于伊賀中山、而當國郡司等率數百來、歸焉、會明至、子萩野、暫停、翌朝進食、到積殖山口、高市皇子自鹿深越以遇之、民直大火、赤染造徳足、大藏直廣隅、坂上直國麻呂、古市黒麻呂、竹田大德、膳香瓦臣安倍乾駑、越大山至伊勢鈴鹿」本居宣長菅笠日記・青山峠「そこを過ぎて、垣内といふ宿へ一里半、そのかいとをはなれて、阿保の山路にかゝるほど、又甫ふりいでて、いとわびし。をりしも雲のなきけるを聞きて、旅衣たもとほりてうぐひすとわれとそなかめ春雨のそら。ゆきゝてたむけにいたる。こゝまでは壺志郡、こゝよりゆくさきは、伊賀の國伊賀の郡なり。おほかた此山路は、かの過ぎこし垣内より、伊勢地といふ所まで、三里がほどつゞきて、ゆけど〳〵はてなきに、雨もいみじうふりまさり、日さへ暮れはてて、いとくらきに、しらぬ山路をわりなくたどりつゝゆくほど、かからでも有りぬべき物を、なにに來つるんとまで、いとわびし。からうじて伊勢地の宿にゆきつきたる、うれしさも又いはん方なし。そこに松本なにがしといふもののの家にやどりぬ」「瀧仙寺」 大字瀧村にあり。新義眞言宗豐山派。南嶽山と號す。往昔此の地に大伽藍あり、天正の兵燹にかかり悉く燒失す。時に本村瀧三河守康則の弟勇印房宥海、大和牛ケ峯に住職たりしが、墳墓の因みにより牛ケ峯の本尊を奪し歸り、境内に一宇を草創す、のち宥祥法印靈夢により今の地に堂宇を移し南嶽山瀧泉寺と號す（後泉を仙に改む）。文政年中火災に罹り、のち再建す。

【上津村】 大分縣豐前國下毛郡の中部。山國川の右岸。耶馬溪の一部を占め、山國川河口にある中津市の上流約一六粁にあり。北東部は東耶馬溪村に隣り、南は東谷村・西谷村に界し、西は耶馬溪村に接す。東半は約五—六〇〇米の山地、西部には西南境の大嶽（六三〇米）より北に延びる低き山地あり、東西兩山地の中間には南北に谷地ひらけ、南方より流れ來る山國川の支流ここを北流して北境にて本流に合す。此邊の溪谷は有名なる耶馬溪にて集塊岩を彫刻せる奇岩・怪岩の奇景を呈し、青洞門は村の北部山國川右岸の懸崖を穿ちて通ぜる道路なり。中央の谷地に稗地拓け米・小麥・裸麥を產し、養蠶も行はる。山國川に沿ふ縣道、北部を掠め中津・日田間にバス通じ、山國川の對岸には耶馬溪鐵道通じ、その羅漢寺（東耶馬溪村曽木）より村内の大字跡田にある羅漢寺へもバスの便あり。此地古くは和名抄下毛郡山國郷の内に屬せしものの如し。いま折元・跡田・落合の三大字より成り折元に役場を置く。

コーズ 公津村 づ 千葉縣下總國印旛郡の中部。印旛沼の東岸に位し、成田町の西隣なり。東部より南部にかけて低き丘陵地を成し、北部より西部にかけて湖岸の低地にして水田あり。米・麥・繭の產多し。縣道・省線成田線及び京成電車線は村内東南部を横切りて成田町に通ず。この地は和名抄、印旛郡八代郷の地にして近世は公津郷と稱せり。本内宗吾出生の地として著はれ、その墓所東勝寺は今尚ほ香火絶ゆることなし。また印旛國造の伊都許利命の墓・藥師寺・總社麻賀多神社・甚兵衛渡等の名所あり。大字船形には天正年中船形越前守風信の居城なりと傳ふる城址あり。「麻賀多神社」大字臺方に鎭座。總社。祭神、稚産靈神。社傳には神武天皇御宇に土民の勤請に係るとなし、此地の麻を產せるを以て麻縣と云ひ、社名これに因む。のち麻賀來りて專基をなすに及び、住民四散して社運もまた衰頽せしが、景行天皇五十三年東國巡幸あるや社運再び隆盛となり、成務天皇御宇は神鏡を以て御神躰とせしが、のち紛失し、現在は神石七箇を以て之に充つる由なり。延喜の制に小社に列せられ當國十一座の一なり。往古は社領

多くして七家の祠官これを分掌せる程なりしが、天慶年中平將門亂を起し悉くこれを没收す。承應三年までは除地たりしも、其後は然らずして賦課傾くに至る。例祭、七月三十一日。摘粥祭（一月十五日）・宮廻祭（七月三十一日）等の特殊祭典あり。（正願院）　大宇江辨須にあり。新義眞言宗豐山派。本尊大日如來。草創年代不詳。同村東勝寺末。境内唐讃にして虚空藏堂（二間半四面）あり。行基菩薩作虚空藏菩薩を安置す。靈驗甚だ顯著にして、特に婦人の安産・小兒の健全を守護すと稱し、參者頗る多し。もと千葉氏の祈願所にして、村内殆ど法華宗なりしため檀家を有せざりしが、いま檀徒五十八戸を有す。（東勝寺）大宇下方にあり。新義眞言宗豐山派。鳴鐘山と號す。坂上田村麿、東夷征討の際に戰死者供養の爲に創建せられたるものと傳ふ。祐澄之を中興す。明和四年京都智積院の談林所となり、明治三十一年準別格本山に昇格す。寺域に宗吾（佐倉）靈堂あり。四時參者絶えず。（藥師寺）　大宇給形にあり。新義眞言宗豐山派。本尊行基菩薩作藥師如來、草創及び沿革不詳。寺寶に旗曼荼羅（古版木）及び慶長元年鑄造の梵鐘あり。寺域丘陵に據り、印旛沼を右にし、後方に宗猛を跳めて風景甚だ佳絶なり。（伊都許利命墓）　命は印旛國造の祖、その墓は大宇給形の手黑山の麓にあり。周圍約一一〇米、高き約七米、小山の如し。墓の上に小祠あり、金刀比羅を祀る。南の方に少し開けし所あり、石脚少しく見ゆ。また附近に給塚あり、蓋し給方塚の略にして給方の名の起れる所なり。これまた國造の墓なるべし。（佐倉宗吾）　本名・木内宗吾。農民としての行爲を戲作者が幕府を憚り佐倉宗吾として發表せしより、本名よりは却つて通稱により知らる。宗吾は下總國公津村の人、代々農を業とし百餘箇村の割元名主を勤む。寛永十九年堀田正盛下總佐倉城に封ぜられ十三萬石を賜はるに及び、幕府の方針に從ひて新税法を勵行す。その結果、（一）買米の口米こぼれ米の枡目を增し、（二）歴田檢地を嚴にして發税し、（三）怠納者は手鎖村預としてその責産を没收し、なほ不足の時は一村の責任として辨償せしむるることとなれり。村民はこの新法に對して反動的に愈〻怠納をせしが、殊に前年凶作の後をうけたることとて、領内は布令以來騷然たるものありき。元來宗吾も新法に不滿を抱き居りしも、その改正を要求せんとする前に、先づ自己の責を果さんものと、わが割元村々民の怠納を一切辨償せしため自らの責産を少からず失ひき。併し他の割元村内には憤怒の聲が充ちたるを以て、宗吾は他の名主と共に之が怠納處分の中止を代官所へ出願す。然るにその返事未だ來らぬ内に次の納税期となり、再び村内給奏を練む。宗吾此度も自己割元内の未納者のため、肆償せしかば家産を傾く。しかにる他の村民等遂に蜂起して遂に割元名主を襲ふに至る。ここに於て宗吾一方これを制すると共に、他方にては各村名主等と共に百方奔走せしが、農民の憤怒容易に治らず、終に佐倉へ押寄せんとする情勢を示すに至る。この報に接せし代官所は大に狼狽し、直ちに總代を以て願ひ出づべき旨を命ぜしため、宗吾等六人命を奉じて佐倉へ上る。しかるに官憲は宗吾等强訴に同意したりとの理由に依り、却つて被等を郷宿久右衛門預とし、願の筋は追つて沙汰すべしとのことなりき。時に正保元年十二月。しかるに翌二年二月下旬に至り不許可の噂を耳にせし宗吾は、他の名主と共に當時老中職として江戸滯在中なる領主に直訴せんと主張し、一同はこれに加擔せしが、中に郡方役所預の身なりとて、躊躇せるものもあり、ために決然宗吾一人その夜密かに江戸に發つ。先づ町宿に落著きし後、直訴の機會を待ちゐたりしが、當時領主堀田の上邸は御城近くあり、殊に役邸なりしため雜人として憚りあり、如何せんかと心を痛め居りき。三月四日、將軍家光限田川筋に鷹狩を催すに當り、堀田を從へ同家下邸へ立寄ると聞き、好機逸すべからずとなしてこれを待構へ、「お願ひ申す御願ひ申す」と叫びつつ豫て用意せし直訴狀を差出し大地に平伏す。堀田家に於ては事情を聽取したる後、宗吾を佐倉へ送還し獄に投じ、一方村々の狀態を取調べし結果、その結果意外にも百姓の願意一も聞屆け難しと決す。かくして宗吾は（一）擊手に私法を行ひ、（二）强訴總代として佐倉へ上り、（三）宿預け中に出奔し、剃へ越訴を企てし罪により死罪に問はる。然してその妻子は親戚預けとなり、他の名主五人は何れも追放處分を申付けらる。宗吾獄刑の後七年を經て、正信の代に至り父正盛の小罪怠を過せしのち赦を行ひ、宗吾の餞を那祭するを許し、その親戚の者に家名再興をも許可す。その舊邸今も保存せられ、その靈廟亦香煙絶ゆることなし。

コーズ　高津（たかつ）　大阪市南區高津町附近の總稱。卽ち天王寺の北より聖堀町に至る間をいふ。往昔の讃揚の地。孝德紀の蝦蟇行宮とある地は卽ちこの地に當り。蝦蟇はやがて轉化して高津となりしものならん。今生國魂神社・高津神社・圓珠庵等あり。仁德紀に見ゆる高津宮は此處とは別。心中重井筒・下「あれ見返れば人羣の、我を尋ねて高津の町を、急ぎ過る鯖口や、顧みをかけし御經の、この三界の衆生は皆これ吾が子と聞く時は、親諸共に到るなりけり」攝津名所圖會・四下「高津社。西高津にあり……此社頭は道頓堀の東にあたりて一堆の丘山なり、遙に眺めば大阪の市街の萬戸、川口の歸帆、住よしの里、住吉の浦、敷津、三津の浦まで、一圍の中にありて難波津の美觀なり」

コーズ　神津島・上津島（かうづしまかみつしま）　神奈川縣相模國足柄下郡の東北部。相模灣に臨む。小田原町の東北隣に位す。面積二・八七平方粁。町の西境は小田原町との間に酒匂川あり。町の大部分はその流域の低地にして水田多く、東隅は丹澤山塊に續く丘陵地の南端をなす。海岸は砂濱をなす。東海道及び省線東海道本線東西に通り、國府津驛（明治二十年設置）を置く。また省線御殿場線の分岐點なり。この地は近世、足柄下郡成田庄の内にして、町名の起原に就ては未だ詳かならざるも、隣郡の國府村に國府ありしも、荒磯にて舟運の便を缺きしかば、此地を津卽ち港とせり。よりて此名ありと。大正十三年町制を布く。新編相模國風土記にも、隣郡淘綾の屬に、國府本郷あり、古へ府廳の所在地にして爰より二里ばかり距離あるも、彼地の海濱は荒磯にして艤舟の便惡しければ當所を以て彼の國府の津港とせし事ありてこの地名起りしにやとあり。國府津を古宇郡と唱へしも相當古く、重須本曾我物語及び太平記には古宇津とあり。往時は東海道の宿驛なりしものの如く、重須本曾我物語に古宇津宿と見え、應永年間の鶴岡文書にも國府津宿とあり、また天正の頃はこの地は田島郷に屬せしといふ。建久年間に至り曾我祐成兄弟父の讐を復せんとて此邊にて工藤祐經を狙ひし事あり、また觀應二年足利尊氏、直義誅罰の爲め鎌倉へ下向の途次、この地に陣せしこと太平記に見ゆ。文和元年、新田左兵衛佐義興・脇屋左衛門佐義治は鎌倉にありて、尊氏の兵の攻め寄せ來ると聞き、此地の深山に引籠りしといふ。應永二十三年に上杉禪秀が亂をなせし時、京都より討手の軍勢及び鎌倉勢・今川勢が此邊に陣取りきといふ。その頃この地に關門を設け、稅金を取り立て、それを以て鶴岡八幡宮の修理料に充し事あり、文龜二年、宗祇法師が鎌倉より駿河に至れる路次に病に罹りて當所に一宿せること宗祇終焉記に見ゆ。永祿四年三月に上杉輝虎小田原に發向の際、北條方の諸士は此處に待構へしことあり、同十年武田信玄が小田原に亂入の時、此地及び酒匂の邊まで、押し寄せしことあり、天正十八年、大久保七郎右衛門忠世この地を賜はり、文祿三年その子相模守忠隣襲封し、慶長十九年幕領となり、近藤石見守秀用支配し、元和六年阿部備中守正次に賜ひ、同八年再び幕領となり、寛永九年結城丹後守正勝に賜はり、同十一年その子美濃守正則、天和三年その子丹後守正通襲封し、貞享二年大久保加賀守忠朝に替へ、元祿十一年嫡子加賀守忠增が封を襲ひ、寶永五年に一旦幕領となり、享保元年加賀守忠都の時に舊領に復す。萬治二年稻葉美濃守正則の檢地ありき地なり。（鶴樂寺）　貞宗大谷派。勤山信樂院と號す。貞永元年、親鸞常陸より歸洛の途次、暫く當地に草庵を結びて化導に從ふ。これ當寺の濫觴なり。當時この地に靈石ありしが、親鸞これに十字及び八字の名號を書す。のち本寺一時廢絶せしが、永祿二年再興さる。寺寶に自作親鸞木像一軀・親鸞筆十字名號一幅等あり。尙ほ本寺東方に勤堂なる一宇あり。親鸞教化の舊蹟なりと傳ふ。

コーズイ　興水（こうすい）　朝鮮總督府鐵道局京義本線の一驛（明治四十一年設置）。朝鮮黃海道鳳山郡龜灘面にあり。

コーズイ　香醉峠（かうすい）　奈良市の東南方約一五粁に當る峠にして、最高點は奈良縣宇陀郡榛原町と山邊郡都介野村との境界に跨りて、標高五五九米。この峠附近は昔日都より東國へ通ふ往還東道の要地にして、今も笠置に到る驛道に當る。山麓附近は神武天皇の御鳴業にもいはれ深し。

ゴーズイ　合水（がすい）　朝鮮總督府鐵道局惠山線の一驛（昭和八年設置）。朝鮮咸鏡北道吉州郡鳴社面にあり。

コーズイコー　紅水溝堡（こうすいこう）　臺灣臺北州羅東郡の舊堡名。今の冬山庄の東部宜蘭線鐵道沿線一帶の一區にして給め同地に古居せる平埔蕃打那美（タナビイ）社の名に因み鄭奬堡と稱し、清嘉慶七年福建省漳州の移住者は先着の廣東人を驅逐して、冬山附近を根據地として麻埔・順安はその最も繁榮せる部落なりき。同治十三年那美堡を紅水溝堡に改稱し、我國領臺後も繼承されしが、大正九年制度改正を以て廢止さる。

コーズケ　上野（かうづけ）　【上野國】　東山道十三國の一。關東平野の北西部に位し、北は越後國、東は下野國、南は武藏國、西は信濃國に境す。この國もと下野國と共に關東平野の北部に横はる毛野國たりき。のち毛野國は上・下二國に分たれ、上毛野（かみつけぬ）・下毛野の二國となりしが、奈良時代の初め地名はこれを必ず二字とし、且つ美名を附けさせしため、かく改めらる。卽ち文字を書く時毛の字を省き上野國とし、讀む時は野の發音を省きてカミツケノクニとなり、普通によりカウツケと稱す。この國は早く崇神の朝に皇子豐城入彦命をして鎭めさせられしことあり、國造本紀に據れば仁德の朝毛野國を分けて、上下二國となすとあり。もと十三郡ありしを奈良朝時代に多胡郡を置きて十四郡となす。當時國府は群馬郡の今の國分村にあり、平安時代の初めこの國は上總・常陸と共に親王任國の一たりき。卽ち長官は太守といひ、親王任命せらるるも任に赴かず、次官が國務を行ひたりき。源頼朝の鎌倉に起るや、新田義重この國にありて抗せしが、のちこれに服す。鎌倉時代は安達盛長この國の守護となり子孫世襲す。元弘年間義重の裔新田義貞義兵を擧げ、建武

中興の時の功を以て上野の守護となる。次で足利尊氏叛するに及び、新田氏の領を奪ひこれを上杉氏に與ふ。上杉憲顧のとき群馬郡白井城（群馬郡長尾村大字白井）に居り、子孫相次ぎて常は鎌倉ノ山の内に居りしため、世に山内上杉と稱しき。されば領國の政治は家宰の長尾氏を守護代としてこれに委ね。その後上杉憲實、時の鎌倉公方持氏と隙ありて白井に退きしが、遂に永享の亂となりて持氏滅ぶ。憲實のち出家してその弟清方鎌倉を御す。持氏の遺孤、成氏が公方となるに及びて、父の仇として憲實の子憲忠を殺す。憲忠の弟房顧本州を以て、成氏に叛き、將軍義政に請ひて關東管領と稱す。のち、子顧定の時に至りて、藤野郡の平井城（今の多野郡平井村大字西平井）に移る。天文年間、北條氏康大軍して攻め來り平井城を陷れ、上杉憲政を越後に走らせ、上野の東半を占領す。憲政即ち管領家を長尾景虎に讓る。ここに於て山内管領家を相續せし上杉謙信は、翌年越後を出で平井城を復し、永祿三年厩橋・沼田の諸城を屠り、大體國の東半を平定す。平井城は地の利宜しからざるを以て、これを廢し厩橋城に據る。天正五年上杉謙信歿し、此國一時は武田勝頼の手に歸す。天正十年織田信長、武田勝頼を滅ぼすに及び、滝川一益を關東管領として厩橋（前橋）に居らしむ。次いで信長の本能寺に弑せらるるや、一益城を捨てて西上し、同國悉く北條氏に併合せらる。天正十八年北條氏滅亡し、德川家康江戸に移るに及び、關東八州を平定して、譜代の諸將を各地に封ず。即ち平岩親吉を厩橋に、井伊直政を高崎に、榊原康政を館林に、本多忠孝を白井に、眞田信幸を沼田に居らしめ、その他封を得しもの少からず。關後諸侯の封を受け、或は轉免されしもの數ふるに遑なく、幕末に至り左の九藩ありき。即ち那波郡の前橋藩（松平氏十七萬石）・群馬郡の高崎藩（大河内氏八萬五千石）・利根郡の沼田藩（土岐氏三萬五千石）・碓氷郡の安中藩（板倉氏三萬石）・佐波郡の伊勢崎藩（酒井氏二萬石）・北甘樂郡の小幡藩（松平氏二萬石）・七日市藩（前田氏一萬石）・多胡郡の吉井藩（吉井氏一萬石）・邑樂郡の館林藩（秋元氏六萬石）等なり。明治元年六月幕府の直轄地なりし群馬郡の岩鼻に縣が置かれ、これが二年十二月吉井藩と合併せらる。明治四年の一般廢藩置縣の際に吉井藩を除く他の八縣は何れも縣となり、館林縣を除く他の七縣は前記の岩鼻縣と共に一旦廢せられ、更に群馬縣が置かれて上野の八郡を治め、舊館林侯領の新田・山田・邑樂の三郡は栃木縣の管轄に移る。六年五月に群馬縣は一旦廢せられ、その區域は入間縣の所管となりしが、九年八月二十一日に至り群馬縣を復し、同時に武蔵國に屬せる諸郡はこれを埼玉縣の所管に移し、栃木東の所屬たりし上野國の三郡を復し、ここに至りて上國一國全部群馬縣の管轄となりて今日に至る。而して郡の廢合は明治十三年五月勢多郡を南北に、群馬縣を東西に、甘樂郡を南北に分けしが、更に二十九年四月大に郡の分合を行ひ、大體利根・北勢多二郡を利根郡に、南勢多・東群馬二郡を勢多郡に、西群馬・片岡二郡を群馬郡に、緑野・多胡・南甘樂三郡を多野郡とし、佐位・那波二郡を佐波郡とし、今日の十一郡になれり。崇神紀・四十八年四月「立二活目尊一、爲二皇太子一、以二豐城命一、命レ治レ東、是上毛野君、下毛野君之始祖也、」景行紀・五十五年二月「以二彦狹島王一、拜二東山道十五國都督一、是豐城命之孫也、於到二春日穴咋邑一臥病而薨之、是時、東國百姓、悲二其王不レ至、竊監二王尸一、葬二於上野國一、五十六年八月、詔二御諸別王一曰、汝父悔狹島王、不レ得レ向二任所一而早薨、故汝專領二東國一、是以御諸別王、承二天皇一、且欲レ成二父業一、則行治之、早得二善政一、時蝦夷首帥、足振邊、大利振邊、遠津閇男邊等、叩頭而來之、頓首受レ誅、悉獻二其地一、因以免降者而誅二不服一、是以東久之無事焉、由レ是其子孫於二今有一東國一、」國造本紀・「皇子豐城入彦命孫彦狹島命、初治二平東方十二國一爲レ封、」續日本紀・和銅元年三月「從五位上田口朝臣益人爲二上野守一」日本後紀・弘仁二年二月「上野國元上國、今改爲二大國一」類聚三代格「大政官符　應二親王任二國守一事　上總國　常陸國　上野國　右檢二中納言從三位兼行左兵衛督清原眞人夏野奏狀一偏（中略）望請、點二定數國一爲二親王國一、選任二彼國一、身留二京都、直欲レ居二京官一者、一兩人將レ聽、若有二守國一者、不レ補二他人一、其料物者納二官別倉一、支二光品親王之要一、伏聽二天裁者、正三位行中納言兼右近衛大將春宮大夫良峯朝臣安世宣、奉レ勅依レ奏、但件等國府官位準下、天長三年九月六日」日本紀略・天長八年正月「三品明日香親王爲二上野大守一」諸國名義考「和名抄に、上野（加三豆介乃、國府在二群馬郡一、國分寺二東西二郡一、府中問國府）下野（之毛豆介乃、國府在二都賀郡一）名義は毛野なり、國造本紀に、豐城高津朝御世、元毛野國、分爲二上下一、とあり、されば上毛野下毛野なりしを二字と定られし時に、毛の字は略かれつれど、猶毛といへる名のこりて、却て野ノ字をば唱へず、さて毛とは、草木五穀などをいへるなるべし。そのはじめは木をいへる名なり、下の紀伊國の條にいへる、須佐之男命の木種蒔をも思ひ合すべし、また筑後國に大なる櫨木株あり、高さ九百七十丈ありて、朝日の影には肥前の杵島多良岳を覆ひ、夕日影には、肥後の阿蘇覺爪山を蔽ひたり、（日本書紀と風土記とはすこし異なり）よりて御毛國といふ、この木倒れて後、其樹を踏て往來ゆゑに、彌蘇加佐鳥廢志と歌にもよみし、また日本書紀に、是居二於御木川上一といふ、分註に、木此云レ開とあり、萬葉集にも、木を毛とよめる事しばノ〳〵あり、さて令義解に、謂土地之所生爲レ毛也とあり、外國にも、左氏傳に食二土之毛一、註毛草也とあり、宇典に、桑麻五穀之屬、皆曰レ毛とあり、素問に、地有二草木一、人有二毛髮一、之とあり、その外にも窮髮不毛などいへること、漢籍に間々見えたり。

【上野三山】上野國に聳立する赤城・榛名・妙義の三山をいふ。

コーズシマ　神津島村（こうづしまむら）　東京府大島支廳管内の村。一に神ノ津島・上津島にも作る。一島一村なり。伊豆七島中の一火山島。大島の南々西六一粁、北々東に新島・式根島、東々南に三宅島浮ぶ。南北六粁、東西最長幅四粁の瓢形を成す。全島流紋岩質の熔岩（加里流紋岩・柴窟鄉石流紋岩・角閃石流紋岩及び黑雲母流紋岩）及び浮石層より成る。熔岩は天上山及びこれより古い數個の鐘狀或は臺地狀火山を形成し、浮石層二個の臼狀小火山は白島及び櫛ケ峯を形成する他に、熔岩を蔽ひ或は天に蔽はれて全島に分布す。島の中央にありて最も高き天上山（標高五七四米）は黑雲母流紋岩より成る鐘狀火山にして、承和五年に噴火の記錄を有する休火山なり。聚落は島の南部の熔岩臺地上にありて、前濱の白砂に對し、天上山より西南に走る、空谷を以て聚落は二分さる。特地もその臺上にありて面房と稱する地が大部分を占むるも、一般に肥沃ならず。島民は質朴にして神佛祖先を崇敬すること厚く、男子は專ら漁業を事とし、女子は特産に從ひ新を探り運搬の勞役にも服し頗る勤勉なり。飲料水は水平なる火山拋出物層より井水として得られ、山腹及び海蝕崖よりも清洌なる泉湧出するを以て大なる不便はなく、水補を頭上にて運ぶも女子の重要なる仕事の一なり。續日本後紀に本島より金色石・五色石の出づる事見ゆれば、既に承和年間以前に人住みて内地との往來もありしなるべし。金色の石とは石に光澤多きもの混り居るによりて金色の石といひしものなるべし。五色の石とは白濁明神なる小社の前より清水湧きて、海に落る所あり、その傍なる小石の内の白き石に青黑色の紋あり、また黃ばみたる石に、赤白の筋あるものありて其模樣種々あり、之を言ひしものなるべし。府社物忌奈命神社・同阿波咩命神社あり。續日本後紀・承和七年九月「伊豆國言、賀茂郡有二造作嶋一、本名二上津嶋一、此嶋坐阿波神、是三嶋大社本后也、又坐物忌奈乃命、伽前社御子神也、新作二神宮四院、石室二間、屋二間、圓室十三基一、上津嶋本體、草木繁茂、東南北方最峻崎嶮、人船不レ到、雄西面有二泊宿之濱一」（定明神）府社。祭神、物忌奈命。創建年代不詳。承和七年十月神位無位より授五位下を授けられ、嘉祥三年十月從五位上、翌月官社に列し、仁壽二年十二月正五位下、延喜の制に名神大社に列したれば、地方有數の古祠なるを知るべし。例祭、六月十日。（阿波咩命神社）府社。祭神、阿波咩神。創建年代不詳。承和七年十月神位無位より從五位下に敍せらる。之より先承和五年七月海中に十二童子の怪異あり、祝の刀禰を召して占ふに、三島大意の后神にのみ神位授與ありて、本宮たる阿波咩命は無位なるが故の怪異なり、もし冠位を授くれば、天下平穩產業豐饒ならんと、よつて神位を授くと云ふ。嘉祥三年十月從五位上、翌月官社に列し、仁壽二年十二月正五位下、延喜の制に名神大社に列したれば、蓋し地方の稱社なるを知るべし。例祭、四月十五日。

コーズチ　上有知（かうち）　岐阜縣武儀郡にありし町。明治四十四年美濃町と改稱す。

コーセー　交井面（かい）　朝鮮黃海道甕津郡の西北部。東南は茄川面・北面に、南は西面に夫々隣接し、他の三方は大東灣に臨む。面内には低山性の丘陵起伏するも、沿岸諸處に低地ありて、耕地拓け米・麥・豆・綿等を產す。沿岸は比較的出入多く北岸には良港を擁す。二等道路東南部を掠めて略南北に走り、等外道路之より分岐して面内を、一は北方に、一は西方に通ず。いま國峯・乾田・甕徒・蘭泉・松林・月岩・劍井・鳴浦・松峴・浪岩の十里より成る。

コーセー　江西（かう）

【江西面】朝鮮平安北道泰川郡の西北部。東は江東面に、南は西面・内面に夫隣接し、西は龜城郡に、西北は朔州郡に、東北は昌城郡に境す。三四百米の丘陵北部及び南部に起伏するも、中央に西北より東南に狹長なる低地あり。大寧江この低地を西北より東南流し、北方より來る支流を合せて東境に沿ひて南流す。主生業は農にして米・麥・豆類・棉・大麻等を主產す。三等道路及び等外道路四方に通ずるも、交通は未だ便ならず。

【江西郡】朝鮮平安南道の西南部。道管内二府十四郡の一。北は平原、東は大同の各郡に隣接し、東南は大同江を距てて中和郡に對し、南は龍岡郡に接し、西方一帶は海に面す。西部に鳳凰山・雪龍山（三五六米）・廣東山（三九六米）等屹立し、東部にも二——三〇〇米臺の丘陵起伏するも、概して東南方一帶に平野拓け、河川は大同江本流東境を緩流し、鳳翔江等の支流東南流してこれに合流するものと西方海に朝する諸川とあり、流域には何れも沃野拓き、殊に東部平野は大同江の逆流水を利用して水田廣漠し米產殊に多し。農業を主業とし、農產は米の外、大豆・棉花多く、蠶業また行はる。海岸は水產に富み石首魚・蝦及び食鹽の產少からず。工產また多く、白木綿・製鞋・燒酎・藁工品はその主要なるものなり。交

通は京義本線平壌驛より分岐せる平南線南部を貫きて南方鎭南浦に至り、域内に岐陽ほか數驛を置き、主邑江西及び上西里・甑山等を中心として、道路網發達するのみならず、大同江には舟楫の便ありて、交通便利なり。行政上、江西面ほか十三面に分ち、郡廳を江西面に置く。江西邑は岐陽驛の西北約八粁に位し、有名なる江西古墳は邑内より貸切自動車にて約三十分にして達す。本郡は仁宗十四年、西京畿を分割し、梨岳・大垢・甲岳・角基・禿村・甑山の諸地を併せて江南縣とし、縣令を置きて治せしむ。のち李朝太祖三年咸從と甑山とを分離して、咸從に府、甑山に縣を置く。降りて明治二十九年頃府縣を廢して郡となし郡守を置き、明治四十二年咸從・甑山を合せて甑山郡とせしが、大正三年再び江西郡と併合して今日に及ぶ。

【江西面】 朝鮮平安南道江西郡の東部。平壤府の西約二〇粁。東より南は斑石面・東津面に、西より北は水山面・雙龍面に夫々隣接し、西南は龍岡郡龍岡面に境す。東部に舞鶴山(三四七米)峠つも、他は概ね低平にして、地味肥沃農耕行はる。郡廳の所在地にして物貨・行客の出入頻繁にて、市場は陰曆二・七の日に開き米・粟・生牛・綿布・薪炭その他日用品雜貨の賣買行はれ殷賑を極む。三等道路四方に通じ、又平南線岐陽驛に約六粁にして交通は不便ならず。面内に高句麗時代の古墳あり、崢嶸なる平野の中央にありて、烏石山を右にし、舞鶴山を左にし、南は林山に當り、印德山を北にし、地勢最も景勝を占む。三墳聯立せるを以て俗に三墓と稱す。三墳中、大線の玄室内の壁畫は實に壮麗にして、四方には青龍・白虎・朱雀・玄武を描き、天井には日月に鳳凰、稻間には唐草模様美しく殘り、韓時代繪畫の眞髓を得たるものといふべし。この古墳は南北朝末、若くは隋初の築造に係り、今を距たること約千三百五十年前頃のものならんと云はる。面内に藥水あり、俗に舊藥水といひ、また岐陽街道には新藥水と稱せらるるものあり、胃腸に最も效驗ありといひ、夏季は遠近の者集りて殷盛を極む。

【江西面】 朝鮮忠淸北道淸州郡の中部。東は北一面・四州面に、南は南二面に、西は江内面に、西より北は玉山面・楮倉面に夫々隣接す。面内諸處に低丘陵起伏するも、殆ど低平にて耕地よく拓け、且つ美湖川これを灌漑し米・麥・豆・粟等を產す。朝鮮鐵道及び二等道路ほぼ面の中央を東西に竝行し、前者には驛を置かざるも、丁峰驛(江内面)及び忠北松亭驛(四州面)に近く交通は不便ならず。

【江西面】 朝鮮慶尙北道慶州郡の北部。東は江東面・川北面に、南は見谷面に夫々隣接し、西は永川郡に、北は迎日郡に境す。西南部より西北部に亙りて武陵山(四五九米)等ありて概ね山地をなすも、東北部は一般に低平にして地味肥沃、灌漑の便よろしきを得て耕地發達す。主生業は農にて米・大麥・小麥・大豆・棉・大麻等を主產す。此地は卽ち慶州平野に連續する地にて、附近農業に適するところより、疾くより東洋拓殖會社の移民地となり、內地人の移住も多く安康水利組合の蒙利面積は千五百町歩に及び、全くの農村理想境を現出す。また面内を流れる兄山江は鮎の產地として知らる。東海中部線面の東部を南北に走り士方・安康(共に大正七年設置)の二驛を置き、交通便なり。

コーセー 厚西 ―こう― 山口縣厚狹郡にありし村。昭和四年厚狹町に編入す。

コーセー 港西里 ―こう― 臺灣高雄州潮州郡の舊里名。今の旗山郡・屛東郡の一部の地にして、凡そ下淡水溪以西の地區。明末鄭氏時代、臺南以南に於ては此地方は漢人進拓の東極に當り、淸領直後の康熙二十三年には既に頗建省・廣東省の移民は此地を占居せる平埔蕃と交易し次第に土地開墾の契約を爲し、雍正より乾隆にかけて全く漢人の勢力下に置れたり。本里は更に上・中・下三里に分ち上里は旗山郡美濃庄及び旗山街・杉林庄の一部、屛東郡高樹庄・里港庄・九塊庄の地、中里は屛東郡長興庄・鹽埔庄・屛東市・潮州郡萬丹庄の一部の地にして、下里は潮州郡竹田庄及び內埔庄と萬丹庄の一部を含む。これより東北の方面は中央山脈を以て東臺灣と界し、山路を越して臺東に通ず。その連絡の行われしは、同じく淸康熙末年とせらる。我國領臺後も襲用せしが、大正九年地方制度改正により廢止せらる。

コーセーリン 江西林庄 ―こうせいりん― ―こうせいりん― (臺灣臺中州竹山郡竹山庄) 朝鮮忠淸南道論山郡の西部。東より南は魯城面・上月面・夫索面に、西より南は城東面・恩津面に夫々隣接し、西北は扶餘郡に境す。面内は殆ど低平にして、錦江の小支流北部・南部を西南流し、耕地拓け米・麥・豆・棉を出し、また養蠶業行はる。一等道路面の中部をほぼ西南より東北に横ぎり、また三等道路は西境に沿ひて西北方に走り交通不便ならず。

コーセキ 香積山 ―こう― 朝鮮平安北道新義州の東方約一〇粁に當る。西側は平安北道泰水郡東面・江東面に、東側は寧邊郡雲山面・八院面に屬す。北方に三角山(九三七米)峠つ。南方山下に鴨和寺あり。西麓は川坊江、東麓は九龍江に隈らる。兩川共に南流し、西朝鮮海に注ぐ。

コーセキ 晃石山 ―こう― 晃石山とも讀む。足利市の東方約二〇粁、栃木縣下都賀郡富山村と皆川村との境界に峠つ。標高四一九米。西南麓は櫻峠最高點を經て馬不入山(三四五米)に連る。山麓に淸水寺と稱する觀音堂あり。

コーセキ 廣積面 ―ひろ― 朝鮮京畿道楊州郡の西北部。京城府の北約二八粁。東は隨縣面に、南は白石面に隣接し、西は坡州郡に、北は漣川郡に境す。西部及び東部に二—三〇〇米の丘陵起伏するも中部は一帶に地低平にて肥沃、耕地よく拓く。主生業は農にして米・麥・豆類等を主產しまた養蠶業行はる。等外道路、面の東部を南北に走り、また之より分岐せる等外道路、西走し坡州郡に入る。

コーセキリン・シトー 高厝林子頭 ―こうせきりん― ―こうそりんしとう― ―古坑庄(臺灣臺南州斗六郡)

コーセン 甲川面 ―かん― 朝鮮江原道橫城郡の中部。南は屯內面・井谷面に、西は橫城面に、北は晴日面及び洪川郡に東は平昌郡に夫々隣接す。地は東南に高く、概ね山地をなすも、北部にはゞ東西に狹長なる低地ありて耕地拓け、漢江の支流蟾江、面內東北部に發源してこの低地を西南流し灌漑に便す。等外道路、面の中部に發達せる面邑甲川里より北南西の三方に走るも交通なほ便ならず。

コーセン 甲仙庄 ―せん― 臺灣高雄州旗山郡一街五庄中の一。本郡行政區域內の西北端に位し、―― ―― 仙溪中流域に跨れる一帶にして、東北より西南に長く延び、略々矩形の如き地形を呈す。東北は大竹溪山(一六七一米)を以て蕃界に接し、東南は內茅山を以て六龜庄と界し、西南は杉林庄に、西北は鳥山嶺を以て臺南州下新化郡南化庄に隣接す。廣袤東西約八・二粁、南北約二五・九粁、總面積約一二三・八平方粁。中央山脈中に位する關係上、山岳丘陵重疊として起伏連續し、其の間を補梓仙溪其の他の溪谷曲折して流れ、此等の沿岸に僅か點々たる耕地を有するに過ぎず。人家は主としてこの狹小なる農耕地に集團し、見るからに貧弱なる寒村なり。管內面積比較的大なるも、地勢上斯くの如き狀態なる爲め、耕地面積は田畑を含するも僅々五百甲前後に過ぎず。人口亦甚だ少くして三千人に滿たず、大部分は平埔族(熟蕃)なり。其の三分の二は農耕を生業となす。農產物は米の外、甘藷・甘蔗・菁・果物類なるも生產高少し。庄內には舊式糖廍(製糖工場)あるも、これ亦生產高甚だ微々たるものなり。如上の狀態原因となりて財政の獨立期し難く、潮州郡析山庄・東港郡琉球庄と共に謂ゆる州下の特別庄として街庄制度創設以來、一般經費の補助を仰ぎ辛じて維持する實情なり。鑛業として擧ぐべきは甲仙溪田にして、庄役場の東北方約二粁の山脚地帶にあり、海軍省の石油鑛區に屬し、日本石油會社が政府の補助を受け、海軍省の依託にて試掘中なり。卽ち昭和八年三月半ばより四月半ば迄に各種材料の運搬を了し、同年七月五日より愈々試掘を開始し、其の豫定深度二千米に達するも成功するに至らざりし爲め、更に位置を變へて目下第二號井掘鑿中なり。庄役場所在地大字東阿里圖には、警察課の分室及び派出所・專賣局出張所・甲仙信用販賣購買利用組合・小學校(一學級)・公學校(四學級)・同分教場あり。往時製腦事業全盛時代には管內に內地人の從事者頗る多く、當時の甲仙埔は現在の主邑旗山を遙かに凌駕せりといふ。現在は教育產業其他一般文化他地方に比して著しく劣位に置かれ、本島人兒童の就學歩合は三四・七二%の低率なり。今は昔大正四年噍吧哖(現在の臺南州新化郡玉井庄)に突如として勃發せし西來庵事件の際、一味の土匪軍は後宮子の山を越えて本庄を襲擊し、甲仙埔支廳員が家族諸共全滅せしことは餘りにても有名なる話にて、臺灣統治史上の痛ましき一頁なり。甲仙社境內には遭難者の忠魂碑建立せらる。甲仙の部落は行政區劃上大字東阿里圖の區域內に包括せられ、本庄の中心地にして、現行制度以前には甲仙埔と稱せられ、支廳の所在地たり。旗山より約三十粁を距たり、當時は甚だ僻遠の地とせられたるも、今は自動車にて一時間二十分にして到達し得るに至れり。旗山・甲仙間の道路は州指定道路なるも、梅梓仙溪に架橋せざる所あり、雨期には交通杜絕する爲め、山間部に州事業として新たに道路を開鑿する豫定なり。之が完成の曉は本庄の開發また期して俟つべし。現在旗山・甲仙間には乘合自動車、廣瀨自動車會社經營)通ずるも運轉回數少し。其他、部落道路あるも峻坂溪谷壞所にありて地勢上交通不便なり。當地方は初め隣接南化庄・杉林庄・六龜庄の各一部又は全部と共にツオー蕃族の占據地にして、鄭氏の時代、漢人の爲め曾文溪上流域を逐はれし謂はゆる四社蕃(平地蕃族)は來りてツオー族を奧地に驅逐し之に代りし爲め、夙に四社熟蕃地と稱せられたり。淸領後、漢人漸次此の地方に足跡を及ぼしたりしも、當時の移殖は主として平和の手段に出で、或は婚を蕃婦と結びて親戚關係を作り或は一定の租穀を納れて墾蕃を約せしより、爾來漢蕃雜住し共存互助の狀態を以て拓殖を進め、乾隆初年の頃には平埔族は熟蕃として官府に歸附し、漢族漢語に改化するの端を開き、同二三十年代には相當廣範圍に亘る開墾地域を見、阿里關(其の一部は今の東阿里關)・甲仙埔(今の甲仙)・大邱園(其の一部はいまの東大邱園)の諸部落を形成せらるるに至れり。淸領の初めに於ては當地方一帶は化外の蕃地として統治圖外に置かれ、康熙末年に至り始めて行政區域內に入り、梅梓仙溪東里を置かれ、本庄之に包含せらる。帝國領臺前までは臺南府安平縣の管轄に屬し、明治二十八年本島が我が領有となるや臺南縣の直轄たり。三十年地方制度改正に依り、臺南縣の下に蕃薯寮辦務署を置かれて本庄之に屬し、三十四年制度改正に依

一一キ八　渋川（しぶかわ）

【渋川郷】 郡名江戸期の西南部。郷内に十十一郷の一。北は赤川郷、東北は鶴舞郷、東南は平百郷、南は城東郷に、西は城東郷の内原郷と接し、三面山地を隔ら、北に月所山（一〇五一米）、東に琴倉山（一一〇三米）、南に堅崎山、西に同山を負つて、中央に山谷を立て、渋川江を合流し、渋川江中流以下に肥沃なる耕地を拓く。農産は米・綿花を主とし、麻・煙草・小豆・蕎麦・大豆・小豆・蕎麦等の物産は全郷に亘るも、麻・綿・煙草・砂金・砂鉄・木炭・薪・炭・材・板・石・瓦・陶器・漆器・蒟蒻・蕎麦・麦・米・大豆・小豆・蕎麦・麦・米・大豆・小豆・蕎麦・麦・米・大豆・小豆

草生茂り放牧に適す。春夏の候には野花一面に咲き亂れ絢爛目を奪ふばかりの美しさにして廣狩の名所たり。また名產に凍豆腐・牛乳・木炭等あり。凍豆腐は此邊が土質大豆の原產地にして地勢は海拔六〇〇米、絶寒零下三十有餘度、十月より翌春三月までの約半箇年の長期の製造に適する等の好條件により前途は頗る好望視さる。

コーゾージ　高藏寺町　愛知縣尾張國東春日井郡の東北にあり、濃戸市の北方約六粁の地なり。東は品野村に、南は水野村・志段味村に、西は篠木村に、北は坂下村及び岐阜縣可兒郡池田村に接す。東濃山地、北より延びて此地に終る。北境には道樹山（四二八米）、南部には高座山（一九二米）あれど何れも高からず。土岐川の下流庄内川、東より南境に山地を切りて流れ、西南には内津川が流る。山地は殊父古生層よりなり、平地は海侵時代の第三紀層に依つて埋めらる。平地に於いては米作行はれ、水を得るに困難なるため潤池濫觴を行ひ、丘陵地には多くの潤池存す。高藏寺附近には瓦炭を產す。土岐川の谷を省線中央本線、幾多のトンネルを以て通じ名古屋市に至り本町には高藏寺（明治三十三年設置）・定光寺（大正九年設置）の二驛を置けり。また多治見・高藏寺間には省營バス通ず。名所圖會には、高藏社は山頂にありて俗に熱田高藏宮の奥ノ院と稱し、その供僧を高藏寺と云ふとあり。玉野附近にては土岐川は玉野川とも呼ばれ、美流美しく玲瓏玉を敷くが如くなる故に此名ありと云はれ、或は此附近に瑪瑙・水晶を產するによりこの名ありと云はる。大字大留には宗良親王の墓あり。圓形の墓にして親王の遺物を收めしものなり。又此地には大留城址ありて、之は往昔村瀨作左衛門が織田氏に屬し居住せし所たり。城は庄内川に臨み、三方に濠をめぐらし、櫓を築く。明治三十九年七月、不二村・玉川村・反鳥五村の一部とを以て本村を設き、昭和五年一月町制を布けり。〔高藏寺〕大字高藏寺にあり。天台宗。寶物の十二天靈像は、宅磨派の佛畫にて、十二幅あり、絹本著色にて、多少の補筆あるも頗るよく保存さる。

コーソシビョー　黃咀子廟會　黃咀子は關東州中部の東岸。金州民政支署管下に屬し、半島狀に黃海に突出し、西は重家溝會、北は玉皇頂會に隣る。北境には高さ二百米豪の山地東西に連りその東端に康王墓山あり、西南境にも大山（二七二米）あり、中部にも丘陵所々に起伏し平地はそれら丘陵地の間と沿海に狹小のものあるに過ぎず。農業行はれ高粱・大豆等を出す。

コーソン　高村面　朝鮮京畿道金浦郡の東部。京城府の西北約一二粁、漢江の左岸に沿ふ。東南は陽西面に、西は郡內面に隣接し、東北は漢江を隔てて高陽郡に、南は富川郡に境す。中部にやや丘陵地を見るも他は一帶に低平にして耕地よく拓け米・麥・豆類・蔬菜等を產す。三等道路、面の中部を東北より西南に走るのみなるも、漢江に舟楫の便ありて運輸・交通に便す。

コータ　上田池　兵庫縣淡路國三原郡神代村大字上田にある用水池。神代・市・榎列三村に於ける整理耕地五二六ヘクタールを灌漑するもの。粗石モルタル積石堰堤の潤池にして、昭和四年の竣工、一〇二萬立方米の水を湛ふ。鮎屋溪の大城池と相對して、淡路に於ける潤池の雙璧たり。

コータ　甲田山・高太岳　愛知縣三河國甲田山（青森縣）の古名。

コータ　幸田村　愛知縣三河國額田郡の西南端にあり、岡崎市南方約一〇粁に位す。北は岡崎市及び福岡町、東は同郡形原村・寶飯郡御津町・鹽津村に、南は同郡形原村・幡豆郡西幡豆町、西は同郡饗庭村に接す。此地は額田より寶飯郡の古生層の山地起伏し、この山地は二つに切られ、このギャップに省線東海道本線通じて、幸田驛（明治四十一年設置）を置く。この山地は四〇〇米前後の高度を有し、南境三根山は三一九米あり。北部平野部は洪積層より成り東部には花崗岩山地見らる。廣田川はこの低夷なる丘陵地帶より出でて平地の水田を潤す。又丘陵地帶には貯水池ありて山麓地域の水田を灌漑す。衰落近傍には桑畑見られ、蠶も盛んなり。花崗岩山地よりは雲母花崗岩石材及び電氣石を產し、記錄によれば京ケ峯よりは雲母を採掘せしと。此村は和名抄、額田郡廣津郷の地と思はれ、日本武尊の遺跡も存し古蹟頗る多し。大字坂崎は坂崎城ありし地。大字久保田には久保田城あり、高橋半四郎宗正これに居り、のち事ありて放逐せられて大草に移り、神官となり、次いで大橋善五左衛門義重の居となれり。大字大草の大草城には西郷清海入道ここに住し、のち岡崎に城を築きて移り、爾來松平七郎昌久これに居りしが、永祿六年完祥にて戰死後、攻落され廢城となる。大字高力の高力城は三河三奉行の一人高力與左衛門清長父祖代々の居城たり。次に大字菱池の荒田城址は永祿年中、鵜井群藍の築城にして、深溝の深溝城は始め大場次郎左衛門築きて居り、のち松平忠定、大場氏を討ちて當城に入る。それより四代在城し、家忠なるもの、伏見の役に鳥居氏と共に戰死し、男忠利家督を繼ぎ、下總の忍城に移れり。のち板倉重昌の居城となり子孫相次ぎ明治に至り廢城となる。なほ大草の東方には御門の瀧と云へるあり。往昔白鳳の帝巡幸して當村の山寺山に行在し給ひ、この瀧の水を汲んで茶湯となし給ひたれば、帝の瀧と云へるを後世御門の瀧と轉稱せりと。〔妙德寺〕大字芦谷にあり。浮土宗西山派。專城山專誦屬と號し世に南山と呼ぶ。相武天皇の創、北國の南山大士、弘法・傳敎所大師に尋いで入唐し、五台山に住して餓鬼法を研磨し歸り萬民を救濟す。こは本邦に於ける餓鬼術の嚆矢にして、いま尙ほ來學する者多し。境內に泰師如來を安置し、當山相傳の靈藥を出す。

コータ　河田　→澄井町（愛知縣）

コータ　高田村　熊本縣肥後國八代郡の西南部。球磨川の左岸、八代平野の南部を占め北は植柳村を隔てて八代町にて、西南は金剛村に接し、東は球磨川を境に宮地村・下松求麻村に隣る。東南境に三五〇米程度の山地連り西北に傾斜し村の中央に東北より西南の方向に八代斷層あり、この斷層線の西北は卽ち球磨川の堆積せる肥沃なる八代平野の沖積原の一部を占む。八代米・國を出し、球磨川鮎を產す。鹿兒島街道低地を南北に貫きてバスを通じ、省線鹿兒島本線また斷層崖下を走り北方約四粁に八代驛あり。此地は植柳村・金剛村等と共に和名抄、八代郡高田郷の地なり。村內に征西將軍の居址卽ち高田御所址あり。また相良氏の陽臺平城址あり。古來陶器（高田燒といふ）の名產地にして、また蜜柑の始めて傳來せし地なりといふ。いま本野・奈良木・高下・譽原の四大字よりなり本野に役場を置く。〔高田御所址〕大字奈良木宇宮園にあり。征西將軍懷良親王並に後征西將軍良成親王の御所址なり。正平元年のころ中院義定、宮に先ちて薩摩より この地に來り八代に居城を構へ、菊池・阿蘇と氣脈を通じて、肥後南方を平定し古筑城主名和顯興と共に球磨川を隔てて守護の任に當る。元中三年義定、名和氏と熊を結び伯耆守長榮を奬子として所領を讓り此地に居館す。懷良親王、天授元年將軍職を良成親王に讓り給ひ、御退隱後此地の義定の居館の一部を御所として老後を送ひ給ふ。親王薨去ののち良成親王も御在館遊ばざる。〔高田蜜柑〕人皇第十一代垂仁天皇御不豫にて異國の橘を御好みにつき、近臣一命をかけ遙々異國に渡り、方々尋ね求め漸く常世の國にて橘三側を求め歸朝したれども、埃り年數かゝりたれば帝は既に二三年前に崩御あり、皇子登行天皇西遷して高田にましましけるにその橘をささげ、其身は前帝の御治世の內に御問に合ひ兼ねたるを悼み自殺して失せぬ。天皇その志を痛まれ、その橘の實を高田に植ゑさせらる。その橘は年を經るに從ひ繁茂せしが、戰亂打ち續き誰採るものもなかりしに、天正十五年秀吉薩州征伐の時宮地村恰眞寺に宿營し、處々の篤見の際大願寺の僧江川の墻に於て蜜柑一籠を持ちて御目見えしけるに、秀吉この蜜柑を甚だ悅び禁延へも差上げ申すべきよし仰付けたるに、高田の住士松岡某その事に委しかりしかば受持となりて禁延獻上の事を司ることとなれり。天正十六年、加藤清正肥後入國の後、松岡藏人長重を當地の大庄屋とし、八代郡數川內に高地百石を與へ、氏を高田と改めしめたり。藏人の子孫平山に分家し、蜜柑支配役となる。當時は蜜柑一株にて三六米四方に蔓り、三千個入七十三籠ありしといふ。又以てその盛況を想像するに足れり。株數も往時は數百株ありしも實暦の洪水にて一掃覽燕に歸し、今なほ存するは僅かなり。〔高田燒〕は細川二齋忠興の創類せる所にして佈祿を世襲し藩主の用器を製せしが、廢藩の後はじめて販賣品となれり。陶器は高麗各種の製法に起因し、種々の變化を經て現今の製法となれり。その起因左の如し。初代上野喜藏は元朝鮮釜山海の城主尊益の子にして尊階と稱せり。文祿征韓の役加藤清正に從つて歸化し、肥前唐津に留寓して陶器を製す。尊海その後筑前に移し高麗の陶法を傳習して歸る。慶長七年忠興尊階を豐前に召し、俸祿を給し同國上野に地を賜ひ陶場を開設す。命により地名を家名に用ひ上野喜藏と稱す。寶永九年忠利の轉封に際しその父忠興に從ひ肥後に入り、八代郡奈良木村に地を賜ひ築窯す。これ高田燒創始の地なり。

コータ　神田　【神田村】香川縣三豐郡の西南にあり、財田川の東側に位し、其支流神田川の形成せる溪谷地にして、東西に長き帶狀地（東西約八粁、南北約二・七粁）をなし、南北兩側は緩丘陵地をなし、東鎭に立石の雄峯屹立す。南は財田村、北は麻村並に二ノ宮村に、西は財田大野村に接し、東は伸多庭郡十郷村に隣り、伊豫見峠を以て境せらる。地勢東に高く、西に低く、西端には財田川の橫斷を見る。一帶に山地にして、平地少く、平地一に對し山地三の割合なり。然し神田溪流畔は土地肥沃なるを以て東より西に向つて階段式に水田を開く。農業を主產業となし林業之に次ぐ。米（十四萬圓）・麥（六萬餘圓）を最とし、煙草（約二萬圓）・柑橘（六千圓）を出し、また鷄卵（三萬圓）・叺（一千餘圓）の產あり、筍及び筍罐詰は著しく、筍（約二萬圓）・罐詰（二萬五千圓）を算ふ。當村はもと二宮村と共に和名抄豐間郷に屬せしが、後世、神田郷と稱せられ（三代物語）、明治に入りて市町制實施の際にも神田村と稱し、爾來異動なく今日に至る。神田は寺田と同じく不輸租田の意にて、大水上神社（二宮社）の神田なりしため起りし名稱と傳へ（三豐郡史）、大水上神社は今尙ほ神田村の氏神をなし、村の舊家近藤家の祖は二宮社創建の際來住、此地を開拓せりと傳ふ。村內には醫家神社・皇子神社・大神社・三之宮社等十二社あれど、何れも二宮社の攝社に屬す。此地はもと伊豫及び土佐より琴平に通ずる街道をなし、伊豫街道が村の中央を東西に貫通し、伊・土兩國より琴平への參詣客の通路をなせし處にして、今は縣道となり琴平・豐濱線と稱す。又村の西部財田川

に潜ひ、託間・池田線が南北に走り縣道を横斷し、琴平町(仲多度郡)・豐濱町間鉦に琴平町・觀音寺町間に定期自動車の往來あり、交通不便ならず。

【綿田】 省線松浦線の一驛(昭和九年設置)。長崎縣北松浦郡佐々村にあり。

コータ 郷田村 廣島縣安藝國賀茂郡の中部。西條町の西南約三粁、北は御薗宇村・下見村に、東は下三永村・板城村に接し、南は上黒瀬・中黒瀬二村に、西北は熊野跡・吉川・原の三村に隣る。西南部は四〇〇米内外の山地連りて小田山その西南境に聳え、東北部は三〇〇餘米の高原狀丘陵起伏し中間に盆地狀の低地あり。低地及び諸小溪間に沿うて水田拓け、米・麥・蕎を主產し、外に木材・薪炭あり。縣道は東北部を掠め北方の西條町、南方の廣村にバスの便あり。此地或は和名抄、賀茂郡香津郷の内に屬せしものか。中世は西條庄に屬し、のち大内氏の領たりしが、次で毛利氏の屬領となる。明治二十二年町村制施行の際、郷曾・田口の二村を合して本村を建つ。

コーダイ 高大面 朝鮮忠淸南道唐津郡の西北部。東南は唐津面に、北は石門面に隣接し、南は瑞山郡に境し、東及び西は海に臨む。面の中部を二—三〇米の丘陵南北に走る外、他は概ね低平にして耕地拓け米・麥・豆類・棉・大麻等を產す。海岸線は風の出入に富むも良港と稱すべきものなし。等外道路南方より來り面の中部を貫きて北方に走り、これより分岐せる街道西南方に走る。

コータチ 甲立町 廣島縣備後國高田郡の東部。此線藝備鐵道甲立驛(大正四年設置、隣村小田村に設く)の北西方約五〇米の所にあり、雙三郡三次町よりは西南凡そ一六粁餘。可愛川上流の谷底平野の一部にあり農業行はる。町は戰國時代の昔より開け南方に五龍山城址あり。溪流を跟てて北に町は發達しその廣さ三六・六四方粁、人口は三千餘ありて、山間の一中心地として重きをなす。藝備鐵道の便あるの外、廣島市と三次町とをつなぐ縣道はこの町を通る。和名抄に高田郡川立郷とあるは蓋し此地とす。通志に據れば嘉保年中の文書に甲立と見ゆ。川向に三次郡川立村(今の雙三郡川内村)ありしに依り混同を防ぎて改めしものか、或はまた彼地ももとは本郡内にてすべて川立と稱せしにや。村内の五龍山は宍戸氏世々の居城にして、下甲立村(大字下甲立の地)に至るまで家人の宅地なりしといふ。いま猶ほその遺址存す。宍戸朝家、應永年中、常陸國より來り、初め町内の菊山柳ケ城に居りしが、のち五龍山に移り、基家・家秀・持朝・興家・元家・光源・隆家・光秀・元繁世々居城す。五龍山は吉田郡山と甚だ近きを以て元源の世に毛利氏と連和して婚姻をなし其後毛利氏の羽翼となりのち毛利氏に從ひ長門に赴く。また大字深瀬に祝屋城址あり。一に岩屋城に作る。永正六年宍戸元家(惡四郎左衛門尉と稱す)五龍山を鎬子元源に讓り別にここに居城す。其後隆倫(元家の二男彈正忠)・家成(深瀬式部)・直良三人相繼ぎて居る。大正十五年町制を布く。いま上甲立・淺塚・下甲立・深瀬・秋町の五大字よりなり上甲立に役場を置く。

コーダハラ 小栗田原 新潟縣北魚沼郡千田村の大字。省線魚沼線の小栗田原驛(明治四十四年設置)あり。

コーダラキ 上津荒木村 福岡縣筑後國三井郡の西南隅。久留米市の東南隣にて耳納山塊の西麓と筑紫平野との漸移地帶を占む。東北は高良内村に接し西と南は三潴郡荒木村・八女郡下廣川村・中廣川村に界す。東部は耳納山塊の明星山(三六二米)の西面の山地にして西に傾き、その以西の大部は小丘陵所々に起伏すれども概して平坦なり。一體に地味肥沃にして低地には水田よく拓け筑後米を產し裏作として小麥・裸麥・菜種・菜・馬鈴薯・甘藷・蔬菜・植實を出し複業農業を昂す。社線九州鐵道線(竜車)村の中部を南北に走り、北は久留米市へ南は櫛鳥町への交通は便利なり。此地或は和名抄、御井郡山家郷の内に屬せしものか。村名は三潴郡荒木郷の上方にある故に名付けらるといふ。景行紀・十八年七月の條に「丁酉、到二八女縣一、則越二藤山一、以南望二筑紫一」と見ゆる藤山は大字藤山の地なり。人類學雜誌に據れば、安政中、村内に於て一石棺を發見す。棺中塡塞するに朱を以てし、單倚數個剛みありしといふ。(專修寺)大字藤山にあり。浄土宗。一向山と號す。本郡善導寺末。本尊阿彌陀如來。天平中、行基菩薩の草創、後衰廢せしを行明上人中興す。往昔寺勢盛んなりし頃は無邊光院・歡喜光院・智惠光院・長王光院・清淨光院・不斷光院の六支院ありしも近世悉く退轉す。

コータリ 神足 京都府乙訓郡新神足村の大字。省線東海道本線の神足驛(昭和七年設置)を置く。

コータン 考潭 →仁武庄(臺灣高雄州鳳山郡)

コータン 後潭 →太保庄(臺灣臺南州東石郡)

コータン 餉潭 →新埤庄(臺灣高雄州潮州郡)

コーチ 川内 【川内】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄、飽田郡に川内郷あり、その地今の飽託郡河内村の邊に當る。近世は池鯰莊と稱せし地なり。

【川内】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄、菊北郡に川田郷あり、蓋し川田は川内の誤なり。その地今の菊北郡鶴浦村に當り大字大川内はその遺稱なるべし。太宰府管内志に八代郡の川田村となすは誤なり。

コーチ 甲内 岡山縣淺口郡にあり し村。明治三十五年本村及び西阿知村を合併して河内村と稱せしが、大正十五年更に西阿知町と改稱す。

コーチ 好地 岩手縣稗貫郡石鳥谷町の舊稱。もと好地村と稱せしが昭和三年現名に改む。いま石鳥谷町より產する好地石は即ち舊地名を負へるもの。石は白色乃至淡紅色の等軸晶系に屬し、珪酸鹽土の含水物にして四面體又は八面體の結晶をなす。

コーチ 孝池面 朝鮮全羅南道光山郡の南部。光州府の南に隣り、東北は石谷面に、西は大村面・松江邑に、西北は綾樂面に夫々隣り、南は和順郡に境す。東境邊に無等山(一一八七米)峙ち、其の山脚西に緩斜し、また西北部に丘陵起伏するも中部は概ね低平にして地味肥沃、耕地よく拓く。主生業は農にして米・麥・大豆・棉・繭等を主產す。光州府より來る一等及び二等道路各々面内を過ぎり交通は比較的便なり。

コーチ 河内 【河内村】 鳥取縣岩代國安積郡の中部。郡山市の西方約三・五粁、東は片平村に、北は丸守村に、西南は多田野村に各相隣接す。西北境に額取山(一〇〇九米)、西北部に高廣山(四五八米)聳え、山脚は東南に傾きて郡山盆地に連るも概ね山地にして平地に乏し。阿武隈川の一支逢瀬川は南部を東に流れ、猪苗代湖より郡山大に引水せる安積疏水は山地に隧道を設けて東部を南北に通ず。水田は河川に沿うて樹枝狀に發達し熒霚柴も行はれ外に木材を出す。街道は北部を東西に、また東部を南北に走るも嶮路ありて交通便ならず。木村は應永の頃、安積伊東の一族、河内藤兵衛祐春の居りし地。村の西北の額取山は一に安積山といふ。大和物語「あさか山影さへ見ゆる山の井の淺くも人を思ふものかは」

【河内】 →河内(郡)(常陸國)

【河内】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄、河内郡に河内郷あり、その地今の筑波郡小張村の邊なるべし、蓋し河内とは毛野川に抱擁せられし地形なればなり。一に稍數郡牛久村・蔦崎村・岡田村の邊なりといふ。此地は近世、大井莊と稱せし地なり。

【河内(郡)】 →河内郡(栃木縣)

【河内】 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄碧海郡に河内郷あり、その地いま詳かならず。神鳳抄に參河國河内御園とあるは此地なるべし。參河國古蹟考にはこれを幡豆郡内なりとあり。一に碧海郡六ツ美村の地なりともいふ。

【河内】 →河内國

【河内村】 三重縣伊勢國安濃郡の西北部。安濃川上流の地にて南は長野村に、東は雲林院村・安西村に隣り、東北は河藝郡明村に接し、北に鈴鹿郡加太村あり。西方は布引山嶺を隔てて阿山郡阿波村なり。面積三三・〇七平方粁。布引山脈は七—八〇〇米度を持して西境を連亙し、その山支西北及び西南より東に延びて北境及び南境を限り、北境に鍋杖ケ嶽(六七七米)、南境に經ケ峰(八二〇米)聳ゆ。山脚四周より中央に傾斜し、安濃川は西部山地に發源し中部の谷を東流す。全村山地鎬蹋して森林地多く、中部の準平原に僅かに耕地を見る。木材・薪炭等の林產を主に、繭・米等の產あり。縣道西南偏の大字覺ケ野より北へ下り、安濃川の谷に沿ひて東方に通ず。交通概して便ならず。もと河内谷と云ひ、伊勢新九郎長氏は河内谷の人なりといふも詳ならず。明治二十二年町村制施行の際、雲林院村と一組合村をなせしが、明治四十四年分離獨立す。(成覺寺)眞宗高田派。境内に平維盛紀伊に遁れ、身を那智の海に投ぜんとし、密かに免れて當國に來り一寺を創し國族の回向を營む。其族、蹟を逐ひて落合ふ者三十一人に及ぶ、故に今も落合と稱す。平家相傳の傳教大師作阿彌陀三尊及び平貞盛の鎧中にありし同作釋迦三尊を安置す。維盛の墓には嚴垣彥明の撰文を刻す。

【河内村】 兵庫縣播磨國揖保郡の西南部。北は神部村に隣り、東北は揖保川を距て揖保村に相對し、東南は御津村に、南は室津村に、更に西は赤穗郡相生町に各界す。西北部に三〇〇米内外の山嶺連なりて金剛山聳立し、東南境にも二〇〇餘米の山地あり、揖保川は東北境を東南に流れ、中部及びその沿岸に低地疎き、水田開け、米・麥(裸麥・小麥)・繭を主產しその外、果實・蔬菜及び花卉・煙草あり、瓦・木製品も出す。南方御津・室津二村より北上する二條の縣道は北部にて合し龍野町に達しバスの便あり。山陽本線の龍野驛(神部村地内)に最も近し。この地は御津村・室津村等と共に、和名抄、揖保郡浦上郷の地にして、風土記の浦上里に當る。東鑑・文治五年三月の條に、熊野御領播磨國浦上庄事とあるも此の地にあり。赤松家の中興の頃、その家士に紀則宗なるものあり、浦上氏を稱し此の地の領主たり、應仁の亂に東軍に應じ山名氏を驅ちて功あり、赤松氏これにより再興せり。

【河内】 丹波國(兵庫縣)の古地名。和名抄に多紀郡河内郷あり。地はいまの多紀郡北河内村・南河内村に當る。

【河内】 出雲國(島根縣)の古地名。和名抄出雲郡に河内郷あり、その地今の簸川郡出西村・上津村等に當る。出雲風土記・出雲郡「河内郷、郡家正南一十三里一百步、要伊大河野郷中北流、故云二河内一、即有二優、長一百七十五丈五尺、七十一丈之廣七丈、九十五丈之廣四丈五尺」

【河内】 隱岐國(島根縣)の古地名。和名抄穩地郡に河内郷あり、加無地と訓ず。高山寺本は訓なし。その地今の隱岐島の都万村・五箇村に當る。

【河内】 岡山縣淺口郡にありし村。大正十五年西阿知町と改稱す。

【河内村】 岡山縣美作國苫田郡の東南部。旭川の上流久世町・落合町に近く、西及び北は美和村に、西南は川東村に接し、南は久米郡の西川村に、東は同じく大井東村・大井西村・倭文西村と界す。東北方に矢倉山（六六〇米）・楠ケ山（五〇〇米餘の山嶺北境を東西に連亙する為、北半は山地をなす。南半は西境及び東・南境も各四〇〇米餘の丘陵連なり偏に東の中央部より西南に開析されし細長き谷をつくる。谷底は耕作よく行はれ又周圍の山地は牧牛を督み、米・麥・豌・木炭の產あり。村の中央を東西に國道出雲街道通り東部の東几より西南方の落合町へ谷に沿うて村道通じ、また之に並行して省線作備東線通ず。和名抄に大庭郡河内郷とあるは蓋し本村及び川東村の地にして、中世山城國賀茂神社領なりし由、嘉永二年の賀茂神社領記に見ゆ。いま中河内・上河内・下河内の三大字よりなり中河内に役場を置く。（虎斑竹自生地）指定天然記念物。自生地は小山の南斜面にして栗その他の樹木の雜生せる林中に混在し莖の太きものなく、虎斑竹は點々散生す。これより約二粁餘離れたる山の北斜面の谷間にも自生地ありて、ネムノキ・シデ・クリ・クズ・フジ等に混じ虎斑竹叢生し竹稈の稍大なるもの少からず。虎斑竹の散生また盛なり。

【河内村】 廣島縣安藝國佐伯郡の東北部。東の石内村を經て廣島市に對す。西は砂谷村、南は原村・八幡村に界し、北は安佐郡戸山村・伴村に隣す。北境に窓山（七一二米）東北隅に向山（六六六米）の連峯聳え、南方も數百米の山岳重疊し、中央部を東西に八幡川流れその流域の東南部に少數の低地あり耕作を督む。山地は樹木繁茂し林業行はる。古來、南方五日市町・廿日市町と山間盆地の加計町を連絡する道路拓け、村の東南隅の小深川部落より西北隅の白川にかけて縣道とぼり途中に河内峠（三五六米）あり。往古の事は以て徵すべきものなし。いま上河内・下河内・上小深川・下小深川の四大字より成り、上河内に役場を置く。

【河内】 安藝國（廣島縣）の古地名。和名抄、安藝郡に河内郷あり、加布知と訓ず。高山寺本は訓なし。安佐郡小河内村・飯室村・鈴張村邻の地なるべし。

【河内町】 廣島縣備後國豐田郡の中部。西北より東南に流るる沼田川中流に沿ふ約二百米餘の高さにある町にて三原市よりは西北凡そ二十三粁の地點に當る。西南方と北方より流れ來る支流を容るる為附近の山地はひらけて耕地も少からず。省線山陽本線通じ、また村道も四方に通し、山間の中心をなす。往古の事は詳からざるも、或は和名抄豐田郡豐田郷の内に屬せしにや。近世、郡戸（河戸にも作る）・河内の二村を合して大河村と稱せしが、大正十三年河内町と改稱す。いま上河内・河戸・下河内・中河内の四大字より成り、上河内に役場を置く。

【河内村】 廣島縣備後國豐三郡の中部。三次町の北に位し、東は十日市町に、北は君田村に、北西は布野村に、西は作木村に隣り、北東は比婆郡山内西村に、西南は可愛川を挾んで高田郡粟屋村に接す。村を北東部より西城川、中央部に向つて南流し又北及び北西の村境を曲流しつつ神ノ瀬川は北西隅より急に東南の方向に流路をとり南部にて可愛川に注ぐ。可愛川は西城川・馬洗川の水をも集め此村の南境を西に流る。この為め村は三地域に區切らる。地勢は一般に二—三〇〇米の高原にて草地をなし牧牛盛に行はる。平地は河川の流域に拓け米作行はる。交通路は何れも谷間を利用して發達し廣島市より三次町を經て松江市へゆく縣道は南方中央部より北西の方向をとり、又隣村に通ずる村道は同じく三次町より出て稍北東の方向を取る。此地或は和名抄三次郡下次郷の内に屬せしものか。今、小文・日下・三原・山家・西河内・穴笠・東河内の七大字より成り小文に役場を置く。

【河内村】 香川縣三豐郡の東南隅。河内川の形成せる南北に細長き溪谷地、郡内の最小村なり。三方山を以て圍まれ、東西兩側は花崗岩質の丘陵地をなすと雖も東は財田村に、西は粟井村・辻村に隣り北は平地にして、財田大野村に向つて展開し、南部は阿讃國境の雲辺寺、雲辺寺山脈に續き、徳島縣三好郡佐馬地村に界す。南部は中生層砂岩より成れど、北部は洪積地をなし、舊象化石を出せし事あり。河内川南部山地より發し、村の中央を南北に貫流し、地勢南より北に向つて低く地味肥沃、氣温は他村に比し稍低しと雖も南部は相當の雨量を有し、農耕に適す。農業を主產業とし、米約（十萬圓）・麥（約五萬圓）の他、柑橘（約一萬圓）・蘭（六千圓）を產し、殊に山地多きを以て松茸の產著し（年約一萬圓）。當地方はもと豐田郡山本郷（和名抄）に屬し、雅新前丸龜藩領にして、觀音寺に居りし中津組の配下に屬し、中津家の下にありし片木家（今片桐と稱す）が本村庄屋、大寄多家は幾元と稱し庄屋を補佐せり。明治五年第八區となり、十二年河内村戸長役場を置き十八年河内・辻兩村聯合戸長を置き、廿三年市町村制實施、辻村と分離、河内村となる。村名は河川が村内を貫流、河内に在るの義より出でたりと云ひ、又神代記に當村の氏神を三部明神と稱し、河内宮・山代直・茨城國造領田部連の三部中河内直に擬ありしを以つて之を率祀し、村名となせしものなりと云ふ（西讃府志村名考）。而して此村名は變化なく、能て大字を有せず、上・中・下鉉に長野の四字に分るるのみ。戸數二一五、人口一一三五（昭和十年）、戸數漸減の傾向あり。然し村の北部は開發古く、石器時代鉉に古墳

墳代の遺跡多く、村社河内神社（旧三部明神、上・中・下の氏神）・村社國作神社（宇長野の氏神）、鉉に藥王寺（壺寶山東福坊、大覺寺派萩原寺末）等古跡も少からず。本村は縣道、河内・觀音寺線が村の中央を略南北に通ずるのみにて、特殊交通機關を有せざるも、琴平・豐濱線は村の北部近くを通り、省營自動車の往來あるを以て、交通の不便を補ひ得。古來野跡内越と稱し、阿波三好郡佐野村野跡内との往來を見る。

コーチ　高知

【高知縣】 四國地方四縣の一。四國の南半を占む。北は一帶四國山脈により、徳島・愛媛二縣に境し、南は太平洋に面す。土佐全國、高知の一市・安藝・香美・長岡・土佐・吾川・高岡・幡多の七郡を管し、面積七一〇三・六二方粁餘、人口七一七四一九人（昭和十年）、一方粁の平均一〇一人、北海道・岩手・秋田・青森・宮崎と共に人口稀薄なる地方をなす。地形弓狀帶を呈し、東北西の三方は四國山脈の峻嶺を繞らし、南に太平洋を控へ、東及び西に相對して室戸・足摺の二大岬突出し、陷沒灣たる土佐灣を抱く。四國山脈は幾多の斷層山脈より成り、中部を石鎚山脈と云ひ、東西に連亙、南方に延び長岡・土佐・吾川・高岡の四郡鉉に幡多郡北部に亙る標高一八九七米の瓶ケ森山を最高とし、筒上・雨ケ森・中津・鳥形・不入の諸山西南に連なり、綾鰈東方に走り、笠ケ峰・三ツ森・大森・白髮・野鹿池の諸山を起す。一旦吉野川に遮られ、再隆起、剣山山脈となり徳島縣との境上諸山となる。三峡山は最高峰、標高一八九四米、天狗塚一八一三米、南方に延び、室戸岬に及び、安藝・香美の二郡鉉に長岡郡の東部を占め、白髮・石立・綱付森・久々場・烏帽子ケ森諸山鼎立す、東南部の山地を宇和島山塊となす。四國山脈の一支派にて、四萬十川流域に横斷せられ再隆起するも高からず。一一四二米の鬼ケ城山を最高とし、鹿ノ葉森・大黑山・篠山等は縣境に連なり、南方にホケが森あり。中筋川によりて斷たれ、再隆起、本縣稍南部を占むる山塊に連なる。四國山脈は結晶片岩より成り、之と鉉行して各地質時代の水成岩が東北西南に帶狀に排列し、各地層は斷層により境せらる。かく本縣は三方に山脈地を繞らし中央に於て面積一四〇粁の高知平野を形成するのみにして、地積に比し平地僅少なり。河川は北部山脈より發し、吉野川の東流後北流、徳島縣に入るの他、何れも南流、太平洋に注ぐ、水量多く大河をなす。吉野川を除き、四萬十川（渡川）・仁淀川・物部川の三流著し。四萬十川最も大きく、高岡郡の山中に發し、南下、幡多郡に入り屈曲、西轉、南折し、土佐灣に注ぐ。仁淀川は愛媛縣より發し、高岡・吾川の郡界を東流、南折、土佐灣に入る。物部川は東部の大河、徳島縣との境に發し、香美郡の中部を西南流、土佐灣に注ぐ。此他、畑山・伊尾木・春平利・吉良の諸川等河川に富み、何れも支流多く、物部川以東の川を除き、何れも峻谷をなす。本縣は地位南海の南を占め、沿岸は黑潮を洗ふを以て、氣候溫暖、年平均一五度七分、夏季最高三四度五分、最低三度三分、厳寒と雖も零下に下る事稀なり、雨量は年平均二七四〇耗、瀬戸内海地方の二倍に當る。冬は北西風卓越し、夏は南東の風多し、かく氣候溫暖なるを以て沿岸には處々熱帶又は亞熱帶性植物の生育を觀る。室戸岬の如きはその標式的風光を呈する所なり。本縣は山地多く平地少しと雖、氣候よきを以て農業に好適、農產は主產業をなし、產額は總生產額九千七百萬圓（昭和十一年中）、三千九百萬圓（四割）を占む、約半は米（七十三萬石、一千九百萬圓）にして、麥（二百萬圓）之に次ぎ、甘藷・稻・三椏また之に次ぎ、蠶も行はれ、牧畜高約六百餘萬圓に上る。米の如きは年二度の收穫あり。次は工產にて年產額三千萬圓（三割）、和紙（七百七十萬圓）・生絲（六百四十萬圓）・セメント（三千八百萬圓）著はる。林產之に次ぎ、年產一千萬圓餘、國有林の面積十二萬四千ヘクタール、檜・杉・樅・椹・檜・栓・楚など良材に富み、殊に魚梁瀬の杉・白髮山の檜は有名なり。此はか水產も亦著しく、海岸は單純にして、前戸灣・須崎灣の外、良港なしと雖も、小漁港多く、漁業盛にして、水產業者四萬人、年產額約一千萬圓、内沿岸漁獲高五百萬圓、遠洋漁獲高二百餘萬圓、製造高二百餘萬圓、養殖十七萬圓を示し、漁獲物にては鰹最も多く、鰹・鯖之に次ぐ。製品にては節（八十六萬圓）、鰹煮乾（五十萬圓）著し、節類（土佐節）は須崎・宇佐・清水を本場とす。鯖漁の如き、百五十浬の沖合に出漁、鮮魚のまま阪神・關東方面に送る。鰹・珊瑚有名なりしが今や產額減少せり、本縣は鐵產に乏しく、年產一百餘萬圓、銅硫化鐵・滿俺（各一百萬圓）を主とするのみ。移出入を見るに、移出四千七百萬圓、移入約四千萬圓にて、和紙・木材・生絲・鮮魚・木炭を移出し、米・麥・織物・油類・肥料・煙草等を移入す。海外移住盛にして、北領ボルネオを始め、ブラジルへの移住多く、北海道への移住も萬以上に及ぶ。本縣は桃新前山内侯の管する所たりしが、明治四年廢藩置縣、縣名管轄等四國の他の三縣は數次の變更ありしも本縣は落以來變る事なく、九年八月阿波國を加へ管し、四國一圓は高知・愛媛の二縣なりしが、十三年には阿波を割きて徳島縣とし、大正十三年には郡制廢止となりしが、幡多郡は西南に偏在するをもつて中村町に支廳を設け縣政に便せり。縣の交通は位置上高知市を中心として發達水陸運の便四方に通ず。國有鐵道鉉に私設輕便鐵道は、西は須崎町、東は安藝町、北は徳島縣池田を經、徳島線・讃予線に連絡

し、電氣鐵道は高知市を起點とし、南は高知港、東は後免町、西は伊野町に延ぶ。國道二十三號線は東北に延び、德島縣に入り、縣道高知德島線・高知松山線は高知市を縱貫し、長濱線は高知港を經て長濱村に延び、道路著しく發達す。バスは之を利用、八方に通じ、省營バスは山田・大栃間、西佐川・松山間を往來し、國内のみならず、德島・宇和島・松山など縣外國境を越え往來す。本縣唯一の港灣浦戸港は昭和五年以來改修、阪神との連絡一層敏活を加へ、土佐商船會社の阪神航路は毎日一回發着し、沿岸航路赤岩日出港、東は沿岸各港寄航の上、阪神に至り、西は又沿岸諸港を經由、宮崎縣細島に通じ、浦戸灣内には發動機船あり、高知市と灣内諸方とを連絡す。尙高知大阪間には航空便も開け、交通至便なり。將來は高知市に航空無電局を設置、附近飛行の飛行機との通信聯絡にも備ふ。〔高知縣に於ける水稻二毛作〕高知縣下に於て稻の二毛作最も早く行はれし土地は、長岡郡介良村なるが、其起原明瞭ならず。併し寛政二年頃の記錄に既に二毛作行はれし記事あるをみれば、既にそれ以前行はれしものなるべし。元來介良村は土地低濕にて麥の作付出來ず、年一回の米作にては食糧不足となる爲、稻の二毛作を思ひつき、苦心研究の末遂に之に成功し、毎戸五六反歩乃至一町歩位づつ栽培せしと。その後介良村と土地の事情を同じくする潮江・江ノ口・下知にも二毛作行はれしが、當時は第一期作の稻の品種に優良なるものなく、又栽培法にも缺點ありし爲、地力衰へ、病害蟲の發生も頗繁にて、收穫高も多からず。爲に二毛作は次第に衰へ、介良村に於ても明治十年前後よりは、唯村内岩屋のみに二三町歩の二毛作を見るに止り、江ノ口・下知に於ては同二十四年頃全く行はれず、潮江に於ても僅に三四町歩の二毛作行はれ、唯其の命脈を存する狀態を示せり。然るに一方に於ては二毛作を斷念せず、熱心に其の研究に當る人相ついで出づ。即ち明治初年頃香美郡及び長岡郡内にて屢〻試作せられ、明治三十二年に至り長岡郡稲生村衣笠に於て衣笠早稻と稱する早熟多收の稻の二毛作を試みて好結果を收めたるが本となり、遂に其の品種の特性に應ずる栽培法を工夫せしかば、第一期・第二期共に多量の收穫を見ることとなれり。隨つて二毛作は次第に勢力を得、明治四十四年には香美・長岡兩郡十八餘村に亙り約百町歩（約一〇〇〇ヘクタール）の耕作行はれ、大正元年には安藝郡土居村附近より香美・長岡・土佐三郡の南部諸村及び香川郡南部の弘岡方面並に幡多郡幡東方面の諸村に至るまで約七三〇ヘクタールの二毛作を見、翌二年には一躍凡そ二千ヘクタールに達せり。其の後年により多少の盛衰ありしも、大體增加の傾向を失はず。現今は安藝・香美・長岡・土佐四郡の南部の諸町村及び高知市等に於て盛に行はれ、高知縣下に於ける水田全面積三六五八二ヘクタールの約一割三六五〇ヘクタールは二毛作行はる。〔土佐紙〕本縣即ち土佐は古くより製紙業發達して本邦第一の和紙生産地たり。その製品は土佐紙の名稱を以て吾人世に知らる。從來家内工業たりしが、漸次大規模なる機械工業化し、その紙質・工程にも自ら著しき變化を遂げたり。伊野町の日本紙業會社を始め、高知市内・高岡町にある工場を主要工場となし、その種類は半紙・書院紙・廉紙・障子紙・卷紙・典具帖紙・圓引用紙・謄寫原紙・紙テープその他數十種に及び、凡そ和紙として殆ど生産されざるものなし。販路は遠く歐米に及び、典具帖紙はタイプライター用紙として米國市場に歡迎せられ、また紙テープも輸出向製品多し。昭和十年に於ける縣下の製造戸數は手漉一四二三戸、機械漉一五戸、計一四三八戸にして、職工數八九七四、生産額は六五七萬餘圓に達す。〔土佐犬〕指定天然記念物。往古より飼育せらるる中型犬の一なり。耳は基部廣く頭蓋大にして頑張り勇太くして胸深く前肢良く發達す、赤毛及び胡麻毛のもの多し。〔土佐尾長雞〕指定天然記念物。本邦特有の家禽にして古來高知縣に於て生産せらる。其異常に延長せる尾羽は人爲淘汰の最も顯著なる一例として內外學者の驚歎する所なり。〔鶏捲雞〕指定天然記念物。古來土佐に飼養せらるるものにして褐色・白色・黑色・白斑・三色斑（櫻基石）等の諸系統あり。矮小にして尾骨並油壺を缺き我國特有なる家禽の一として著しきものなり。〔東天紅雞〕指定天然記念物。往古より飼養せらるるものにして、普通褐色を帶び冀毛は長く尾羽多く、捲れて地に曳き長鳴するを特徴とす。我國特有の家禽の一として著しきものなり。〔冀曳矮雞〕指定天然記念物。形東天紅雞に似るも矮小にして冀毛長く垂るるを特徴とす。我國特有なる家禽の一として著しきものなり。

【高知平野】 高知縣の中央に位し、高知市を中心とし、東西に展開する平野。面積一四〇方粁。縣内唯一の大平野なれど縣總面積に比すれば甚小なり。北は劍山山脈の斷層崖によりて界せられ、南は太平洋に面す。一の陷沒地帶にして、浦戸灣の兩側に横はる丘陵地は島嶼なりしが物部・國分・鈴諸川の運ぶ土砂の爲に堰められ、沖積の平地を形成せしものにして、浦戸灣は以前海水たりし證蹟として平野の中央に於て、南北に深く灣入し、平野を東西に二部に分つ。東部は香美・長岡兩郡に擴がり、香長平野と稱せられ、西部は土佐・吾川の兩郡に擴がり、高岡町を中心とする高岡平野にして最も廣し。この平野は早く開け、山田町西南國府村には國分寺あり、この東北には國府の址もあり、一宮村には一宮神社あることに

依りても知らる。然し此平野が現今の如く開發されしは、野中兼山の恩澤による處甚だ多く、兼山は山田町の東北物部川の扇狀地帶に大堰堤山田堰を設け、水を四分し、各人工掘に依りて灌漑に備へたり。世に俗下三萬石と稱するは之を指すものにて、其面積二千三百町歩に及ぶと云ふ。西部に於ては、仁淀川の上流に八田堰を築造せり、即ち伊野町より仁淀川に沿ひ、高岡郡川内村字大内と左岸八田村との間に仁淀川を横斷して築きしものにて、人工掘により水を八田・西分に引き、更に長濱運河に導き、高岡平野八百六十餘ヘクタールの灌漑に備へき、この結果今日の美田を觀るに至りしものにして、地味肥沃、氣候溫暖なるを以て、農耕に好適、米の如き、二番作地をなし、また野菜の促成栽培地として、その利用益々著しきを見、土佐に於ける農産の大部分はこの平野の占むる所にして、香長平野には高知市を始め、後免・山田・赤岡の諸町發達し、西部平野には伊野・高岡・越智・佐川の諸町發達す。

【高知市】 高知縣の都市。高知平野の中部に位し、北に深く灣入する浦戸灣頭を占む。東は浦戸灣の入江を隔てて長岡郡五臺山村・高須村・土佐郡布師田村に對し、北は土佐郡一宮・土佐山・鏡三村に接し、南は香川郡長濱町・土佐郡鴨田村に、西は土佐郡朝倉村に隣接す。北は劍山山脈に隣する種野峠と南は雲尾山脈の急峻なる鷲羽山が南と北に對峙し、西南境に雲尾山脈の主峯雲尾山（三一〇米）聳え、南嶺に宇津野山（二五六米）、北方鏡川岸に鳥如寺山（筆山）屹立す。西は小丘陵起伏し、東は香長平野に續く。市街の北邊を久萬川（比島川）、中部を大川（江ノ口川）、南邊を鏡川の三流が東流し、浦戸灣頭の吸江に注ぐ。本市は久萬川を始めこれ等諸川の注入口に當り、灣口には丘陵連亙するも他は一帶に沖積の湿潤低地をなす。市街は東西に長く南北に挾く地勢は一般に西南に高く東北に低く市街の中心に高知城高く屹立す。紀貫之の土佐日記にて想定される如く古くは高知平野は海底にあり、それが仁淀・穴内・物部・鏡の諸河川に堰められ、それに地盤隆起の運動が之に伴ひ昔の大灣は僅に南影を浦戸灣に止むるに至れり。高知は昔河中とも記しデルタ上の亂流を意味せしものの如し。産業としては農産（七十八萬圓）、畜産（十三萬圓）、水産（十八萬圓）、林産（二萬八千圓）などあれど、工産最も著しく、一千三百萬圓を示し、セメント及び其製品（三百八十萬圓）を最とし、和紙（二百萬圓）、生絲（一百五十萬圓）、和酒（六十七萬圓）など重要にして、特産として珊瑚製品（十八萬圓）、釣針（十三萬圓）知らる。貨物の移出入も近時急激の增大をなし、移出總額二千五百萬圓に達し、和紙（六百五十萬圓）、生絲（六百萬圓）、セメント（約三百萬圓）、木材（一百八十萬圓）、鰹節（五十餘萬圓）、蔬菜（九十萬圓）、著しく、移入總額千九百萬圓を示し、布帛及び同製品（一百三十萬圓）、油脂・肥料・石炭（以上各一百二十萬圓）、米・砂糖（各一百萬圓）など著し（以上統計昭和十年）。セメントは雲尾山脈の石灰岩と浦戸灣底の粘土を原料とせる良質のものにて溜江棧橋の對岸西孚に土佐セメント會社あり。土佐セメントの起原は新しく明治十九年この地の石灰業者小松與太郎なる人の創造に始まるといふ。和紙は土佐紙の名世に知られ判紙・卷紙・障子紙・コッピー紙・ナプキン紙等種々産し市の西部旭町に工場あり。珊瑚は元來土佐の沿岸に産し土佐玉の名は海外に知られしが、近年産額減少し市内の珊瑚細工店は臺灣方面の珊瑚を原料とす。交通は省線土讃線市の中央を東西に貫きて旭・高知兩驛（共に大正十三年設置）を置き、中央部播磨屋橋より伊野・後免・棧橋・高知驛前等に至る敷線の電車之に連絡し、道路は放射狀に郡部と通じて乘合自動車を通じ、また汽船は毎日大阪・神戸に向け出帆し、他に甲ノ浦を經て阪神に連絡する東沿岸航路、室戸を經て九州細島に至る西沿岸航路等ありて、同じく毎日出港す。昭和五年に至り、縣民多年の希望なりし浦戸灣の修築工事が十二箇年の繼續事業として着手せらるるに至り、完成の曉は土讃線と相俟ち一層交通の便を加ふ。交通の發達に伴ひ縣庁諸部市より孤立せる地理的環境は除かれ、幼年期的な經濟都市より瀬戸内海地方と結び産業資源は漸々として縣外に流動し壯年期的な活動に入り四國第一の大都市となる。高知縣廳・市役所・高知地方裁判所・高知聯隊區司令部・高知營林局・高知高等學校など、諸官公署・學校は高知城地を中心として、その周圍に集まり、公園を中心とする一郭は高知縣の行政・教育の中樞をなし、播磨屋橋附近は各種の銀行・會社・大商店軒を並べ市内第一の繁華の中心となり、鏡川と江ノ口川に挾まれる部分は市の本體にして、鏡川以南の溜江筆山々麓は近來發展せし新開地にて女子師範學校その他の中等學校が設けらる。商工業の發達とともに舟著場變更の要を生じ、明治三十七年には市の東南部浦戸灣に臨む地に棧橋の建設を見るに至れり。從つて他の都市と同じく市の東部浦戸灣に臨む地域は將來工場地として發展し、公園の西部、西北部即ち小高坂附近より鏡川以南の溜江山麓一帶は住宅地となる。この地古くは和名抄、土佐郡高阪郷に屬す。高知城は市街の中心に高く屹立する平地中の高所にして、早く國守所在地となりしが如く、紀貫之の在任ありしも此地なりと云ふ。吉野朝頃大高坂松王丸が此處に據りて義兵を挙げ、細川律師薛定等と戰ふ。天正十六年長曾我部元親四國を統一し、此處に居城を移せしが、間もなく浦戸城に轉じ、次で慶長六年山内一

豐道州掛川より移封、又此處に居城、市街を開き、高知市の基礎漸く成り、爾來約三百年間、城下町となる。高知の名稱は元來大高坂山が河川の間に介在するを以て河内山と呼び、城名とせしに始まり、慶長年間山内家築城の時、長濱雪蹊寺月峰和尚の命名により河内山と稱せしが、後山内家第二代忠義公の時、竹林寺の僧聖鐘をして新城名を撰ばしめ、西方淨土に因み河内山を高智山と改め、後略して高知と書き、市街をも高知と呼ぶに至りしものなりと。明治に入り、其四年には縣となるや高知名をとりて高知縣と稱せられ、同六年には區制實施、土佐郡に屬し十一區に分たれ、同八年には大小區編制となり、第七・八・九の三大區に跨る十個の小區に分たれ、同十一年には大小區制廢止、郡區制となり、本市は土佐郡に屬し、上街・北街・南街並に高知街の四區は土佐郡の管下となり、同二十二年四月一日より市制を施行し高知市と稱す。爾來市の發展に伴ひ、市域擴張の議起り、大正六年北隣江ノ口町を、同十四年旭村並に鴨田村の一部を、同十五年東隣下知町及び南隣潮江村を編入し、昭和二年小高坂村を、同十年秦・初月の兩村を合併し、現今に至る。面積四〇・一二九方粁、戶數二萬四千、人口十萬三千四百五人（昭和十年）。四國唯一の十萬都市となる。

市並に附近には名勝多く、大高坂城址は市の中央にあり、公園（高知公園）となる。長曾我部元親之を興せしが、のち浦戸城に移り、慶長中山内一豐土佐に移封、此城を修築し、爾來十六代約三百年の居城となる。明治六年公園となり、天主閣並に城門尙保存され、威臨閣懷德館と稱す。昭和九年一月には國寶に指定せらる。

閣内櫻梅多く四季行樂の地をなし、山内容堂公・板垣退助伯の銅像あり。市の東南に梅原公園あり。鏡川の清流に臨み、筆山の翠緑に對する近代的公園にして、近時別格官幣社山内神社建立せらる。市の東南潮江に縣社天滿宮あり。土佐に配せられし菅公の嫡子右小辨高視朝臣の邸址にて、菅公の殘後、その老臣の齎らせし菅公の遺品を神體として祀りし所と傳ふ。尙浦戸灣畔には勝地多く、灣の南部なる浦戸灣に續き吸江あり、景勝に富み吸江十景は古くより喧傳さる。東方に五臺山あり、山上に竹林寺、山の西南麓に吸江寺あり、その南を沼島（ぬしまぬしまが）岬（法師ヶ鼻）と云ふ。尙山腹に野中兼山を祀る野中神社あり。又浦戸灣の入口なる浦戸半島に桂濱（かつらはま）あり、白砂をなし景勝を以て知られ、半島の先端なる龍頭岬には勤王の志士坂本龍馬の銅像あり、遙に大洋を望んで立てらる。附近に長濱町あり、野中兼山の開鑿に係る長濱運河を始め長曾我部元親に關する史蹟、元親を祀る秦神社、元親の勸請に係る若宮八幡社、元親の墓等あり、又長濱の北なる瑞戸（ずいこ）越坂上には土佐南學の泰斗谷時中先生の墓所たる清川社あり。浦戸灣東側の種崎も風光並に促成栽培を以て知られる。

〔高知城〕 城址は鏡の西南一粁半、市の中央にあり。南方遙かに浦戸灣を控へ、城地の南邊に鏡川、その支流江ノ口川は城北に流れ、平山城としては和歌山城・松山城に次で地の利を占む。往古、大高坂城と呼び、南北朝時代、南朝の忠臣前守護代河間左衛門次郎光綱・近藤大炊左衛尉知國・大高坂松王丸・遠江房等これに據りて遙かに宮方に應じ、後醍醐天皇第七皇子花園宮滿良親王を奉じて、北朝武家方の將細川律師定禪・佐伯經貞・日下の三ノ宮氏・須崎の津野氏等と相對峙すること年久しく、防守攻略を屢々繰返し終に興國二年大高坂城陷落し、花園宮は中國より西國に落ち給ひ、松王丸等は悲慘の戰死を遂ぐ。いま升形（ますがた）附近、市役所近傍等には往々當時戰死者の古墳・遺塔等ありて、僅かにその名殘をとゞむ。その後久しく廢城となる。しかし當時の城構へは、近世見るところの石垣や漆を塗らし、本丸に摩天の櫓閣を築きし豪壯なる大規模の城郭にあらざりしこと明かなり。のち約二百五十年を經て長曾我部元親ここに築城せんとす。はじめ長曾我部氏、岡豐の地をその居城とす。もと長曾我部氏の祖は秦氏にして、應神天皇の朝我國に歸化せる百濟弓月より出で、其數世を經たる河勝の末裔熊俊の代に至り、土佐國に從り、長岡郡宗部郷を賜ひ長岡・國府等の諸郷を莊園とし、中世香美郡宗部に對して長曾我部を名乘る。天正十六年元親その居城を現在の城地、大高坂山に移す。然るに城域兩川に挾まれ治水工事また全からずして、屢々水患に惱み、幾許もなくして浦戸に築城せり。長曾我部氏の滅後、慶長五年九月山ノ内一豐關ヶ原戰の功により盛親の所領一國を與へらる。因りて一豐は同六年三月封地遠州掛川を引拂ひ、海路土佐に赴任し元親築くところの浦戸城に入る。然るに城郭規模小にして二十四萬石の大世帶を容るるに足らず。因りて同六月大高坂山の故地を相し、その匠百々越前・同出雲父子を總率行に任じ、木部茂兵衛・山田久兵衛等を普請奉行とし、其年九月鉞初めの事を行ふ。先づ石垣の築造に要する石材は浦戸城の石垣を毀つて舟に運び、城北を流るる江ノ口川より搬入し、また附近に散在せる天正年間に築かれし砦、初月・鴨田・潮江・朝倉・秦・一ノ宮等の舊壘を取毀ち之を再用せり。木材は初月・秦・一ノ宮等の山林より伐採し、瓦は泉州に造らしむ。普請に從事する工匠は殆ど大坂より寄せ、築壘に使用せし人夫日々一千三百人を超ゆといふ。創建の天守は五層七重なりしものの如く、その樣式は前封地掛川城の天守に則りて上重に潤慘・勾欄を繞らせる桃山時代初期のものにして、特に家臣を遣はし幕府當路者の内諾を得て築きしものなること記錄に見ゆ。かくて慶長七年より八年に亙りて本丸及び二ノ丸石垣の築造を完了し、八年八月二十一日一豐浦戸城を發して新城に徙れり。尋で三ノ丸の築造に著手し石垣・漆塀・塀塙・殿閣・櫓門の造營悉く竣工を告げしは慶長十一年、一豐の子忠義の代とす。かくて高知城は落成山ノ内一豐より豐範に至るまで子孫相嗣ぐこと十六代、二百七十餘年の封城たりしが、享保十二年に天守閣・本丸・二ノ丸・三ノ丸等を燒失す。因りて同十四年五月二ノ丸再築に著手、延享三年三月本丸工事を始め宣延元年落成、翌年三ノ丸再興に著手寶暦三年十一月に竣工す。嗣新後廢落壓縣の新制によつて殿閣・櫓門の毀つべきを壞し、城域の風致を加へて勝景の區域とし、公園として公開し、本丸の諸樓閣を保存する事となり、天守を威臨閣、之に續く殿館を懷德館と名づけ今日に至る。いま此地高知公園となる。天守・懷德館をはじめ、殘存樓閣・塀門等は何れも昭和八年十二月國寶建造物に指定せらる。いま殘存建造物（國寶）を列記するに次の如し。大手門（七六坪六、重層入母屋、本瓦葺、檜籠造）・築地塀（五二間六土塀檜籠造、瓦葺）・天守（一五九坪九、四層五重、本瓦葺、檜籠造）・懷德館（一一二坪八、本造平家、瓦葺、書院造）・廊下多門（一〇七坪四、二層二重、本瓦葺檜籠造）・本丸廊門（一〇坪四、同上）詰所（二四坪七、平家造、本瓦葺、檜籠造）・

鐵櫓（三坪三、平家造、瓦葺）・本丸築地塀（六五間、檜籠造、瓦葺）、以上諸建物合計面積四九三坪一三、築地延間數一一七間六、高知城本丸の面積は四八七坪、その配置は大體に於て和歌山城と相通じ、また小天守を伴はず、懷德館の相接せるは初期の樣式とす。二ノ丸より橋廊下を以て本丸と連絡し、二ノ丸の東南隅に構ふる橋廊下は門構となり、南に潛れば東西石垣に跨る多門あり、西なるを西多門、東なるを東多門と呼び、何れも天守と連りて城の主たる防禦工作たり。東多門の東南に天守建ち、その南に書院造りの殿館懷德館接續し、その即刻彌間は江戸時代の技巧を誇るに足る傑作とす。殿館の西に黑鐵門を構ふ。二層造り下見張りの城門にして、本丸の搦手に當る。本丸の築地塀は慶長初建の時は普通の挾間附築地なりしを、のち鐵砲戰術の旺盛となるに及び延享度の再建に防彈壁となせるもの。即ち外壁と内壁との二重壁體より成り、その間隙凡そ二尺にして、概三四寸の栗石を以てこれを詰め、所々に竹筒を通して空氣の流通を計り、内外部は勿論檜籠めの仕上とす。この防彈壁には四角・三角・圓形等各種の挾間及び銃眼を數多切り開き、鐵砲戰の威力を防ぐ苦心の跡を窺ふべし。黑鐵門を出で少し東南に本丸の二ノ門あり。またその東南隅に太鼓樓あり。餘餘の建物は明治六年に破毀せらる。いま本丸の擴張を軍事的に說明すれば、大手門破れたる場合は鐵門にて防ぎ、それが破るれば二ノ丸の諸ノ門に防ぎ、二ノ丸陷れば北ノ廊下と南の本丸の一ノ門を鎖ざし敵の進入を喰止むる計畫にて築かれしものにして、その布置の巧妙は無路・松山・和歌山城等、平山城の代表的のものに比し敢て遜色なしといふべし。門内にいま板垣退助の銅像、二ノ丸臺上には山内容堂の銅像及び測候所あり。山の東面は櫻多く、花壇あり、西面には梅・桃多く、山中には遊歩路縱橫に通ず。明治四十年十一月九日に大正天皇、大正十一年十一月二十七日に今上陛下成臨閣並に懷德館に台臨あらせられ、二ノ丸に松樹の御手植あらせらる。

〔教授館址〕 追手筋（現土佐高等女學校）にあり。八代藩主山内豐敷の深く儒學を崇め篤く程朱を信じて、大いに文教を振興するの志あり。寶暦十年十二月、學校を追手筋に建て、これを教授場と稱へ、儒臣谷鼎潤・宮地春樹・戶部良熙を擧げて教授役に任ず。次代豐雍、教授場に命名して教授館と云ひ、自らこれを扁額に書き、別に孔子の像を畫きてともに館に掲ぐ。のち文政八年藩主豐資・弟豐道を館の總宰となし、日野根弘享をその學頭に任じ、學制やや革まる。天保の末年、豐道、弘享の職を解きて、更に文武頭取（のち文武目附と改稱）を置き館中の事を總監せしむ。幾許もなくして藩主豐熙の代となり、叔父山内豐榮を館の總宰となす。嘉永三年。豐榮病により職を辭す、その後著しき沿革もなく、文治二年教道館設置せらるるに及び廢止となる。

〔教道館址〕 西弘小路（現刑務所）に在り。初め天保・弘化の間、藩主山内豐熙、勵精治を圖りて儒を崇び道を重んじ、學校の規模を恢弘し、一藩の學風を振興せんと欲せしが、早世して果さず。萬延・文久の際に至りて、藩主山内豐範は容堂と共にその志を繼ぎ、仕置役吉田正秋（京洋）をしてこれを經營せしめ、文久二年二月落成し、四月三日開館す。初め文武館と稱へしが、尋いで教道館と改稱す。文武の道はすべて本館に於いてこれを授け、一藩の教育はここに於いて大成す。明治五年七月、全く廢してその校舍を縣廳に充てしが、のち今の刑務所となる。

〔開成館址〕 西郷・木戶・板垣三侯會合の場所） 九反田（縣立海南中學校）にあり。慶應二年三月創設するところにて、專ら開物・成務の意に基づき富强の道を圖るにあり。局を分ちて貨殖・勸業・礦山・補助・海軍等となし、傍ら譯局を設けて洋學を教授せり。海軍局に於いて主專ら航海の術を授け、また醫局を設けて洋方を教へ、藩士の志ある者をして入學聽會たらしむ。その業を本館にて修めし者は、教道館の課程を免ぜらる。明治四年一月、薩州より西郷隆盛、長州より木戶孝允等來國し、土佐の大參事板垣退助等

と會合し、版籍奉還の一歩を進め、廢藩置縣を行ひ、御親兵設置を議したる由緒ある遺蹟なり。

〔鴻森城〕 瓢井・初月圓行寺間にあり、約二七〇〇米の高峰をなす。戰國の昔、本山氏の將鴻森出雲守居城す。永祿の頃、長曾我部氏これを攻めしが、城兵死守して降らず、糧道を絶たれ飢渴に苦しみつつも、なほ白米をもつて水に擬して馬を洗ひ、遙かに寄手に之を見するなど苦肉の策を構ぜしに、會ゝ城内に内應者あり。火を樓閣に放ちしかば、途に敗れ、出雲守は自殺し、城全く陷落せりと。今なほ山上に、一の丸・二の丸・櫓濠の跡を歴然と存す。

〔天滿宮〕 潮江に鎮座。縣社。祭神、菅原道眞・高視朝臣・北御方。延喜年間の創建と云ふ。菅公貶謫に際しその子右少辨高視また蓬坐して土佐國守に貶せられ、當村字高見山上に居住せしが、菅公遽去後、その家人淺會春彦は公の遺物を奉戴して當國に來り高視朝臣に祭る。因りて朝臣その遺物を神體として鎮祭す。而して高視また延喜六年この地に發ずるや里人これを當社に合祀す。舊社地は天和頃まで今の地を距る東一町餘にありしが、慶長年間に山内氏入國の際、現社地に奉遷し社領を寄す。社記によれば、蓋しこれ故地に創如寺を建立せんが爲なりと云ふ。其後、社殿大破し社運衰頽せしが、寛永九年山内忠義これを再建す。明治維新に至るまで修繕の費用等すべて藩主これを辨ぜしと云ふ。明治六年縣社に列す。例祭、七月二十二日・十一月十八日。

〔八幡宮〕 山田町に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・神功皇后・多紀理比賣命・市杵島姫命。創建年代を詳かにせず。もと舊高知城内本丸に鎮座せしが慶長五年山内一豐入國してより同城内大高坂山麓に遷され、城内三社の一に算へらる。のち現在地に社地を定め寳永九年再建の事あり。明治三年同郡江ノ口村字尾上にあり し遙拜殿を、同四年には大高坂鎮座の本宮を此處に遷し、同五年郷社に列す。同十一年社殿を修復し同十九年縣社に昇格す。例祭、七月二十八日・十月二十四日。古來氏子の報賽盛んにして祭禮壯觀を極む。萬變記に曰く「元祿十四年御城内八幡宮の祭は帶屋町廣小路より御屋敷前一面に屋臺をやりつゝさまゝゝの藝をつくす。是を段地理と名付て、廣小路より土橋まで引渡すに、一番屋臺、朝五つ時分に西の口へ行き、昏に漸く土橋に來ると云ひ、是時に到りて錦繡絶羅の類凡て買ひつくして不足しければ、終に人を して伊豫の國に遣はし請求するに到れり、其後公儀の御手にも合ひがたき事出來して同十六年限りにて是をとゞめしとぞ」と。近年廢絶して往時の盛況を思ぶよすがもなし。

〔藤波神社〕 追手筋に鎮座。縣社。祭神、山内一豐・同宗若松氏・山内忠義。文化二年五月の創建、一に藤波明神と云ひて城内三社の一なり。一豐は藤波氏、幼名を辰之助と云ひ、後に伊右衛門と稱す。初め織田信長にのち秀吉に仕へて軍功ありて天正十八年遠江掛川五萬石に封ぜらる。慶長の役に德川氏に從ひて土佐二十餘萬石を食む。同十年六十歳を以て終る。その室若松氏は賢婦人として聞え嘗く人口に膾炙す。忠義は一豐の弟なる修理亮康豐の子、山内家を繼ぎ慶長十五年從五位下に叙せられ土佐守に任ず。大阪の役に功ありて寳永三年侍從に進み、同四年七十歳にて卒す。明治元年藤波大明神を現社號に改稱し、同五年郷社に列し同八年縣社に昇格す。社寳中、太刀（毛抜形山内一豐所用）一口・太刀（毛抜形山内忠義所有）一口の二點は國寳に指定せらる。例祭、八月四日・十一月四日。

〔春日神社〕 追手筋に鎮座。郷社。祭神、武甕槌命・齋主命・天兒屋根命・比賣神。元祿十六年山内豐房、藤原氏の氏神なる春日四所明神を勸請せしものとも或ひは寳永三年の創祀とも云ふ。城内三社の一なり。もと潮江村字宇津野山に鎮座ありしが、享保十五年同郡北烏村に移座あり、更に天保七年に今の藤波神社境内に奉遷し、のち寳永三年に住吉大神以下を合祀す。御神體とする寳鏡は寳永五年山内豐隆の奉納せしところと云ふ。明治五年郷社に列す。例祭、八月四日・十一月四日。

〔安樂寺〕 江ノ口にあり。新義眞言宗豐山派。百々山金性院と號し、四國八十八所第三十番札所たり。延喜年間、菅原道眞、長男高視巳當國に配流せられて讀居せしが、道眞薨去ののち之を潮江の地に祀るや、筑紫菩提寺に倣ひて安樂寺と號す。當時頗る伽藍宏壯にして子院十二箇院を擁せしが、のち屢ゝ兵火に罹り漸次衰頽せり。寳文年間弘法寺榮俊これを久萬村に移して再興す。久萬城主毛利氏及び山内氏累代の崇敬淺からざりしも、維新の際一時廢絶す。明治八年現地に再興さる。本尊木造阿彌陀如來坐像一軀は鎌倉時代の作にして國寳たり。御詠歌「人多く立ち集まれる一の宮昔も今もさかえぬるかな」

〔栗法寺〕 潮江にあり。日蓮宗。神力山と號す。天正十三年山内一豐江州長濱入城の際に、先考菩提の爲め之を建立し、日仁を請じて開山とす。のち一豐移城に從ひ遠州掛川に移り、のち再び當國に隨ひ移る。貞享四年災厄に從ひ堂宇烏有に歸せしも、元祿二年現寺地に再建す。山内氏の時、寺領百三十石を有せり。

〔高知別院〕 追手筋にあり。眞宗本願寺派。明治維新前當地殆んど眞宗無縁の地たりしが、維新後同教御を遣はして教化に努め、同十五年遂に宗主明如當院を開創す。現に崇敬門末は土佐一國にて五十三、信徒約一萬戸あり。

〔高野寺〕 中島町にあり。古義眞言宗。同宗高野寺たり。明治十四年高野山上蔵院信頂の開基に係る。鐘樓は日露戰役戰病戮者追弔記念の爲め寳道の建立せるもの。寺寳として空海作愛染明王像・運慶十一面觀音像を藏す。

〔九反田地藏堂〕 九反田字地藏町にあり。當に御藏の地藏と稱す。慶長五年九月十六日、江州佐和山の城主石田三成が、關ケ原の一戰に敗れ京都に刑死するや、三成の幼女、乳母に抱かれ藤を避けて土佐に落ち來たり、九反田の淨土宗稱名寺に寄托せしが、疱瘡に罹り七歳の時儚なく落命せしため、乳母悲歎の餘り尼となり後世を弔ひしが、これ亦慶長十八年に死す。今なほ墓邊に寞れなる石地藏佛と乳母の墓とを存し、香華の煙日夜絶ゆることなし。乳母の墓は、上部に五輪塔の形を線彫とし、その下に梵字を刻み、周屋妙秋禪大尼、慶長十八年六月二十二日と、戒名年月銘せらる。

〔稱名寺〕 金子橋にあり。淨土宗西山派にて、本尊は行基菩薩作阿彌陀如來。草創・沿革不詳。善光寺堂に一光三尊佛を安置す、明治十九年勸請す。什寳に舟板石號（建永二年宗祖法然上人左遷の砌、手づから舟板に調彫せるもの）あり。現堂は明治十六年の改築に係り、名刹として聞ゆ。

〔圓子堂〕 本尊十一面觀世音は行基菩薩の作なりと。寳文二年太守山内忠義、菟貞社參の途次殘暑を避ひ、當觀世音に祈願し平癒せしより、喧傳に霊驗ありとて參詣する者多く、成就の時は鬚の圓子を納むと云ふ。

〔妙國寺〕 潮江にあり。日蓮宗。天高山と號す。文龜元年、守護代細川治部大輔勝益これを創建し、京都妙國院日覺を請じて開山とす。泰家興豐より淵戸移城の時、當寺亦種崎に移る。慶長五年山内氏入國後高知城下朝倉町に再轉す。貞享年間災厄に遭ひしも、直ちに現寺地に移して再建さる。

〔尾戸燒〕 江ノ口町に產す。土佐の陶器として古來その名著はる。もと高知の藩窯にして、能茶山燒の前身にあたる。藩主の二代目竹巖院、卽ち山内忠義の時、野中彔山が產業を興すに當り承應二年八月、當時京都に於て有名なりし陶工野々宮仁清の門人、大阪高津の久野正伯を招く。正伯は城北なる鴻小津、卽ち尾戸の地（江ノ口町）に開窯し、石立村能茶山の土と薊野村丸山の釉石を採取して、陶器を製す。これ實に尾戸燒の濫觴なり。正伯は卽仁清の餘流を汲むと雖もまた自ら朝鮮御本流の燒物を學び、更に一機軸を出し、茶器類の如きは最も高尚端雅をもつて世人の賞翫を得、特に藩主は將軍家獻品の一に加ふるに至りしといふ。正伯土佐にある間、國人山崎平内、森田久右衛門（光久）その門人となり、正伯歸阪の後、元祿九年平内久右衛門の二人薩土より尾戸に屋敷を賜はり、正伯の跡を嗣ぎて尾戸燒に從事せり。この尾戸燒の前半は陶器（土燒）なりしが、後に磁器（石燒）を起すに至り、文政三年尾戸窯を閉ぢ、尾戸の製陶屋敷は國老山内益之助宅地に賜はり、同年五月窯場を悉く城西の能茶山（土佐郡鳴部村）に移すに當り、窯名も改まりて觀來尾戸燒の稱を失ふ。

〔街路市〕 市の經營する街路上の市にして、各曜市と稱し各曜日によりて市の開かるる街路一定せり。この街路市は遠く舊落時代より行はれ、今に盛況を繼ぎ、日曜日の帶屋町に於ける市は最も盛なり。魚類・蔬菜・果物等を始め、各種日用諸品を近郊諸村の生產者が直接消費者へ販賣する點時小店舗、街路の兩側に列をなし、早朝より日沒に及び、街路は雜沓を呈す。

〔鑪砸の濱跡〕 江ノ口安樂寺の後方にあり。八丈岩ともいふ。高知市の北部江ノ口方面は、往昔一面の入海にてその海中には東に比島、西に潮ケ島の孤島あり。潮ケ島には鑪砸など稱へし巨巖ありて、廣大なる入江の口に當れり、故に江ノ口の地名起ると云ふ。今尙この巨なる三、四の巖砸殘存し居れり、

〔長者舊刑場〕 市の北部圓行寺長芝にあり。藩政時代、高知城下の刑場は、上は雁切、下は九反田の二箇所にて、雁切は古へ鎭切とも云ひしといふ說あり。九反田は今の專賣局出張所の南堤外の西方にて、鏡川沿に大井の制といふ所あり。首斬役大井氏の居住せし所にて、其處に地上一・三米の周圍四・一米、樹の高さ十八米、推定樹齡三百年といへる老松ありて、絶壁として巨幹を鏡川の上に横たふ。ここにて數十數百の罪人を打首す。中にも享保九年三月十七日近森湖山と稱へし士人、常々狩野常信の畫を臂作し、利を射たること露顯し斬首せられし事あり。のち九反田を廢し長芝に移りしが、刑の輕き打首などは山田町（今の牢町）の獄舍にて行へり。長芝にては放火・謀殺し・夫殺し等の重罪者を所刑せしため、その所罰も磔・火炙・搶試といふ如き極刑を行ひき。維新前當地殆んど刑場の地たりしが、維新後同教御を遣はして教化に努め、同十五年遂に宗主明如當院を開創す。現に崇敬門末は土佐一國にて五十三、信徒約一萬戸あり。

兩側に商店並び、維新前より明治初年にかけては歳暮・節句等の夜市行はれ、繁華殷賑を極めしも、その後衰微せられ店舗は他に移轉せしが、大正十五年八月、高知驛前より潮江橋に至る一・六米幅の大道路開通し、ためにこの橋も同じ廣さとなり、舊形は失はれしも以來高知市中央の大賑線となり、電車四通し頗る雅香を極むることとなれり。その昔、安政の頃、五臺山竹林寺の脇坊妙高寺の僧純信なるもの、鰹掛師の娘お馬なるものに懸想し、この播磨屋橋上の雜貨店にて、替を買ひ與へたりといふこと、世間に聞えて浮名を流し「土佐の高知の播磨屋橋で、坊さん替買ひよつた」と云ふ情話謠總たる鈴鳥歌の大流行を來たし、今に人口に膾炙せらる。

〔板垣退助遺蹟〕 國家の元勳にして自由の主唱者。天下の大偉人たる板垣退助の遺蹟は、夫々建碑記念せられたるが、その遺蹟は中島町高野寺が誕生地にて、大正十三年、左の碑建設せらる。「板垣退助先生誕生之地」次が外遊歸朝歓迎地たる幾江灣内丸山豪のものにして、碑面に「板垣退助先生、明治十五年四月六日、岐阜遭難の翌年、歐洲より歸朝、其年八月廿九日、當時廣場たりし此に歓迎す、國縣有志集來水陸人を以て埋め、其の盛觀實に未だ嘗て見ざる所、自由民權の氣勢更に天下を震駭す、今石に刻し永く記念とす」次はその舊邸たりし潮江新田に「板垣退助先生誕生之地」と記され、裏面には「是れ板垣退助先生の舊邸址、もと落俊の有たり、先生征韓論破れ、冠を挂けて郷に退き居を此に移さるるや立志社の創立、郷黨子弟の指導、自由民權の首唱、國會開設の運動に心血を傾注し、天下の名流來りて教を乞ふ、實に時勢の策源、政黨の搖籃地にして、憲政發祥の起點たり、今碑を建てて永く偉蹟を表す」とあり。

〔伊能忠敬測地所〕 下知寶永堤にあり。忠敬幕命に依り本邦の海岸線を測量し、日本沿海實測錄を著はせしが、その測量に際し文化五年四月十九日、安藝郡甲浦に著し、それより沿海を測量して、五月朔日高知に著し、六月中旬、土佐一國を測定せり。その高知に著せし時は、種崎町辰巳屋に宿して登日測量し、現今の高知市下知寶永堤即ち下知小學校前の縣道と南北道路の交叉點を以て、緯度三三度三四分と觀測せり。

〔片岡健吉邸址〕 中島町下二丁目にあり。嘉永癸丑以來、尊攘論の起るや、健吉は乾退助に同して勤王派に列す。明治元年戊辰の役、奮戰苦闘偉功を奏す。明治五年征韓論の起るに及び、公職を抛ち愛國公黨の組織に盡力し、尋いで土佐に立志社を創立し、のちまた愛國社を興して大いに民心を鼓舞し、初期の高知縣會議長となり、嘗て議來憲政のために奔走し、諸國の會同必ず推されて領袖となる。國會初設の時より代議士となり、林有造・松田正久等と共に、自由黨の領袖に推され大いに黨務に盡瘁せり。第十二議會より衆議院議長となり、老練公平能くその職を盡し、德望院の内外に隆々たり。人となり溫厚至誠にして玲瓏玉の如く、しかも實思堅固、毫乎犯すべかざるものあり。政友會の組織成るや總務員を囑せられ、又同志社社長愛媛校長に、日本基督教傳導局總裁に推さる。明治三十六年十一月四日卒す。享年六十一歳。

〔高知會所鉞立志社址〕 種崎町（京町西詰）にあり。ここは寛文元年使者屋を置き、他藩よりの來國使者の旅館に當てしが、元祿中、美濃屋（武藤氏）之に居住し、のち元文五年、藩の買上にて町會所即ち高知會所となり、高知市街の行政を掌る。謂ゆる現在の市役所に該當するもの。爾來明治四年廢藩の時まで存續す。明治七年四月、板垣伯の土佐に歸るや、直ちに片岡健吉・林有造・谷重喜等と共に、政社立志社を興して、此處を中心として盛んに活躍す。また別に學舎を設け西局を置き、法律研究所を開いて徒弟の薫育に從事す。明治十年、立志社構内に於いて海南新誌・土陽雜誌を發刊し、同十一年一月十日、兩誌を合併して初めて土陽新聞を發刊せり。

〔後藤象次郎誕生地〕 片町（天神橋通東側）にあり。象次郎、早く父を喪ひ、姉聖吉田東洋の扶育を受く。東洋も亦一世の英傑なりしかば、象次郎その薫陶を受け、出藍の譽あり。山内容堂の信任を受け、藩政中參政となる。のち戸塚靖海に蘭學を、大島圭介に英學を學びたりしが、文久三年、大監察となり、藩の機構を擬り、蓋世の智略を揮ひて王政復古の大業を畫策し、遂に坂本龍馬とともに大政奉還策を企て之を遂行し、大偉勳を樹つ。維新後、新政に努め諸官に歷任し、明治十九年維新の勲勞を賞して伯爵を授けられ、尋いで大同團結の一大政黨を組織す。遞信・農商務の大臣となり。明治三十年八月三日東京に薨ず、享年六十歳。

〔坂本龍馬誕生地〕 本町筋一丁目にあり。武市瑞山、土佐勤王黨の同盟を組織するや、龍馬はその同盟に加はり、諸藩の動靜を視察し大いに活躍す。文久三年、勝安房の兵庫に海軍塾を開くや、之に入りて航海術を修め海援隊長となり、幕府の征長の御を興すや、中岡慎太郎と隊長連衡の必要なるを悟り、奔走畫策つひに連衡の實を挙げ。尋いで長崎にて後藤象次郎に邂逅し、肝膽相照らし、遂に海援隊を挙げて藩の所屬となす。龍馬また象次郎に說き、大政奉還等の八策を献策しその肯首をなさしめ、慶應三年十月十四日を以て、維新史の絶頂とも云ふべき、德川慶喜將軍職辭退の大決斷を見るに至る。斯くして維新の宏謨を翼賛せしが、慶應三年十一月十五日夜、京都河原町の旅寓近江屋に於いて、中岡慎太郎と對談中を刺客の襲ふところとなり、遂に斃る。享年三十三歳。洛東靈山に葬る。明治二十四年正四位を贈らる。

〔櫻井〕 中新町井手潤（櫻井橋元）にあり。櫻井は、當國鑿井、即ち方言揮貫井の濫觴なりと云ふ。始め高知市は慶長町割の後、戸口次第に增殖せるに、用水の供給常に不十分なりしため、寛政十二年、時の町奉行馬詰親晉が、近江國に行はるる鑿井に習ひ掘井を試みんとて、彼國より水工器械一切を下し、初めてここに鑿井を試みしところ、清泉湧き出で、所期の如き好成績を得たるにより、記念のため其處に櫻を植ゑ櫻井と稱へ、碑を立てその事蹟を傳ふ。

〔鳥村流雄邸址〕 小高坂字西町に在り。流雄、初め藩費貴遊館に學び、のち海南學校に入り、尋いで海軍兵學校に入學せり。天才傑眞にして、その才氣風に顯はれ、常に首席を占め、加藤友三郎と共に海軍出身の双璧となす。明治十八年、英國に留學し、航海・砲術その他の各科に就きて深く研磨し、大いに海軍知識を得。二十七八年の役、海軍大尉に進み、旗艦松島に乘じて、伊東中將の幕僚となり、黃海海戰につき雄偉戰策の功最も多かりき。三十七八年の役、海軍少將として第二艦隊附の司令官となり、旗艦岩手に座乘して日本海海戰に於いて奇功を樹て、最後の勝利を我に歸せしむ。是より官位愈々進み、海軍兵學校長・海軍大學校長・第二艦隊司令長官・佐世保鎮守府司令長官に歷任し、大將に昇任して、海軍司令部部長の要職に在りて、帝國海軍の權威を擁れり。大正三年、世界大戰に於ける戰略の由る所、主として流雄の主張に基く。その勳功をもつて男爵を授けらる。のち海軍軍事參議官となり、大正十二年二月八日、東京に薨ず。享年六十六歳。同日元帥號を賜ふ。

〔普通寺址〕 小高坂字西越前町にあり。祇園宗。賢法山悉地院と稱す。本尊は千手觀音。もと安祥寺と稱へ、僧行基の開基にて、長岡郡普通寺鳥にあり、代々の勅願所。延喜主殺式にも、土佐國安祥寺塔料、五千束とあるに徵しても、その昔の壯麗さ偲ばる。然るに澁季澁亂に及んで廢頽し來たれるを、天文三年、孝曾我部國親、これを再興し結構舊に復せり。父健序の菩提寺なれば、その法號覺世常通によりて普通寺と改む。同十五年、當寺惠法印を住職となす。これ普通寺の開祖なり。のち天正十六年、元親居城を大高坂に移せし時、土佐郡石立村岩戸に移せしが、藩主山内一豐入國せらるゝや、寛永九年これを小高坂に移轉す。七堂伽藍鳥坊甍を並べ、壯麗を極め、法燈燈然と輝きしも、明治三年十月、竹林寺に寄寺せらるゝに及び廢せらる。

〔秦泉寺城址〕 市の北郡秦泉寺（ハタゼンジ）にあり。秦泉寺氏累代の居城たりしが、永祿の頃秦泉寺帶郎、屢々長曾我部元親と戰を交へ、一旦四豐城下に攻寄せ長曾我部勢を敗りしも、永祿三年九月、元親、井口城・鴻森城を攻陷するや、帶郎も遂に攻滅せらる。いま城山の上老樹の蒼翁たる所に一小祠を存し、帶郎並びに從臣の碑を祀る。

〔武市瑞山殉節遺蹟〕 帶屋町三丁目（現公設市場）にあり。土佐藩勤王家の泰斗贈正四位武市瑞山の自刃せる土佐政廳南會所はここにあり。南會所は、瑞山が土佐藩勤王活動によりて、文久三年大獄を起し、絹明斷獄せられ所にして、爾來幾星霜を經過して徒らに荒廢に歸し、その遺蹟の哀しく湮沒し去るを慨して、大正八年九月「贈正四位武市半平太先生死節之處」と題したる、田中光顯伯の揮毫を刻したる遺蹟記念碑を建設す。

〔野中健山邸址〕 追手筋字大高坂（縣社鷲並神社境内）に在り。野中健山は、諱は良継、通稱傳右衛門、勘解由良明の子なり、のち叔父玄蕃直継の跡を繼ぐ。寛永十三年、二十二歳を以て來行職となり是より二代藩主山内忠義、三代忠豐の二君に歷事し、滿腹の技倆を施し經濟の新政を行ひたり。凡そ國中厚生利用の途、一としてこれが創設にかからざるものなし。その德澤の百世に不朽なるは世の昔く知る所なり。寛文三年、四十九歳の時、他の國老と意の齟齬はざる事ありて、自らは罪うて職を辭し、香美郡中野に退隱せしが、幾許もなくその年の十二月十五日病んで卒し、十七日、潮江高見に葬る。明治四十五年、正四位を贈らる。

〔野中健山墓附野中魏子墓〕 潮池字高見山淨眼寺谷にあり。健山につきては前項を參照す。健山の四女魏子の墓、又その墓側にあり。父の傍に坐して、母並びに諸兄とともに輔多郡宿毛（スクモ）に謫せられ、謫居四十年、諸兄みな歿するに及んで、元祿十四年に赦され、土佐郡朝倉に歸り住む。魏子無問あり、谷秦山を慕うて襲義を解き、文を作り歌を詠じて懷舊を遣り、安覆亭・貴址亭・柳陰豪等の雅號あり。享保十年歿す。享年六十六歳。

〔馬場辰猪宅址〕 金子橋にあり。辰猪明治の初めに東上、福澤諭吉の慶應義塾に通ひ英語を學ぶ。明治三年藩命を以て同藩士廣瀨正精と共に英國に留學し、十二年業成り歸朝す。この際、板垣退助正に民權自由の說を唱へ海内を風靡す。十四年自由黨の組織なるや、板垣總理のもとに副議長となりしも、板垣總理と主要を異にし議論合はず遂に大石正巳と共に脫黨す。是より獨立獨行、以て倫ねてその懷抱せる英國式平民主義を發揮し、大いに世論を警醒す。また同志と共に明治義塾を創立し、俊才を育成す。のち來國に就し各州を漫遊し、日本の歷史・風俗を演說して大いに國情を通せり。また新聞に寄書し、日本監獄の現狀を述べし

が、當時日本政府、條約改正に惹ありしかば監獄の現狀、外人の不安を招かん事を恐れ、急に改良を施せしため、囚人その餘慶を蒙りて、司法革新の一道歩を來たせしは實に辰猪の力なり。明治二十一年十一月三日、米國フィラデルフィヤ病院に歿す。享年三十九歳。フィラデルフィヤ郊外に葬る。碑面題して日本馬場辰猪墓といふ。

〔土方久元邸址〕市の北部藥泉寺にあり。久元、少壯慷慨にして意氣に富み、屠蘇ならずして東遊し、若山勿堂・藤森弘庵等の門に遊び、傍ら四方の志士と交り、天下の時勢に就き奔走する所あり。文久三年藩命を以て岡崎治浪と共に上京し、時勢を洞察す。また薩長の諸藩士と交を結ぶ。文久三年八月十八日、長人禁闕退去の事あるや、三條實美等七卿參朝を停止せらる。久元等、三條實美等を護して長州に落去す。慶應元年、長人の京都打入を謀とし、征長の役起るに及んで、久元沿三條公等と策前大宰府に赴く。慶應二年、幕府再度征長の役に際し、坂本龍馬・中岡慎太郎の兩人薩長連合を策し、三年、その實を擧ぐるに至りて、王政復古の業成り、長藩の宥恕並びに三條公等の復位を見るに至る。明治新政府の成るや、久元諸官に歷任し、十七年維新の勳功を以て子爵を授けられ、尋いで二十年農商務大臣に擧げられ、幾何もなく宮內大臣に轉任し、爾來十年、日夜要々として國利の節を致し、至尊輔弼の大任を全うす。三十年、伯爵に陞叙せらる。退職ののち特に前官の禮遇を賜はる。大正七年十一月四日薨ず。享年八十六歳。同日從一位に叙せらる。

〔細川潤次郎誕生地〕南新町二丁目にあり。潤次郎幼にして學に志し、疾く藩費に入りて學び、間崎晋馬・岩崎馬之助・岩崎彌太郎と共に土佐の四神童と稱せらる。嘉永年間、長崎に留學し高島秋帆に就きて蘭學を學び、後また中濱萬次郎に就き英學を修む。文久元年、藩命を受けて制度改正局御用掛となり、藩政改革の材料蒐集に努め、海南政典・海南律令の編修に參與す。明治元年、開成課局教授に命ぜられて以來、諸官に歷任し、十九年、元老院議官に任じ、尋いで二十三年、貴族院議員に勅選し、翌年貴族院副議長に勅選せられ、女子高等師範學校校長・樞密院顧問官兼華族女學校長等に任ぜられ、多年の勳功に依り男爵を授けらる。四十二年、文學博士の學位をも授けられ、尋いで正二位勳一等に陞叙し、樞密院顧問官・議定官・宗秩寮審議官・帝國學士院會員等に任じ、大正十二年七月十九日、從一位に陞叙せられ、同日薨去す。享年九十歳。

〔間崎治浪墓碑址〕江ノ口宇東小川側にあり。治浪、敏慧にて學に長じ、詩を賦し文を作る。細川潤次郎・岩崎馬之助等と共に三奇童の稱あり。安政良齋の門に入り、齋藤竹堂・藤津靄宗等と日夜切磋の交はりをなす。歸國して此處に塾舍を開き、帷を下して讀書を授けしが、教ふるところ極めて明晰にして、その學力の卓絶せる、當時の耆宿老儒と雖もその下風を拜し、その名一藩に振へり。夙に武市半平太の勤王同盟に加はり、のち京に出でて書策するところあり、終に平井收山・弘瀬健太と、青蓮院宮の令旨を賜はりて藩政を改革せんとせしが、こと忌諱に觸れ、召還の上藩獄に投ぜられ、文久三年六月八日自刃を命ぜらる。享年三十歳。市の北部東久方林に葬らる。明治二十四年贈正四位。

〔山地元治邸址〕小高坂字越前町にあり。元治、幼少より資性豪爽沈毅、寡言にして、膽氣あり。父母、常に教ふるに忠孝の道を以てす。その家庭教育嚴格なりしが爲めに、後年、駆忍不撓に忠義性となり、至誠一貫公に奉じ他念なきものに、また一朝一夕の涵養にあらず。明治元年戊辰の役、七番隊長、胡蝶隊長を以て轉戰殊勳を奏す。十年西南の役、別働隊第三旅團參謀となり、勇敢敵軍を驚かす。十四年少將となり熊本・大阪兩鎮臺司令長官となれり。十九年中將に進補せられ尋いで男爵を授けられ二十三年第一師團長に轉補す。二十七八年の役、大山大將の第二軍に屬し、旅順攻撃の際殊殊宜しきを得て大に武威を輝かし、奮戰突進遂に一日にして之を陷落せり。此時、元治の銃令嚴明にして秋毫も私なかりしと、功を以て特に子爵に陞叙せらる。戰役後、都督府設置せらるゝや、西部都督となり、小倉に駐在せしが、三十年十月二日、周防三田尻の客館に於て薨ず。享年五十六歳。東京青山に葬る。

〔山内侯爵邸附水戸閣〕鷹匠町字故田にあり。元治中藩主の別邸たりしが、維新後に擴張し本邸となる。地域廣大にして閑雅なり。正殿は明治十八年新築なり、本邸の西側邸宅は、もと藩主支家南邸にて山内容堂公の誕生地なり。いま市民邸宅となる。邸外西に道路を隔てて、山内氏代々の藩主を祭祀せる山内神社あり、明治三年の創立に係る。邸内鏡川の岸に水戸閣あり、明治四十年大正天皇皇太子にあらせられし時、行啓入駕のために新築せられしものにして、輪奐の美燦然たり。閣名は殿下の命名し給ふ所にして、その扁額は供奉の東郷元帥勳を奉じて之を書して下賜せられたるもの。いま邸内に御手植松、並に細川十洲撰文行啓記念碑あり。

〔山内氏廟所〕潮江長浜如寺境内潮江山にあり。慶長五年、山内氏の入國せしより、ここを卜して廟所と定む。老松・古杉蒼然として繁茂し、玆に次の山内氏歴代藩侯の靈柩安置せらる。初代一豊（大通院）・二代忠義（竹巖院）・三代忠豊（徳昌院）・四代豊昌（覆載院）・五代豊房（天嶺院）・六代豊隆（龍泉院）・七代豊常（鬼光院）・八代豊敬（大昌院）・九代豊雍（清徳院）・十代豊算（泰嶺院）・十一代豊興（寛邦院）・十二代豊資・十三代豊熙（業徳院）・十四代豊惇（謙恭院）・十六代（豊範）。因みに十五代豊信（容堂）は、東京市品川區大崎町に墓所を卜せらる。

〔山内容堂誕生地〕鷹匠町（高知縣廳通見付）にあり。容堂名は豊信、幼名を鶴衛と云ふ。のち兵庫助と稱へ容堂と號す。十五代の藩主に當る。天資聰明、才氣英邁にして、書を讀み時務に通じ、識見卓絶當代の俊群に冠出す。藩にありては吉田東洋・小南良和等を拔擢して諸政を委ね、治績大いに擧がる。また江戸にありては松平春嶽・伊達宗城等の諸名侯と交はり、當世の時務を論じ議論一世を壓倒す。嘉永六年、米艦浦賀來後、鎖港攘夷の論盛んに起り、世論漸く囂々たるや、常に皇室の衰微を憂ひ、勤に復興の志ありて幕府の意に作ひ、安政戊午の大獄に蟄居を命ぜられしも、再び國事に參與の優遇を極め、已にして京都に參朝し、天皇より、藩・長・土三藩主に信賴せらるるの優詔屢〻下る。慶應三年、幕府をして大權を朝廷に奉還せしむ。その功勳なからず。維新ののち朝政を輔け諸官に任じたりしが、のち官を辭し至尊の諮詢に備はる。是より詩歌を賦し風月を賞し、風流專ら娛しむ。明治五年六月二十一日薨ず、年四十六歳。同日從一位を贈らる。

〔吉田東洋邸址〕帯屋町下一丁目にあり。東洋、通稱は元吉、諱は正秋、字を子悅と云ふ。その先祖は長曾我部氏の名將吉田正重に出で、子孫山内氏に仕へ、馬廻に列して帯屋町に住す。東洋人となり明快俊偉、學問に尤も深く自ら一家の識見を備へ、山内容堂の信任厚く、擢んでて參政の重役に任ぜられしが、歳老い鋭氣勃發し、氣焔人を壓し、諸葛孔明の綱玄德を佐くるの慨を以て容堂を輔佐し、才名一藩に震ひたり。然し東洋は佐幕派の巨頭にして、容堂の主唱せる公武合體論を信奉し、土佐勤王黨の代表者武市瑞山の懐抱せる、絶對的討幕論に反對せしため、文久二年四月八日、勤王黨志士のため暗殺せらる。東洋は才學あり識見秀いで、自ら一家の主張をなし人と相容れざりしが、使ねて藩治整頓の志あり、長宗我部氏以來山内家時代に及ぶ制度・法律の調査をなし、海南政典なる一部の大法典を編す。墓は城南潮江山高見にあり。

【高知鐵道】高知縣中部にある地方鐵道。長岡郡長岡村内にある省線土讃線後免驛に起り、東南方に走り香美郡を經て安藝郡安藝町西濱の安藝驛に至る二六・八粁の路線を有す。軌間は一・〇六七米、蒸氣・重油ガソリン車を運轉す。大正十三年に一部の開通を見、安藝驛まで開通せるは昭和五年四月なり。

ゴーチ 郷地（ごち） 東京府北多摩郡にありし村。昭和二年中神村・宮澤村・田中村・上川原村・栗地村・調布村・大神村と共に廢し北三域を以て新に昭和町（しょうわまち）を設く。

コーチザワノアタマ 河内澤ノ頭（かわちざわのあたま） 群馬縣と新潟縣の國境に跨る峯。別稱大源太山。標高一七六四米。

コーチヨ 奸楮面（かんちょめん） 朝鮮江原道原州郡の北部。東は所草面・原州面に、南は興業面に、西は地正面に夫々隣接し、北は横城郡に隣接す。西境及び東境を丘陵何れも南北に走り、中部に南北に狹長なる谷狀の低地を形成し漢江の支流蟾江これを流貫す。主生業は農にして米・麥・豆類・粟・玉蜀黍・綿・大麻・菟草等を產す。二等道路南部を東西に過ぐるのみなるも、郡邑原州面に隣接するを以て交通比較的不便ならず。

コーチュー 効忠里（かちゅう） 現在の臺南市の安平・上鯤鯓の地にて、清朝氣臺の管初安平鎮と稱せるを、康熙六十一年の朱一貴の亂に當り、安平の民人、義を以て立てるを表彰して、之を効忠里と改めたるもの。大正九年を以て廢さる。

コーチョク 興直堡（こうちょく） 臺灣臺北州新莊郡の舊堡名。今の新莊街を中心とし、東は大嵙崁溪（淡水河の一分流）および、北・西・南の三方は觀音山・桃園臺地・龜崙嶺の麓に亙る一帶の平野を占むるも、初めは八里坌堡及び芝蘭二堡の一部をも包括せり。康熙末年始めて漢族の足跡を及ぼし、移民は平埔蕃族より土地を購得し、雍正五年楊道弘・林天成なる者の合資開墾は殆んど區域を全堡に擴め、之を興直莊と稱せり。興直なる地名は「地勢平坦、其直如矢、若懸成田、設有市鎮、必有大興氣象」の意に出づといふ。その堡を立てられしは道光年間なり。大正九年地方制度改正に依り堡は廢せられ、その區域内にありて更察・新庄の二庄（現在は二大字となる）は五股庄（臺北州新莊郡）に、二重埔・三重埔の二庄（現在は二大字となる）は蘆洲埔（臺北州新莊郡）に管轄せらることとなり、殘餘の七庄（現在は七大字となる）は新莊街（臺北州新莊郡）に包括せらる。

コーチン 江鎮面（こうちん） 朝鮮咸鏡南道三水郡の北部。東南は好仁面に、南は自西面に夫々相隣り、西は平安北道厚昌郡に境し、北は鴨綠江を隔てゝ滿洲國に相對す。西部に衝天山（一四六三米）、東南境に永城嶺（一一五一米）等峰ち夫等の山脚何れも鴨綠江岸に迫り面内概ね山地にして匪藥見るべきものなし。長津江は南方より來り面の西部を北走して鴨綠江に注ぐ。二等道路西方より來りて東南走し、これより分岐せる三等道路一は南に、一は東北方に走る。

コーチン 後鎮（こうちん） 【後壁】→竹庄（ごちくしょう）（臺灣臺南州東石郡）

【後壁】→新營街（臺南州新營郡）

コーツ 高越（こう） 衣笠山・摩尼珠山等の別稱あり。因國山脈の一峯。德島市の西方三十二粁前後、德島縣麻植郡の西

方、川田町に峙ち、西斜面は美馬郡穴吹町・口山村に亙る。標高一一二三米。山麓結晶片岩より成り、南稜は鳥野山（一一六四米）に連なり、北麓は東流する銀蛇吉野川に限られ、川を隔てて北方は龍王山（一〇五七米）・大龍山等、阿波・讃岐國境の群山峙つ。嶮然たる山容を有し、山中奇岸怪石横はる。山上に伊弉諾神社鎮座す。山中櫟樹多く、特に山頂附近の寒風と稱する平坦地には大樹の古櫟ありて美し。又山中に高越寺あり、封建の頃、蜂須賀家は五十石を寄進せり。山麓にて氷豆腐を造り、名産とす。

コーツ　江津町　島根縣石見國那賀郡の北部。北は江ノ川を隔てて渡津村・松川村に、東及び南は川平村・跡市村に、西は都濃村に接し、西北は日本海に臨む。東及び南には三—四〇〇米の山々ならび南の鳥屋山（四七〇米）は最高峯をなす。川の流域及び日本海に沿ふ地域には耕地拓け米・馬鈴薯等を産す。丘陵は良牧場として牧牛をなす。鳥屋山の麓には桑畑拓け養蚕を營む。町は江ノ川々口の左岸にあり、幹川舟路の起點をなし、木炭等を積みし川船・流筏等集まる。省線山陰本線は海岸に近く東西に走り、江ノ川左岸に石見江津駅（大正九年設置）を設く。又ここより三江線分岐して江川を遡り、中流の清原村（邑智郡）に達す。此地は和名抄、那賀郡那於郷の内なるべし。山陰道の大路に當り延喜式に見ゆる江西駅も置しこの地ならんといふ。いま郷田・金の二大字より成り、郷田に役場を置く。

コーツキ　上月　兵庫縣佐用郡西庄村の大字。省線姫新線の上月駅（昭和十一年設置）を置く。

コーツキ　甲突川　鹿兒島縣鹿兒島郡を流るる川。日置郡の東北部郡山村の西部山地に發し、東南に流れ鹿兒島郡の北部を過ぎ鹿兒島市の西南部を貫流して鹿兒島灣に注ぐ。流程約一七粁。

コーツマ　上妻　筑後國の古郡名。→上妻

【上妻】　福岡縣筑後國八女郡の西部。矢部川の北岸に位し福島町の東に隣る。南は矢部川を隔てて光友村に接し、東は川崎村、北は長峰村なり。面積三・五三の小村。全村矢部川の齎らせる廣き沖積原の東部を占め、土地極めて平坦、肥沃にして良質の筑後米を産し、又副業は農蚕を營み小麦・裸麦・菜種・菜・馬鈴薯・甘藷・蔬菜・植木等を出し、一方軒の人口密度一・一一二人を算す。舊鹿兒島街道、北方久留米市方面より福島町に出で村の西南部を横切りて、東南方熊本線の山鹿町方面に至る。縣道また村の中央を貫き東方矢部川の谷に入り黒木町方面へ延ぶ。鉄線南筑軌道線（發動車及び自動車）東西に走りて、省線鹿兒島本線羽犬塚駅と黒木町をつなぎ、また西隣福島町よりは、九州鐵道線の電車によりて、久留米方面への交通の便よろし。此地或は和名抄、上妻郡三宅郷の内に屬せしものか。いま津ノ江・新勝院・納楚・平田・馬場の五大字より成り、津ノ江に役場を置く。（天福寺）大字馬場にあり。浄土宗。紫雲山と號し、三井郡善導寺末たり。天平年中、行基の開創に係ると傳ふ。安貞二年、當宗鎮西派始祖聖光房辯長是れを中興し、嘉禄四年遷化し、當山に葬るといふ。本尊阿彌陀如來は辯長作と傳ふ。境内に辯長の靈廟を存し、廟後に著名なる甘露の菩提樹あり。

コーツラ　上津浦村　熊本縣肥後國天草郡天草上島の西北岸。西北は島原海灣に臨み、西南に下津浦村、東北に赤崎村あり。東南は教良木河内村・栖本村に接す。面積一一・四九方粁、東南境に老鶴（五三六米）ありて西北海岸へ次第に傾斜し、西北部に僅に平地開く。海岸は西南—東北の走向をとりて西北隅を除くの外極めて單調なり。全村山地多きも農を主とし米・麦・甘藷を産し、海岸には漁業行はるるも村況不振にて、人口は近年、年々減少の傾向ありて一方粁の人口密度一四六人に過ぎず。縣道西北部に通じバスの往來あり。中世天草黨の上津浦氏住す。即ち原田の末裔にして種貞入道より上總介種貞に至る十一代相續し天正十七年に家亡ぶ。此地は嘗て天主教盛なりしを以て知られ、ゼスイト宗布教古書に Caura または Cumura 等と見ゆるは即ち本村とす。寛永十四年吉支丹一揆起るや一時此處に據りしがのち幾許もなく有馬に移る。（正覺寺）曹洞宗。圓明山と號す。寛永年中德川家光の創建、開基は天草代官鈴木三郎九郎重成、開山は中興珪法和尚たり。寛永十四年冬、天草・高來兩郡の農民等外教を奉じ、遂に一揆を起して神社・佛閣を燒き天草亂を釀成す。因つて家光長を派して之を討平せしむ。翌年國内靜謐に歸せしが未だ四恩を知らず、鈴木重成これを憐み郡内に數箇寺を建立す、本寺はその一なりといふ。

コーデ　高田　肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄、八代郡に高田郷あり。その地今の高田村・植柳村・金剛村等に當る。

コーテー　高梯西　朝鮮慶尚南道居昌郡の北部。東より南は熊陽面・主尚面に、西より南は北上面・沿川面に隣接し、東北は慶尚北道金泉郡に、西北は全羅北道茂朱郡に境す。面内は概ね山地を成すも中部をほぼ南北に縦谷走りてやや低地を見る。三等道路この縦谷を南北に走り部落はこれに沿ひて發達す。いま農山・弓項・開明・鳳山・鳳溪の五里より成る。

コーテー　皇帝島　朝鮮全羅南道長興郡にある島。長鳥頂の西方約四浬にありて六座の小嶼より成り之を東西より望めば三嶼の觀を呈す。主嶼は最大最高にて中央に位し、高き七四米、樹木を有し其西角は低岩嘴を成し之に接して一千

間許あり、又其南岸に人家一あり、南嶼は東西に密接せる四嶼より成り其中央より低汐灘を以て殆ど主嶼の南濱に連續す。此領地の東西兩側は各々小灣を成し、共に短舟の好避泊地。北嶼は高き五八米にして雑草あり。南嶼の東端より約半浬の處に水深九尋、岩底の處あれど其他は水深十五尋乃至十八尋なり。

コーテン　公田　→番路庄（臺灣臺南州嘉義郡）

コーテン　黄田面　朝鮮全羅南道順天郡の北部。南は西面に、西南は月燈面に相隣接し、東より南は求禮郡・光陽郡に、西北は谷城郡に境す。西北境には鳳頭山（七五三米）峙ち、その山脚は東南に急斜し、また東南境にも七—八百米の山岳ありて其山脚は西北に斜斜し、中央に北に開けたる平野を作る。主生業は農業にして米・麥・大豆・棉等を産し、また養蠶業行はる。二等道路南方順天邑より來りて面の中部を北走し、これより三等道路及び等外道路を分岐す。

コーテンジ　光田寺村　青森縣陸奥國南津軽郡の北部。弘前市を距る東北方六粁、南方は淺瀬石川を距てて田舎館村と相對し、外三方は水田を以て中郷村・常盤村・十二里村・鶴崎町に連續す。東西四・八粁、南北三・五粁の地域を有し、地勢は西方に向け緩傾斜するも殆んど平坦なり。地質は全村殆んど沖積層とす。水田四七三ヘクタール。其米年産額約三十二萬圓に上り、之に次ぐ蔬菜は十萬圓の多額に及ぶ。近年甘藍・白菜等蔬菜の優良品を産するを以て知らる。村内に東北本線川部駅（明治二十七年設置）あり。五能線・黒石線の分岐點にて、交通の便よし。舊弘前藩の領地たりしが、廢藩後明治二十二年五月町村制施行と共に現在の部落を統一し、中央前田屋敷に役場を置きて之を治む。

コート　向島　江戸郊外向島を故意に普誦せし當時の通語。通俗子「向島のせん鯉、江戸前のうなぎ、其外江都にあらゆる美果佳肴をあつめ」

コート　江都　江戸に同じ。

コート　黄登面　朝鮮全羅北道益山郡の西部。東北は咸悅面に、北は堂面に、西は咸羅面に、南は北一面に各隣接し、西南は沃溝郡に境し、東南は壁橋湖に臨む。面内低平にて地味肥沃、且つ壁橋湖の灌漑よろしきを得て耕地廣く拓け、全鮮屈指の米産地として知られ、また藺叺・石材等を出す。また湖南本線面の中部を南北に走り黄登駅（明治四十五年設置）を置く。壁橋湖は臨益水利組合貯水池にして池周約三十二粁、參禮川の用水を取入れ水量極めて豐富なり。其蒙利區域は三千ヘクタールに及び益山・沃溝兩郡に跨る。釣魚・舟遊の好適地として遊ぶ者多し。

コード　甲殿濱　高知縣香川郡秋山村の海濱にあり。小邱一堆海に近く其下に住吉神社あり。林木鬱然後に櫻樹多く花時の眺め極めて美なり。また大洋の眺め、磯浪の聲、眼に入るもの皆快觀にして近傳の勝地たり。山中より中古紀青色砂岩を出し、主に墓石に用ひられ俗に甲殿石といふ。

コード　河渡　→合渡村（岐阜縣）

コード　郡家　武藏國（埼玉縣）の古地名。和名抄、男衾郡に郡家郷あり。蓋し、男衾郡司ここに居り、因つて名づけしものなるべし。その地今の比企郡唐子村の邊に當り、大字神戸はその遺稱なるべしといふも、男衾郡は明治二十九年大里・幡羅・榛澤の三郡と共に大里郡となりし郡なれば、大里郡の鉢形村・男衾村の邊なるべし。

【郡家】　武藏國（神奈川縣）の古地名。和名抄、久良岐郡に郡家郷あり。その地、今の横濱市保土ケ谷區神戸上町・神戸下町の邊に當り、神戸は郡家の遺稱なるべし。蓋し久良郡の郡家のありし地にて、久良岐の名も此地に起れるものか。

コード　合渡村　岐阜縣美濃國本巣郡の東部。西北部は生津村を距てて北方町に、東は長良川を距てて稲葉郡鏡島村に接す。舊根尾川及び、その流路を變へし糸貫川の扇狀地の扇端に位し、今も東部に根尾川の名殘る。長良川・古川は合流し、南部には糸貫川が流れ長良川と合流す。塙く大川に開鑿され古來水害多く昔に輪中形成せられたり。之を河渡輪中と云ふ。その範圍は河渡村・生津村・北方町の内を含み、糸貫川と長良川に圍まれし地域にて、長良川に面して長蛇の如き輪中堤連る。最近は河川改修の爲め水害は減少せしも昔は長良川の攻擊地域に當りし爲め大洪水時には全壊せしこと屢々なり。集落は堤防に接して發達す。これ輪中の中央は低く大雨の折は直に出水する爲との地を選びしもの。中山道は西美江寺駅より東加納宿に至りしも、此地は長良川が存在するため義頭集落として發達し河渡宿設かれたり。德川時代は相當殷賑を極めしも、東海道線の開通するや全くその機能を失ひ農村化し一漁村に過ぎず。往昔參謀文代の折は繁昌を極め、殊に夏季長良川の骨水により川止めの時は、旅人はもとより大名に至るまで逗留を餘儀なくされ、從つて本陣・脇本陣・旅籠・遊廓も櫛比せりと。輪中内は大概水田に利用され、裏作には麥・紫雲英を作り、堤外地には杞柳を植ゑ河渡・寺田には行季の原料を作り、河渡にては櫛屋も見らる。合渡村は往昔方縣郡に屬し現今は本巣郡に屬し、此地にて二川合する故合渡と云へり。然し天正以後の地名には河渡川・郡土川が多く用ひられ水名より轉じて驛名となりしものなるべく、二川合渡の解は當らず。なほ村内に古城址ありて安藤伊賀守何就の居城たり。寺田の北一〇日市場は月毎の朔日・十一日・二

地蔵堂・文政二年三月の銘に「伊勢庄上西門記」とあるもの。

ニード 新戸村 にいどむら 長野県東筑摩郡の村。

新田郡の西北部に位する。北は高井郡・東は中野・南は安八郡・西は中野に接し、面積一万一千二百三十五坪。中央を千曲川流れ、沿岸に沖積地あり。村内に大字三ヶ所あり。

ニード 頭戸村 にいどむら 群馬県新田郡の村。

新田郡の西南部に位し、東は山田郡・北は太田町の西南部に接し、面積一万一千二百三十五坪。中央を千曲川流れ、沿岸に沖積地あり。村内に大字三ヶ所あり。

ニード 新戸町 にいどまち 岐阜県美濃国安八郡の北部。

北は北平野村に、東は揖斐川を隔て大垣町に接し、南は揖斐郡八幡村に接し、西は揖斐郡大藤村に接し、面積一万一千二百三十五坪。中央を揖斐川流れ、沿岸に沖積地あり。村内に大字三ヶ所あり。

ニード 新戸町 にいどまち 岐阜県美濃国安八郡の北部。

北は北平野村に、東は揖斐郡大藤村に接し、南は揖斐郡八幡村に接し、西は揖斐郡大藤村に接し、面積一万一千二百三十五坪。中央を揖斐川流れ、沿岸に沖積地あり。村内に大字三ヶ所あり。

ニード 新戸村 にいどむら 群馬県新田郡の村。

新田郡の西南部に位し、東は山田郡・北は太田町の西南部に接し、面積一万一千二百三十五坪。中央を千曲川流れ、沿岸に沖積地あり。村内に大字三ヶ所あり。

ニード 新戸村 にいどむら 長野県上伊那郡の村。

上伊那郡の西南部に位し、東は中野村・北は中野村・南は大日村に接し、西は中野村

（三〇九米）の小トロイデ火山聳ゆ。西北麓にはまた柾ケ峰（四六〇米）ありてその麓には六甲の斷層線走り、甲山の下にも西南より東北方へと斷層線通れり。仁川は北部を東流し、武庫川に合流するも、之は曾て上ケ原附近の扇狀地を作りしものにて洪積層より成る。東境には武庫川南流し網流をなして氾濫原を作り、水田に利用せらる。洪積扇狀地の扇面には水の不便の爲め溜池灌漑行はれ、扇端部は果樹園に利用せらる。産業は農を主とし、米・蔬菜及び花卉の産多く、また木製品その他の工産あり。交通路には西國街道が武庫川を甲武橋に渡り本村を經て西宮方面に至る。阪神急行電鐵今津線は本村中部を北行し實線に至り、尼神前驛・甲東園前驛を置けり。門戸・段上・上ケ原・上大市・下大夫・樋口・神呪寺の七大字より成り、その門戸に役場を置く。本村は、和名抄武庫郡廣田郷の地ならんも不詳。大字上ケ原に神戸より移轉せる關西學院大學あり。〔神咒寺〕大字神咒寺にあり。古義眞言宗。甲山寶珠院と號し仁和寺末たり。聖武天皇の朝役小角の開創に係るといふ。元亨釋書に據るに、淳和天皇の次妃、諸妃の嫉妬を避けて此地に來り、空海を請じて諸尊を彫刻せしめ、之に就きて剃髮して如意尼と稱せられ、のち堂宇を造營し給ふと。承和二年淳和天皇行幸ありて寺田百町を寄せ給ふと。尼公落化の後數十代、輪奐の美を誇りし伽藍も次第に落廢す。依りて源頼朝再興す。天正年間兵火に罹りしも、德川氏の代漸次復興し今日に及ぶ。本尊如意輪觀音坐像一軀（國寶）は木造、六臂如意輪像にて、日本三如意輪の一に數へられ名品なり。平安朝初期の末より鎌原初期にかけての作。不動明王坐像一軀（國寶）は不動堂安置、木造布張著色、鎌倉初期の佳作。弘法大師坐像一軀（國寶）は、大師堂安置、木造、不動像と同時頃の作。聖觀音立像一軀（國寶）は木造、鎌原時代の作たり。

コートー　江東（こうとう）

【江東】　東京市の隅田川の東部、本所、深川の俗稱。工場地帶として知られ、江東工場地帶などと呼ぶ。

【江東面】　朝鮮平安北道泰川郡の北部。南は東面に、西は江西面に夫々隣接し、北は昌城郡に、東は雲山郡及び寧遠郡に境す。北境に三角山（九三一米）、東南境に香積山（七八八米）峙ちてそれ等の支脈北部及び南部を連亙して諸峰を起し概ね山地を成すも、中部より西部に亙りては一帶に低平にして大寧江これを灌漑し耕地よく拓く。主生産は農にして米・粟・玉蜀黍・大豆等を主産す。三等道路及び等外道路面内を走るも交通いまだ便ならず。

【江東郡】　朝鮮平安南道の南部。道管内二府十三郡の一、東は成川、北は順川、西は大同の諸郡に接し、南は南江により中和郡及び黄海道遂安郡と界す。東北に北大嶺山脈の支脈延びて太乙德山（五二六米）等の峻嶺を連亙せしめ、中央を東西に四—五〇〇米臺の分水嶺ながく走り、西北にも同高度の丘陵蟠居するも、西部には廣き耕地を有し地味肥沃にして農耕行はる。大同江は西部の平野を北東より西南に貫流し、運輸灌漑ともに便なり。生産は農を主とし、米産多からざれど、小麥・大豆・粟等の産多く、棉花・大麻また少なからず。江岸には漁獲多く、工産の織物また著はる。西南部の晩達山はセメント原料たる石灰石及び赤粘土を豐富に藏し、大正七年この地に小野田セメント工場設置せられて、セメントと石灰とを製造し、生産高セメント年産三二萬瓲（一九〇萬樽）、石灰工場四箇所の年産八五〇〇瓲に達し、これ等製品の大部分は鮮内は勿論内地・滿洲・臺灣等に販路を有す。鐵道平壤炭礦線、大同江驛より分岐して同面に至り、立石里驛（昭和九年設置）を經て勝湖里驛（大正七年設置）を終點とし、附近に近代的都邑を現出せり。また三登・晩達・元灘・江東の各面一帶は豐富なる無煙炭田にして、運輸の便亦よろしきを以て、明治鑛業の大成炭坑、東拓の江東炭坑、朝鮮無煙炭會社の松街里炭坑等に於て採掘せらる。なほ郡の主邑江東よりは道路四方に通じいづれもバスを通じ、交通やや便利なり。行政上江東・三登・晩達・元灘・高阜・鳳津の六面に分ち、郡廳を江東面に置く。本郡の地は約八百年前、高麗仁宗十四年に西京畿の一部を割して縣を置き江東と名づけ、のち松壤吳州江左とも稱す。爾來成川縣（いま成川郡）に屬せしめたる事あるも恭讓王の世、縣を復置す。李朝世宗十七年に至り三登縣に屬せしめしも、成宗十三年また舊に復す。建陽元年（明治二十八年）縣を郡に改め、隆熙二年（明治四十一年）三登一郡を合せて江東郡となし、大正三年府郡廢合に際し更に成川郡の一部を併せ、昭和四年面區劃の變更を行ひて九ケ面を六ケ面となし以て今日に及ぶ。

【江東面】　朝鮮平安南道江東郡の中部。南は元灘面に、西は鳳津面に、北は區池面に夫々隣接し、東は成川郡に境す。北境に紫峰山（五一三米）峙ちて、その山脚南下し、また南部も小丘陵起伏するも、中部は一帶に低平にて大同江の小支流これを灌漑し耕地拓く。郡廳の所在地にしてまた交通の要衝に當り地方物産の集散地を成す。此邊一帶は良質の無煙炭の產地として著く世に知らる。また附近より產する繭は俗に江東繭と稱せられ良品を以て知らる。〔檀君墓〕淳浦里阿逮山西方にあり。古代朝鮮開國の祖、檀君の墓。墓周約一二五米。李朝正宗の時より春秋二回縣監をして寒祭せしめしが、其後久しく之を廢し、昔時の傳漸く衰へ、森嚴の觀全く損ずるに至るや、志士の憂ふる

所となり、大正十二年十一月江東郡明倫會に於て新に築壇建門の設備をなし、なほ同會に率事司祀の制を設け、古典に倣ひ永久に祭祀を行ふこととせり。〔清淡洞窟〕淳浦里大朴山の中腹にあり。入口狹く、人漸く伽匐してるも、窟内進むに從つて廣く、處々に鍾乳石垂下し奇觀を極む。

【江東面】　朝鮮慶尙北道慶州郡の東北部。西は江西面に、南は川北面に夫々隣接し北より東は迎日郡に境す。北より東南部に亙り三—四〇〇米の諸峯連立するも西部は卽ち慶州平野に連續する沃野にして、兄山江これを灌漑し農耕行はる。主生産は農にして米・大麥・小麥・大豆・棉・大麻等を主産す。もとは東方迎日灣一帶より產出する海產物の取引盛んなりしも、今は浦項に壓倒されて古の俤を留めず。また兄山江は鮎の產地として知らる。東海中部線通じて、扶助驛（大正七年設置）を置く。

【江東面】　朝鮮慶尙南道蔚山郡の東北部。蔚山邑の東約十粁、西は邑所面・下廂面に、南は東面に夫々隣接し、北は慶尙北道慶州郡陽南面に境し、東は海に面す。東部沿岸はやや低地なるも、西方に從ひ高く概ね山地を成す。産業は半農半漁の狀態なり。二等道路南方より海岸に沿ひて來り、北方郡邑江陵面方面に走る。

コートー　厚東（こうとう）

【厚東村】　山口縣長門國厚狹郡の東南部にある農村。村民はこれを「こうとう」と呼ぶ。二俣瀬村の西、宇部市の北、船木町の東南、万倉村の南方に位し、之を廣瀬・櫻井・末信・吉見の四大字に分つ。村役場は櫻井にあり。本村は上古の時、地形今日と異り海岸に近く、海路の交通に便ありしところの如く、從つて住民も古くより存せしものゝ如し。かの物部守屋の裔、本村櫻井の地に來りて、居を定めしは皇紀天皇の御宇なりしと傳へられ、子孫、厚東氏を稱し、連綿として大内氏時代に及びしこと史乘に明なる所なるが、その當初の來居、蓋し海路の便によりしものと思はる。毛利藩時代には、本村は藩の直領に屬し、明治以後種々の沿革を經て、明治二十二年四月町村制實施の際現厚東村となれり。交通上には山陽本線苅子・船倉・山下・大安・新明の九里よりなる。

【江東面】　朝鮮江原道江陵郡の東部。西北は城德面に、西は邱井面に、南は玉溪面に夫々隣接し、東は日本海に面す。東部沿岸及び北部は一帶に低平なるも西南に向ひて徐々に高く概ね山地を成す。海岸は甚だ出入に乏しきを以て良港なく、從つて水產業は比較的盛んならずして產業は半農半漁の狀態なり。二等道路南方より海岸に沿ひて來り、北方郡邑江陵面方面に走る。

コートー　厚東（こうとう）

【厚東村】　山口縣長門國厚狹郡の東南部にある農村。村民はこれを「こうとう」と呼ぶ。二俣瀬村の西、宇部市の北、船木町の東南、万倉村の南方に位し、之を廣瀬・櫻井・末信・吉見の四大字に分つ。村役場は櫻井にあり。本村は上古の時、地形今日と異り海岸に近く、海路の交通に便ありしところの如く、從つて住民も古くより存せしものゝ如し。かの物部守屋の裔、本村櫻井の地に來りて、居を定めしは皇紀天皇の御宇なりしと傳へられ、子孫、厚東氏を稱し、連綿として大内氏時代に及びしこと史乘に明なる所なるが、その當初の來居、蓋し海路の便によりしものと思はる。毛利藩時代には、本村は藩の直領に屬し、明治以後種々の沿革を經て、明治二十二年四月町村制實施の際現厚東村となれり。交通上には山陽本線村域を通過し、現に村の東部に厚東驛（明治三十三年設置）南部に宇部驛を設く。產業上は純農村にして、米作を最要となし、麥及び蠶繭が亦少からず。〔霜降山城〕本村南部の名山、霜降山は厚東氏居城の存せしところ、現に大字末信に其の城址あり。厚東氏七世武光入道念西の築く所。その年代は壽永・元曆の頃といはる。〔恒石八幡宮〕櫻井にある村社。祭神は仲哀天皇・應神天皇・神功皇后及び三女神・大己貴命とす。相殿には天御中主神・仁德天皇・武内宿禰を祀る。孝德天皇の御宇、厚東武基の創建する所といふ。〔正八幡宮〕末信にある村社。祭神は仲哀・應神の兩天皇及び神功皇后。相殿には大歲神・仁德天皇・武内宿禰を祀る。貞觀元年厚東武晴、男山八幡宮の分靈を勸請し、厚東氏の鎭護神と仰ぎしものといはる。〔淨名寺〕櫻井にある淨土宗の古刹。山號は清泰山、本尊は阿彌陀如來。寺傳には建武二年霜降城主厚東氏十四代武實公所願所として建立せりとあれど、年代については異說あり。正平三年武實卒し當寺に葬らる。宗派は初め眞言律、後に臨濟宗となり、寶文年間淨土宗に改宗す。〔東隆寺〕櫻井にある臨濟宗の古刹。山號は鳳凰山。本尊は地藏菩薩。開山は南蠻子越禪師、上記厚東武實の創建なり、一時は七堂伽藍も備はり、末寺二十八箇寺を有し、盛觀を極めしが、明治以後には僅に殿宇の遺形を留むるのみ。境内に開山南蠻和尙道行の碑あり。〔圓生寺〕　吉見にある眞宗の古刹。もと多寶院と稱し、天平勝寶二年の創建に屬し、開山は天台の碩德叡山の榮久、開基は厚東武通（法號は持世寺殿寶岩入道）、後代、厚東氏並に大内氏の祈願所たりしが、天文年間、中興の開山教保によつて眞宗に改められ、文明年中、寺號を西生寺と改稱し、明治六年、吉見村の西圓寺と合併し更に圓生寺と改む。〔法輪寺〕大字廣瀬にあり。眞宗本願寺派。光永山と號す。嘉禎年間の草創たり。もと天台宗にて蓮華寺と稱し江州淺井郡内保村にありしが、佐々木高綱の五男禪谷高繼現地に移して中興し眞宗に改む。因つて高繼を開基とす。弘安五年了慶法師書願寺と改め、文明十六年願西法師の時、現稱に改む。明治三十五年現董願教師本堂を再建し、同三十八年梵鐘を改鑄す。

【厚東川】　山口縣長門國にある川。コトウと呼ぶ者多し。初め美禰郡共和村の大瀧に發源し、東南流して秋吉村を經、南に屈折して厚狹郡境に入り、行く〳〵吉部・小野田・万倉諸村の溪流を收め、二俣瀬・厚東兩村を經て下流は宇部市・厚南村の中間を流れ、周防灘に入る。沿邊一帶は沃野に屬し、殊に下流地方には平坦なる美田を展開す。

【厚東】　長門國（山口縣）厚狹郡を中世私に分けて二郡とし厚東・厚狹といふ。源平盛衰記・太平記等にも厚東（こうとう）姓を名乘る